

葛飾区男女平等に関する  
意識と実態調査  
報告書

令和8年1月





# 目次

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	2
2 調査対象	2
3 抽出方法	2
4 調査方法	2
5 調査時期	2
6 回収結果	2
7 調査項目	3
8 報告書の見方	4
9 調査機関	4
第2章 調査結果のまとめ	5
1 基本属性(性別・年齢・家族構成など)	6
2 男女平等	6
3 結婚観	6
4 家庭生活	7
5 就労	8
6 ワーク・ライフ・バランス	8
7 セクシュアル・ハラスメント	9
8 DV(ドメスティック・バイオレンス)	9
9 性の表現	10
10 性の多様性	11
11 健康	11
12 学校教育	11
13 女性の社会参画	11
14 防災	12
15 施策や制度など	12
第3章 調査結果	13
1 基本属性(性別・年齢・家族構成など)	14
(1)性別	14
(2)年齢	14
(3)結婚の有無	15
(4)共働きの有無	16
(5)子どもの有無	17
(6)家族構成	18
2 男女平等	19
(1)男女平等社会の進捗	19
(2)男女の不平等を感じる事	22
(3)男女の地位の平等感	25
3 結婚観	36
(1)結婚観	36
4 家庭生活	46
(1)家事などの分担	46
(2)男性の家庭参画の度合い	79
(3)男性の家庭参画に必要なこと	86
5 就労	89
(1)職業	89
(2)職場での男女差別	91
(3)女性の働き方についての意識	94
(4)女性の再就職に対する支援	102
(5)育児休業・介護休業の利用状況	106
(6)育児休業・介護休業の利用期間	112

(7)育児休業・介護休業を利用しなかった理由 .....	114
6 ワーク・ライフ・バランス .....	120
(1)ワーク・ライフ・バランスの認知状況 .....	120
(2)優先度の希望と現実 .....	123
(3)ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと .....	129
7 セクシュアル・ハラスメント .....	135
(1)セクシュアル・ハラスメントの経験の有無 .....	135
(2)相談の有無 .....	151
(3)相談先 .....	154
(4)相談しなかった、できなかった理由 .....	157
8 DV(ドメスティック・バイオレンス) .....	160
(1)DV(ドメスティック・バイオレンス)の経験の有無 .....	160
(2)相談の有無 .....	181
(3)相談先 .....	184
(4)相談しなかった、できなかった理由 .....	186
(5)DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止及び被害者支援のために必要な対策 .....	189
9 性の表現 .....	193
(1)性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識 .....	193
10 性の多様性 .....	197
(1)性自認について悩んだことの有無 .....	197
(2)LGBT・LGBTQ+の認知状況 .....	201
11 健康 .....	204
(1)性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと .....	204
12 学校教育 .....	210
(1)男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと .....	210
13 女性の社会参画 .....	214
(1)区議会議員等に占める女性議員数の評価 .....	214
(2)政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因 .....	217
(3)政治や行政への女性の参画推進に必要なこと .....	221
14 防災 .....	224
(1)地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと .....	224
15 施策や制度など .....	228
(1)葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)の認知状況 .....	228
(2)葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向 .....	231
(3)男女平等社会実現のために充実すべき施策 .....	235
16 自由回答 .....	239
(1)葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望 .....	239
第4章 葛飾区男女平等に関する意識と実態調査票(令和7年度) .....	241

# 第 1 章 調査概要

# 1 調査の目的

「葛飾区男女平等推進計画(第7次)」の策定にあたり、区民の男女平等に関する意識と実態について把握、分析し、計画改定の基礎資料として活用することを目的と定め、実施した。

# 2 調査対象

葛飾区に居住する満15歳以上の男女3,000人を住民基本台帳により単純無作為抽出

# 3 抽出方法

単純無作為抽出法

# 4 調査方法

郵送配布－郵送回収またはインターネットによる回答(督促を兼ねた礼状ハガキ1回送付)

# 5 調査時期

令和7年7月9日～8月11日

# 6 回収結果

発送(配布)数	有効回答数	有効回収率
3,000	720	24.0%

※葛飾区の人口 約47万人に対し、アンケート回答数720件は統計学上有効といえます。母集団が大規模であっても、必要な標本数は誤差許容度で決まります。例えば95%信頼水準で誤差±5%以内に収めるには約400件、±4%以内なら約600件の回答が目安とされます。今回の720件はこれを上回り、誤差は約±3.7%に収まります。したがって本アンケートは、母集団の傾向を把握するのに十分な精度を持つ有効な調査結果と位置付けられます。

## 7 調査項目

調査項目	問番号	質問内容
基本属性	F1	性別
	F2	年齢
	F3	結婚の有無（付問：共働きの有無）
	F4	子どもの有無（付問：末子の年齢）
	F5	家族構成
男女平等	問1	男女平等社会の進捗（付問：男女の不平等を感じる事）
	問2	男女の地位の平等感
結婚観	問3	結婚観
家庭生活	問4	家事などの分担
	問5	男性の家庭参画の度合い（付問：回答の理由）
	問6	男性の家庭参画に必要な事
就労	問7	職業（付問：職場での男女差別）
	問8	女性の働き方についての意識（付問：回答の理由）
	問9	女性の再就職に対する支援
	問10	育児休業・介護休業の利用状況 （付問：育児休業・介護休業の期間、利用しなかった理由）
ワーク・ライフ・バランス	問11	ワーク・ライフ・バランスの認知状況
	問12	優先度の希望と現実
	問13	ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な事
セクシュアル・ハラスメント	問14	セクシュアル・ハラスメントの経験の有無
	問15	相談の有無（付問：相談先、相談しなかった、できなかった理由）
DV(ドメスティック・バイオレンス)	問16	DV(ドメスティック・バイオレンス)の経験の有無
	問17	相談の有無（付問：相談先、相談しなかった、できなかった理由）
	問18	DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止及び被害者支援のために必要な対策
性の表現	問19	性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識
性の多様性	問20	性自認について悩んだ事の有無（付問：悩んだ内容＜自由回答＞）
	問21	LGBTの認知状況
健康	問22	性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要な事
学校教育	問23	男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべき事
女性の社会参画	問24	区議会議員等に占める女性議員数の評価
	問25	政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因
	問26	政治や行政への女性の参画推進に必要な事
防災	問27	地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要な事
施策や制度など	問28	葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)の認知状況
	問29	葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
	問30	男女平等社会実現のために充実すべき施策
	問31	葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望＜自由回答＞

## 8 報告書の見方

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示しています。それぞれの質問の回答者数は、N(Number of case)と表記しています。
- (2) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)があります。
- (3) グラフ中の「全体」とは回答のあった全てを指します。ただし前問の回答で回答者を限定する質問があり、その場合、回答者数Nの数値が変わります。
- (4) 性別、年代別、就労有無別などによるクロス集計について、質問の回答から属性を分類しています。したがって、回答において無回答の方がいるため、属性の回答者数の合計は全体の回答者数と一致しません。(例:.14ページ目「年齢」では、全体(N=720)、女性(N=434)、男性(N=277)と記載されております。)
- (5) 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)の場合には、回答比率の合計が100%にならないことがあります。
- (6) 本文及びグラフ中の設問文並びに選択肢の表現は一部省略している場合があります。
- (7) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち回答者数が20未満の場合、全体結果と比率に大きな差がある選択肢であっても、本文で触れていないところがあります。
- (8) 標本誤差(一部の対象者(標本)を抽出して調査した際に生じる、推定値と母集団の真の値と誤差)は、信頼度を95%とした場合、下式により求められます。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団

n=比率算出の基数(回答者数)

P=回答の比率

今回の調査結果の標本誤差は以下の通りです。

回答比率 回答数	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
720	±2.2	±2.9	±3.3	±3.6	±3.7
600	±2.4	±3.2	±3.7	±3.9	±4.0
500	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
400	±2.9	±3.9	±4.5	±4.8	±4.9
300	±3.4	±4.5	±5.2	±5.5	±5.7
200	±4.2	±5.5	±6.4	±6.8	±6.9
100	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

※表の見方として、今回調査結果の回答数は720人で、ある設問に「はい」と回答した人が30.0%であった場合、表では30%程度の標本誤差は±3.3%になります。葛飾区の15歳以上の区民全体で「はい」と回答している人は、標準誤差で補正すると、26.7%から33.3%の間にあることが、95%の信頼度でいえることとなります。

## 9 調査機関

株式会社グリーンエコ東京事務所

## 第2章 調査結果のまとめ

# 1 基本属性（性別・年齢・家族構成など）

- 性別は、「女性」が60.3%、「男性」が38.5%となっています。
- 年齢は、「60歳代(19.6%)」が最も多く、「50歳代(19.0%)」、「70歳代(18.1%)」が続いています。
- 結婚の有無は、「結婚している(62.5%)」が最も多く、「結婚していない(19.2%)」、「結婚していたが、離別・死別した(16.0%)」が続いています。
- 結婚している、またはパートナーがいる人の共働き有無は、「共働き(56.9%)」が最も多く、「共に働いていない(17.2%)」、「自分だけ働いている(11.9%)」、「配偶者・パートナーだけ働いている(11.9%)」が続いています。
- 子ども有無では、「いる」が66.4%、「いない」が32.9%となっており、子どもの年齢は、「社会人(61.5%)」が最も多く、「小学生(11.1%)」、「3歳以下(9.6%)」が続いています。
- 家族構成は、「親と未婚の子ども(41.5%)」が最も多く、「夫婦のみ(一世代家族)(27.1%)」、「ひとり暮らし(19.0%)」が続いています。

# 2 男女平等

- 男女平等社会の進度は、「少しは平等になってきている(46.9%)」が最も多く、「かなり平等になってきている(26.5%)」が続いています。「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は31.9%です。一方、「ほとんど平等になっていない」は11.9%となっています。
- 男女平等社会の進度が進んでいないと答えた人で、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差がある(48.7%)」が最も多く、「家事や育児のほとんどを女性が担っている(48.3%)」、「議員や企業の管理職、地域社会の役員など、女性の社会参画が進んでいない(45.6%)」が続いています。
- 男女の地位の平等感について、全体では、『男性優遇』が『政治の場(76.2%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど(73.4%)』、『全体として、現在の日本では(75.0%)』で7割台と多くなっています。また、『学校教育の場』で『平等(47.6%)』が約5割台で他分野と比べて最も多くなっています。  
性別でみると、いずれの項目も、女性は男性より『男性優遇』が、男性は女性より『平等』『女性優遇』が多くなっています。また、女性は『男性優遇』が『平等』を『学校教育の場』(『男性優遇』:22.3%、『平等』:40.3%)以外で上回っており、『政治の場(79.7%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど(78.1%)』、『全体として、現在の日本では(80.2%)』で約8割を占めています。一方、男性は『平等』が『家庭生活(42.6%)』、『学校教育の場(59.2%)』、『法律や制度の上(42.2%)』、『自治会やNPOなどの地域活動の場(45.5%)』で『男性優遇』を上回っています。  
また、『家庭生活』では男女の差が大きく、『男性優遇(女性:57.8%、男性:39.7%)』は、女性が男性を18.1%上回っています。

# 3 結婚観

- 結婚観について6つの考え方をたずねました。ここでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を『賛成』、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計を『反対』としています。『賛成』の多い順でみると、全体では『結婚は個人の自由、してもしなくてもどちらでもよい(86.7%)』が最も多く、『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ(73.4%)』、『夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである(71.4%)』、『結婚しても相手に満足できないときは離

婚すればよい(69.9%)』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない(66.7%)』となっています。一方、『反対』は、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(84.2%)』が8割を超えています。『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』は、『賛成(女性:88.7%、男性:83.7%)』で、男性よりも女性が多くなっています。『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、『反対(女性:86.7%、男性:80.2%)』は男性よりも女性が多くなっています。『夫も妻も外で働き、家事を分担するべきである』では、『賛成(女性:75.1%、男性:66.8%)』は、男性よりも女性が多くなっています。『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』では、『賛成(女性:73.0%、男性:57.4%)』は、男性よりも女性が多くなっています。『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、『賛成(女性:77.0%、男性:58.8%)』は、男性よりも女性が多くなっています。『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ』では、『賛成(女性:74.9%、男性:71.2%)』は、女性と男性に大きな差はありません。

## 4 家庭生活

- 家事などの分担についてたずねました。「いつもしている」の多い順にみると、全体では『食料品・日用品の買い物(56.8%)』が最も多く、『食事の後片付け(56.4%)』、『洗濯(56.3%)』、『部屋の掃除・片付け(53.5%)』が続いています。  
性別でみると、すべての項目で「いつもしている」は女性が男性を上回っています。「いつもしている」の多い順にみると、女性は『洗濯(79.5%)』が最も多く、『食料品・日用品の買い物(74.6%)』、『食事のしたく(73.7%)』、『部屋の掃除・片付け(70.8%)』、『食事の後片付け(70.2%)』が7割台となっています。男性は『ゴミ出し(40.9%)』が4割台で最も多く、『食事の後片付け(35.6%)』、『食料品・日用品の買い物(30.2%)』が続いています。
- 育児や介護の分担について「いつもしている」を多い順にみると、女性は『家族の病気の看護・介護(32.7%)』が最も多く、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎(32.4%)』、『授業参観や保護者会、PTAへの出席(30.6%)』が続いています。男性は『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎(7.1%)』、『授業参観や保護者会への出席(6.2%)』が1割未満です。
- 家事及び育児や介護の分担について就労の有無別でみると、女性では、すべての項目で「いつもしている」割合は、就労していないと回答している方が就労している方よりも下回っています。男性では、『食事の片付け』、『町内会や自治会への出席』を除いたすべての項目で「いつもしている」割合は就労していないと回答している方が就労している方よりも下回っています。
- 男性の家庭参画の度合いについて、全体では、「配偶者・パートナーと分担する(54.4%)」が最も多く、「積極的に取り組む(28.8%)」、「配偶者・パートナーを手伝う程度(10.4%)」が続いています。性別でみると、女性は「積極的に取り組む(女性:32.5%、男性:23.5%)」で男性を上回っています。またこれら回答の理由について、全体では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない(50.4%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思う(37.1%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思う(35.8%)」が続いています。
- 男性が家事・育児・介護にさらに参加するために必要なこととして、全体では、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(63.2%)」が最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち(61.4%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む(55.0%)」が続いています。

## 5 就労

- 就労の状況について、全体では、「正社員・正職員(35.4%)」が最も多く、「パートタイム(12.9%)」、「派遣・契約嘱託社員(7.8%)」が続いています。「無職」は23.9%です。性別で見ると、女性は「正社員・正職員(31.6%)」が最も多く、「パートタイム(19.6%)」、「派遣・契約嘱託社員(7.1%)」が続いています。男性は「正社員・正職員(42.2%)」が最も多くなっています。  
何らかの仕事をしている人に、その内容や待遇の問題点についてたずねました。全体では、「特にない(53.2%)」が最も多く、「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(13.6%)」、「男女の賃金格差(13.0%)」、「女性の配置場所の限定(10.4%)」が続いています。
- 女性の望ましい働き方について、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ(43.9%)」が最も多く、「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(35.1%)」が続いています。性別で見ると、女性は、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ(女性:45.9%、男性:40.4%)」、「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(女性:35.7%、男性:34.7%)」の2点で男性を上回っています。  
これらの回答の理由として全体では、「本人が望む働き方をすべきだと思う(74.9%)」が最も多く、「経済力を持った方がよいと思う(30.8%)」、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる(30.3%)」が続いています。性別で見ると、男女ともに「本人が望む働き方をすべきだと思う(女性:74.0%、男性:76.2%)」が最も多く、7割を超えています。
- 女性の再就職で必要なこととして、全体では、「働き方の選択肢を多くする(64.3%)」が最も多く、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実(62.4%)」、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実(60.3%)」、「多様な労働条件(59.4%)」が続いています。
- 育児休業・介護休業の利用状況について、育児休業では、「利用したことがある」が12.1%、「利用したことはない」が50.6%となっています。性別で見ると、「利用したことがある」は女性が16.8%、男性が5.1%となっています。介護休業では、「利用したことがある」が1.5%、「利用したことはない」が48.3%となっています。性別で見ると、「利用したことがある」が女性は1.2%、男性は1.8%となっています。
- 育児休業を利用していない人の理由として、「出産前に離職した(23.1%)」が最も多く、「対象ではない(21.7%)」、「前例がない(15.1%)」、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいた(14.6%)」、「職場に代替要員がない(12.6%)」が続いています。介護休業を利用していない人の理由として、「対象ではない(37.6%)」が最も多く、「介護サービス利用など、自分以外に介護をしてくれる人がいた(13.1%)」、「職場に代替要員がない(12.8%)」、「前例がない(12.8%)」が続いています。

## 6 ワーク・ライフ・バランス

- 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度は、全体では、「内容まで知っている」が38.5%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が25.6%となっており、両者をあわせた《認知度》は64.1%となっています。一方、「知らない」は34.0%となっています。性別で見ると、《認知度》は女性が62.5%、男性が67.2%となっています。
- 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度の希望は、全体では、『「仕事」と「家庭生活」(26.9%)』が最も多く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」(21.7%)』、『「家庭生活」(15.1%)』が続いています。

- 現実の優先度は、『「仕事」と「家庭生活」(27.9%)』が最も多く、『「仕事」(18.6%)』、『「家庭生活」(16.8%)』が続いています。
- ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なことは、全体では、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(49.3%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(47.9%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する(41.8%)」が続いています。

## 7 セクシュアル・ハラスメント

- 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねたところ、全体では、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(14.0%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(12.9%)』、『宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された(11.9%)』が続いています。
- 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねたところ、全体では、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(7.2%)』と『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(7.5%)』が多くなっています。
- 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねたところ、全体では、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(6.0%)』、『不必要に身体を触られた(4.9%)』、『外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした(4.7%)』が多くなっています。
- SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねたところ、全体では、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(6.1%)』、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(4.3%)』が多くなっています。
- 何らかのセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に、その時の対応をたずねました。全体では、「相談した」が29.0%、「相談しなかった(できなかった)」が65.9%となっています。性別でみると、「相談した(女性:34.3%、男性:10.3%)」は女性が男性を24.0%上回っています。相談先は、全体では、「友人・知人に相談した(60.5%)」が最も多く、「家族に相談した(49.4%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(30.9%)」が続いています。  
また、相談をしていない人にその理由をたずねたところ、全体では、「相談するほどのことではないと思ったから(45.1%)」、「相談しても無駄だと思ったから(42.4%)」が4割を超えています。

## 8 DV(ドメスティック・バイオレンス)

- DV(ドメスティック・バイオレンス)の経験をたずねました。全体では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(14.1%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる(8.4%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる(8.2%)』、『何を言っても無視される(7.1%)』が続いています。  
性別でみると、女性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(18.9%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる(10.6%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる(10.4%)』、『何を言っても無視される(9.2%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(8.7%)』、『嫌がっているのに性的行為を強要される(7.6%)』が続いています。また、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は2.6%、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は2.5%となっています。

男性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(6.5%)』が最も多く、『容姿について傷つくようなことを言われる(4.7%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(4.3%)』が続いています。また、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は0.7%、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は0.4%となっています。

- DV(ドメスティック・バイオレンス)を見たり聞いたりしたことがあるかをたずねています。全体では『大声で怒鳴られる(3.9%)』が最も多く、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける(3.6%)』、『医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける(3.6%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(3.5%)』が続いています。
- DV(ドメスティック・バイオレンス)の経験がある人に、その時の対応をたずねました。全体では、「相談した」が37.3%、「相談しなかった(できなかった)」が59.8%となっています。  
性別でみると、「相談した(女性:43.4%、男性:8.3%)」は女性が男性を35.1%上回っています。  
相談先は、全体では、「友人・知人に相談した(68.3%)」が6割台と最も多く、「家族や親族に相談した(47.6%)」が続いています。  
また、相談をしていない人にその理由をたずねたところ、全体では、「相談するほどのことではないと思った(41.6%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思った(36.6%)」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った(21.8%)」、「自分にも悪いところがあると思った(18.8%)」、「相談することによって自分が不快な思いをすと思った(18.8%)」が続いています。
- DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止及び被害者支援のために必要な対策は、全体では、「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める(72.8%)」が最も多く、「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備(60.4%)」、「緊急時の相談体制の充実(53.2%)」、「子どもがいても安心して相談・避難ができるような体制の充実(48.2%)」が続いています。

## 9 性の表現

- 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識は、全体では、「子どもの目にふれないような配慮が足りない(31.9%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(31.4%)」、「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(25.4%)」、「女性の性を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ(24.9%)」が続いています。  
性別でみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない(37.1%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(35.9%)」、「女性の性を過度に強調するなど行き過ぎた表現が目立つ(26.7%)」が続いています。男性は「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(28.2%)」が最も多く、「子どもの目にふれないような配慮が足りない(23.5%)」が続いています。男女の違いをみると、女性は①「子どもの目にふれないような配慮が足りない(女性:37.1%、男性:23.5%)」で13.6%、②「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(女性:35.9%、男性:23.1%)」で12.8%の2点で男性を上回っています。一方、男性は「特に問題はない(女性:12.0%、男性:20.6%)」で女性を8.6%上回っています。

## 10 性の多様性

- 自分の性別に悩んだことについて、全体では、「ある」が4.3%となっています。性別で見ると、「ある」が女性は5.1%、男性は2.5%となっています。  
自分の性別に悩んだことのある人の悩んだ内容は、全体では、「男らしさ・女らしさを求められた(54.8%)」が最も多く、「異性に生まれたかった(35.5%)」、「言葉遣いや服装、振る舞いなど、外部に表現する性に関して(35.5%)」が続いています。性別で見ると、女性は「男らしさ・女らしさを求められた(女性:63.6%、男性:14.3%)」、「異性に生まれたかった(女性:40.9%、男性:14.3%)」、「言葉遣いや服装、振る舞いなど、外部に表現する性に関して(女性:40.9%、男性:14.3%)」が男性よりも上回っています。男性は「性的指向(女性:9.1%、男性:42.9%)」が女性よりも上回っています。
- LGBTとLGBTQ+の認知度は、全体では、「両方とも知っている」が43.6%、『「LGBT」は知っていたが、「LGBTQ+」は初めて知った』が38.5%となっています。

## 11 健康

- 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なことについて、全体では、「子どもの成長と発育に応じた性教育(66.4%)」が最も多く、「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実(58.8%)」、「性感染症(カンジダ症、クラミジア感染症など)についての情報提供・相談体制の充実(41.9%)」、「喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実(40.6%)」が続いています。  
性別で見ると、「わからない(女性:9.0%、男性:15.5%)」を除くすべての項目で女性の割合が男性よりも上回っています。特に「更年期についての情報提供・相談体制の充実(女性:43.3%、男性:26.0%)」は17.3%女性が上回っています。

## 12 学校教育

- 男女平等社会実現のために学校教育の場で力を入れるべきことは、全体では、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(62.1%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(54.4%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(51.3%)」、「男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施(43.6%)」、「セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習(40.8%)」が続いています。  
性別で見ると、男女ともに「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(女性:65.0%、男性:57.8%)」、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(女性:56.0%、男性:51.6%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(女性:51.8%、男性:50.9%)」が5割以上となっています。

## 13 女性の社会参画

- 女性の社会参画について、区議会議員等に占める女性議員数は、全体では、「男女半々くらいまで増えたほうがよい(33.8%)」が最も多く、「もう少し女性が増えたほうがよい(31.3%)」が続いて

います。「もう少し女性が増えたほうがよい」と「男女半々くらいまで増えたほうがよい」と「男性を上回るほど女性が増えたほうがよい」をあわせた《増加肯定》は、68.4%となっています。

- 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因は、全体では、「組織運営が男性優位である(46.4%)」が最も多く、「女性の参画を進めようと意識している人が少ない(35.6%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある(32.9%)」、「女性の能力開発の機会が十分でない(25.8%)」、「女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない)(24.7%)」が続いています。
- 政治や行政への女性の参画推進に必要なことは、全体では、「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する(47.2%)」が最も多く、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する(30.6%)」、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする(28.8%)」が続いています。

## 14 防災

- 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なことは、全体では、「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う(76.5%)」が最も多く、「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う(66.1%)」、「食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする(52.5%)」が続いています。

性別でみると、「女性は性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う(女性:78.3%、男性:73.6%)」、「食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする(女性:56.0%、男性:46.9%)」などで男性を上回っています。

## 15 施策や制度など

- 葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)の認知度は、全体では、「知っている」が41.1%、「知らない」が55.7%となっています。性別でみると、女性は「知らない(51.4%)」が「知っている(44.5%)」よりも多くなっています。男性は「知らない(62.5%)」が6割を超えています。
- 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向をたずねたところ、全体では、「特にない(50.8%)」が最も多く、「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)(16.1%)」、「パルフェスタ(センターまつり)、啓発誌の発行などの啓発事業(11.1%)」、「男女平等に関する図書資料室(図書や雑誌などの閲覧・利用など)(10.1%)」が続いています。
- 男女平等社会実現のために充実すべき施策は、全体では、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(62.1%)」が最も多く、「子育て・育児に関する支援の充実(48.9%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(48.6%)」が続いています。

性別でみると、男女ともに「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(女性:66.1%、男性:56.0%)」が最も多く、女性は「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(50.0%)」、「子育て・育児に関する支援の充実(47.9%)」が続いています。男性は「子育て・育児に関する支援の充実(49.5%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(45.8%)」が続いています。

## 第3章 調査結果

# 1 基本属性（性別・年齢・家族構成など）

## （1）性別

F1 あなたの性別をお答えください。（○は1つだけ）

### 【全体】

「女性」が60.3%、「男性」が38.5%となっています。（図表1-1）

図表 1-1 性別（全体）



## （2）年齢

F2 あなたの年齢はおいくつですか。（○は1つだけ）

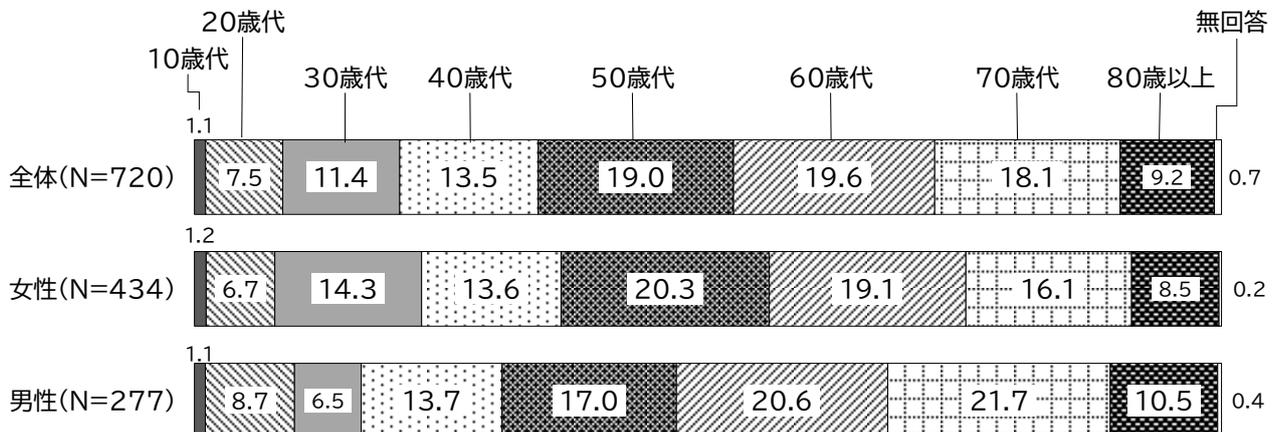
### 【全体】

全体では、「60歳代(19.6%)」が最も多く、「50歳代(19.0%)」、「70歳代(18.1%)」が続いています。（図表1-2）

### 【性別】

性別で見ると、女性は「50歳代(20.3%)」が最も多く、「60歳代(19.1%)」、「70歳代(16.1%)」が続いています。男性は「70歳代(21.7%)」が最も多く、「60歳代(20.6%)」、「50歳代(17.0%)」が続いています。（図表1-2）

図表 1-2 年齢（全体、性別）



### (3) 結婚の有無

F3 あなたは結婚していますか。(○は1つだけ)

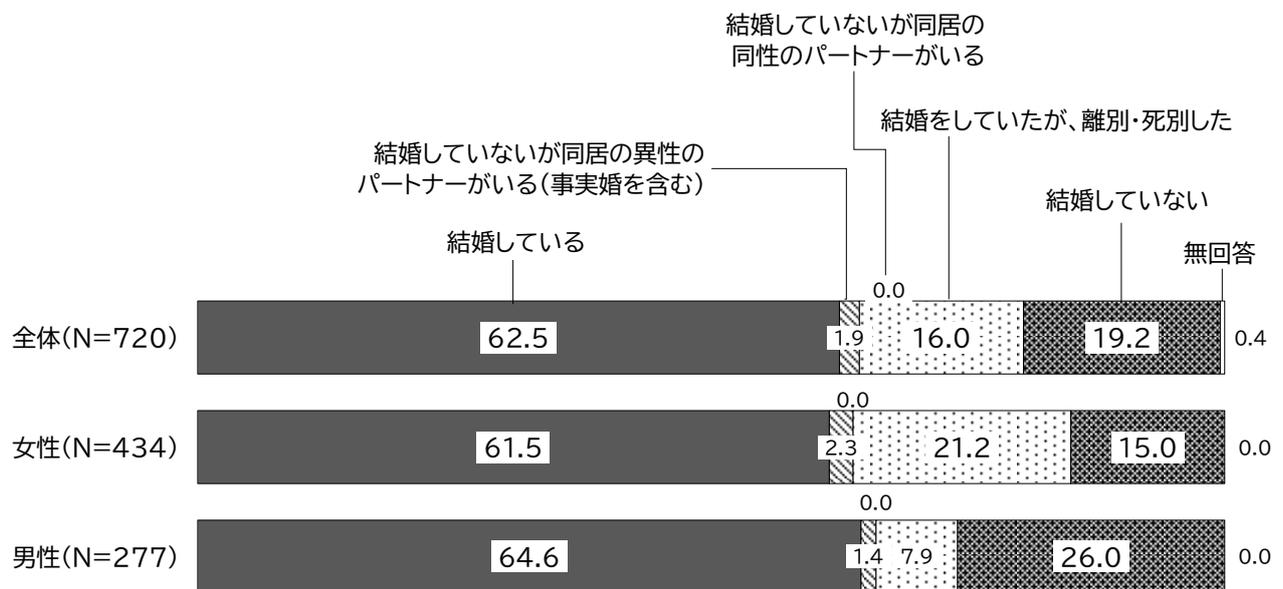
#### 【全体】

全体では、「結婚している(62.5%)」が最も多く、「結婚していない(19.2%)」、「結婚していたが、離別・死別した(16.0%)」が続いています。(図表1-3)

#### 【性別】

性別で見ると、男女ともに「結婚している(女性:61.5%、男性:64.6%)」が最も多くなっています。次いで女性では「結婚していたが、離別・死別した(21.2%)」、男性では「結婚していない(26.0%)」が続いています。(図表1-3)

図表 1-3 結婚の有無（全体、性別）



#### (4) 共働きの有無

F3で1～3のいずれかをお選びの方に

F3-1 あなたの世帯は、共働きですか。(○は1つだけ)

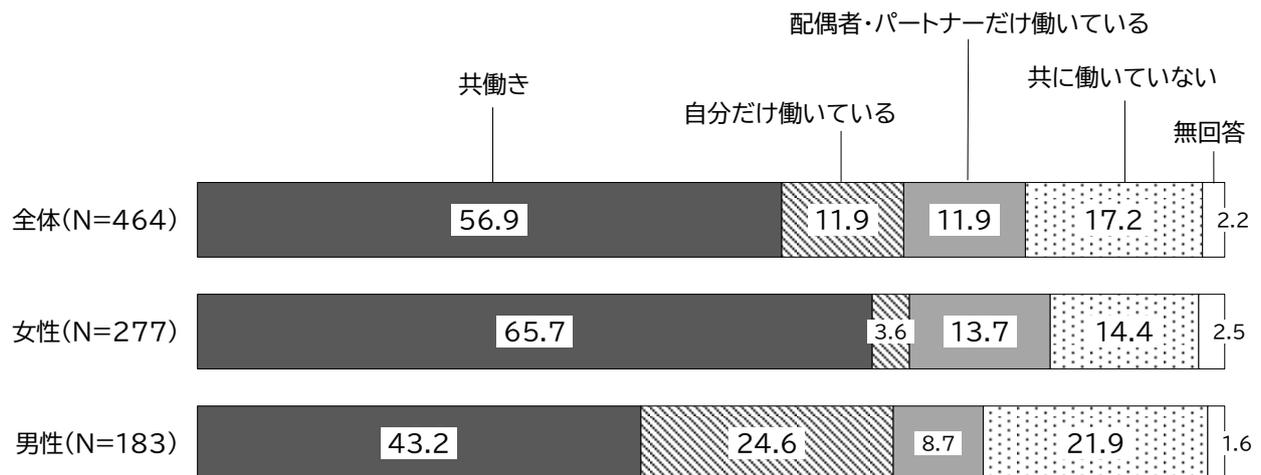
##### 【全体】

全体では、「共働き(56.9%)」が最も多く、「共に働いていない(17.2%)」、「自分だけ働いている(11.9%)」、「配偶者・パートナーだけ働いている(11.9%)」が続いています。(図表1-4)

##### 【性別】

性別で見ると、男女ともに「共働き(女性:65.7%、男性:43.2%)」が最も多くなっています。次いで女性は「共に働いていない(14.4%)」が、男性は「自分だけ働いている(24.6%)」が続いています。(図表1-4)

図表 1-4 共働きの有無 (全体、性別)  
<結婚している人、結婚していないが同居のパートナーがいる人>



## (5) 子どもの有無

F4 お子さんはいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

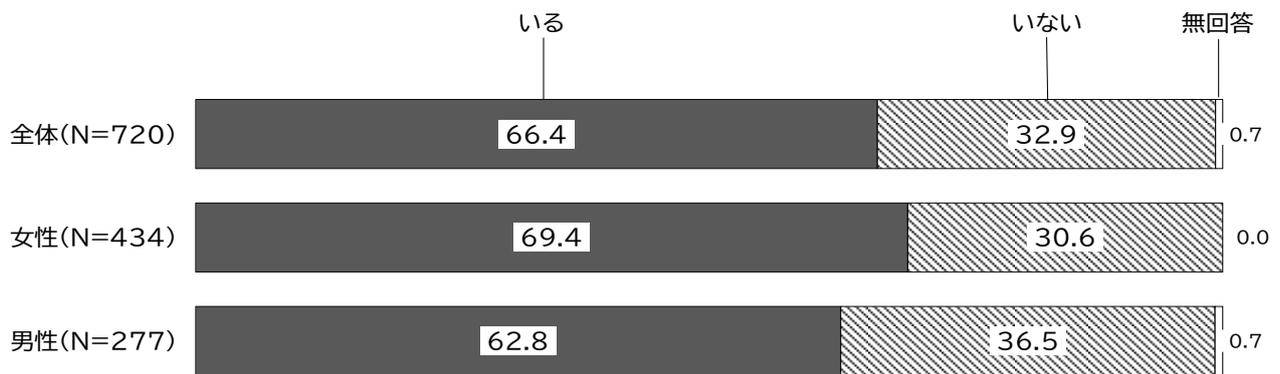
### 【全体】

全体では、「いる」が66.4%、「いない」が32.9%となっています。(図表1-5-1)

### 【性別】

性別でみると、「いる」は女性が69.4%、男性が62.8%となっています。(図表1-5-1)

図表 1-5-1 子どもの有無 (全体、性別)



F4で「1.いる」をお選びの方に

F4-1 一番下のお子さんはいくつですか。(○は1つだけ)

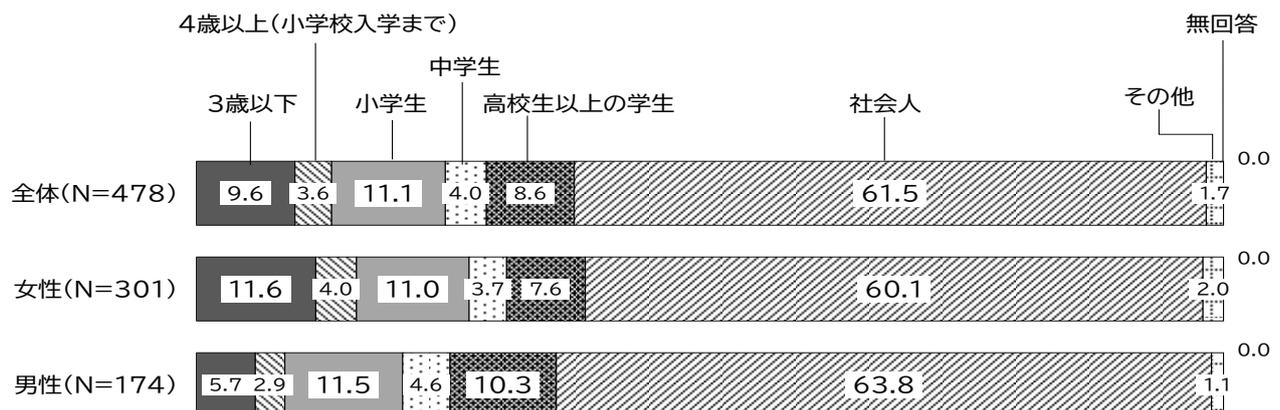
### 【全体】

全体では、「社会人(61.5%)」が最も多く、「小学生(11.1%)」、「3歳以下(9.6%)」が続いています。(図表1-5-2)

### 【性別】

性別でみると、男女ともに「社会人(女性:60.1%、男性:63.8%)」が最も多くなっています。次いで女性では「3歳以下(11.6%)」、男性では「小学生(11.5%)」が続いています。(図表1-5-2)

図表 1-5-2 末子の年齢 (全体、性別)



## (6) 家族構成

F5 あなたの世帯は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。ご自分の立場(自分が親、自分が子ども)にかかわらず、世帯構成をお答えください。(○は1つだけ)

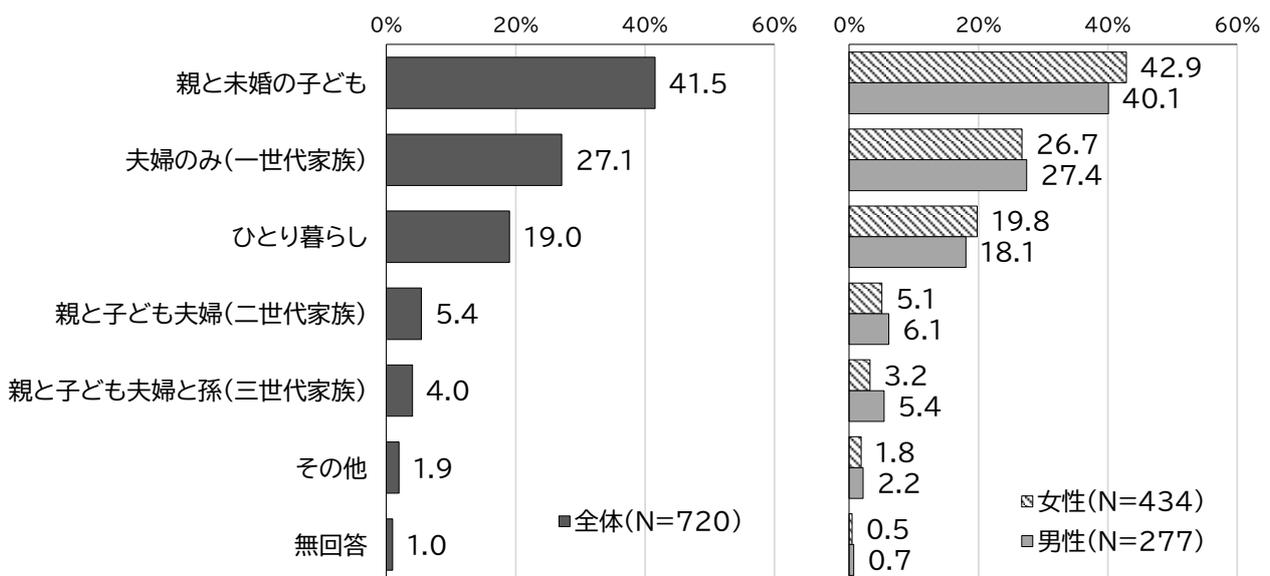
### 【全体】

全体では、「親と未婚の子ども(41.5%)」が最も多く、「夫婦のみ(一世代家族)(27.1%)」、「ひとり暮らし(19.0%)」が続いています。(図表1-6)

### 【性別】

性別で見ると、男女ともに「親と未婚の子ども(女性:42.9%、男性:40.1%)」が最も多く、「夫婦のみ(一世代家族)(女性:26.7%、男性:27.4%)」、「ひとり暮らし(女性:19.8%、男性:18.1%)」が続いています。(図表1-6)

図表 1-6 家族構成 (全体、性別)



## 2 男女平等

### (1) 男女平等社会の進捗

問1 あなたは、日々の暮らしの中で、男女平等社会はどの程度進んでいると思いますか。  
(○は1つだけ)

#### 【全体】

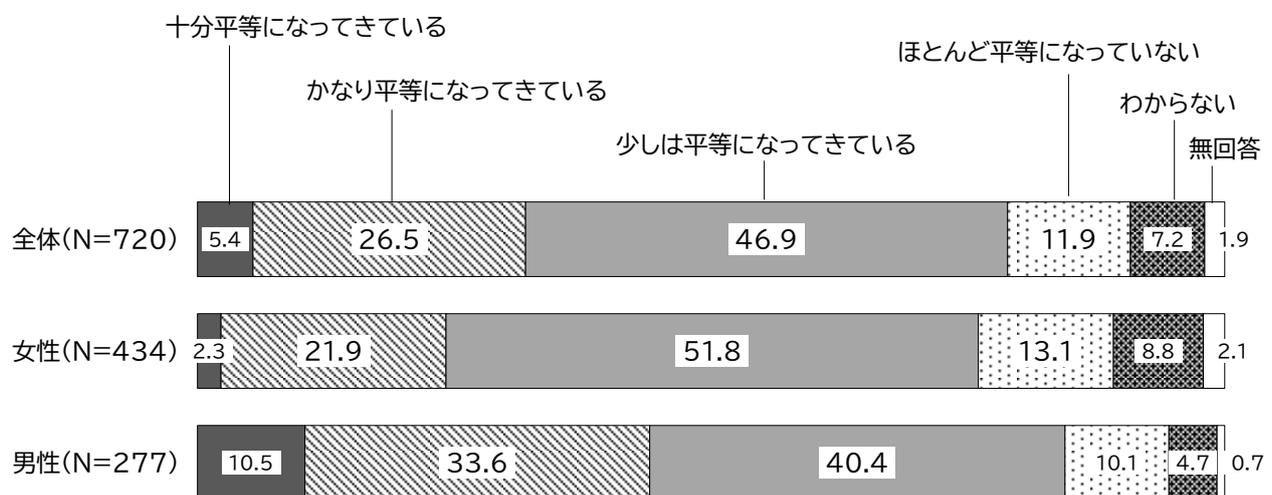
全体では、「少しは平等になってきている(46.9%)」が最も多く、「かなり平等になってきている(26.5%)」が続いています。「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は31.9%です。一方、「ほとんど平等になっていない」は11.9%となっています。(図表2-1-1)

#### 【性別】

性別で見ると、男女ともに「少しは平等になってきている(女性:51.8%、男性:40.4%)」が最も多くなっています。

「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(女性:24.2%、男性:44.1%)は男性が女性を19.9%上回っています。一方、「ほとんど平等になっていない(女性:13.1%、男性:10.1%)」は女性が男性を3.0%上回っています。(図表2-1-1)

図表 2-1-1 男女平等社会の進捗 (全体、性別)

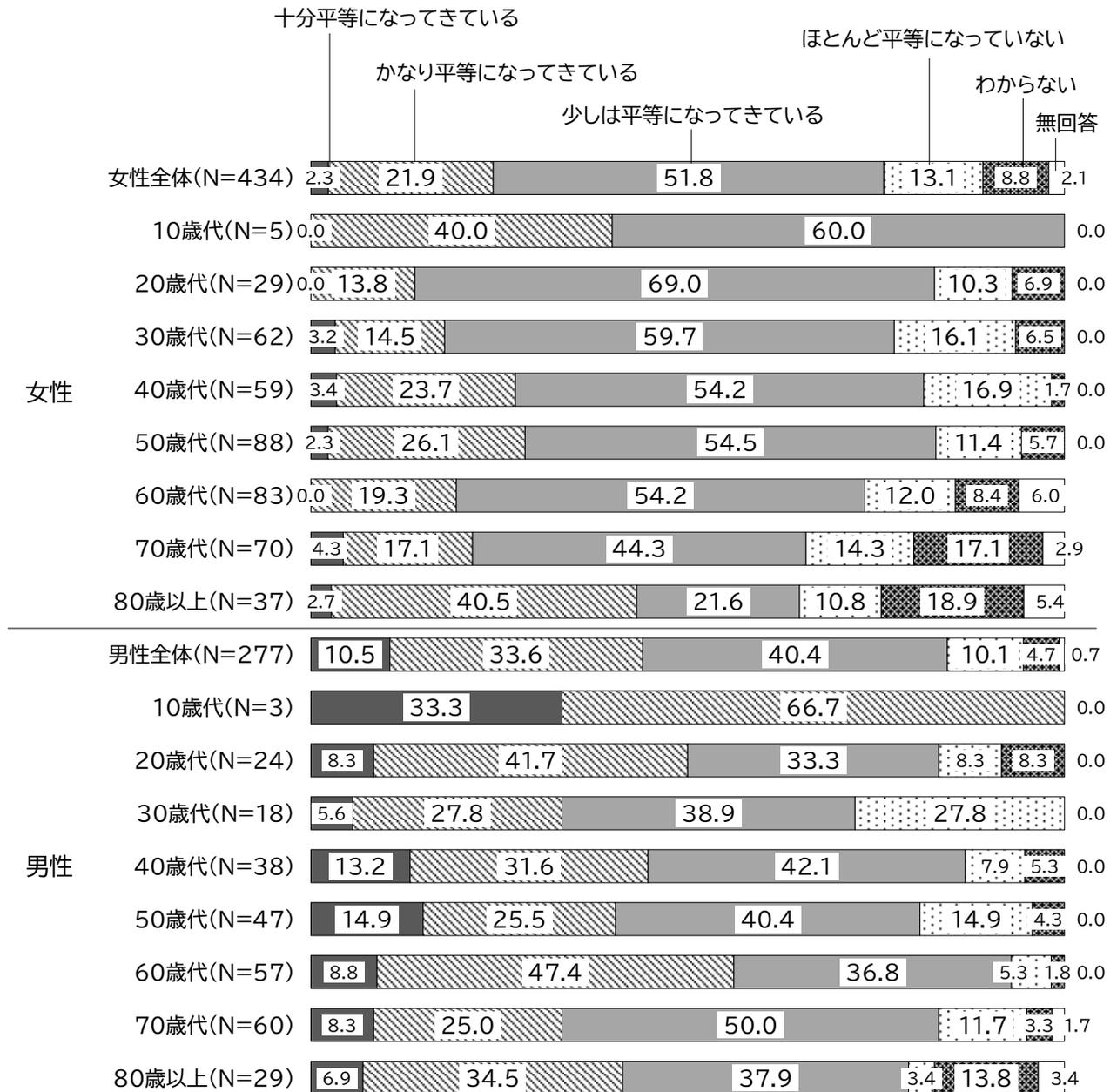


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は、女性の20歳代と30歳代と60歳代は2割未満となっていますが、男性はすべての年代で3割を超えており、60歳代(56.2%)では半数を超えています。

一方、「ほとんど平等になっていない」は、女性では40歳代(16.9%)、男性では30歳代(27.8%)が他の年代に比べて多くなっています。(図表2-1-2)

図表 2-1-2 男女平等社会の進度 (性・年代別)

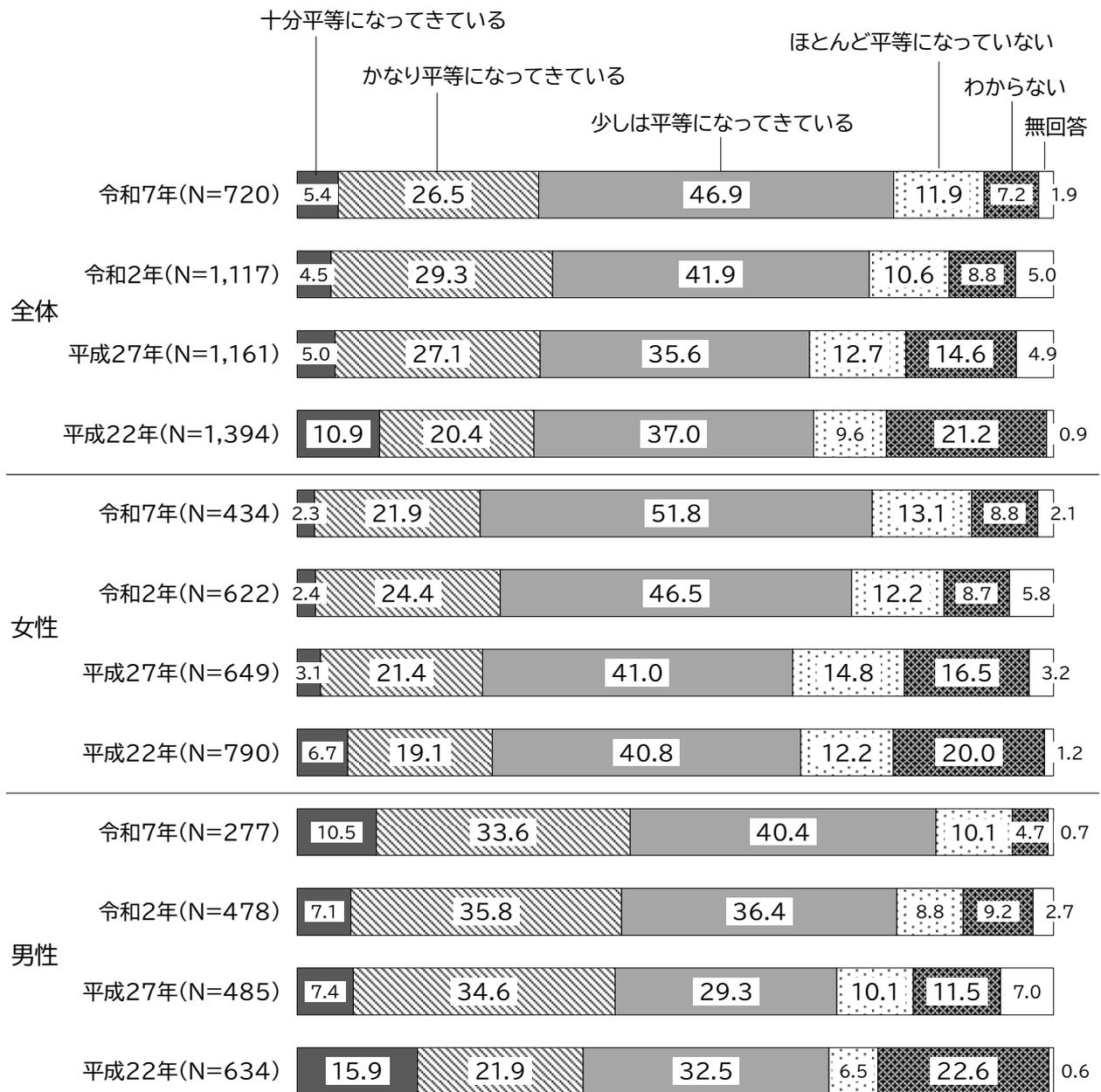


**【令和2年調査、平成27年調査、平成22年調査との比較】**

令和2年調査、平成27年調査、平成22年調査と比較すると、全体では、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(31.9%)が、過去調査(令和2年調査:33.8%、平成27年調査:32.1%、平成22年調査:31.3%)と大きく変わっていません。一方「少しは平等になってきている(46.9%)」は、過去調査から増えています。

性別で見ると、女性は「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(24.2%)がやや減り、「少しは平等になってきている(51.8%)」が増えています。男性は「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」と「少しは平等になってきている」の合計(84.5%)が増えています。(図表2-1-3)

図表 2-1-3 男女平等社会の進捗 (全体、性別、令和7年・令和2年・平成27年・平成22年調査)



## (2) 男女の不平等を感じること

問1で「少しは平等になってきている」、「ほとんど平等になっていない」いずれかをお選びの方に対して

問1-1 具体的に、どのような点で男女の不平等を感じますか。

(○はあてはまるものすべて)

### 【全体】

男女平等社会の進捗について、「少しは平等になってきている」「ほとんど平等になっていない」と回答した人に、不平等を感じる点をたずねました。

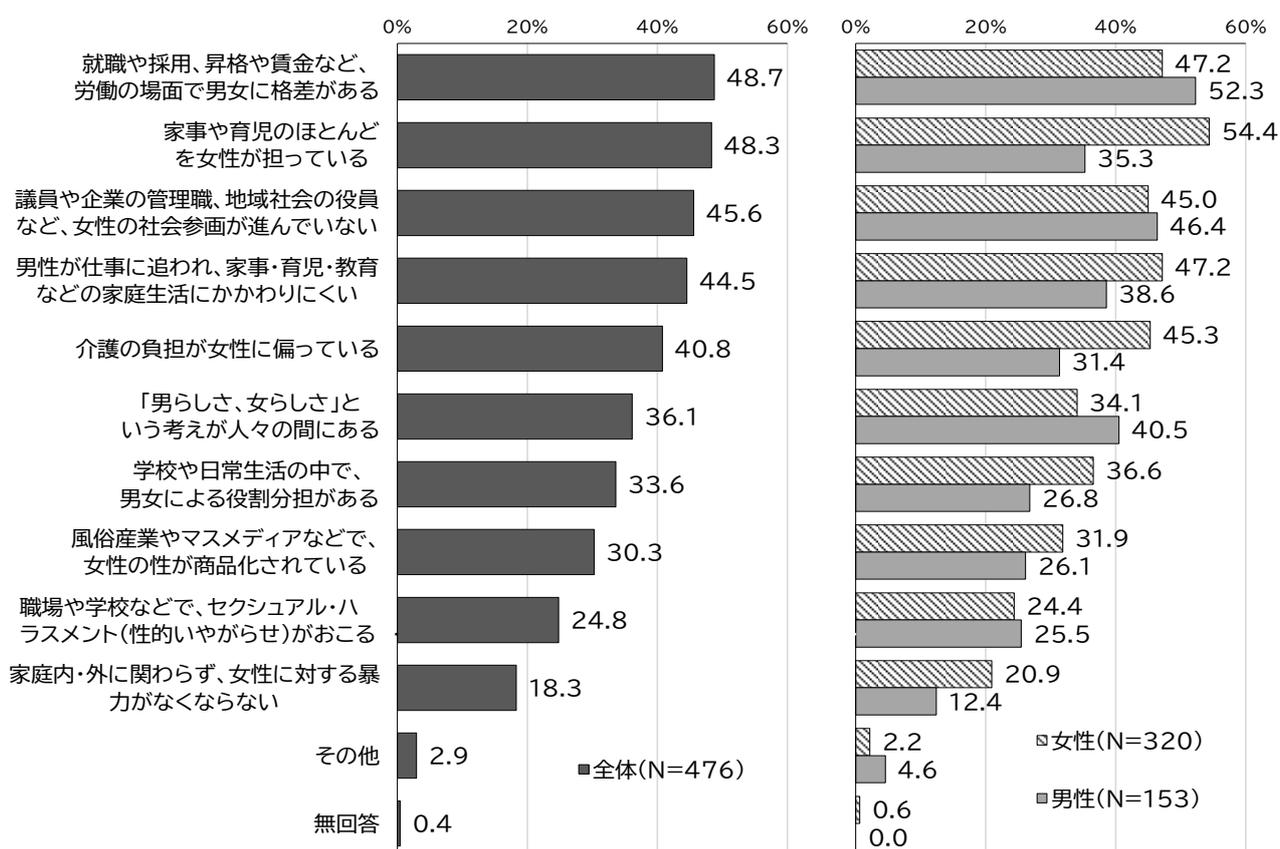
全体では、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差がある(48.7%)」が最も多く、「家事や育児のほとんどを女性が担っている(48.3%)」、「議員や企業の管理職、地域社会の役員など、女性の社会参画が進んでいない(45.6%)」が続いています。(図表2-2-1)

### 【性別】

性別でみると、女性は「家事や育児のほとんどを女性が担っている(54.4%)」が最も多く5割を超えています。男性は「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差がある(52.3%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、「家事や育児のほとんどを女性が担っている(女性:54.4%、男性:35.3%)」、「介護の負担が女性に偏っている(女性:45.3%、男性:31.4%)」で、女性が男性をそれぞれ19.1%、13.9%上回っています。(図表2-2-1)

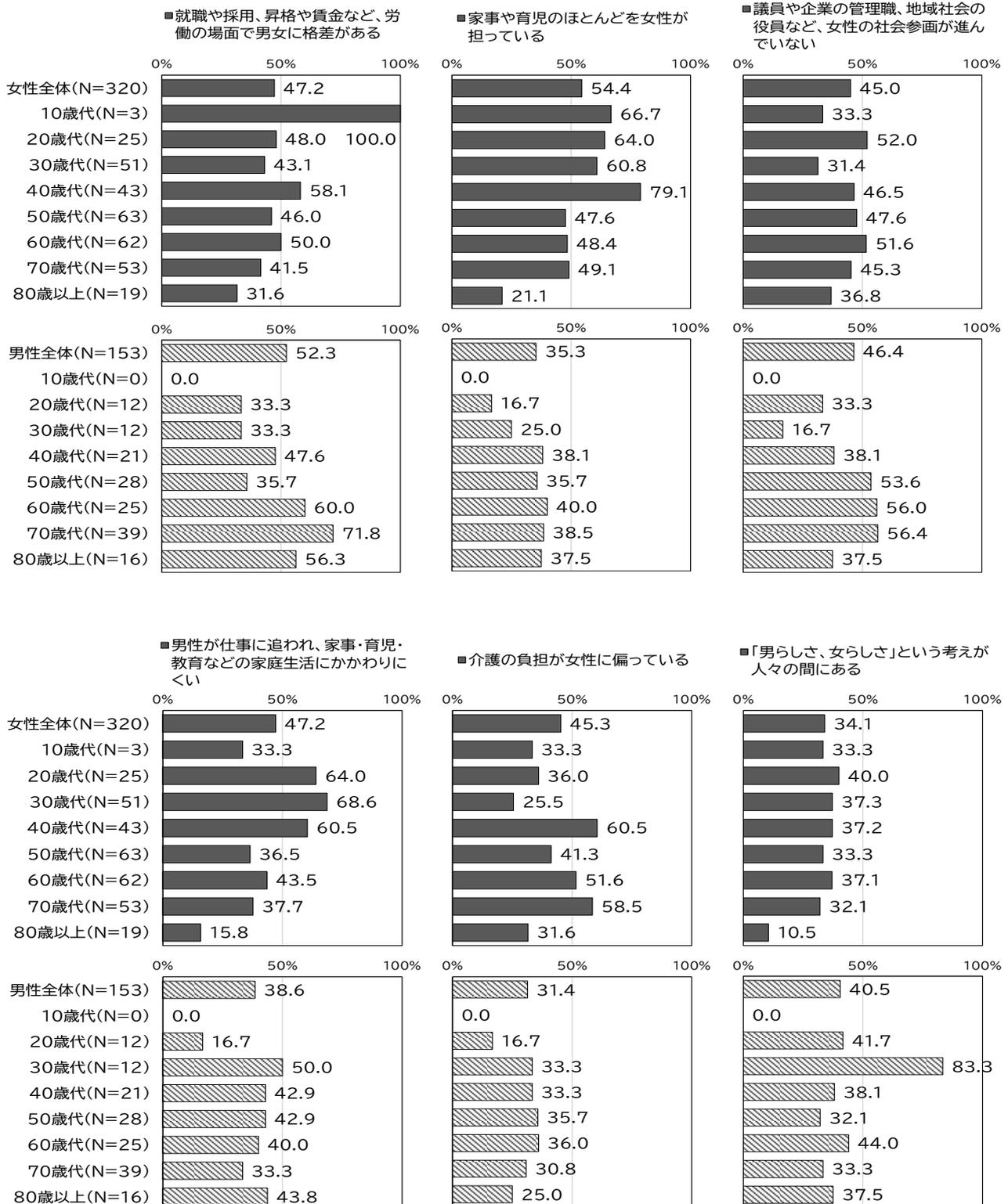
図表 2-2-1 男女の不平等を感じること (全体、性別：複数回答)  
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



## 【性年代別】

性・年代別にみると、女性は40歳代で「家事や育児のほとんどを女性が担っていること(79.1%)」で約8割となっています。男性は30歳代で「男らしさ、女らしさ」という考えが人々の間にある(83.3%)」が8割を超えています。(図表2-2-2)

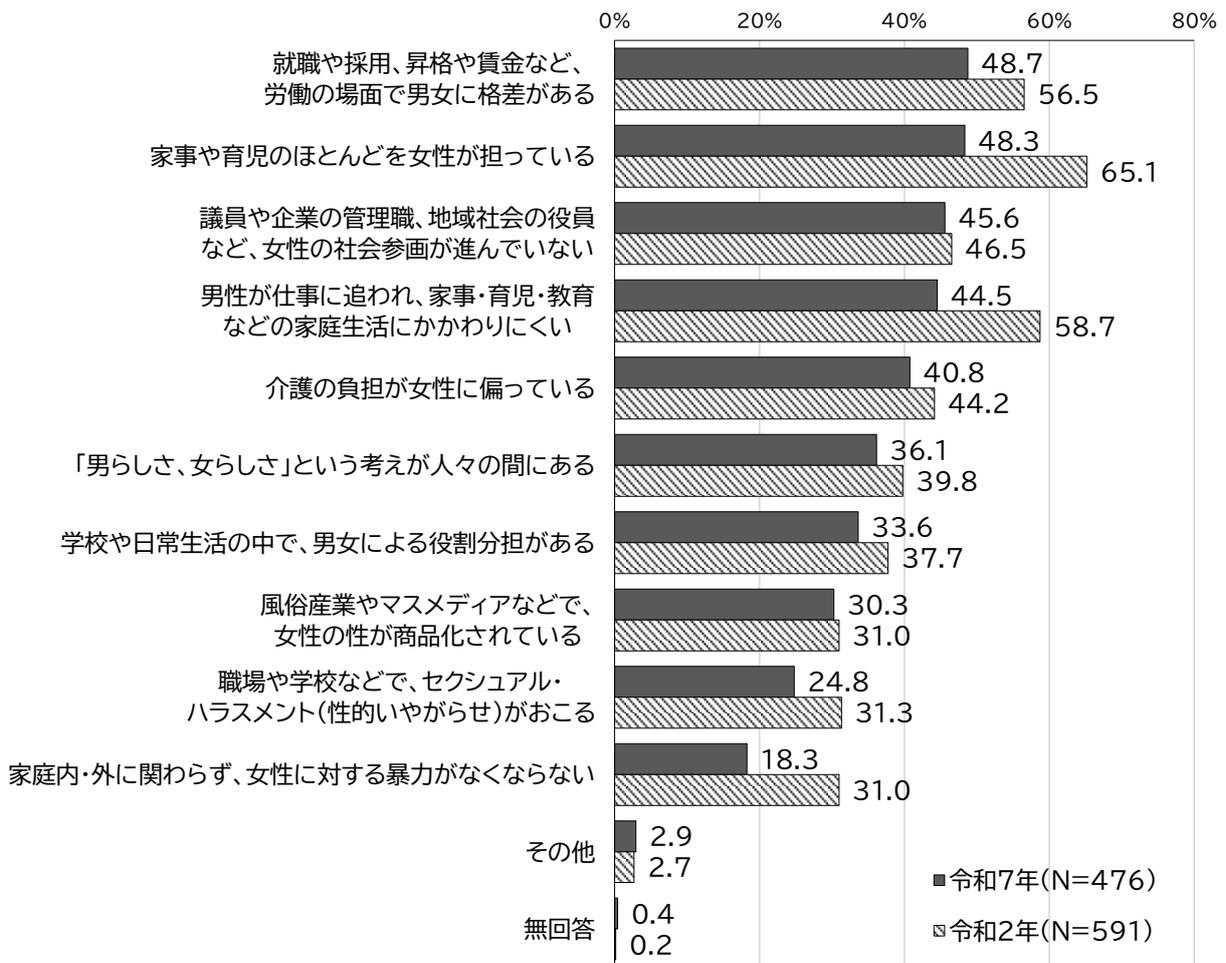
図表 2-2-2 男女の不平等を感じること（性・年代別、上位6項目：複数回答）  
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全体として、割合が減少しています。特に、「家事や育児のほとんどを女性が担っている(令和7年調査:48.3%、令和2年調査:65.1%)」、「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活に関わりにくい(令和7年調査:44.5%、令和2年調査:58.7%)」、「家庭内・外に関わらず、女性に対する暴力がなくなる(令和7年調査:18.3%、令和2年調査:31.0%)」が10%以上減少しています。(図表2-2-3)

図表 2-2-3 男女不平等を感じる事(全体、令和7年・令和2年調査)  
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



### (3) 男女の地位の平等感

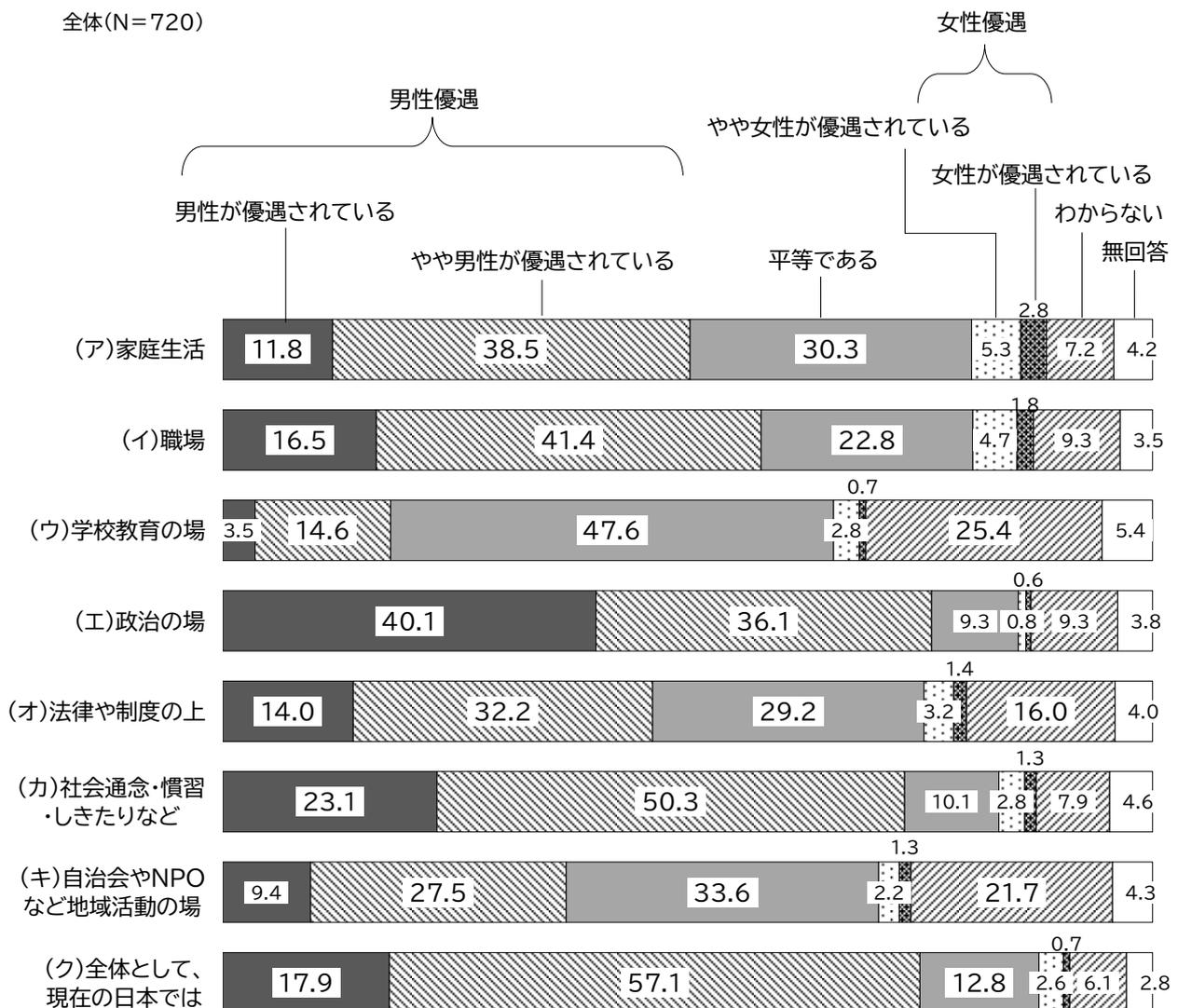
問2 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(ア)~(ク)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。  
(○はそれぞれ1つずつ)

#### 【全体】

7つの分野および『全体として、現在の日本では』について男女の地位の平等感をたずねました。ここでは、「男性が優遇されている」と「やや男性が優遇されている」の合計を《男性優遇》、「平等である」を《平等》、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」の合計を《女性優遇》としています。

全体では、《男性優遇》が『政治の場(76.2%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど(73.4%)』、『全体として、現在の日本では(75.0%)』で7割台と多くなっています。また、『学校教育の場』で《平等(47.6%)》が約5割台で他分野と比べて最も多くなっています。(図表2-3-1)

図表 2-3-1 男女の地位の平等感 (全体)



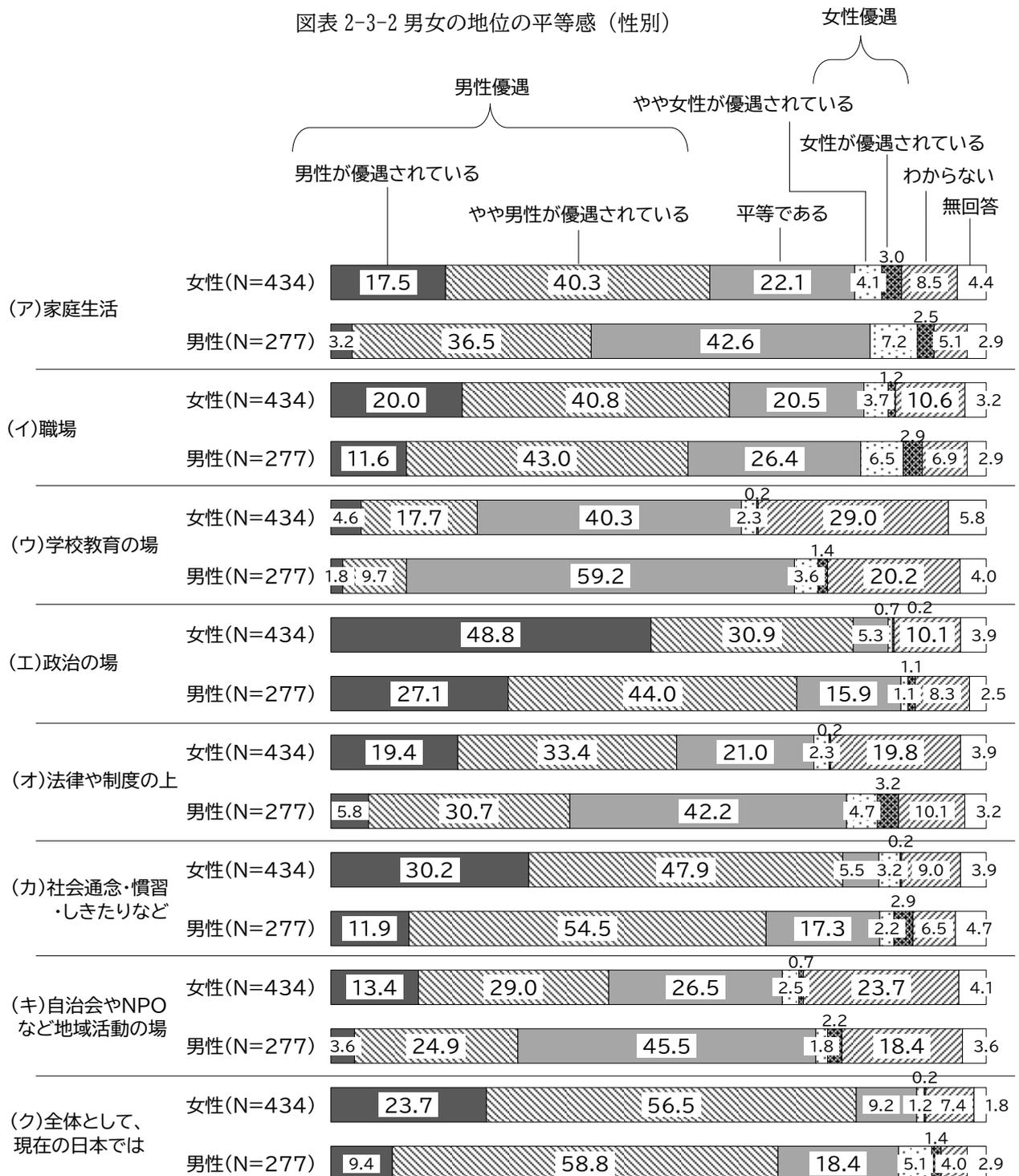
**【性別】**

性別でみると、いずれの項目も、女性は男性より《男性優遇》が、男性は女性より《平等》《女性優遇》が多くなっています。

また、女性は《男性優遇》が《平等》を『学校教育の場(《男性優遇》:22.3%、《平等》:40.3%)』以外で上回っており、『政治の場(79.7%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど(78.1%)』、『全体として、現在の日本では(80.2%)』で約8割を占めています。

一方、男性は《平等》が『家庭生活(42.6%)』、『学校教育の場(59.2%)』、『法律や制度の上(42.2%)』、『自治会やNPOなどの地域活動の場(45.5%)』で《男性優遇》を上回っています。

また、『家庭生活』では男女の差が大きく、《男性優遇(女性:57.8%、男性:39.7%)》は、女性が男性を18.1%上回っています。(図表2-3-2)



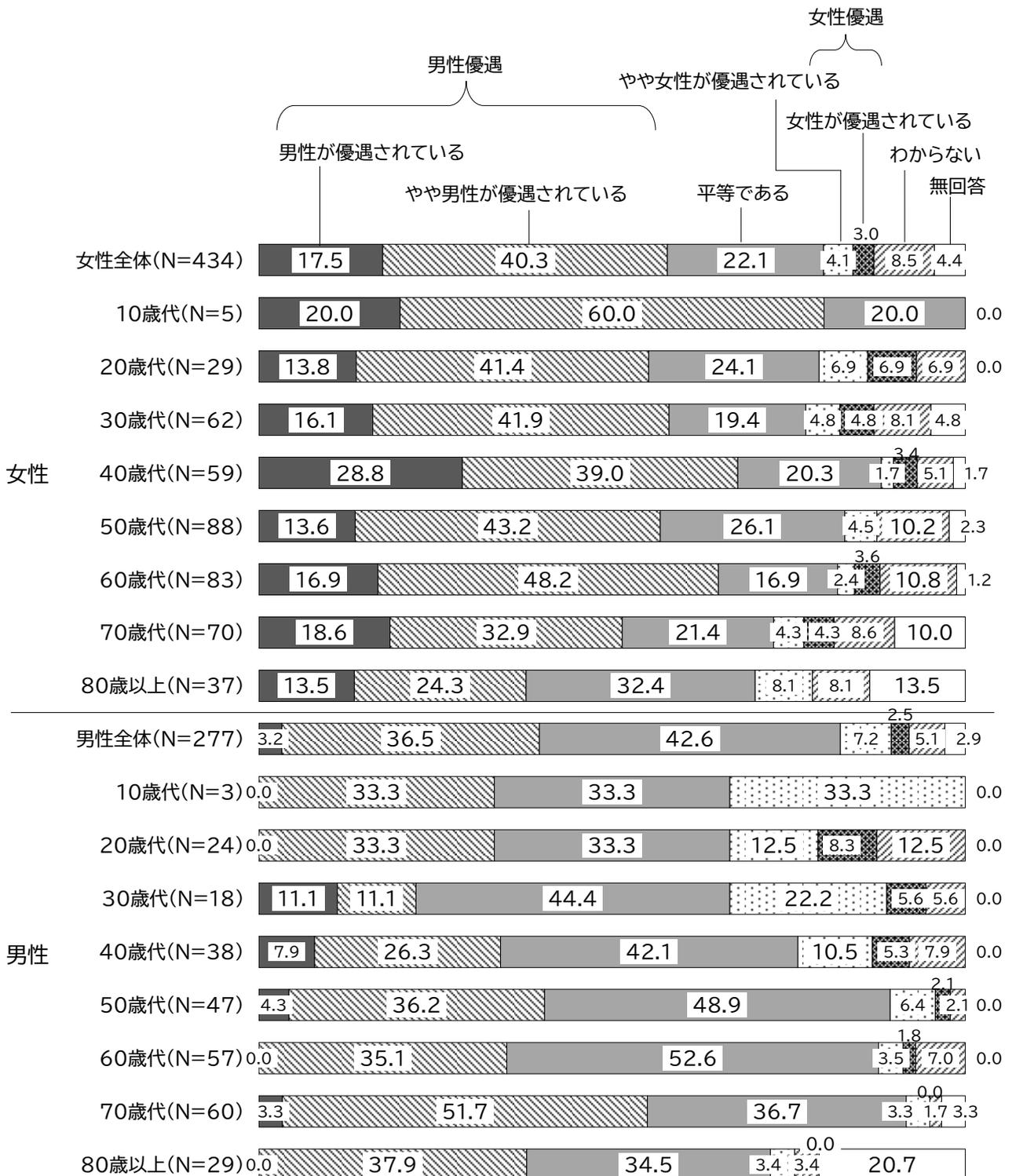
【性・年齢別】

■家庭生活

性・年代別にみると、女性は《男性優遇》が80歳代(37.8%)を除いたすべての年代で5割を超えています。

男性は《平等》が30歳代から60歳代(30歳代:44.4%、40歳代:42.1%、50歳代:48.9%、60歳代:52.6%)で4割以上と多くなっています。(図表2-3-3-①)

図表 2-3-3-① 男女の地位の平等感：家庭生活（性・年代別）

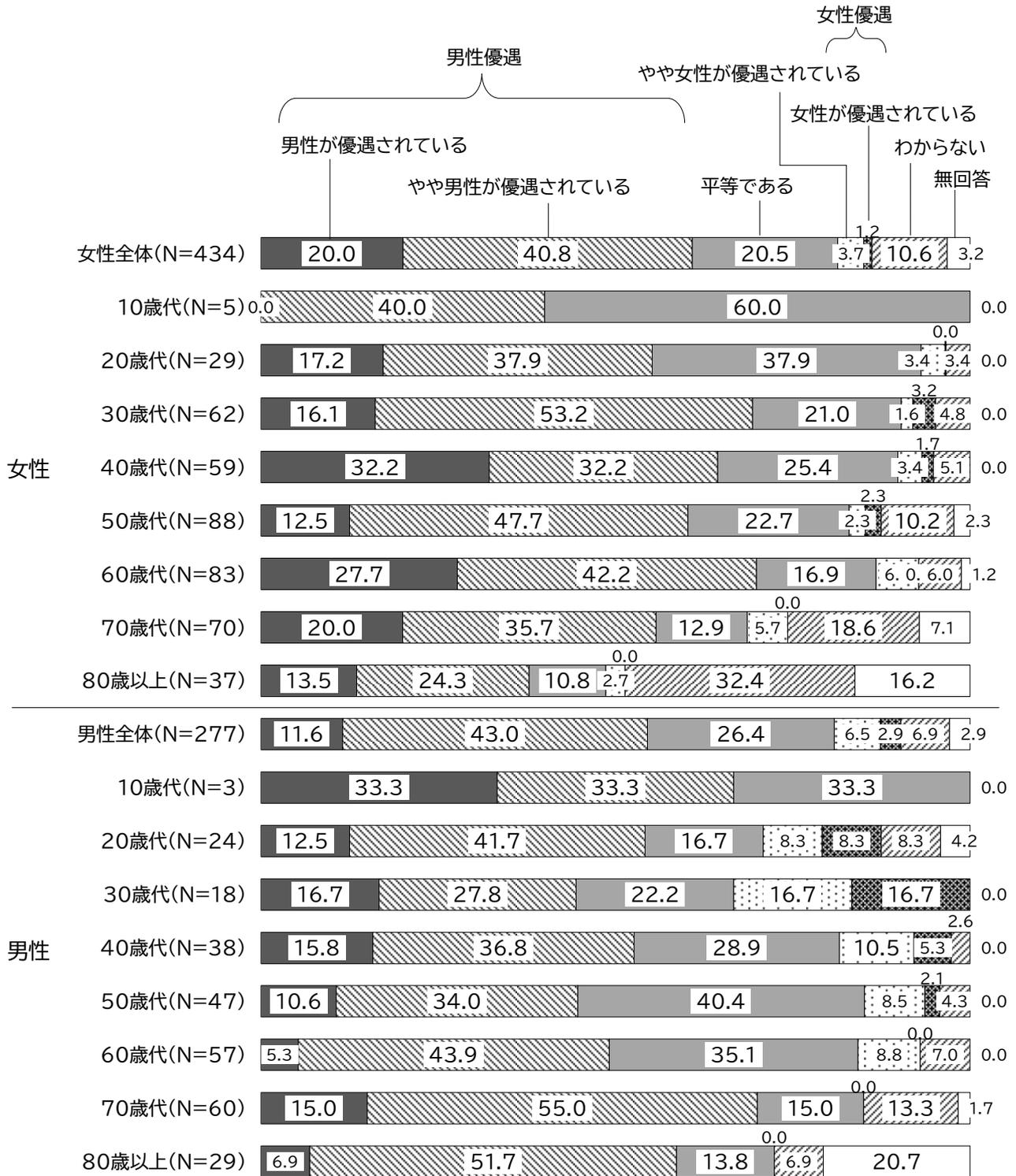


## ■職場

性・年代別にみると、女性は《男性優遇》が10歳代(40.0%)と80歳以上(37.8%)を除いたすべての年代で5割を超えています。

男性は《男性優遇》が70歳代(70.0%)で他の年代と比べて多くなっています。《平等》は50歳代(40.4%)と60歳代(35.1%)で3割台から4割台となっています。(図表2-3-3-②)

図表 2-3-3-② 男女の地位の平等感：職場（性・年代別）

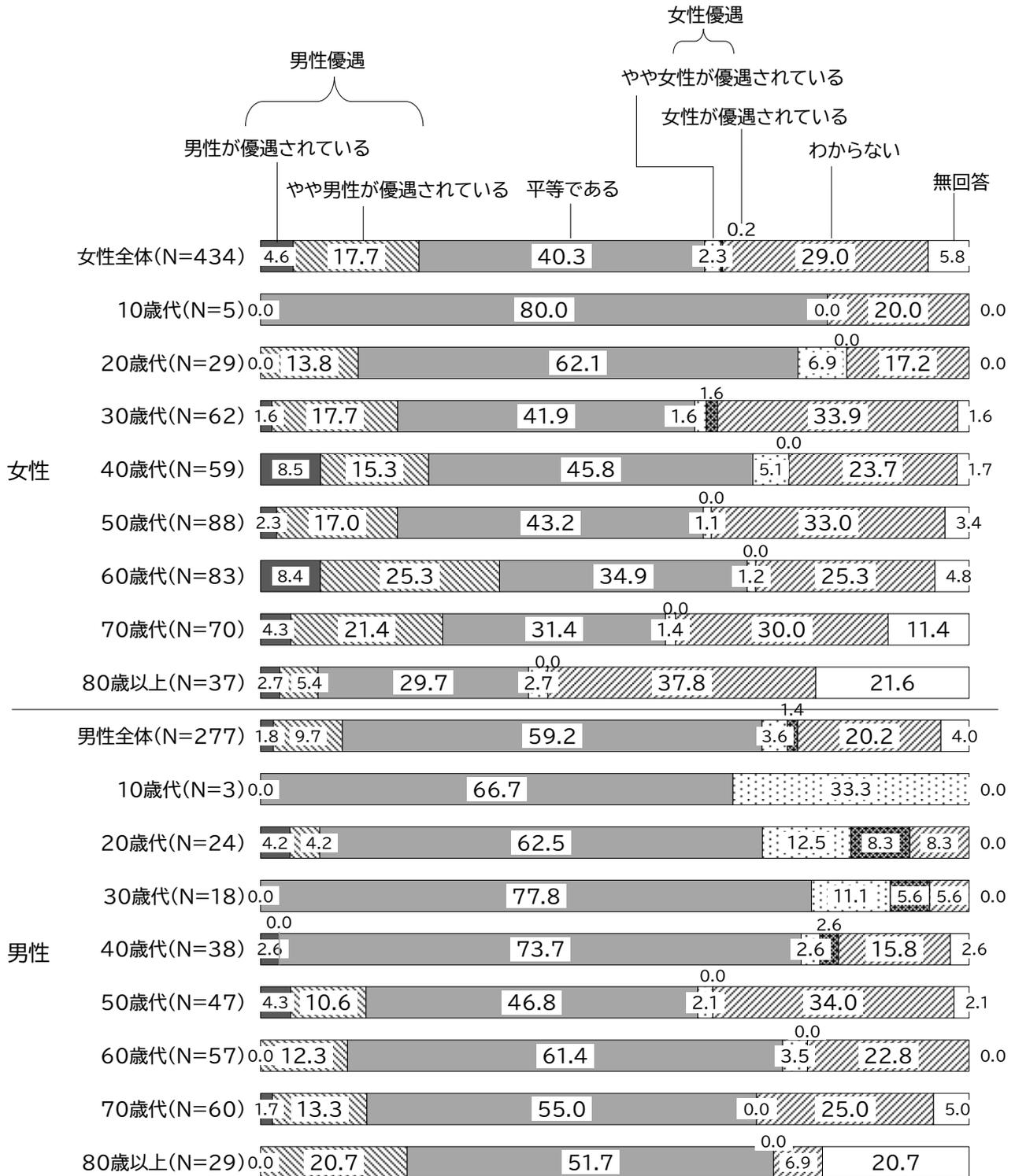


## ■学校教育の場

性・年代別にみると、女性は《平等》が10歳代(80.0%)、20歳代(62.1%)で6割以上、それ以外の年代でも3割台から4割台と多くなっています。

男性はすべての年代で《平等》が5割台から7割台と多くなっています。(図表2-3-3-③)

図表 2-3-3-③ 男女の地位の平等感：学校教育の場（性・年代別）

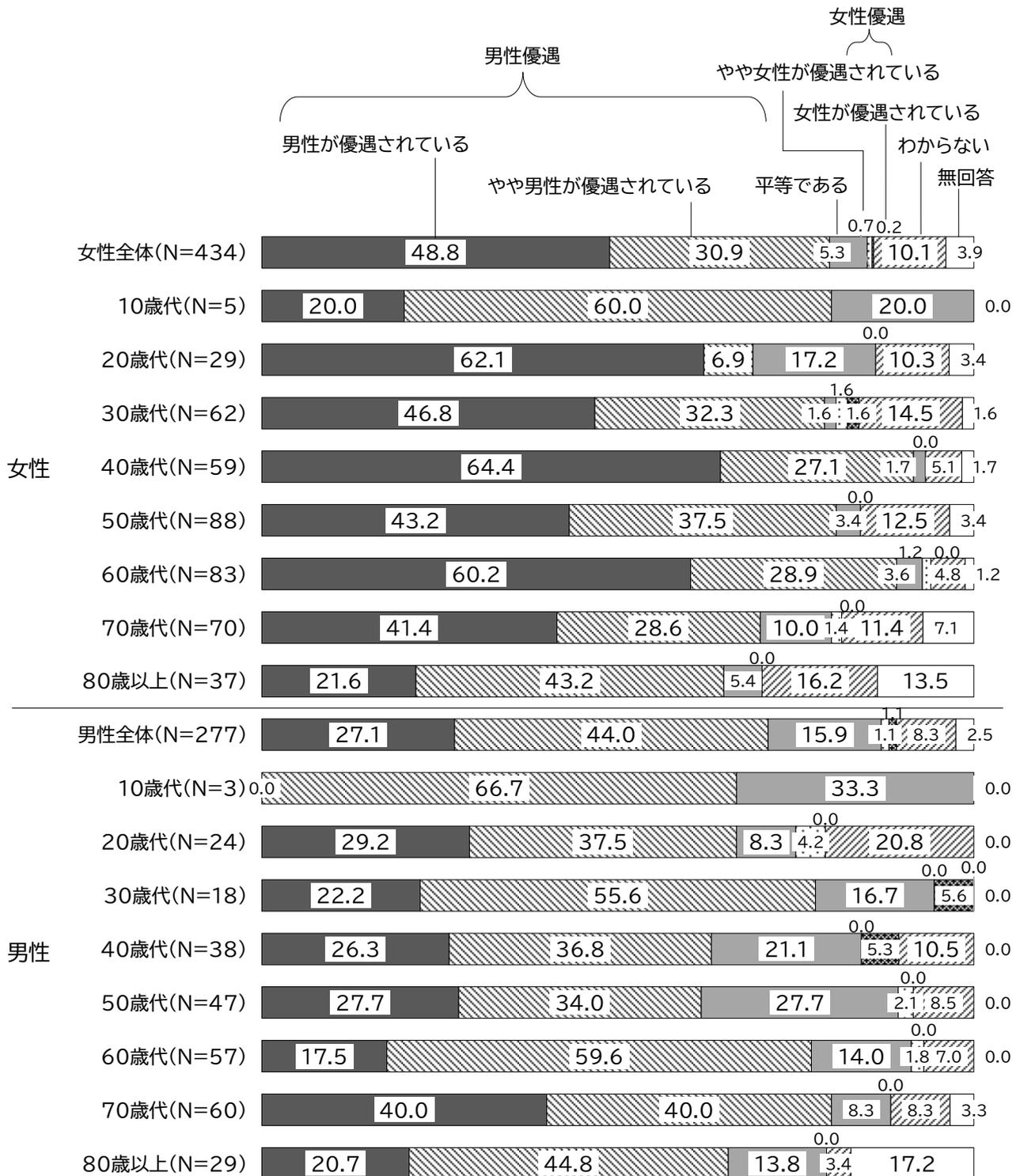


## ■政治の場

性・年代別にみると、女性はすべての年代で《男性優遇》が6割以上を超えており、特に10歳代(80.0%)、40歳代(91.5%)、50歳代(80.7%)、60歳代(89.1%)で8割を超えています。

男性は《男性優遇》が70歳代(80.0%)で8割、30歳代(77.8%)と60歳代(77.1%)で7割台となっています。(図表2-3-3-④)

図表 2-3-3-④ 男女の地位の平等感：政治の場（性・年代別）

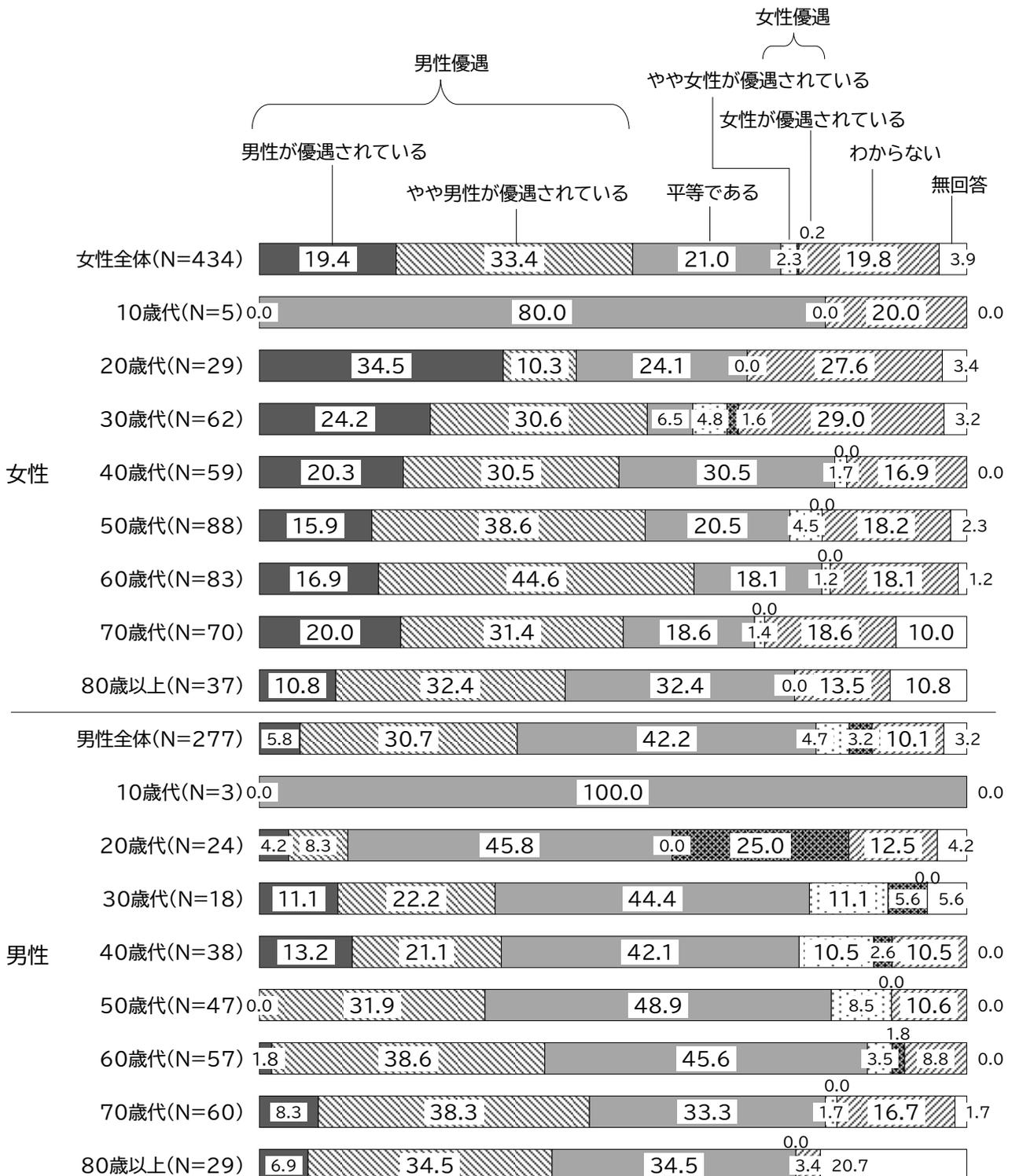


## ■法律や制度の上

性・年代別にみると、女性は《男性優遇》が30歳代から70歳代(30歳代:54.8%、40歳代:50.8%、50歳代:54.5%、60歳代:61.5%、70歳代:51.4%)で5割を超えています。

男性はすべての年代で《平等》が3割以上となっており、20歳代から60歳代(20歳代:45.8%、30歳代:44.4%、40歳代:42.1%、50歳代:48.9%、60歳代:45.6%)は4割台となっています。(図表2-3-3-⑤)

図表 2-3-3-⑤ 男女の地位の平等感：法律や制度の上（性・年代別）

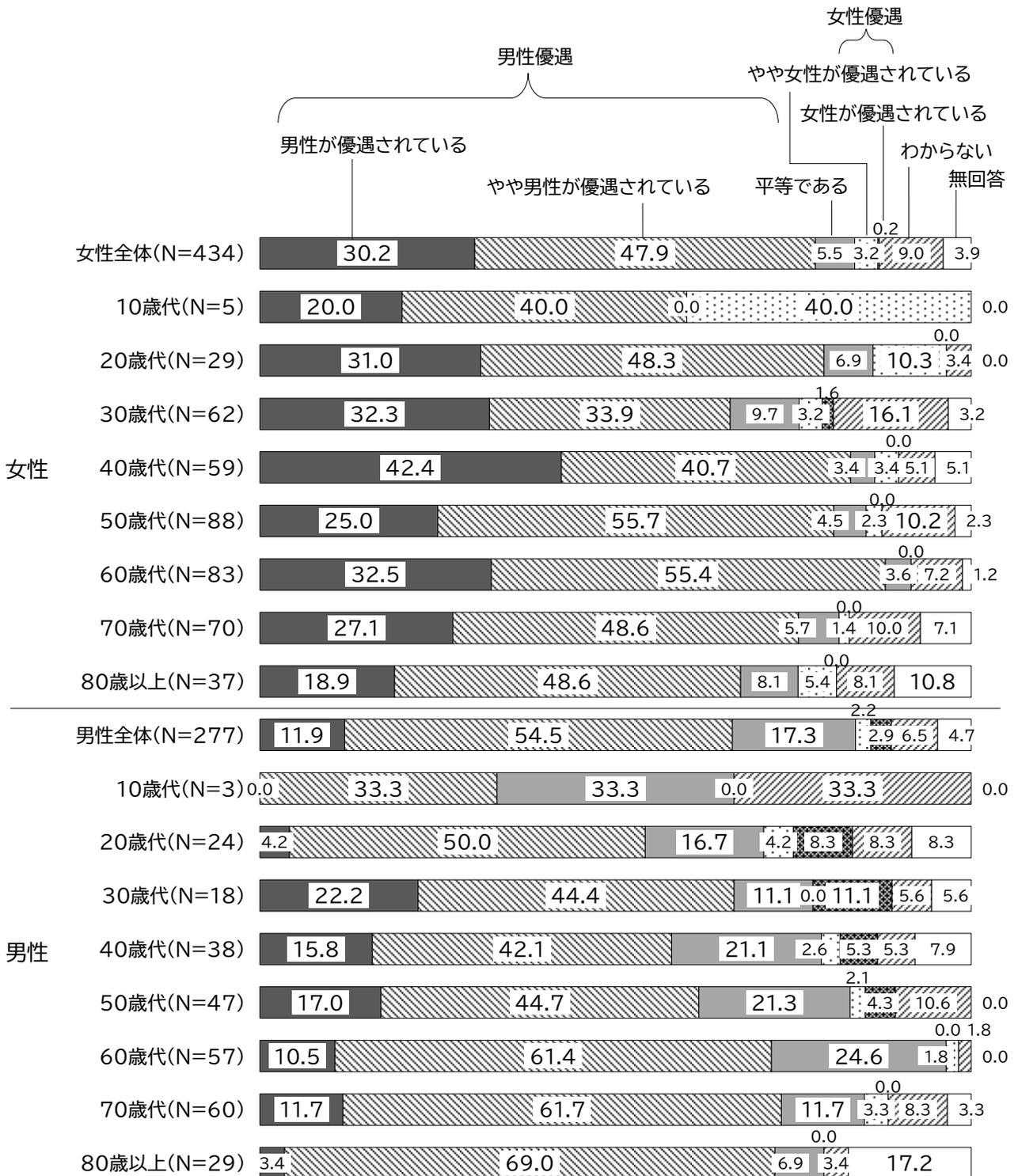


## ■社会通念・慣習・しきたりなど

性・年代別にみると、女性は《男性優遇》が40歳代から60歳代(40歳代:83.1%、50歳代:80.7%、60歳代:87.9%)で8割台と多くなっています。

男性は《男性優遇》が60歳代から80歳以上(60歳代:71.9%、70歳代:73.4%、80歳以上:72.4%)で7割台と多くなっています。(図表2-3-3-⑥)

図表 2-3-3-⑥ 男女の地位の平等感：社会通念・慣習・しきたりなど（性・年代別）

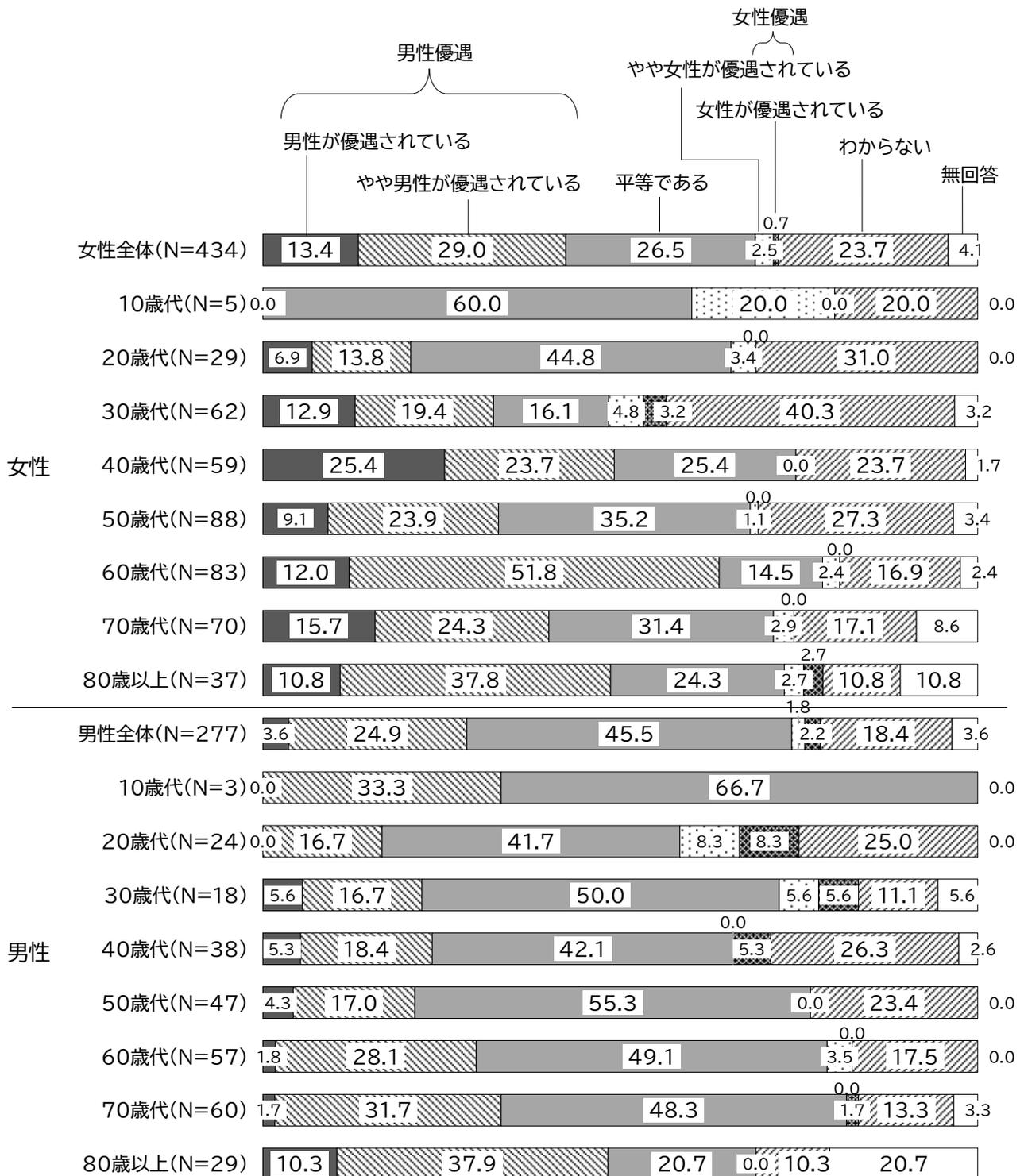


## ■自治会やNPOなど地域活動の場

性・年代別にみると、女性は《平等》が30歳代(16.1%)で他の年代と比べて少なく、《男性優遇》は60歳代(63.8%)で他の年代と比べて多くなっています。

男性は《平等》が10歳代から70歳代(10歳代:66.7%、20歳代:41.7%、30歳代:50.0%、40歳代:42.1%、50歳代:55.3%、60歳代:49.1%、70歳代:48.3%)で4割以上と多くなっています。(図表2-3-3-⑦)

図表 2-3-3-⑦ 男女の地位の平等感：自治会やNPOなど地域活動の場（性・年代別）

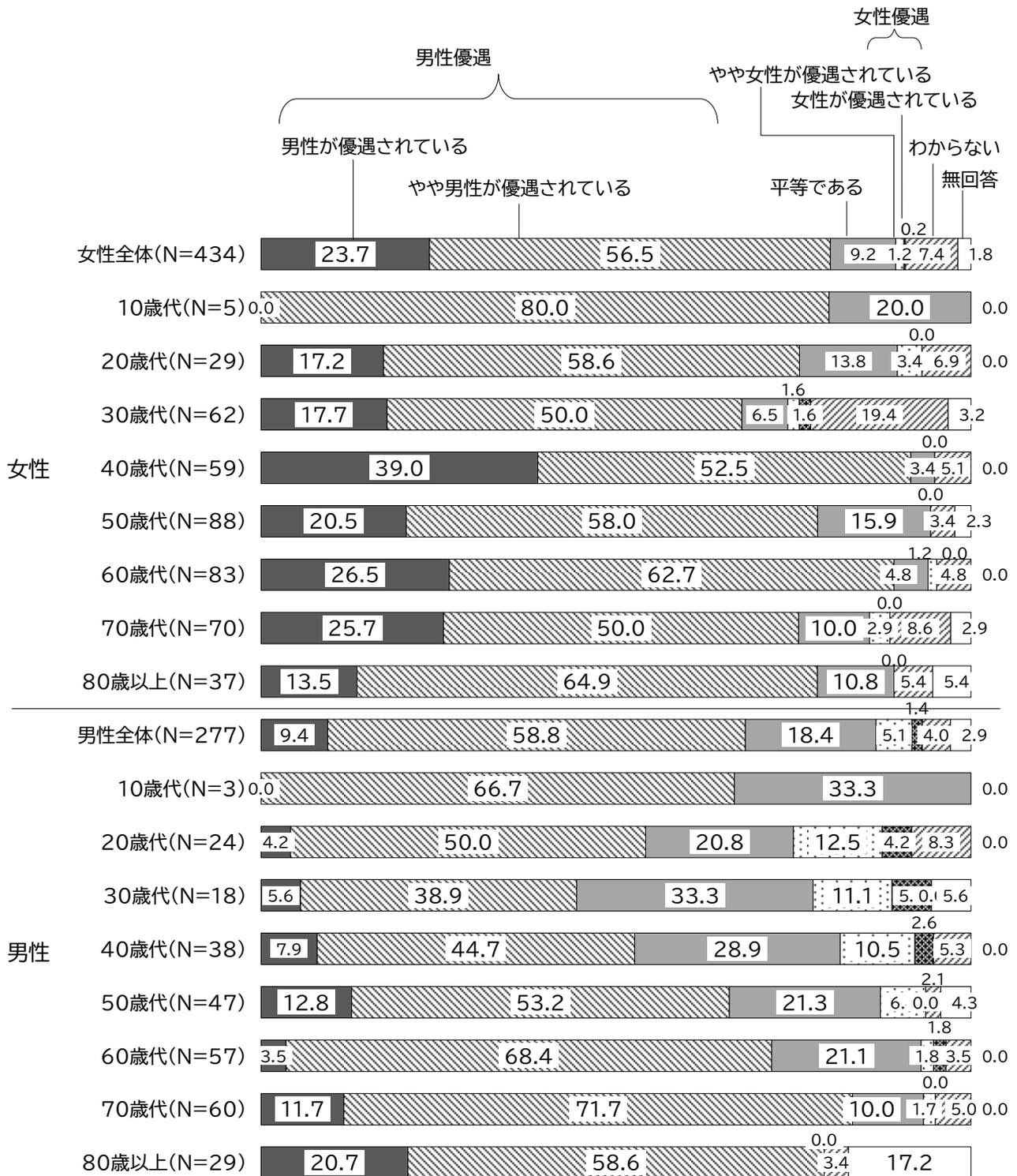


## ■全体として、現在の日本では

性・年代別にみると、女性はすべての年代で《男性優遇》が約7割となっています。

男性は《男性優遇》が30歳代(44.5%)で他の年代と比べて少なくなっています。(図表2-3-3-⑧)

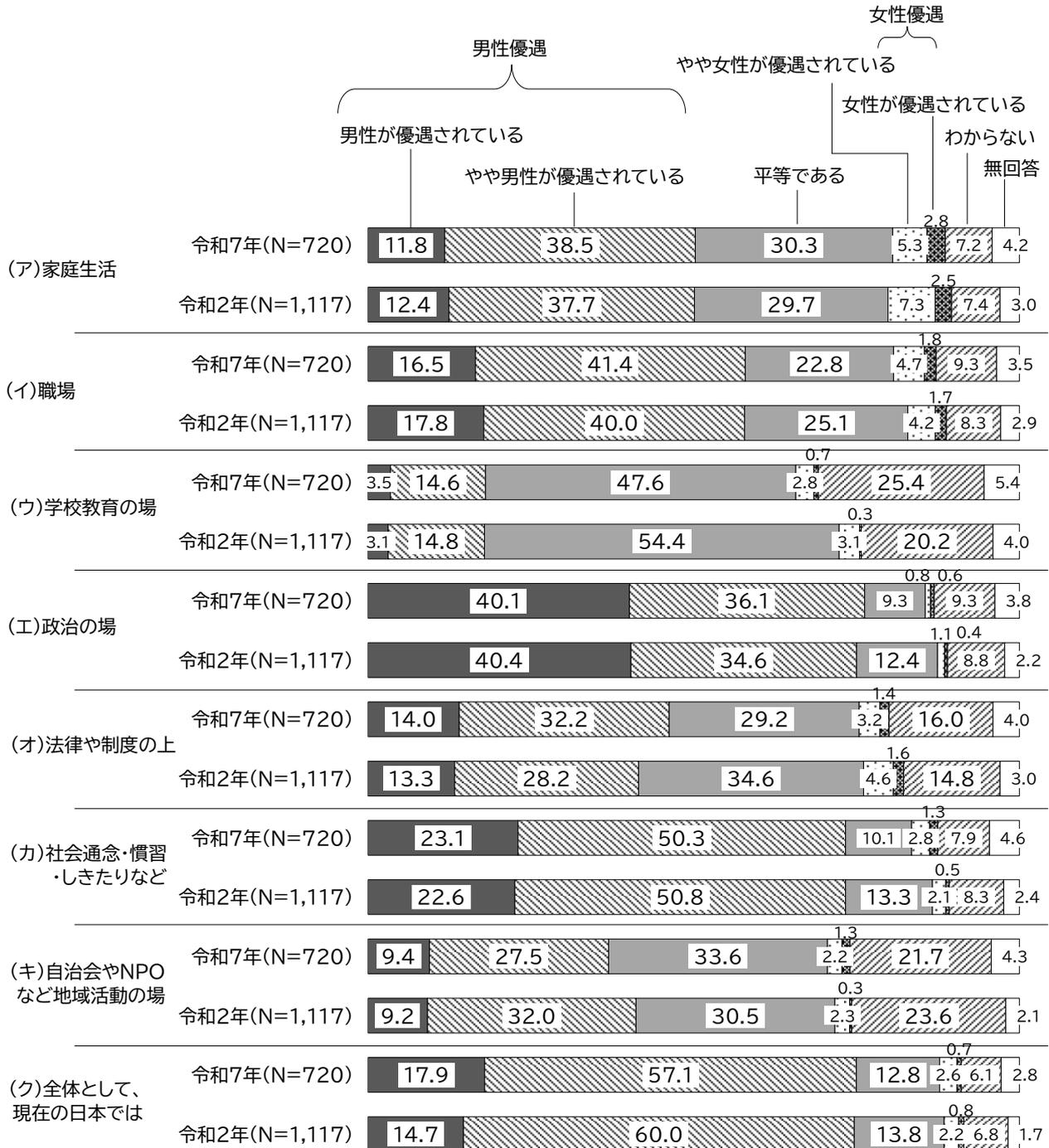
図表 2-3-3-⑧ 男女の地位の平等感：全体として、現在の日本では（性・年代別）



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全ての分野で《男性優遇》の割合は大きな差はありませんが、《平等》が『家庭生活(令和7年調査:30.3%、令和2年調査:29.7%)』、『自治会やNPOなどの地域の場(令和7年調査:33.6%、令和2年調査:30.5%)』を除いて減少しています。(図表2-3-4)

図表 2-3-4 男女の地位の平等感（全体、令和7年・令和2年調査）



### 3 結婚観

#### (1) 結婚観

問3 次にあげる(ア)～(カ)の考えについて、あなたはどのように思いますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

#### 【全体】

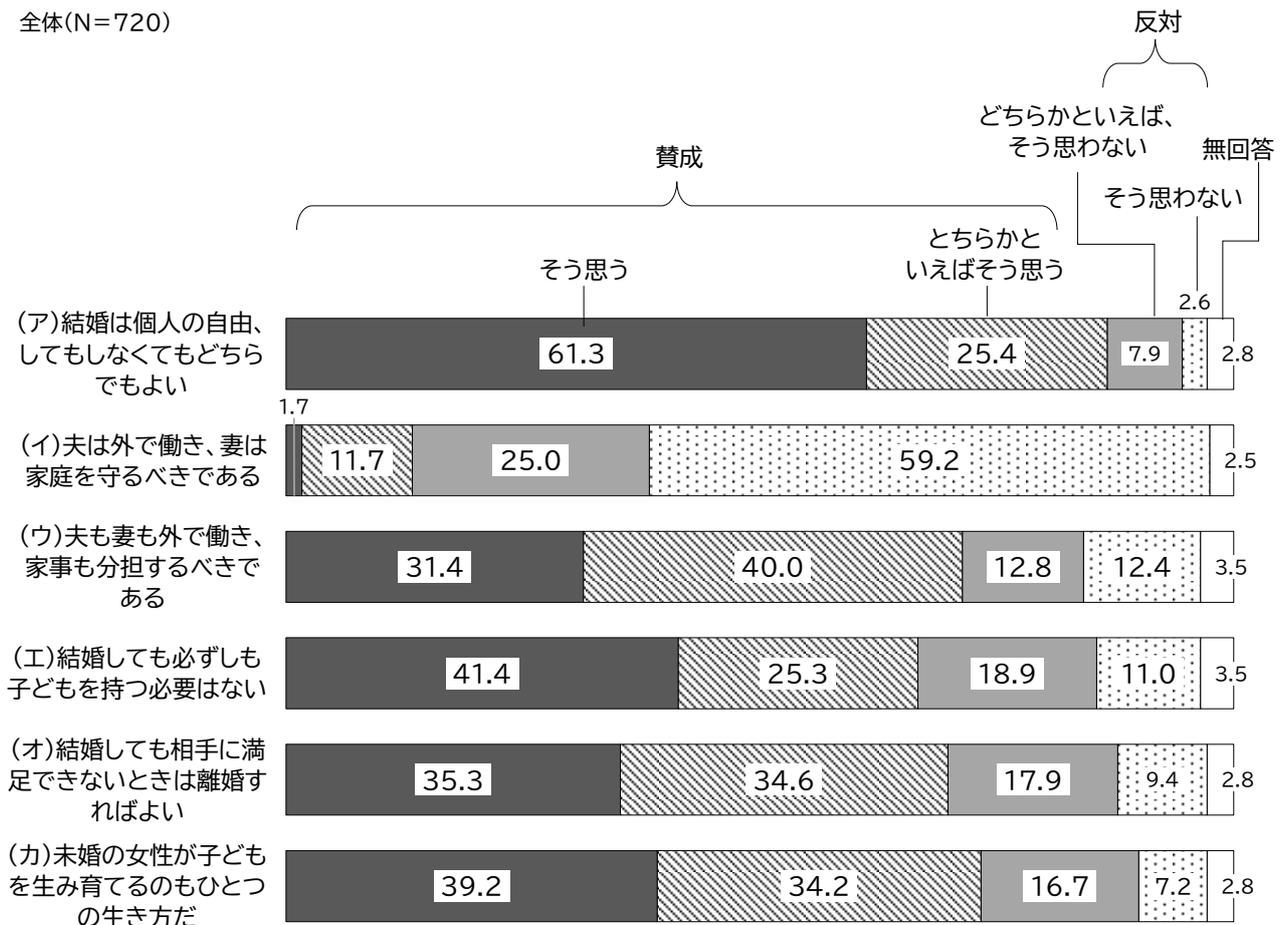
結婚観について6つの考え方をたずねました。ここでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を《賛成》、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計を《反対》としています。

《賛成》の多い順でみると、全体では『結婚は個人の自由、してもしなくてもどちらでもよい(86.7%)』が最も多く、『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ(73.4%)』、『夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである(71.4%)』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(69.9%)』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない(66.7%)』となっています。

一方、《反対》は、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(84.2%)』が8割を超えています。(図表3-1-1)

図表 3-1-1 結婚観 (全体)

全体(N=720)



**【性別】**

『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』は、《賛成(女性:88.7%、男性:83.7%)》で、男性よりも女性が多くなっています。

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、《反対(女性:86.7%、男性:80.2%)》は男性よりも女性が多くなっています。

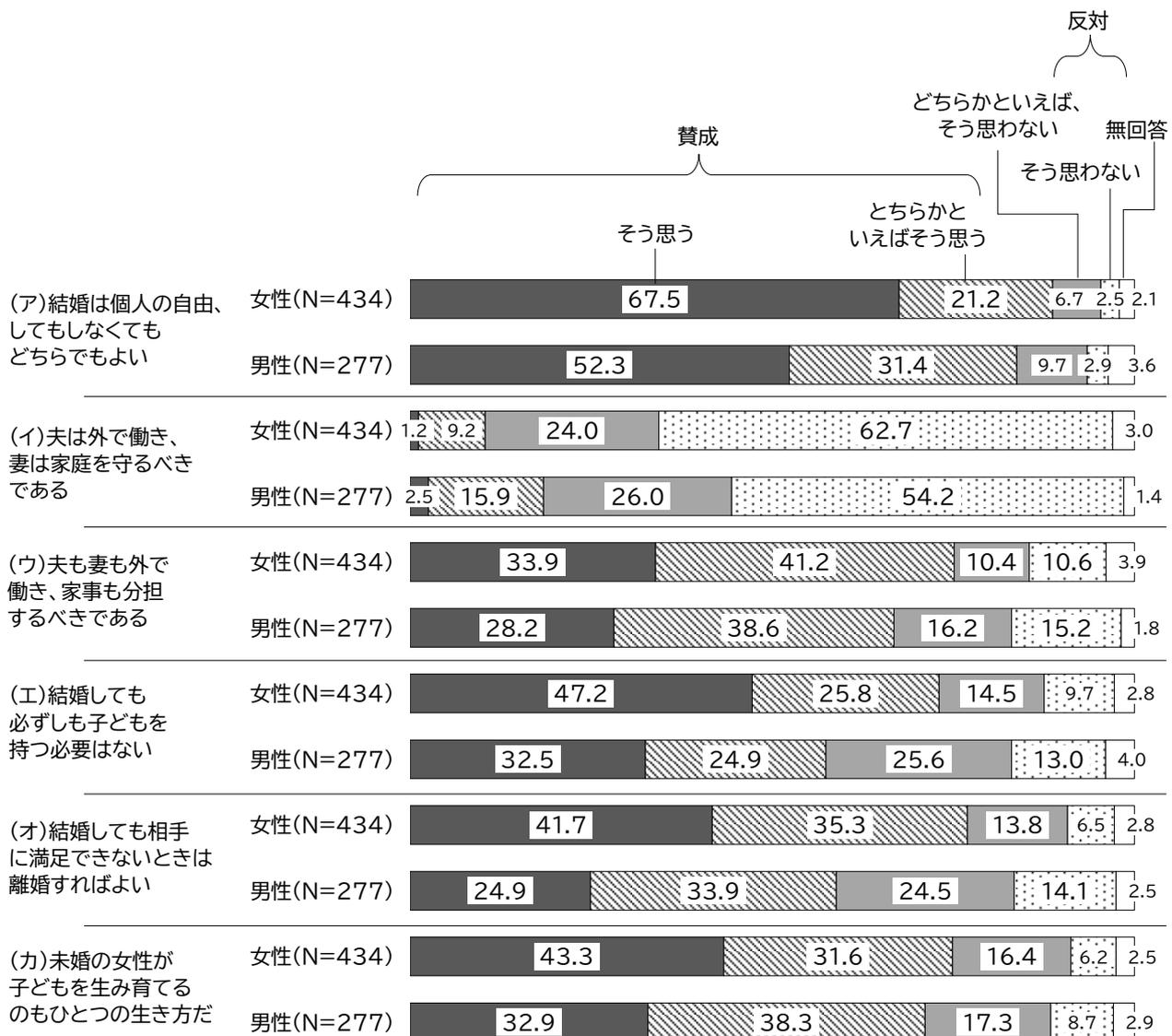
『夫も妻も外で働き、家事を分担するべきである』では、《賛成(女性:75.1%、男性:66.8%)》は、男性よりも女性が多くなっています。

『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』では、《賛成(女性:73.0%、男性:57.4%)》は、男性よりも女性が多くなっています。

『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、《賛成(女性:77.0%、男性:58.8%)》は、男性よりも女性が多くなっています。

『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ』では、《賛成(女性:74.9%、男性:71.2%)》は、女性と男性に大きな差はありません。(図表3-1-2)

図表 3-1-2 結婚観（性別）



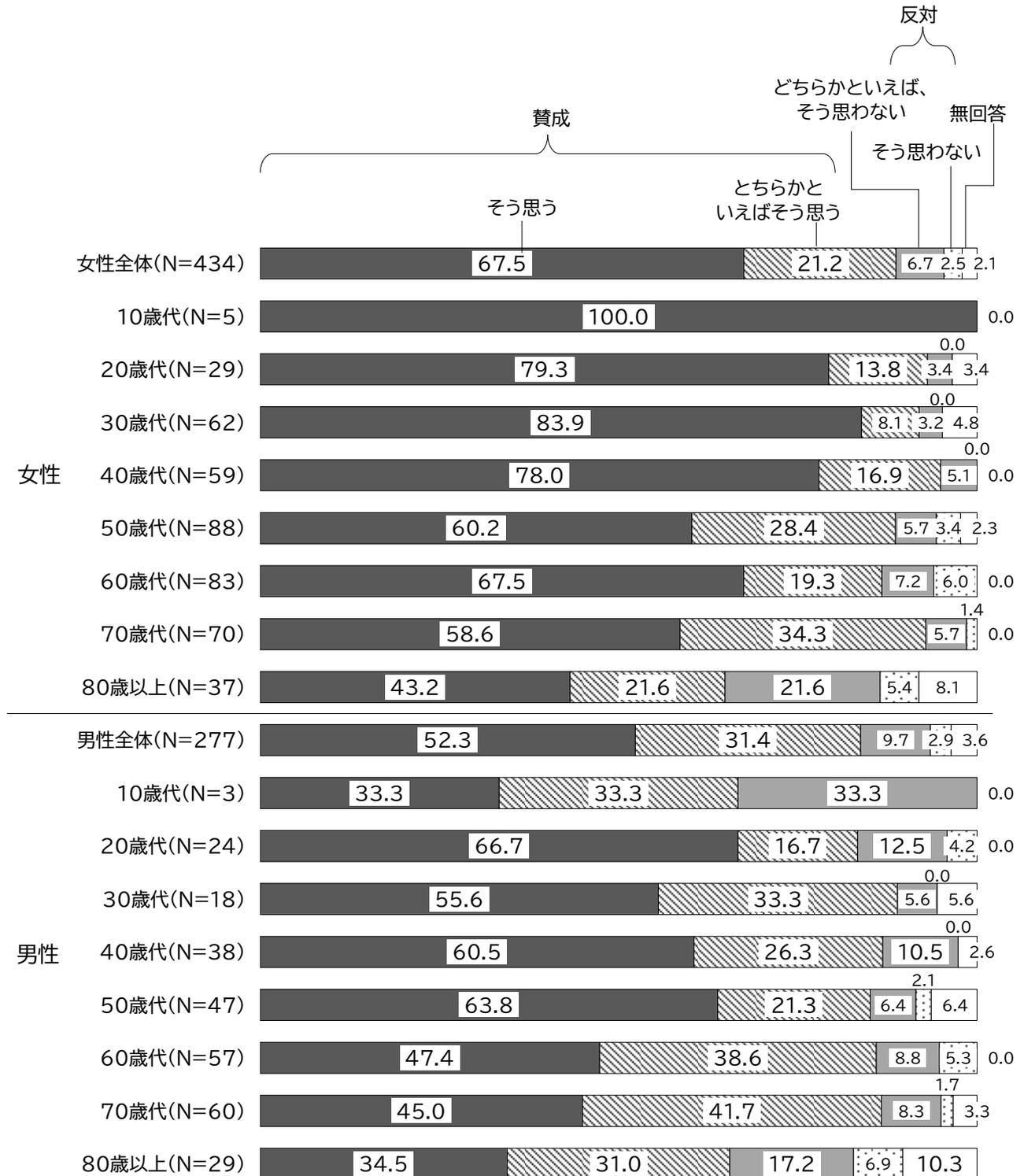
【性・年代別】

■結婚は個人の自由、してもしなくてもどちらでもよい

性・年代別にみると、女性は《賛成》が80歳以上(64.8%)を除いたすべての年代で8割以上となっています。

男性は、《賛成》が20歳代から70歳代(20歳代:83.4%、30歳代:88.9%、40歳代:86.8%、50歳代:85.1%、60歳代:86.0%、70歳代:86.7%)で8割以上となっています。(図表3-1-3-①)

図表 3-1-3-① 結婚観：結婚は個人の自由、してもしなくてもどちらでもよい（性・年代別）

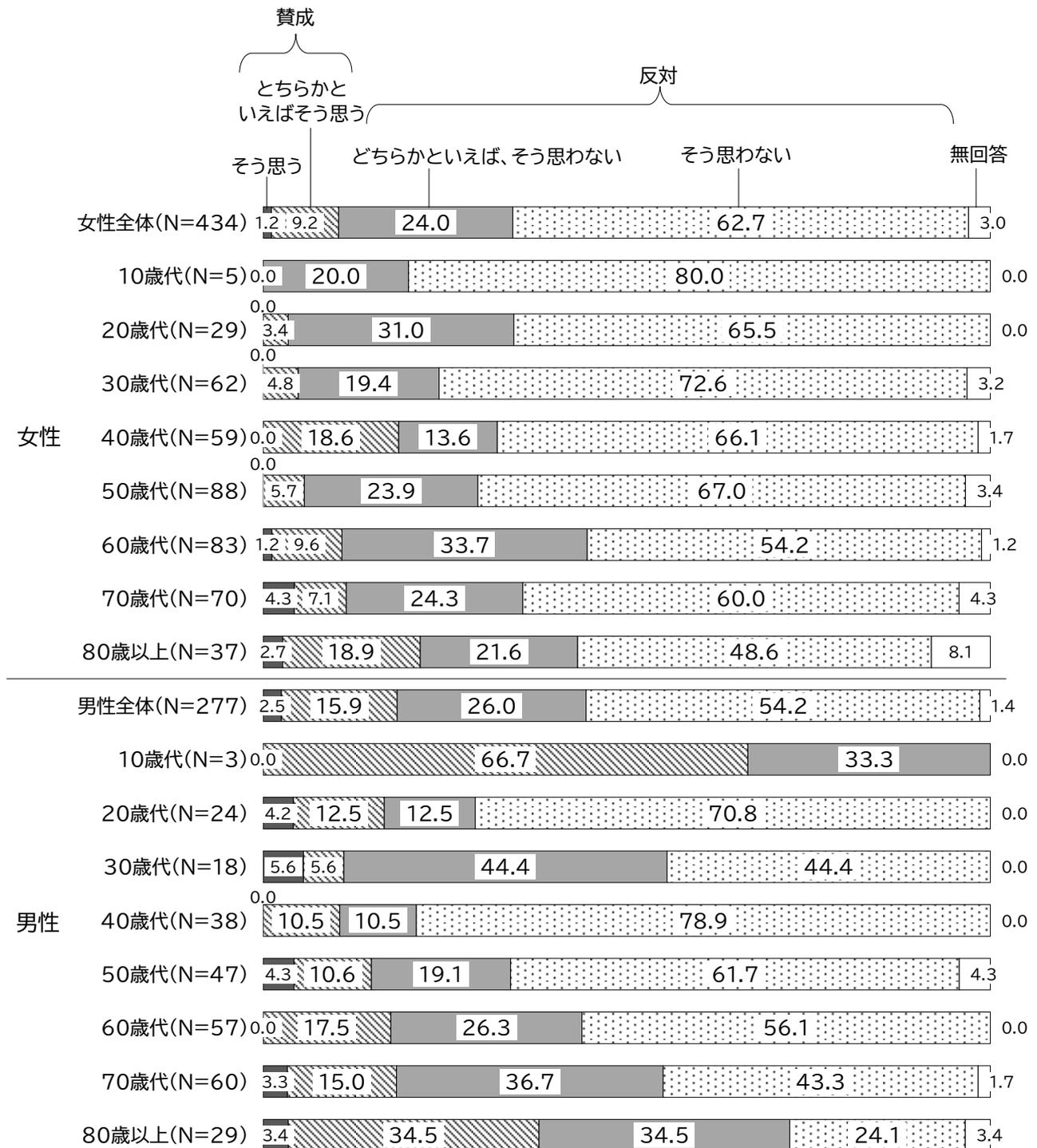


## ■夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

性・年代別にみると、女性は《賛成》が40歳代(18.6%)と80歳以上(21.6%)で2割前後と他の年代と比べて多くなっています。

男性は《賛成》が30歳代以降、年代が上がるほど増加傾向となっており、80歳以上では37.9%となっています。(図表3-1-3-②)

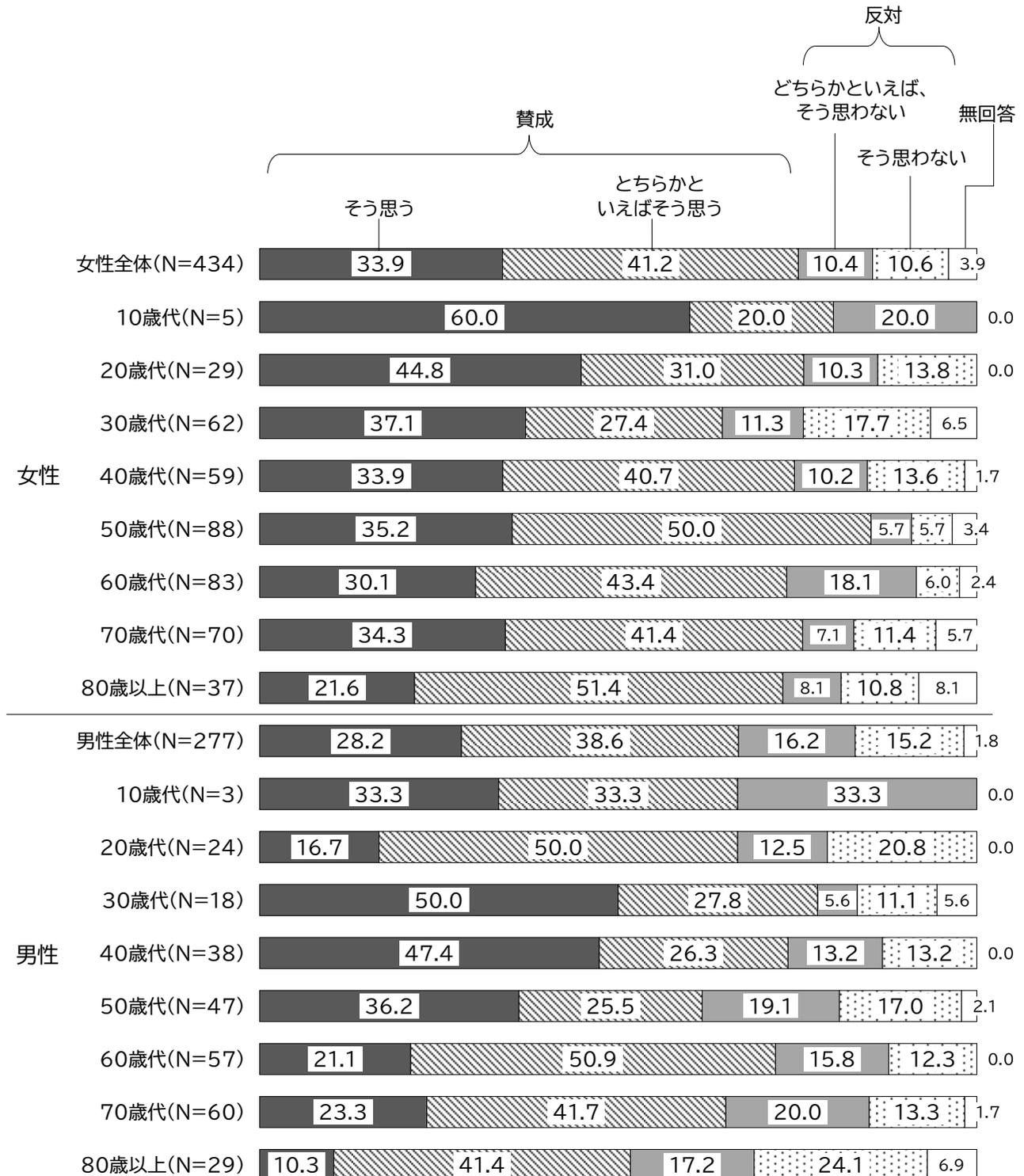
図表 3-1-3-② 結婚観：夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（性・年代別）



## ■夫も妻も外で働き、家事部分担するべきである

性・年代別にみると、女性は《賛成》が50歳代(85.2%)で他の年代と比べて多くなっています。男性は30歳代以降、年代が上がるほど《反対》が増加傾向となっています。(図表3-1-3-③)

図表 3-1-3-③ 結婚観：夫も妻も外で働き、家事部分担するべきである（性・年代別）

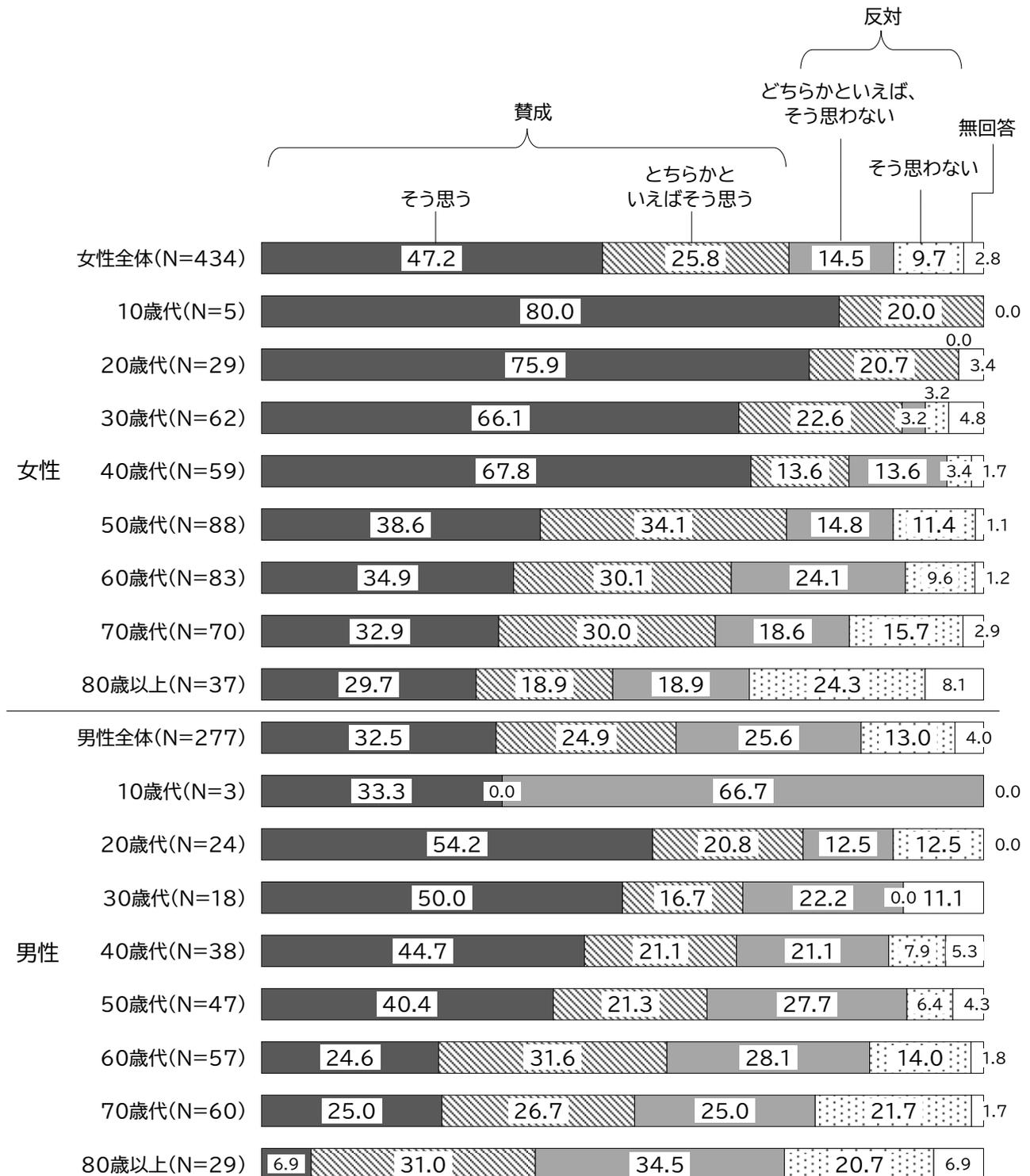


## ■結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

性・年代別にみると、女性は《賛成》が10歳代から40歳代(10歳代:100.0%、20歳代:96.6%、30歳代:88.7%、40歳代:81.4%)で8割を超えていますが、以降、年代が上がるほど少なくなっています。

男性は《賛成》が20歳代(75.0%)で他の年代と比べて多くなっていますが、年代が上がるほど少なくなっています。(図表3-1-3-④)

図表3-1-3-④ 結婚観：結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない（性・年代別）

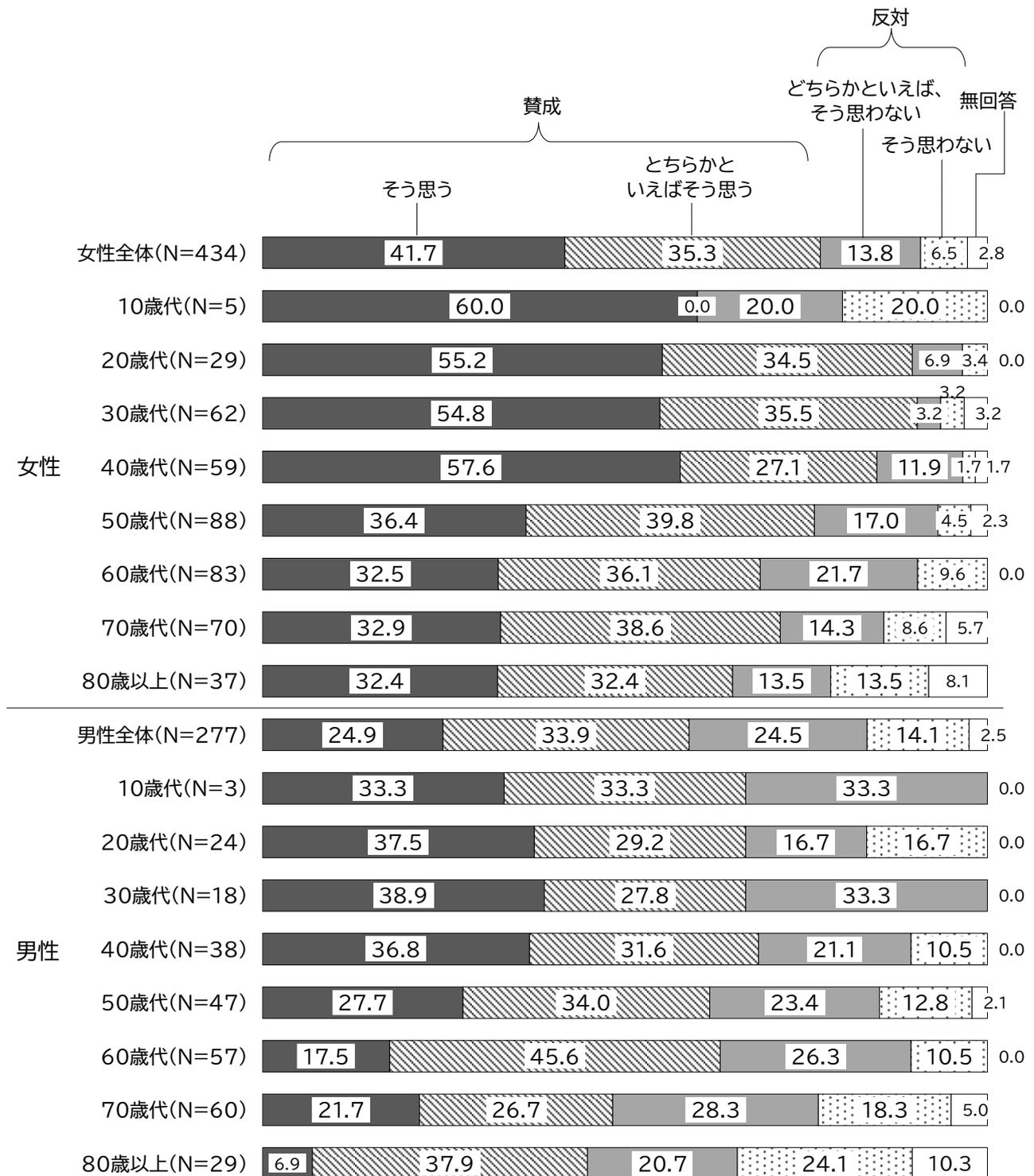


## ■結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい

性・年代別にみると、女性は《賛成》が20歳代～40歳代(20歳代:89.7%、30歳代:90.3%、40歳代:84.7%)で8割以上と多くなっていますが、以降、年代が上がるほど少なくなっています。

男性は《賛成》が10歳代から60歳代(10歳代:66.6%、20歳代:66.7%、30歳代:66.7%、40歳代:68.4%、50歳代:61.7%、60歳代:63.1%)で6割を超えています。(図表3-1-3-⑤)

図表 3-1-3-⑤ 結婚観：結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい（性・年代別）

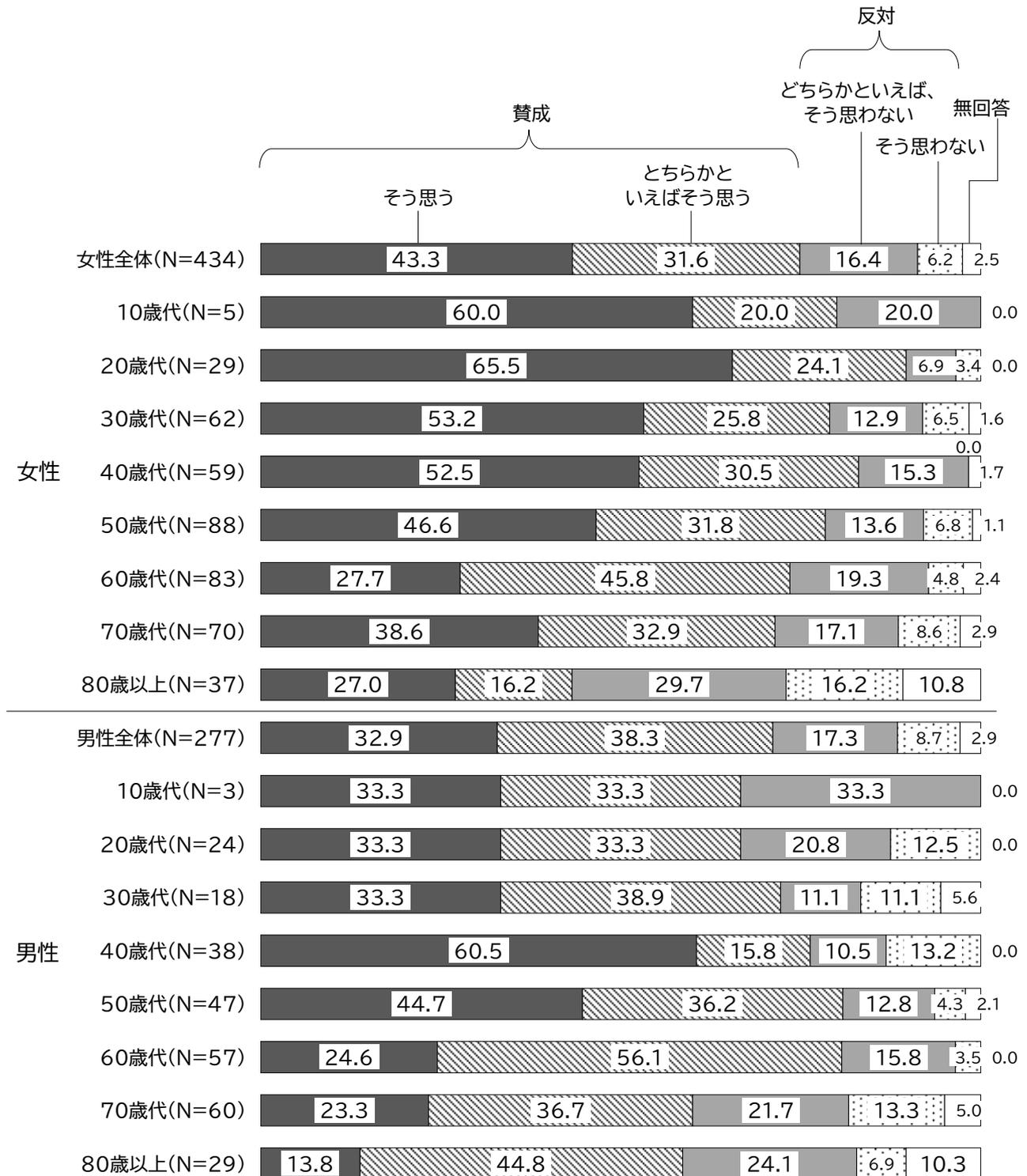


## ■未婚の女性が子どもを生き育てるのもひとつの生き方だ

性・年代別にみると、女性は《賛成》が20歳代(89.6%)で他の年代と比べて多くなっていますが、以降、年代が上がるほど減少傾向となっています。

男性は《賛成》が50歳代(80.9%)と60歳代(80.7%)で8割となっています。(図表3-1-3-⑥)

図表 3-1-3-⑥ 結婚観：未婚の女性が子どもを生き育てるのもひとつの生き方だ（性・年代別）

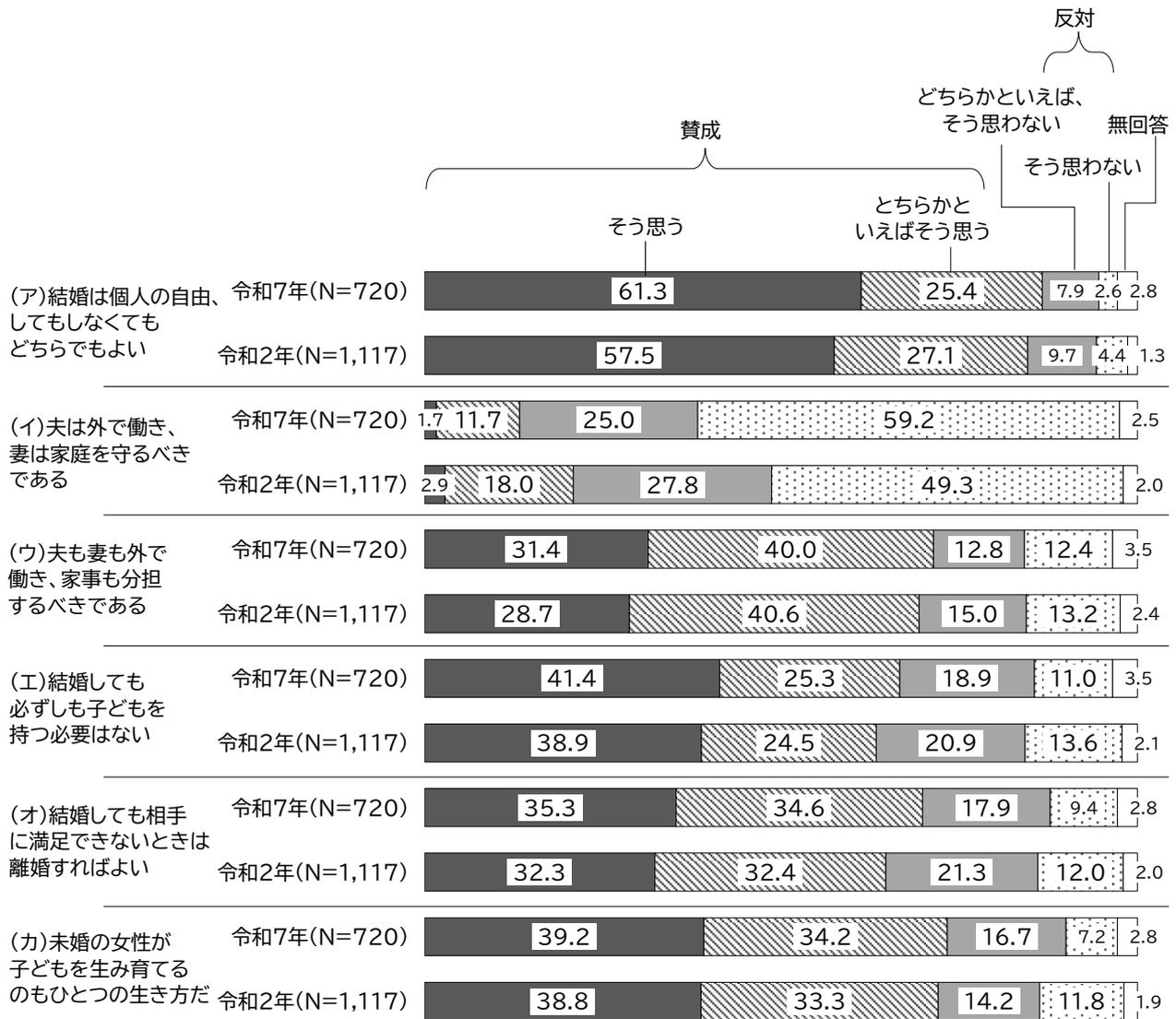


**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』について《反対(令和7年調査:84.2%、令和2年調査:77.1)》は、7.1%増えています。

その他の《賛成》は全て令和2年調査より増えています。(図表3-1-4)

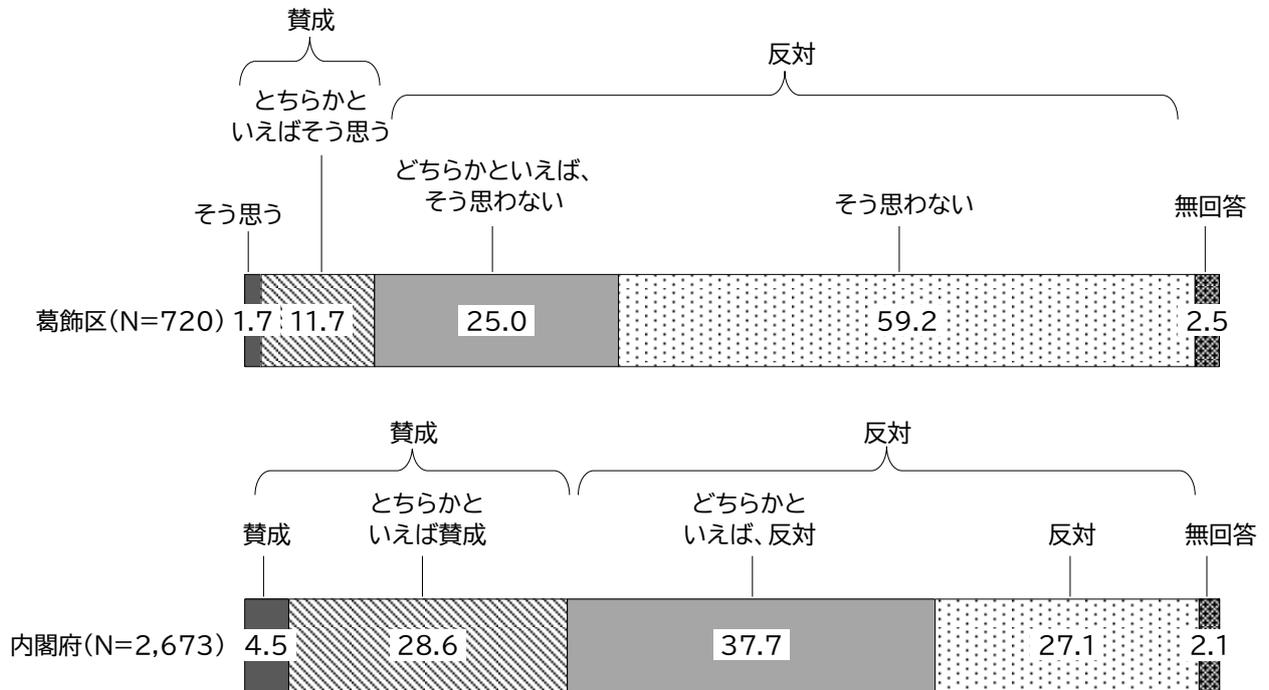
図表 3-1-4 結婚観（全体、令和7年・令和2年調査）



**【内閣府との比較】 ※夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである**

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について内閣府調査と比較すると、《反対(葛飾区: 84.2%、内閣府調査:64.8%)》は、葛飾区が19.4ポイント高くなっています。(図表3-1-5)

図表 3-1-5 結婚観『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』(全体、内閣府調査)



# 4 家庭生活

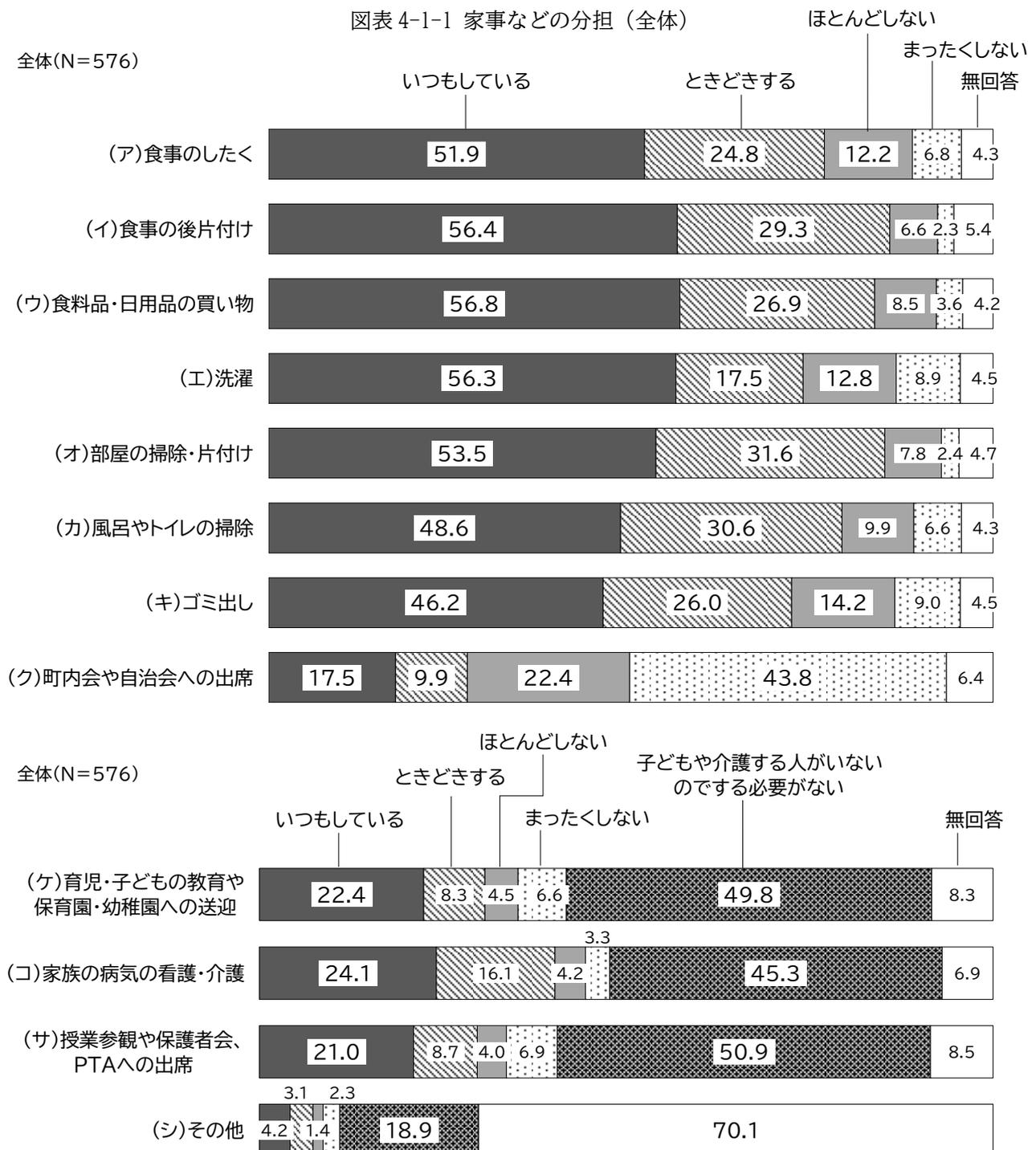
## (1) 家事などの分担

問4 家庭の中で、あなたは(ア)～(シ)にあげることを、どの程度行っていますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

### 【全体】

ひとり暮らし以外の方に、家事などの分担の頻度についてたずねました。

「いつもしている」の多い順にみると、全体では『食料品・日用品の買い物(56.8%)』が最も多く、『食事の後片付け(56.4%)』、『洗濯(56.3%)』、『部屋の掃除・片付け(53.5%)』が続いています。(図表4-1-1)

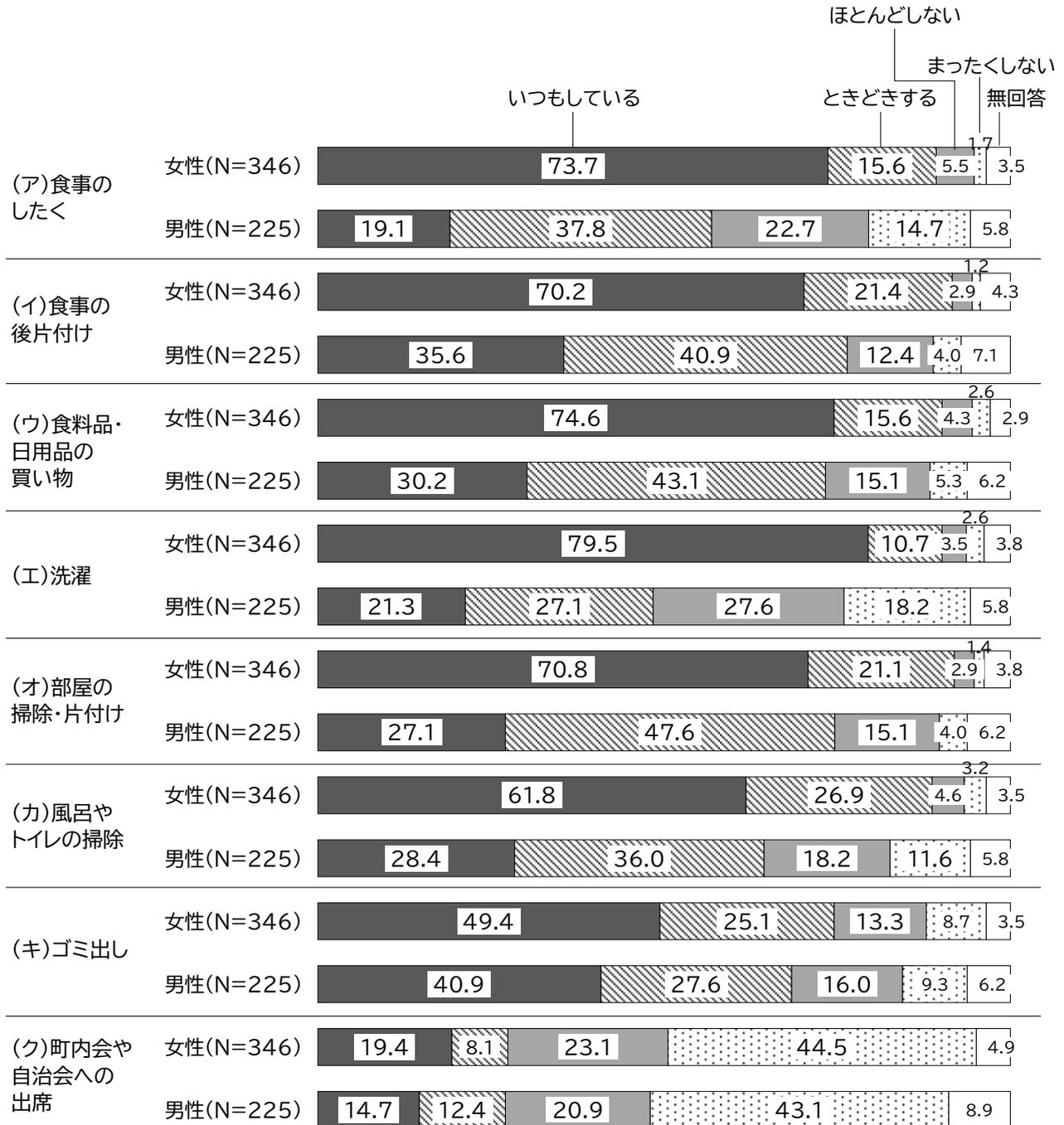


**【性別】**

性別で見ると、すべての項目で「いつもしている」は女性が男性を上回っています。

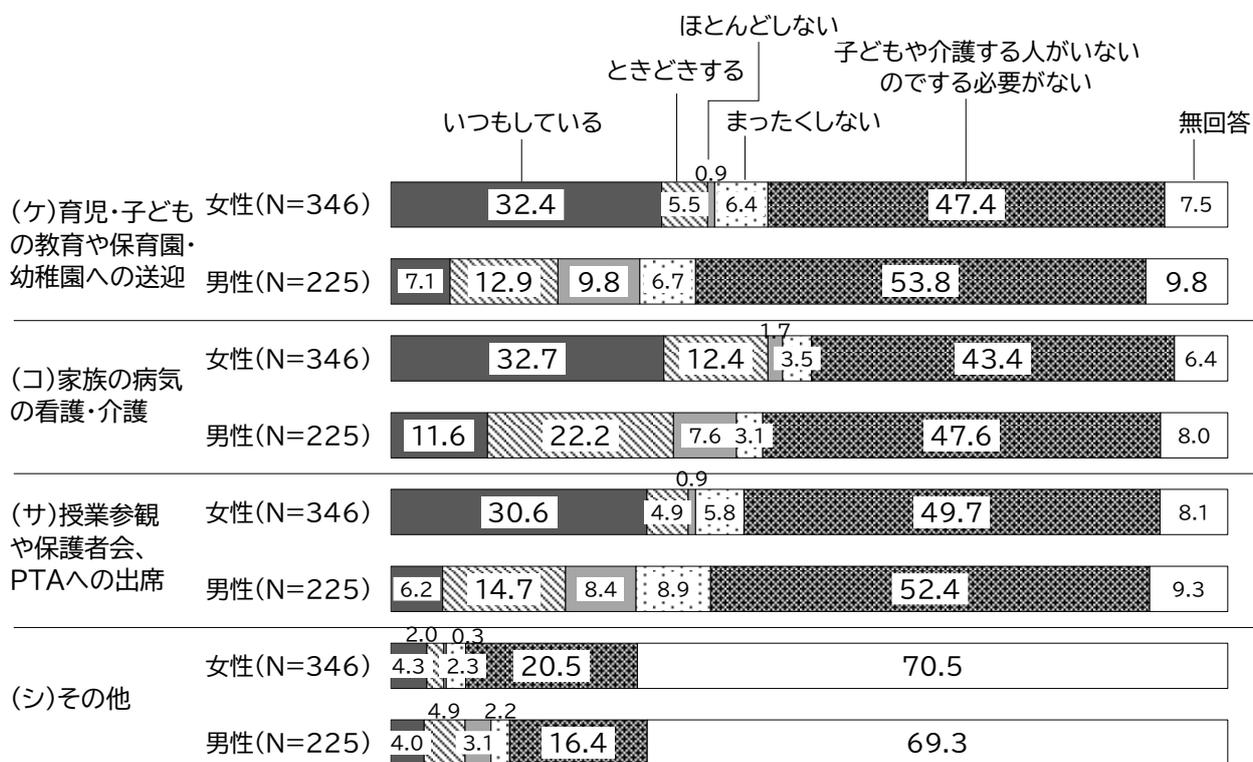
「いつもしている」の多い順にみると、女性は『洗濯(79.5%)』が最も多く、『食料品・日用品の買い物(74.6%)』、『食事のしたく(73.7%)』、『部屋の掃除・片付け(70.8%)』、『食事の後片付け(70.2%)』が7割台となっています。男性は『ゴミ出し(40.9%)』が4割台で最も多く、『食事の後片付け(35.6%)』、『食料品・日用品の買い物(30.2%)』が続いています。(図表4-1-2-①)

図表 4-1-2-① 家事などの分担 (性別)



育児や介護の分担について「いつもしている」を多い順にみると、女性は『家族の病気の看護・介護(32.7%)』が最も多く、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎(32.4%)』、『授業参観や保護者会、PTAへの出席(30.6%)』が続いています。男性は『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎(7.1%)』、『授業参観や保護者会、PTAへの出席(6.2%)』が1割未満です。(図表4-1-2-②)

図表 4-1-2-② 家事などの分担（性別）

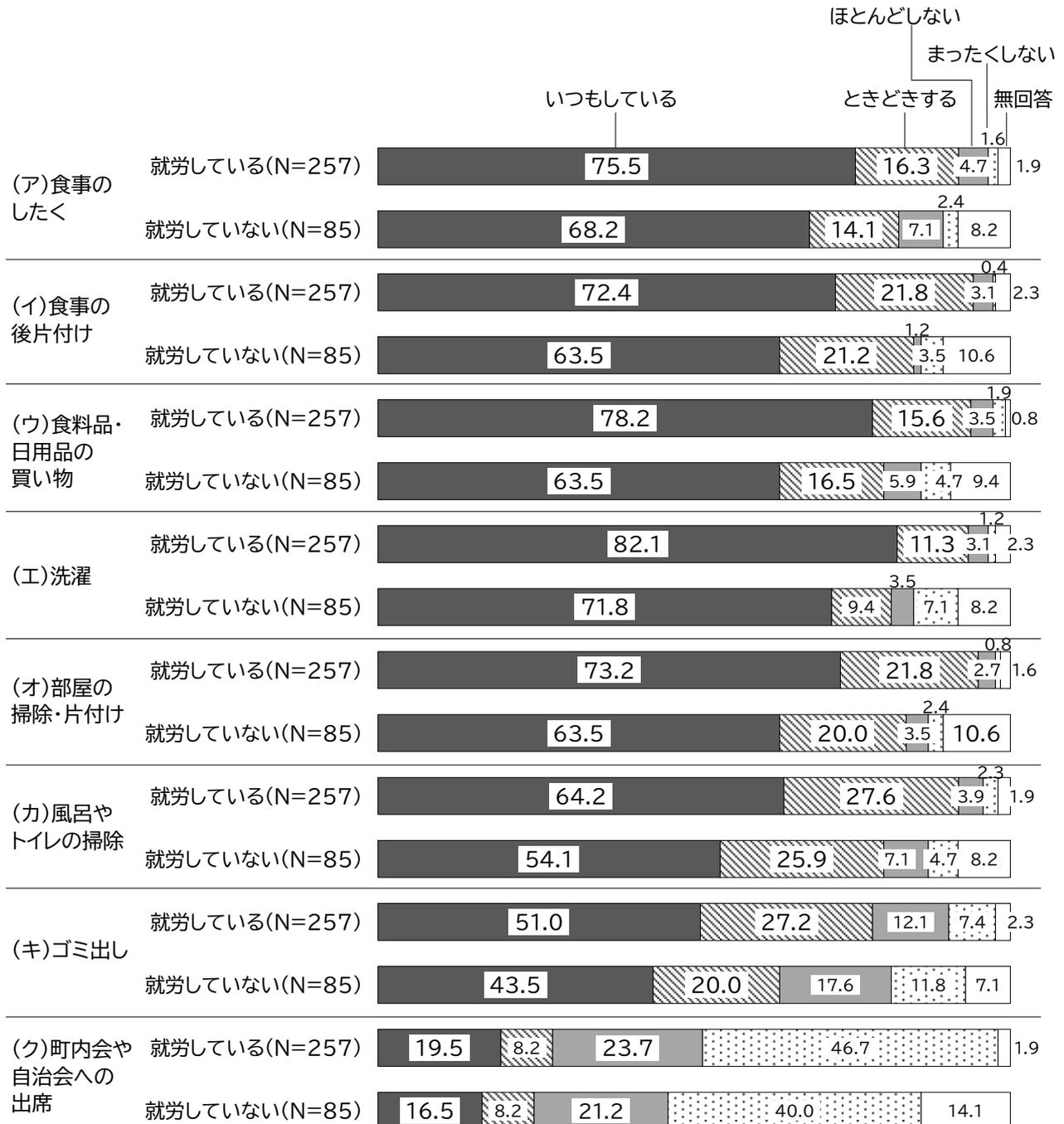


【性・就労の有無別】

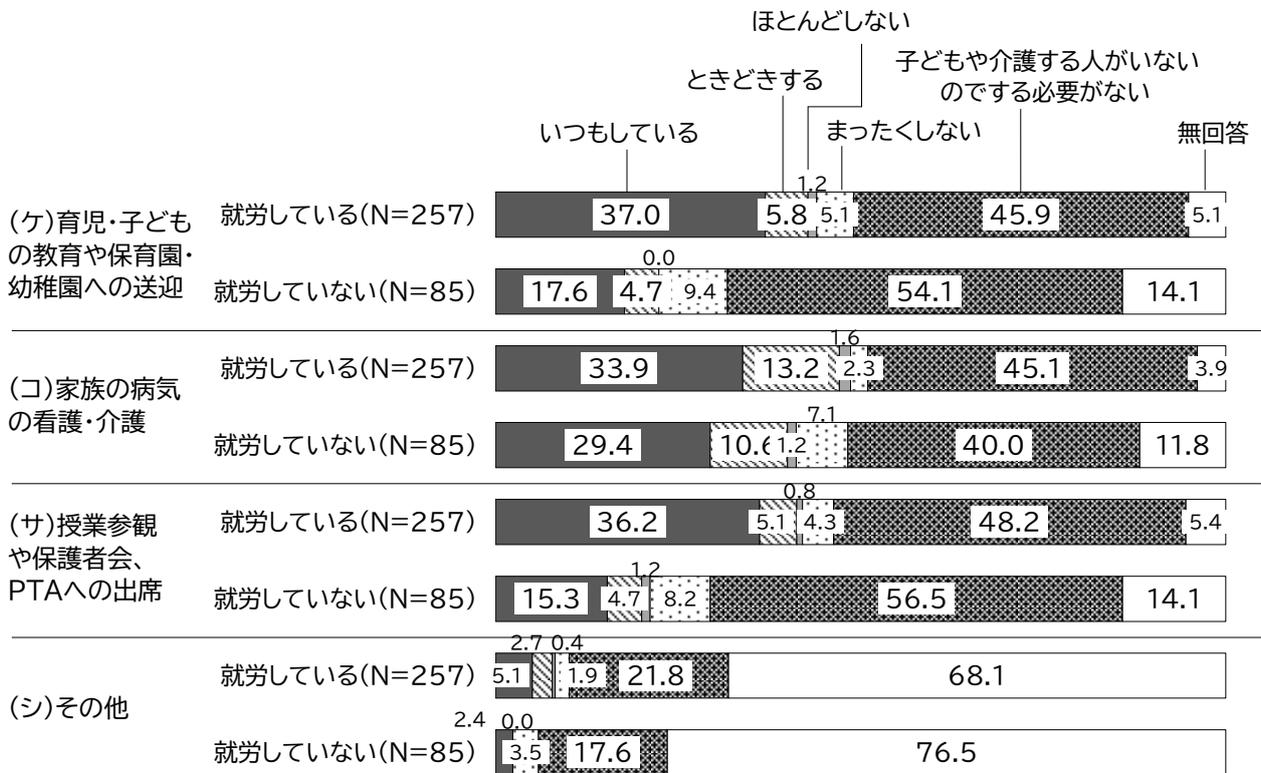
■女性

就労の有無別でみると、すべての項目で「いつもしている」割合は、「就労していない」と回答している方が「就労している」と回答している方よりも図表のすべての項目で下回っています。（図表4-1-3-①、図表4-1-3-②）

図表 4-1-3-① 家事などの分担（女性、就労別）



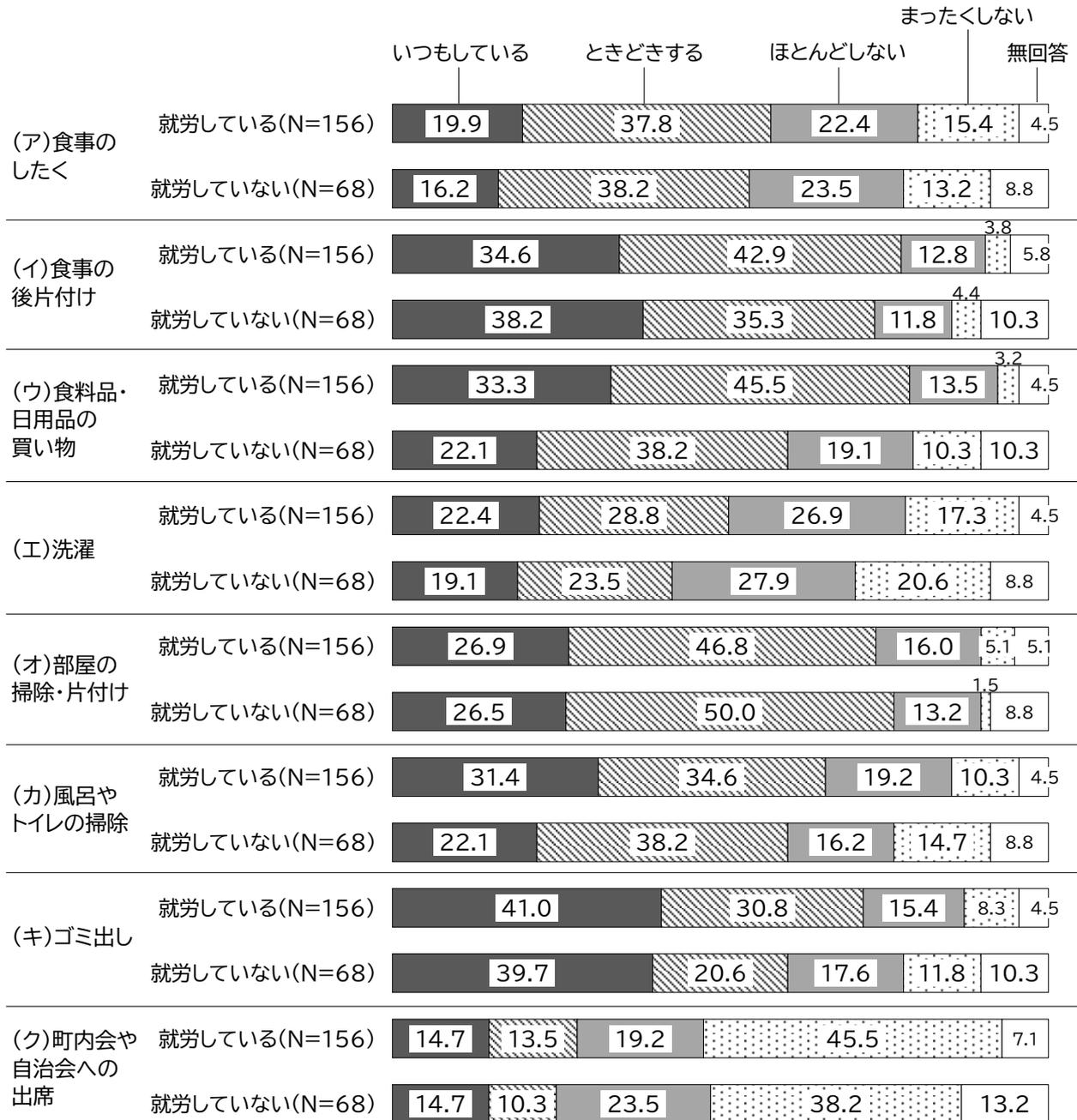
図表 4-1-3-② 家事などの分担（女性、就労別）



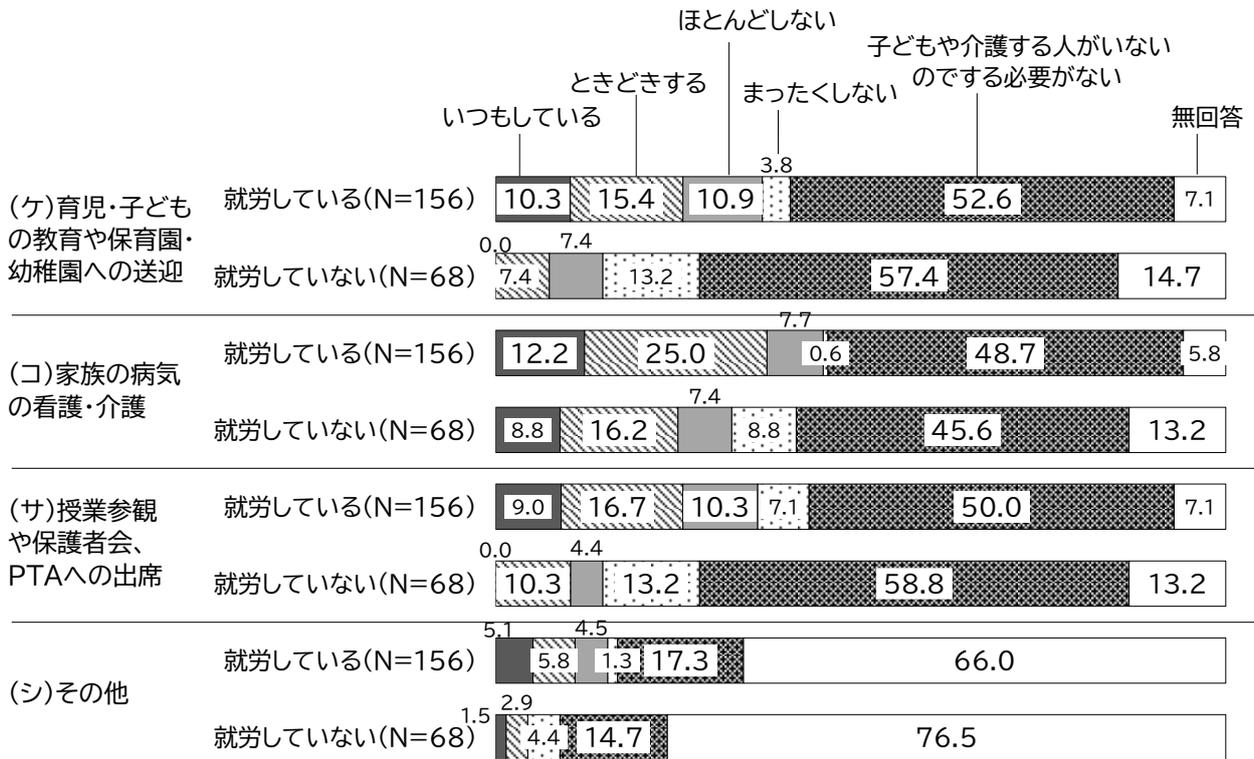
## ■男性

就労の有無別で見ると、『食事の片付け』『町内会や自治会への出席』を除いたすべての項目で「いつもしている」割合は「就労していない」と回答している方が「就労している」と回答している方よりも下回っています。(図表4-1-4-①、図表4-1-4-②)

図表 4-1-4-① 家事などの分担（男性、就労別）



図表 4-1-4-② 家事などの分担（男性、就労別）



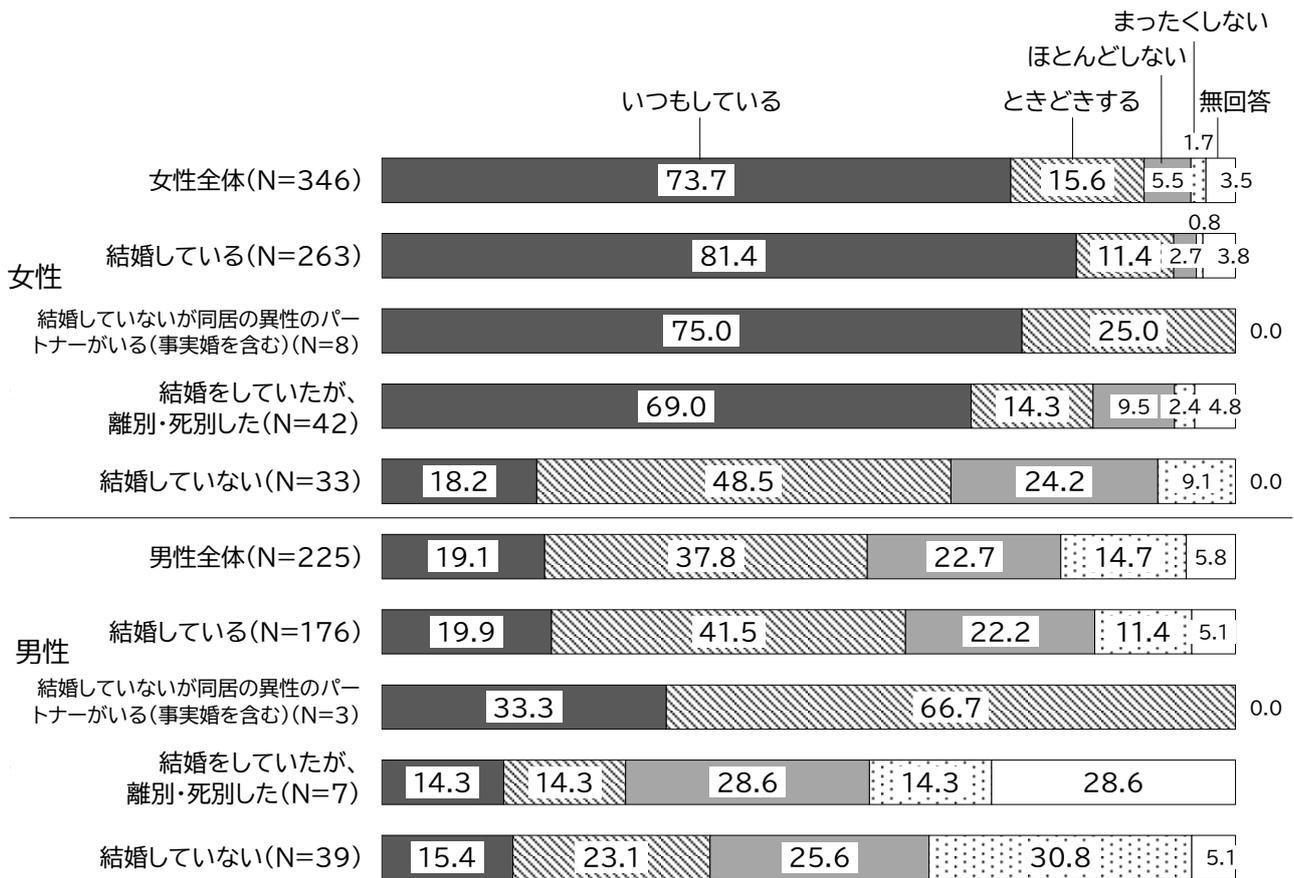
【性・未既婚別】

■食事のしたく

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が81.4%です。

既婚の男性で「いつもしている」は19.9%にとどまり、「ほとんどしない」が22.2%、「まったくしない」が11.4%となっています。(図表4-1-5-①)

図表 4-1-5-① 家事などの分担：食事のしたく（性・未既婚別）

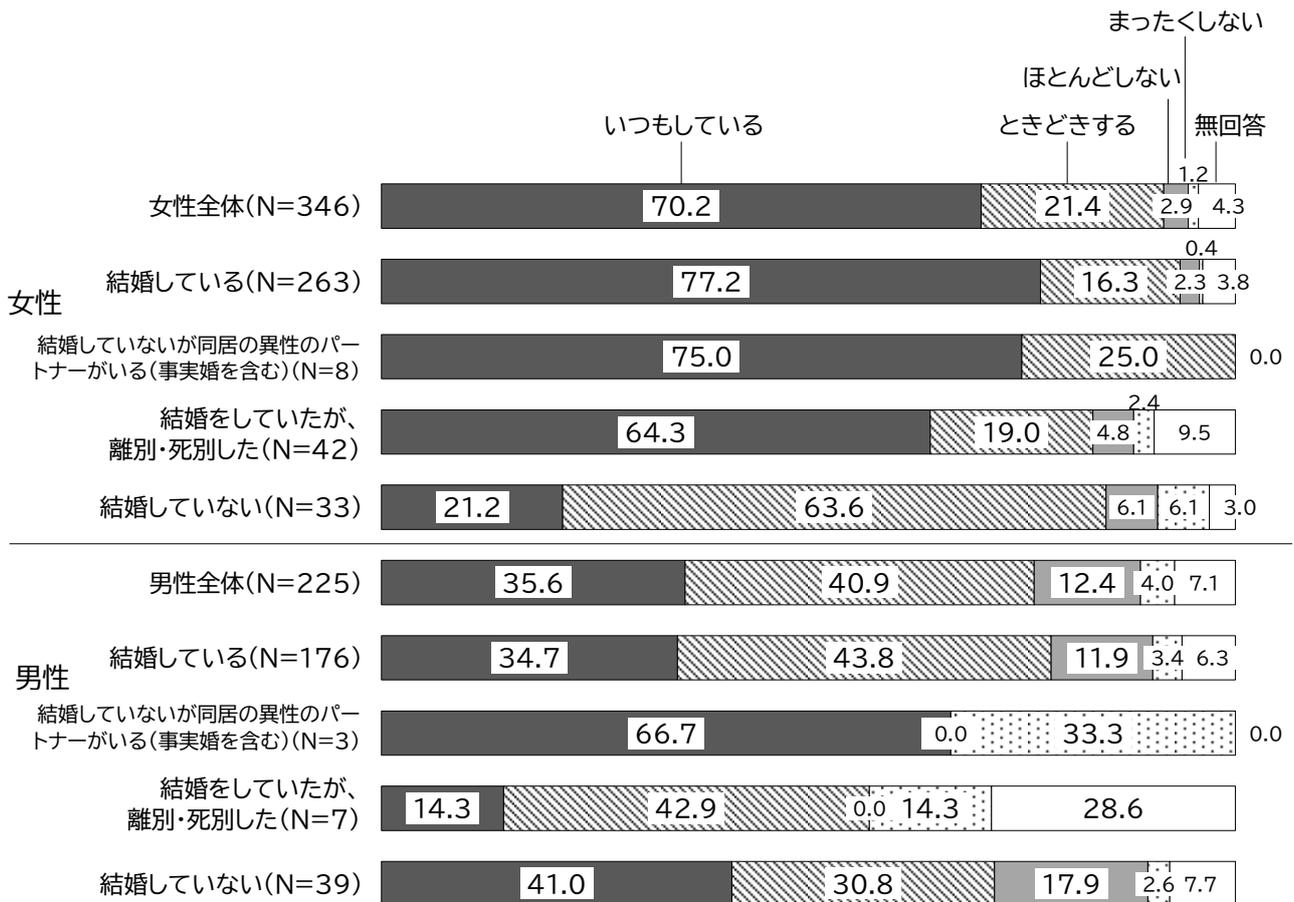


## ■食事の後片付け

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が77.2%です。

既婚の男性で「いつもしている」は34.7%で、「ほとんどしない」が11.9%、「まったくしない」が3.4%となっています。(図表4-1-5-②)

図表 4-1-5-② 家事などの分担：食事の後片付け（性・未既婚別）

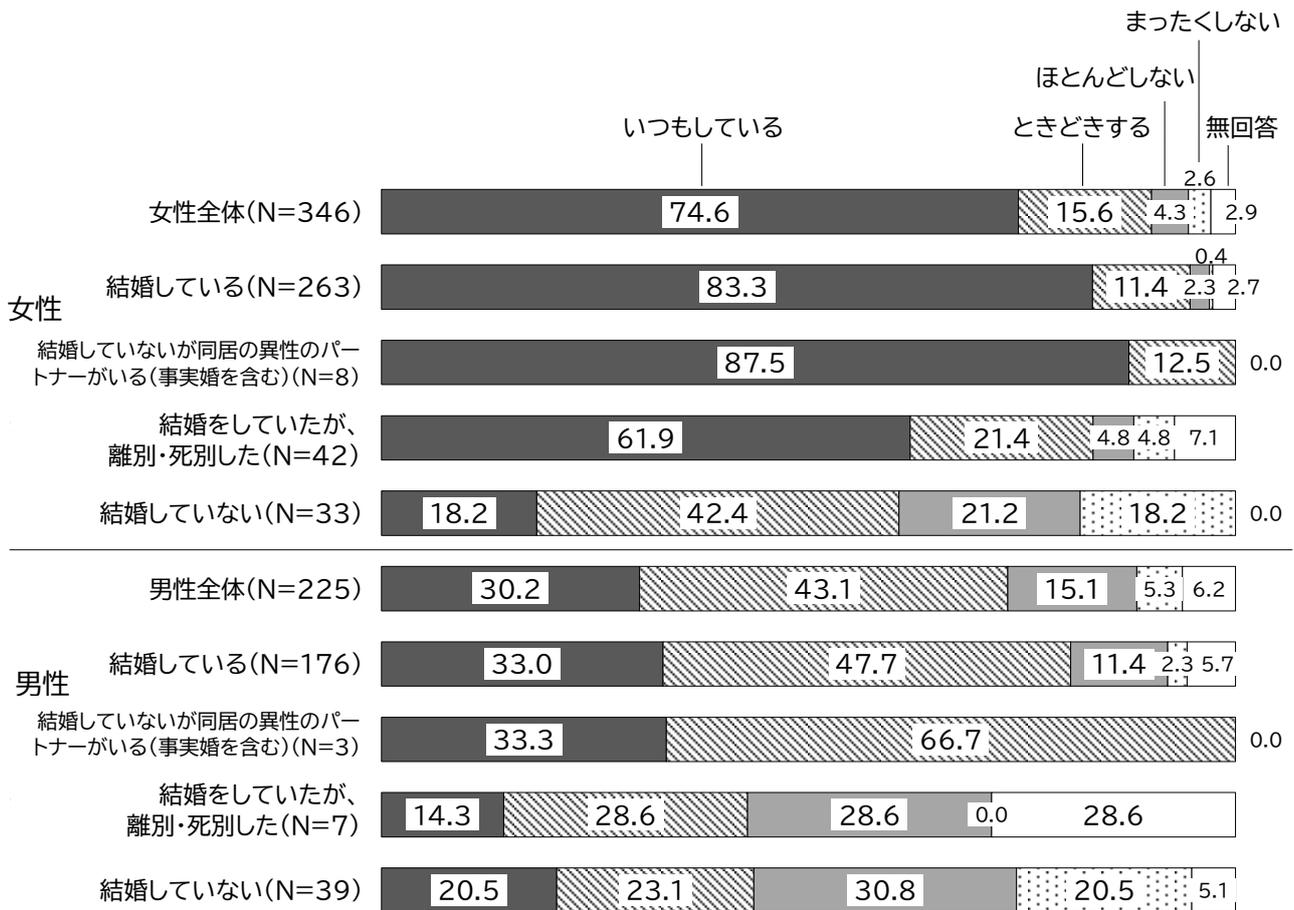


## ■食料品・日用品の買い物

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が83.3%です。

既婚の男性で「いつもしている」は33.0%で、「ほとんどしない」が11.4%、「まったくしない」が2.3%となっています。(図表4-1-5-③)

図表 4-1-5-③ 家事などの分担：食料品・日用品の買い物（性・未既婚別）

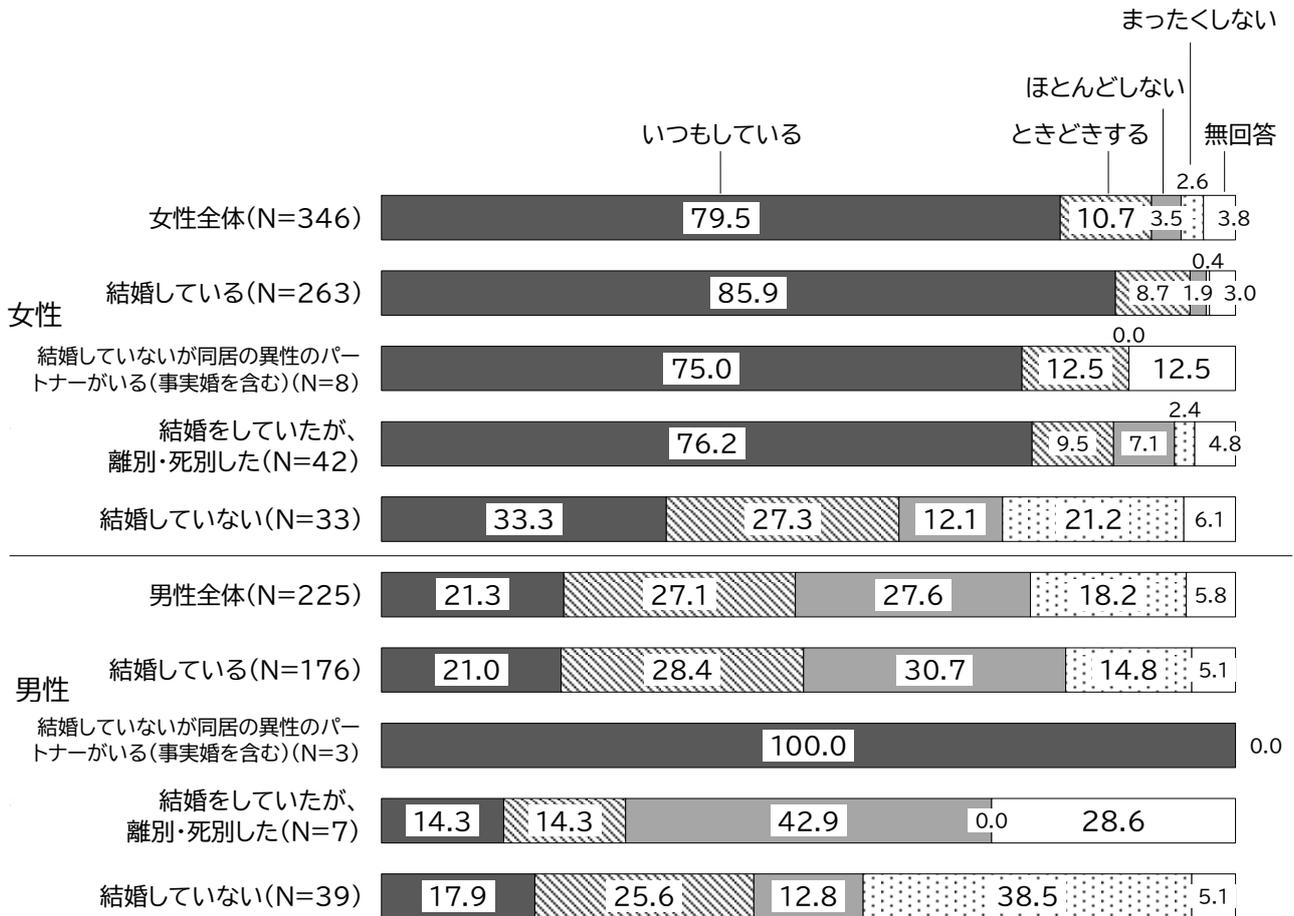


## ■洗濯

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が85.9%です。

既婚の男性で「いつもしている」は21.0%にとどまり、「ほとんどしない」が30.7%、「まったくしない」が14.8%となっています。(図表4-1-5-④)

図表 4-1-5-④ 家事などの分担：洗濯（性・未既婚別）

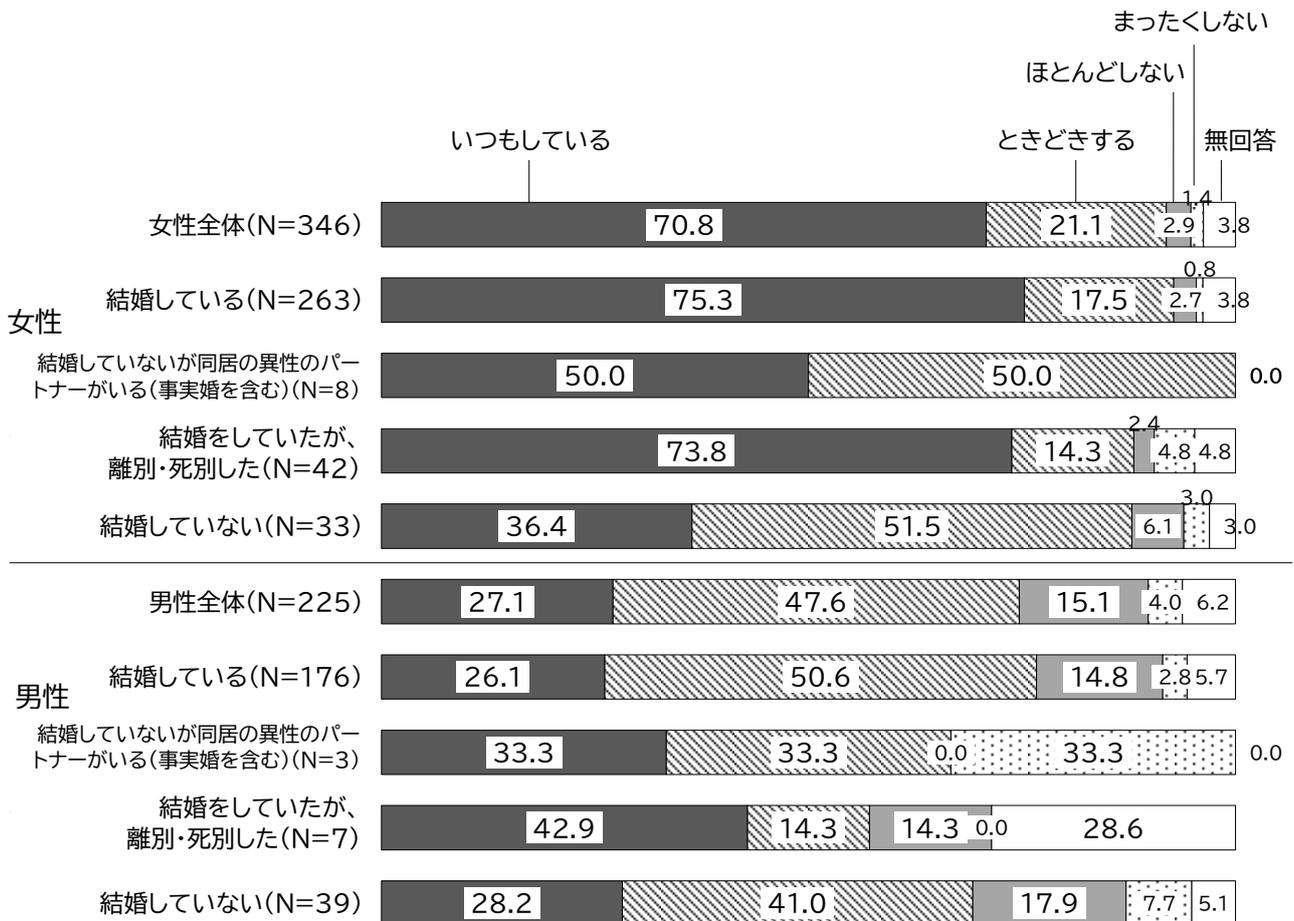


## ■部屋の掃除・片付け

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が75.3%です。

既婚の男性で「いつもしている」は26.1%にとどまり、「ほとんどしない」が14.8%、「まったくしない」が2.8%となっています。(図表4-1-5-⑤)

図表 4-1-5-⑤ 家事などの分担：部屋の掃除・片付け（性・未既婚別）

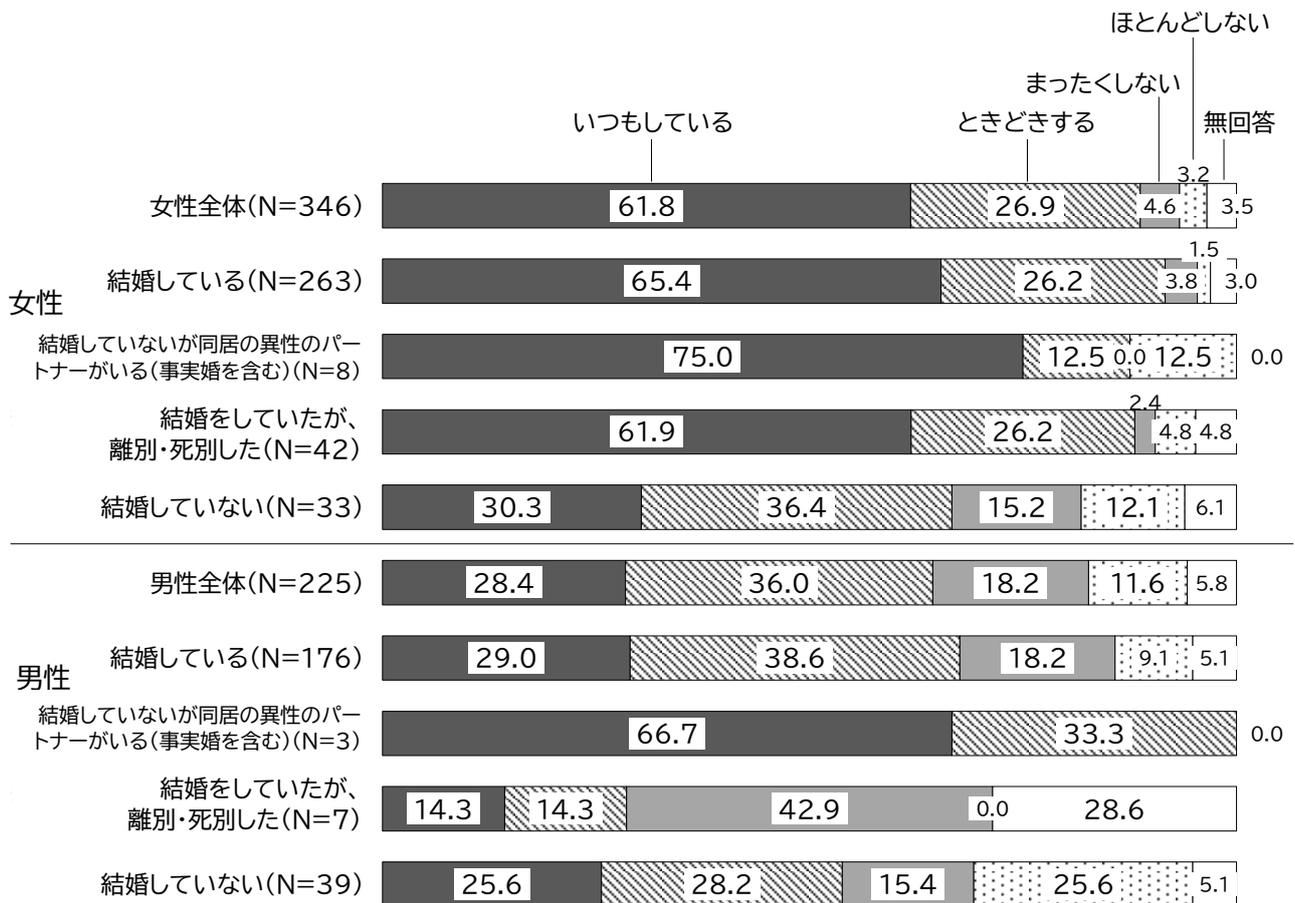


## ■風呂やトイレの掃除

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が65.4%です。

既婚の男性で「いつもしている」は29.0%にとどまり、「ほとんどしない」が18.2%、「まったくしない」が9.1%となっています。(図表4-1-5-⑥)

図表 4-1-5-⑥ 家事などの分担：風呂やトイレの掃除（性・未既婚別）

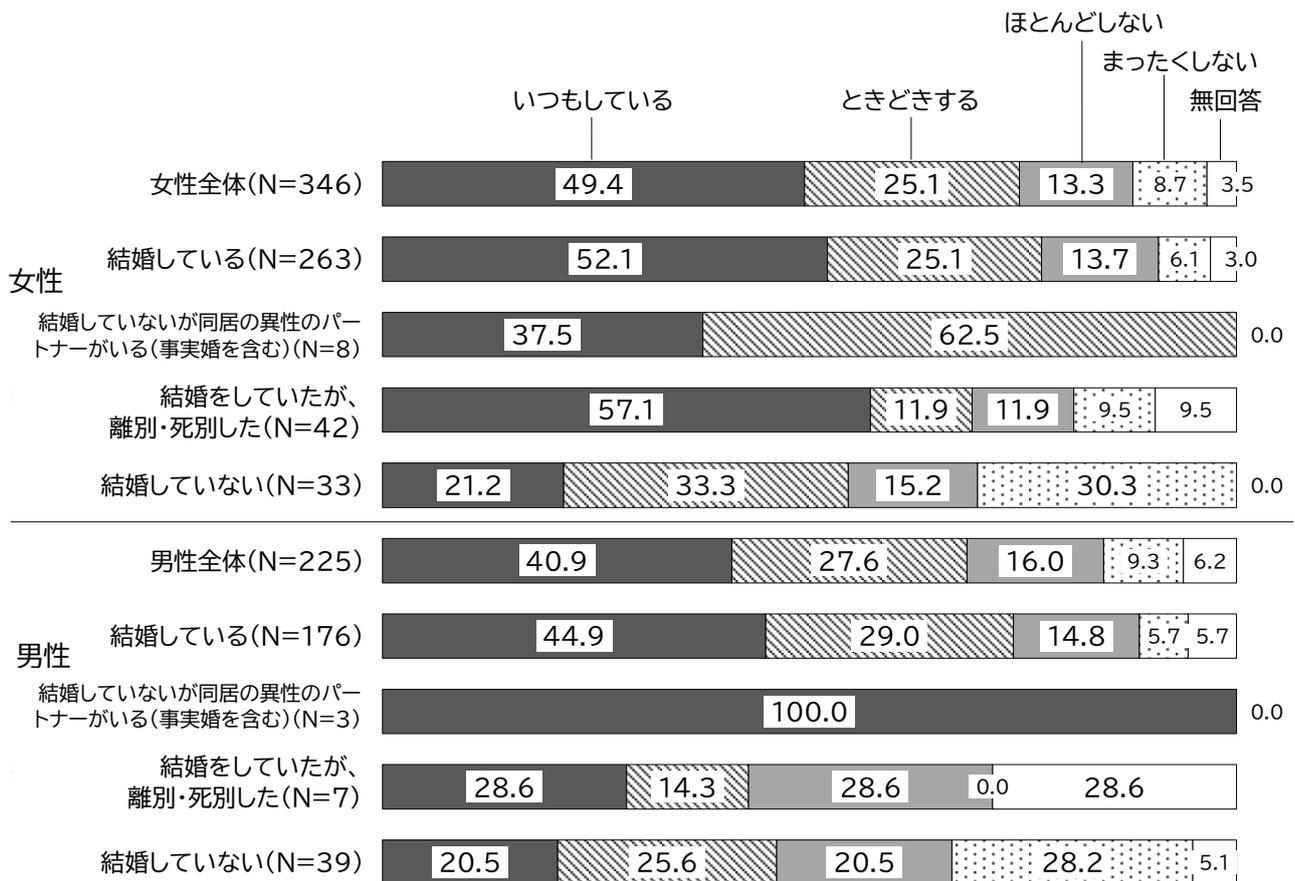


## ■ゴミ出し

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が52.1%です。

既婚の男性で「いつもしている」は44.9%で、食事のしたく、後片付け、食料品・日用品の買い物、洗濯、部屋の掃除など他の家事よりも多くなっています。(図表4-1-5-⑦)

図表 4-1-5-⑦ 家事などの分担：ゴミ出し（性・未既婚別）

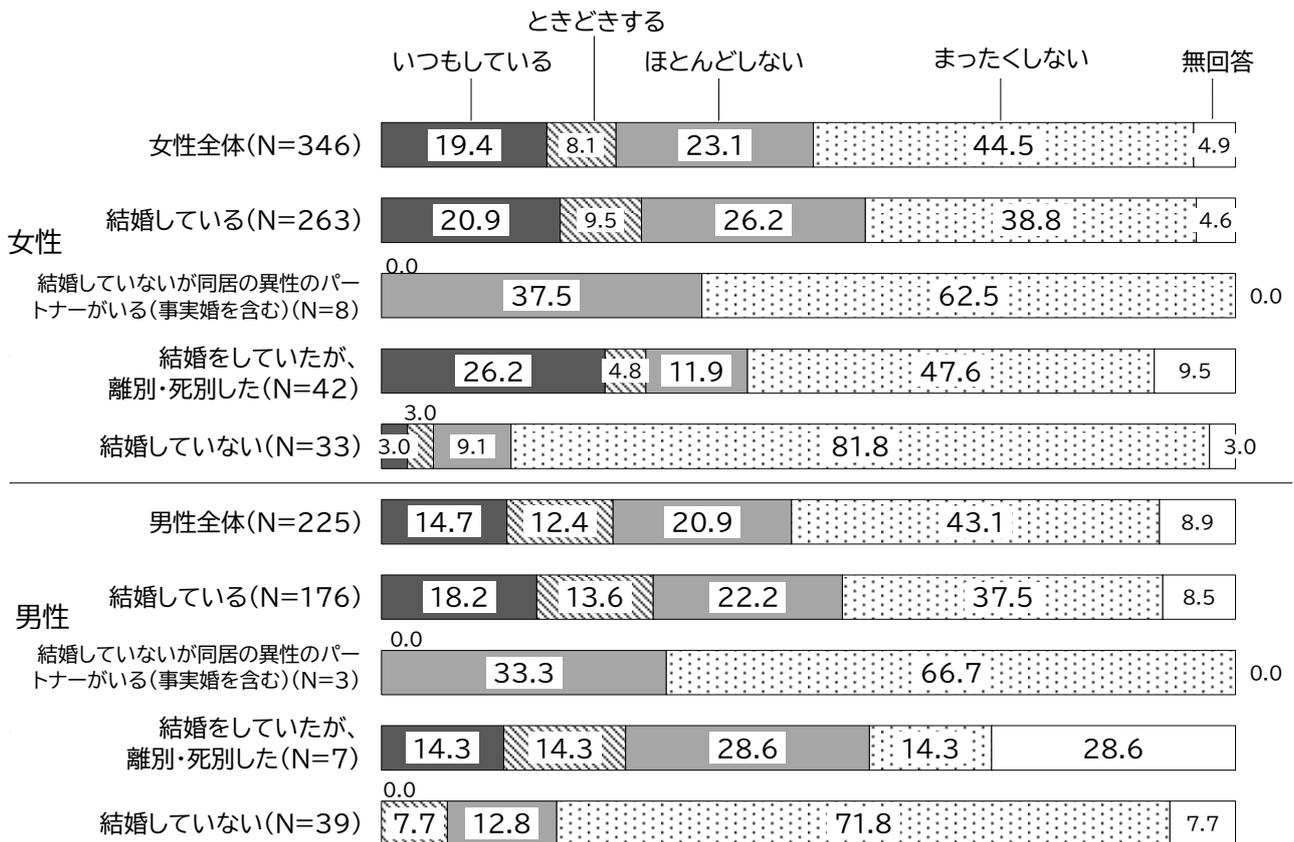


## ■町内会や自治会への出席

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が20.9%で、食事のしたく、食事の後片付け、食料品・日用品の買い物、洗濯などの家事に比べて低くなっています。

既婚の男性で「いつもしている」は18.2%です。(図表4-1-5-⑧)

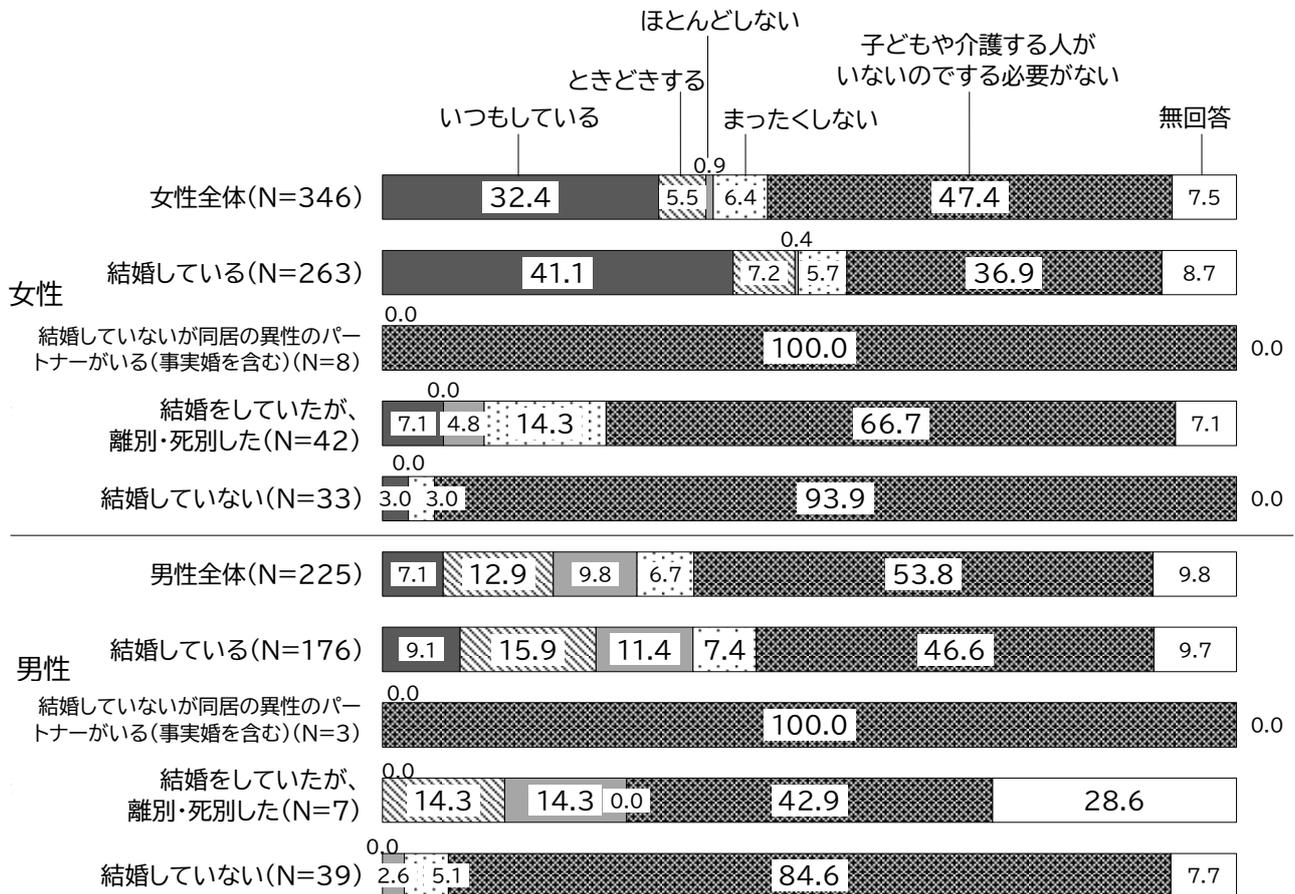
図表 4-1-5-⑧ 家事などの分担：町内会や自治会への出席（性・未既婚別）



## ■育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が41.1%です。  
既婚の男性で「いつもしている」は9.1%となっています。(図表4-1-5-⑨)

図表 4-1-5-⑨ 家事などの分担：育児・子どもの教育や保育園・幼稚園の送迎（性・未既婚別）

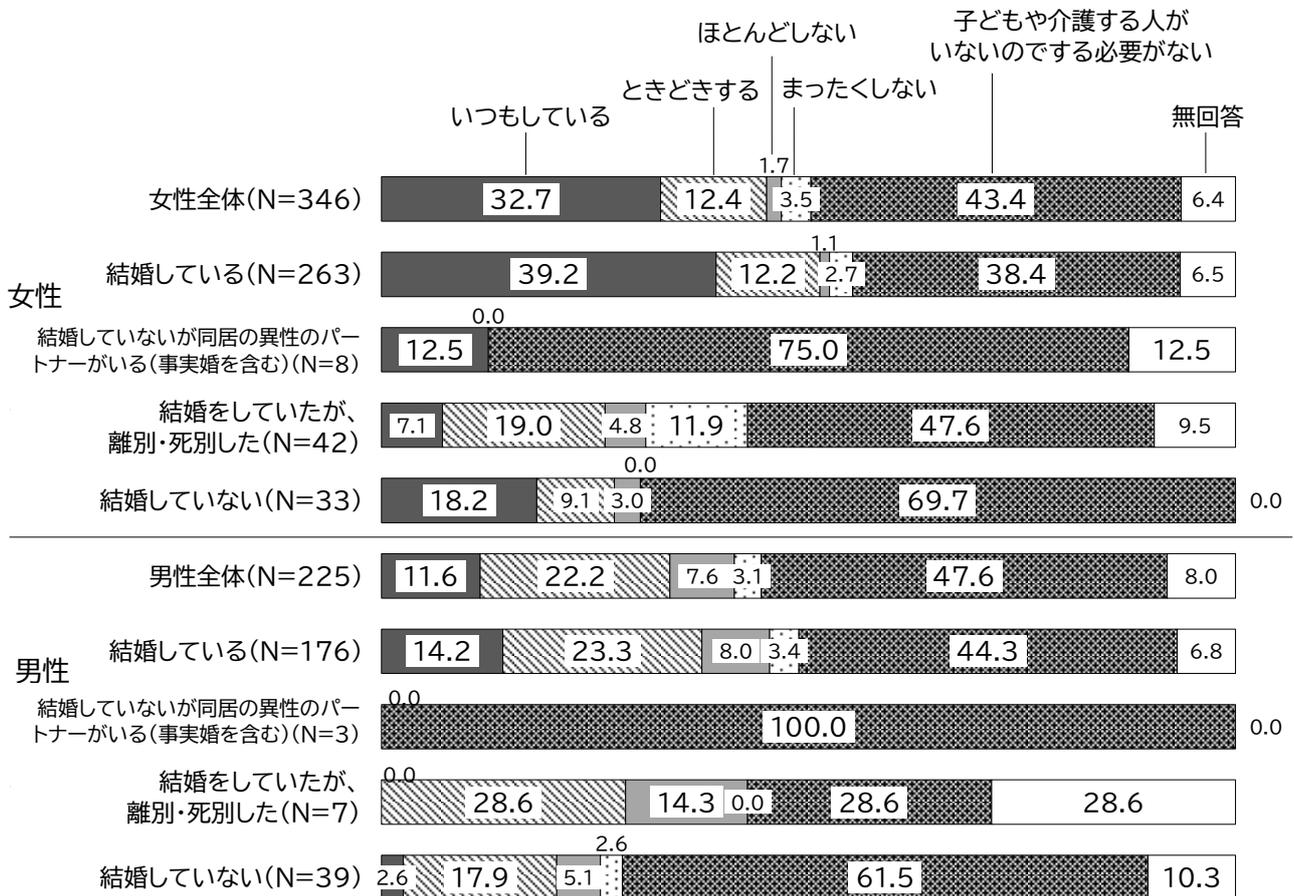


## ■家族の病気の看護・介護

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が39.2%です。

既婚の男性で「いつもしている」は14.2%となっています。(図表4-1-5-⑩)

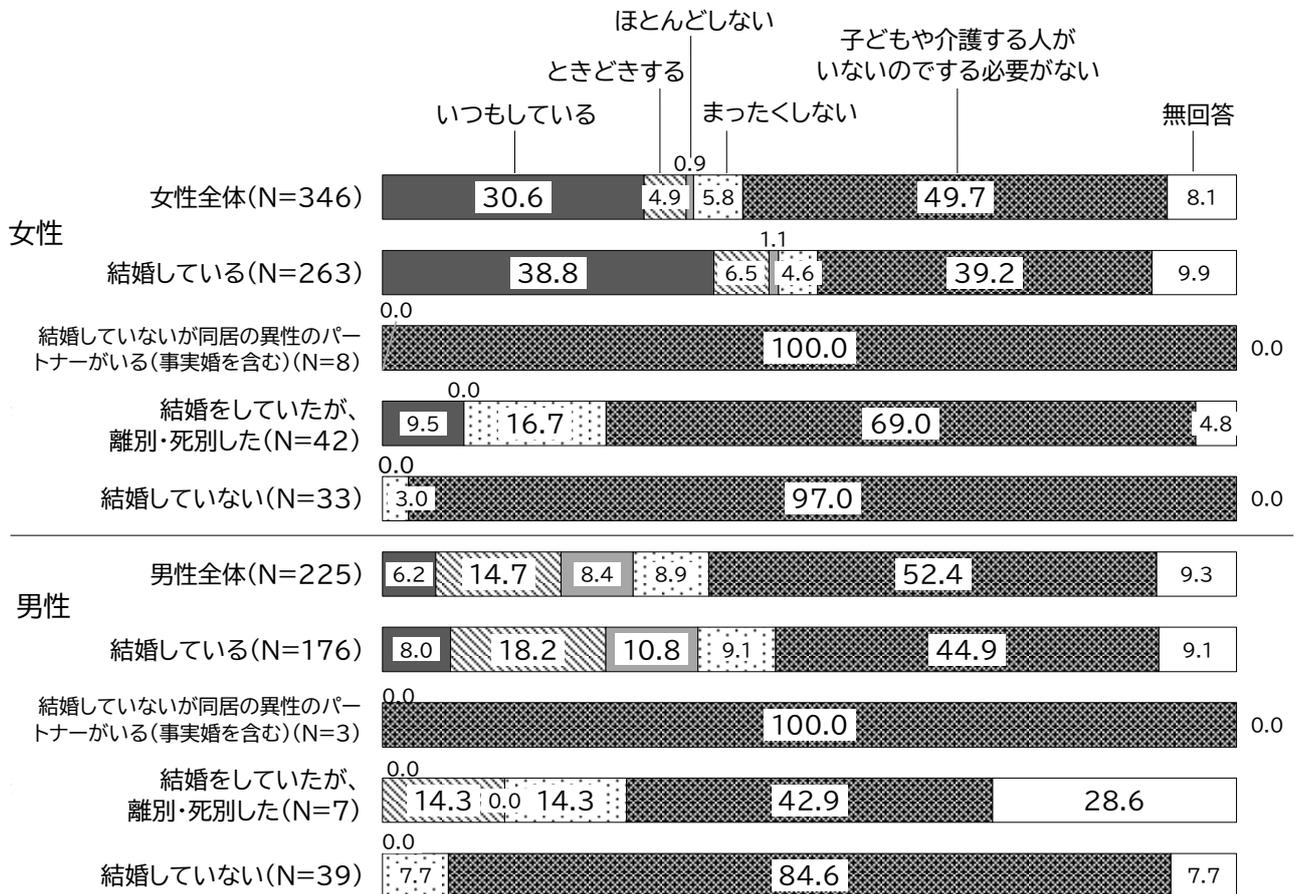
図表 4-1-5-⑩ 家事などの分担：家族の病気の看護・介護（性・未既婚別）



## ■授業参観や保護者会、PTA の出席

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が38.8%です。  
既婚の男性で「いつもしている」は8.0%となっています。(図表4-1-5-①)

図表 4-1-5-① 家事などの分担：授業参観や保護者会、PTA の出席（性・未既婚別）



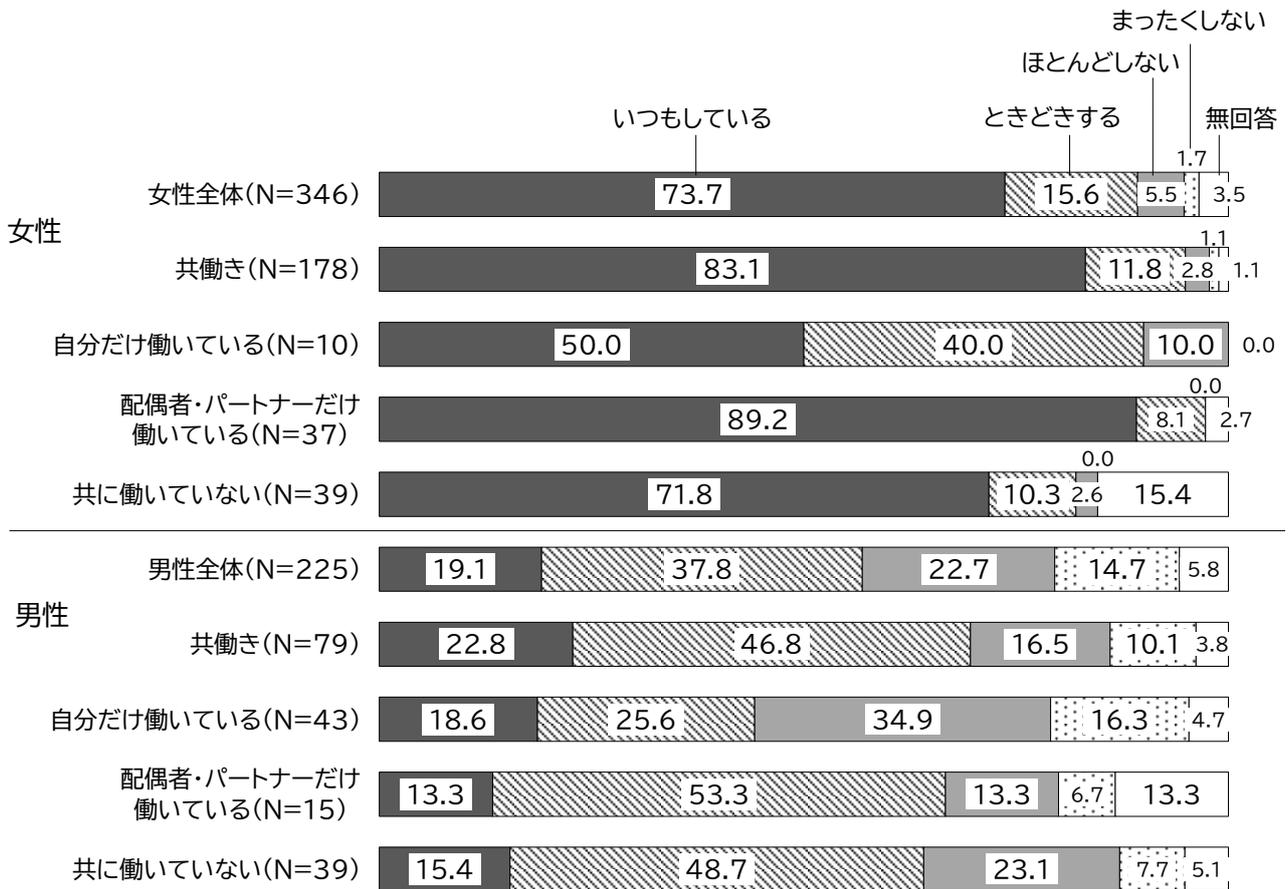
【性・共働き状況別】

■食事のしたく

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が83.1%です。

共働きの男性で「いつもしている」は22.8%にとどまり、「ほとんどしない」が16.5%、「まったくしない」が10.1%となっています。(図表4-1-6-①)

図表 4-1-6-① 家事などの分担：食事のしたく（性・共働き状況別）

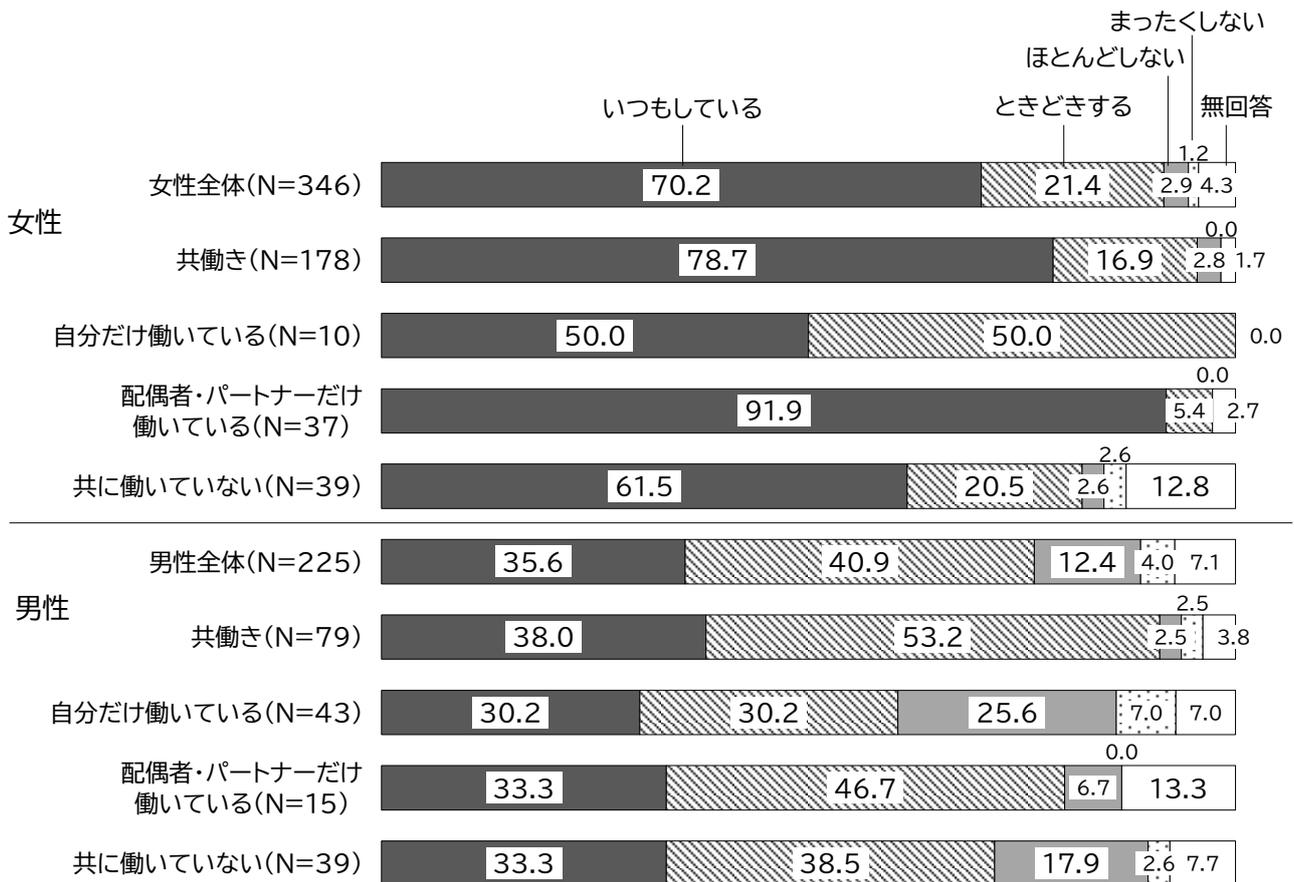


## ■食事の後片付け

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が78.7%です。

共働きの男性で「いつもしている」は38.0%ですが、「ときどきする」が53.2%となっています。(図表4-1-6-②)

図表 4-1-6-② 家事などの分担：食事の後片付け（性・共働き状況別）

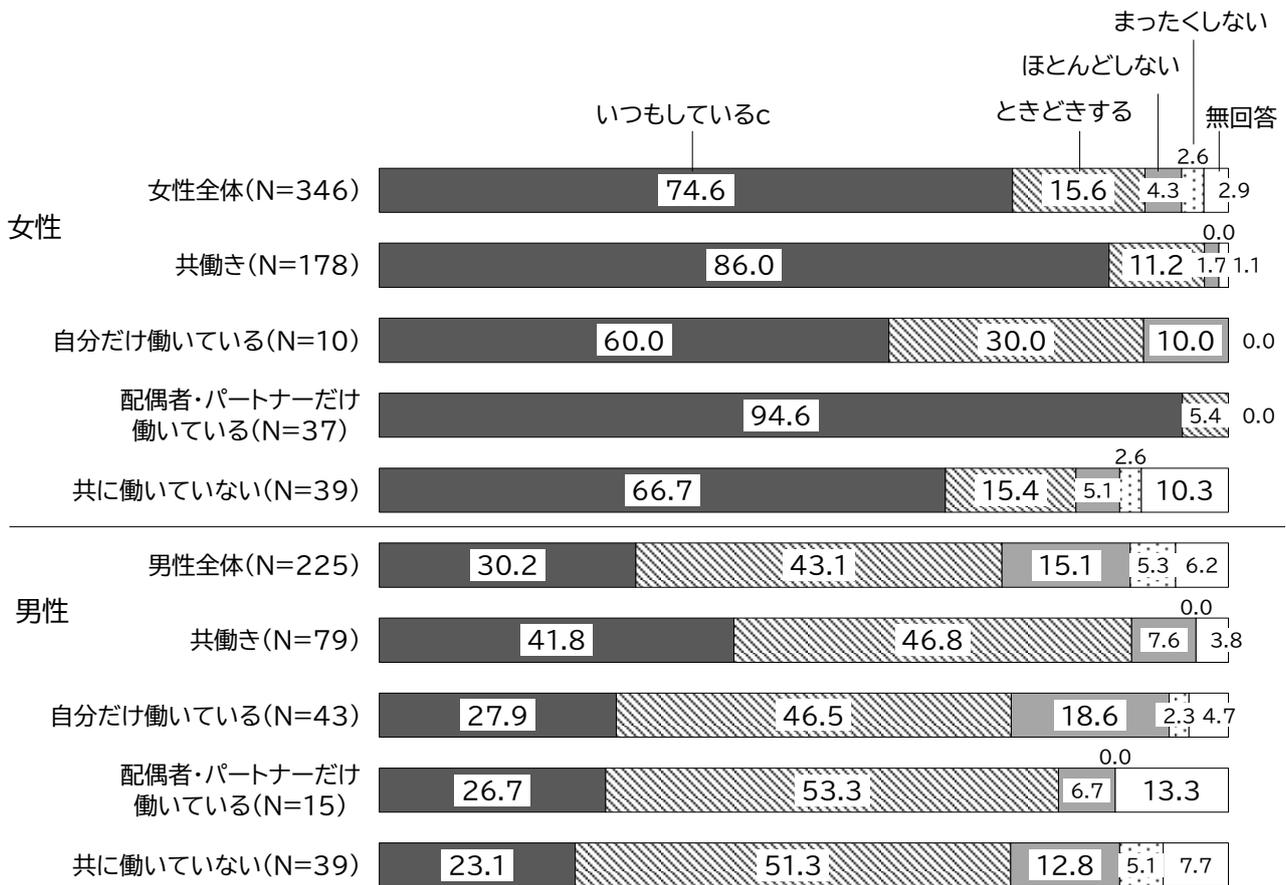


## ■食料品・日用品の買い物

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が86.0%です。

共働きの男性で「いつもしている」は41.8%ですが、「ときどきする」が46.8%となっています。(図表4-1-6-③)

図表 4-1-6-③ 家事などの分担：食料品・日用品の買い物（性・共働き状況別）

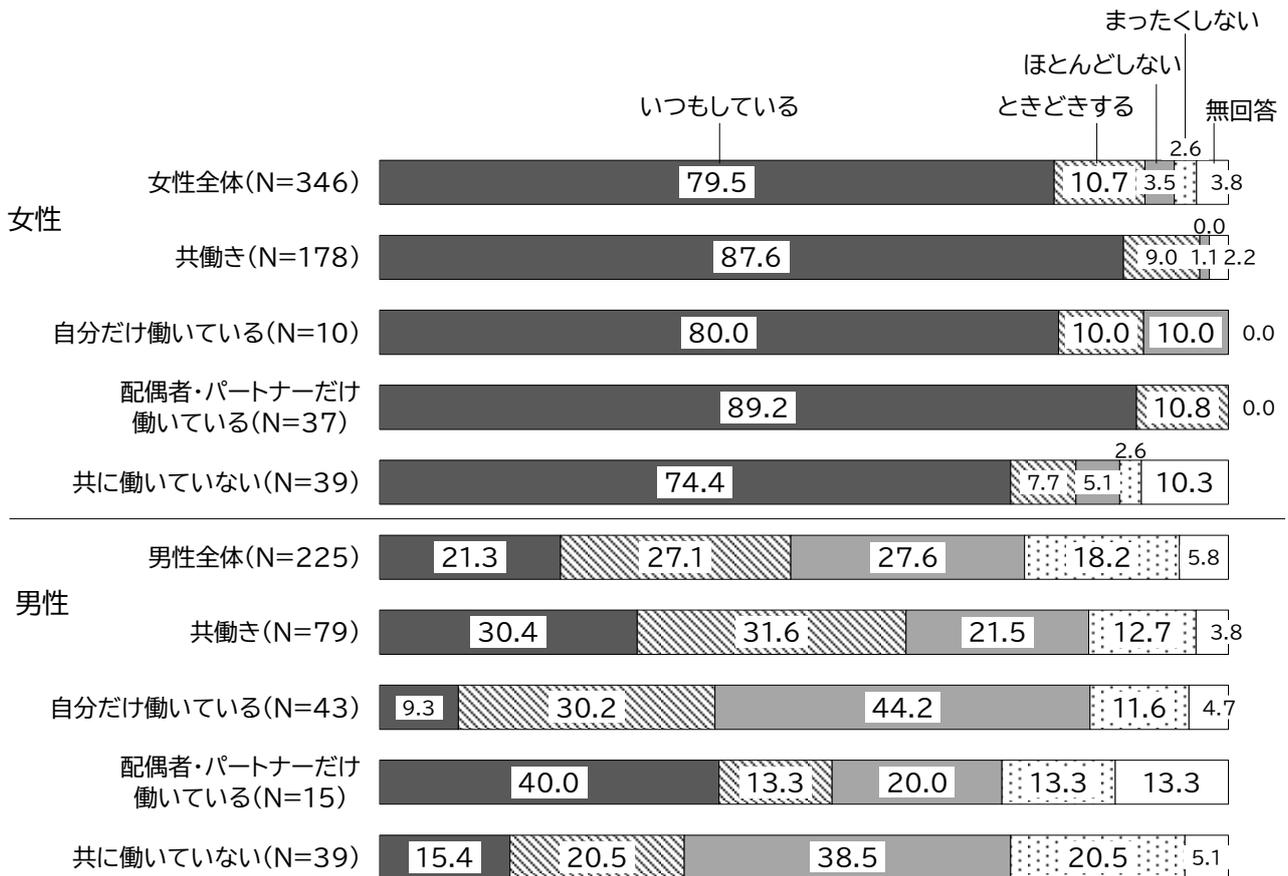


## ■洗濯

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が87.6%です。

共働きの男性で「いつもしている」は30.4%にとどまり、「ほとんどしない」が21.5%「まったくしない」が12.7%となっています。(図表4-1-6-④)

図表 4-1-6-④ 家事などの分担：洗濯（性・共働き状況別）

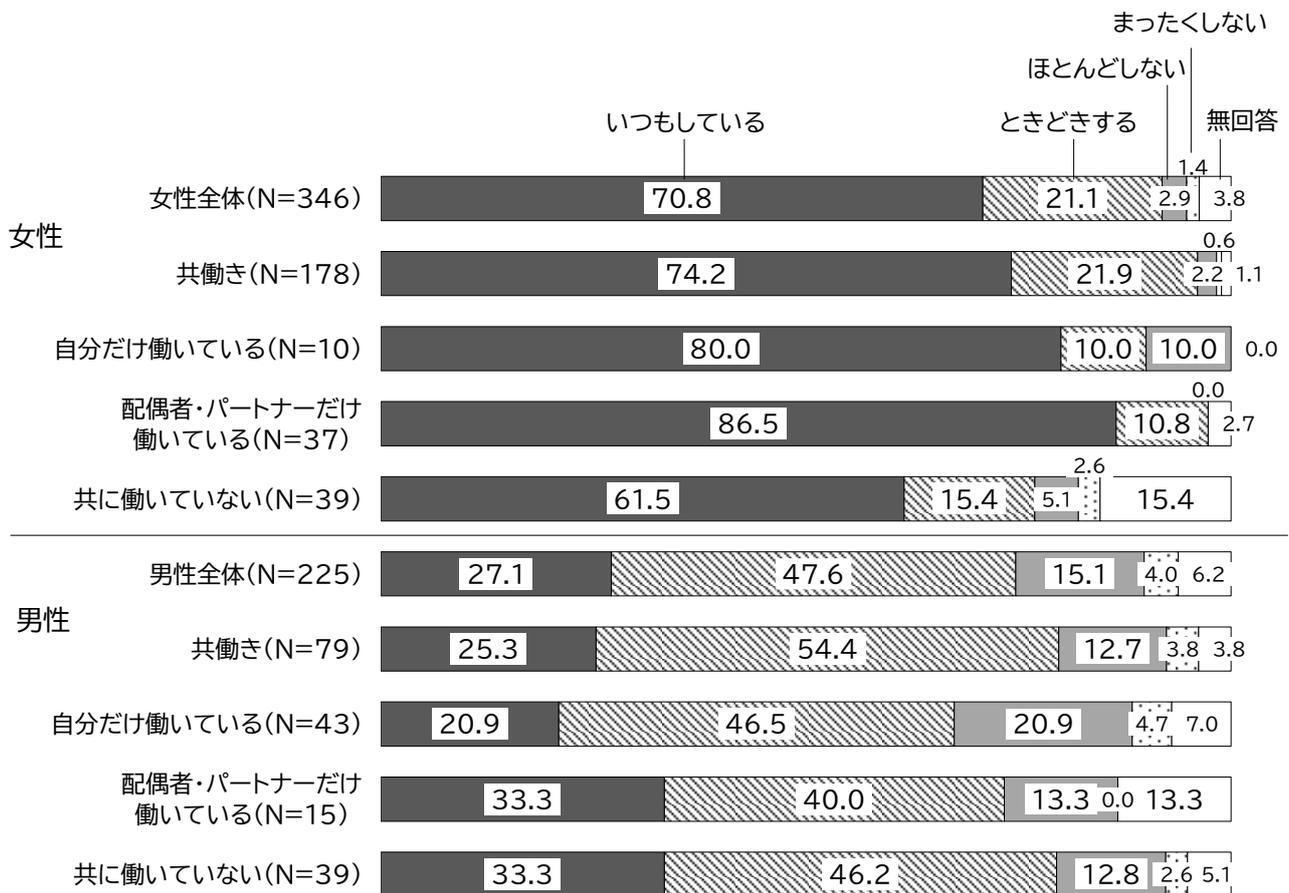


## ■部屋の掃除・片付け

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が74.2%です。

共働きの男性で「いつもしている」は25.3%ですが、「ときどきする」が54.4%となっています。(図表4-1-6-⑤)

図表 4-1-6-⑤ 家事などの分担：部屋の掃除・片付け（性・共働き状況別）

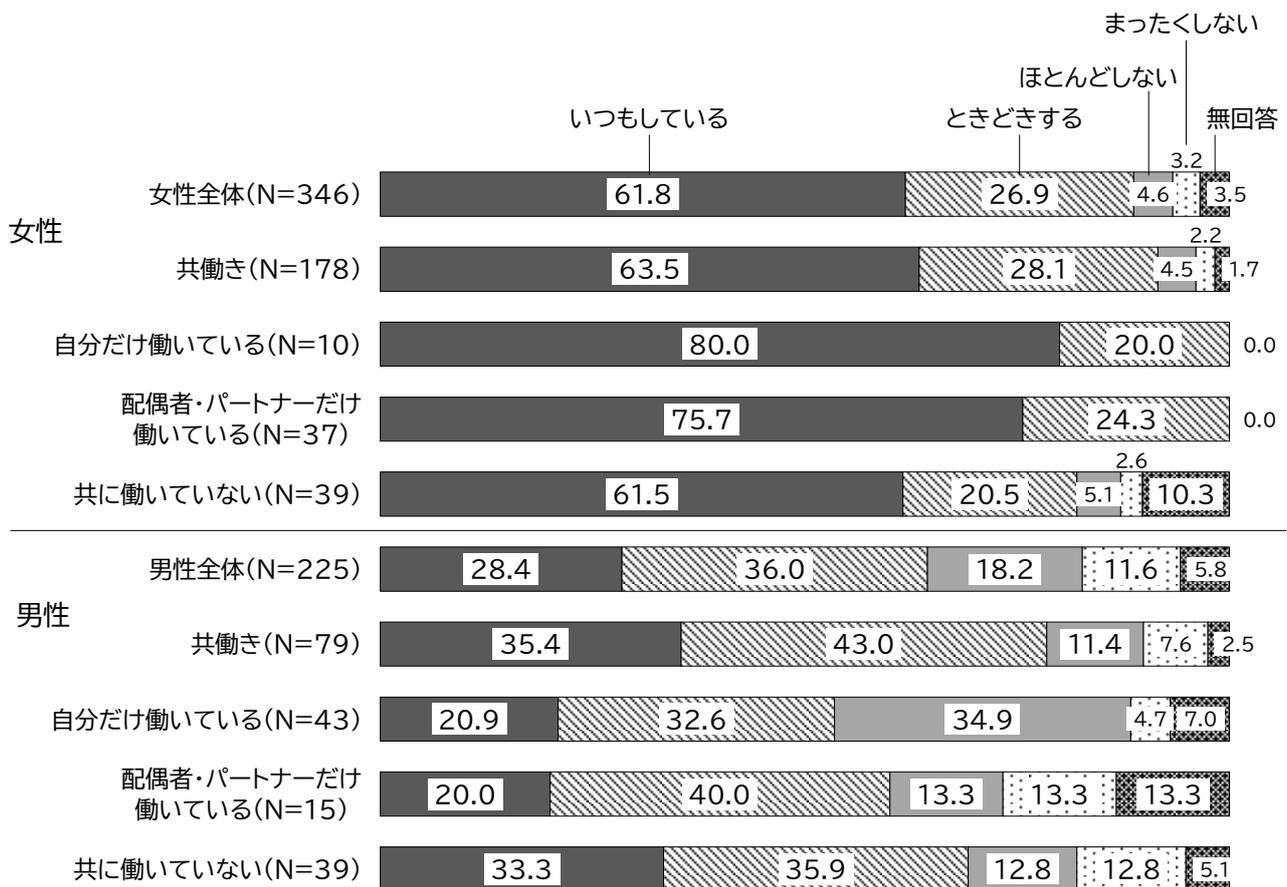


## ■風呂やトイレの掃除

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が63.5%です。

共働きの男性で「いつもしている」は35.4%ですが、「ときどきする」が43.0%となっています。(図表4-1-6-⑥)

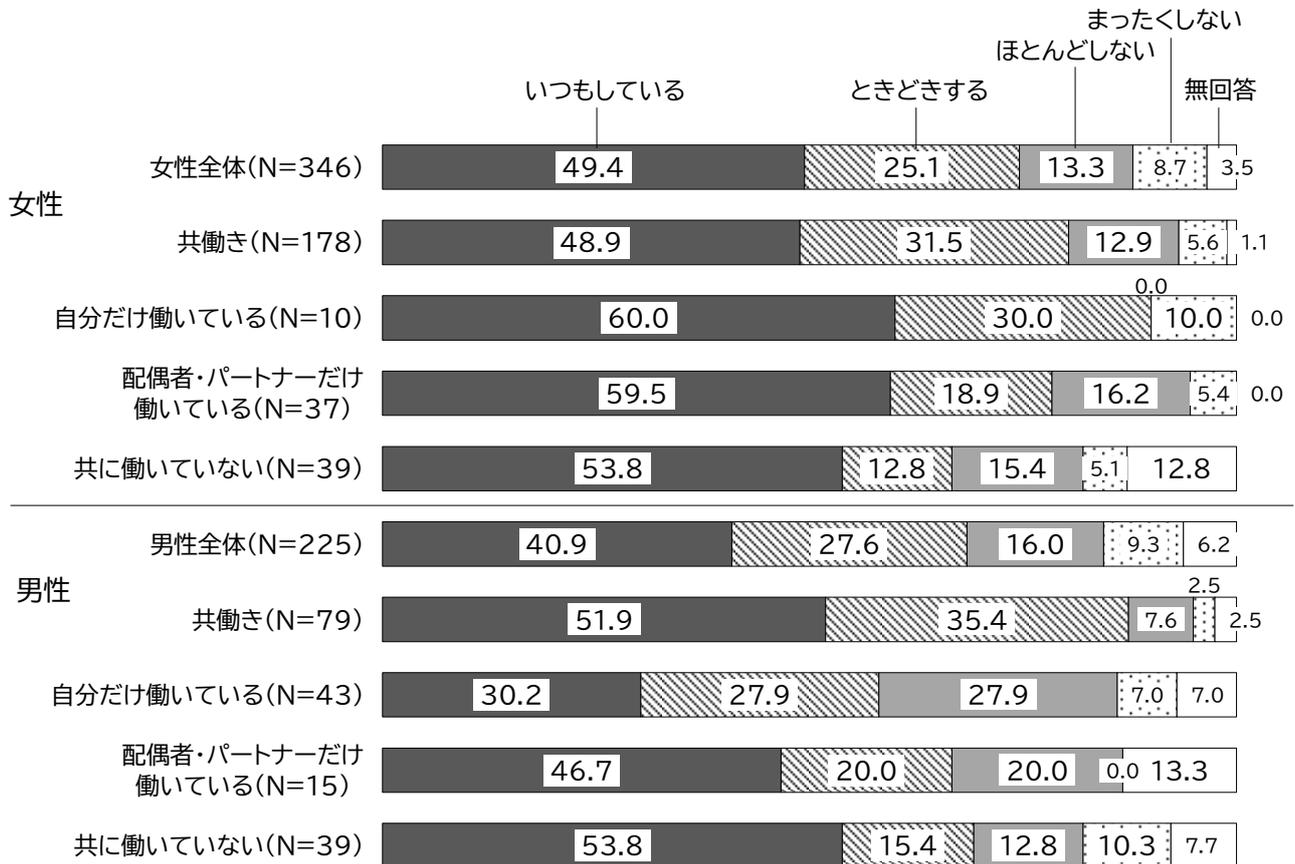
図表4-1-6-⑥ 家事などの分担：風呂やトイレの掃除（性・共働き状況別）



## ■ゴミ出し

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が48.9%です。  
共働きの男性で「いつもしている」は51.9%となっています。(図表4-1-6-⑦)

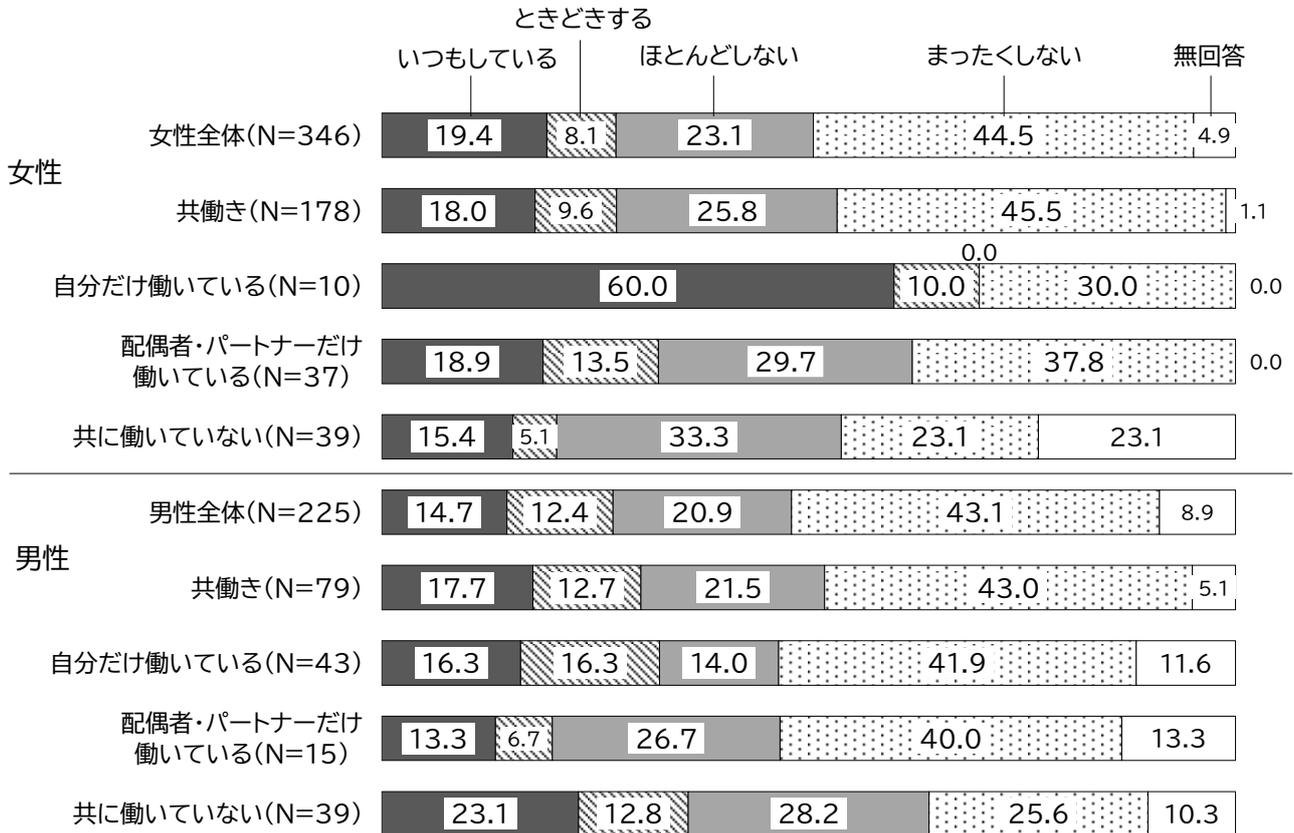
図表 4-1-6-⑦ 家事などの分担：ゴミ出し（性・共働き状況別）



## ■町内会や自治会への出席

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が18.0%です。  
共働きの男性で「いつもしている」は17.7%となっています。(図表4-1-6-⑧)

図表 4-1-6-⑧ 家事などの分担：町内会や自治会への出席（性・共働き状況別）

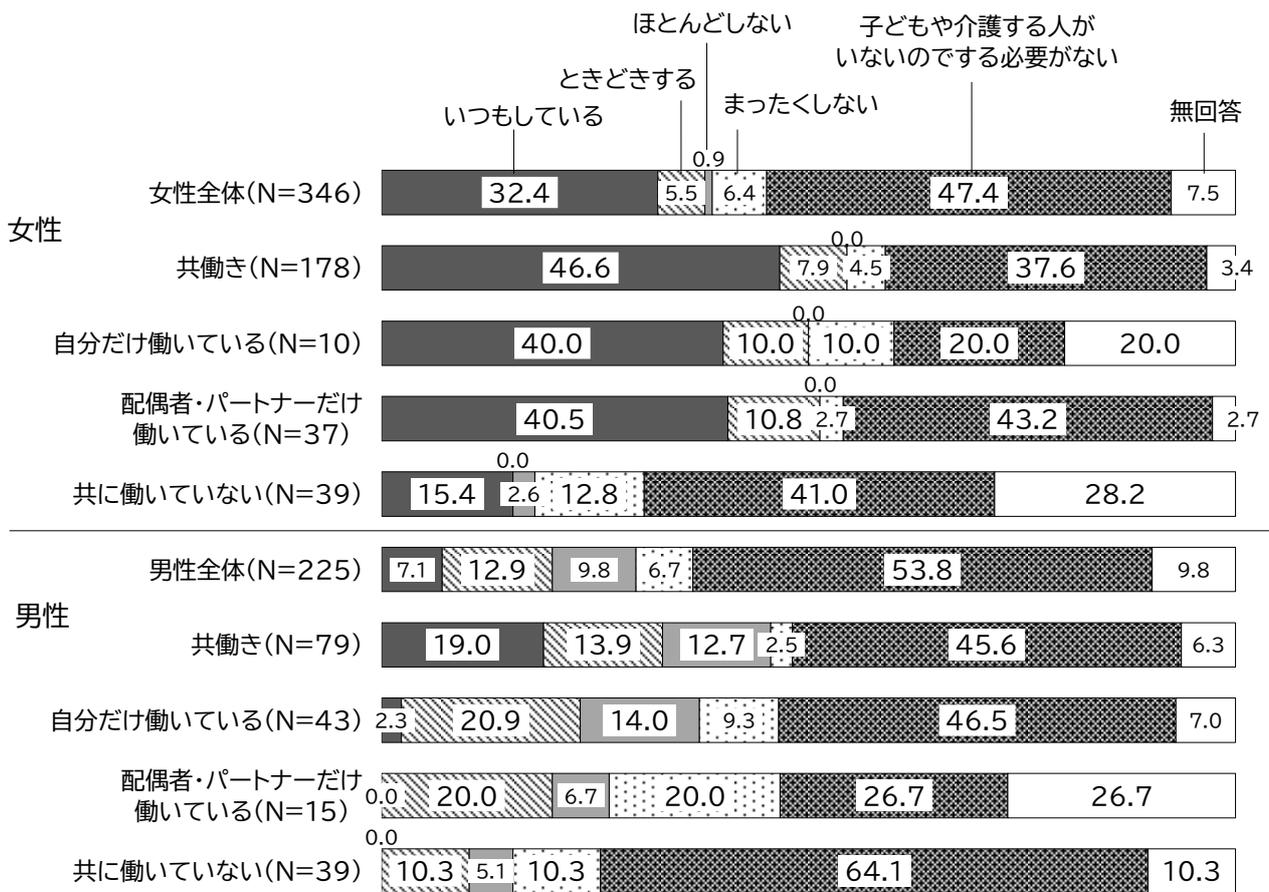


## ■育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は、「いつもしている」が46.6%です。

共働きの男性で「いつもしている」は19.0%、「ときどきする」が13.9%となっています。(図表4-1-6-⑨)

図表 4-1-6-⑨ 家事などの分担：育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎（性・共働き状況別）

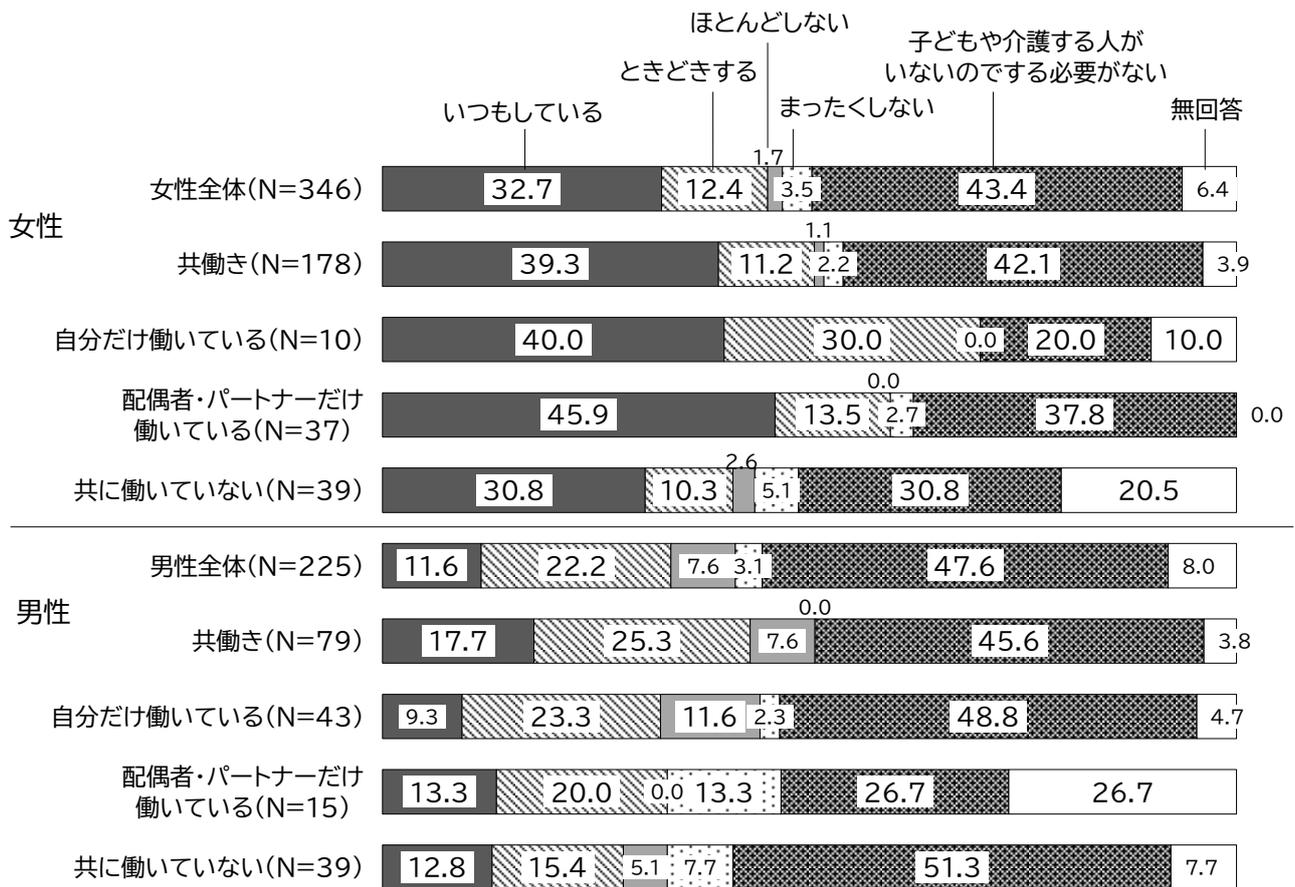


## ■家族の病気の看護・介護

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が39.3%です。

共働きの男性で「いつもしている」は17.7%ですが、「ときどきする」が25.3%となっています。(図表4-1-6-⑩)

図表 4-1-6-⑩ 家事などの分担：家族の病気の看護・介護（性・共働き状況別）

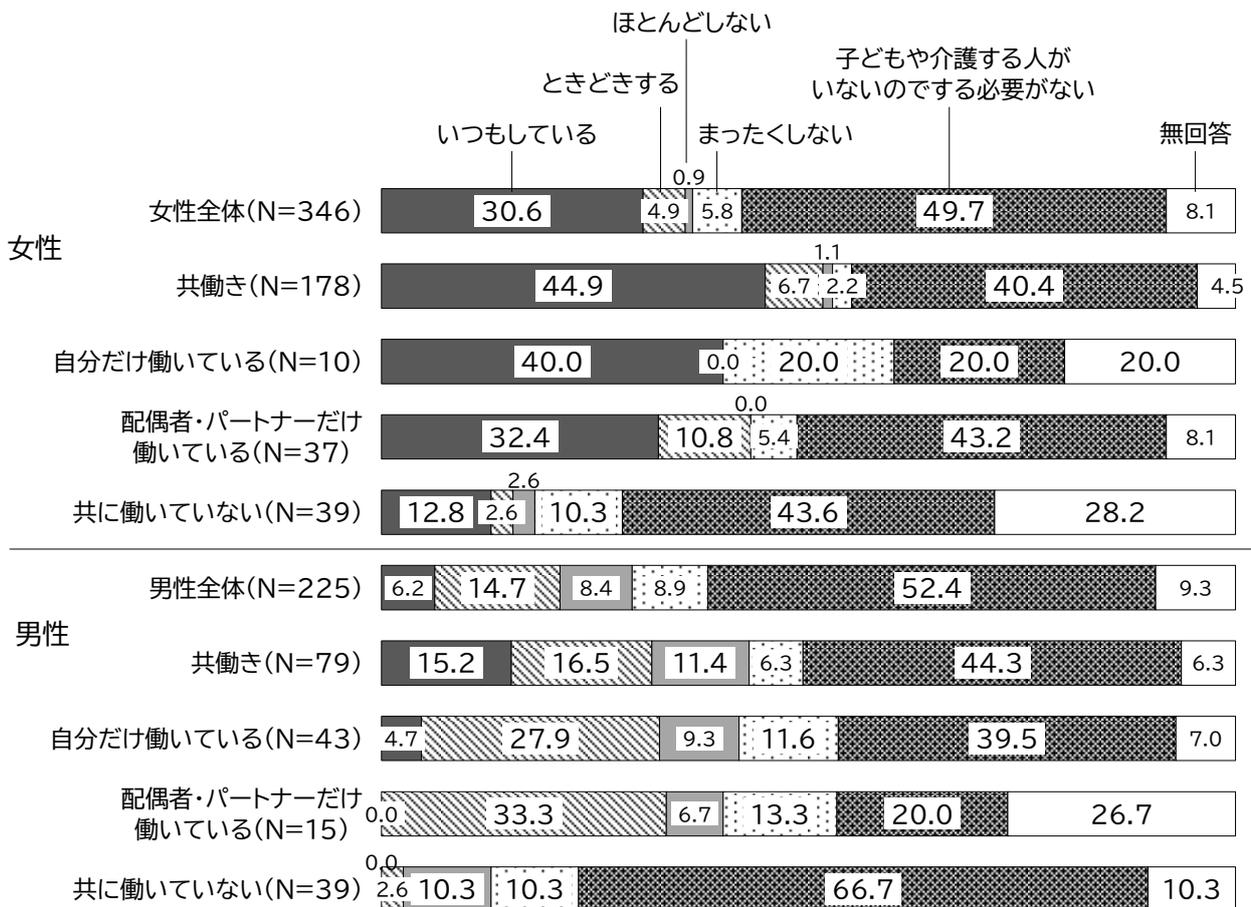


## ■授業参観や保護者会、PTA の出席

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が44.9%です。

共働きの男性で「いつもしている」は15.2%ですが、「ときどきする」が16.5%となっています。(図表4-1-6-①)

図表 4-1-6-① 家事などの分担：授業参観や保護者会、PTA の出席（性・共働き状況別）

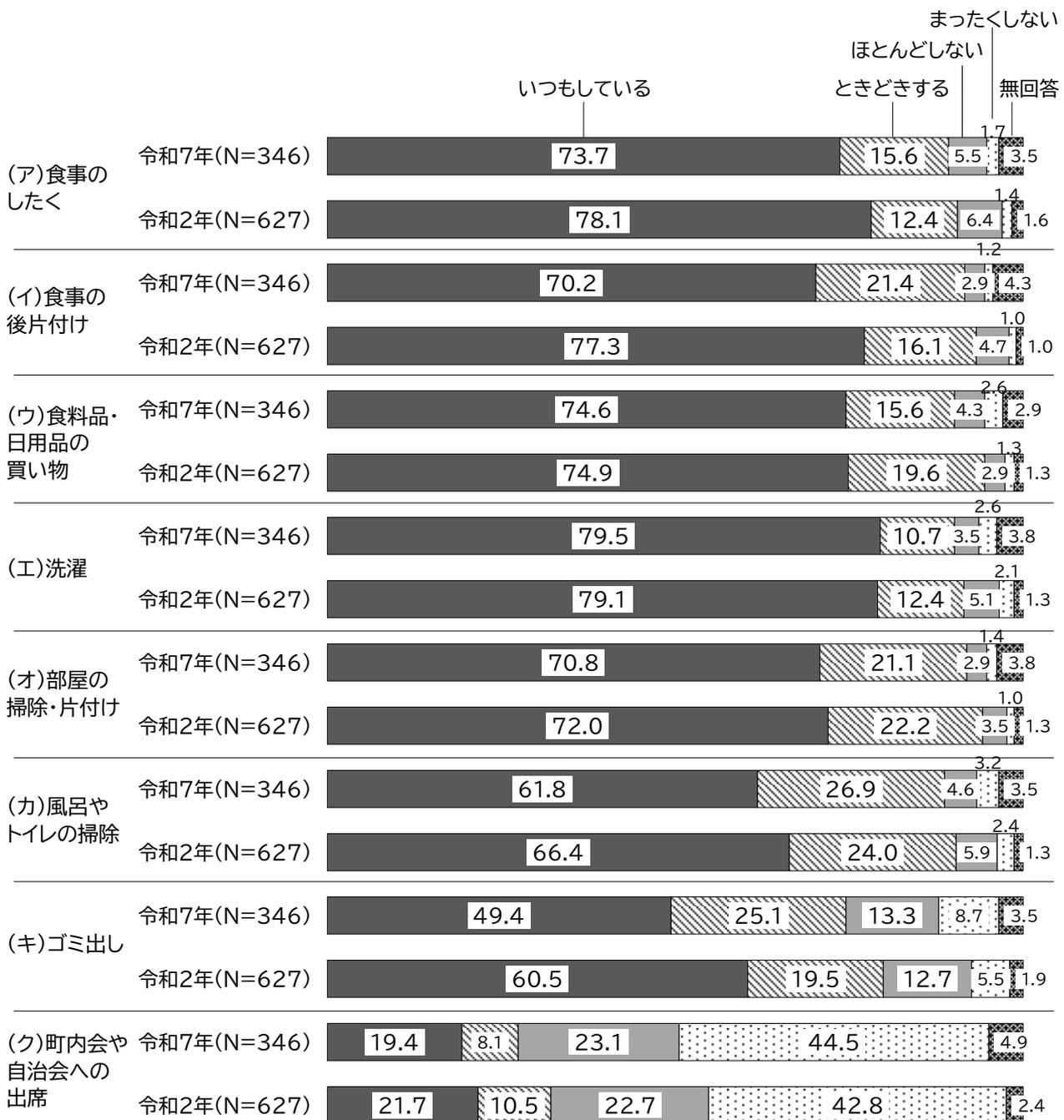


【令和2年調査との比較】

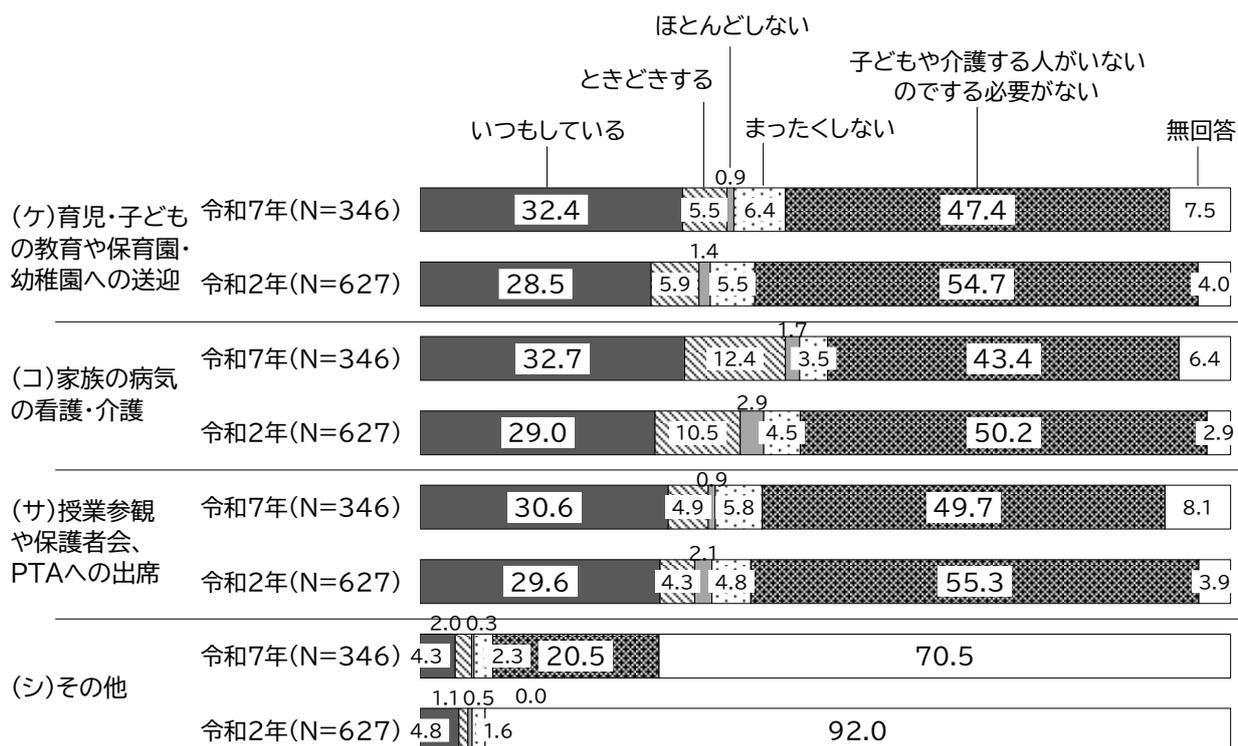
■女性

令和2年調査と比較すると、女性は「いつもしている」が『食事のしたく(令和7年調査:73.7%、令和2年調査:78.1%)』、『食事の後片付け(令和7年調査:70.2%、令和2年調査:77.3%)』、『食料品・日用品の買い物(令和7年調査:74.6%、令和2年調査:74.9%)』、『部屋の掃除・片付け(令和7年調査:70.8%、令和2年調査:72.0%)』、『風呂やトイレの掃除(令和7年調査:61.8%、令和2年調査:66.4%)』、『ゴミ出し(令和7年調査:49.4%、令和2年調査:60.5%)』、『町内会や自治会への出席(令和7年調査:19.4%、令和2年調査:21.7%)』、『その他(令和7年調査:4.3%、令和2年調査:4.8%)』で「いつもしている」が減っています。(図表4-1-7-①、図表4-1-7-②)

図表 4-1-7-① 家事などの分担 (女性、令和7年・令和2年調査)



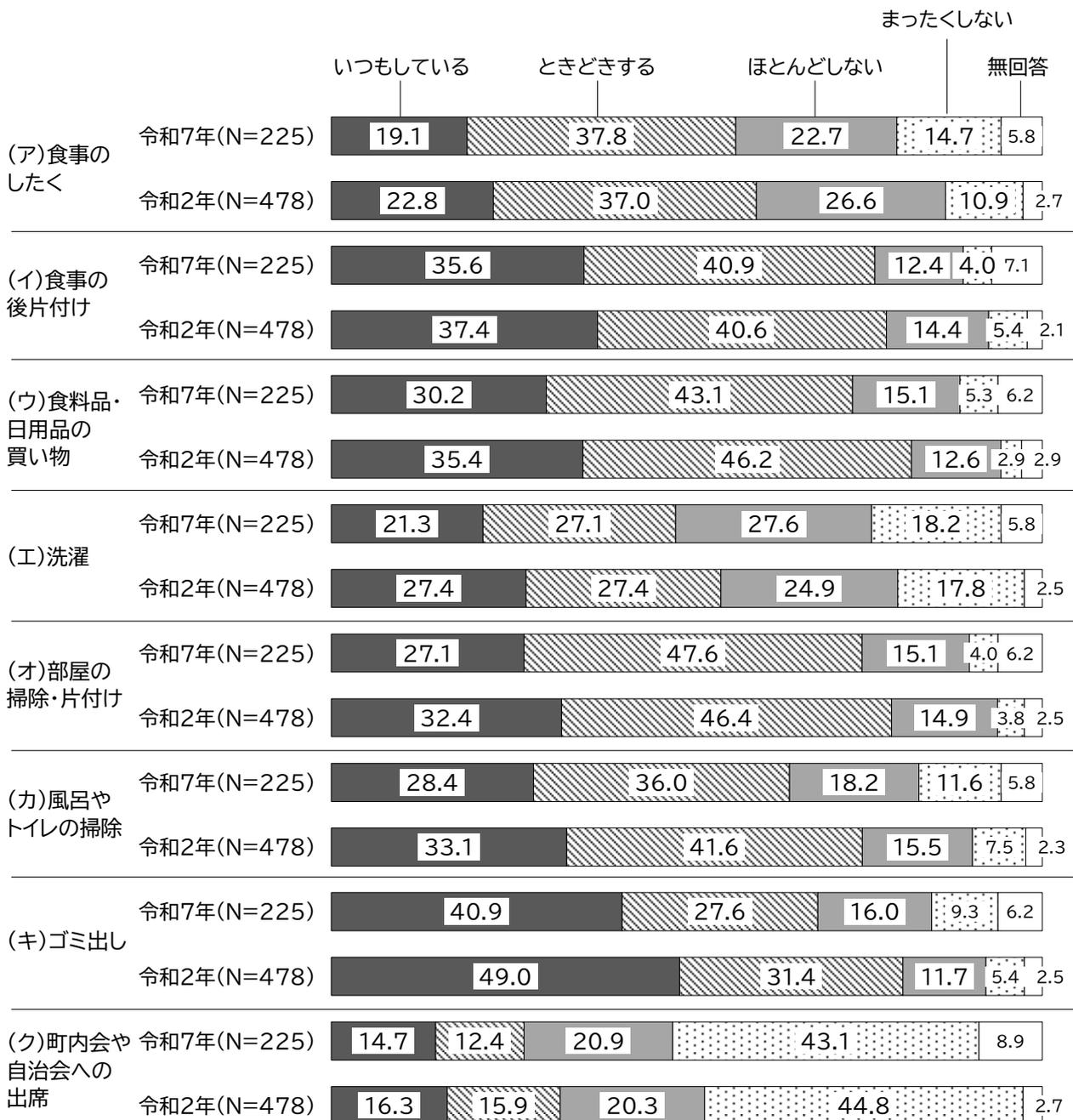
図表 4-1-7-② 家事などの分担（女性、令和7年・令和2年調査）



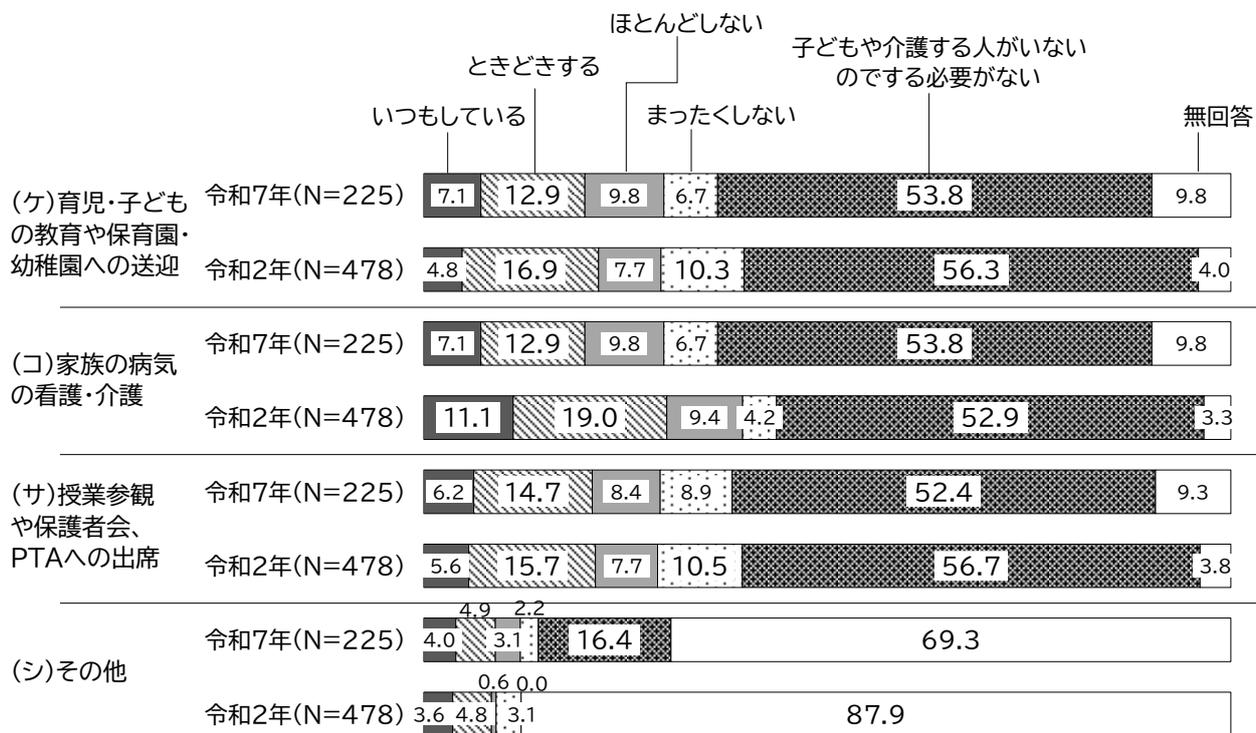
## ■男性

令和2年調査と比較すると、男性は「いつもしている」が、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園の送迎（令和7年調査：7.1%、令和2年調査：4.8%）』、『授業参観や保護者会、PTAへの出席（令和7年調査：6.2%、令和2年調査：5.6%）』、『その他（令和7年調査：4.0%、令和2年調査：3.6%）』以外のすべての項目で減っています。（図表4-1-7-③④）

図表 4-1-7-③ 家事などの分担（男性、令和7年・令和2年調査）



図表 4-1-7-④ 家事などの分担（男性、令和7年・令和2年調査）



## (2) 男性の家庭参画の度合い

問5 あなたは、家庭生活において男性は家事・育児・介護などについて、どれくらい取り組めばよいと思いますか。(○は1つだけ)

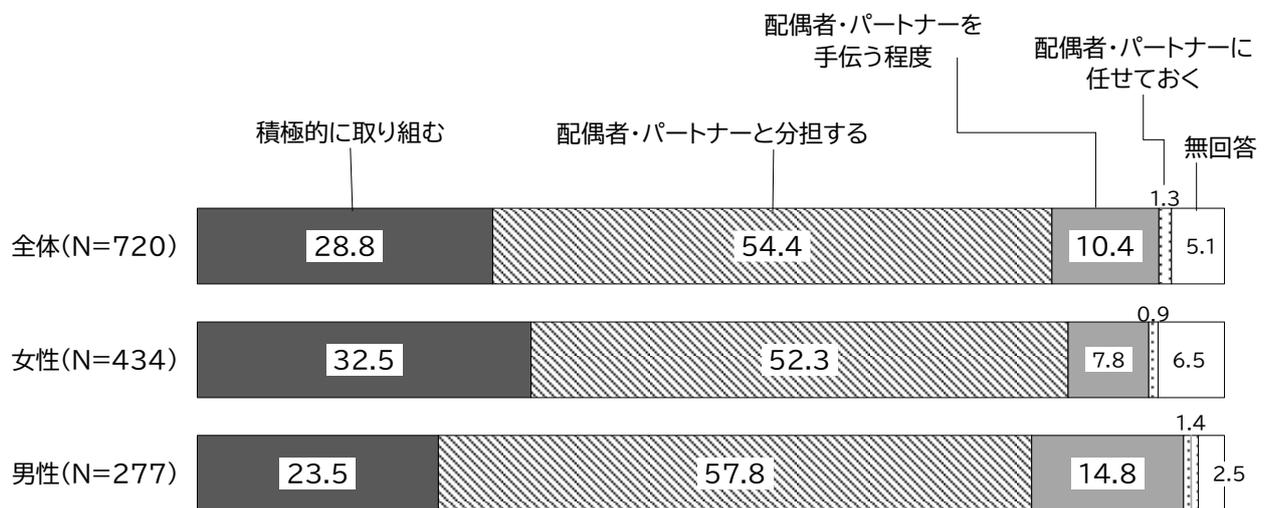
### 【全体】

全体では、「配偶者・パートナーと分担する(54.4%)」が最も多く、「積極的に取り組む(28.8%)」、「配偶者・パートナーを手伝う程度(10.4%)」が続いています。(図表4-2-1)

### 【性別】

性別で見ると、女性は「積極的に取り組む(女性:32.5%、男性:23.5%)」で男性を上回っています。(図表4-2-1)

図表 4-2-1 男性の家庭参画の度合い (全体、性別)

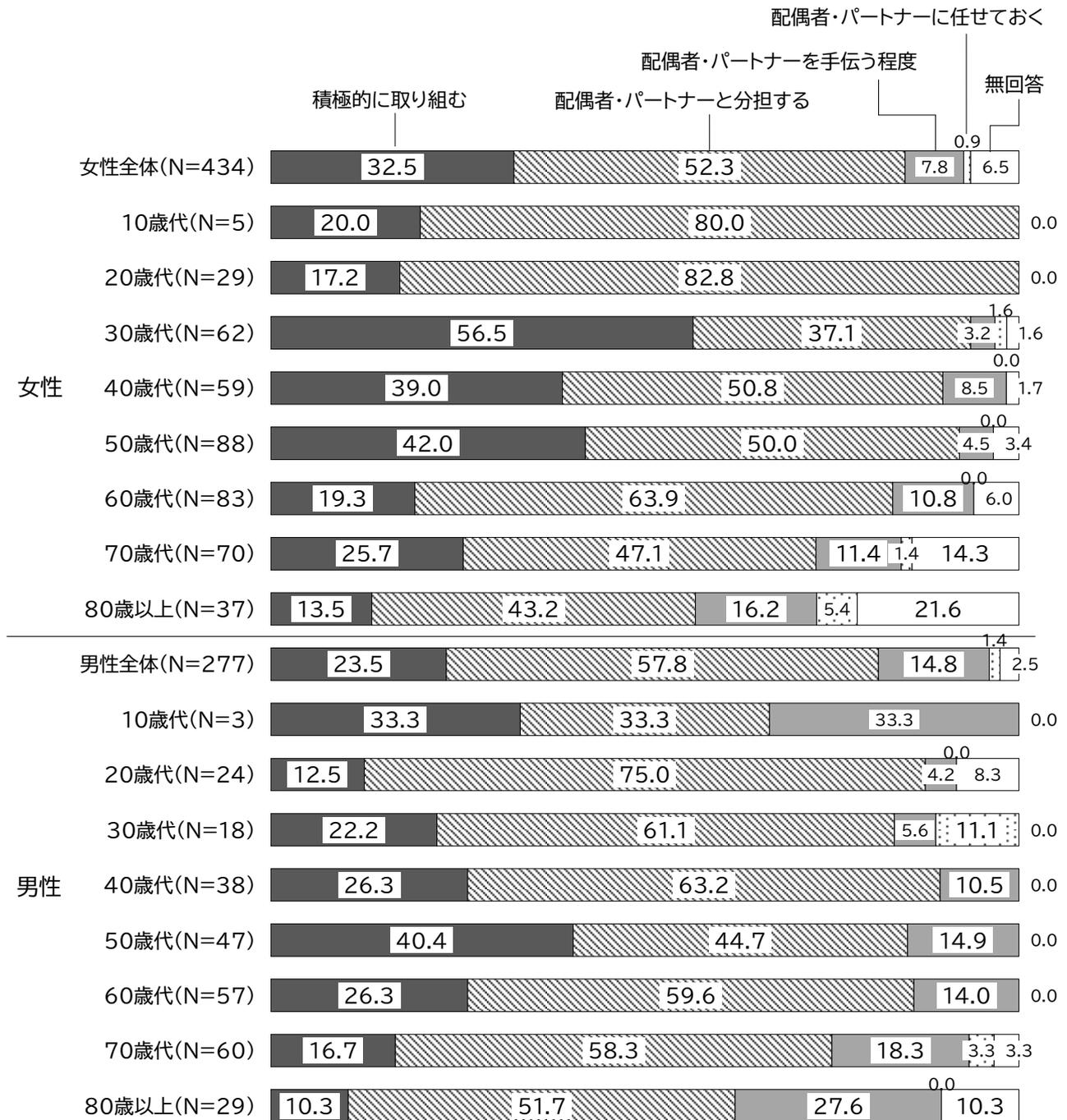


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は30歳代で「積極的に取り組む(56.5%)」が他の年代と比べて多くなっています。

男性は50歳代で「積極的に取り組む(40.4%)」が他の年代と比べて多くなっています。(図表4-2-2)

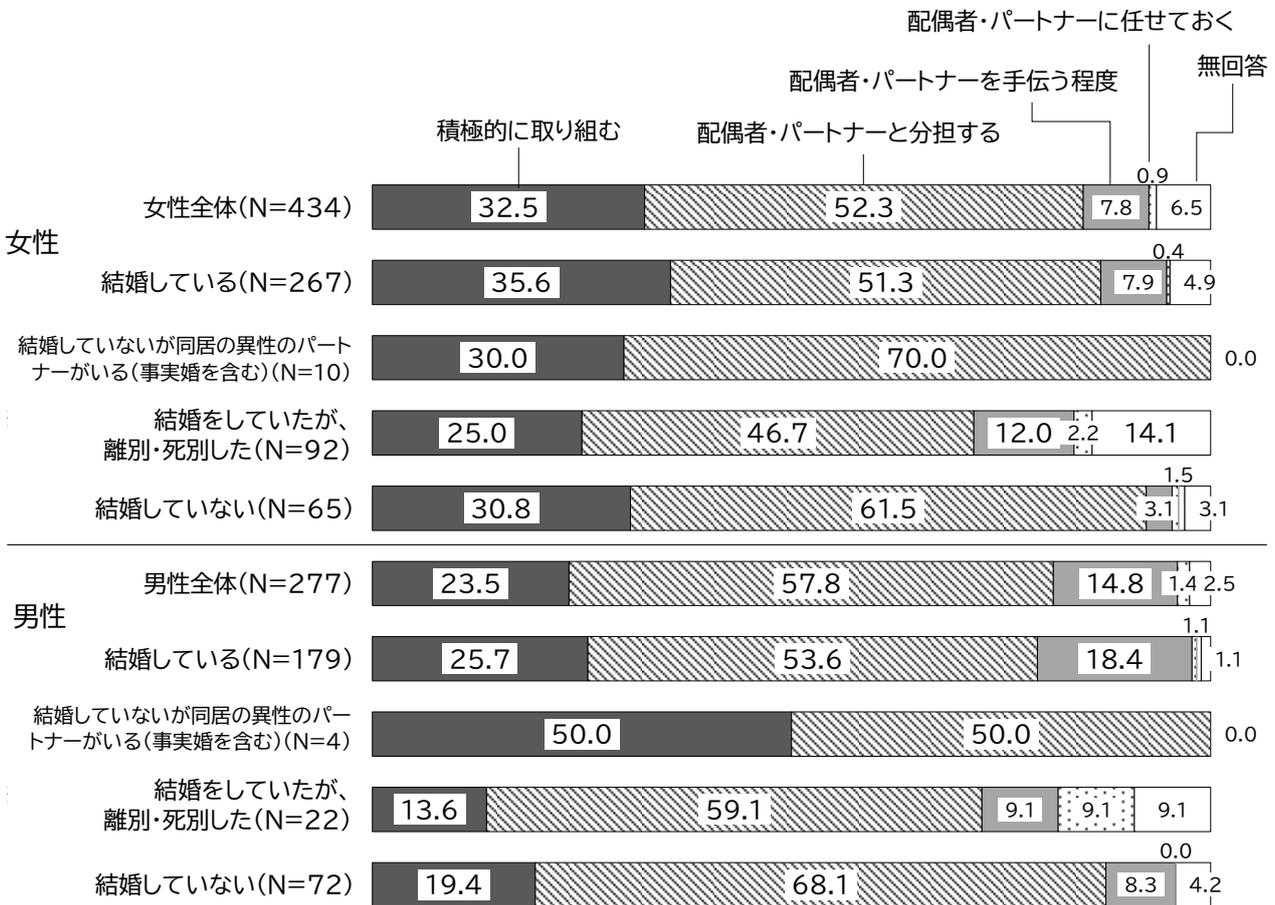
図表 4-2-2 男性の家庭参画の度合い (性・年代別)



**【性・未既婚別】**

性・未既婚別にみると、「積極的に取り組む」は、既婚でも(女性:35.6%、男性:25.7%)未婚でも(女性:30.8%、男性:19.4%)、女性が男性を上回っています。(図表4-2-3)

図表 4-2-3 男性の家庭参画の度合い(性・未既婚別)

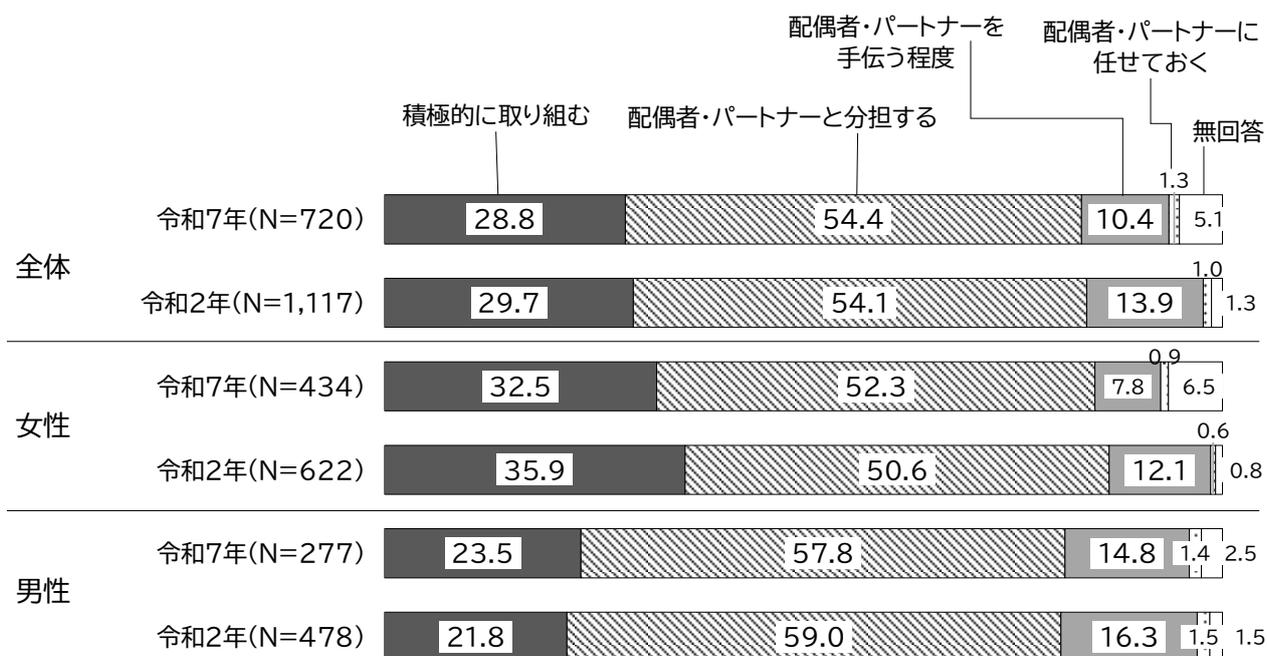


## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全体では「積極的に取り組む」と「配偶者・パートナーと分担する」の合計（令和7年調査：83.2%、令和2年調査：83.8%）は大きな変化はありません。

女性では「積極的に取り組む（令和7年調査：32.5%、令和2年調査：35.9%）」がやや減少しています。（図表4-2-4）

図表 4-2-4 男性の家庭参画の度合い（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



問5-1 問5で回答した理由をご記入ください。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

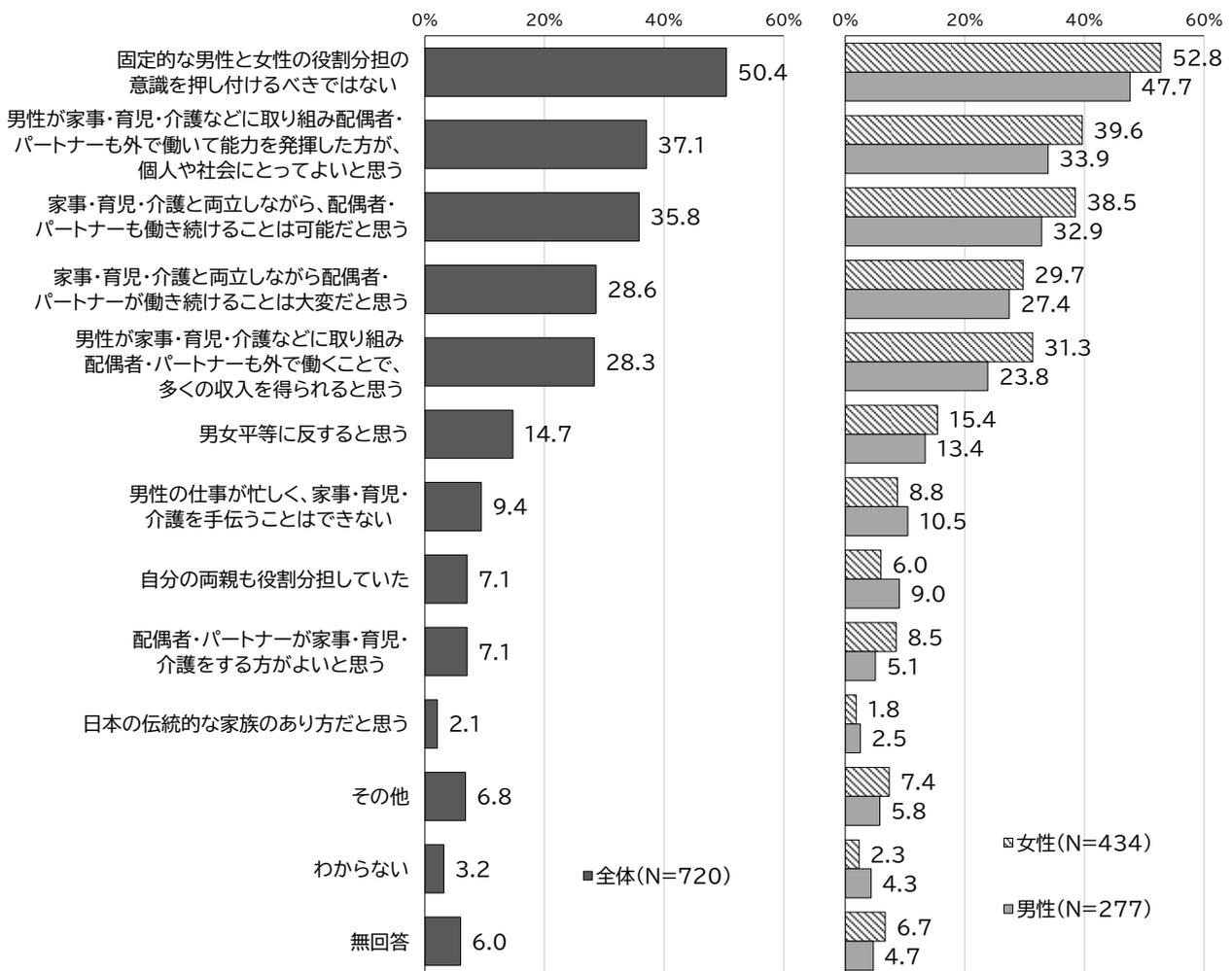
全体では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない(50.4%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとってよいと思う(37.1%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思う(35.8%)」が続いています。(図表4-2-5)

【性別】

性別で見ると、男女ともに「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない(女性：52.8%、男性：47.7%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない(女性：52.8%、男性：47.7%)」、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとってよいと思う(女性：39.6%、男性：33.9%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思う(女性：38.5%、男性：32.9%)」、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働くことで、多くの収入を得られると思う(女性：31.3%、男性：23.8%)」で、女性が男性を上回っています。(図表4-2-5)

図表 4-2-5 問5で回答した理由 (全体、性別)

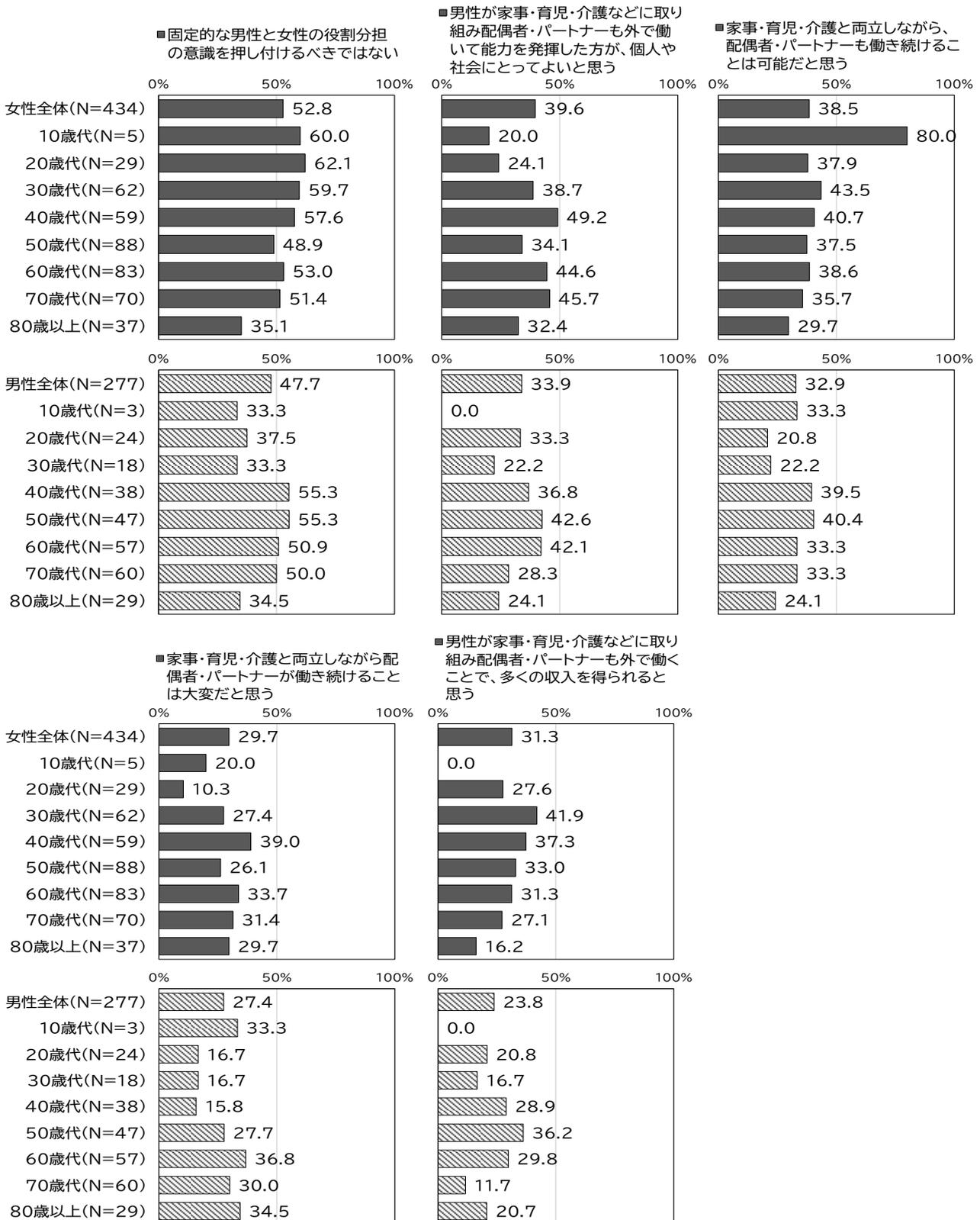


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない」が女性は50歳代(48.9%)と80歳以上(35.1%)を除いたすべての年代で5割を超えています。

男性は「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない」が40歳代から70歳代(40歳代:55.3%、50歳代:55.3%、60歳代:50.9%、70歳代:50.0%)で5割を超えています。(図表4-2-6)

図表 4-2-6 問5で回答した理由(性・年代別、上位5項目:複数回答)

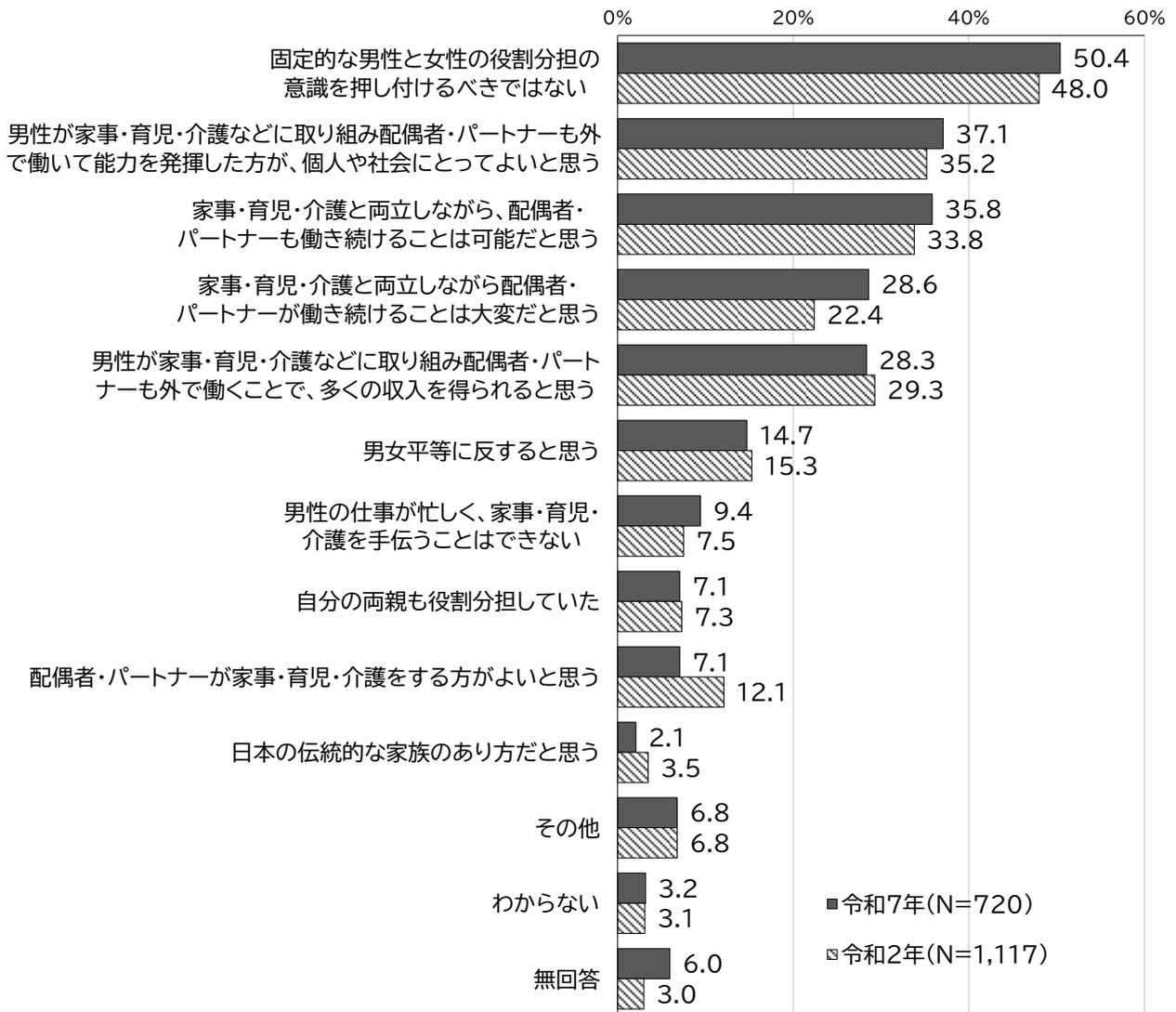


## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「家事・育児・介護と両立しながら配偶者・パートナーが働き続けることは大変だと思う(令和7年調査:28.6%、令和2年調査:22.4%)」が6.2%上回っています。

また、「配偶者・パートナーが家事・育児・介護をする方がよいと思う(令和7年調査:7.1%、令和2年調査:12.1%)」が令和2年調査よりも5.0%下回っています。(図表4-2-7)

図表 4-2-7 問5で回答した理由(全体、令和7年・令和2年調査)



### (3) 男性の家庭参画に必要なこと

問6 男性が家事・育児・介護にさらに参加するためには、何が必要だと思いますか。  
(○はあてはまるものすべて)

#### 【全体】

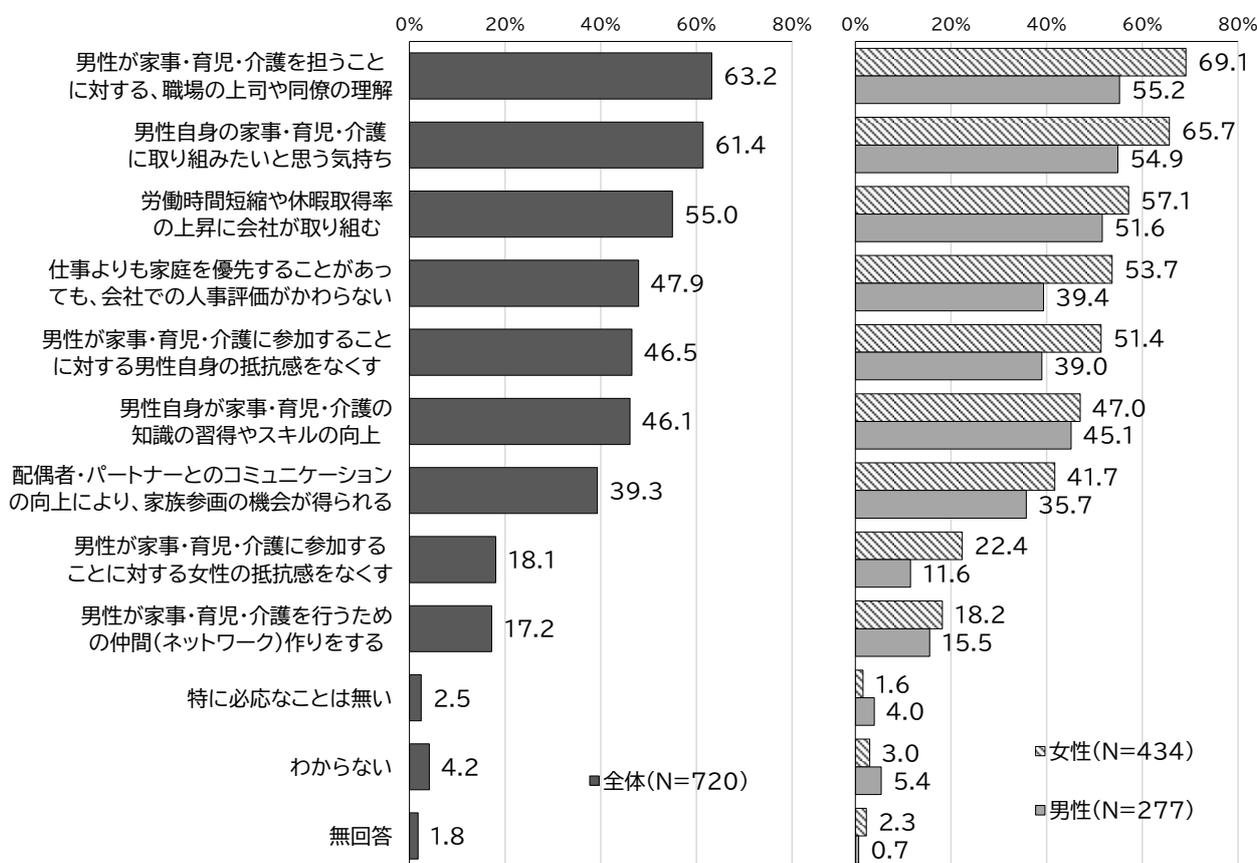
全体では、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(63.2%)」が最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち(61.4%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む(55.0%)」が続いています。(図表4-3-1)

#### 【性別】

性別でみると、女性は「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(69.1%)」が最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち(65.7%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む(57.1%)」が続いています。

男性は「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(55.2%)」が最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち(54.9%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む(51.6%)」、「男性自身が家事・育児・介護の知識の習得やスキルの向上(45.1%)」が続きます。(図表4-3-1)

図表 4-3-1 男性の家庭参画に必要なこと (全体、性別：複数回答)

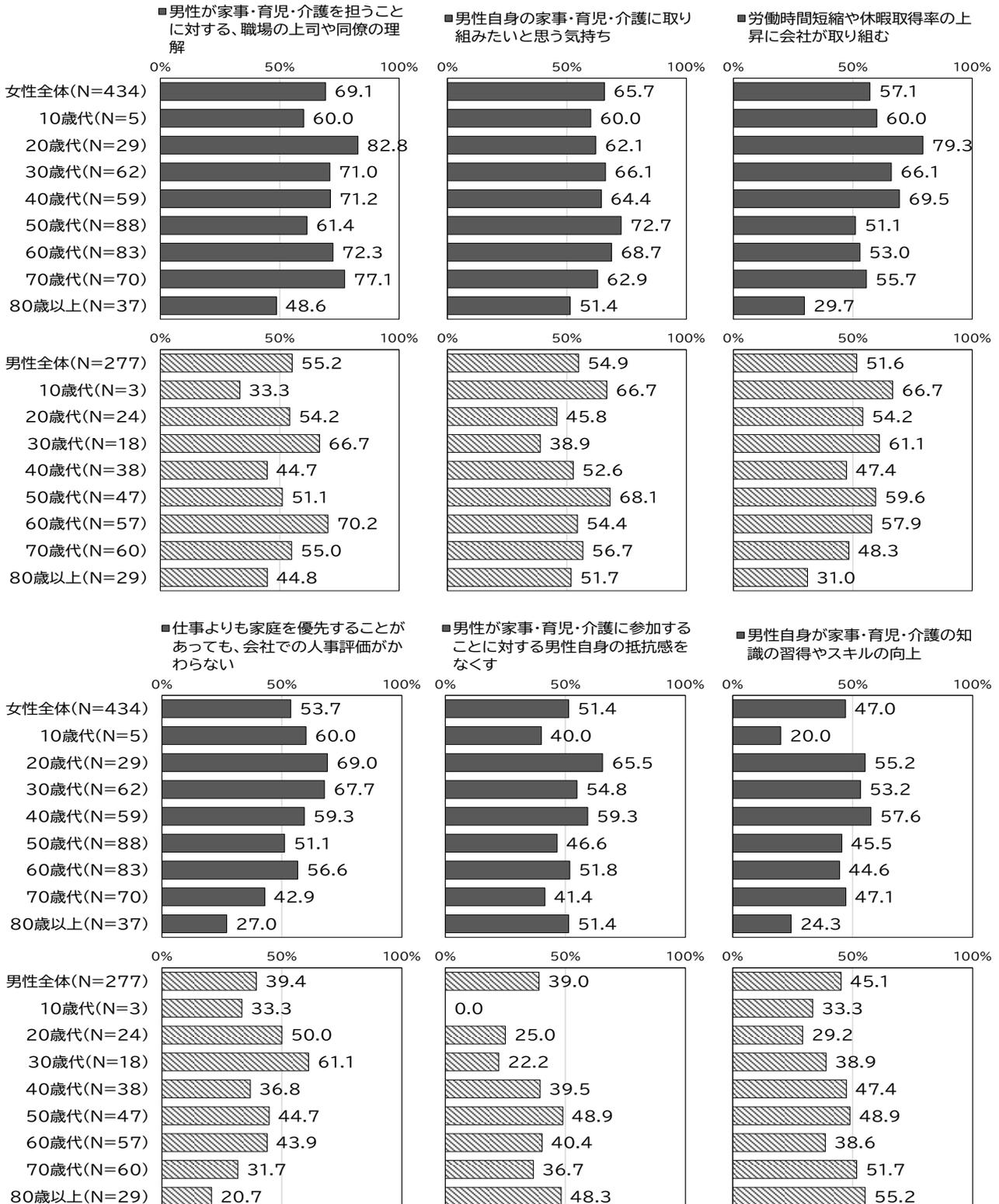


## 【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は20歳代が「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(82.8%)」、「労働時間短縮や休暇取得向上に会社が取り組む(79.3%)」で他の年代と比べて多くなっています。

男性は60歳代が「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(70.2%)」で他の年代と比べて多くなっています。(図表4-3-2)

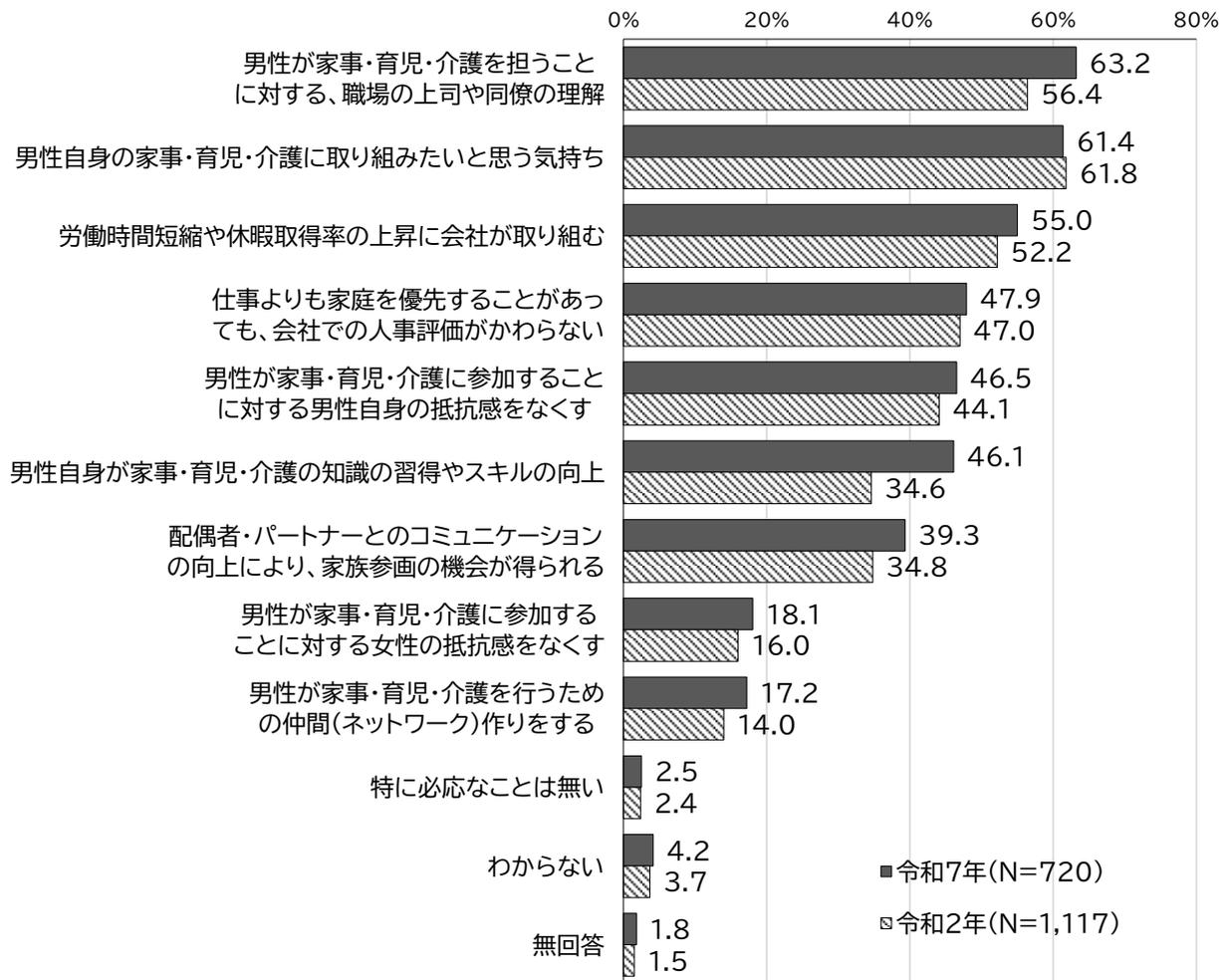
図表 4-3-2 男性の家庭参画に必要なこと（性・年代別、上位6項目：複数回答）



### 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち（令和7年調査：61.4%、令和2年調査：61.8%）」を除き、割合が上回っています。特に「男性自身が家事・育児・介護の知識やスキルの向上（令和7年調査：46.1%、令和2年調査：34.6%）」は11.5%上回っています。（図表4-3-3）

図表 4-3-3 男性の家庭参画に必要なこと（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）



# 5 就労

## (1) 職業

問7 あなたの職業は、次のどれですか。(○は1つだけ)

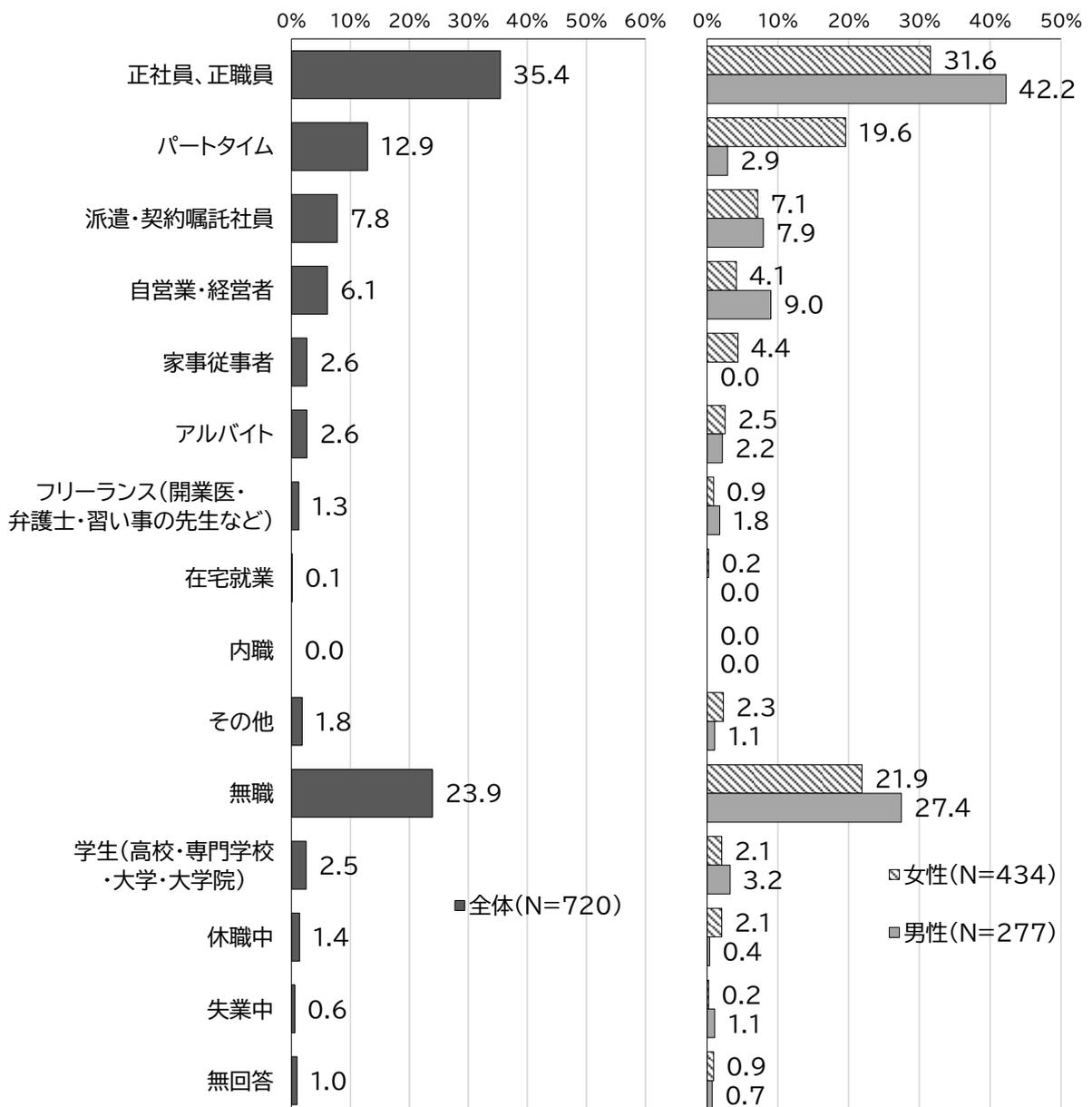
### 【全体】

全体では、「正社員・正職員(35.4%)」が最も多く、「パートタイム(12.9%)」、「派遣・契約嘱託社員(7.8%)」が続いています。「無職」は23.9%です。(図表5-1-1)

### 【性別】

性別で見ると、女性は「正社員・正職員(31.6%)」が最も多く、「パートタイム(19.6%)」、「派遣・契約嘱託社員(7.1%)」が続いています。男性は「正社員・正職員(42.2%)」が最も多くなっています。(図表5-1-1)

図表 5-1-1 職業 (全体、性別)

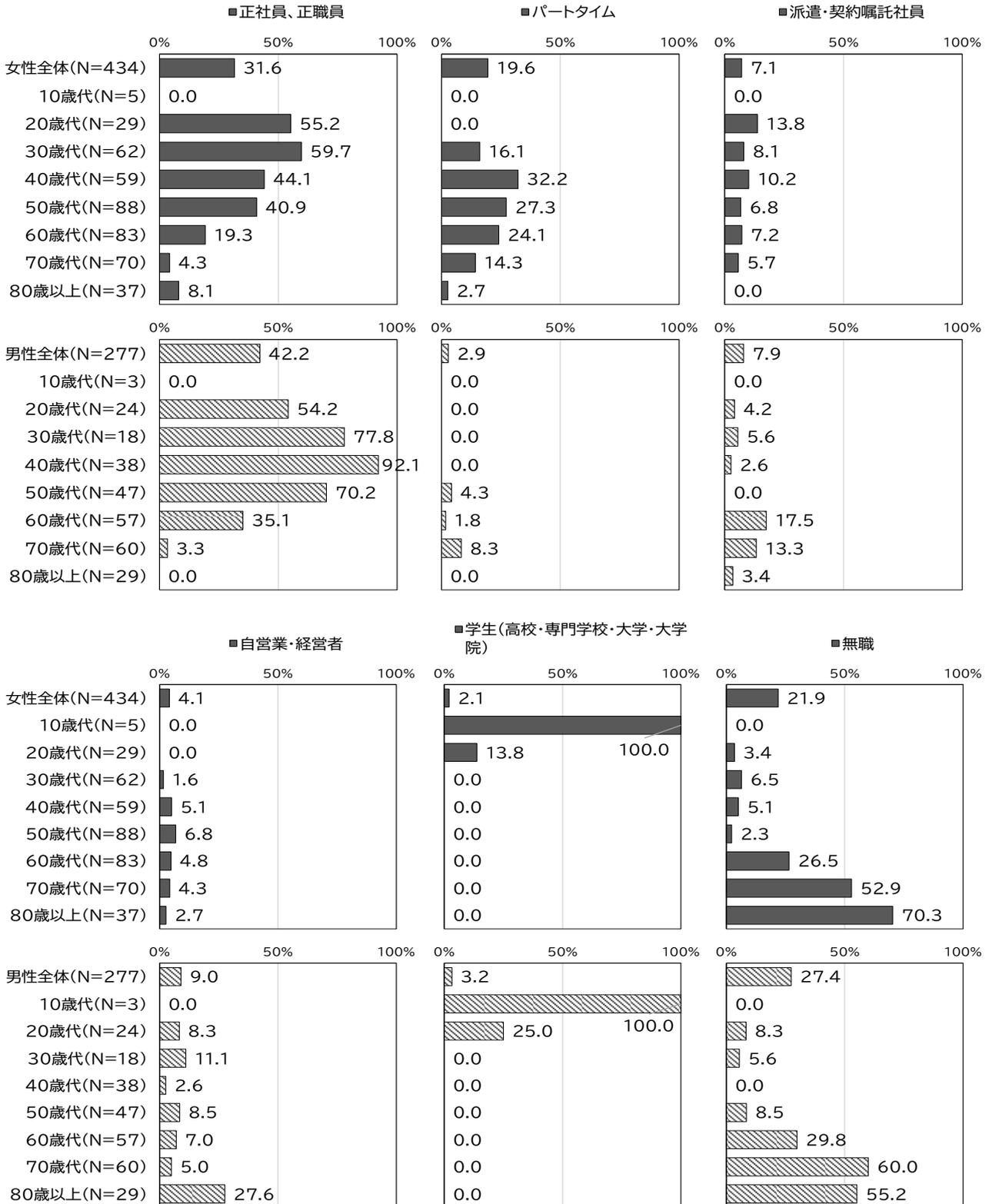


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は30歳代で「正社員、正職員(59.7%)」、40歳代で「パートタイム(32.2%)」、20歳代で「派遣・契約嘱託社員(13.8%)」が他の年代と比べて多くなっています。

男性は20歳代から60歳代で「正社員・正職員(20歳代:54.2%、30歳代:77.8%、40歳代:92.1%、50歳代:70.2%、60歳代35.1%)」が最も多くなっており、特に40歳代は9割を超えています。(図表5-1-2)

図表 5-1-2 職業 (性・年代別、上位6項目)



## (2) 職場での男女差別

問7で1～9のいずれかをお答えの方に  
 問7-1 あなたの職場では、次のような男女の差別がありますか。  
 (○はあてはまるものすべて)

### 【全体】

何らかの仕事をしている人に、その内容や待遇の問題点についてたずねました。

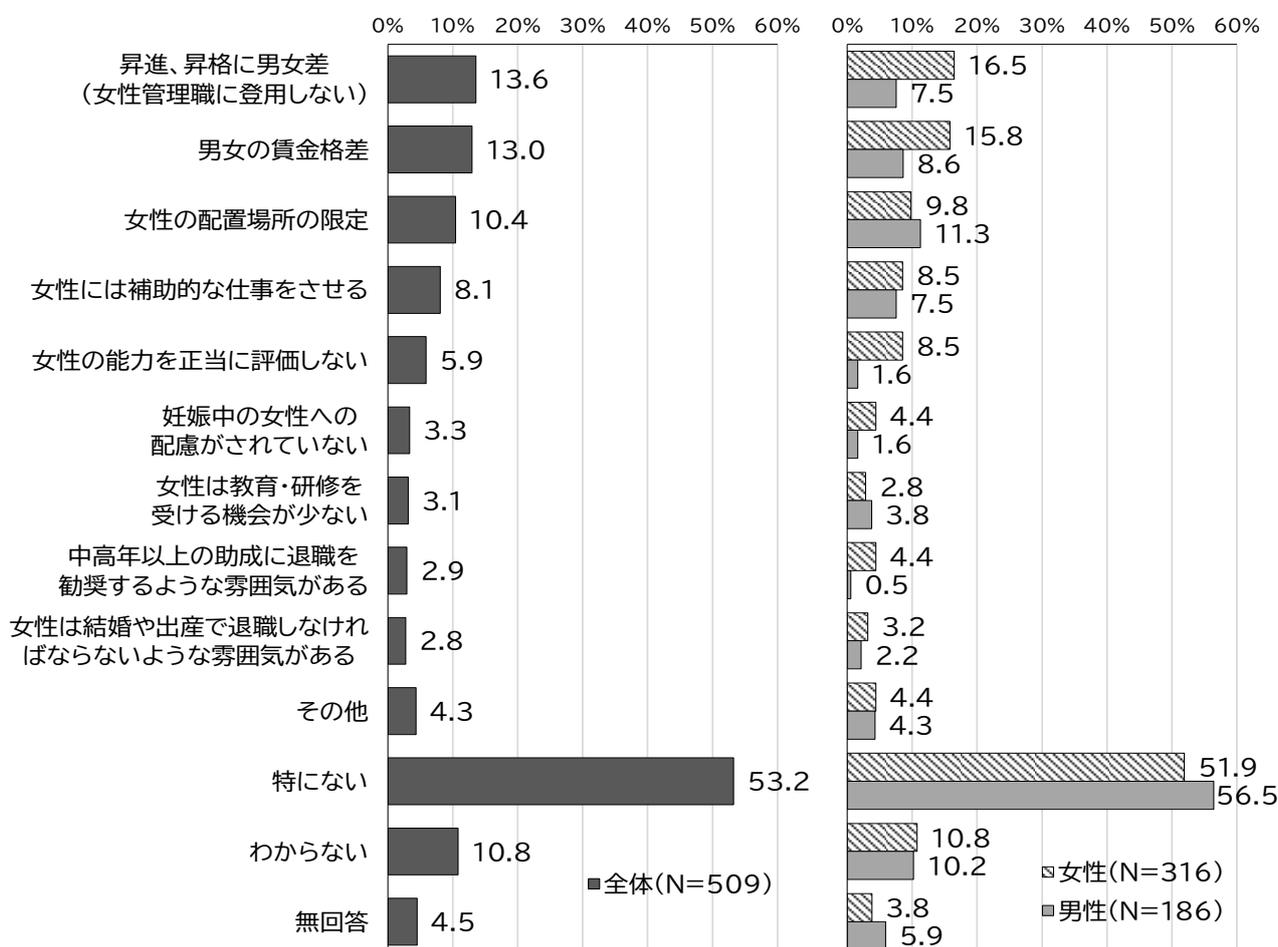
全体では、「特にない(53.2%)」が最も多く、「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(13.6%)」、「男女の賃金格差(13.0%)」、「女性の配置場所の限定(10.4%)」が続いています。(図表5-2-1)

### 【性別】

性別で見ると、男女ともに「特にない(女性:51.9%、男性:56.5%)」が最も多いですが、次いで女性は「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(16.5%)」、「男女の賃金格差(15.8%)」、「女性の配置場所の限定(9.8%)」が続いています。男性は「女性の配置場所の限定(11.3%)」、「男女の賃金格差(8.6%)」、「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(7.5%)」、「女性には補助的な作業をさせる(7.5%)」が続いています。

また、「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(女性:16.5%、男性:7.5%)」は、女性が男性を9.0%上回っています。(図表5-2-1)

図表 5-2-1 職場での男女差別 (全体、性別：複数回答)  
 <働いている人>

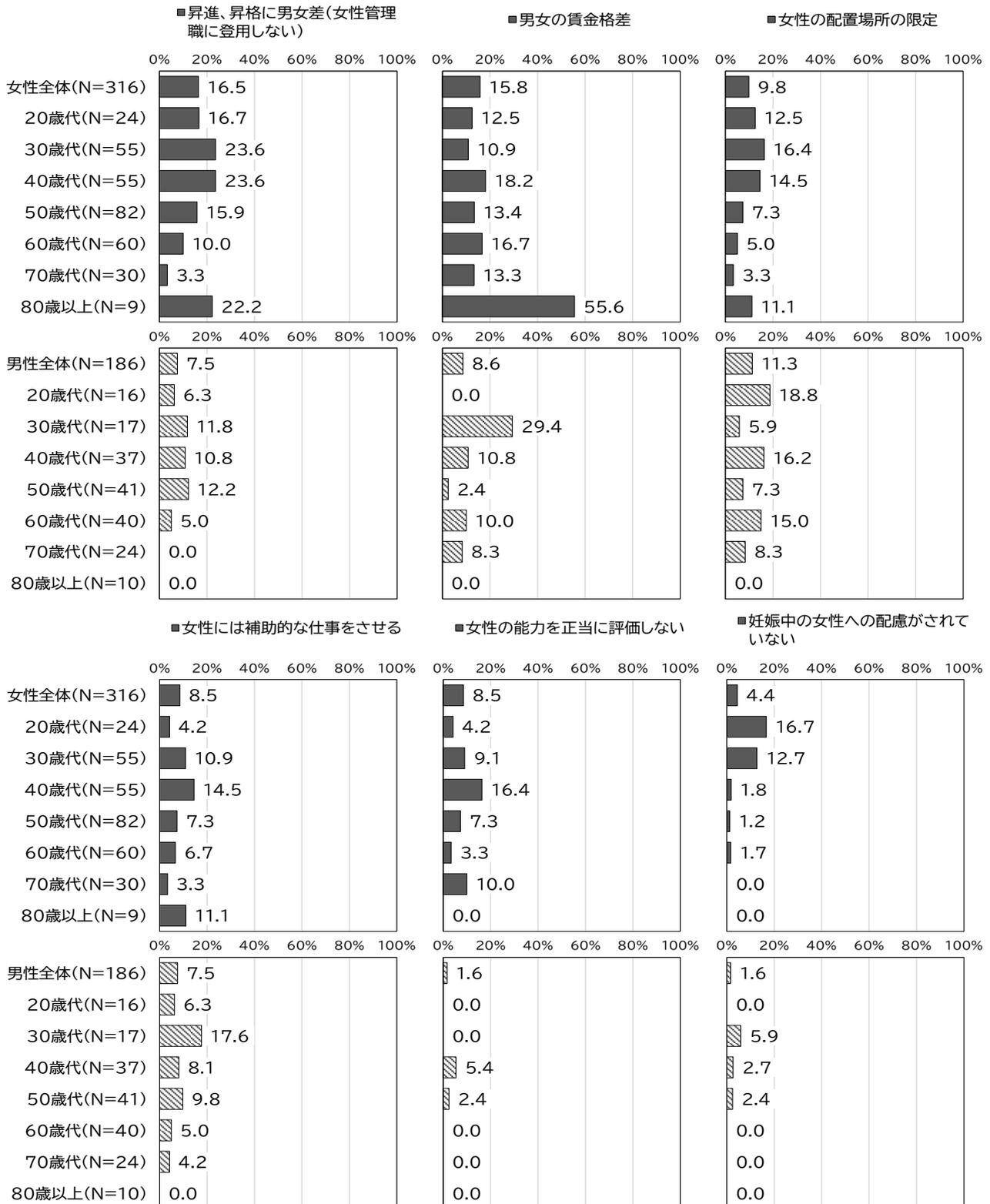


**【性・年齢別】**

性・年代別にみると、女性は30歳代と40歳代で「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(30歳代:23.6%、40歳代:23.6%)」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

男性は30歳代で「男女の賃金格差(29.4%)」が他の年代と比べて多くなっています。(図表5-2-2)

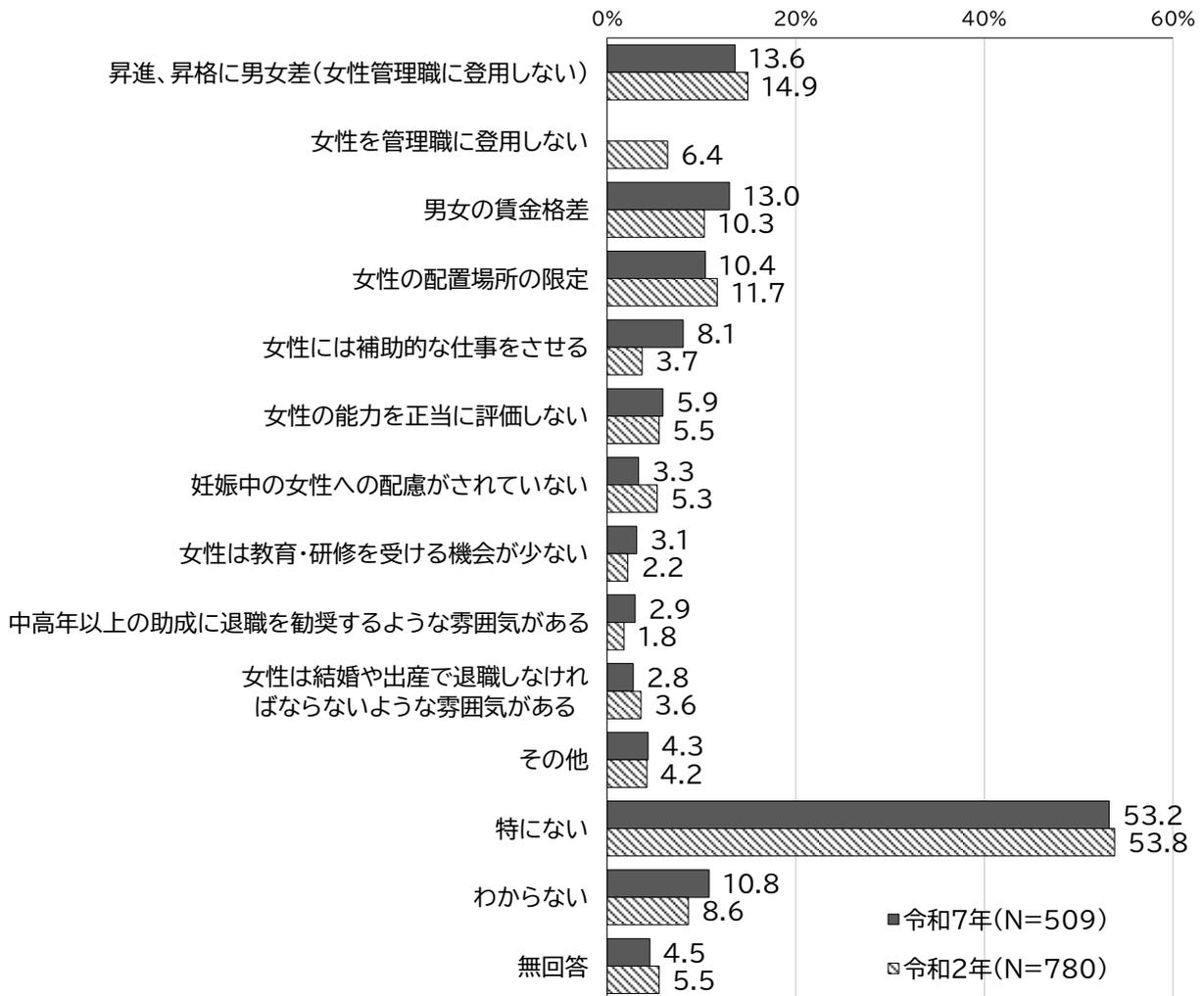
図表 5-2-2 職場での男女差別（性・年代別、「特になし」を除く上位6項目：複数回答）  
 <働いている人>



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「男女の賃金格差(令和7年調査:13.0%、令和2年調査:10.3%)」、「女性には補助的な仕事をさせる(令和7年調査8.1%、令和2年調査:3.7%)」、「女性の能力を正當に評価しない(令和7年調査:5.9%、令和2年調査:5.5%)」が増えています。(図表5-2-3)

図表 5-2-3 職場での男女差別(全体、令和7年・令和2年調査:複数回答)  
 <働いている人>



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

### (3) 女性の働き方についての意識

問8 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。  
(○は1つだけ)

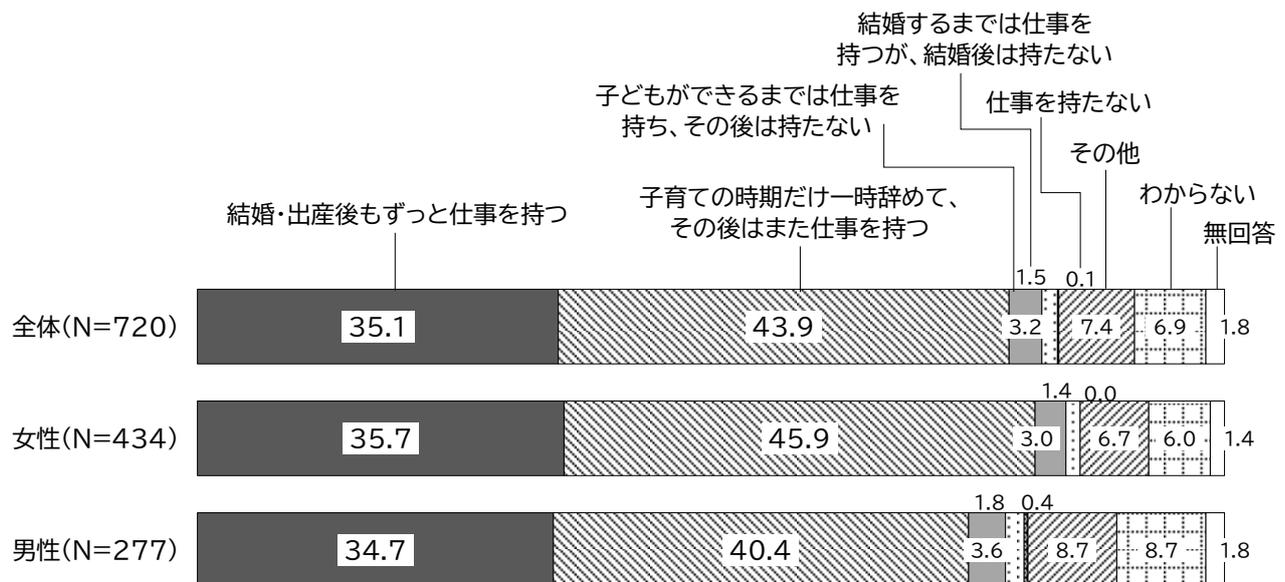
#### 【全体】

全体では、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ(43.9%)」が最も多く、「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(35.1%)」が続いています。(図表5-3-1)

#### 【性別】

性別で見ると、女性は、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ(女性:45.9%、男性:40.4%)」、「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(女性:35.7%、男性:34.7%)」で男性を上回っています。(図表5-3-1)

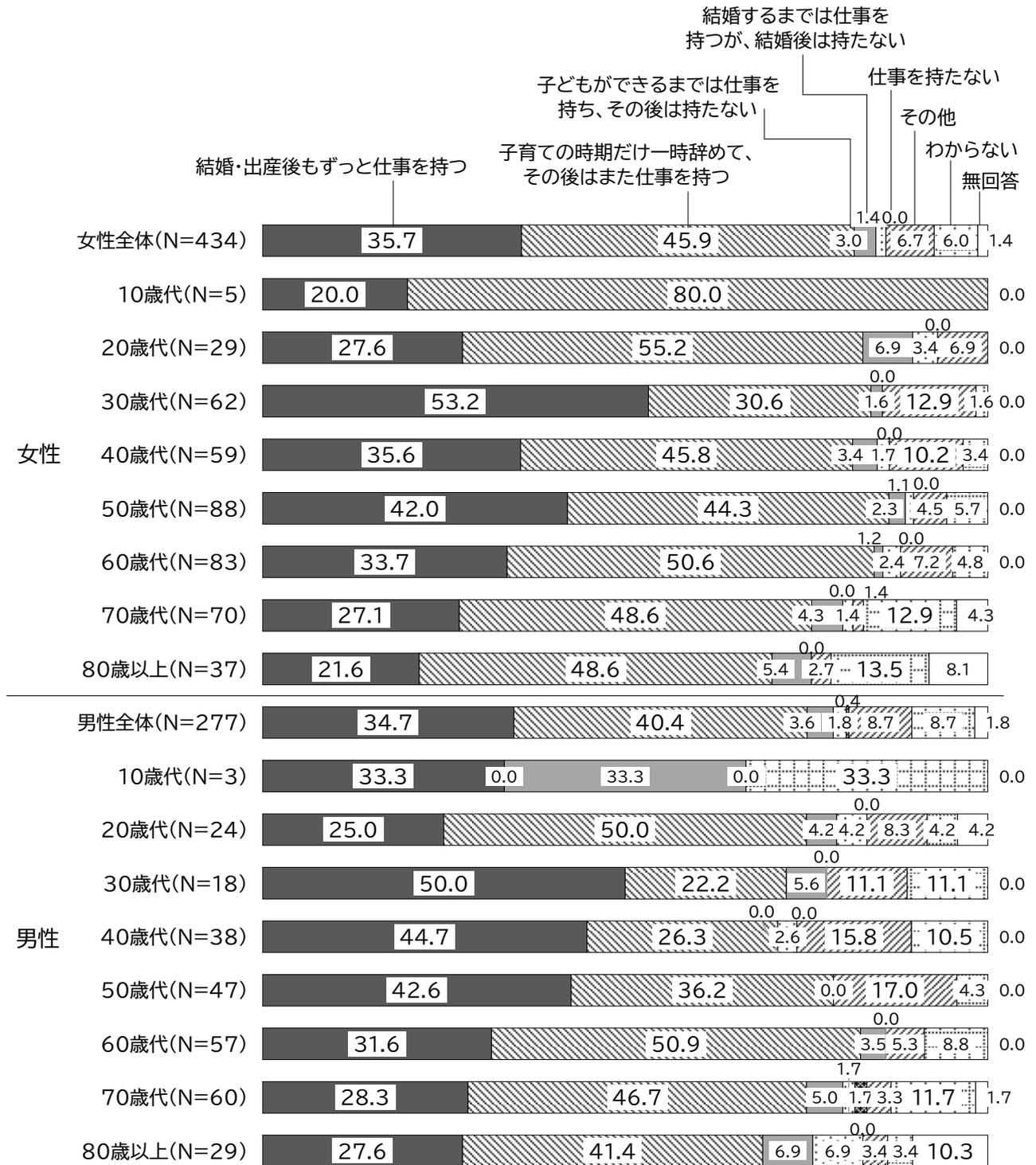
図表 5-3-1 女性の働き方についての意識 (全体、性別)



【性・年代別】

年齢別でみると、男女ともに30歳代で「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(女性:53.2%、男性:50.0%)」と5割を超え、他の年代と比べて多くなっています。「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」では、女性では10歳代(80.0%)、20歳代(55.2%)、60歳代(50.6%)が、男性では20歳代(50.0%)、60歳代(50.9%)が5割となっています。(図表5-3-2)

図表 5-3-2 女性の働き方についての意識 (性・年代別)

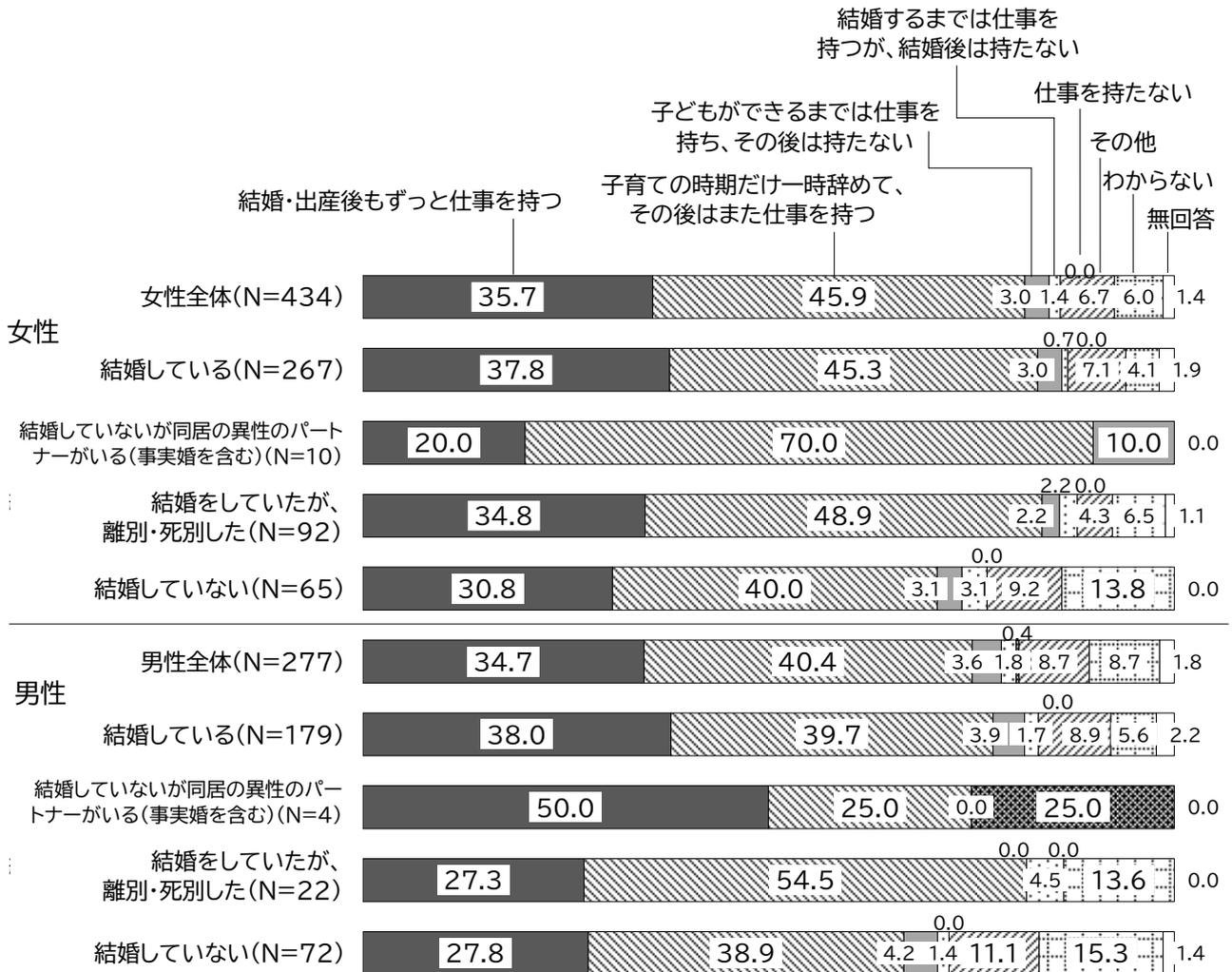


**【性・未既婚別】**

性・未既婚別にみると、女性は既婚・未婚いずれも「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」が最も多くなっています。

男性も女性同様に既婚・未婚いずれも「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」が最も多くなっています。(図表5-3-3)

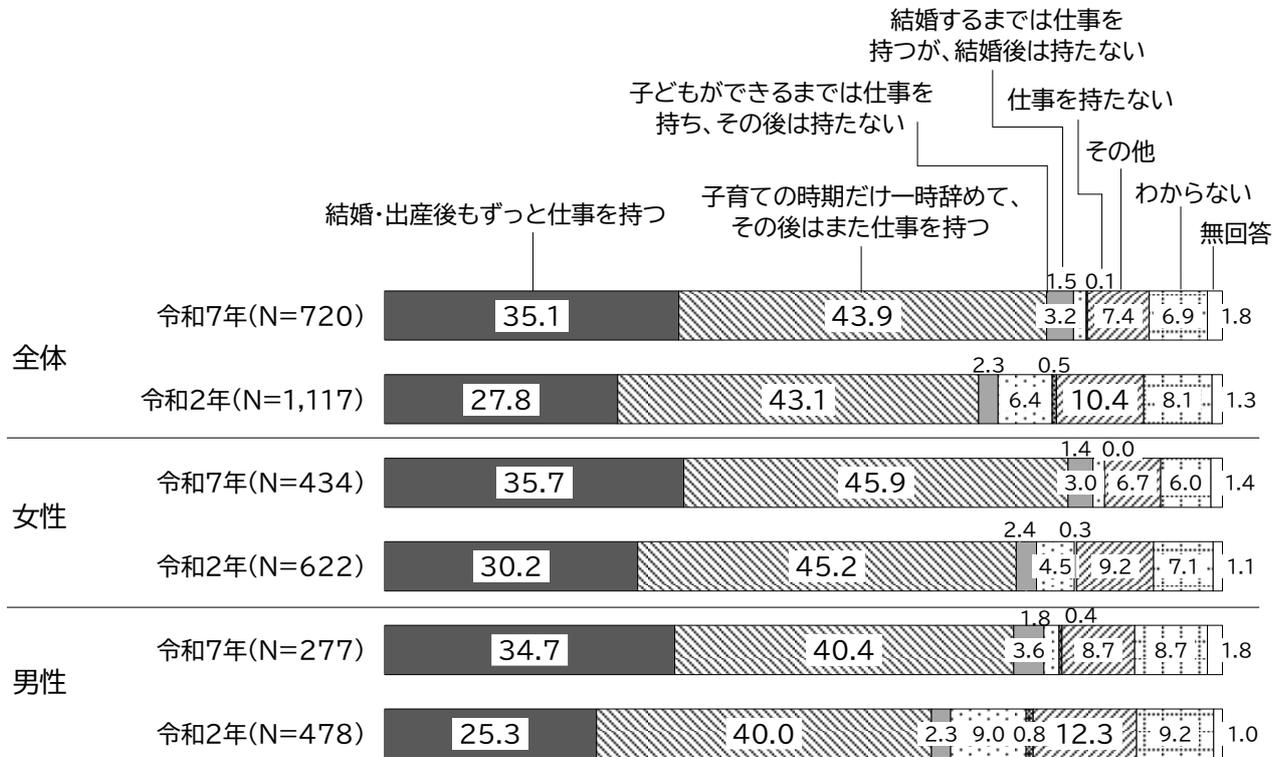
図表 5-3-3 女性の働き方についての意識 (性・未既婚別)



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、令和7年調査では、男女ともに「結婚・出産後もずっと仕事を持つ」が増えています。(図表5-3-4)

図表 5-3-4 女性の働き方についての意識（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



問8-1 問8で回答した理由をご記入ください。(○はあてはまるものすべて)

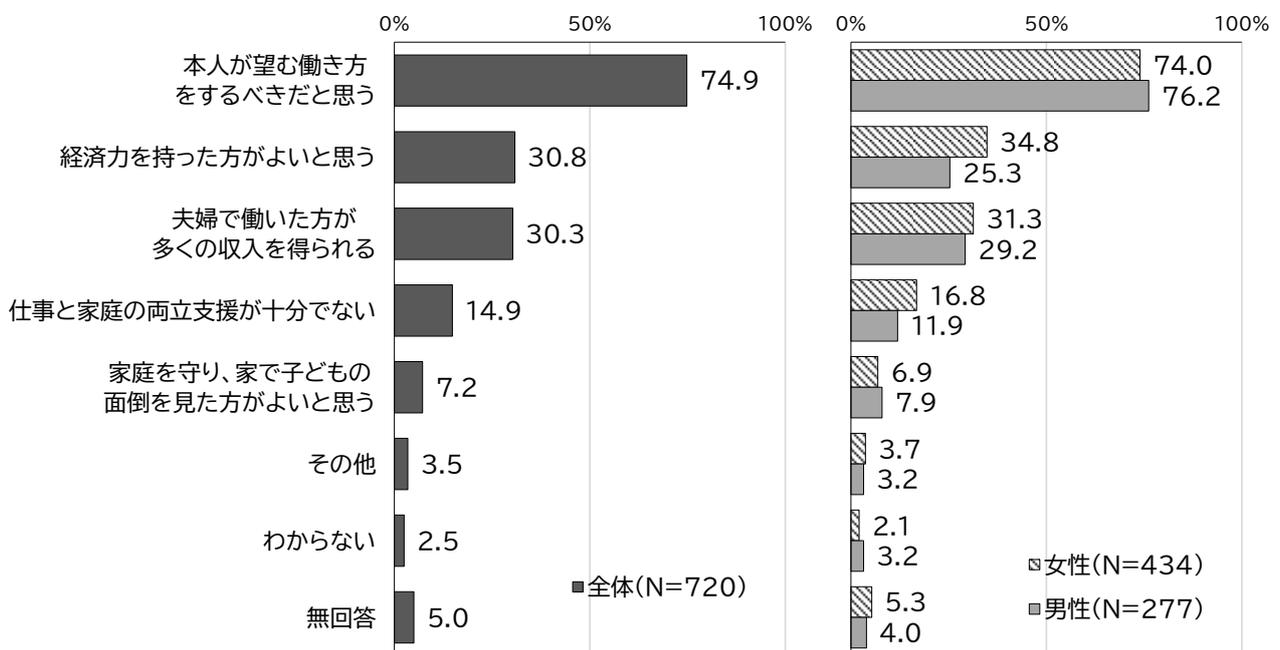
【全体】

全体では、「本人が望む働き方をするべきだと思う(74.9%)」が最も多く、「経済力を持った方がよいと思う(30.8%)」、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる(30.3%)」が続いています。(図表5-3-5)

【性別】

性別で見ると、男女ともに「本人が望む働き方をするべきだと思う(女性:74.0%、男性:76.2%)」が最も多く7割を超えています。(図表5-3-5)

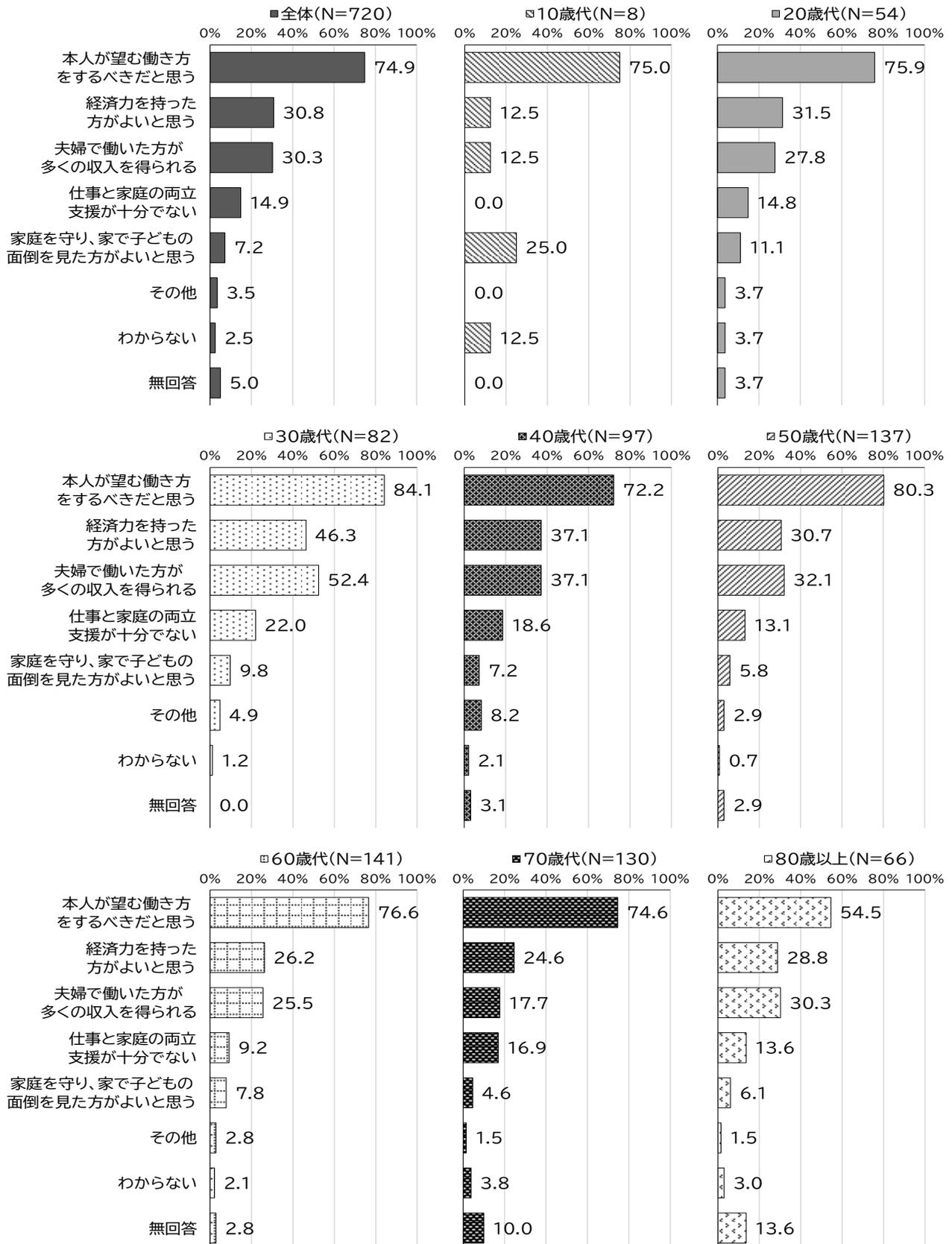
図表 5-3-5 問8で回答した理由 (全体、性別)



【性・年代別】

年齢別でみると、すべての年代で「本人が望む働き方をするべきだと思う」が最も多くなっていますが、30歳代で「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる(52.4%)」と「経済力を持った方がよいと思う(46.3%)」が他の年代と比べて多くなっています。(図表5-3-6)

図表 5-3-6 問8で回答した理由（全体、年齢別）

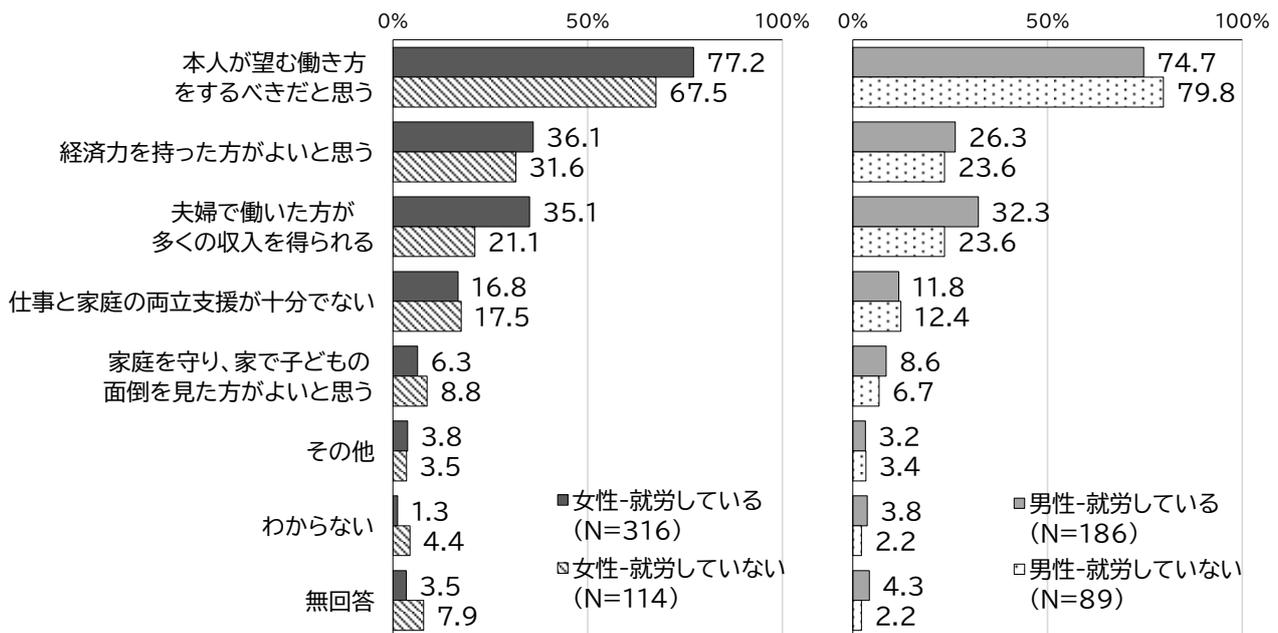


**【性・就労の有無別】**

就労の有無別でみると、女性では「本人が望む働き方をすべきだと思う」と「経済力を持った方がよいと思う」と「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる」の割合が、就労していない方よりも就労している方のほうが多くなっています。

男性では「本人が望む働き方をすべきだと思う」の割合が就労していない方よりも就労しているの方が少なくなっています。「経済力を持った方がよいと思う」と「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる」の割合では就労していない方よりも就労しているの方が多くなっています。(図表5-3-7)

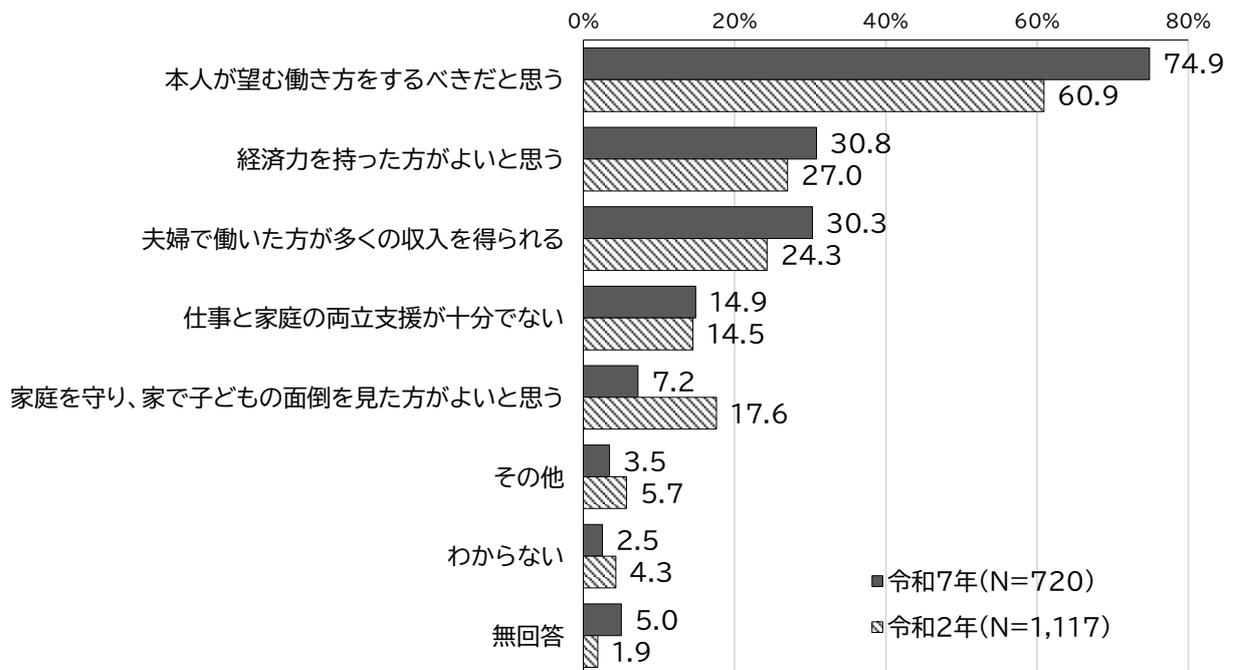
図表 5-3-7 問8で回答した理由（性・就労の有無別）



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「本人が望む働き方をすべきだと思う(令和7年調査:74.9%、令和2年調査:60.9%)」が14.0%増えています。その他の項目も増えていますが、「家庭を守り、家で子どもの面倒を見た方がよいと思う(令和7年調査:7.2%、令和2年調査:17.6%)」は10.4%減っています。(図表5-3-8)

図表 5-3-8 問8で回答した理由(全体、令和7年・令和2年調査)



#### (4) 女性の再就職に対する支援

問9 結婚や妊娠・出産により仕事を辞めた女性が再び仕事を持つことを希望する場合、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

##### 【全体】

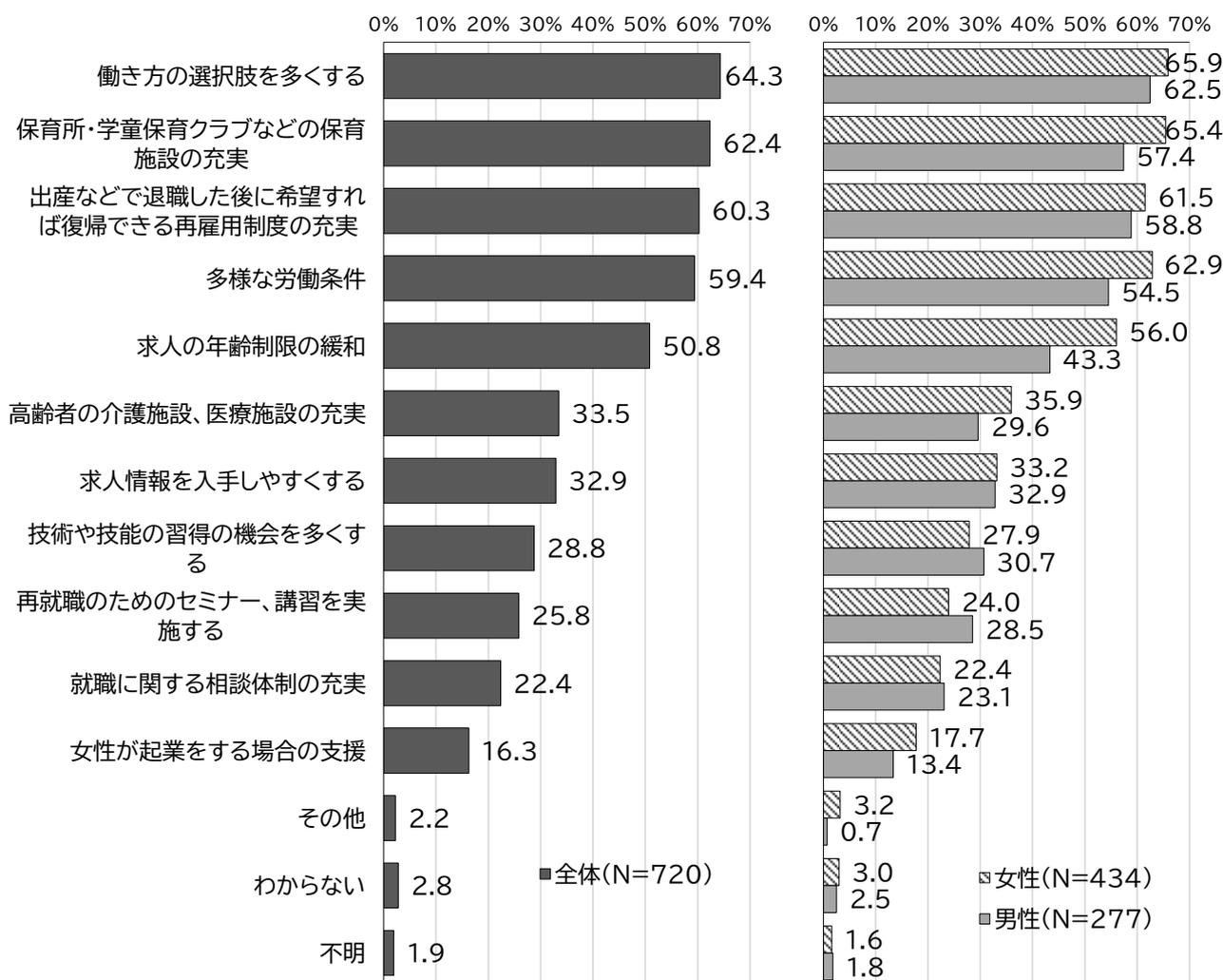
全体では、「働き方の選択肢を多くする(64.3%)」が最も多く、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実(62.4%)」「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実(60.3%)」、「多様な労働条件(59.4%)」が続いています。(図表5-4-1)

##### 【性別】

性別で見ると、女性は「働き方の選択肢を多くする(65.9%)」、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実(65.4%)」、「多様な労働条件(62.9%)」、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実(61.5%)」が6割台、「求人の年齢制限の緩和(56.0%)」が5割台となっています。男性は「働き方の選択肢を多くする(62.5%)」が6割台となっています。

また、男女の違いをみると、女性は、「求人の年齢制限の緩和(女性:56.0%、男性:43.3%)」で男性を12.7%上回っています。(図表5-4-1)

図表 5-4-1 女性の再就職に対する支援（全体、性別：複数回答）

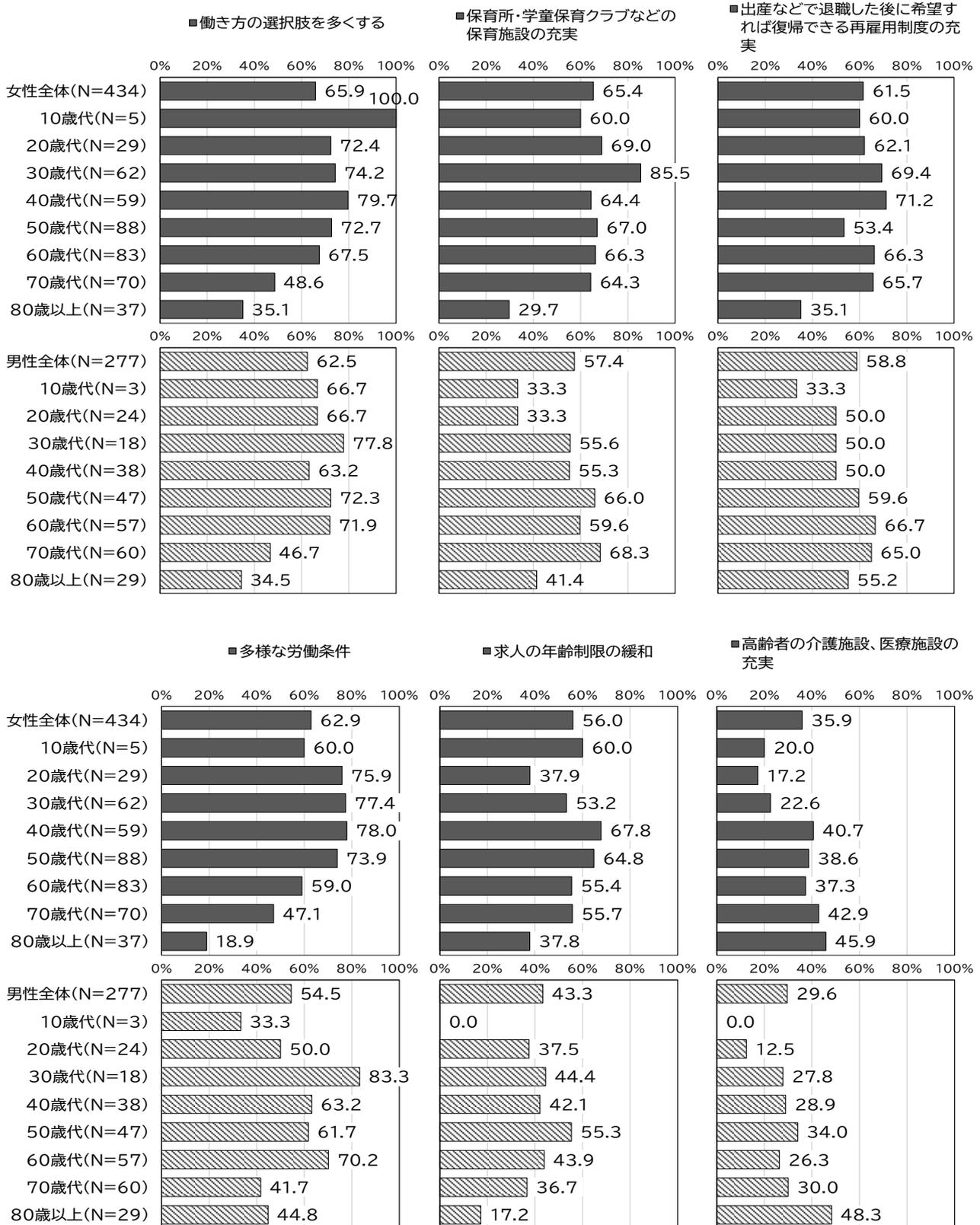


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は30歳代で「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実(85.5%)」が他の年代と比べて多くなっています。

男性は30歳代で「多様な労働条件(83.3%)」が他の年代に比べて多くなっています。(図表5-4-2)

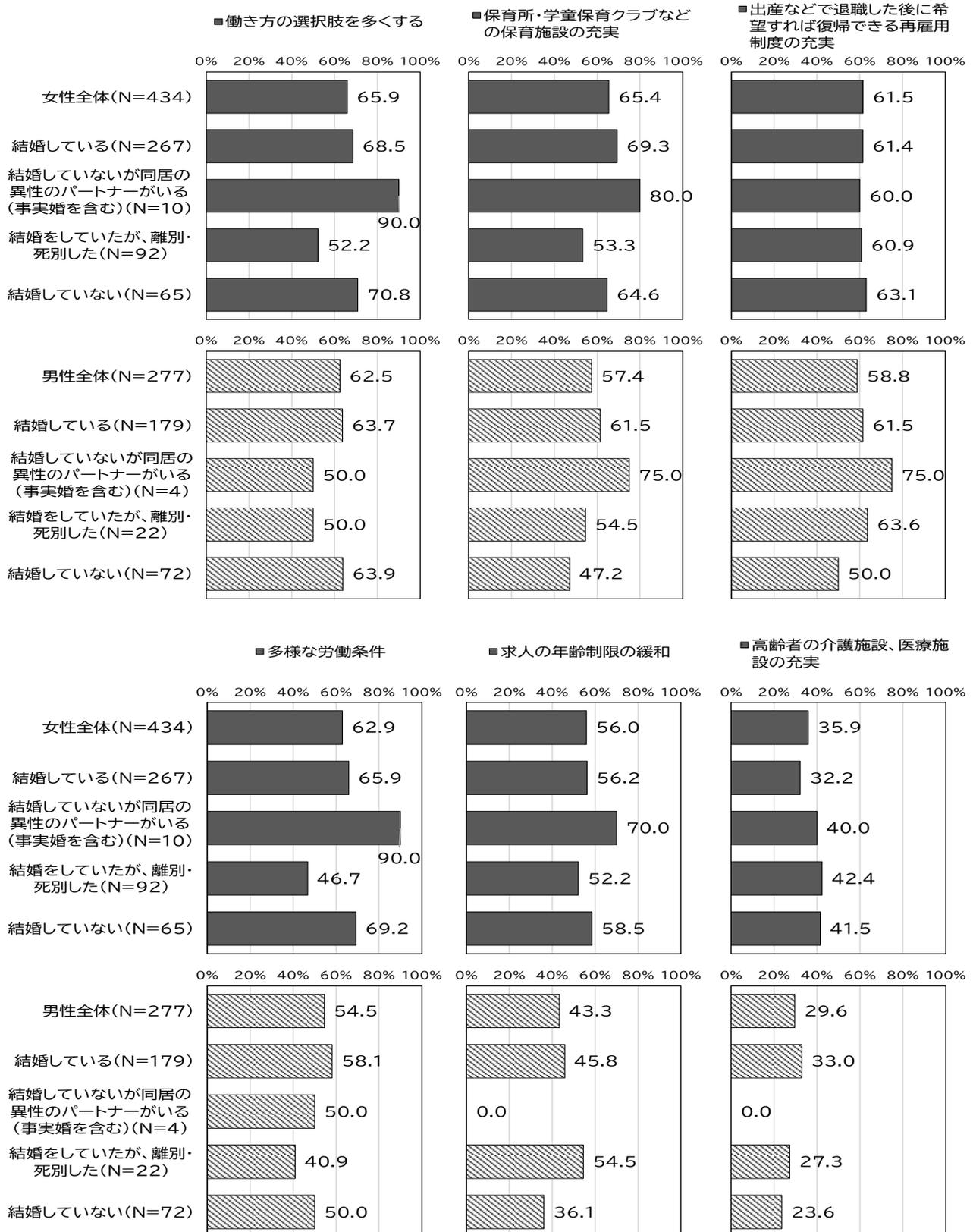
図表 5-4-2 女性の再就職に対する支援（性・年代別、上位6項目：複数回答）



## 【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、女性は既婚・未婚いずれも「働き方の選択肢を多くする」「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実」「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実」「多様な労働条件」が6割台と高くなっています。

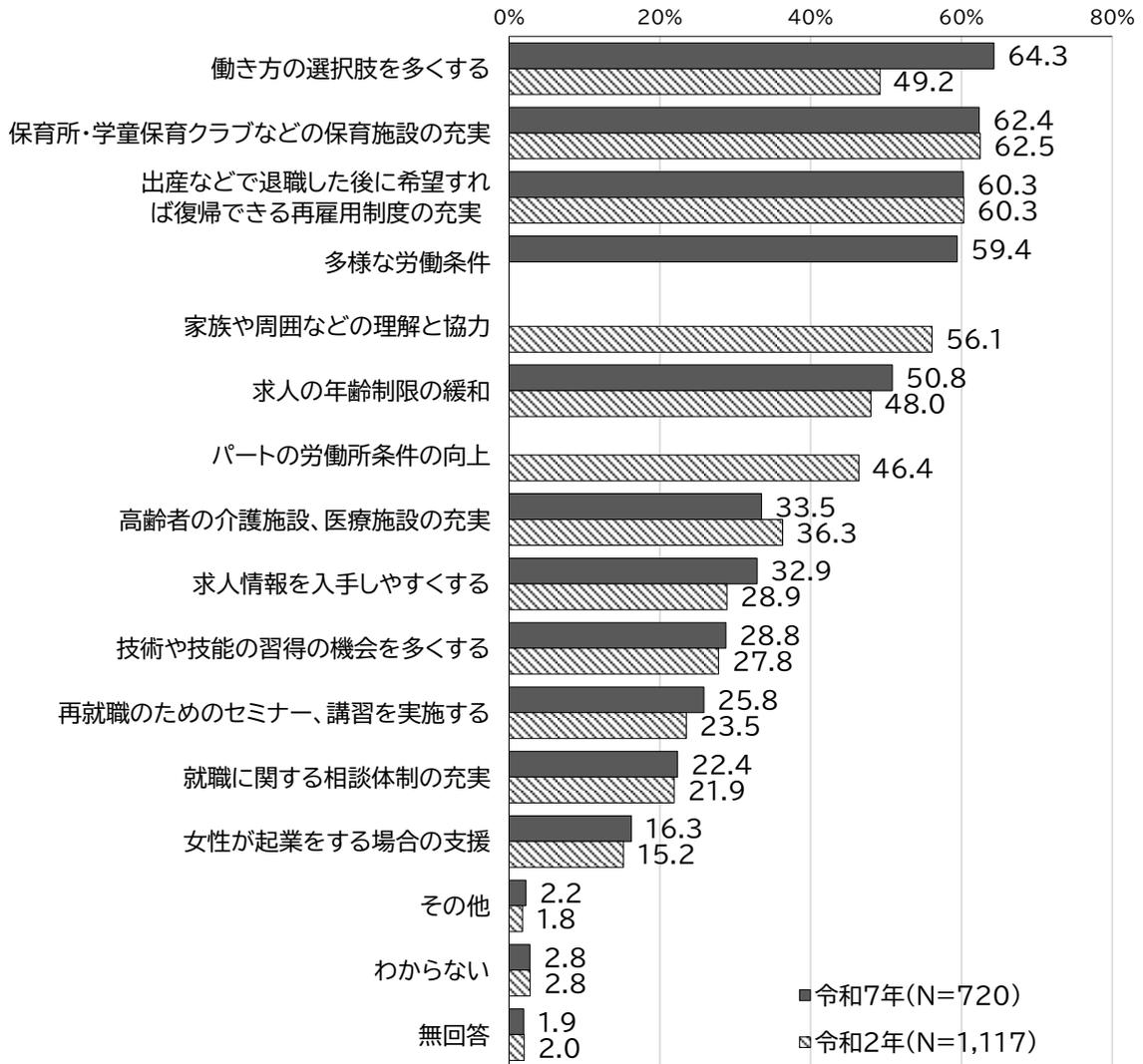
図表 5-4-3 女性の再就職に対する支援（性・未既婚別、上位6項目：複数回答）



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、「働き方の選択肢を多くする(令和7年調査:64.3%、令和2年調査:49.%)」が15.1%増えています。(図表5-4-4)

図表 5-4-4 女性の再就職に対する支援(全体、令和7年・令和2年調査:複数回答)



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

## (5) 育児休業・介護休業の利用状況

問 10 あなたは育児休業・介護休業を利用したことがありますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

### ■育児休業

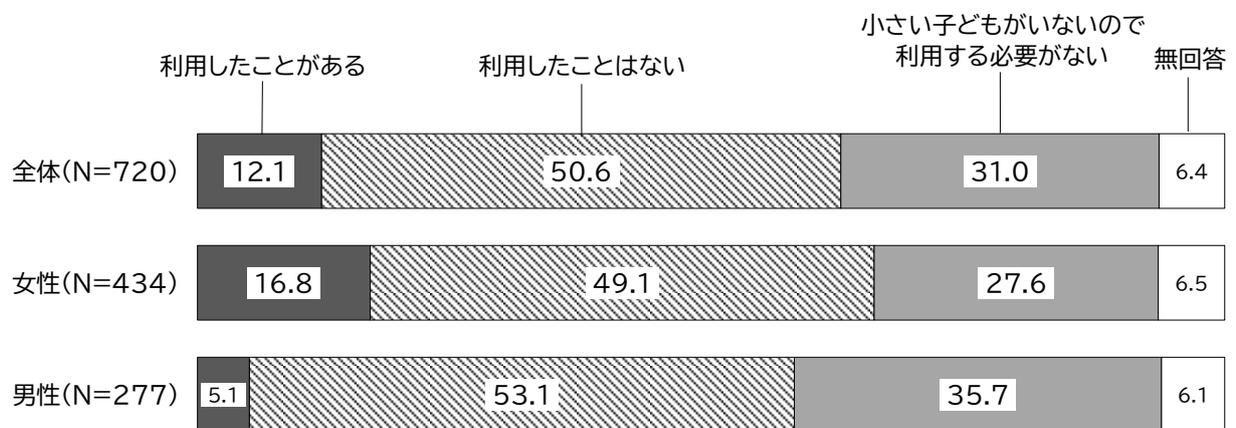
#### 【全体】

全体では、「利用したことがある」が12.1%、「利用したことはない」が50.6%となっています。(図表5-5-1)

#### 【性別】

性別で見ると、「利用したことがある」は女性が16.8%、男性が5.1%となっています。(図表5-5-1)

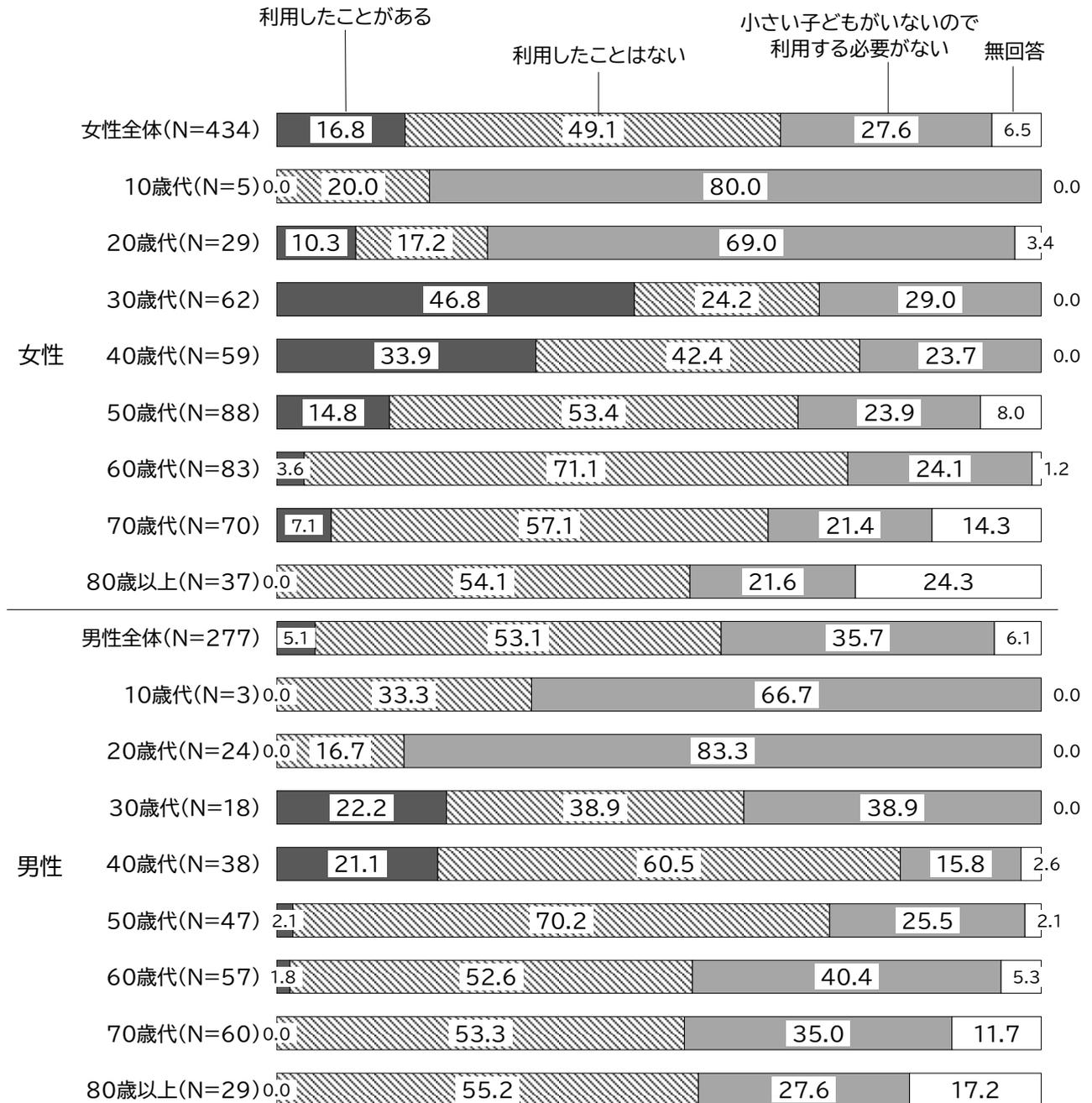
図表 5-5-1 育児休業の利用状況（全体、性別）



**【性・年代別】**

性・年代別にみると、「利用したことがある」は女性の30歳代で46.8%、40歳代で33.9%となっています。男性は「利用したことがある」が30歳代で22.2%、40歳代で21.1%となっています。(図表5-5-2)

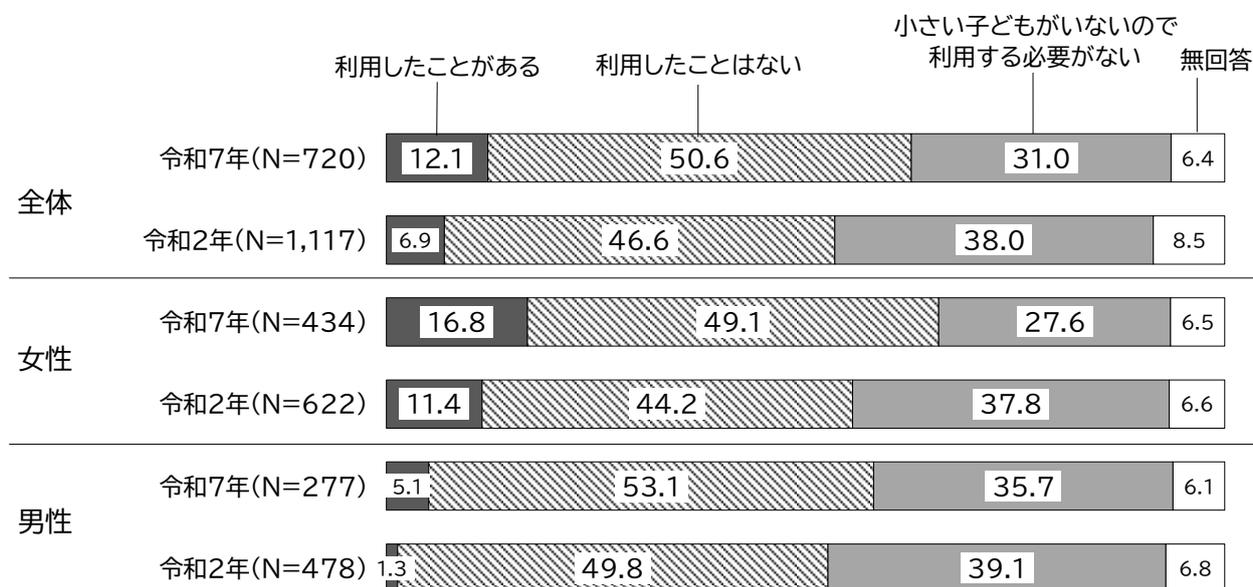
図表 5-5-2 育児休業の利用状況（性・年代別）



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、令和7年調査では、男女ともに「利用したことがある」の割合が増加しています。(図表5-5-3)

図表 5-5-3 育児休業の利用状況（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



## ■介護休業

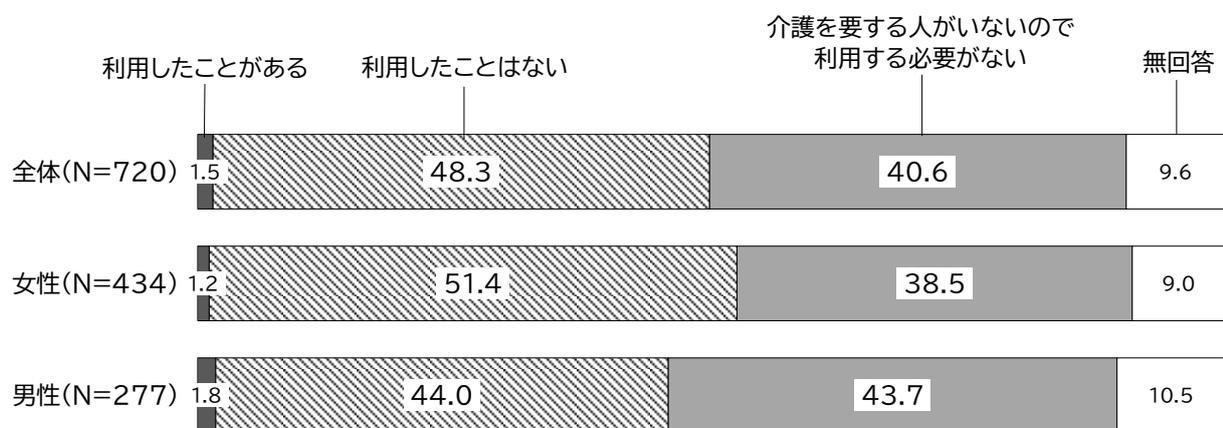
### 【全体】

全体では、「利用したことがある」が1.5%、「利用したことはない」が48.3%となっています。(図表5-5-4)

### 【性別】

性別で見ると、「利用したことがある」が女性は1.2%、男性は1.8%となっています。(図表5-5-4)

図表 5-5-4 介護休業の利用状況（全体、性別）

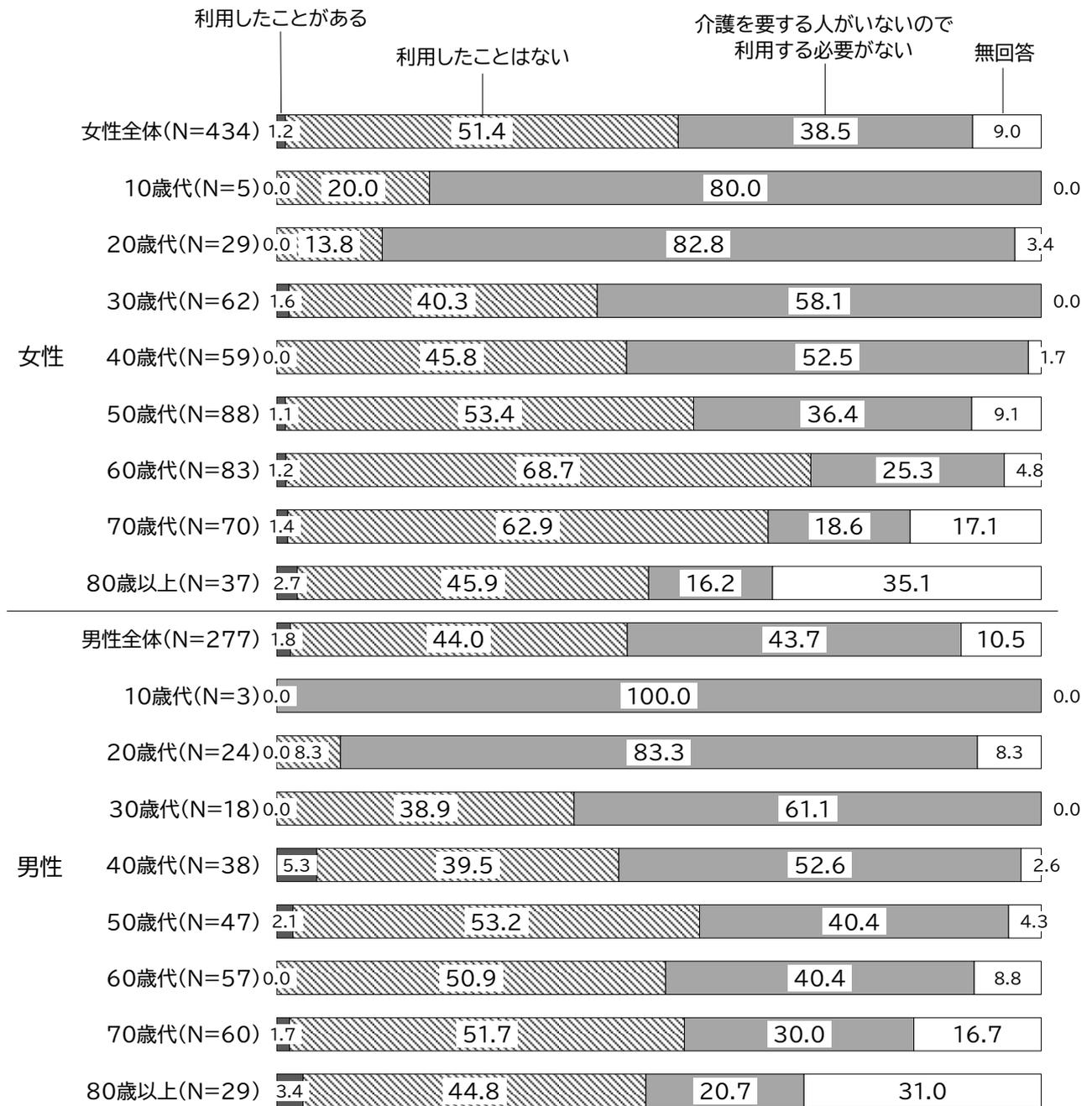


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は「利用したことがある」が、30歳代で1.6%、50歳代で1.1%、60歳代で1.2%、70歳代で1.4%、80歳以上で2.7%となっています。

男性は「利用したことがある」が、40歳代で5.3%と他の年代と比べて多くなっています。(図表5-5-5)

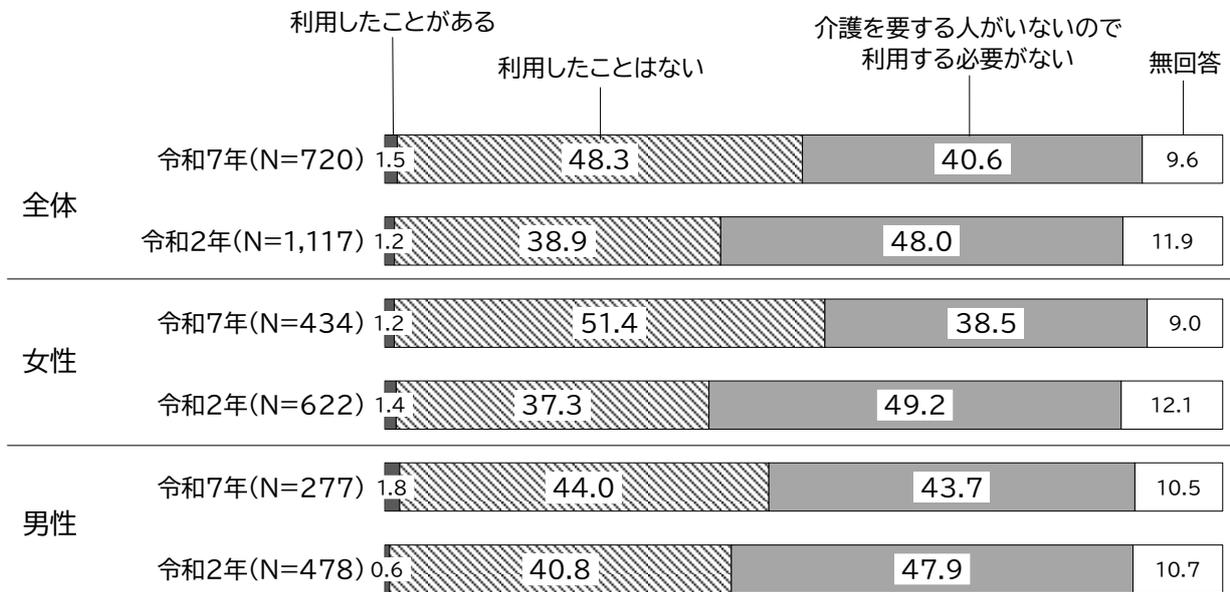
図表 5-5-5 育児休業の利用状況（性・年代別）



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、令和7年調査では、男女ともに「利用したことがある」の割合に大きな変化はありませんが、「利用したことはない」が増えています。(図表5-5-6)

図表 5-5-6 介護休業の利用状況（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



## (6) 育児休業・介護休業の利用期間

問 10 で「1. 利用したことがある」とお答えの方に

問 10-1 どのくらいの期間、休暇を取りましたか。複数回利用したことがある方は、最近のケースでご回答ください。(回答の場合、○はどちらも1つ)

### ■育児休業

#### 【全体】

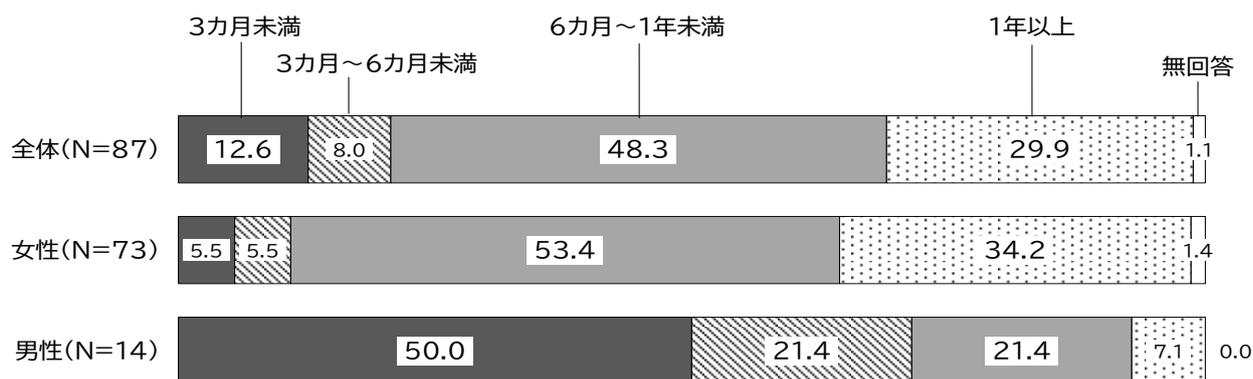
育児休業を「利用したことがある」と回答した人に、その期間をたずねました。

全体では、「6カ月～1年未満(48.3%)」が最も多く、「1年以上(29.9%)」、「3カ月未満(12.6%)」が続いています。(図表5-6-1)

#### 【性別】

性別でみると、女性では「6カ月～1年未満(53.4%)」、男性では「3カ月未満(50.0%)」が最も多くなっています。(図表5-6-1)

図表 5-6-1 育児休業の利用期間（全体、性別）＜育児休業を利用したことがある人＞

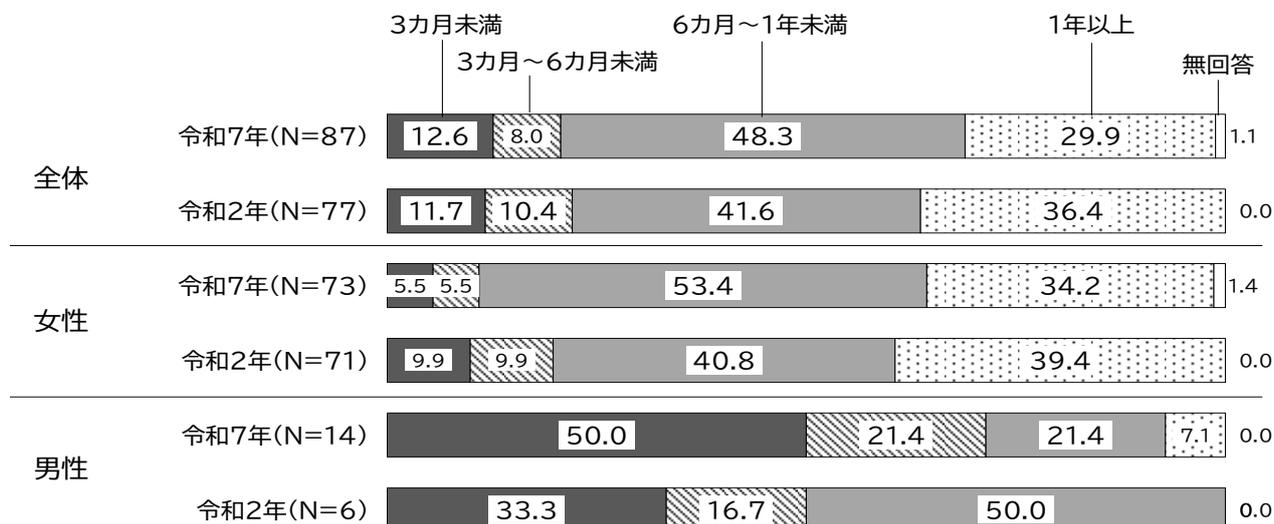


#### 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、女性では「6カ月～1年未満(令和7年調査:53.4%、令和2年調査:40.8%)」が12.6%増えています。(図表5-6-2)

図表 5-6-2 育児休業の利用期間（全体、性別、令和7年・令和2年調査）

＜育児休業を利用したことがある人＞



## ■介護休業

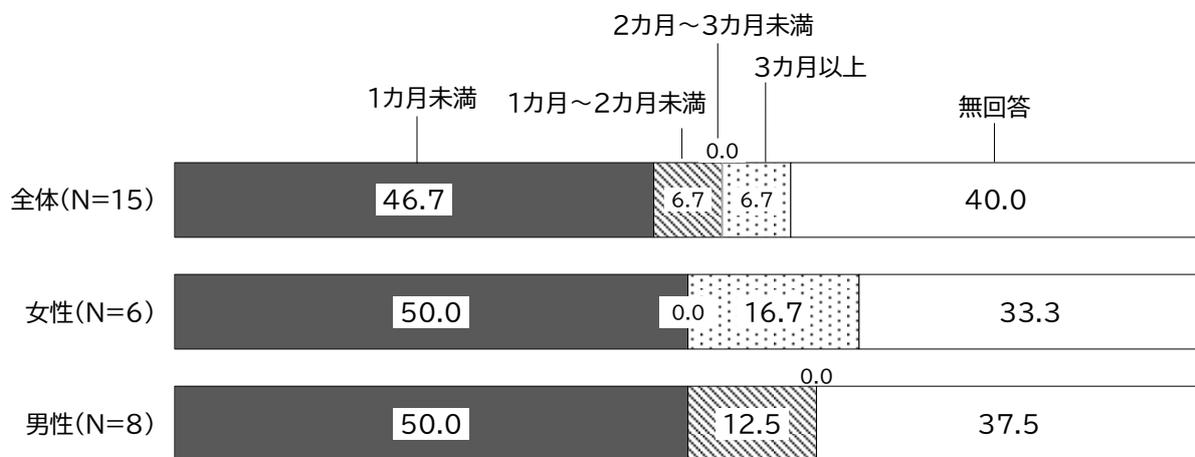
### 【全体】

介護休業を「利用したことがある」と回答した人に、その期間をたずねました。  
 全体では、「1カ月未満(46.7%)」が最も多く、「1カ月～2カ月未満(6.7%)」、「3カ月以上(6.7%)」が続いています。(図表5-6-3)

### 【性別】

性別でみると、男女ともに「1カ月未満(女性:50.0%、男性:50.0%)」が最も多くなっています。(図表5-6-3)

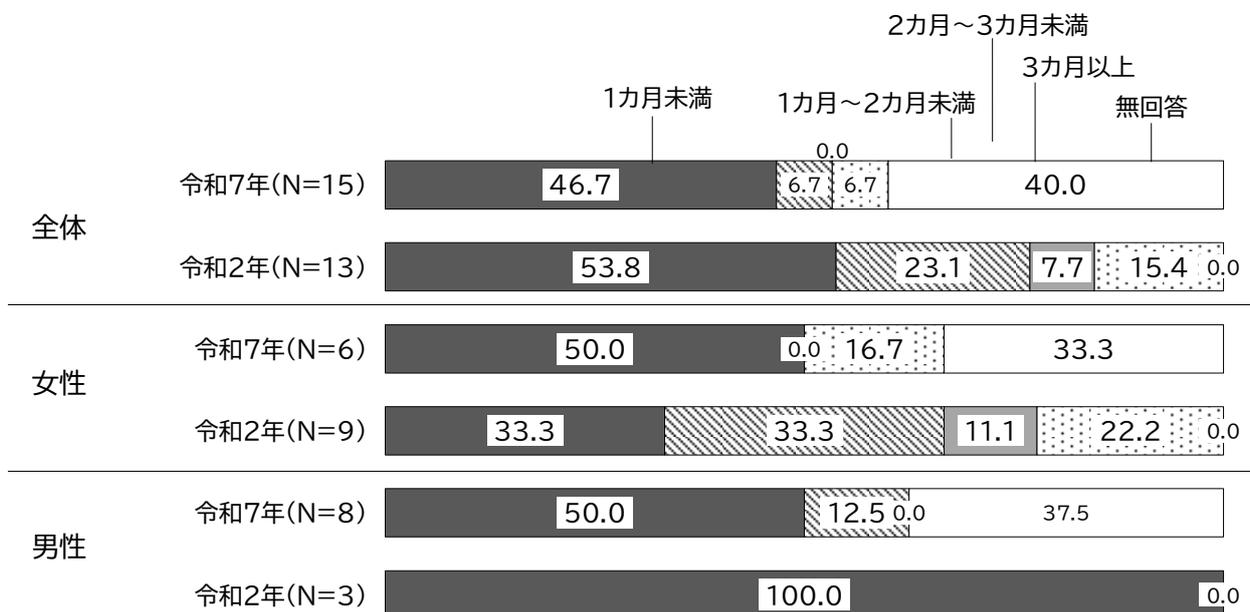
図表 5-6-3 介護休業の利用期間（全体、性別）＜介護休業を利用したことがある人＞



### 【令和2年調査との比較】

令和7年調査、令和2年調査ともに対象者数が20件未満のためグラフの掲載のみとします。(図表5-6-4)

図表 5-6-4 介護休業の利用期間（全体、性別、令和7年・令和2年調査）  
 ＜介護休業を利用したことがある人＞



## (7) 育児休業・介護休業を利用しなかった理由

問 10 で「2. 利用したことはない」とお答えの方

問 10-2 利用しなかった理由はなんですか。  
(回答の場合、○はどちらもあてはまるものすべて)

### ■育児休業

#### 【全体】

育児休業を「利用したことはない」と回答した方に理由をたずねました。

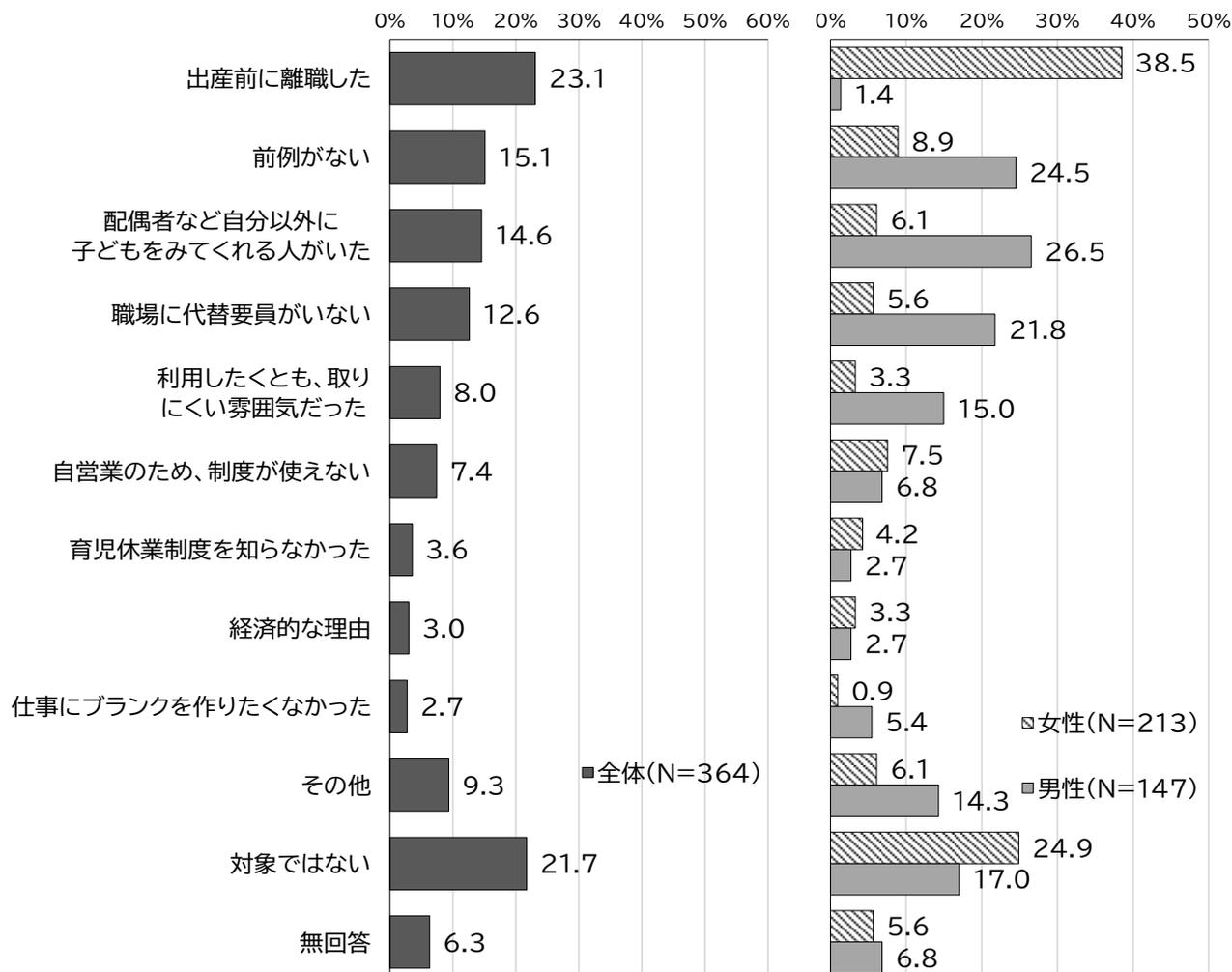
全体では、「出産前に離職した(23.1%)」が最も多く、「対象ではない(21.7%)」「前例がない(15.1%)」、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいた(14.6%)」、「職場に代替要員がない(12.6%)」が続いています。(図表5-7-1)

#### 【性別】

性別で見ると、女性は「出産前に離職した(38.5%)」が4割近くで多くなっています。

男性では、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいた(26.5%)」が最も多くなっています。  
(図表5-7-1)

図表 5-7-1 育児休業を利用しなかった理由（全体、性別：複数回答）  
<育児休業を利用したことがない人>

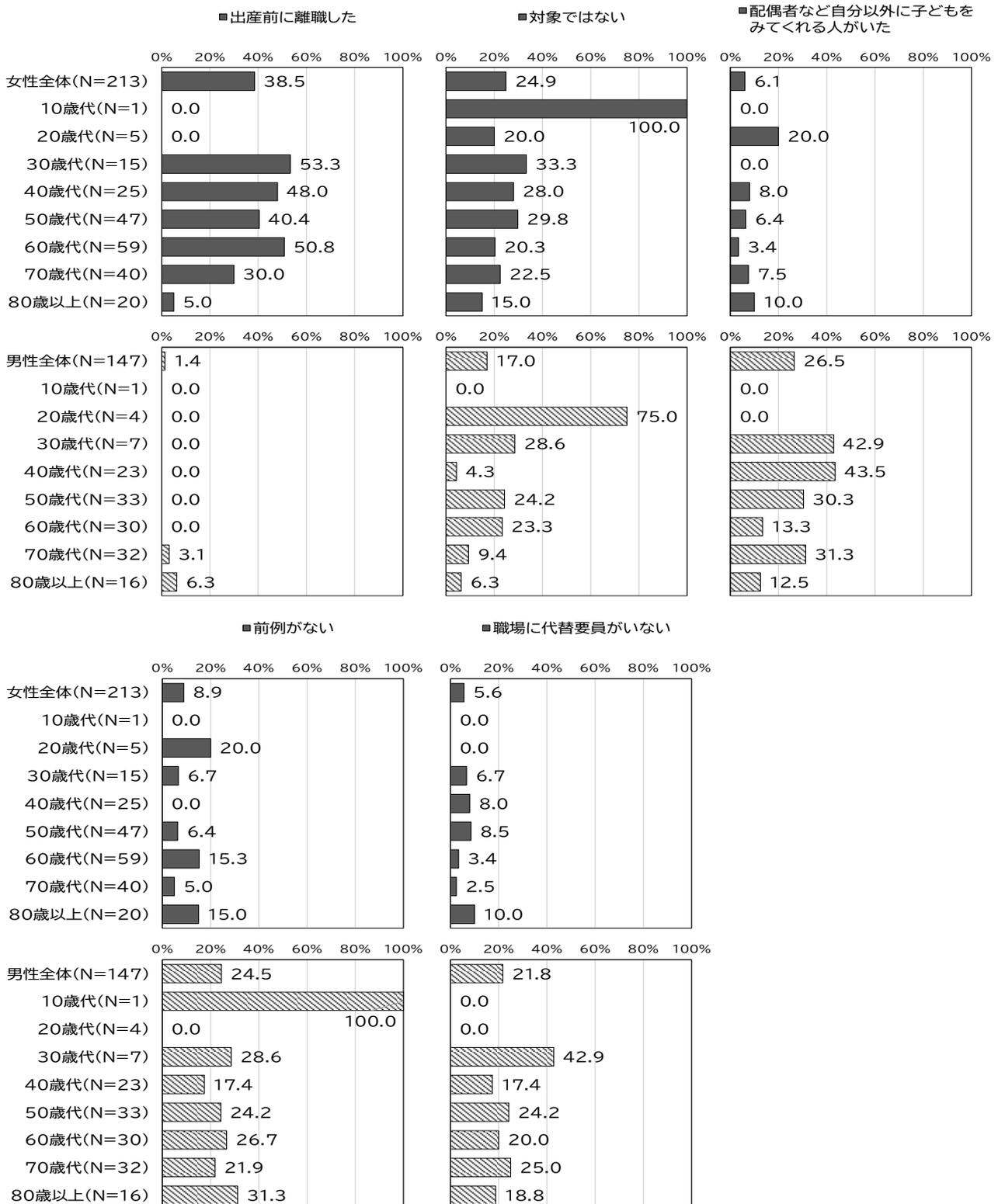


## 【性・年代別】

育児休業を利用しなかった理由について性・年代別にみると、女性は30歳代から60歳代で「出産前に離職したから(30歳代:53.3%、40歳代:48.0%、50歳代:40.4%、60歳代:50.8%)」が多くなっています。

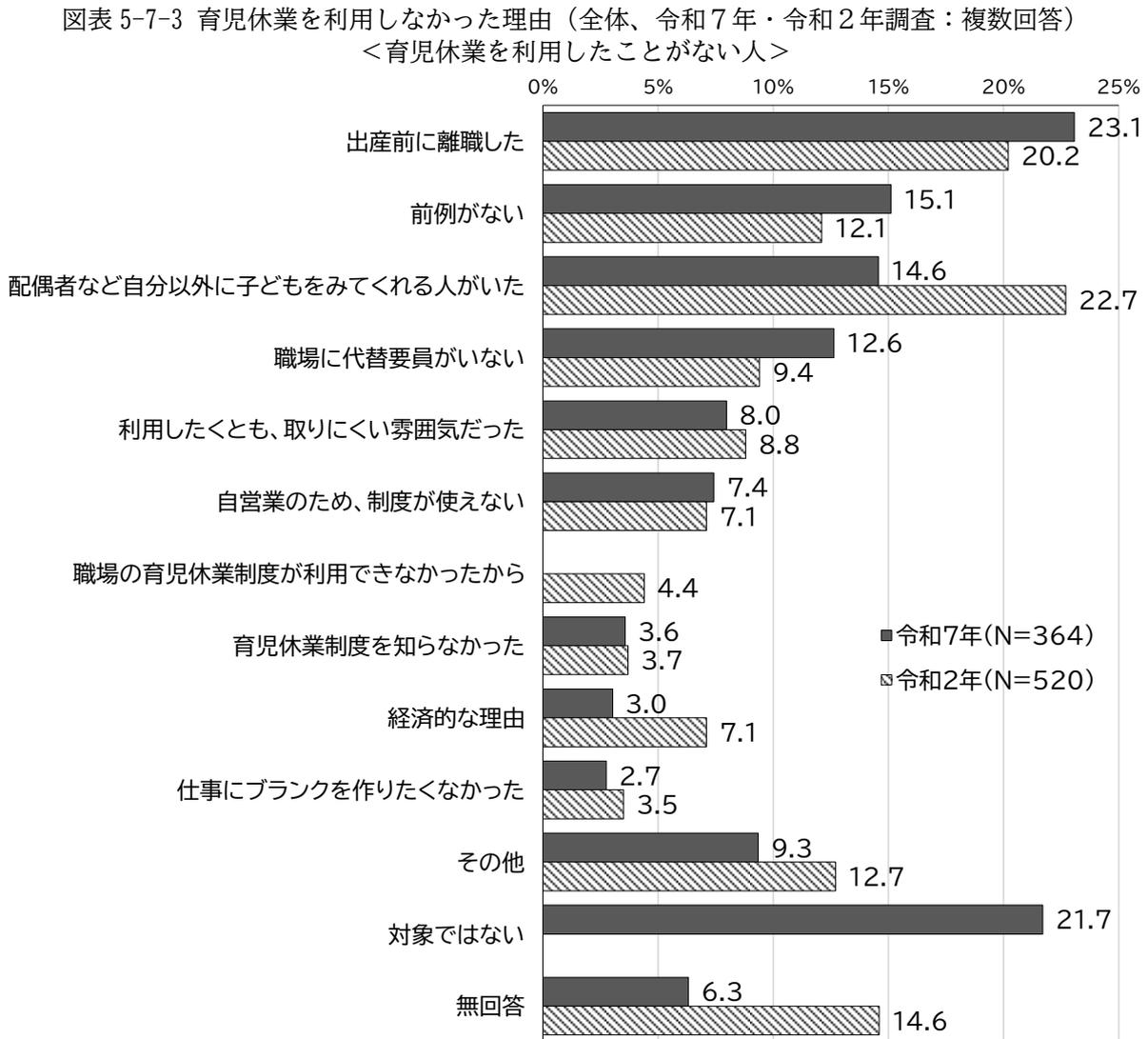
男性は30歳代と40歳代で「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから(30歳代:42.9%、40歳代:43.5%)」が4割を超えています。(図表5-7-2)

図表 5-7-2 育児休業を利用しなかった理由 (性・年代別、上位5項目：複数回答)  
 <育児休業を利用したことがない人>



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいた(令和7年調査:14.6%、令和2年調査:22.7%)」は8.1%減っています。(図表5-7-3)



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

## ■介護休業

### 【全体】

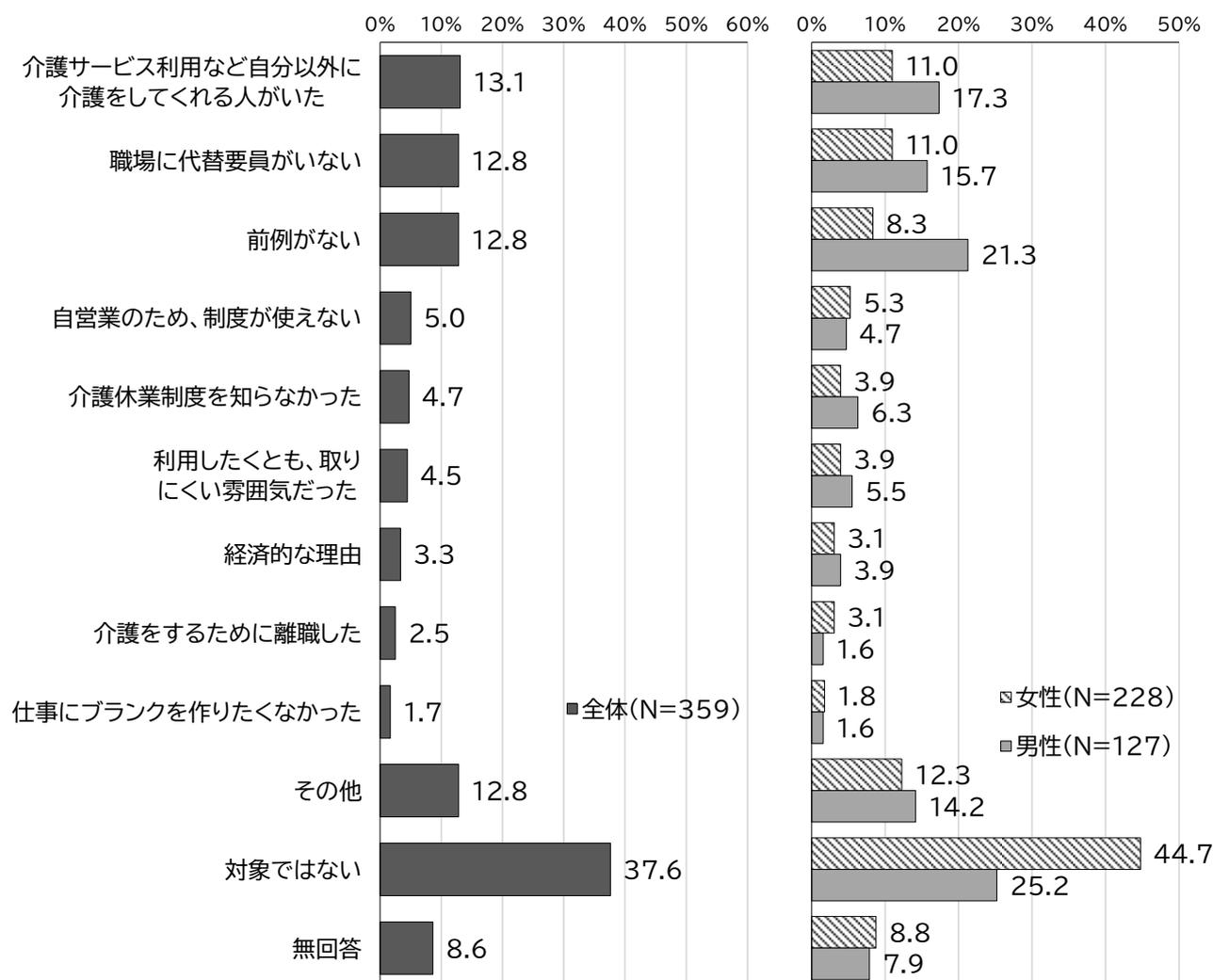
介護休業を「利用したことはない」と回答した方に理由をたずねました。

全体では、「対象ではない(37.6%)」が最も多く、「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいた(13.1%)」、「職場に代替要員がない(12.8%)」、「前例がない(12.8%)」が続いています。なお、「その他(12.8%)」には、「必要がない」、「仕事をしていない」といった回答があがっています。(図表5-7-4)

### 【性別】

性別でみると、男女ともに「対象ではない(女性:44.7%、男性:25.2%)」が最も多く、次いで女性では「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいた(11.0%)」、「職場に代替要員がない(11.0%)」が続いています。男性では「前例がない(21.3%)」、「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいた(17.3%)」、「職場に代替要員がない(15.7%)」が続いています。(図表5-7-4)

図表 5-7-4 介護休業を利用しなかった理由（全体、性別：複数回答）  
 <介護休業を利用したことがない人>

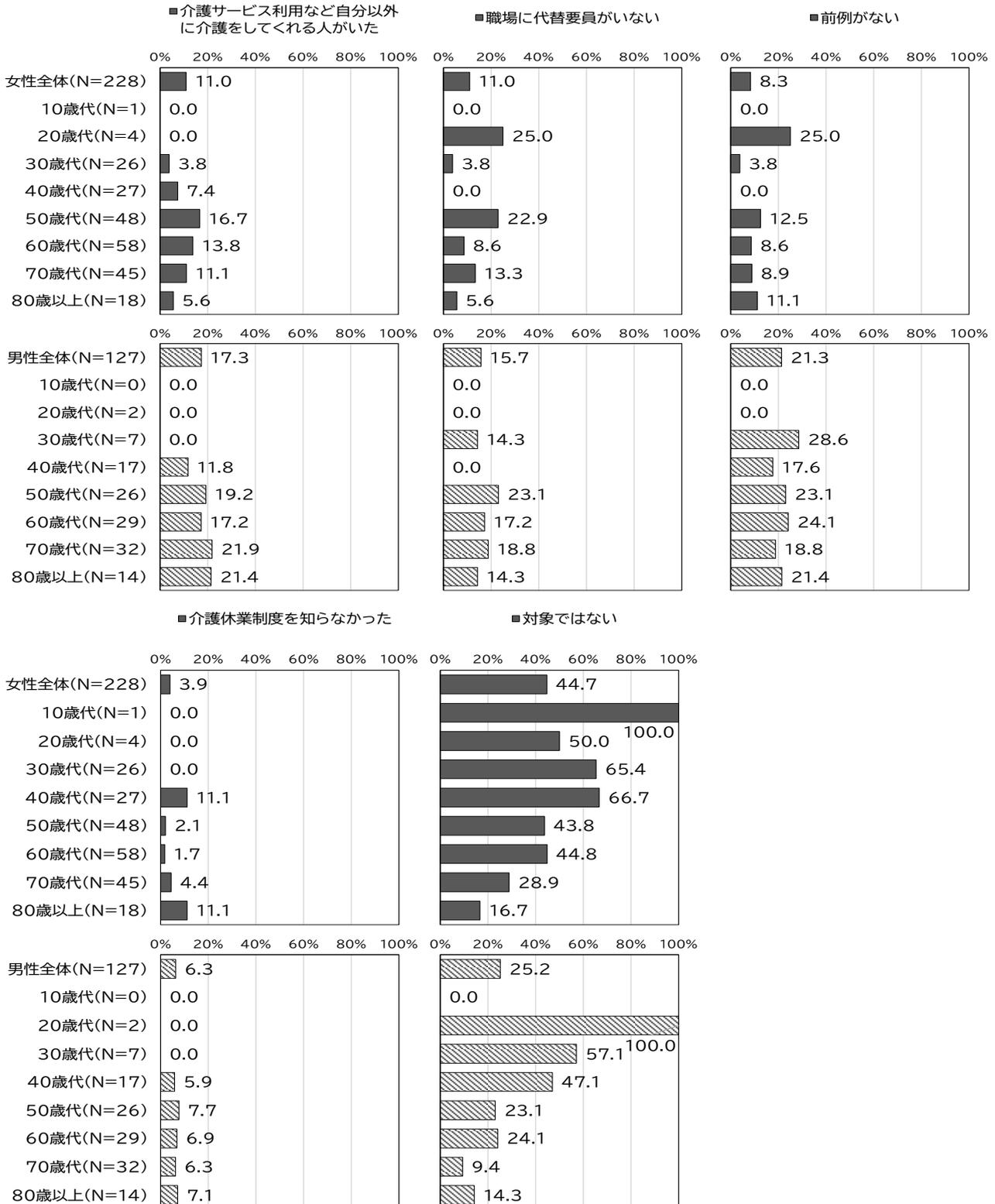


**【性・年代別】**

介護休業を利用しなかった理由について、「対象ではない」以外で性・年代別にみると、女性は50歳代で「職場に代替要員がない(22.9%)」、60歳代では「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから(13.8%)」が多くなっています。

男性も30歳代から80歳以上で「前例がない」が2割台前後なっています。(図表5-7-5)

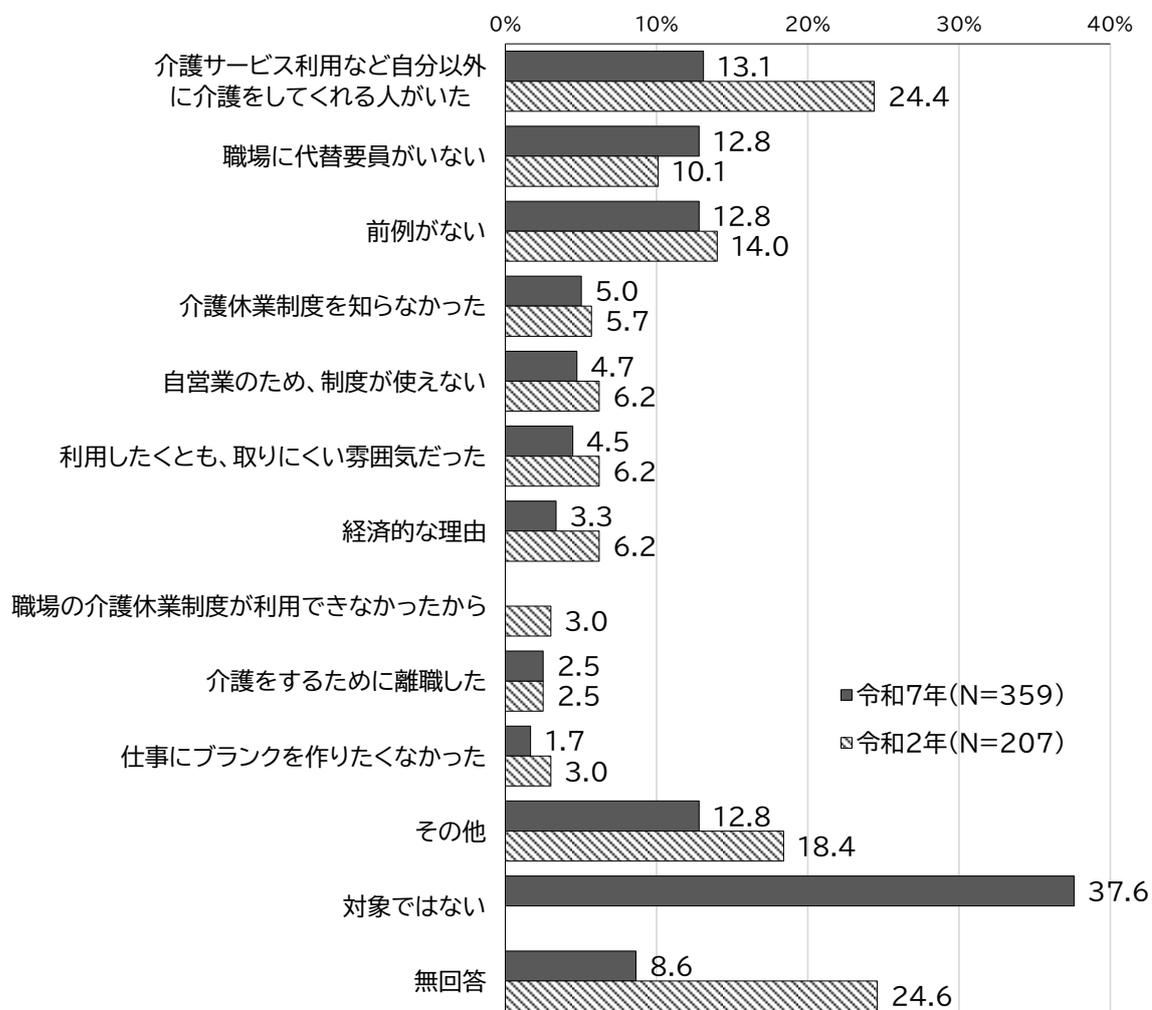
図表 5-7-5 介護休業を利用しなかった理由（性・年代別、上位5項目：複数回答）  
 <介護休業を利用したことがない人>



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「介護サービス利用など自分以外に介護してくれる人がいた(令和7年調査:13.1%、令和2年調査:24.4%)」は11.3%減っています。(図表5-7-6)

図表 5-7-6 介護休業を利用しなかった理由（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）  
 <介護休業を利用したことがない人>



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

## 6 ワーク・ライフ・バランス

### (1) ワーク・ライフ・バランスの認知状況

問 11 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

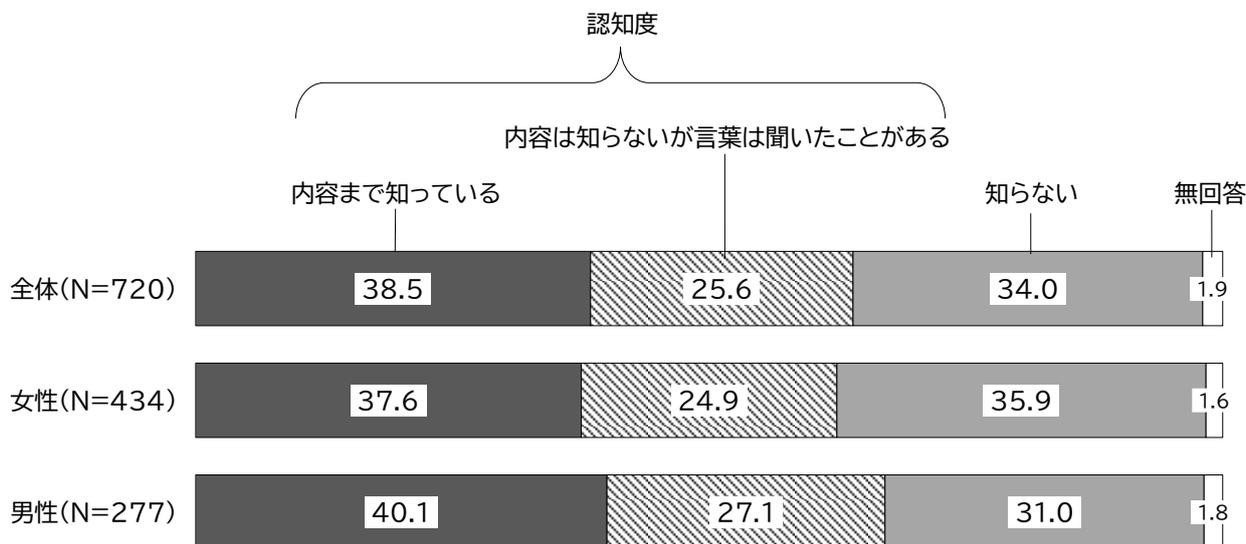
#### 【全体】

全体では、「内容まで知っている」が38.5%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が25.6%となっており、両者をあわせた《認知度》は64.1%となっています。一方、「知らない」は34.0%となっています。(図表6-1-1)

#### 【性別】

性別でみると、《認知度》は女性が62.5%、男性が67.2%となっています。(図表6-1-1)

図表 6-1-1 認知状況 (全体、性別)

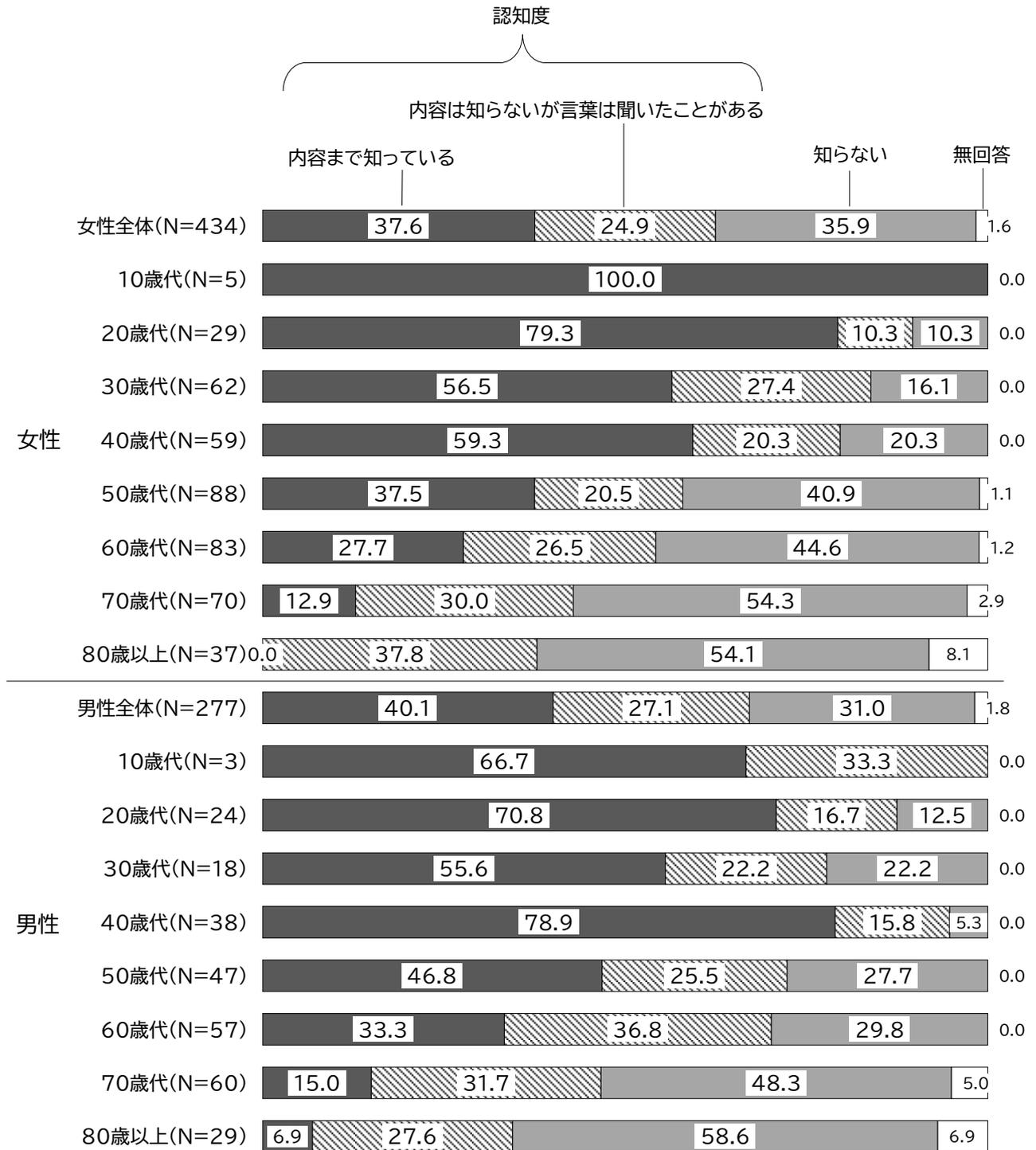


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は「内容まで知っている」が10歳代から40歳代(10歳代:100.0%、20歳代:79.3%、30歳代:56.5%、40歳代:59.3%)で半数を超えています。また、《認知度》は、年代が上がるほど減少傾向となっています。

男性は40歳代で「内容まで知っている(78.9%)」が他の年代と比べて多くなっています。《認知度》は女性と同様に年代が上がるほど減少傾向となっています。(図表6-1-2)

図表 6-1-2 認知状況 (性・年代別)

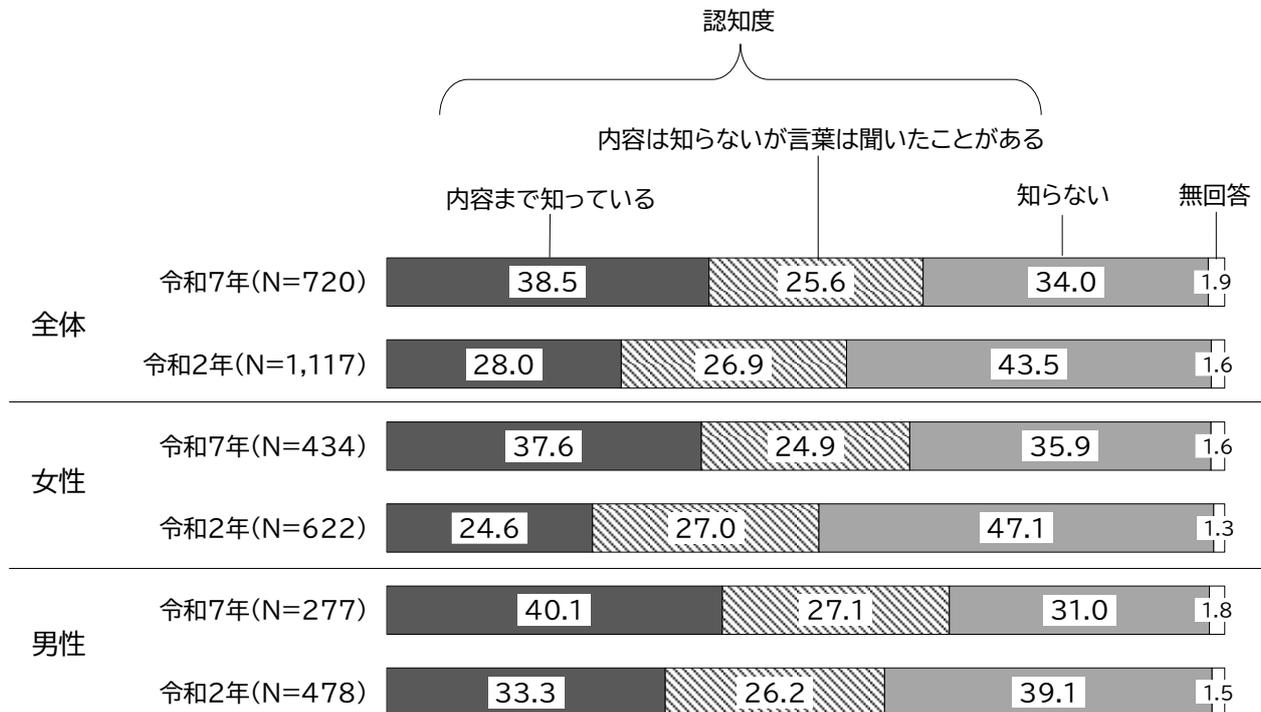


## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、令和7年調査では、全体の《認知度(令和7年調査:64.1%、令和2年調査:54.9%)》は令和2年調査よりも9.2%増えています。

性別で見ると、女性の《認知度(令和7年調査:62.5%、令和2年調査:51.6%)》は令和2年調査よりも10.9%増えています。男性の《認知度(令和7年調査:67.2%、令和2年調査:59.5%)》は令和2年調査よりも7.7%増えています。(図表6-1-3)

図表 6-1-3 認知状況（令和7年、性別、令和2年調査）



## (2) 優先度の希望と現実

問 12 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、希望と現実(現状)、それぞれお答えください。

### ■希望

#### 【全体】

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について希望をたずねました。

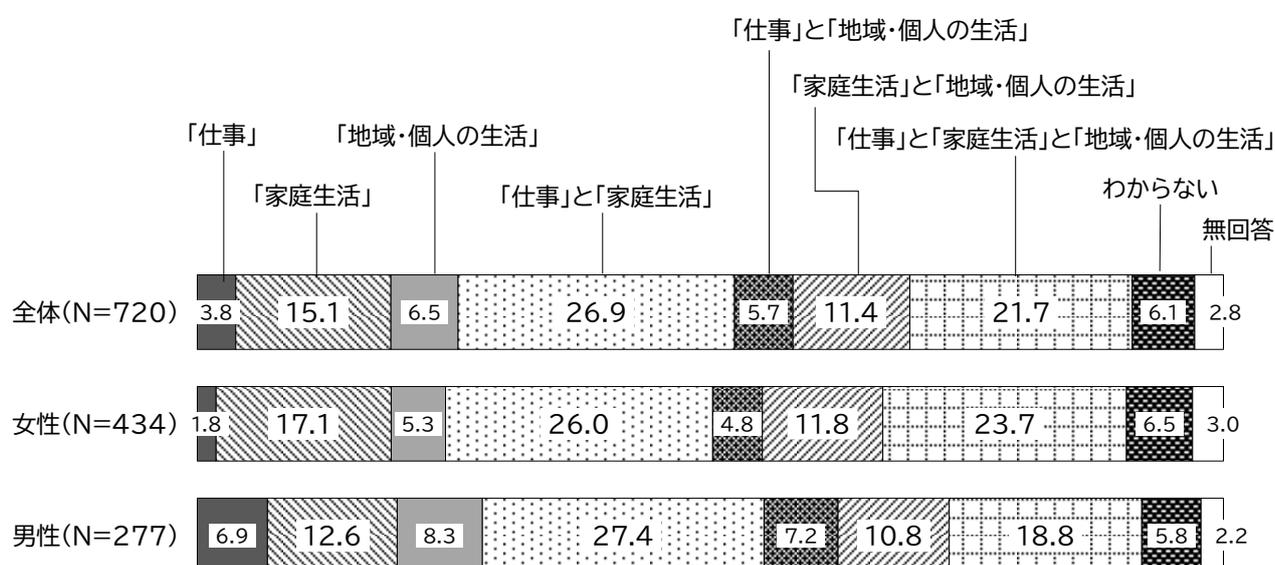
全体では、『「仕事」と「家庭生活」(26.9%)』が最も多く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」(21.7%)』、『「家庭生活」(15.1%)』、が続いています。(図表6-2-1)

#### 【性別】

性別でみると、女性は『「仕事」と「家庭生活」(26.0%)』が最も多く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」(23.7%)』、『「家庭生活」(17.1%)』とが続いています。

男性は『「仕事」と「家庭生活」(27.4%)』が最も多くなっています。(図表6-2-1)

図表 6-2-1 優先度の希望 (全体、性別)



**【性・年代別】**

優先度の希望について性・年代別にみると、女性は20歳代で『「仕事」と「家庭生活」(44.8%)』が他の年代と比べて多くなっています。

男性は40歳代で『「仕事」と「家庭生活」(44.7%)』が他の年代と比べて多くなっています。(図表6-2-2)

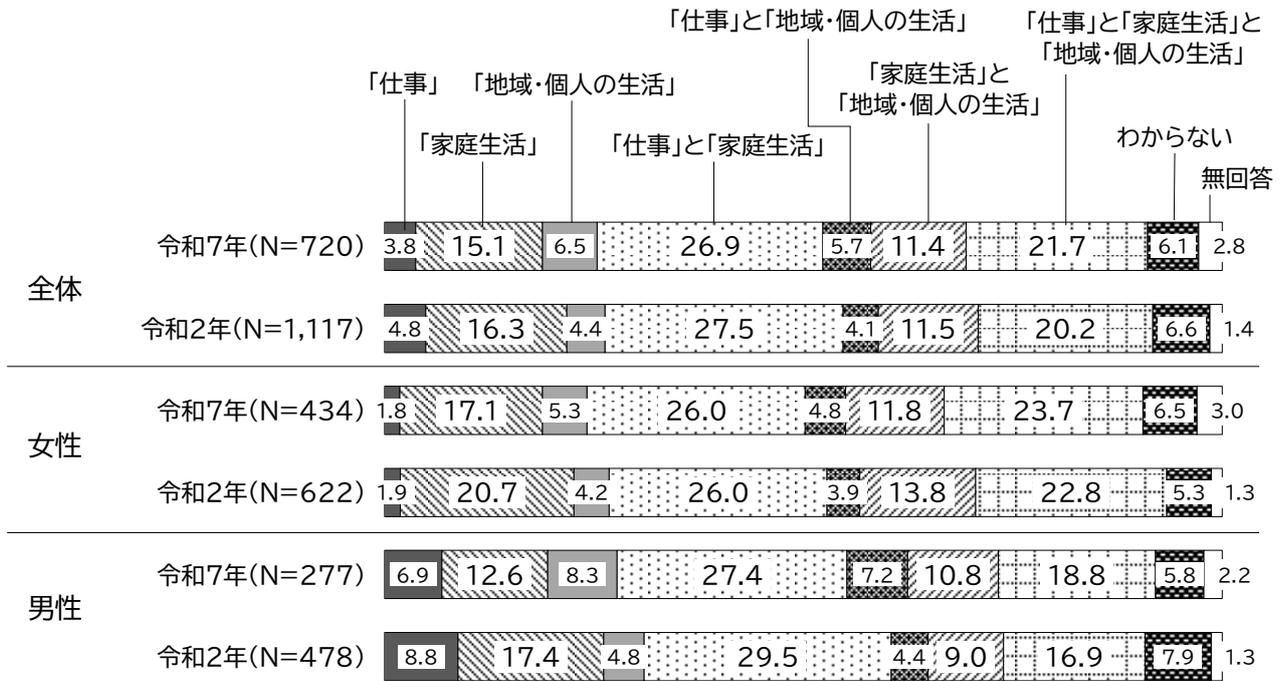
図表 6-2-2 優先度の希望 (性・年代別)



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、令和7年調査では、大きな差はありませんが、『「地域・個人の生活」』と『「仕事」と「地域・個人の生活」』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』が全体、男女ともにやや増加しています。(図表6-2-3)

図表 6-2-3 優先度の希望（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



## ■現実

### 【全体】

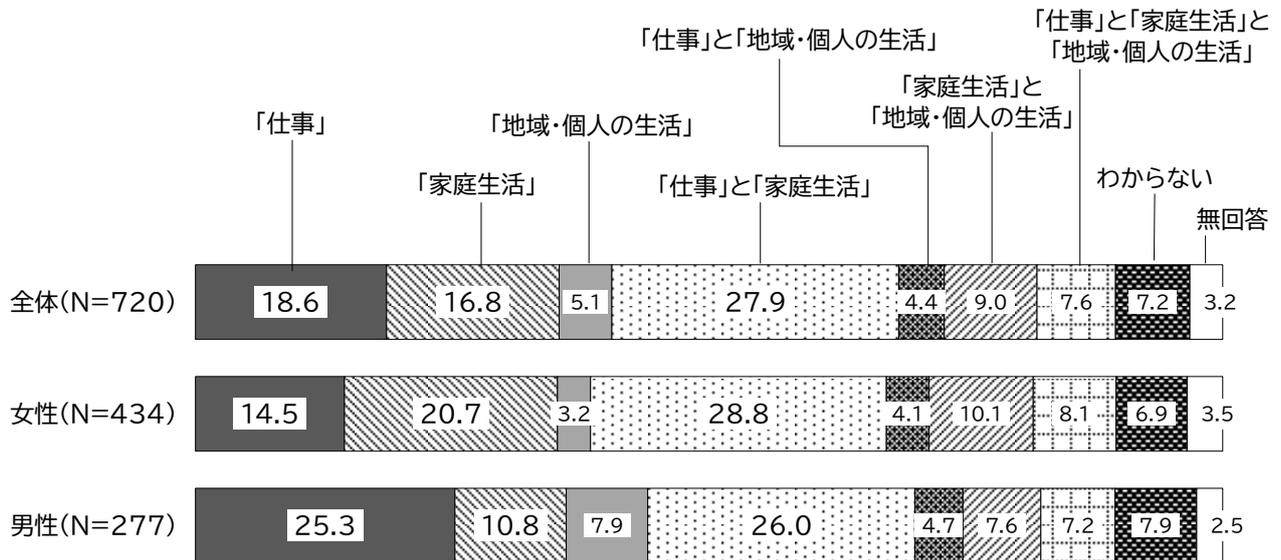
生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について現実をたずねました。

全体では、『「仕事」と「家庭生活」(27.9%)』が最も多く、『「仕事」(18.6%)』、『「家庭生活」(16.8%)』が続いています。(図表6-2-4)

### 【性別】

性別でみると、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」(女性:28.8%、男性:26.0%)』が最も多くなっています。次いで女性では『「家庭生活」(20.7%)』、男性では『「仕事」(25.3%)』が続いています。(図表6-2-4)

図表 6-2-4 優先度の現実 (全体、性別)

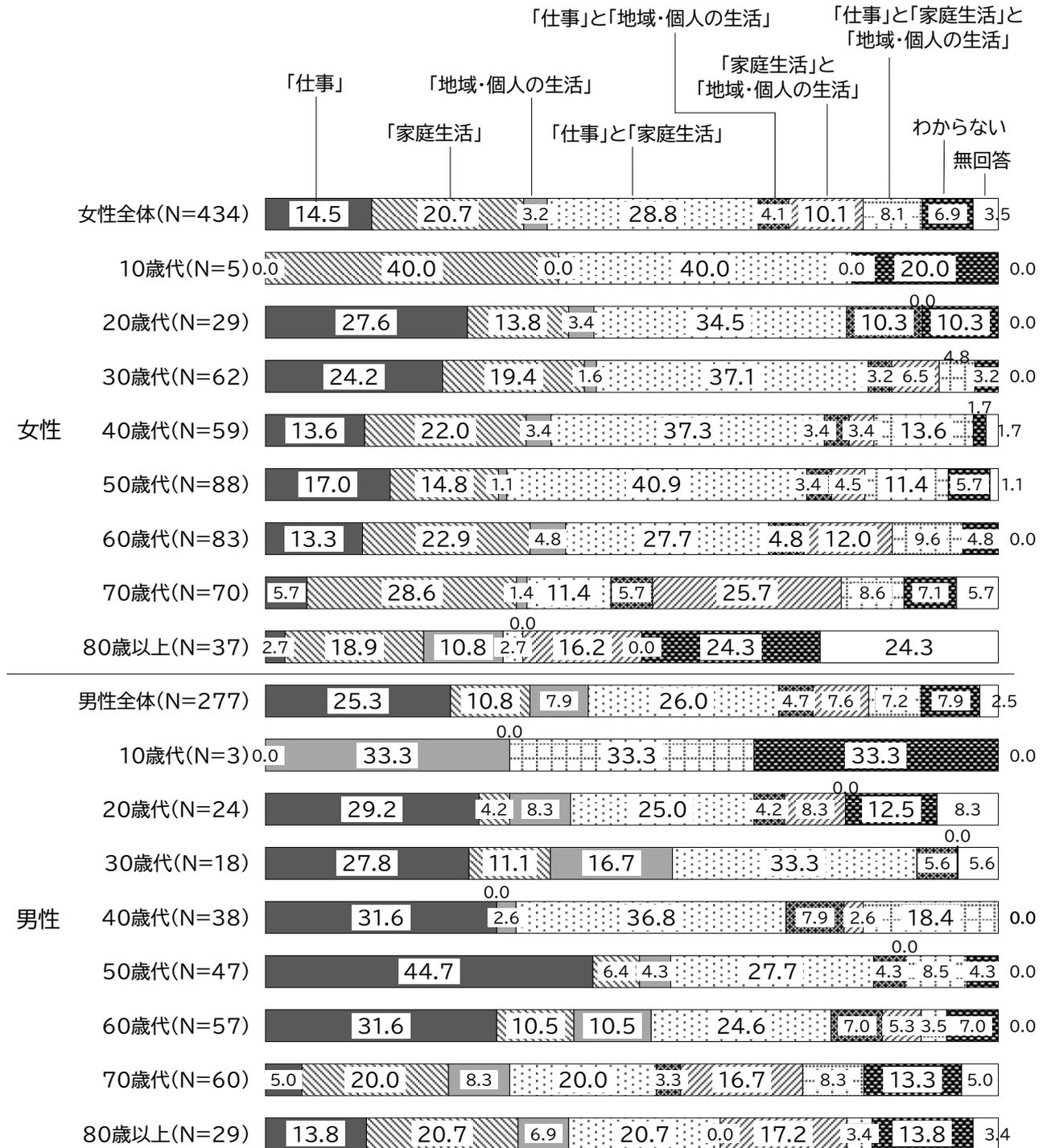


【性・年代別】

優先度の現実について性・年代別にみると、女性は『「仕事」と「家庭生活」』が70歳代(11.4%)と80歳代以上(2.7%)を除いたすべての年代で多くなっています。

男性は『「仕事」』が50歳代(44.7%)、60歳代(31.6%)で最も多くなっており、特に50歳代は他の年代と比べて多くなっています。(図表6-2-5)

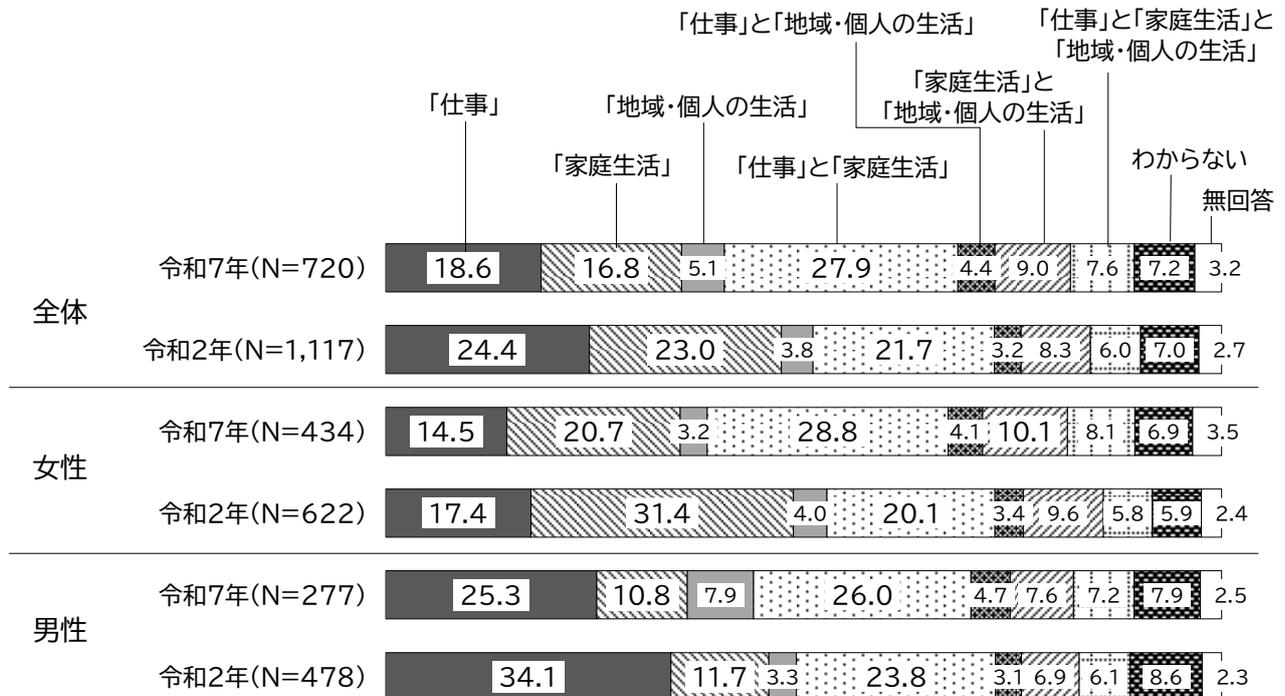
図表 6-2-5 優先度の現実 (性・年代別)



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、令和7年調査では、全体、男女ともに『「仕事」』と『「家庭生活」』が減少し、『「地域・個人の生活」』と『「仕事」と「家庭生活」』と『「仕事」と「地域・個人の生活」』と『「家庭生活」と「地域・個人の生活」』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』が増加しています。(図表6-2-6)

図表 6-2-6 優先度の現実（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



### (3) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと

問 13 ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

#### 【全体】

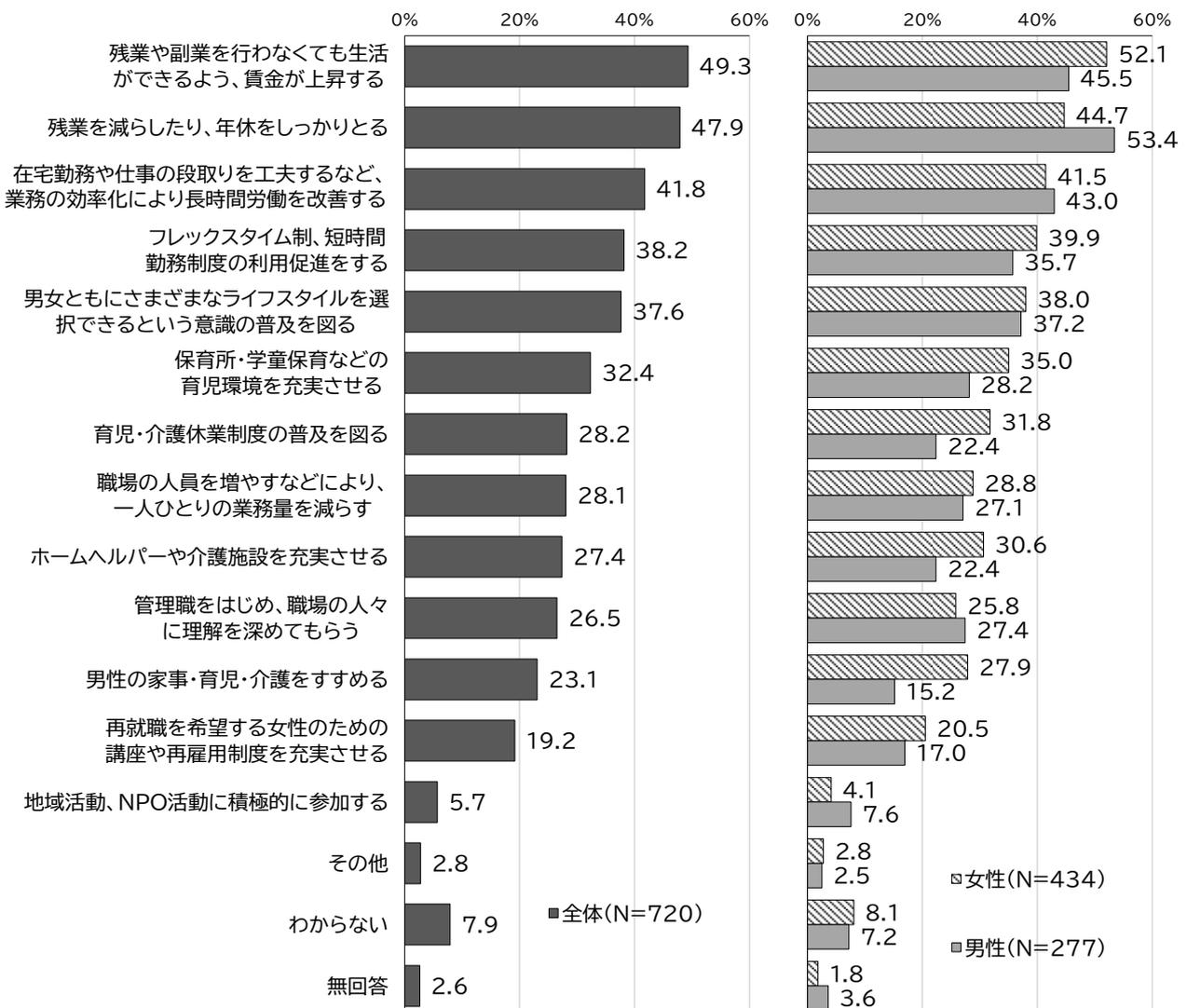
全体では、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(49.3%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(47.9%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する(41.8%)」が続いています。(図表6-3-1)

#### 【性別】

性別で見ると、女性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(52.1%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(44.7%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する(41.5%)」が続いています。

男性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(53.4%)」が最も多く、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(45.5%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する(43.0%)」が続いています。(図表6-3-1)

図表 6-3-1 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと (全体、性別：複数回答)

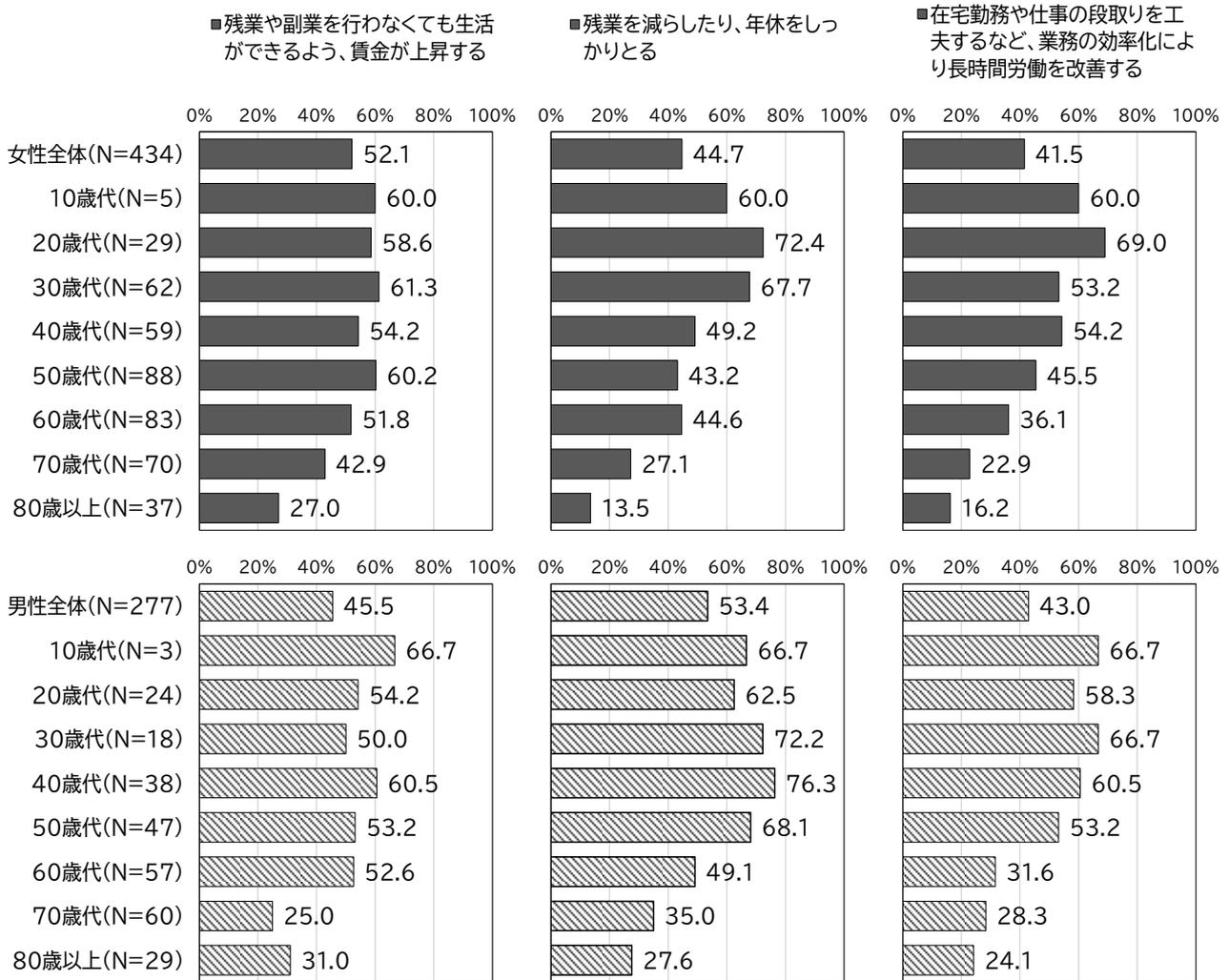


**【性・年代別】**

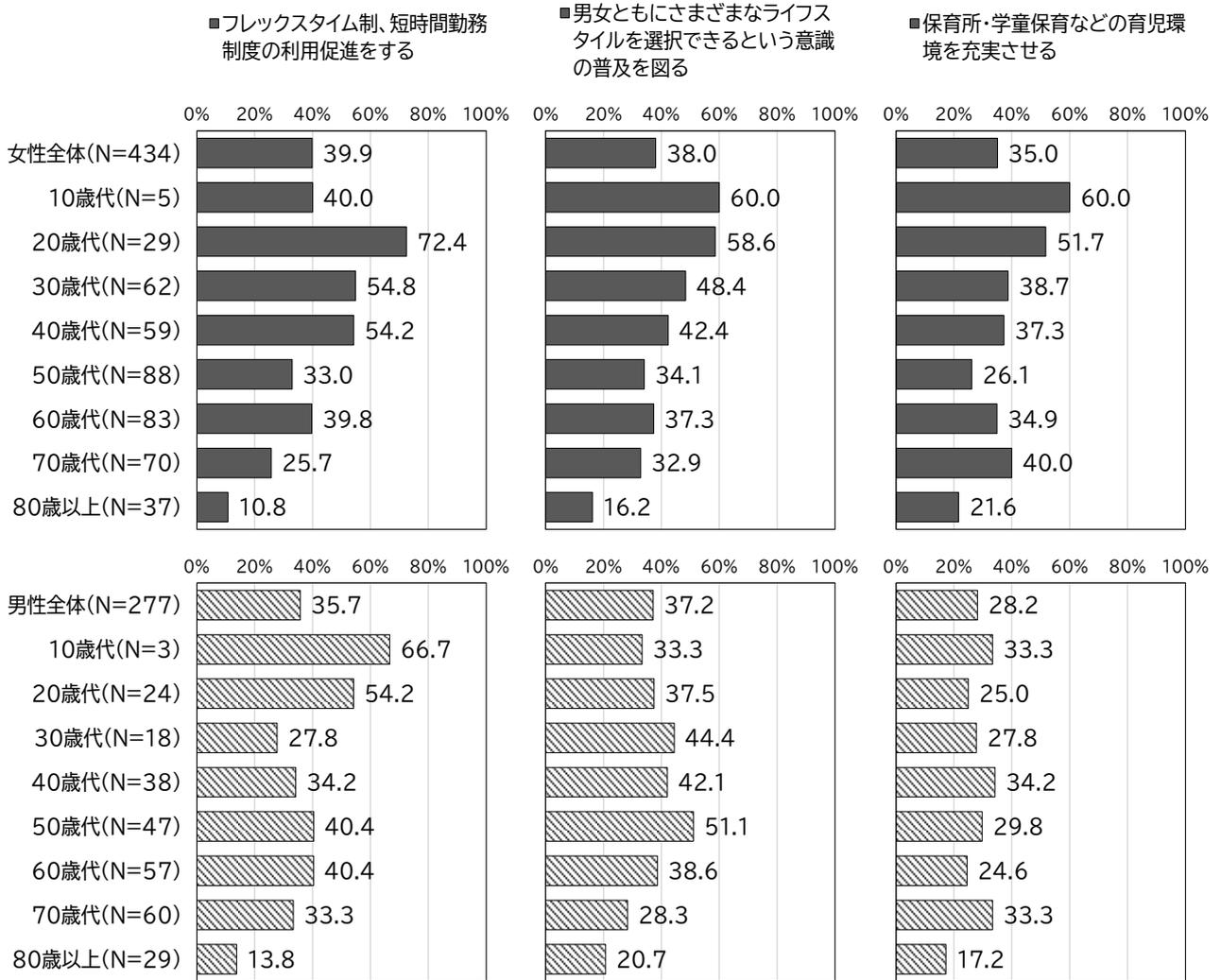
性・年代別にみると、女性は20歳代で「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(72.4%)」と「フレックスタイム制、短時間勤務制度の利用促進をする(72.4%)」が他の年代と比べて多くなっています。

男性は30歳代と40歳代で「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(30歳代:72.2%、40歳代:76.3%)」が7割以上と他の年代と比べて多くなっています。(図表6-3-2-①、図表6-3-2-②)

図表 6-3-2-① ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



図表 6-3-2-② ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)

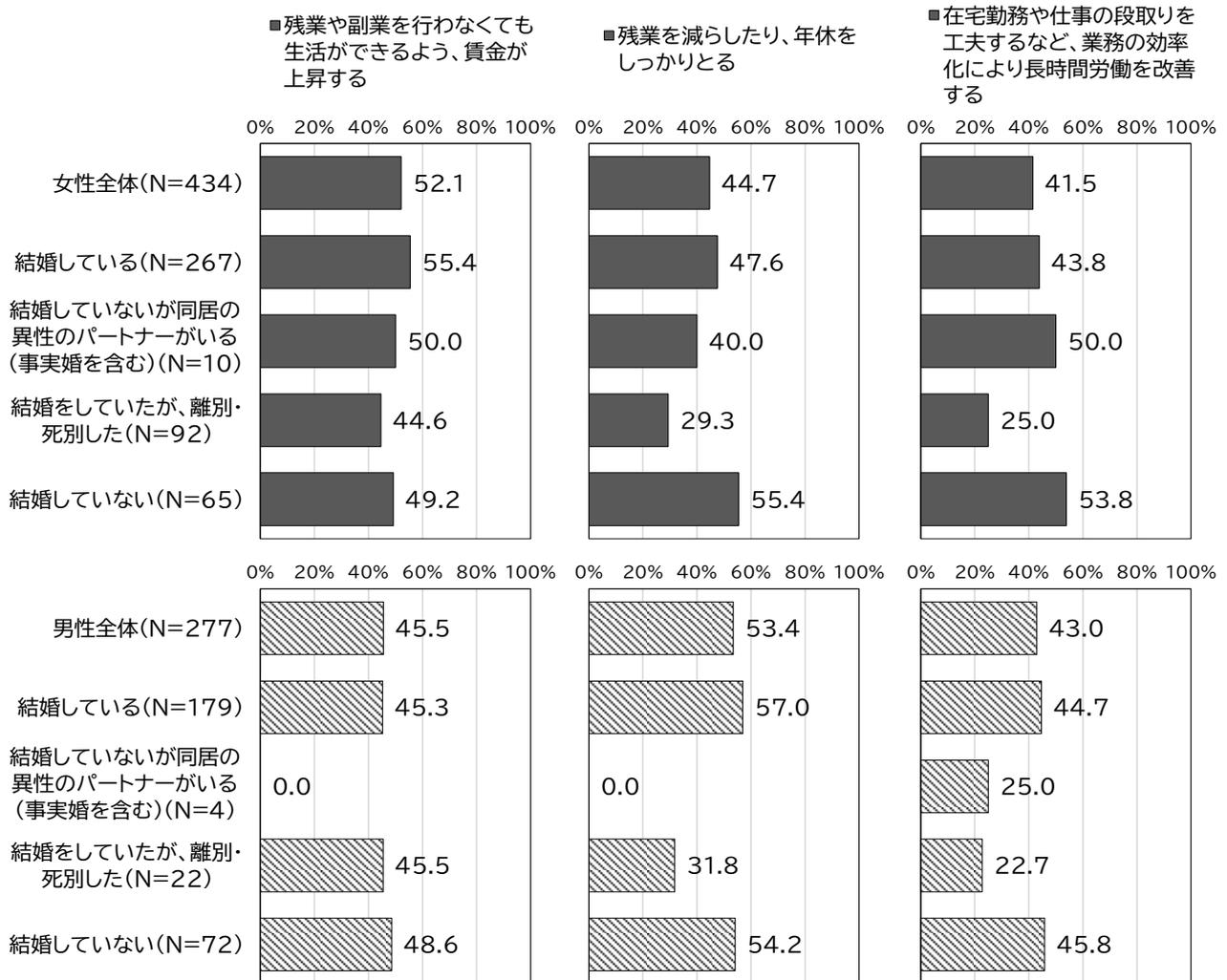


**【性・未既婚別】**

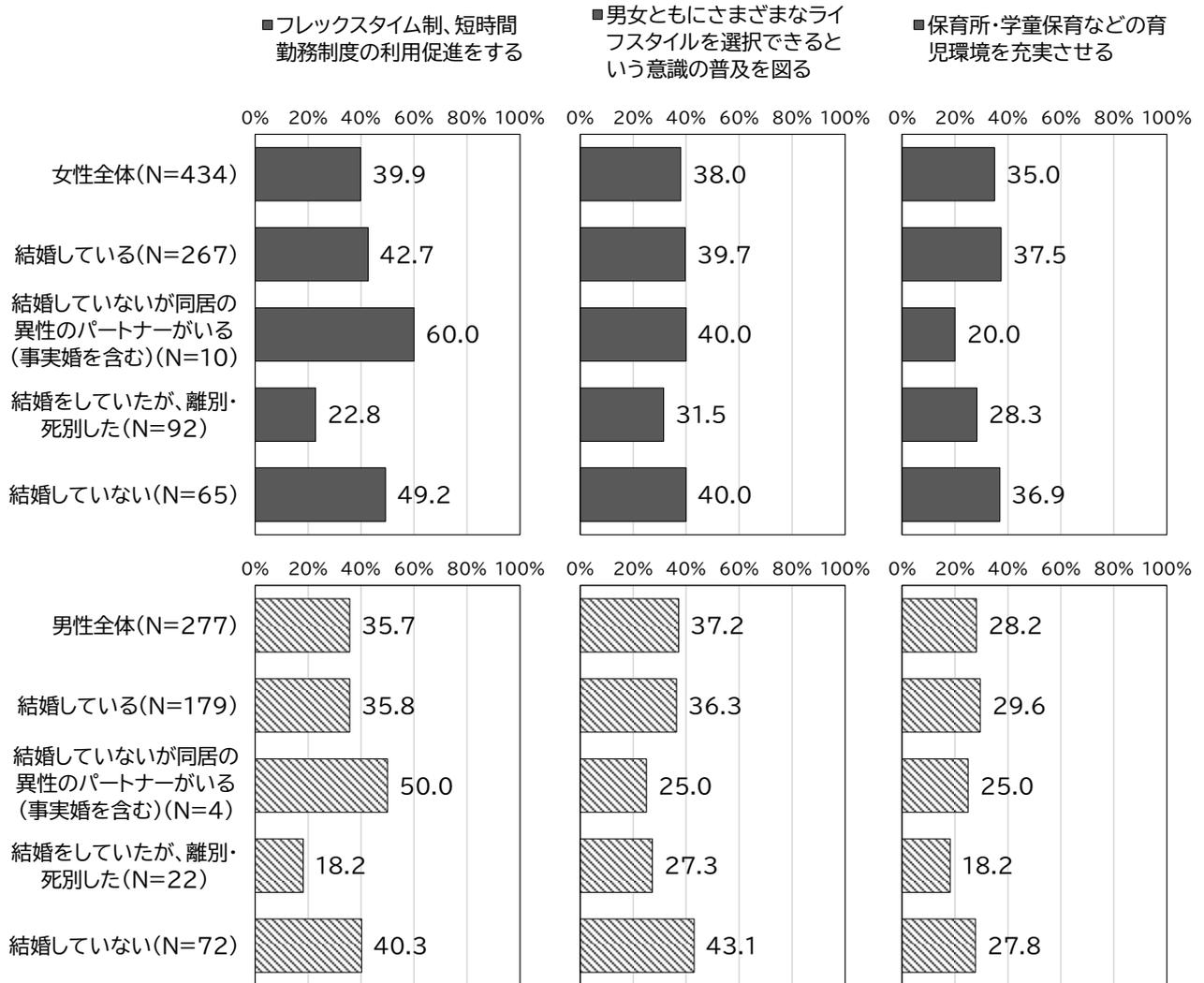
性・未既婚別にみると、既婚の女性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(55.4%)」、未婚の女性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(55.4%)」が最も多くなっています。

男性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる」が既婚の男性(57.0%)、未婚の男性(54.2%)で最も多くなっています。(図表6-3-3-①、図表6-3-3-②)

図表 6-3-3-① ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと  
(性・未既婚別、上位6項目：複数回答)



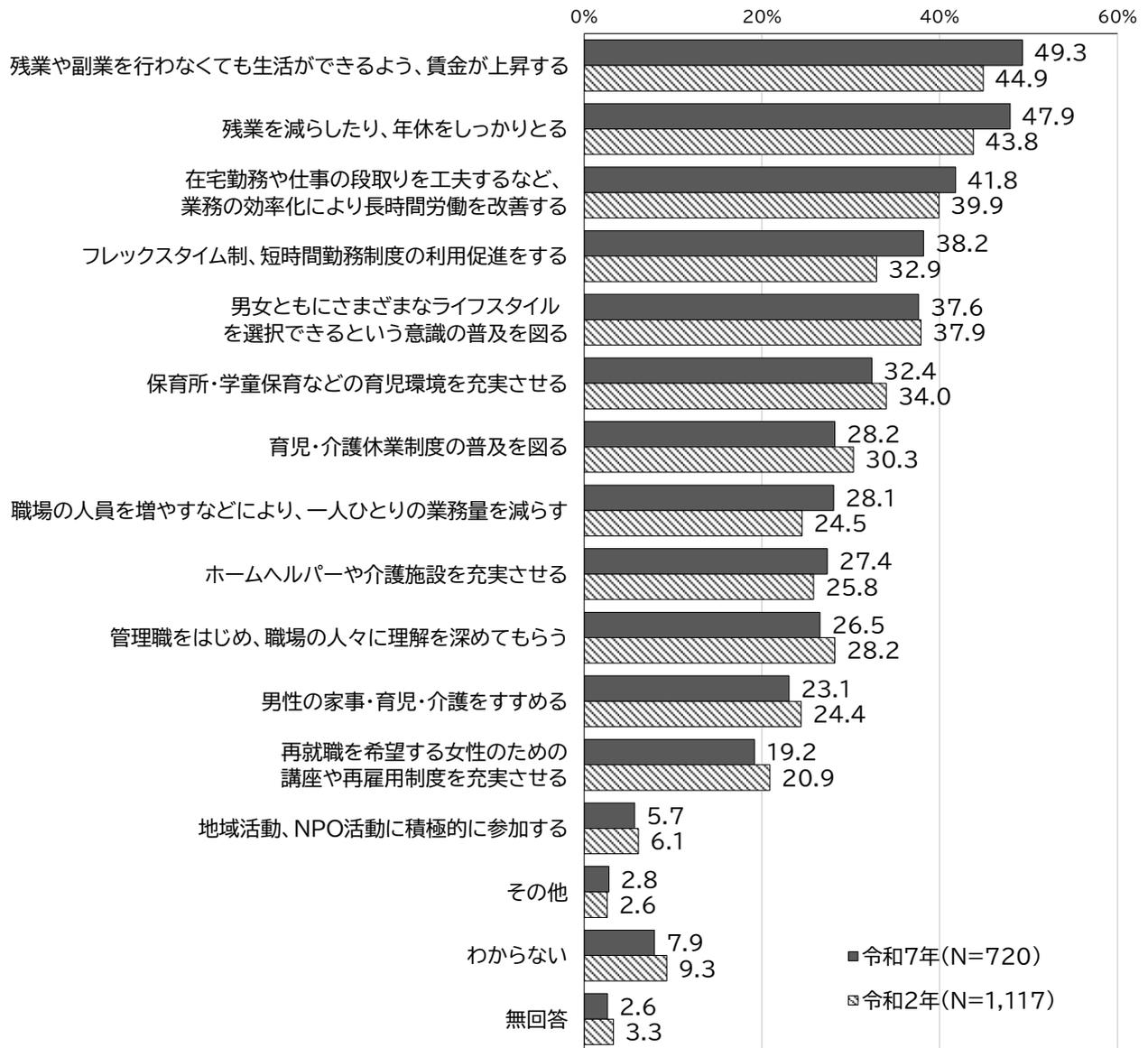
図表 6-3-3-② ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと  
(性・未既婚別、上位6項目：複数回答)



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、令和7年調査では、7項目の割合が前回よりも増えています。また、減っている項目は9項目あります。(図表6-3-4)

図表 6-3-4 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと  
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



## 7 セクシュアル・ハラスメント

### (1) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

問 14 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)は一定の人間関係の中で発生し、職場だけでなく、あらゆる場所で男女ともに受ける可能性があります。あなたはこれまでに、職場・学校・地域・SNSで、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。  
(○は職場、学校、地域、SNSごとにあてはまるものすべて)  
※高校生や大学生等の方は、「職場」はバイト先での経験について教えてください。

#### ■職場

##### 【全体】

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

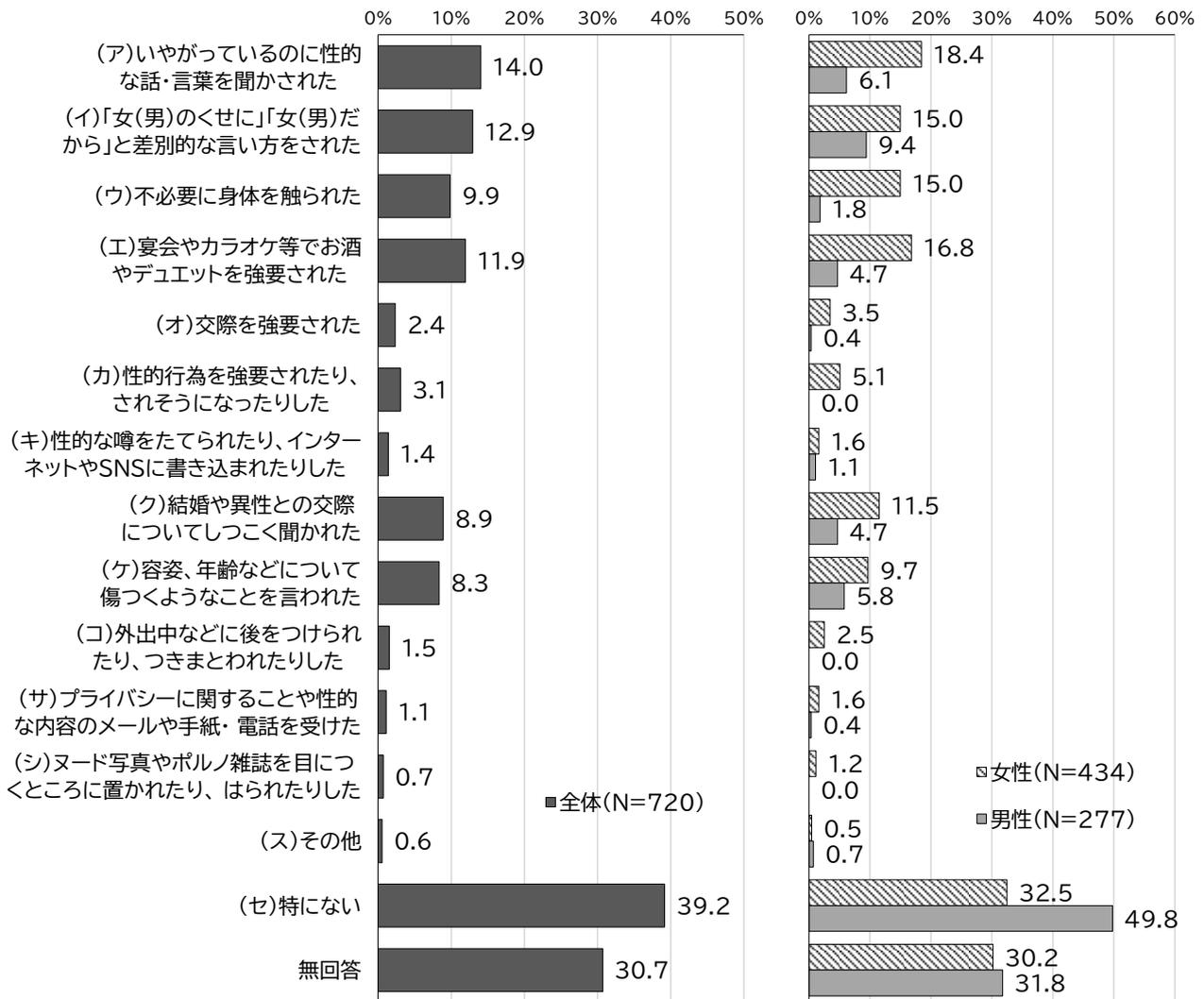
全体では、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(14.0%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(12.9%)』、『宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された(11.9%)』が続いています。(図表7-1-1)

##### 【性別】

性別でみると、女性は、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(18.4%)』、『宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された(16.8%)』、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(15.0%)』、『不必要に身体を触られた(15.0%)』、『結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた(11.5%)』が1割台となっています。

男性は、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(9.4%)』が最も多くなっています。また、『特にない(女性:32.5%、男性:49.8%)』は男性が多くなっています。(図表7-1-1)

図表 7-1-1 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）

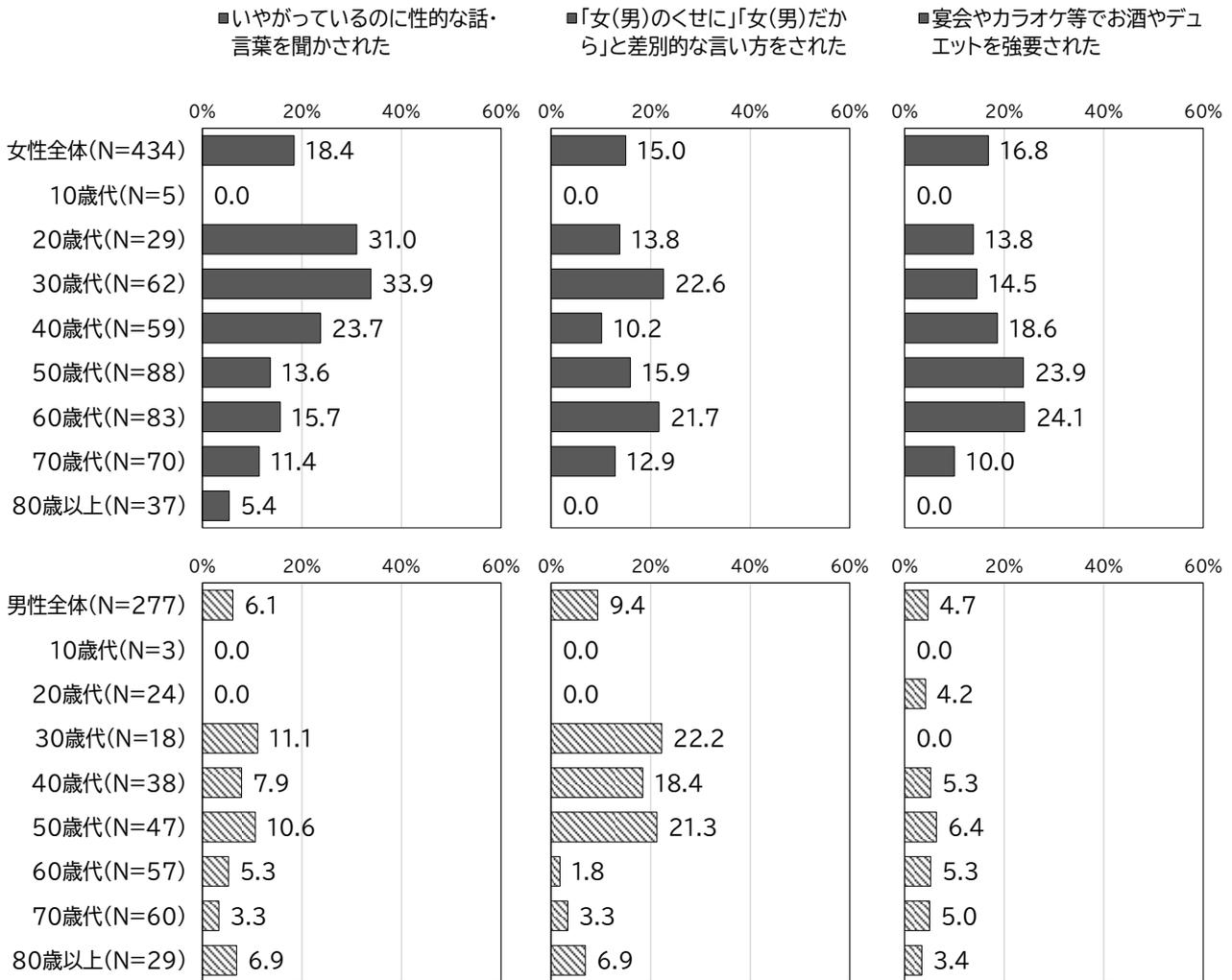


**【性・年代別】**

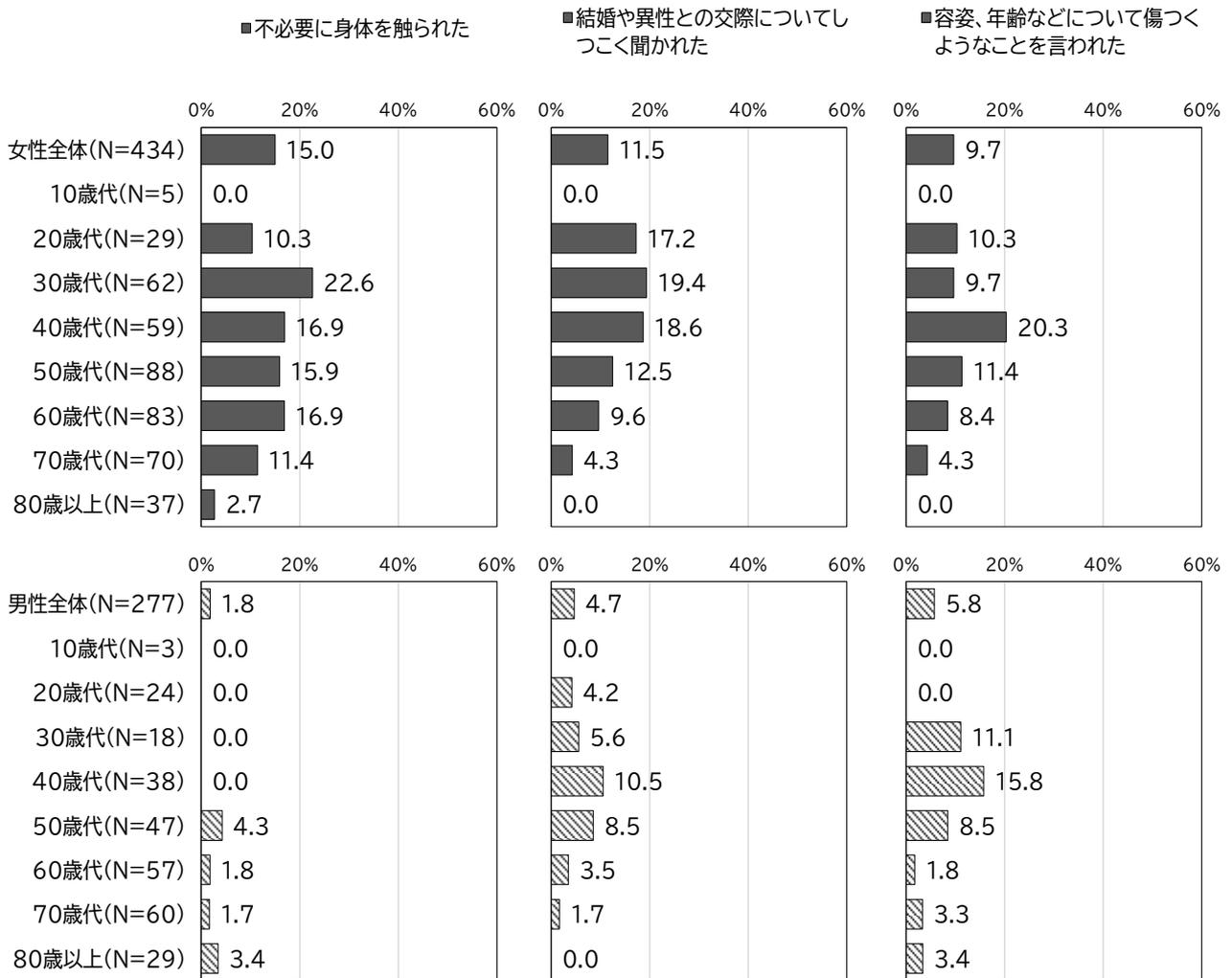
『特になし』を除いた項目で性・年代別にみると、女性は『いやがっているのに性的な話・言葉をきかされた』で20歳代(31.0%)、30歳代(33.9%)、40歳代(23.7%)で最も多く、『宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された』が50歳代(23.9%)、60歳代(24.1%)で多くなっています。

男性は『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた』が30歳代(22.2%)、40歳代(18.4%)、50歳代(21.3%)で多くなっています。(図表7-1-2-①、図表7-1-2-②)

図表 7-1-2-① 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無 (性・年代別、上位6項目)



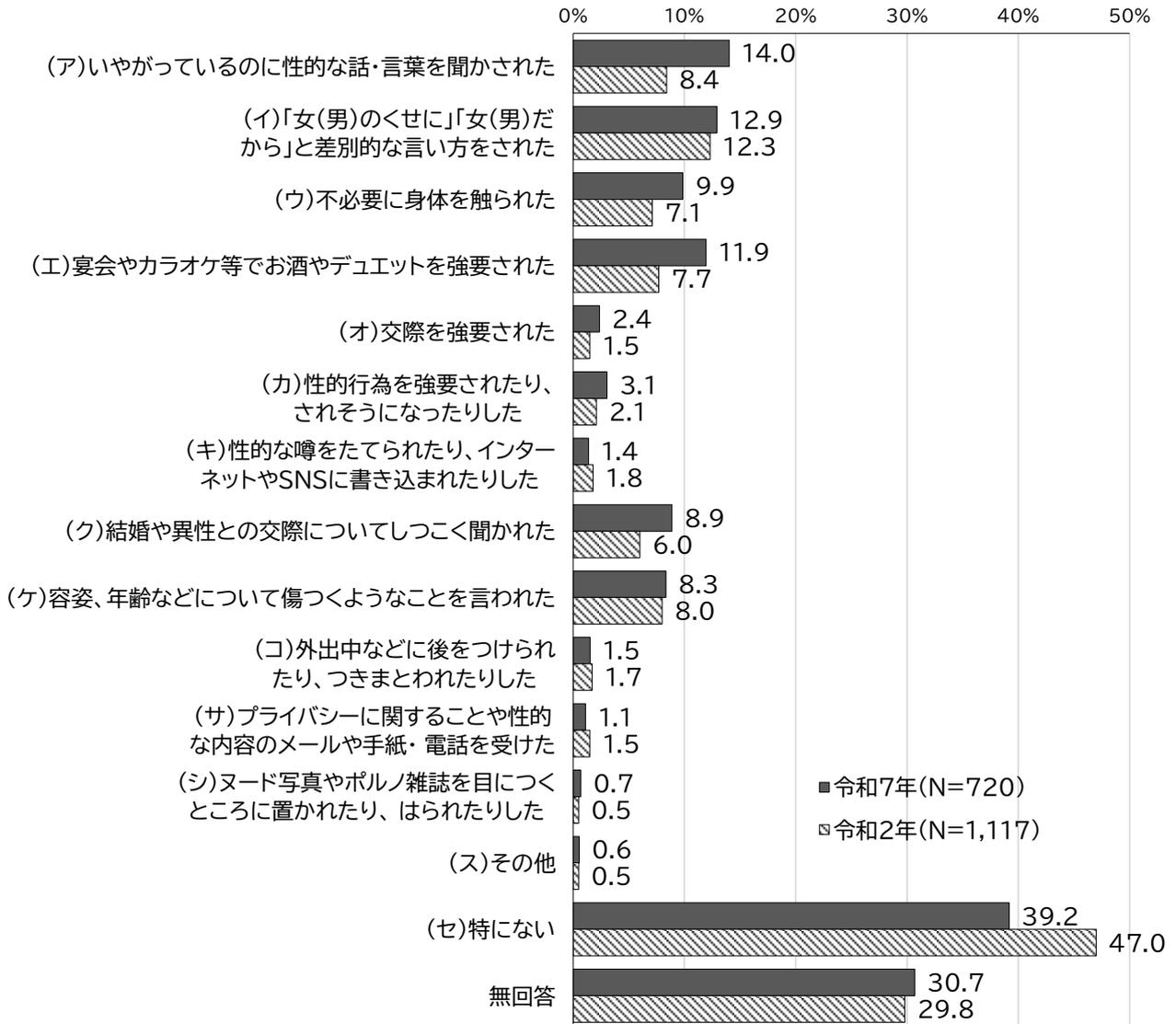
図表 7-1-2-② 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(令和7年調査:14.0%、令和2年調査:8.4%)』や『宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された(令和7年調査:11.9%、令和2年調査:7.7%)』など、10項目で前回よりも増えています。(図表7-1-3)

図表 7-1-3 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無 (全体、令和7年・令和2年調査)



## ■学校

### 【全体】

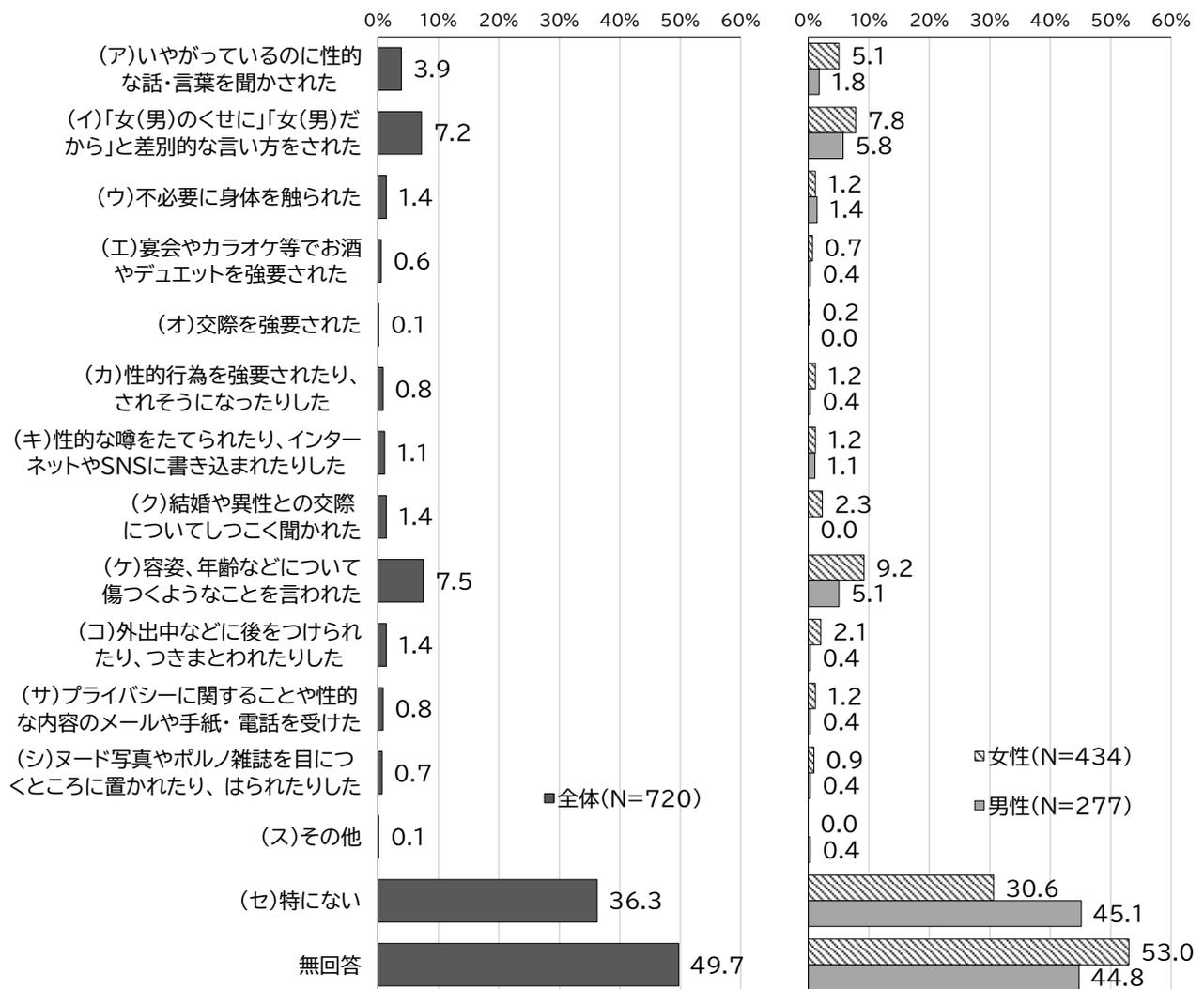
学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(7.2%)』と『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(7.5%)』が多くなっています。(図表7-1-4)

### 【性別】

性別でみると、男女ともに『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(女性:7.8%、男性:5.8%)』、『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(女性:9.2%、男性:5.1%)』が多くなっています。また、『特にない(女性:30.6%、男性:45.1%)』は男性が多くなっています。(図表7-1-4)

図表 7-1-4 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無 (全体、性別)

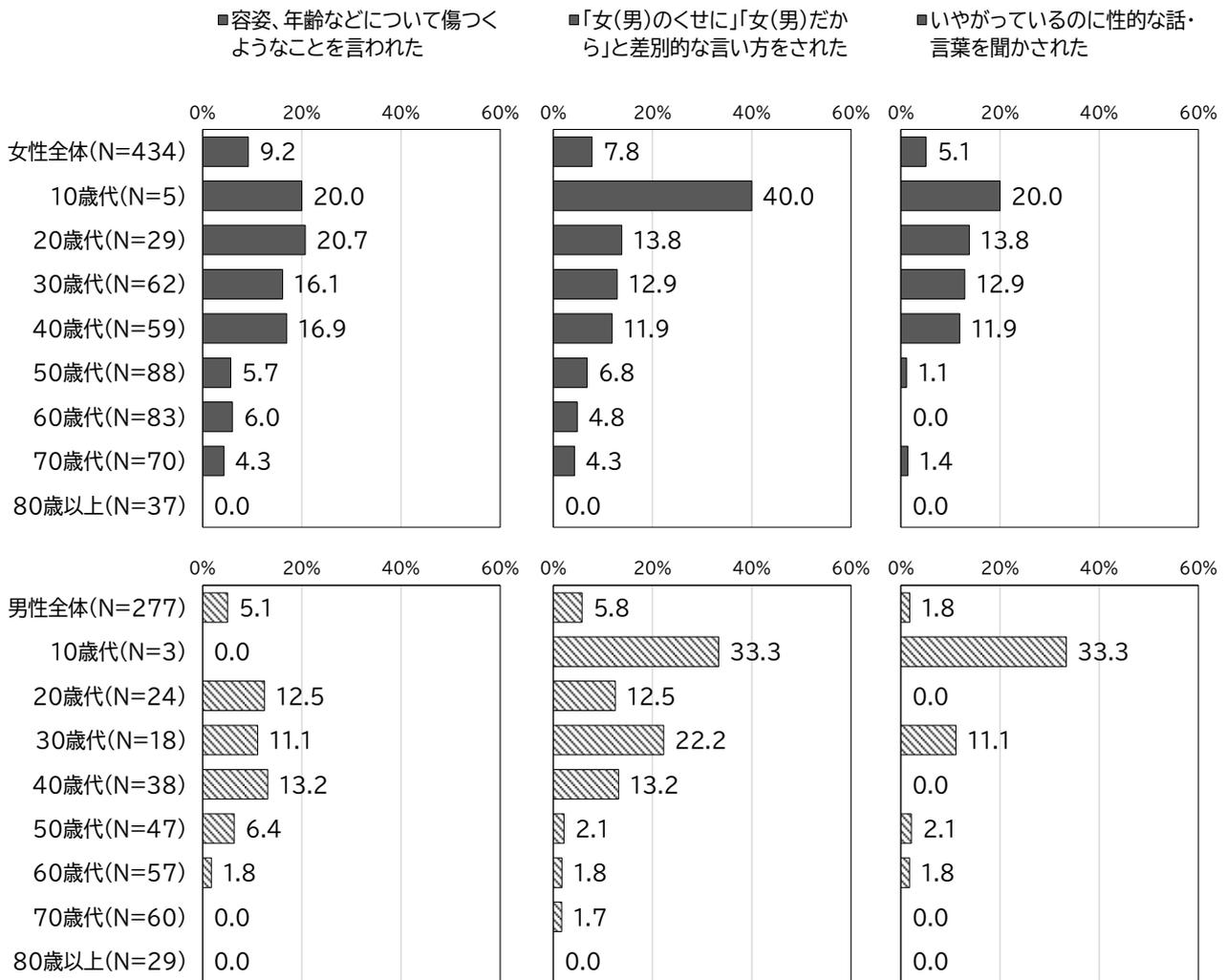


**【性・年代別】**

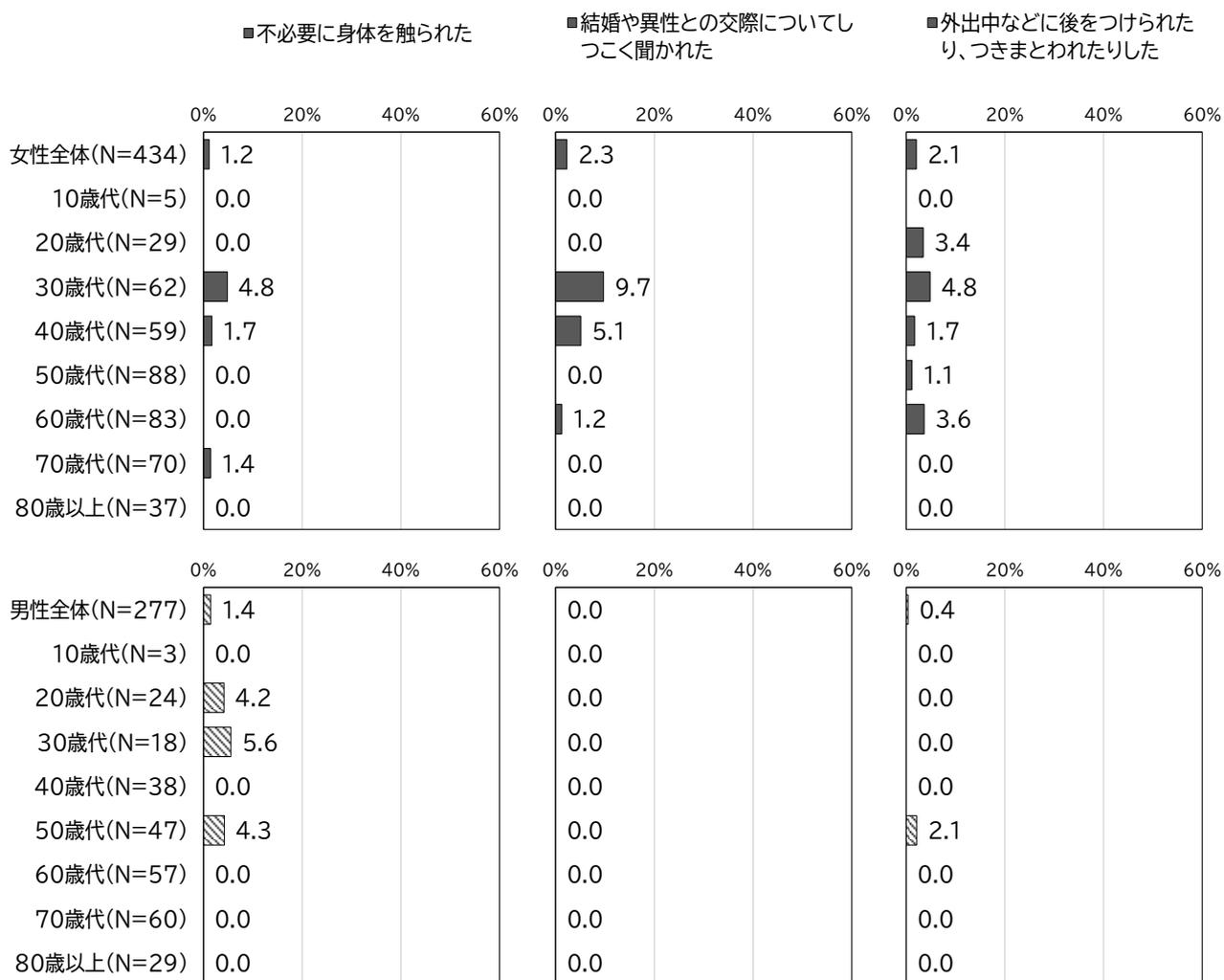
『特になし』を除いた項目で性・年代別にみると、女性は『容姿、年齢などについて傷つく様なことを言われた』で20歳代(20.7%)、30歳代(16.1%)、40歳代(16.9%)で多くなっています。

男性は20歳代で『容姿、年齢などについて傷つく様なことを言われた(12.5%)』と『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(12.5%)』、30歳代と40歳代で『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(30歳代:22.2%、40歳代:13.2%)』が多くなっています。(図表7-1-5-①、図表7-1-5-②)

図表 7-1-5-① 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無 (性・年代別、上位6項目)



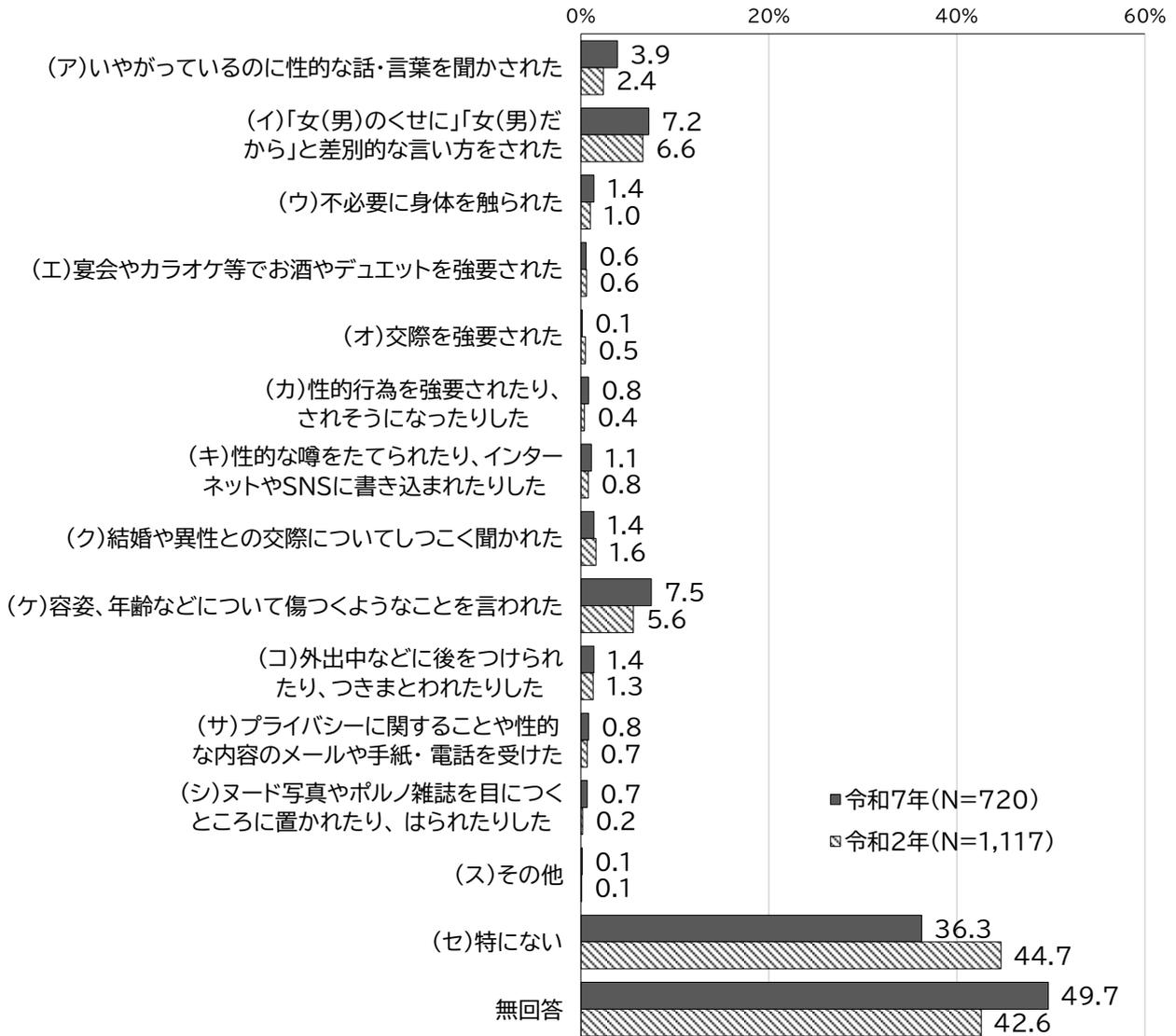
図表 7-1-5-② 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(令和7年調査:3.9%、令和2年調査:2.4%)』や『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(令和7年調査:7.5%、令和2年調査:5.6%)』など、9項目で前回よりも増えています。(図表7-1-6)

図表 7-1-6 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無(全体、令和7年・令和2年調査)



## ■地域

### 【全体】

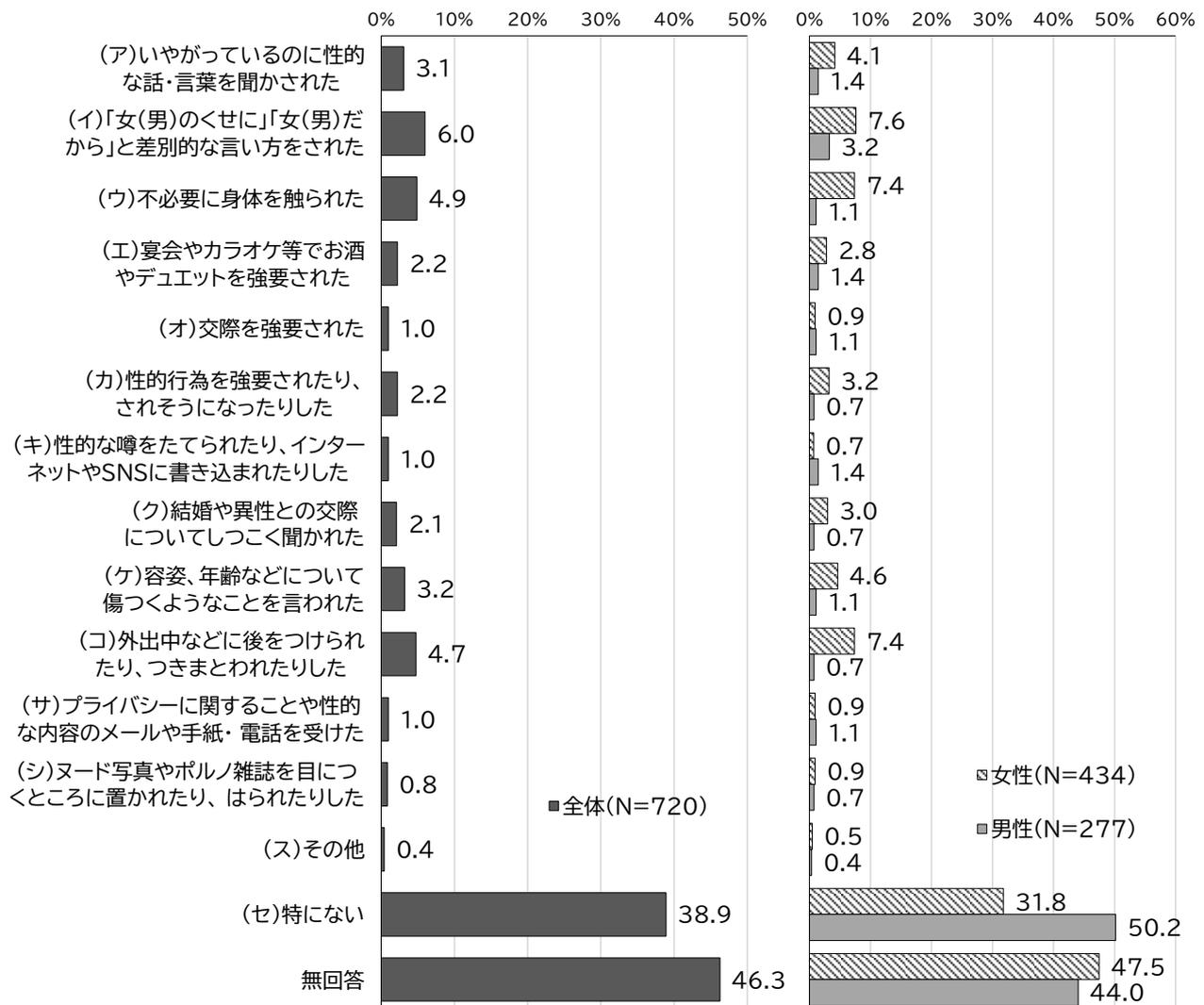
地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(6.0%)』、『不必要に身体を触られた(4.9%)』、『外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした(4.7%)』が多くなっています。(図表7-1-7)

### 【性別】

性別でみると、男女ともに『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(女性:7.6%、男性:3.2%)』が最も多くなっています。また、『特にない(女性:31.8%、男性:50.2%)』は、男性が多くなっています。(図表7-1-7)

図表 7-1-7 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無 (全体、性別)

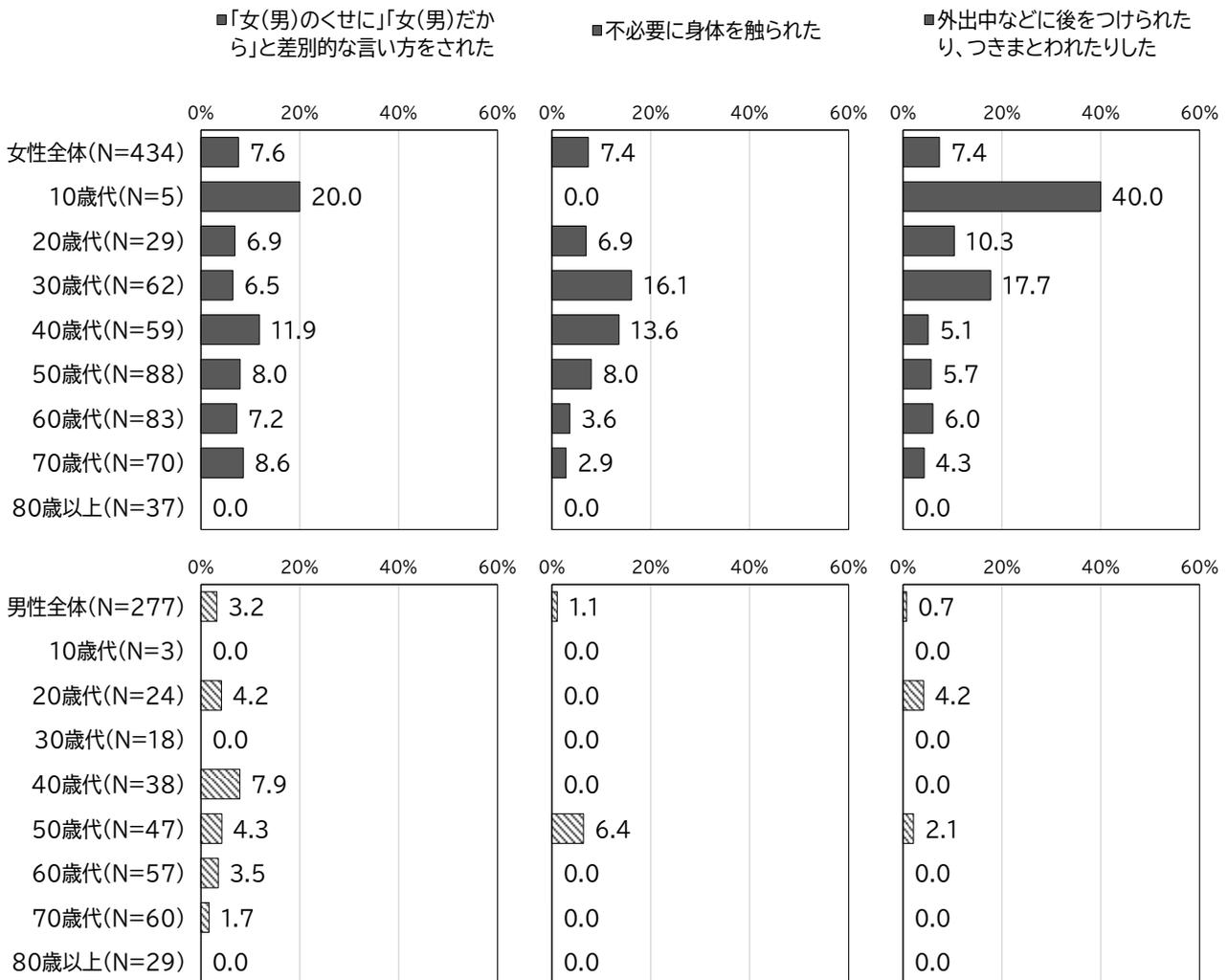


**【性・年代別】**

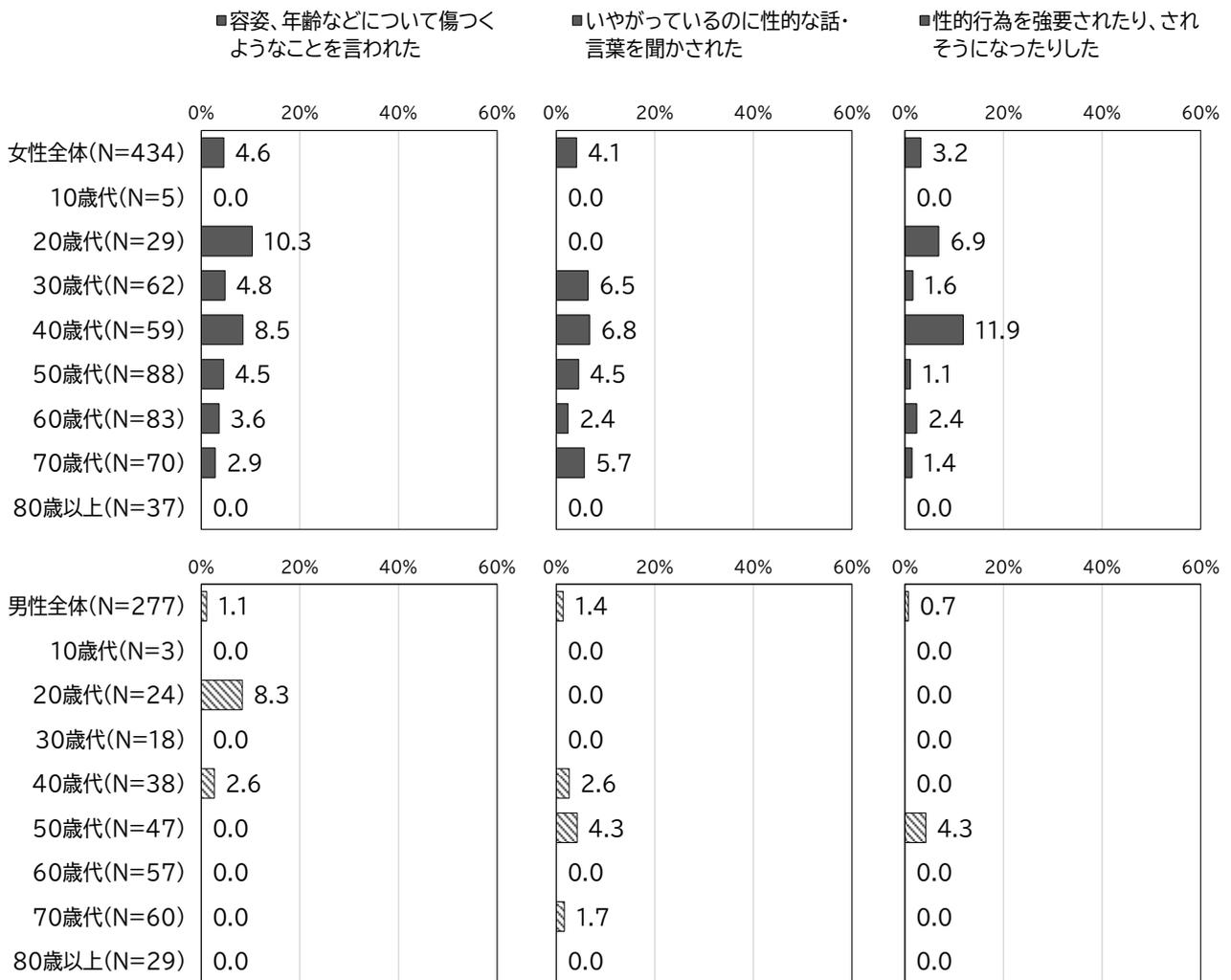
『特になし』を除いた項目で性・年代別にみると、女性は20歳代が『外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした(10.3%)』、『容姿、年齢などについて傷つく様なことを言われた(10.3%)』、30歳代が『外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした(17.7%)』、40歳代が『不必要に身体を触られた(13.6%)』で多くなっています。

男性は20歳代が『外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした(4.2%)』、40歳代が『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(7.9%)』で多くなっています。(図表7-1-8-①、図表7-1-8-②)

図表 7-1-8-① 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



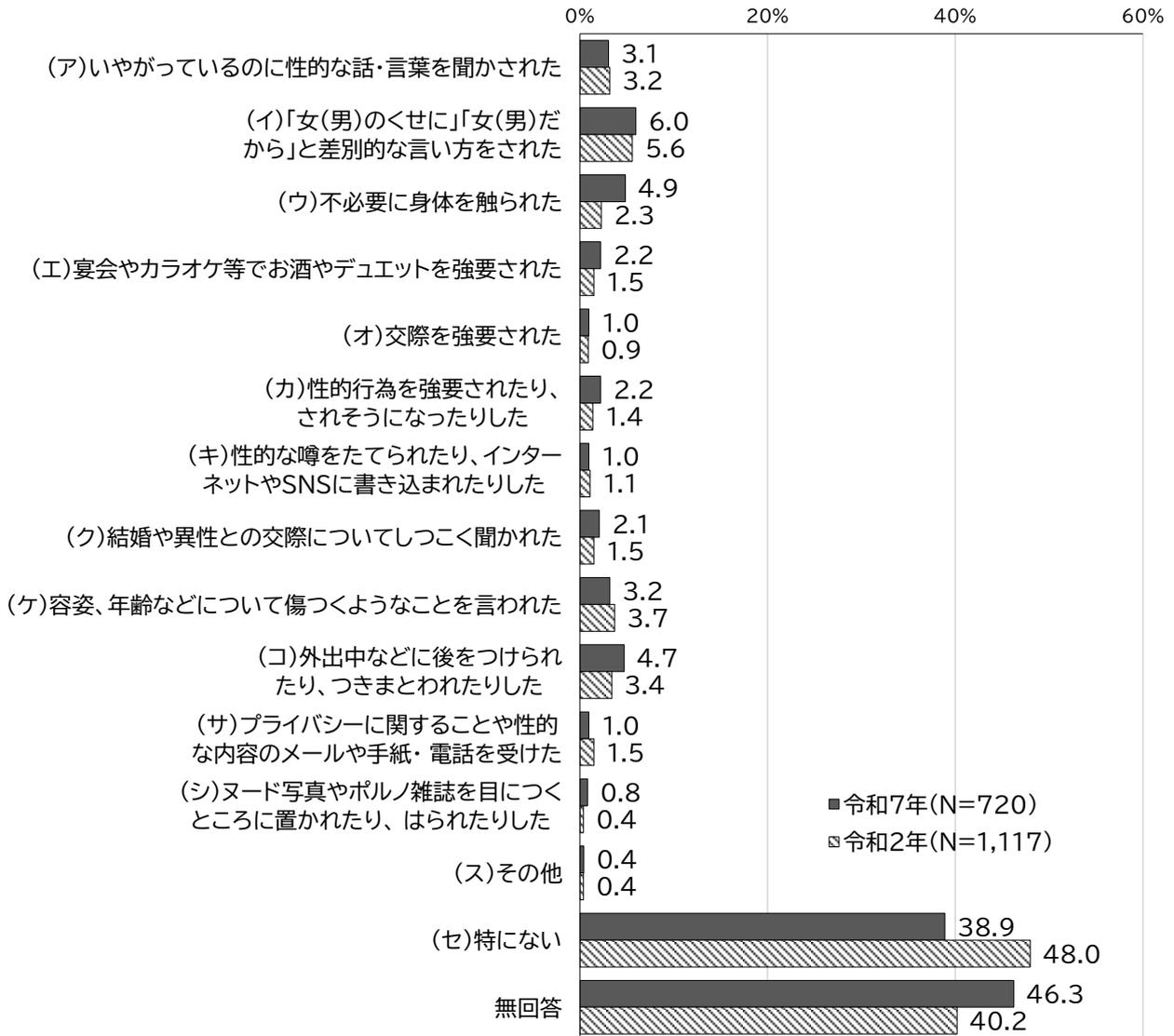
図表 7-1-8-② 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、『不必要に身体を触られた(令和7年調査:4.9%、令和2年調査:2.3%)』や『外出中など後をつけられたり、つきまとわれたりした(令和7年調査:4.7%、令和2年調査:3.4%)』など、8項目で前回よりも増えています。(図表7-1-9)

図表 7-1-9 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無(全体、令和7年・令和2年調査)



## ■SNS

### 【全体】

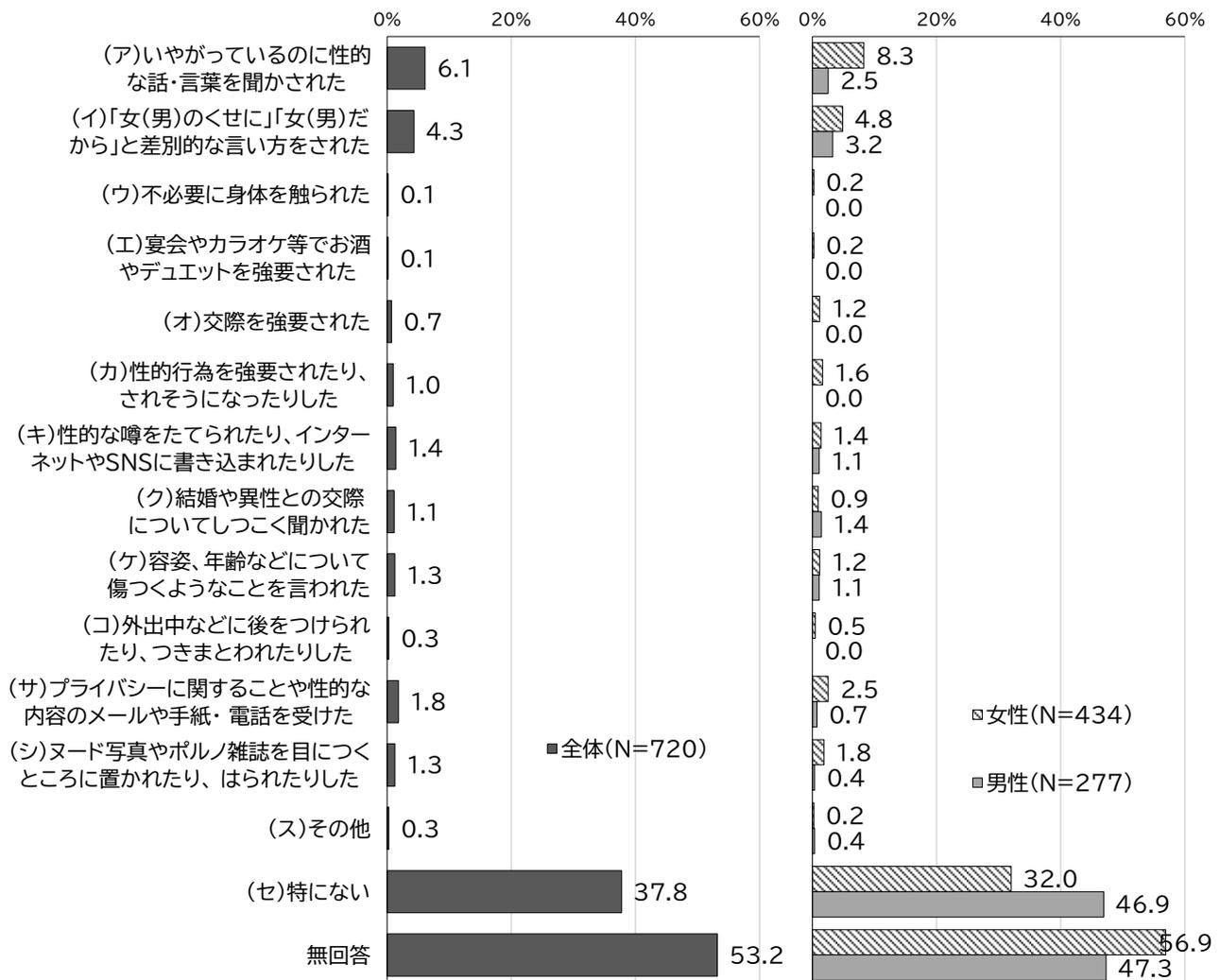
SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(6.1%)』、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(4.3%)』が多くなっています。(図表7-1-10)

### 【性別】

性別でみると、男女ともに、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(女性:8.3%、男性:2.5%)』、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(女性:4.8%、男性:3.2%)』が多くなっています。また、『特にない(女性:32.0%、男性:46.9%)』は男性が多くなっています。(図表7-1-10)

図表 7-1-10 SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無(全体、性別)

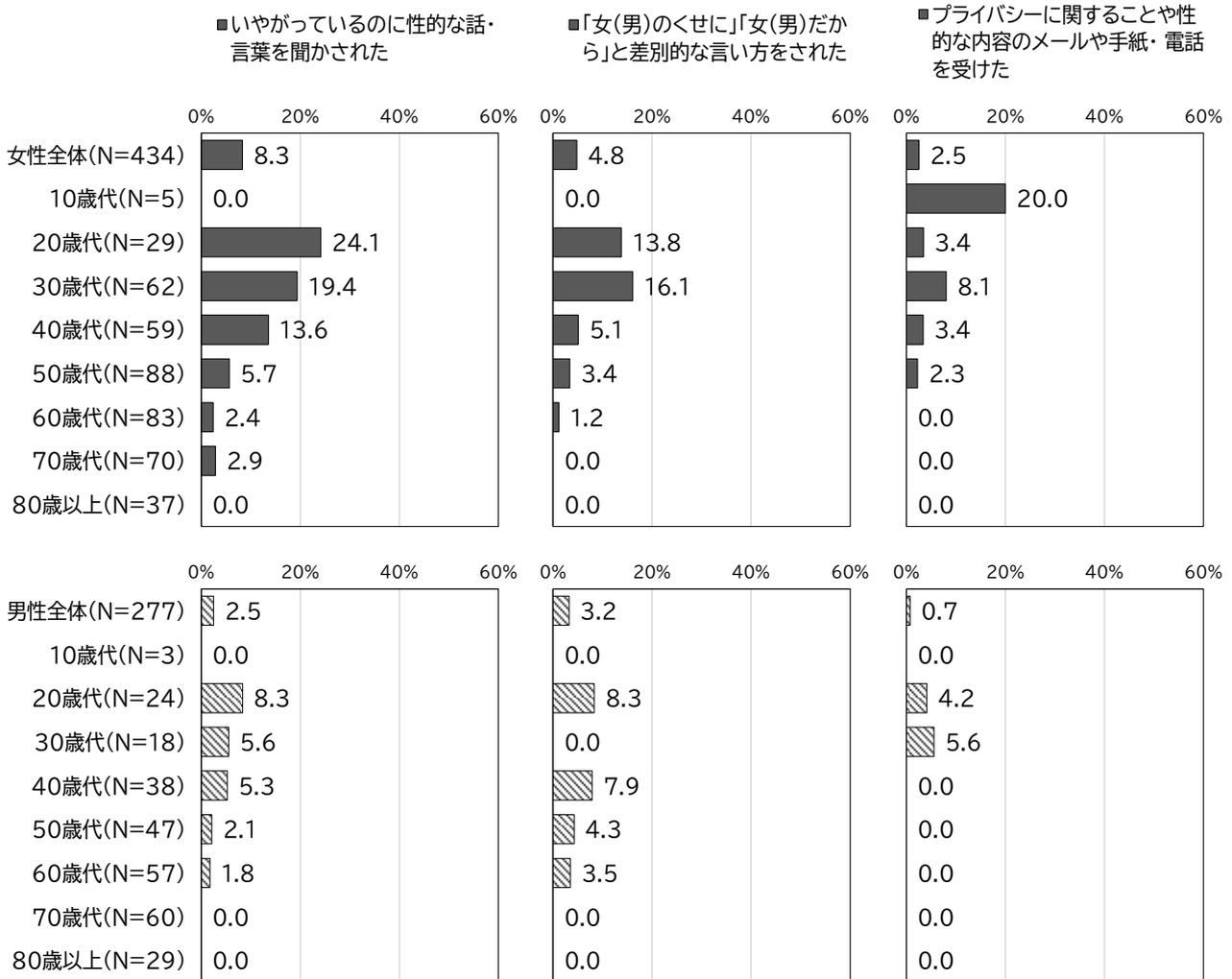


**【性・年代別】**

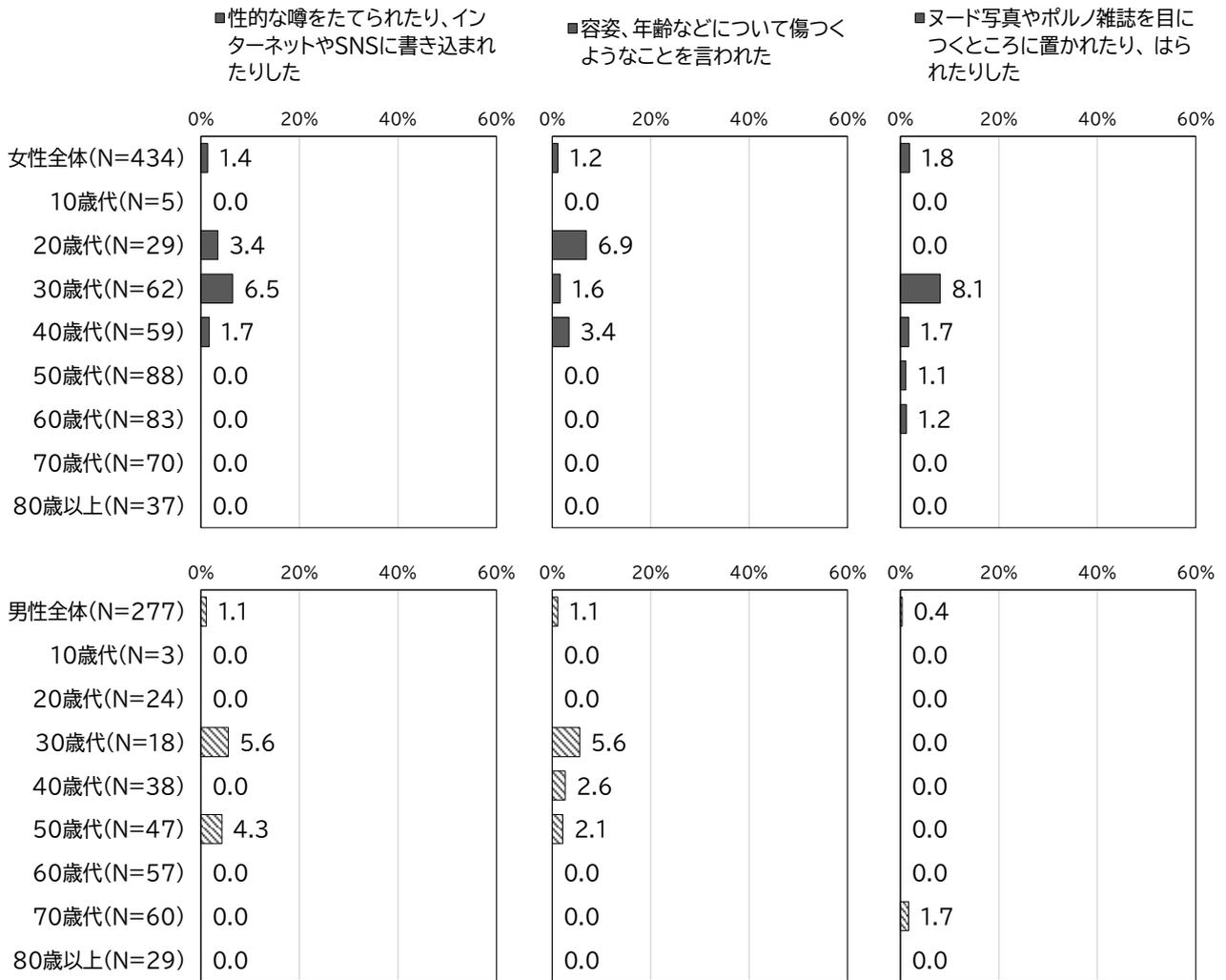
『特にない』を除いた項目で性・年代別にみると、女性は『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた』で20歳代(24.1%)、30歳代(19.4%)、40歳代(13.6%)が多くなっています。

男性は『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた』と『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた』が20歳代(8.3%)が多くなっています。(図表7-1-11-①、図表7-1-11-②)

図表 7-1-11-① SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年齢別、上位6項目）



図表 7-1-11-② SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年齢別、上位6項目）



## (2) 相談の有無

問 15 は、問 14 の(ア)～(ス)に、1つでも○をつけた方におうかがいします。

問 15 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(○は1つだけ)

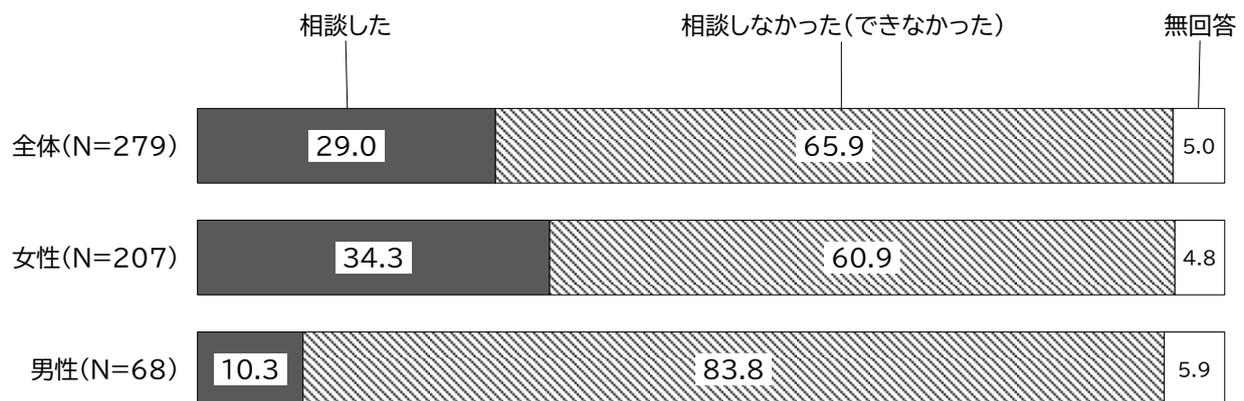
### 【全体】

何らかのセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に、その時の対応をたずねました。全体では、「相談した」が29.0%、「相談しなかった(できなかった)」が65.9%となっています。(図表7-2-1)

### 【性別】

性別で見ると、「相談した(女性:34.3%、男性:10.3%)」は、女性が男性を24.0%上回っています。(図表7-2-1)

図表 7-2-1 相談の有無 (全体、性別)  
<セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>

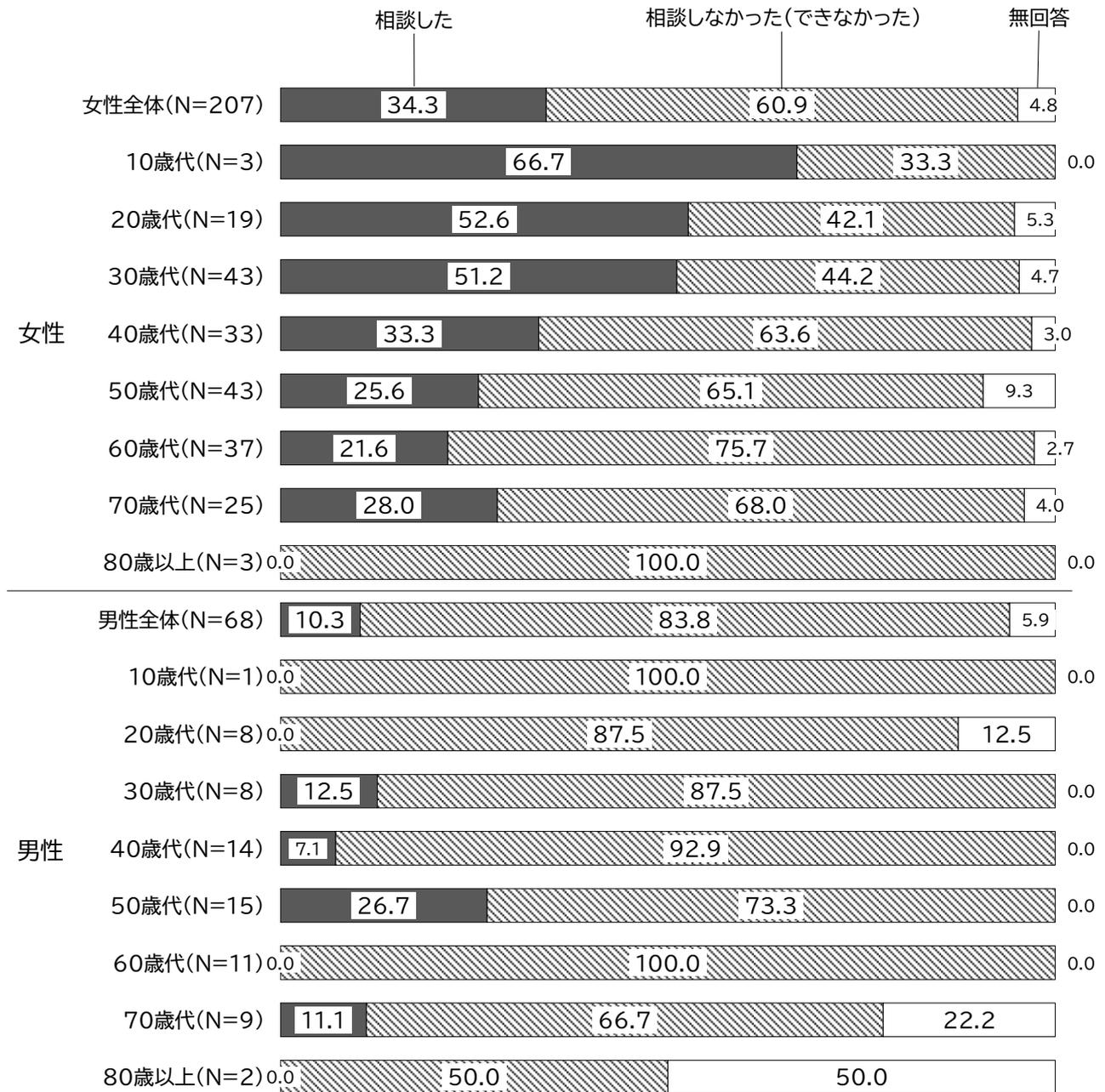


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は10歳代から60歳代にかけて年代が上がるほど「相談した」が減少傾向となっています。

男性は、「相談した」が50歳代(26.7%)で他の年代と比べて多くなっています。(図表7-2-2)

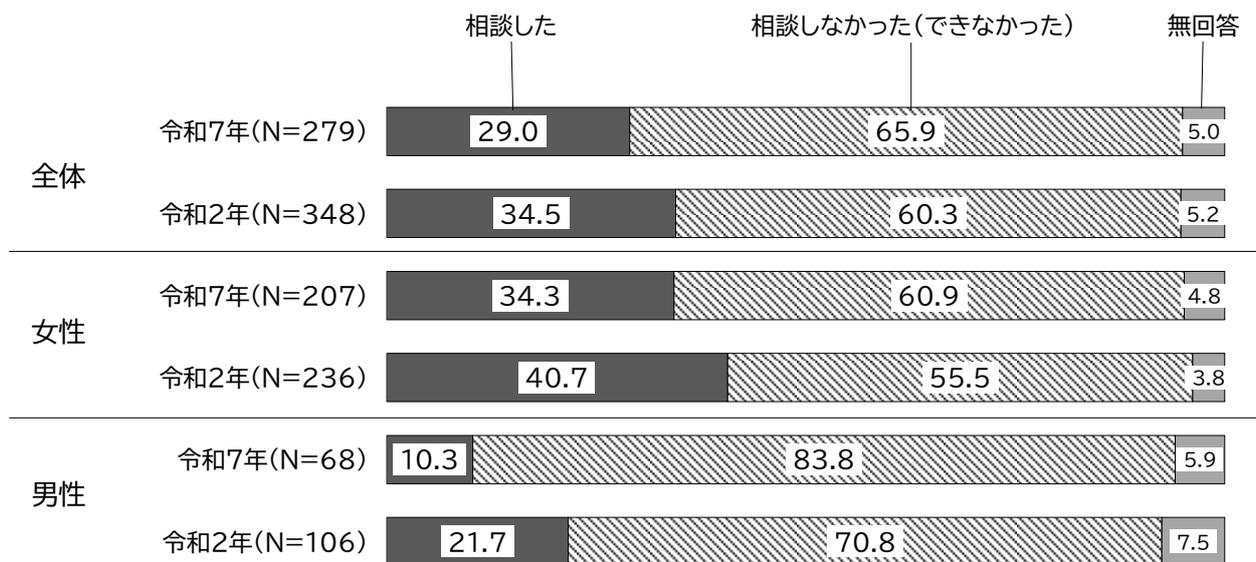
図表 7-2-2 相談の有無（性・年代別）  
 <セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全体、女性、男性ともに「相談した」が令和2年調査よりも減っています。女性(令和7年調査:34.3%、令和2年調査:40.7%)は6.4%、男性(令和7年調査:10.3%、令和2年調査:21.7%)は11.4%減っています。(図表7-2-3)

図表 7-2-3 相談の有無（全体、性別、令和7年・令和2年調査）  
 <セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>



### (3) 相談先

問 15 で「1. 相談した」とお選びの方に

問 15-1 そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

#### 【全体】

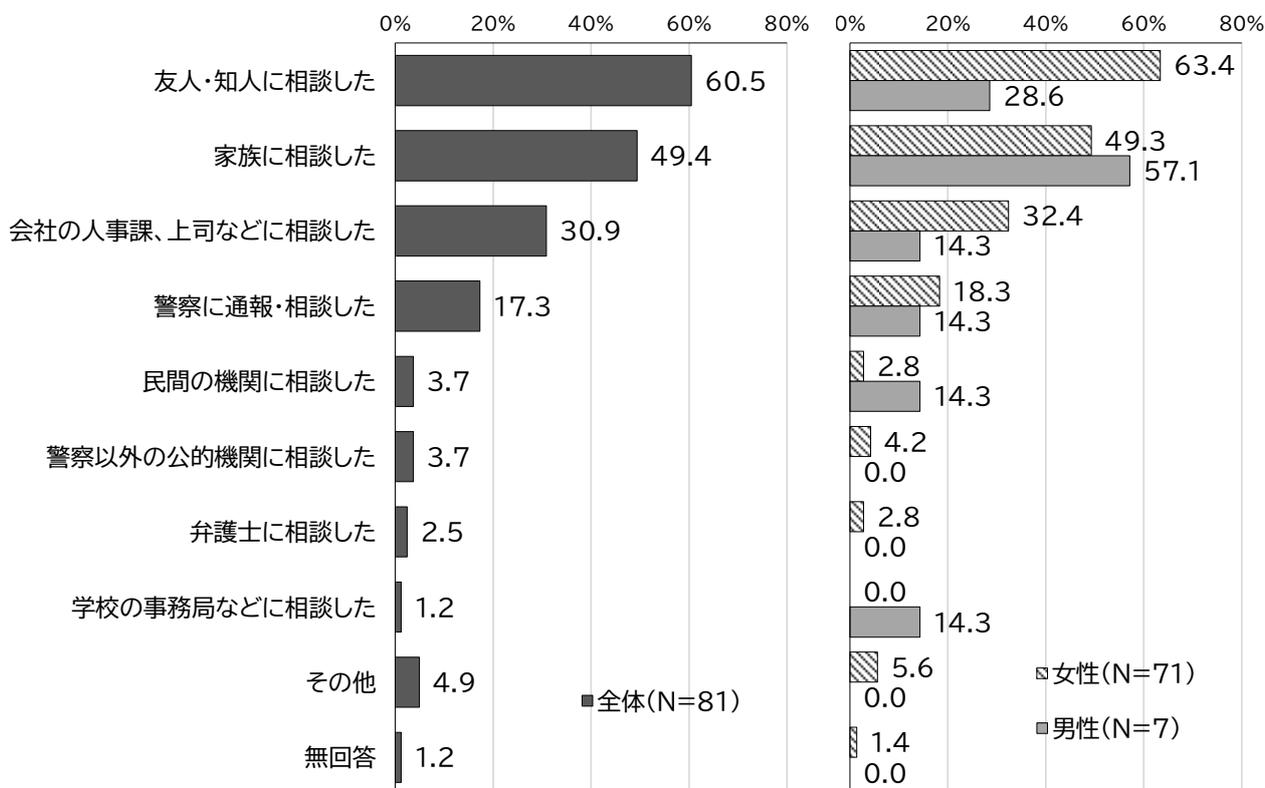
セクシュアル・ハラスメントについて「相談した」と回答した人に、その相談先をたずねました。

全体では、「友人・知人に相談した(60.5%)」が最も多く、「家族に相談した(49.4%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(30.9%)」が続いています。(図表7-3-1)

#### 【性別】

性別で見ると、女性では「友人・知人に相談した(63.4%)」が最も多く、「家族に相談した(49.3%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(32.4%)」が続いています。男性では「家族に相談した(57.1%)」が最も多く、「友人・知人に相談した(28.6%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(14.3%)」などが続いています。(図表7-3-1)

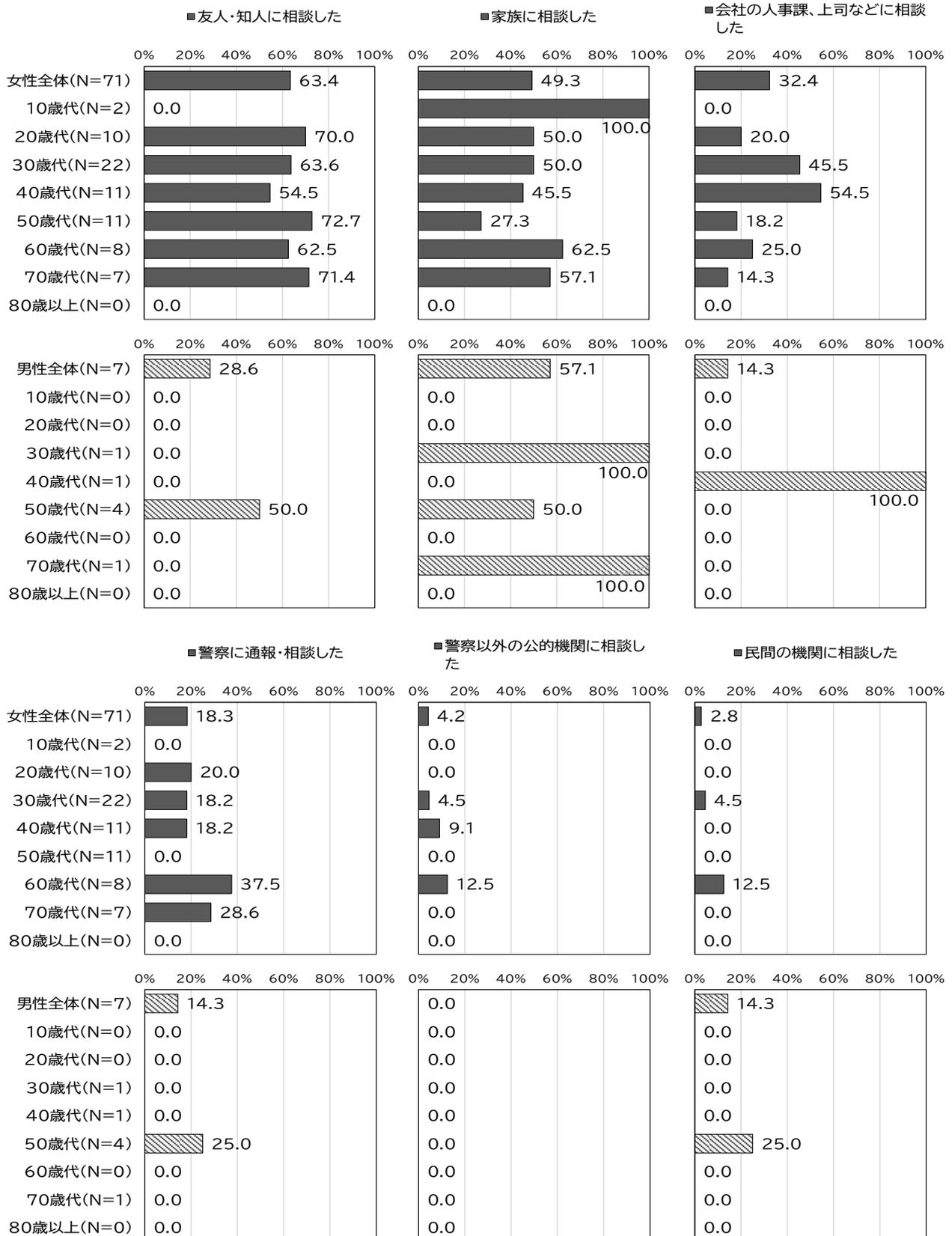
図表 7-3-1 相談先 (全体、性別：複数回答)  
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>



**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は「友人・知人に相談した」が20歳代(70.0%)、50歳代(72.7%)、70歳代(71.4%)で7割台となっています。(図表7-3-2)

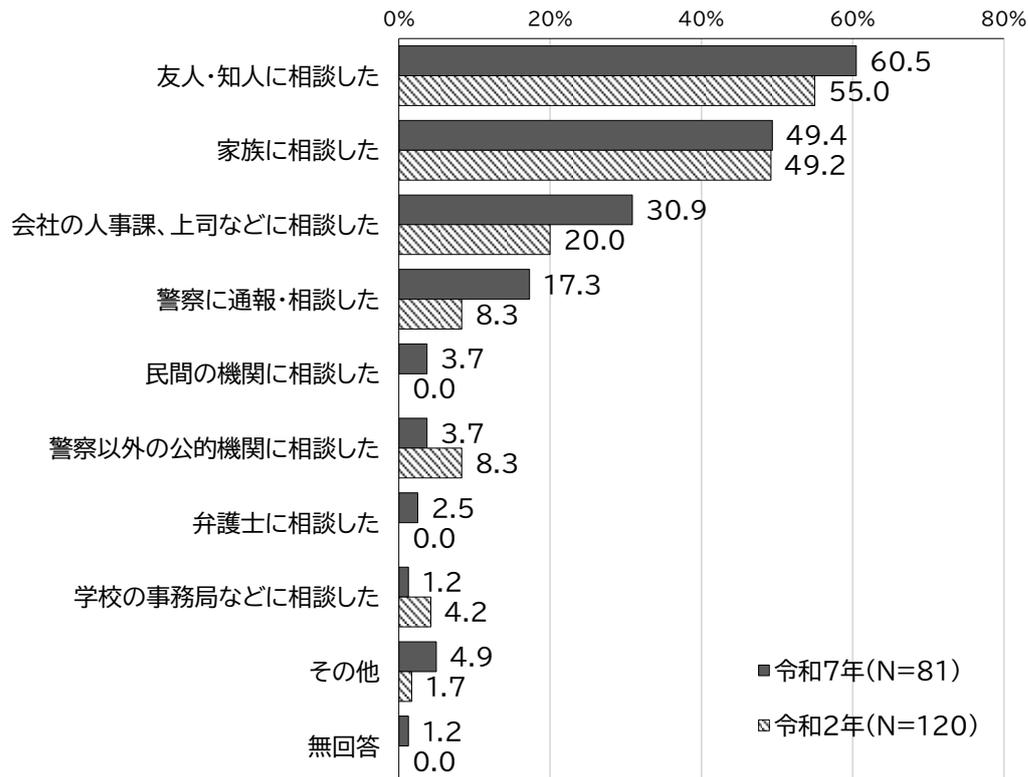
図表 7-3-2 相談先 (性・年代別、上位6項目：複数回答)  
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>



### 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「友人・知人に相談した(令和7年調査:60.5%、令和2年調査55.0%)」で5.5%、「会社の人事課、上司等に相談した(令和7年調査:30.9%、令和2年調査:20.0%)」で10.9%、「警察に通報・相談した(令和7年調査:17.3%、令和2年調査:8.3%)」で9.0%増えています。(図表7-3-3)

図表7-3-3 相談先(全体、令和7年・令和2年調査:複数回答)  
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>



#### (4) 相談しなかった、できなかった理由

問 15 で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えの方に

問 15-2 だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。  
(○はあてはまるものすべて)

##### 【全体】

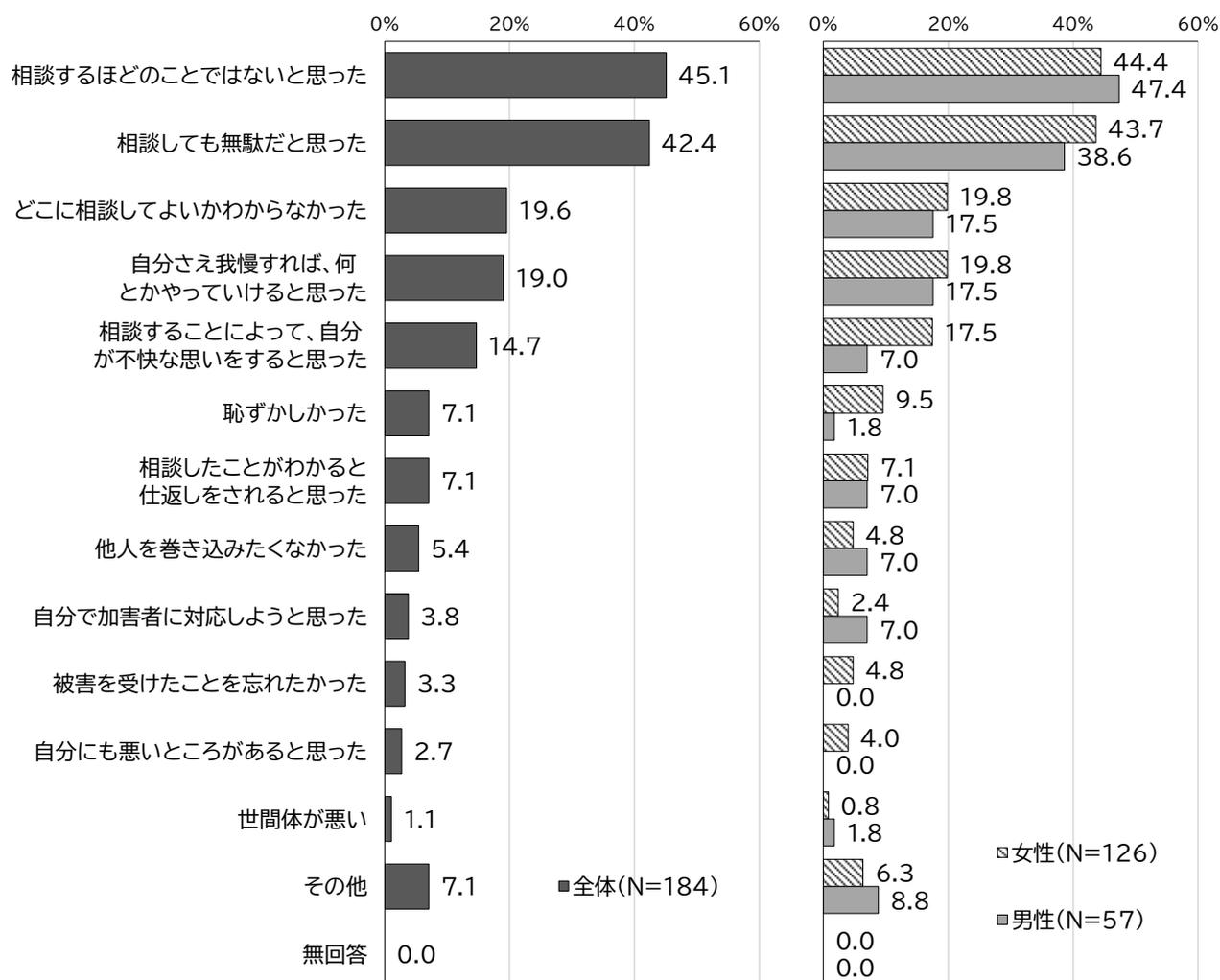
セクシュアル・ハラスメントについて「相談しなかった」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから(45.1%)」、「相談しても無駄だと思ったから(42.4%)」が4割を超えています。(図表7-4-1)

##### 【性別】

性別で見ると、男女いずれも「相談するほどのことではないと思ったから(女性:44.4%、男性:47.4%)」、「相談しても無駄だと思ったから(女性:43.7%、男性:38.6%)」が多くなっています。(図表7-4-1)

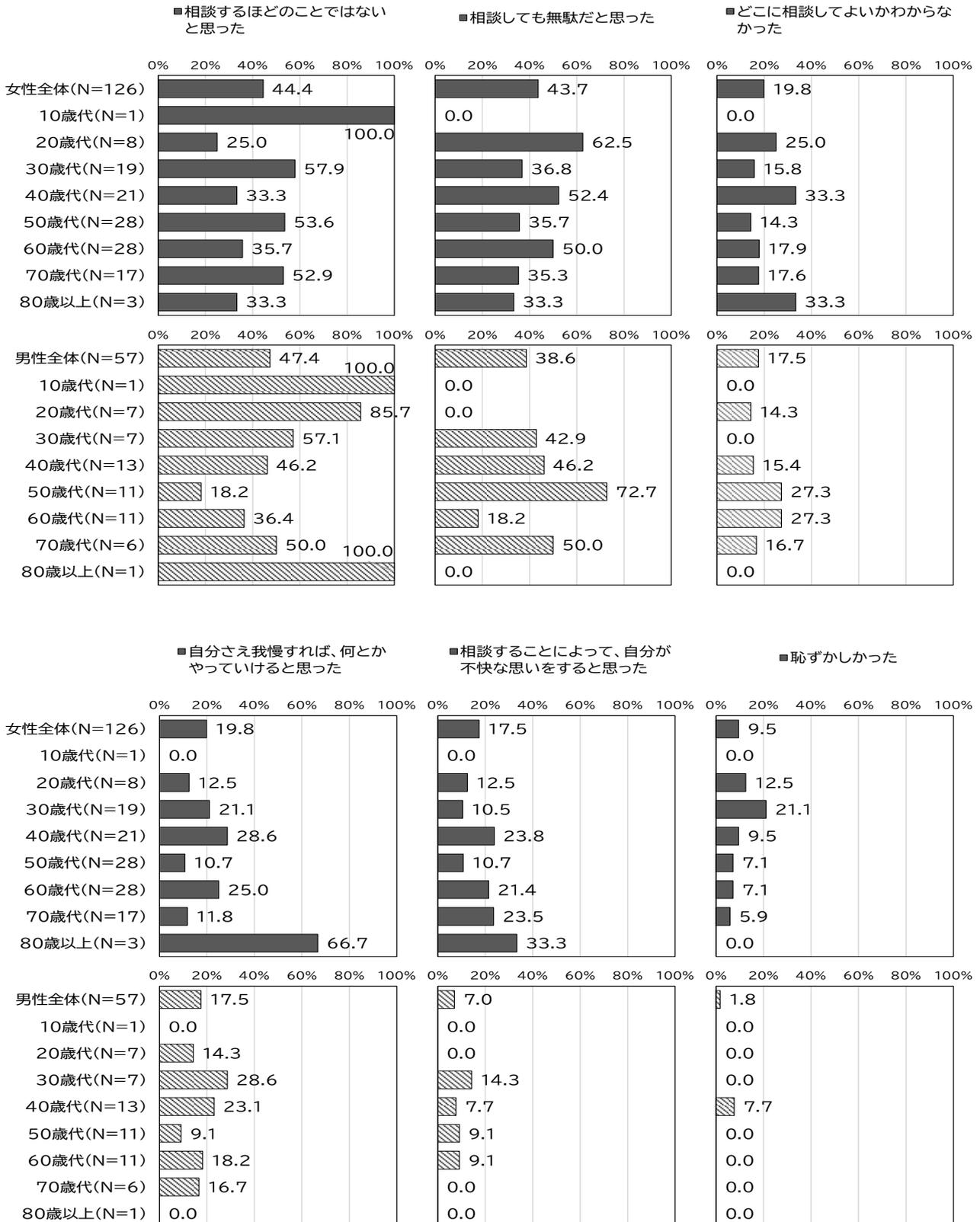
図表 7-4-1 相談しなかった、できなかった理由 (全体、性別：複数回答)  
<セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった(できなかった)人>



**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」が30歳代(57.9%)と50歳代(53.6%)と70歳代(52.9%)で、「相談しても無駄だと思ったから」が20歳代(62.5%)と40歳代(52.4%)と60歳代(50.0%)で5割以上と多くなっています。(図表7-4-2)

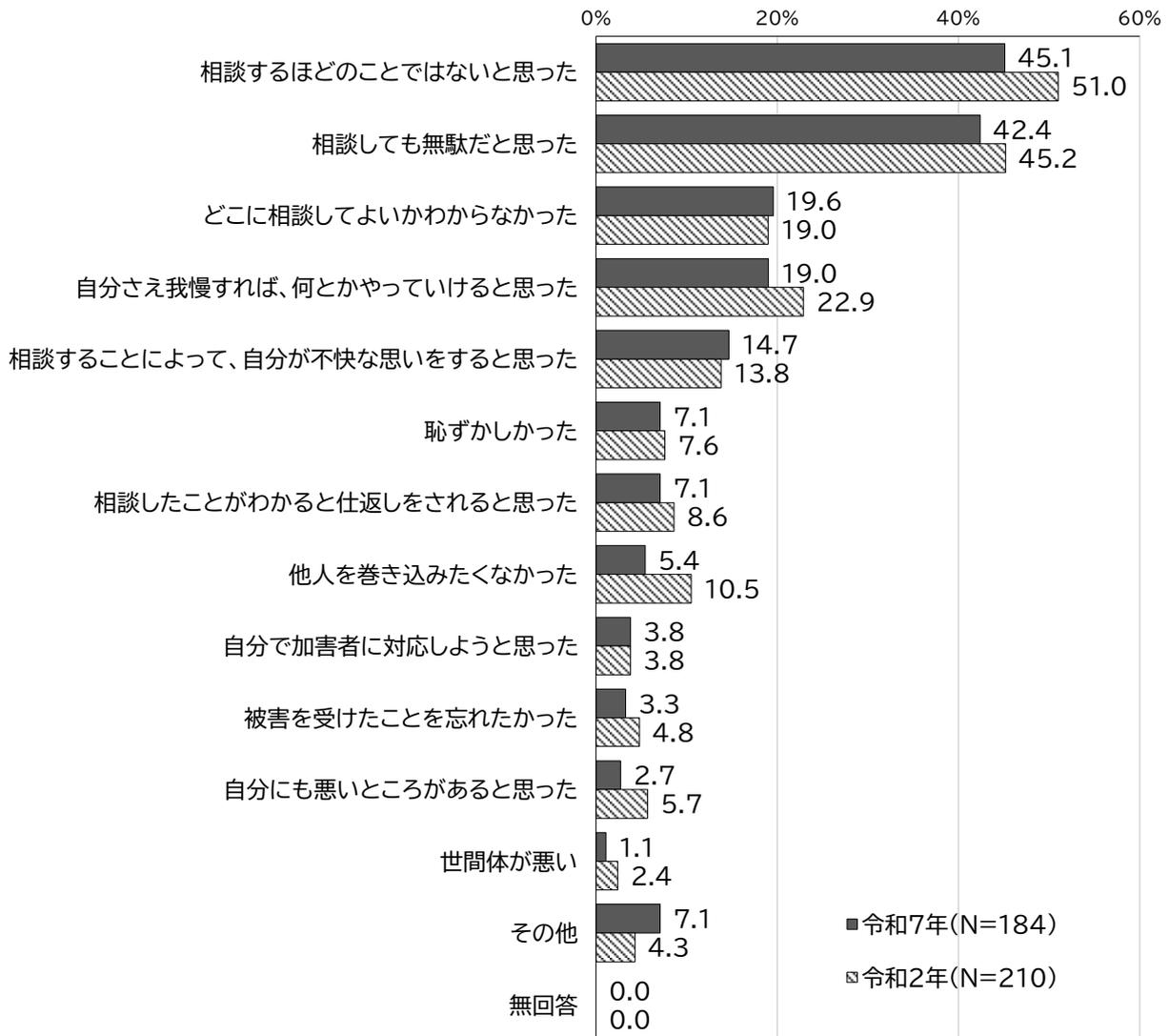
図表 7-4-2 相談しなかった、できなかった理由（性・年代別、上位6項目：複数回答）  
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）人>



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから(令和7年調査:45.1%、令和2年調査:51.0%)」、「相談しても無駄だと思ったから(令和7年調査:42.4%、令和2年調査:45.2%)」など、9項目の割合が減っています。(図表7-4-3)

図表 7-4-3 相談しなかった、できなかった理由 (全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)  
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった(できなかった)人>



## 8 DV（ドメスティック・バイオレンス）

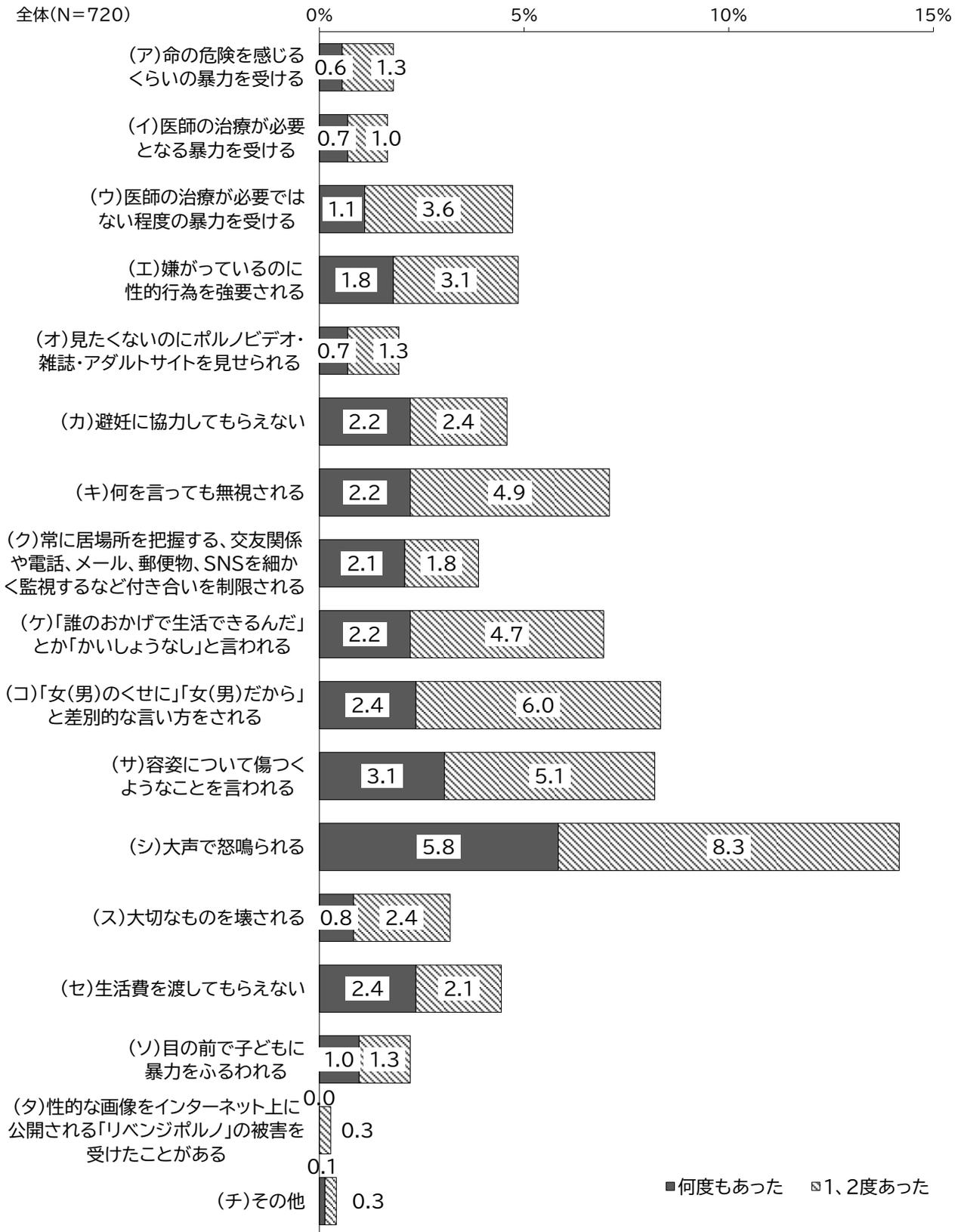
### （1）DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験の有無

問 16 DV(ドメスティック・バイオレンス)とは配偶者などに対し、著しい身体的または精神的苦痛を与える暴力的行為をいいます。あなたはこれまでに配偶者(事実婚や別居、離別を含む)や恋人などのパートナーから、次のようなDVを受けたことがありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

#### 【全体】

全体では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(14.1%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる(8.4%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる(8.2%)』、『何を言っても無視される(7.1%)』が続いています。(図表8-1-1)

図表 8-1-1 DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験の有無（全体）



【性別】

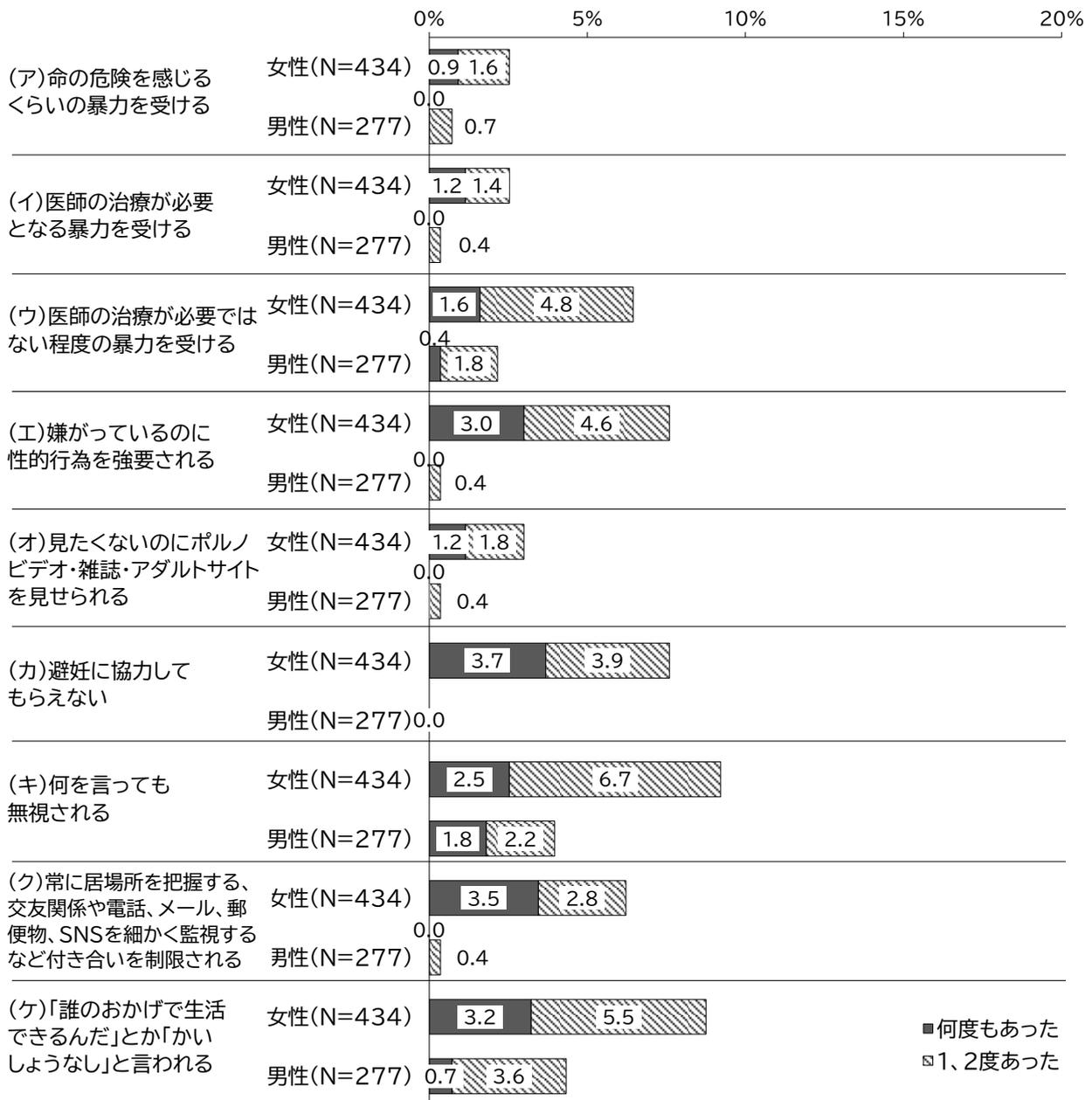
性別でみると、女性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(18.9%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる(10.6%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる(10.4%)』、『何を言っても無視される(9.2%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(8.7%)』、『嫌がっているのに性的行為を強要される(7.6%)』が続いています。

また、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は2.6%、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は2.5%となっています。(図表8-1-2-①、図表8-1-2-②)

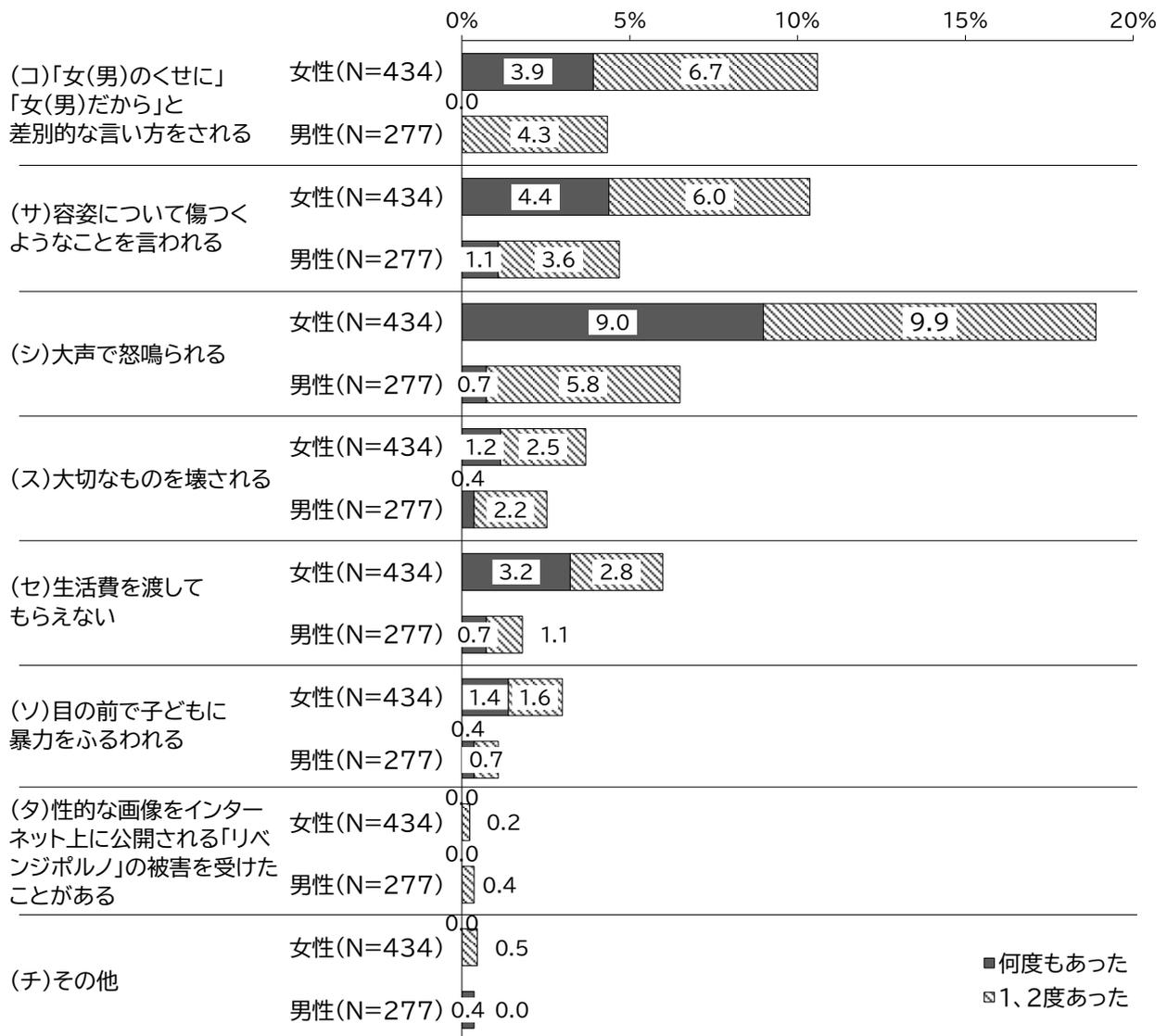
男性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(6.5%)』が最も多く、『容姿について傷つくようなことを言われる(4.7%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(4.3%)』が続いています。

また、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は0.7%、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は0.4%となっています。(図表8-1-2-①、図表8-1-2-②)

図表 8-1-2-① ドメスティック・バイオレンスの経験の有無(性別)



図表 8-1-2-② ドメスティック・バイオレンスの経験の有無（性別）

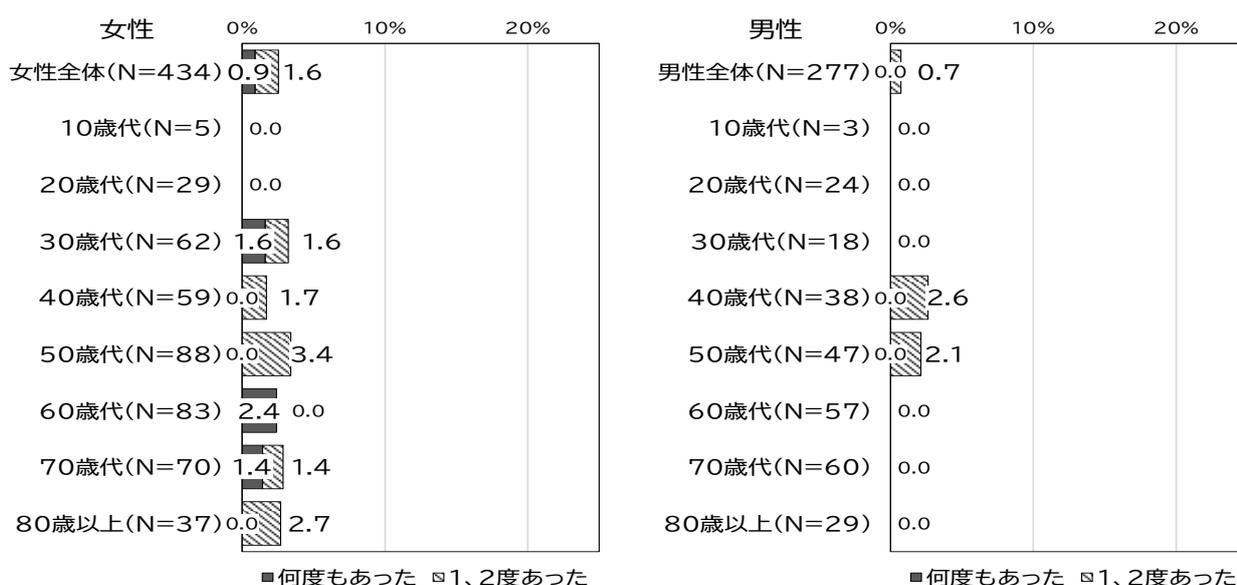


【性・年代別】

■命の危険を感じるくらいの暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で3.2%、40歳代で1.7%、50歳代で3.4%、60歳代で2.4%、70歳代で2.8%となっています。男性では40歳代が2.6%、50歳代が2.1%となっています。(図表8-1-3-①)

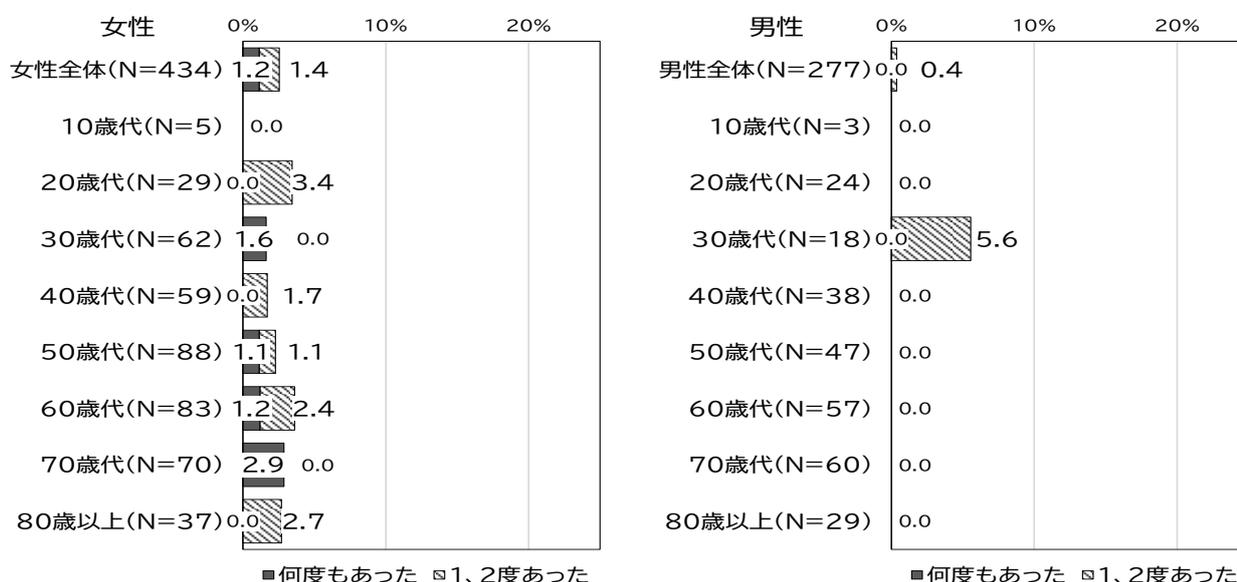
図表 8-1-3-① 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける (性・年代別)



■医師の治療が必要となる暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で1.6%、40歳代で1.7%、50歳代で2.2%、60歳代で3.6%、70歳代で2.9%となっています。男性では30歳代が5.6%となっています。(図表8-1-3-②)

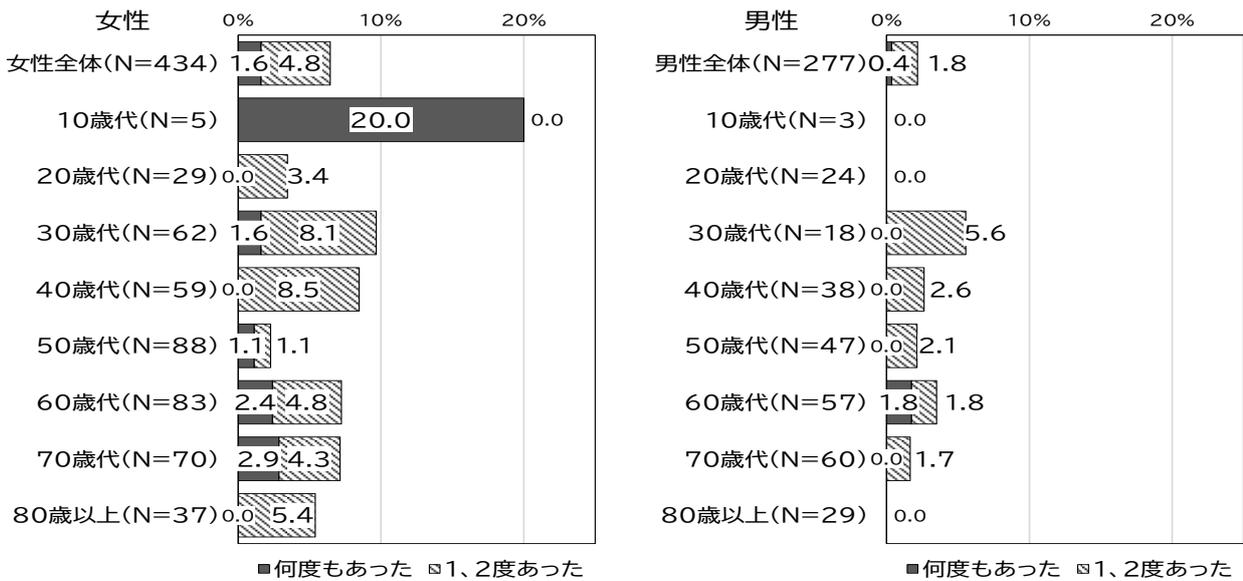
図表 8-1-3-② 医師の治療が必要となる暴力を受ける (性・年代別)



## ■医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で9.7%、40歳代で8.5%、50歳代で2.2%、60歳代で7.2%、70歳代で7.2%となっています。男性では30歳代が5.6%、40歳代が2.6%、50歳代が2.1%、60歳代が3.6%、70歳代が1.7%となっています。(図表8-1-3-③)

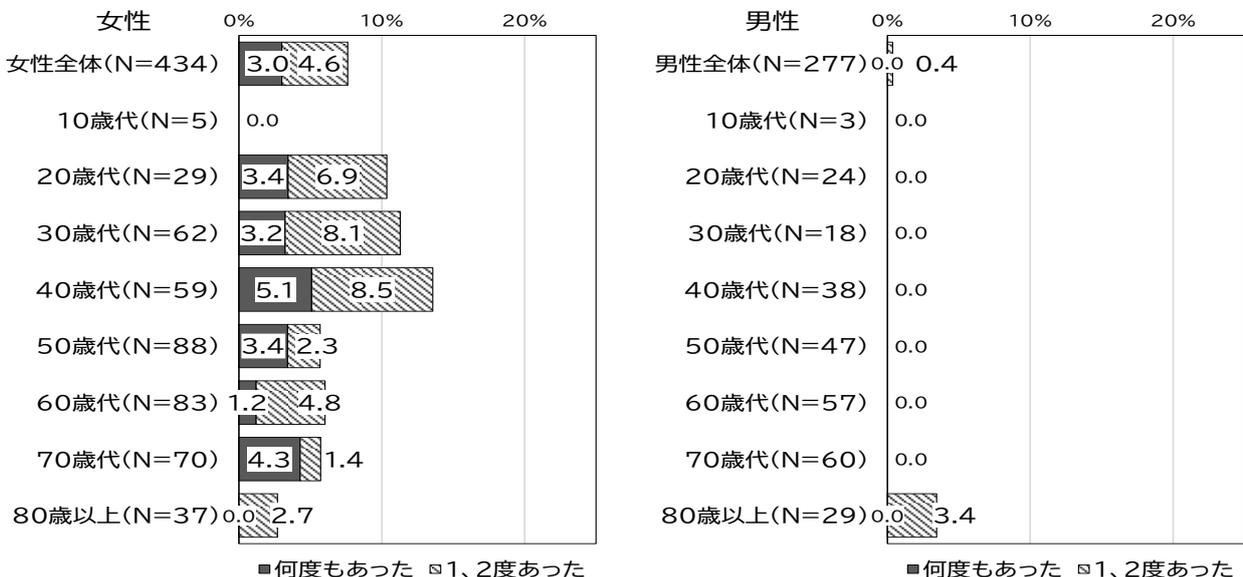
図表 8-1-3-③ 医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける (性・年代別)



## ■嫌がっているのに性的行為を強要される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で10.3%、30歳代で11.3%、40歳代で13.6%、50歳代で5.7%、60歳代で6.0%、70歳代で5.7%となっています。男性では80歳以上が3.4%となっています。(図表8-1-3-④)

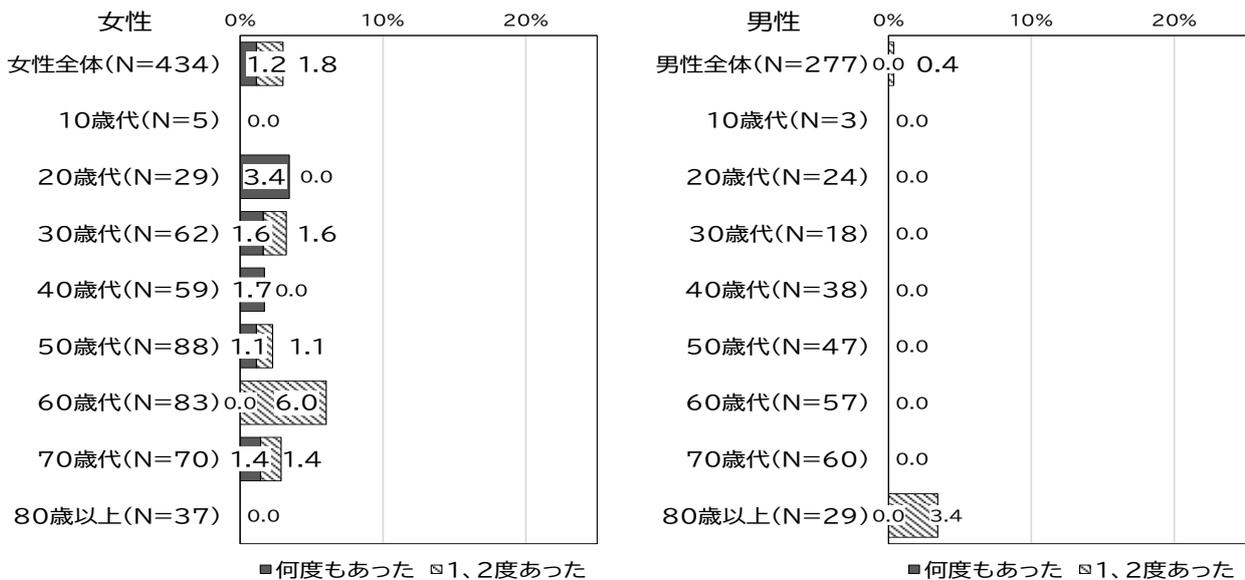
図表 8-1-3-④ 嫌がっているのに性的行為を強要される (性・年代別)



## ■見たくないのにポルノビデオ・雑誌・アダルトサイトを見せられる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で3.2%、40歳代で1.7%、50歳代で2.2%、60歳代で6.0%、70歳代で2.8%となっています。男性では80歳以上が3.4%となっています。(図表8-1-3-⑤)

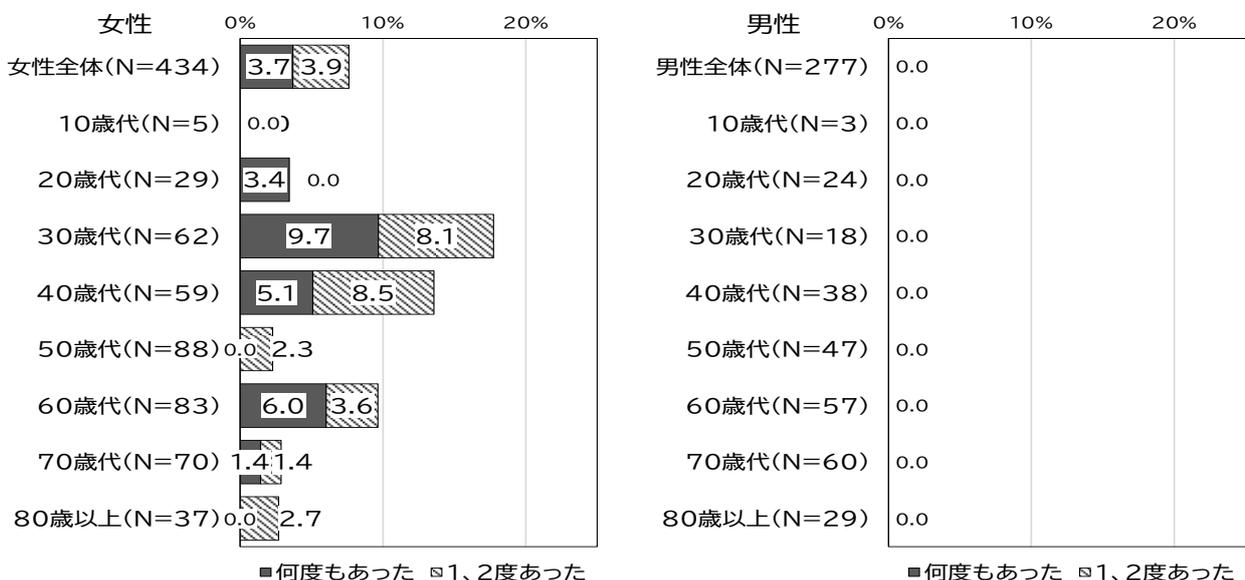
図表 8-1-3-⑤ 見たくないのにポルノビデオ・雑誌・アダルトサイトを見せられる (性・年代別)



## ■避妊に協力してもらえない

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で17.8%、40歳代で13.6%、50歳代で2.3%、60歳代で9.6%、70歳代で2.8%となっています。(図表8-1-3-⑥)

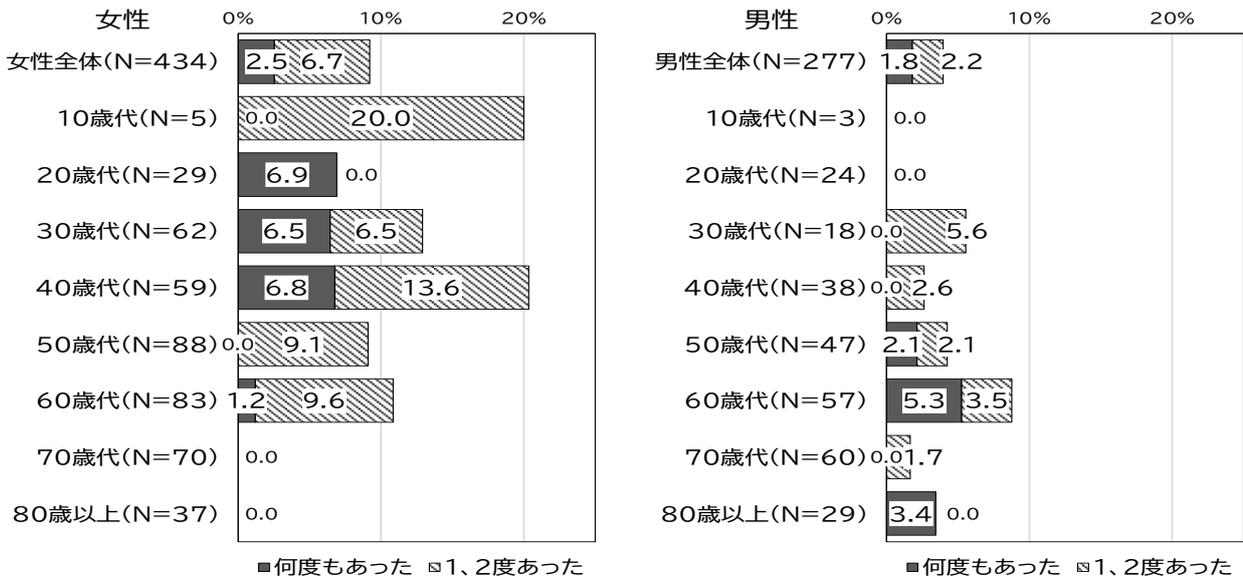
図表 8-1-3-⑥ 避妊に協力してもらえない (性・年代別)



## ■何を言っても無視される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で6.9%、30歳代で13.0%、40歳代で20.4%、50歳代で9.1%、60歳代で10.8%となっています。男性では30歳代が5.6%、40歳代が2.6%、50歳代が4.2%、60歳代が8.8%、70歳代が1.7%、80歳以上が3.4%となっています。(図表8-1-3-⑦)

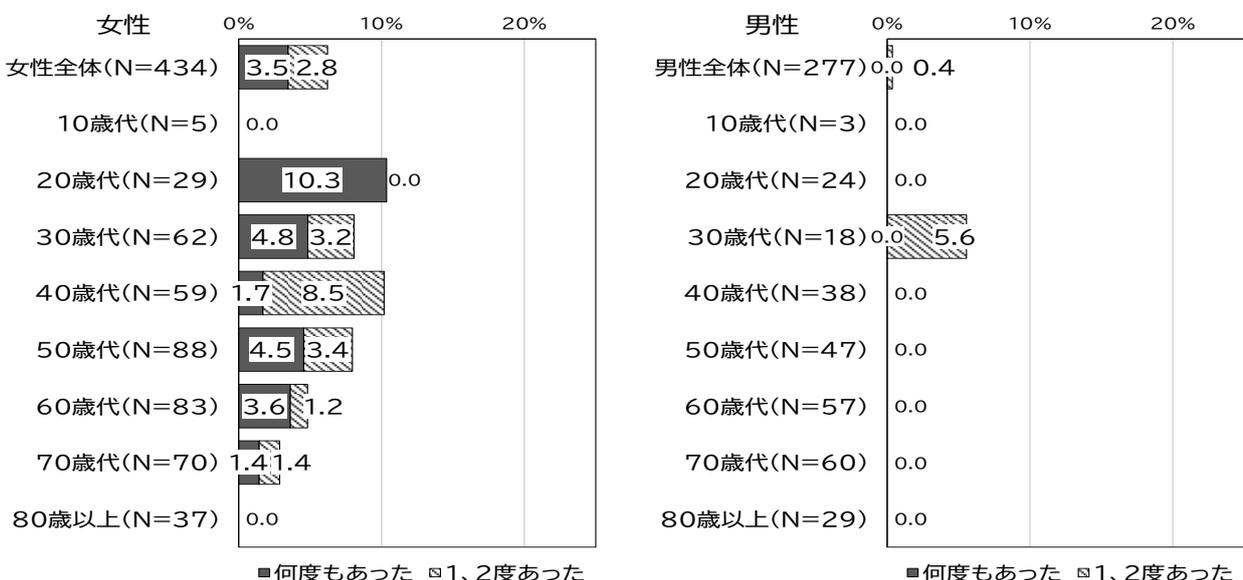
図表 8-1-3-⑦ 何を言っても無視される（性・年代別）



## ■常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で10.3%、30歳代で8.0%、40歳代で10.2%、50歳代で7.9%、60歳代で4.8%、70歳代で2.8%となっています。男性では30歳代が5.6%となっています。(図表8-1-3-⑧)

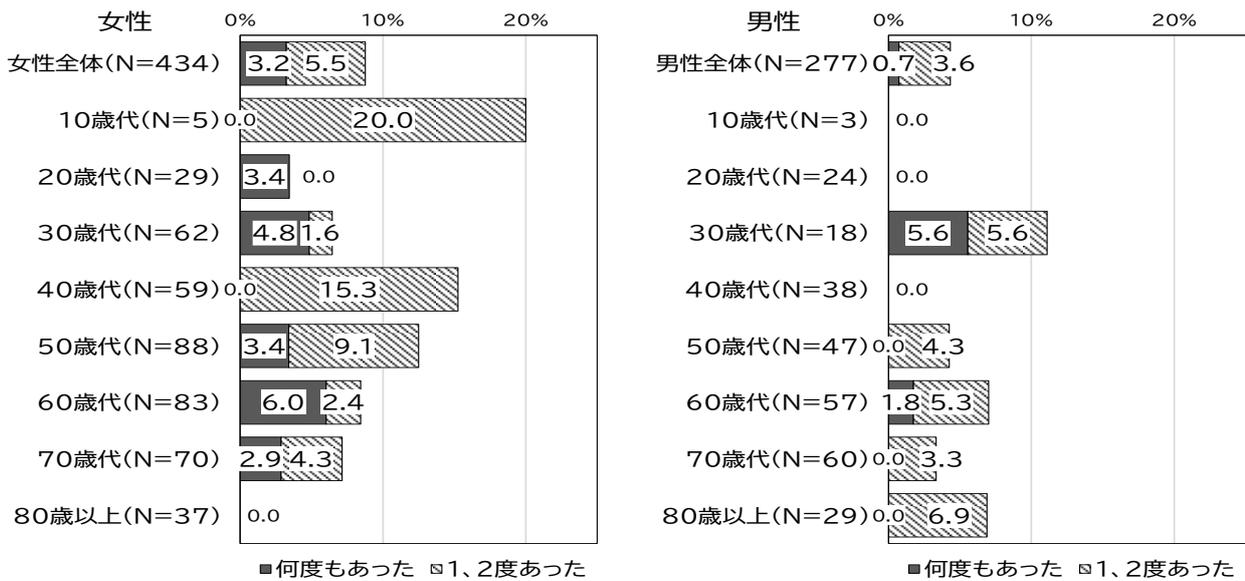
図表 8-1-3-⑧ 常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される（性・年代別）



## ■「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で6.4%、40歳代で15.3%、50歳代で12.5%、60歳代で8.4%、70歳代で7.2%となっています。男性では30歳代で11.2%、50歳代で4.3%、60歳代で7.1%、70歳代で3.3%、80歳以上で6.9%となっています。(図表8-1-3-⑨)

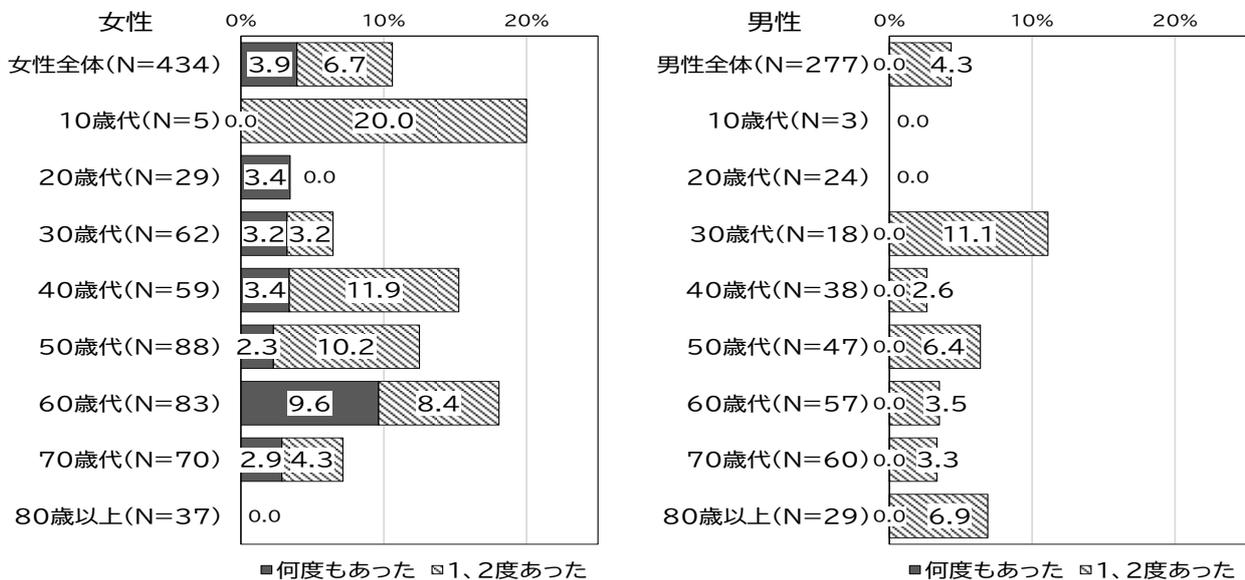
図表 8-1-3-⑨ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる (性・年代別)



## ■「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で6.4%、40歳代で15.3%、50歳代で12.5%、60歳代で18.0%、70歳代で7.2%となっています。男性では30歳代で11.1%、40歳代で2.6%、50歳代で6.4%、60歳代で3.5%、70歳代で3.3%、80歳以上で6.9%となっています。(図表8-1-3-⑩)

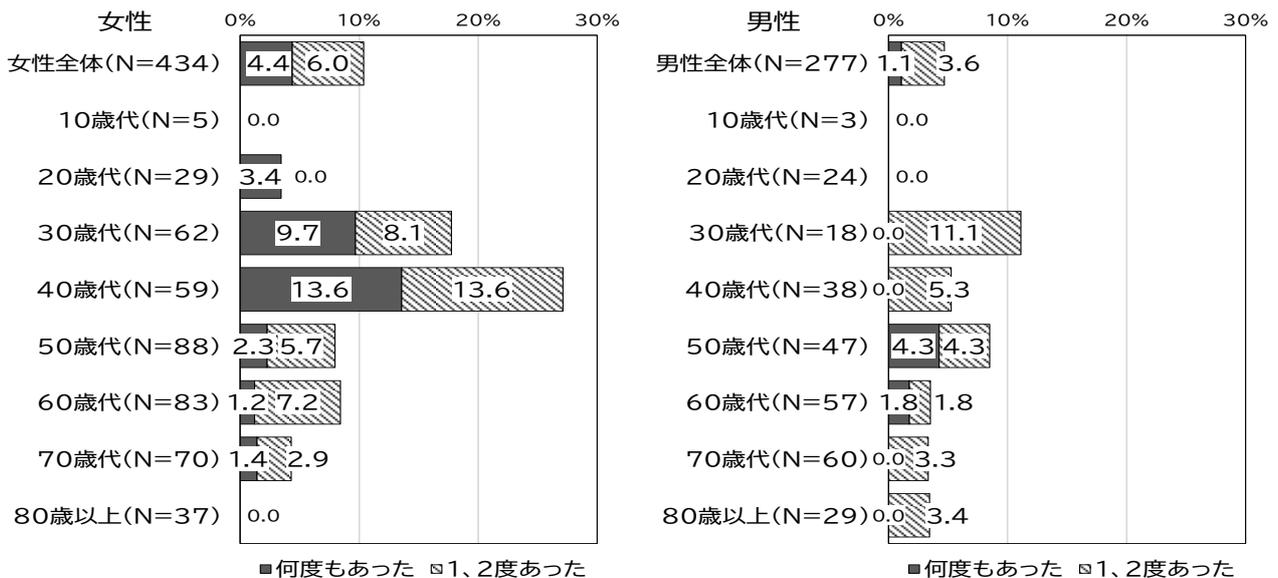
図表 8-1-3-⑩ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる (性・年代別)



## ■容姿について傷つくようなことを言われる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で17.8%、40歳代で27.2%、50歳代で8.0%、60歳代で8.4%、70歳代で4.3%となっています。男性では30歳代で11.1%、40歳代で5.3%、50歳代で8.6%、60歳代で3.6%、70歳代で3.3%、80歳以上で3.4%となっています。(図表8-1-3-⑪)

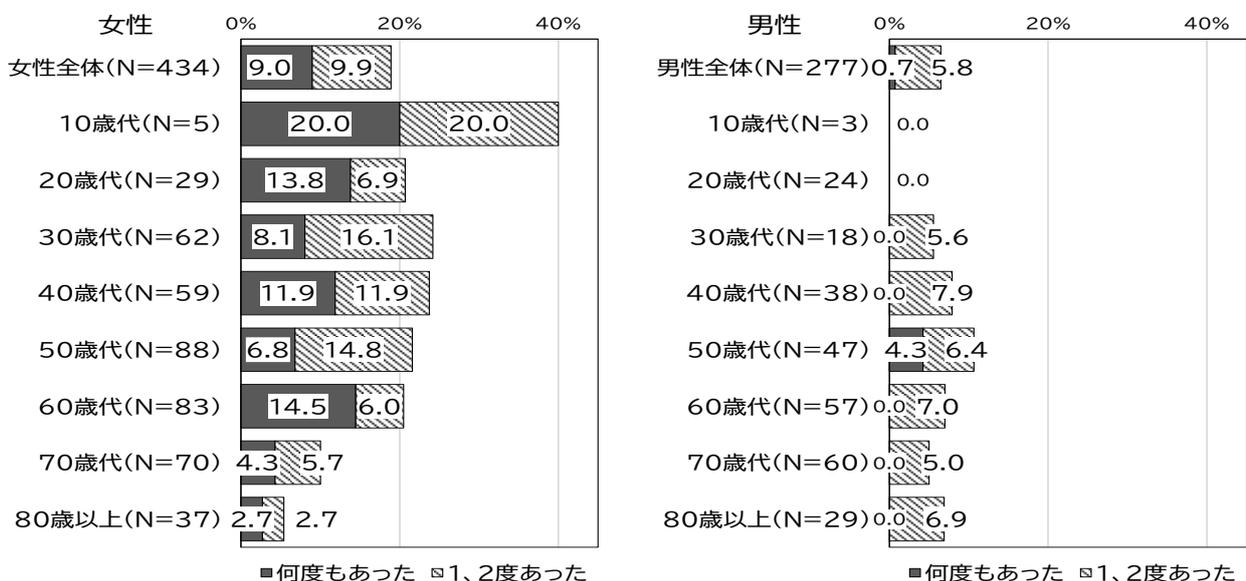
図表 8-1-3-⑪ 容姿について傷つくようなことを言われる (性・年代別)



## ■大声で怒鳴られる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で20.7%、30歳代で24.2%、40歳代で23.8%、50歳代で21.6%、60歳代で20.5%、70歳代で10.0%となっています。男性では30歳代で5.6%、40歳代で7.9%、50歳代で10.7%、60歳代で7.0%、70歳代で5.0%、80歳以上で6.9%となっています。(図表8-1-3-⑫)

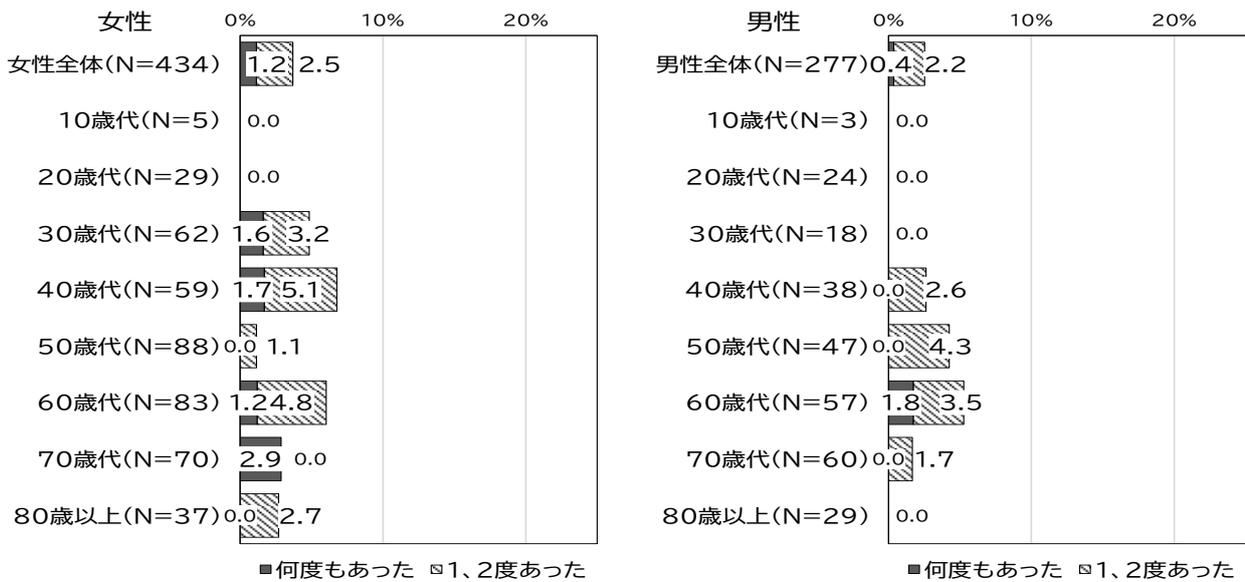
図表 8-1-3-⑫ 大声で怒鳴られる (性・年代別)



## ■大切なものを壊される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で4.8%、40歳代で6.8%、50歳代で1.1%、60歳代で6.0%、70歳代で2.9%となっています。男性では40歳代で2.6%、50歳代で4.3%、60歳代で5.3%、70歳代で1.7%となっています。(図表8-1-3-⑬)

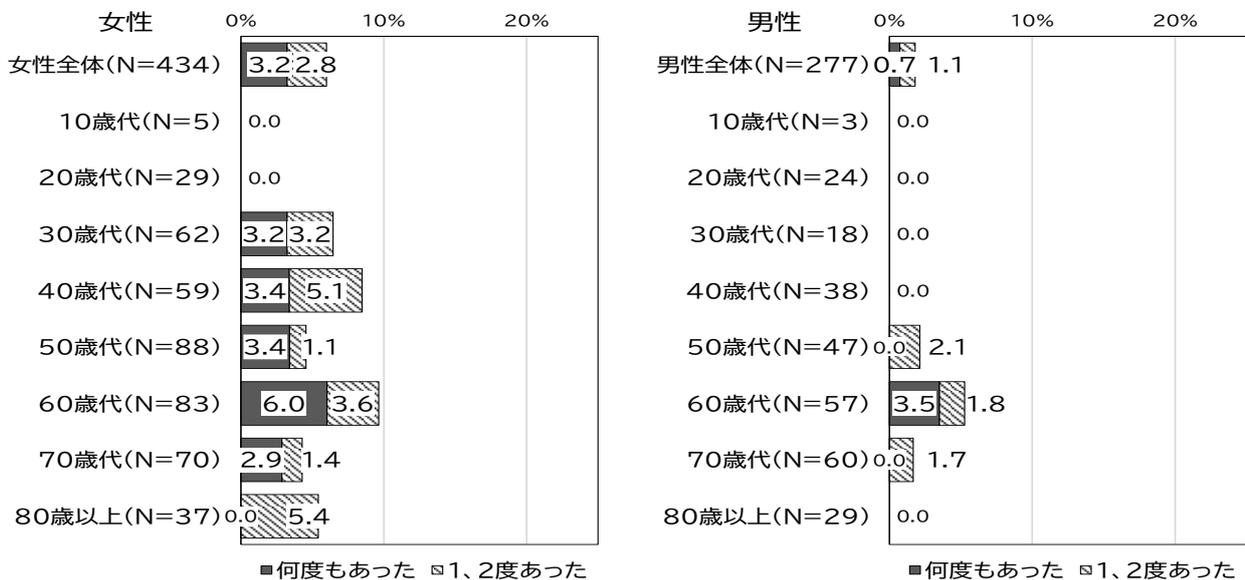
図表 8-1-3-⑬ 大切なものを壊される (性・年代別)



## ■生活費を渡してもらえない

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で6.4%、40歳代で8.5%、50歳代で4.5%、60歳代で9.6%、70歳代で4.3%となっています。男性では50歳代で2.1%、60歳代で5.3%、70歳代で1.7%となっています。(図表8-1-3-⑭)

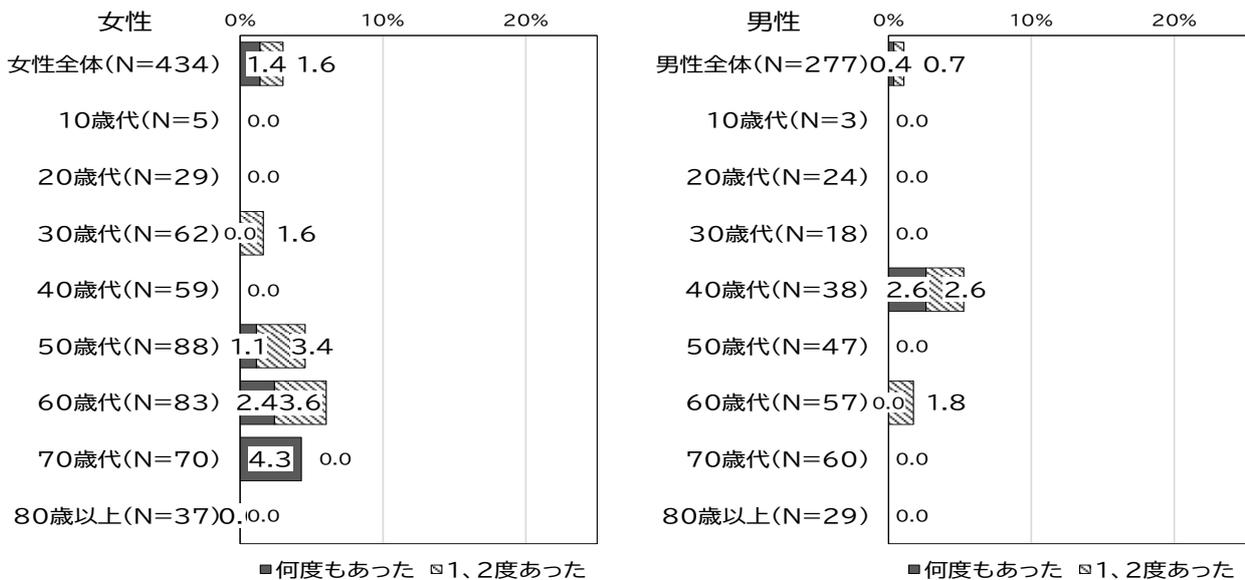
図表 8-1-3-⑭ 生活費を渡してもらえない (性・年代別)



## ■目の前で子どもに暴力をふるわれる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で1.6%、50歳代で4.5%、60歳代で6.0%、70歳代で4.3%となっています。男性では40歳代で5.2%、60歳代で1.8%となっています。(図表8-1-3-⑮)

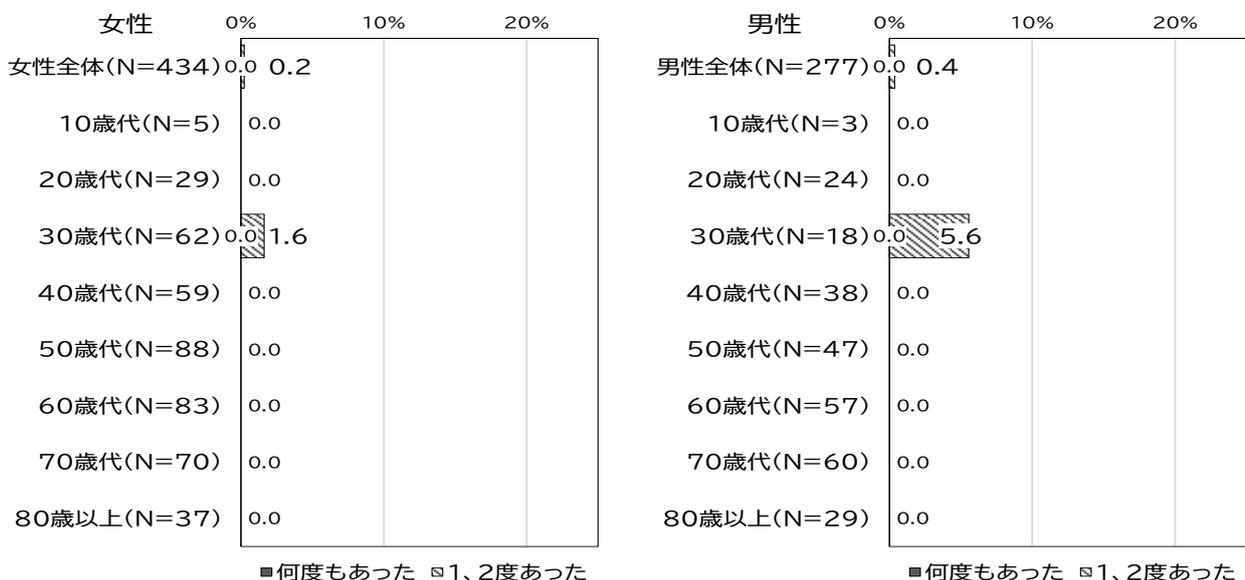
図表 8-1-3-⑮ 目の前で子どもに暴力をふるわれる (性・年代別)



## ■性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で1.6%、男性の30歳代で5.6%となっています。(図表8-1-3-⑯)

図表 8-1-3-⑯ 性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある (性・年代別)



## ■見たり聞いたりしたこと

### 【全体】

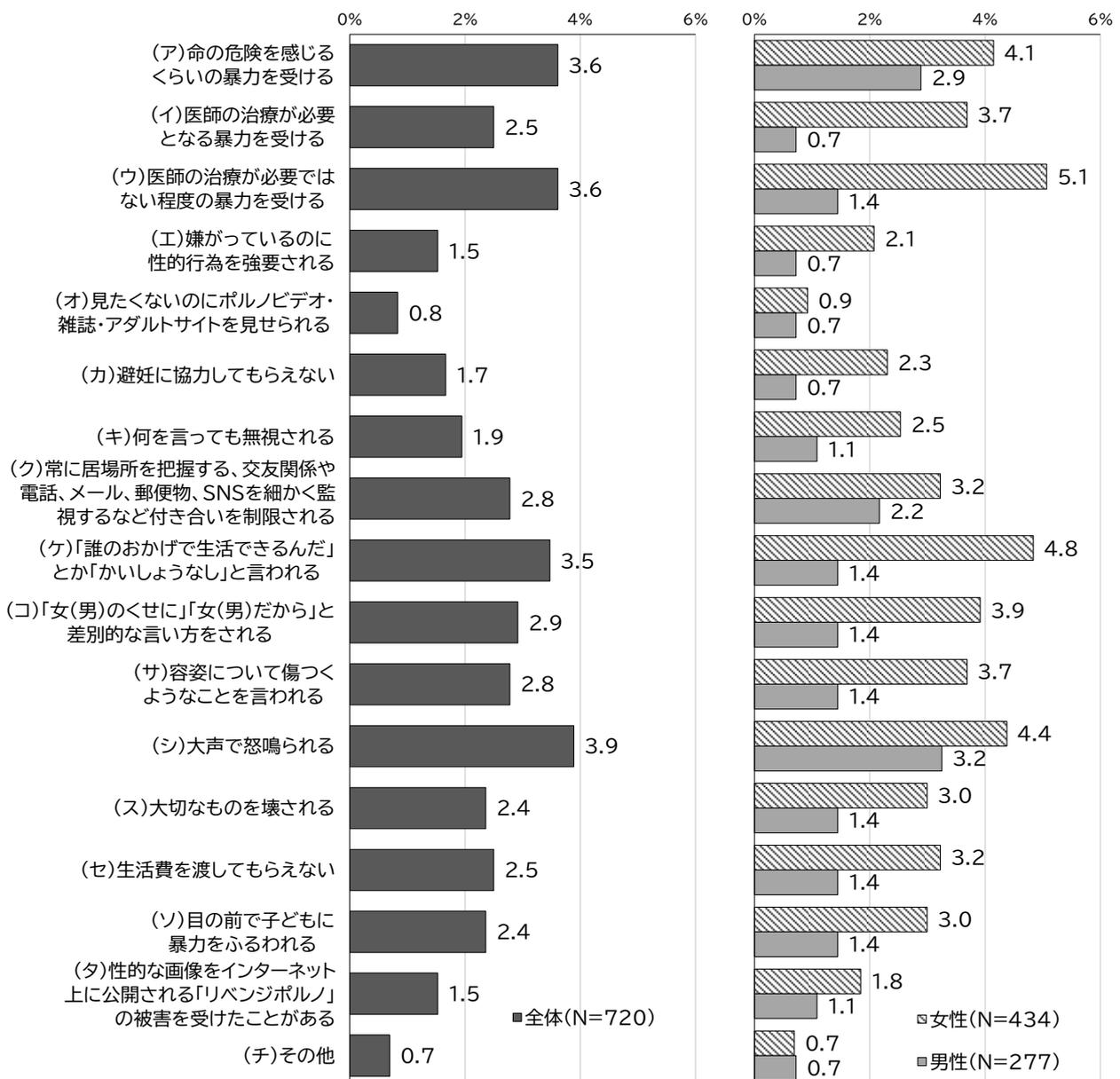
DV(ドメスティック・バイオレンス)を見たり聞いたりしたことがあるかを聞いています。全体では『大声で怒鳴られる(3.9%)』が最も多く、『命の危険を感じるくらいの暴力を受ける(3.6%)』、『医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける(3.6%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(3.5%)』が続いています。(図表8-1-4)

### 【性別】

性別でみると、女性では『医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける(5.1%)』が最も多く、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(4.8%)』、『大声で怒鳴られる(4.4%)』が続きます。

男性では『大声で怒鳴られる(3.2%)』が最も多く、『命の危険を感じるくらいの暴力を受ける(2.9%)』が続いています。(図表8-1-4)

図表 8-1-4 ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある (全体、性別)

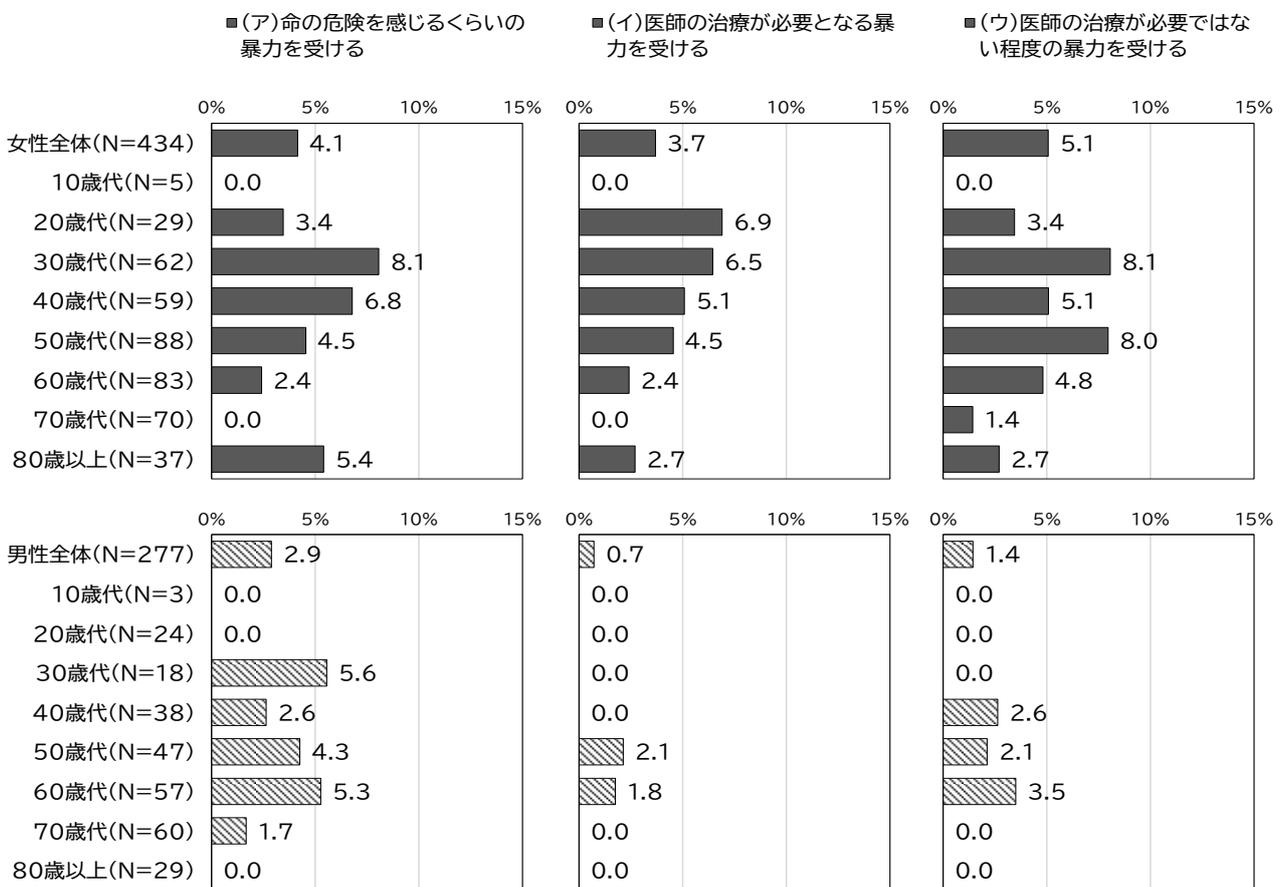


**【性・年代別】**

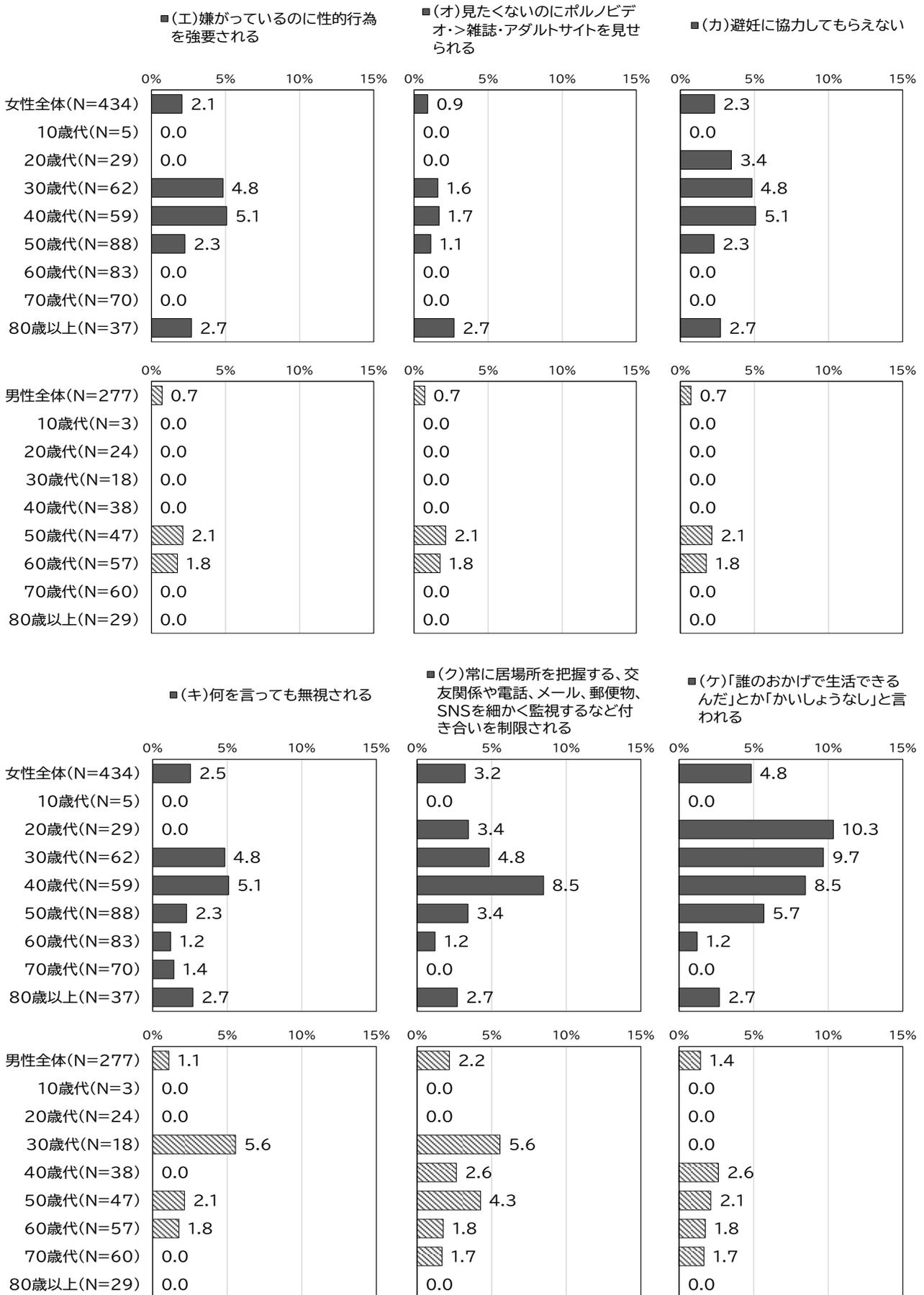
性・年代別にみると、女性は20歳代が『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(10.3%)』、30歳代が『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(9.7%)』、40歳代が『常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される(8.5%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(8.5%)』、『大声で怒鳴られる(8.5%)』、『大切なものを壊される(8.5%)』、『生活費を渡してもらえない(8.5%)』、50歳代と60歳代が『医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける(50歳代:8.0%、60歳代:4.8%)』で他の年代と比べて多くなっています。

男性では、30歳代が『大声で怒鳴られる(11.1%)』で他の年代とも比べて多くなっています。(図表8-1-5-①、図表8-1-5-②、図表8-1-5-③、図表8-1-5-④)

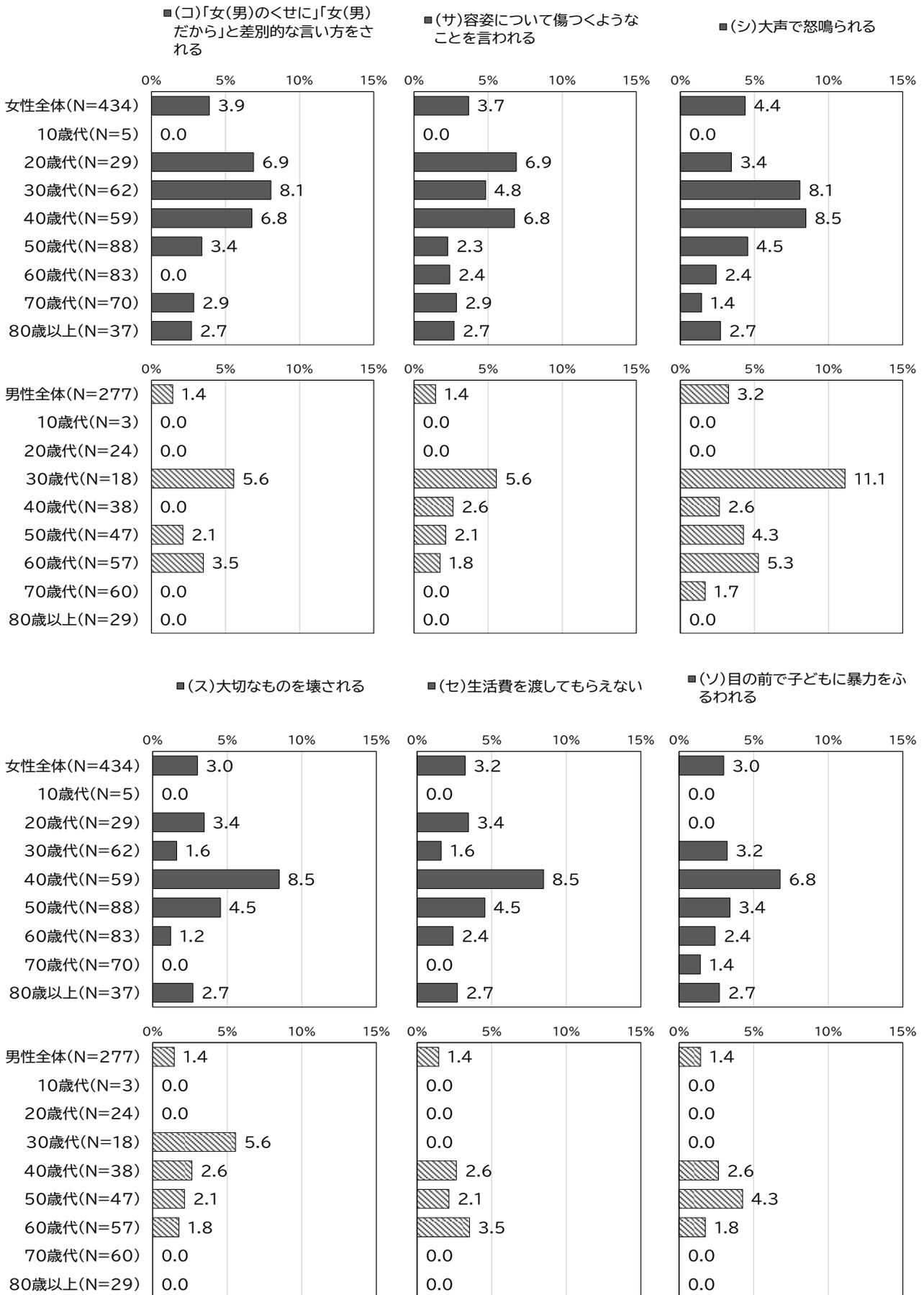
図表 8-1-5-① ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある (性・年代別)



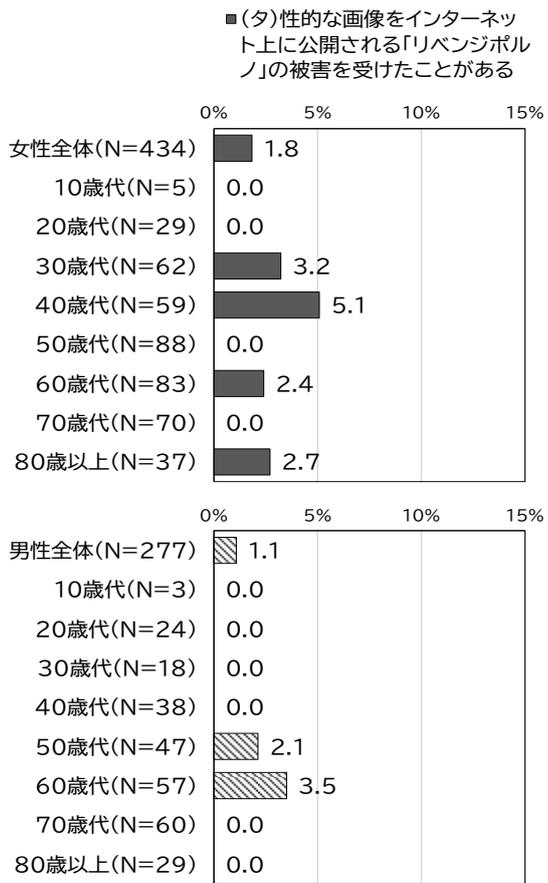
図表 8-1-5-② ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある（性・年代別）



図表 8-1-5-③ ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある（性・年代別）



図表 8-1-5-④ ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある（性・年代別）

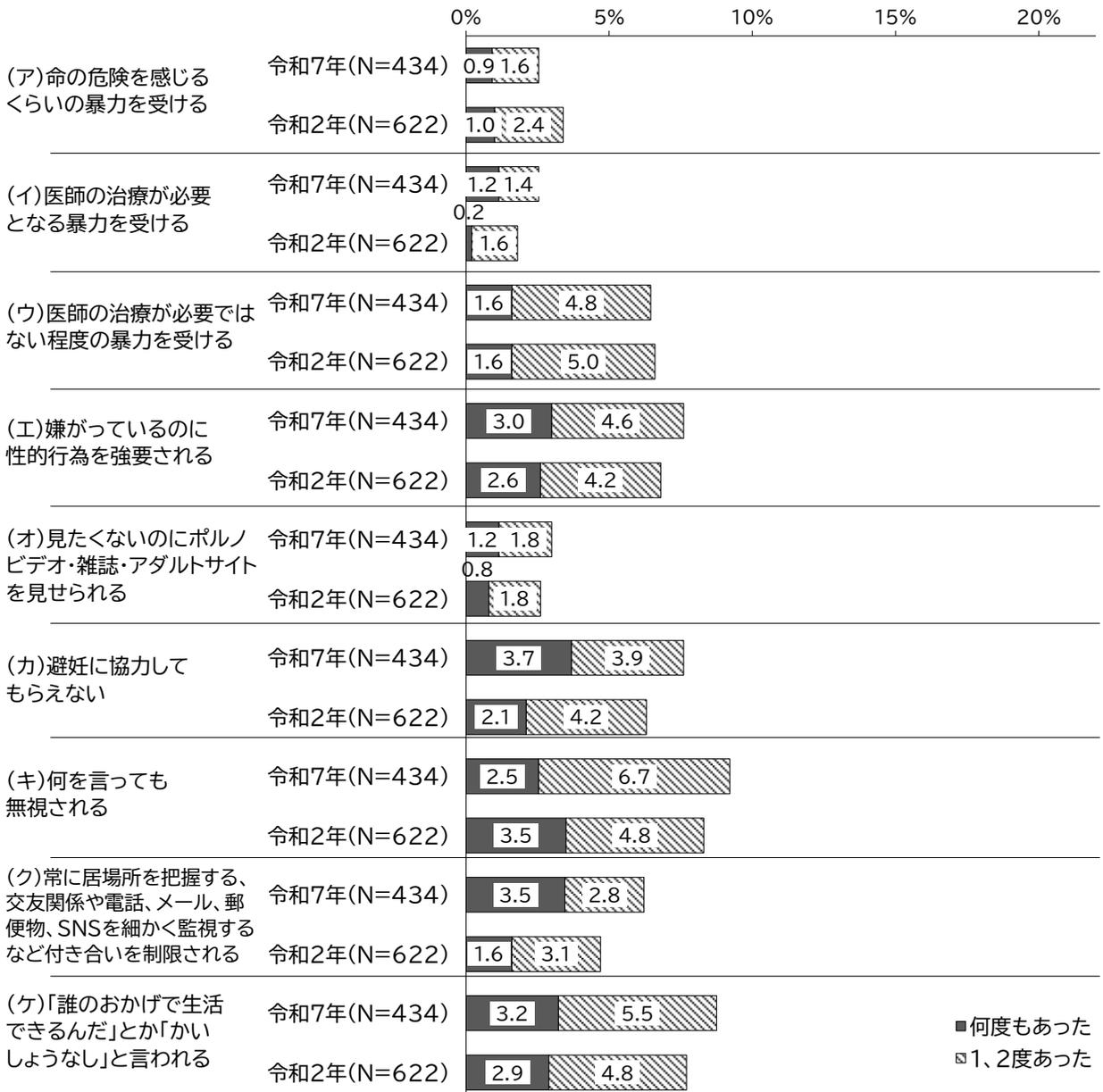


【令和2年調査との比較】

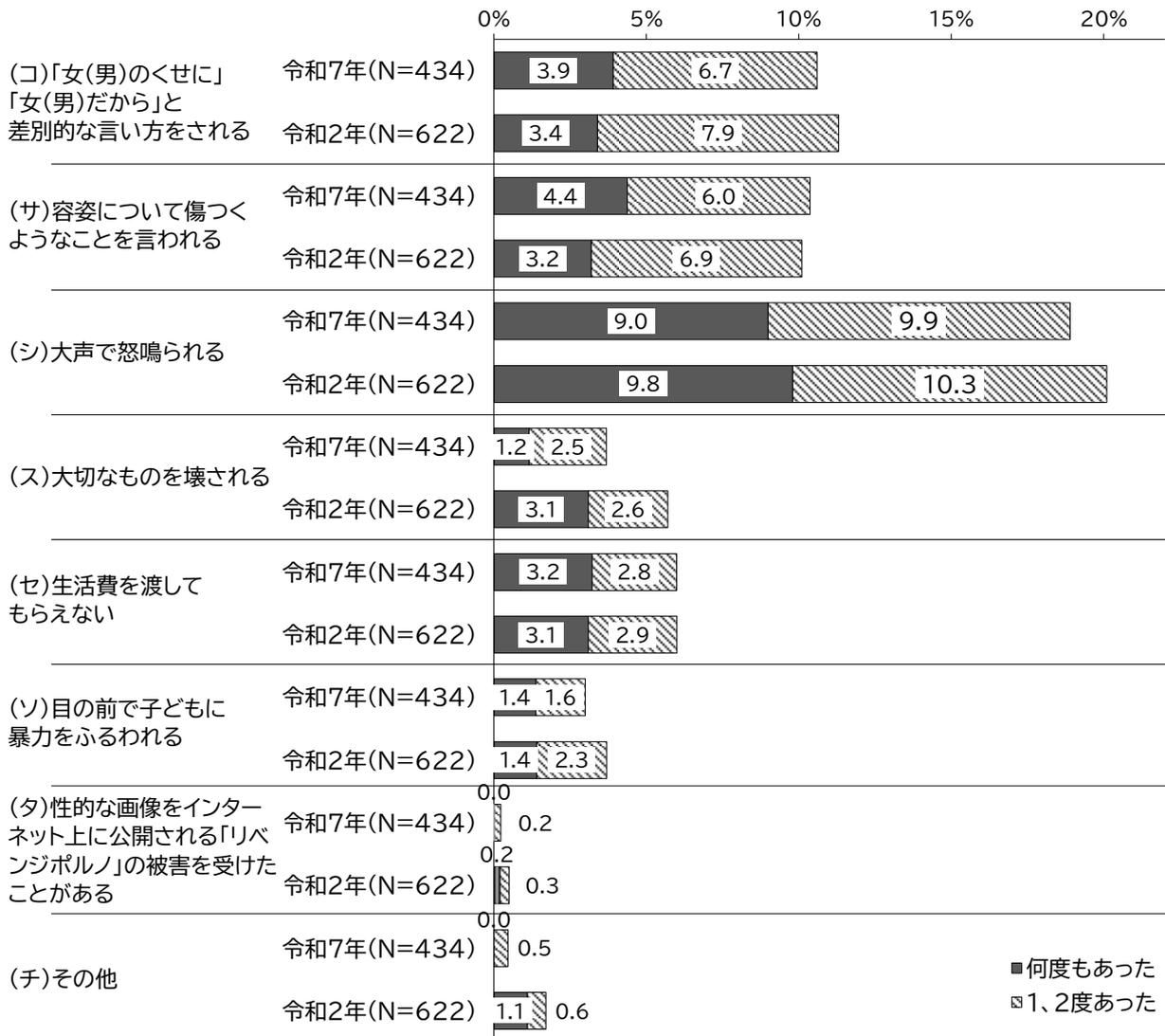
■女性

令和2年調査と比較すると、女性は17項目中8項目で令和2年調査よりも増えています。(図表8-1-6-①、図表8-1-6-②)

図表 8-1-6-① ドメスティック・バイオレンスの経験（女性、令和7年・令和2年調査）  
 <暴力を受けた経験がある人の割合>



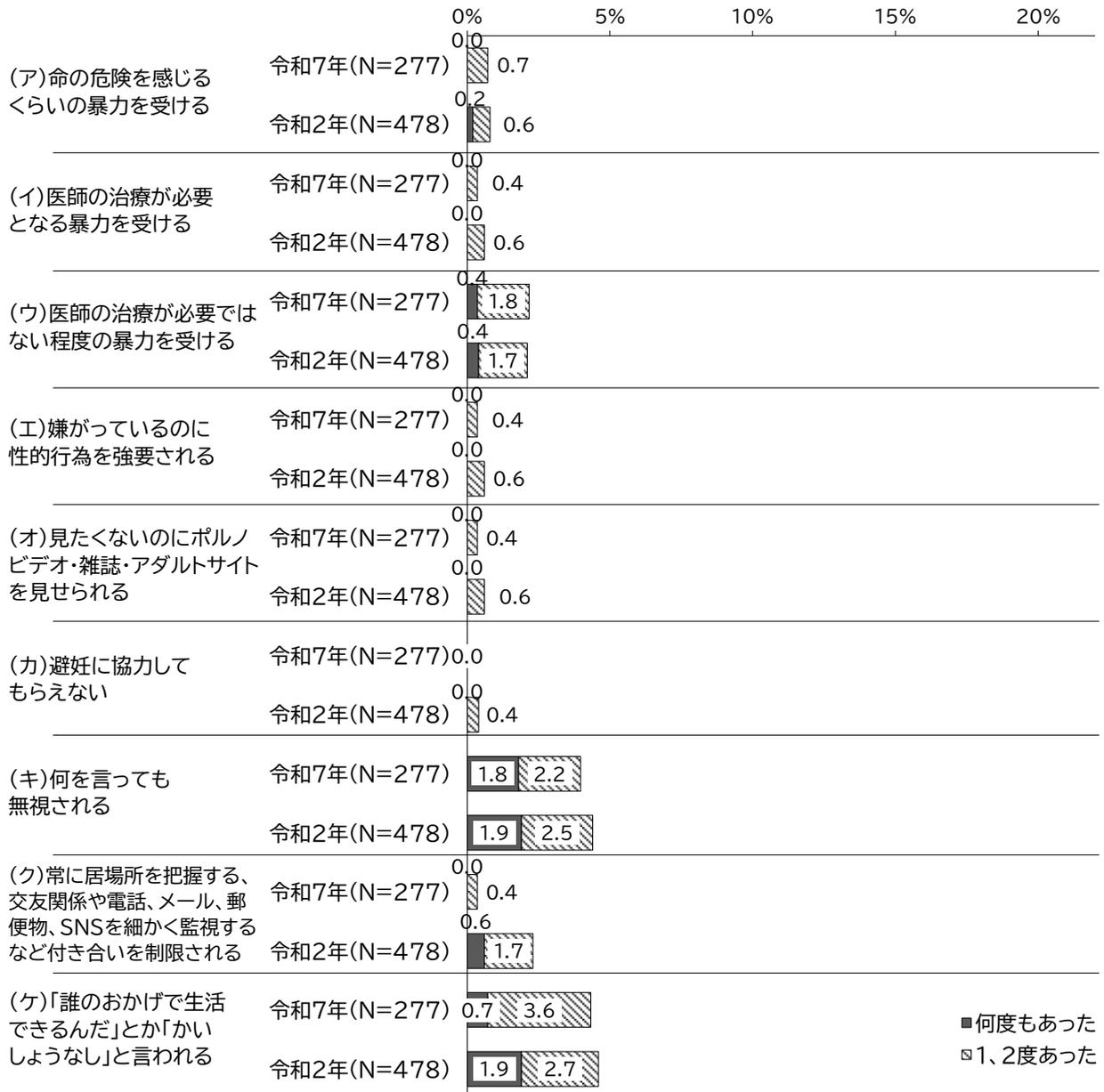
図表 8-1-6-② ドメスティック・バイオレンスの経験（女性、令和7年・令和2年調査）  
 <暴力を受けた経験がある人の割合>



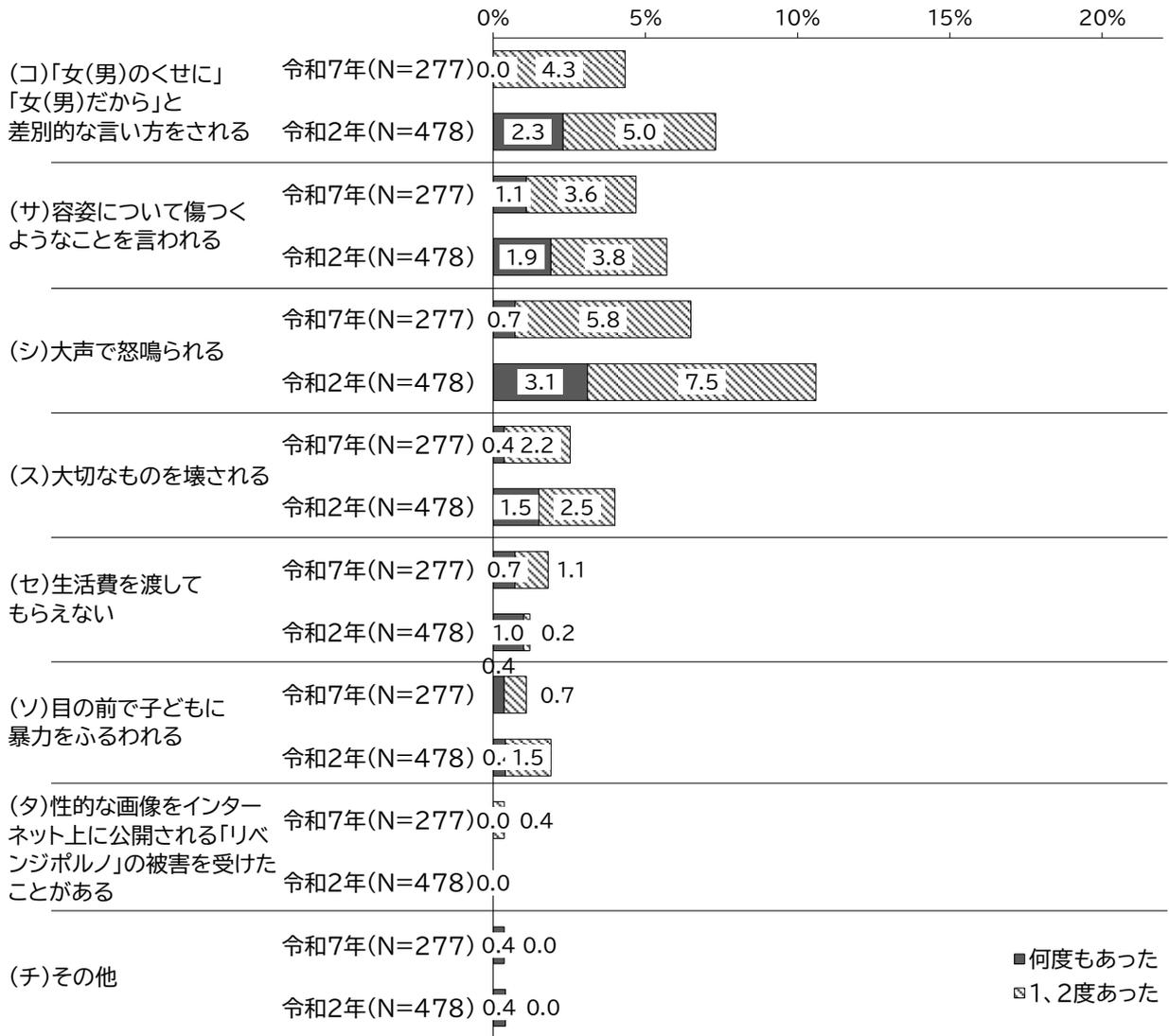
## ■男性

令和2年調査と比較すると、男性は17項目中3項目で令和7年調査は令和2年調査よりも増えています。(図表8-1-6-③④)

図表 8-1-6-③ ドメスティック・バイオレンスの経験（男性、令和7年・令和2年調査）  
 <暴力を受けた経験がある人の割合>



図表 8-1-6-④ ドメスティック・バイオレンスの経験（男性、令和7年・令和2年調査）  
 <暴力を受けた経験がある人の割合>



## (2) 相談の有無

問 17 は、問 16 の(ア)～(チ)の「何度もあった」「1、2度あった」に、1つでも○をつけた方におうかがいします。

問 17 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(○は1つだけ)

### 【全体】

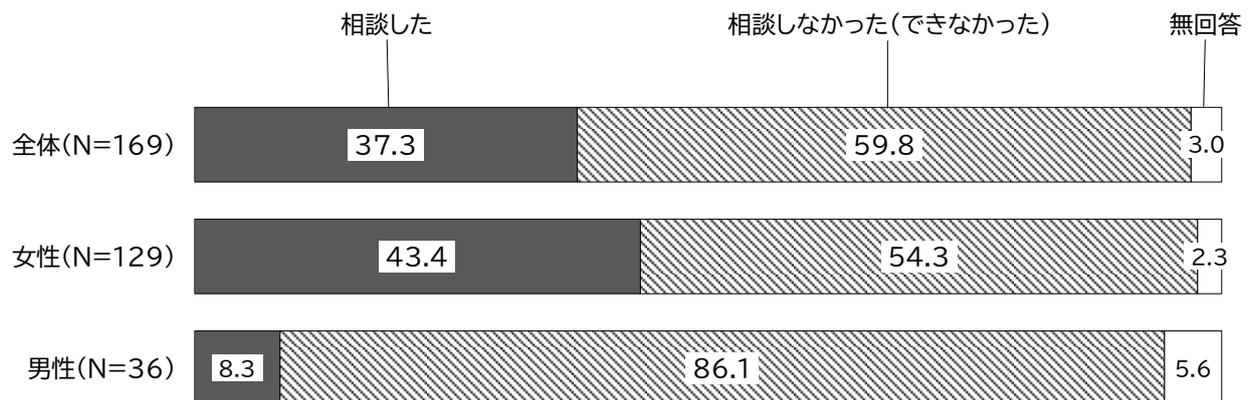
《暴力を受けた経験がある》と回答した人に、相談の有無をたずねました。

全体では、「相談した」が37.3%、「相談しなかった(できなかった)」が59.8%となっています。(図表8-2-1)

### 【性別】

性別でみると、「相談した」は女性が43.4%、男性が8.3%で、女性が男性よりも35.1%上回っています。(図表8-2-1)

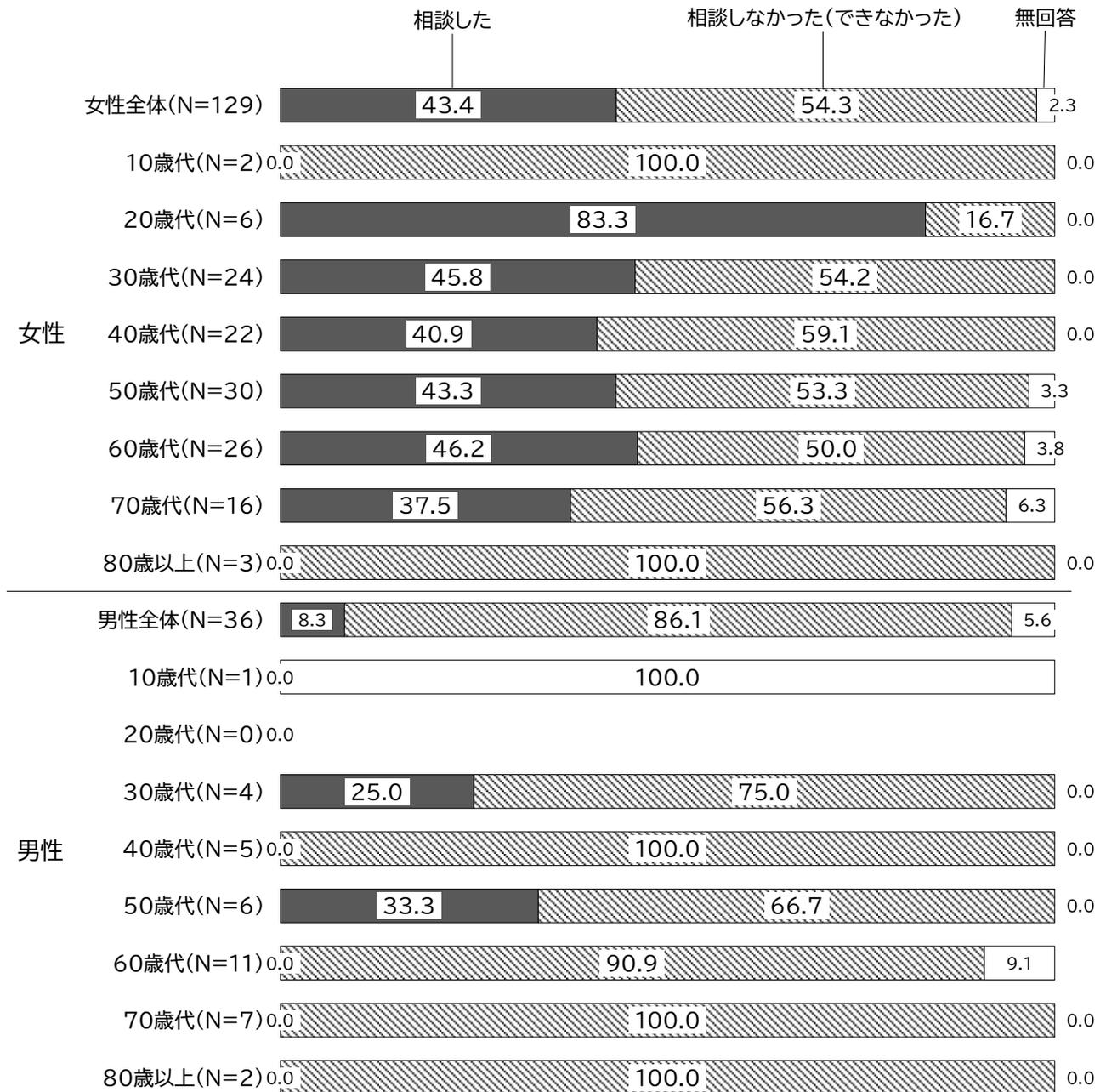
図表 8-2-1 相談の有無（全体、性別）＜暴力を受けた経験がある人＞



**【性・年代別】**

性・年代別にみると、「相談した」が、女性は30歳代から70歳代(30歳代:45.8%、40歳代:40.9%、50歳代:43.3%、60歳代:46.2%、70歳代:37.5%)にかけて、3割から4割となっています。(図表8-2-2)

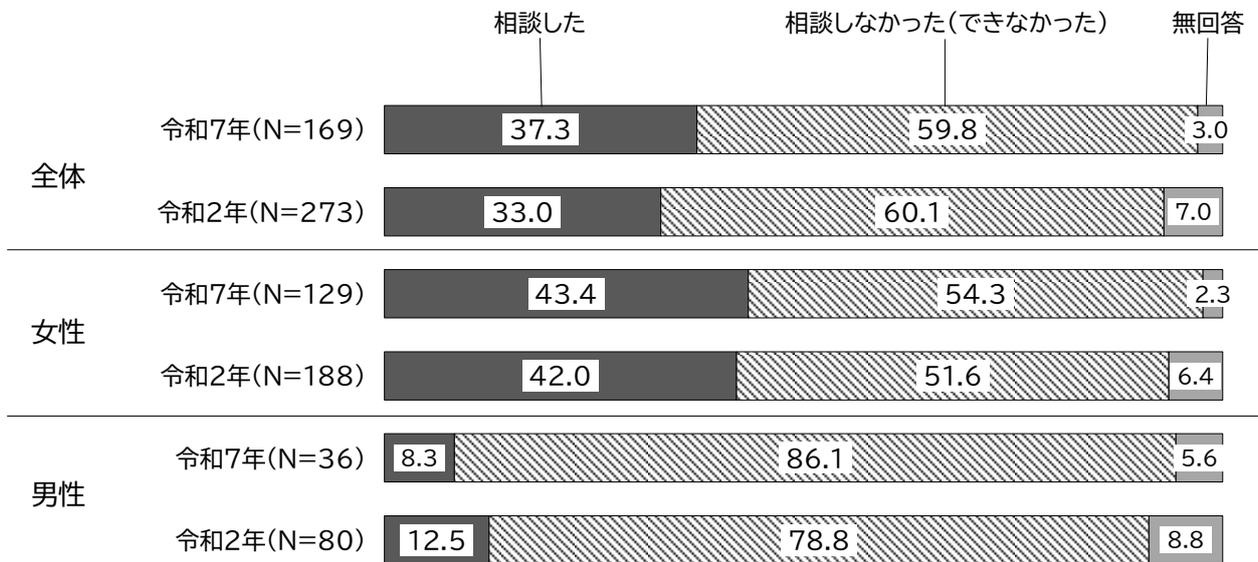
図表 8-2-2 相談の有無（性・年代別）＜暴力を受けた経験がある人＞



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「相談した」割合が、女性(令和7年調査:43.4%令和2年調査:42.0%)は1.4%増えています。男性(令和7年調査:8.3%令和2年調査:12.5%)は4.2%減っています。(図表8-2-3)

図表 8-2-3 相談の有無(全体、性別、令和7年・令和2年調査) <暴力を受けた経験がある人>



### (3) 相談先

問 17 で「1. 相談した」とお答えの方に

問 17-1 そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(〇はあてはまるものすべて)

#### 【全体】

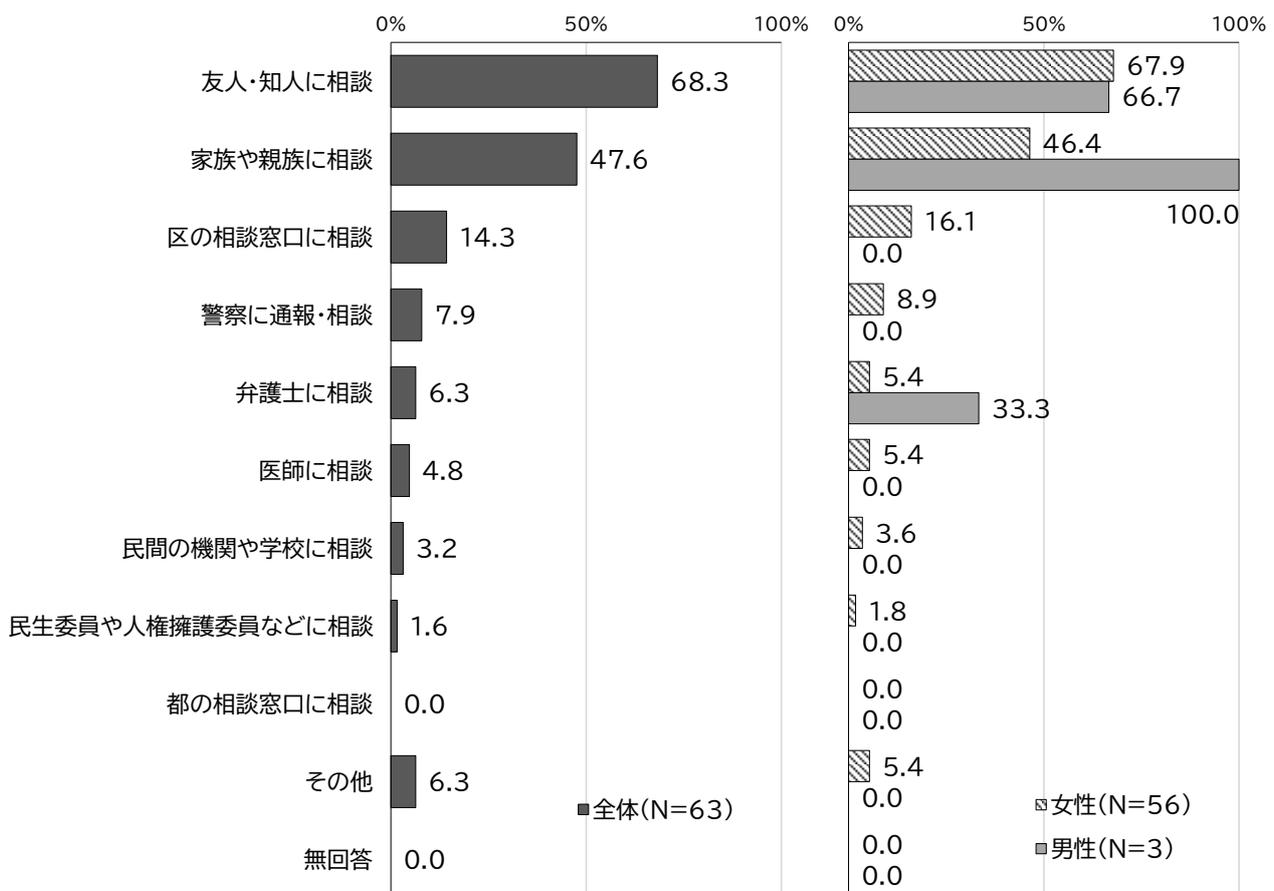
暴力を受けたことを「相談した」と回答した人に、相談先をたずねました。

全体では、「友人・知人に相談(68.3%)」が6割台で最も多く、「家族や親族に相談(47.6%)」が続いています。(図表8-3-1)

#### 【性別】

性別で見ると、女性では「友人・知人に相談(67.9%)」が最も多く「家族や親族に相談(46.4%)」が続きます。男性では総数が3人のため、グラフのみ記載しています。(図表8-3-1)

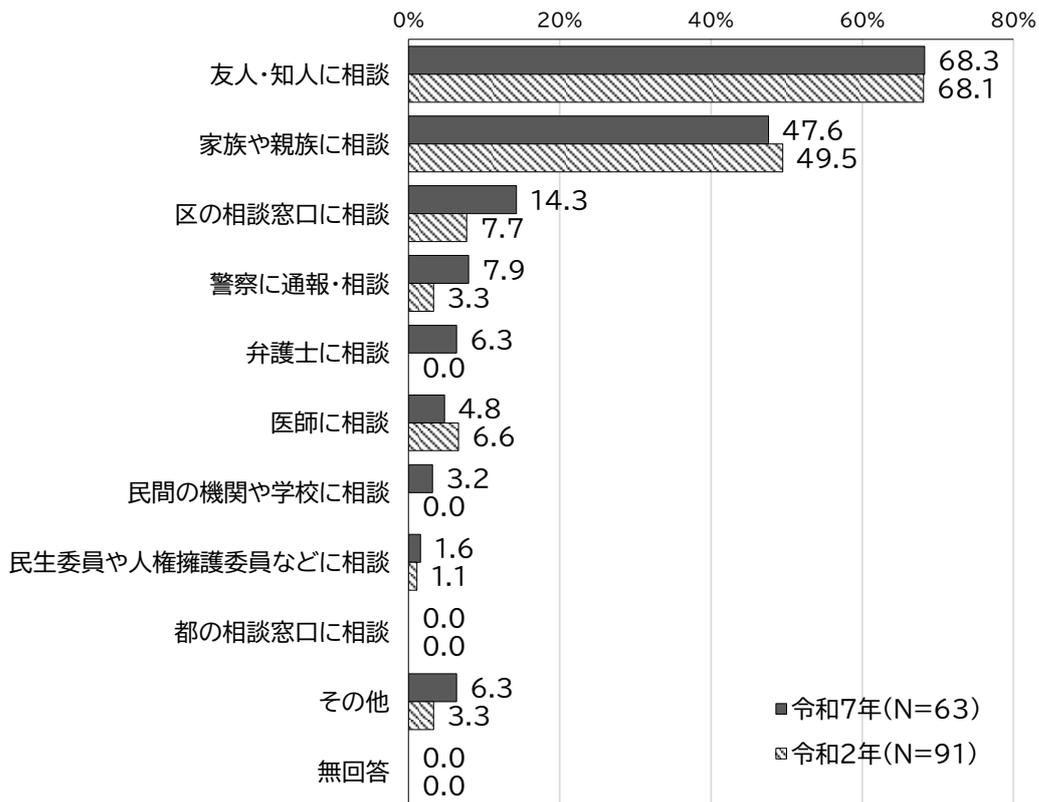
図表 8-3-1 相談先 (全体、性別：複数回答)  
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談をしたことがある人>



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、「区の相談窓口相談(令和7年調査:14.3%、令和2年調査:7.7%)」、「警察に通報・相談(令和7年調査:7.9%、令和2年調査:3.3%)」など、7項目で前回の割合よりも増えています。(図表8-3-2)

図表 8-3-2 相談先 (全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)  
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談をしたことがある人>



#### (4) 相談しなかった、できなかった理由

問 17 で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えの方に

問 17-2 だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。  
(○はあてはまるものすべて)

##### 【全体】

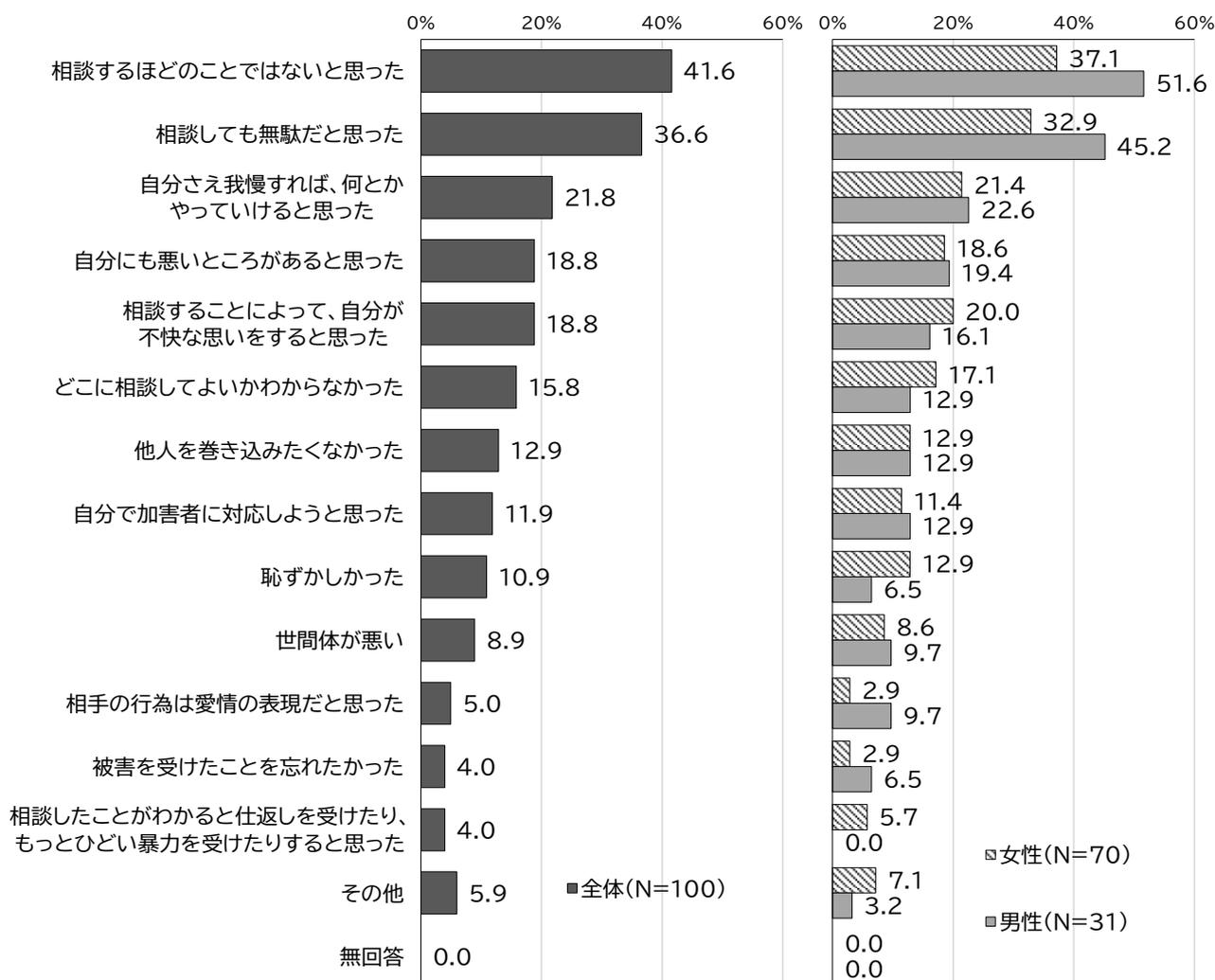
暴力を受けたことを「相談しなかった(できなかった)」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「相談するほどのことではないと思った(41.6%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思った(36.6%)」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った(21.8%)」、「自分にも悪いところがあると思った(18.8%)」、「相談することによって自分が不快な思いをすと思った(18.8%)」が続いています。(図表8-4-1)

##### 【性別】

性別でみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思った(女性:37.1%、男性:51.6%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思った(女性:32.9%、男性:45.2%)」が続いています。(図表8-4-1)

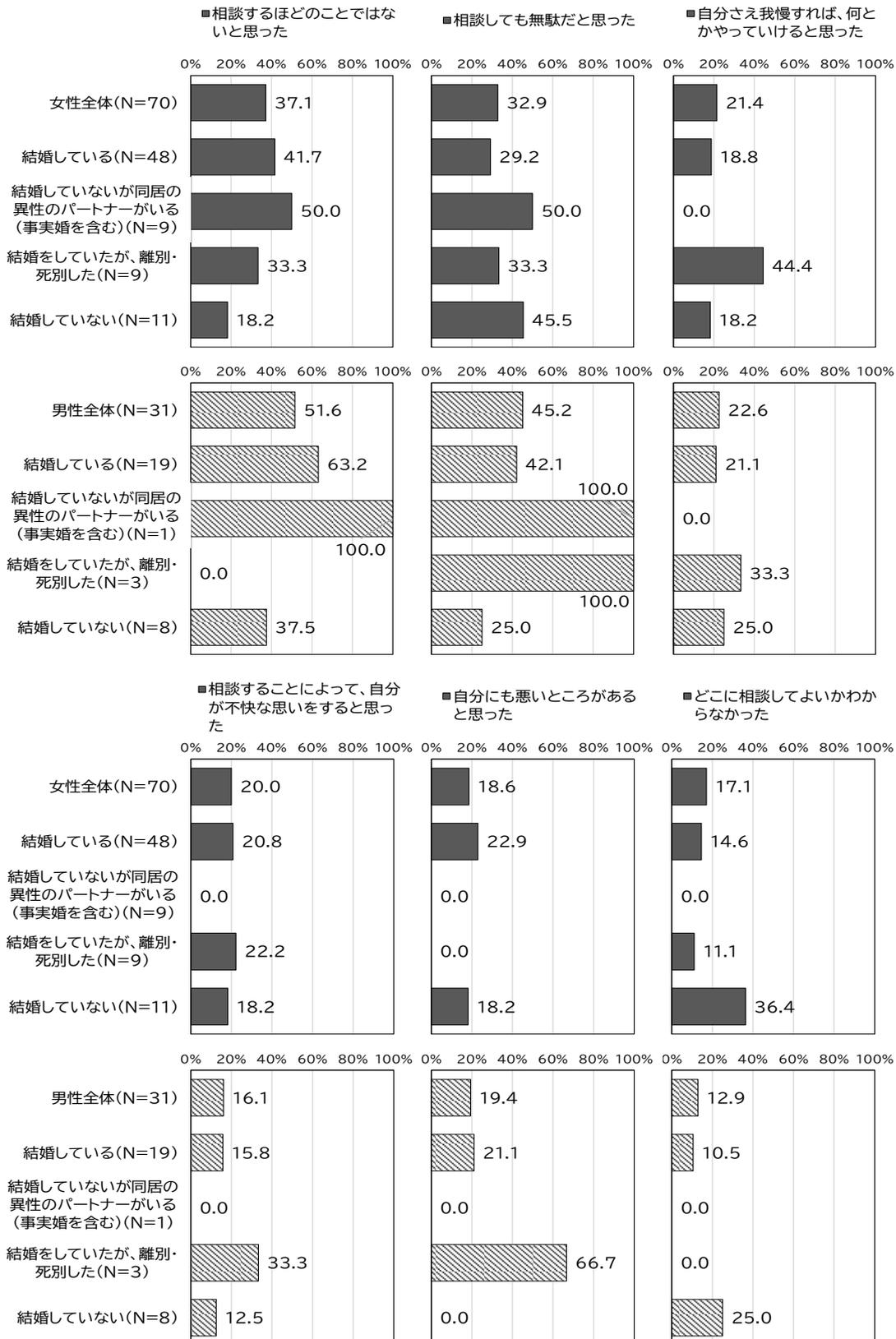
図表 8-4-1 相談しなかった、できなかった理由 (全体、性別：複数回答)  
<ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった(できなかった)人>



## 【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、女性の既婚は「相談するほどのことではなかった(41.7%)」、女性の未婚では「相談しても無駄だと思った(45.5%)」の2点が多くなっています。(図表8-4-2)

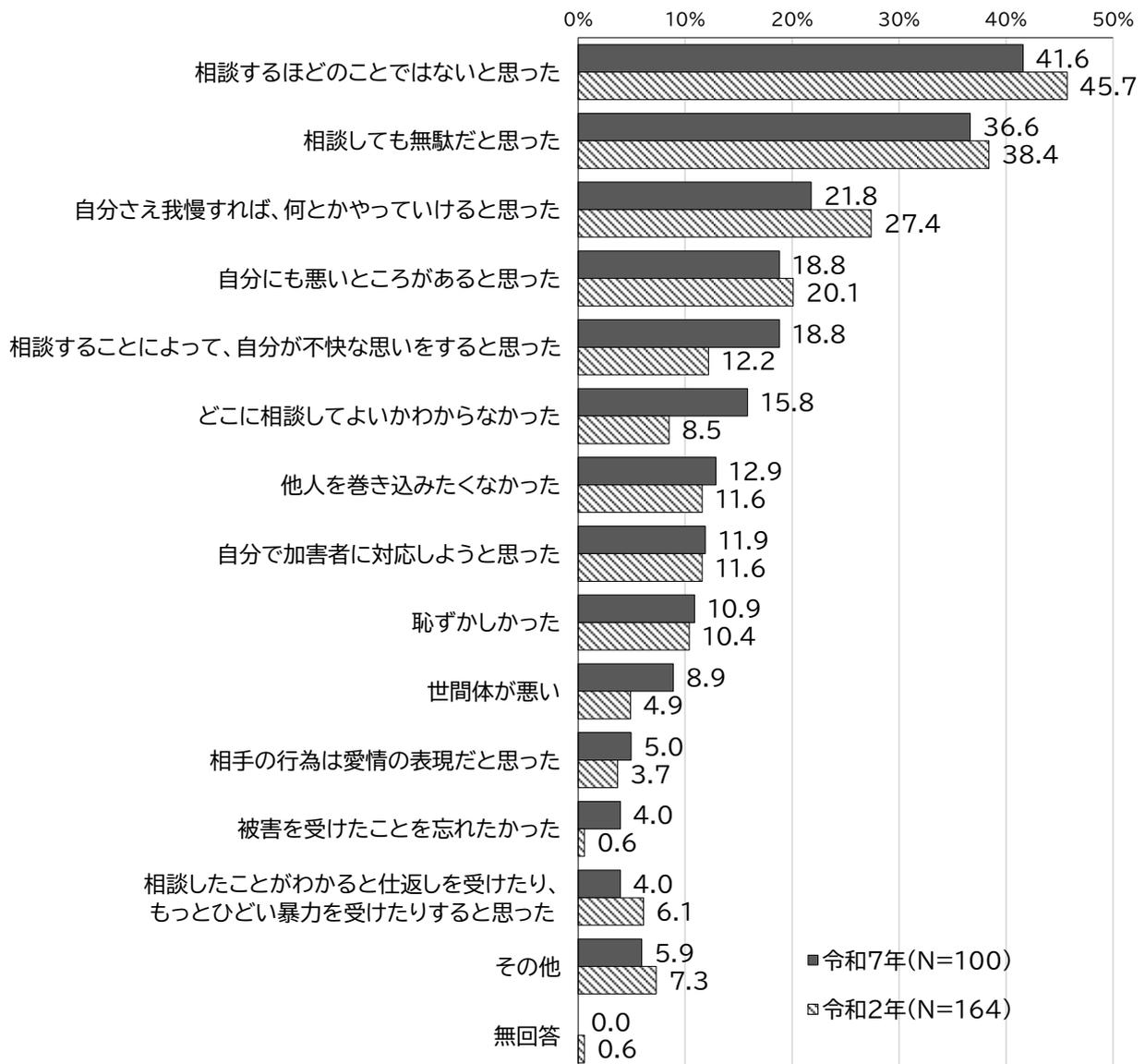
図表 8-4-2 相談しなかった、できなかった理由（性・未既婚別、上位6項目：複数回答）  
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった（できなかった）人>



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思った(令和7年調査:41.6%、令和2年調査:45.7%)」、「相談しても無駄だと思った(令和7年調査:36.6%、令和2年調査:38.4%)」など6項目が前回の割合よりも下回っています。(図表8-4-3)

図表 8-4-3 相談しなかった、できなかった理由 (全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)  
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった(できなかった)人>



(5) DV（ドメスティック・バイオレンス）の防止及び被害者支援のために必要な対策

問 18 あなたは、DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止および被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

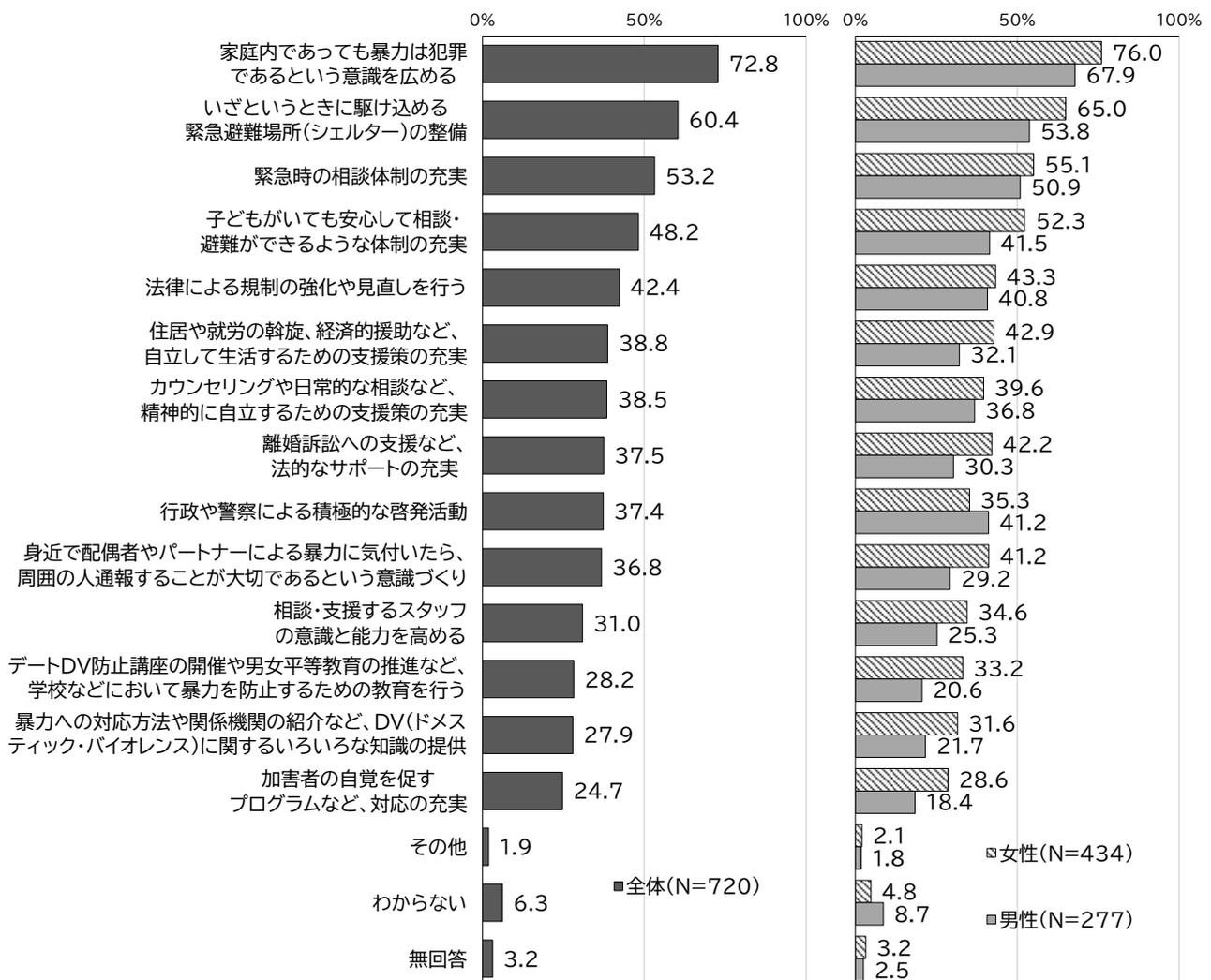
全体では、「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める(72.8%)」が最も多く、「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備(60.4%)」、「緊急時の相談体制の充実(53.2%)」、「子どもがいても安心して相談・避難ができるような体制の充実(48.2%)」が続いています。(図表8-5-1)

【性別】

性別でみると、男女ともに「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める(女性:76.0%、男性:67.9%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、女性は「行政や警察による積極的な啓発活動(女性:35.3%、男性:41.2%)」、「わからない(女性:4.8%、男性:8.7%)」を除いた項目で割合が男性よりも上回っています。(図表8-5-1)

図表 8-5-1 ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策 (全体、性別：複数回答)

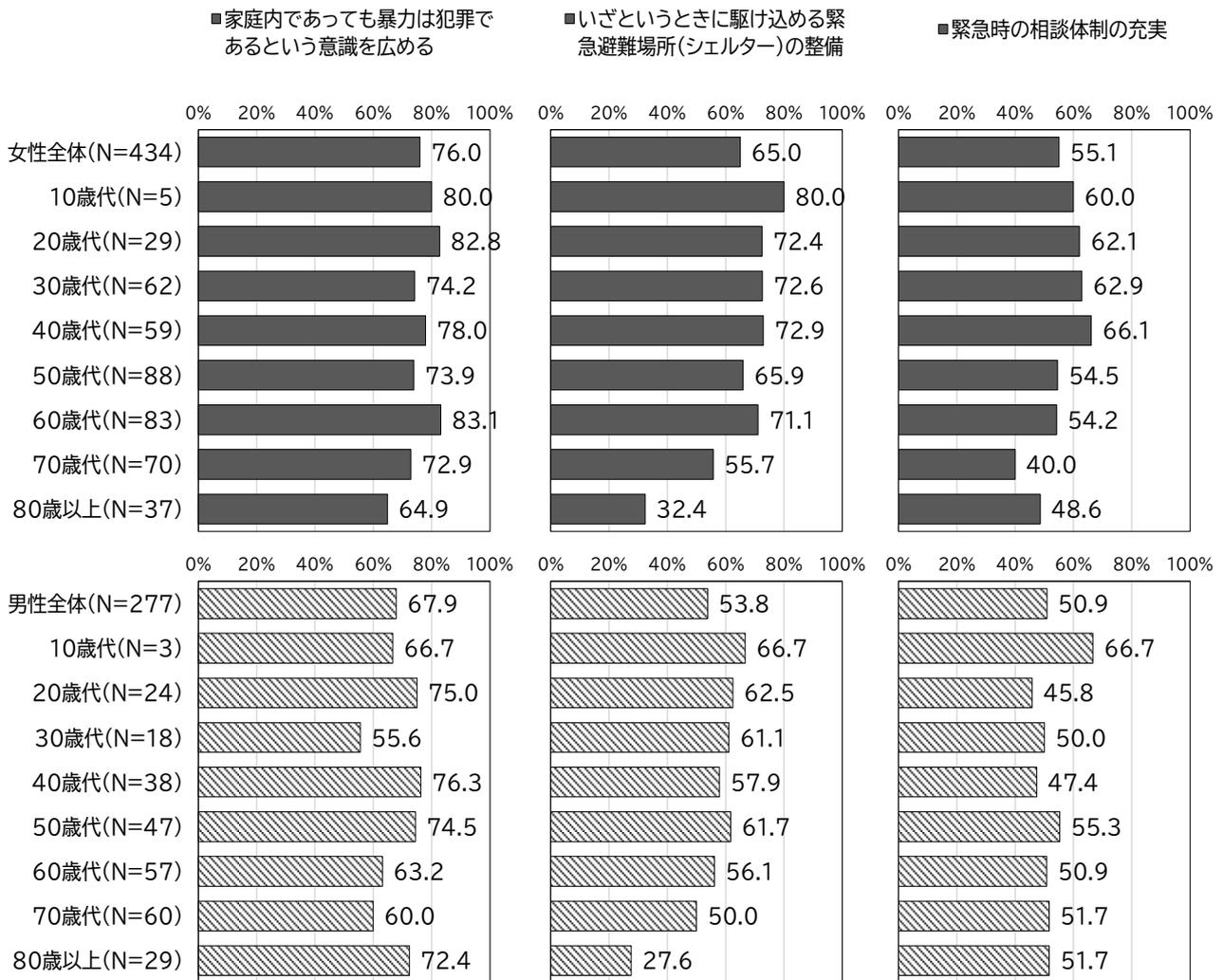


**【性・年代別】**

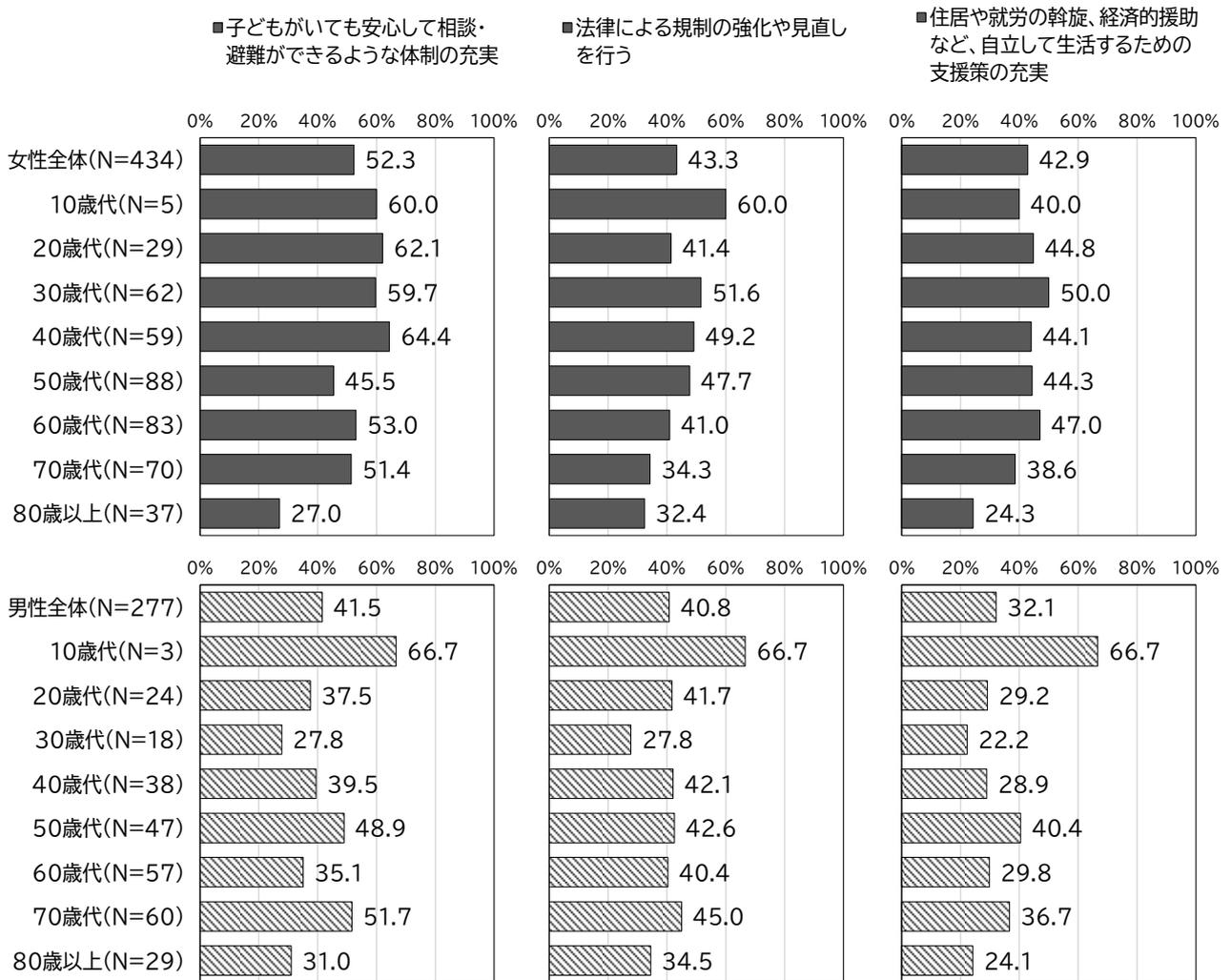
性・年代別にみると、女性は「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める」が10歳代(80.0%)、20歳代(82.8%)、60歳代(83.1%)で8割を超えています。

男性は「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める」が20歳代(75.0%)、40歳代(76.3%)、50歳代(74.5%)、80歳以上(72.4%)で7割を超えています。(図表8-5-2-①、図表8-5-2-②)

図表 8-5-2-① ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



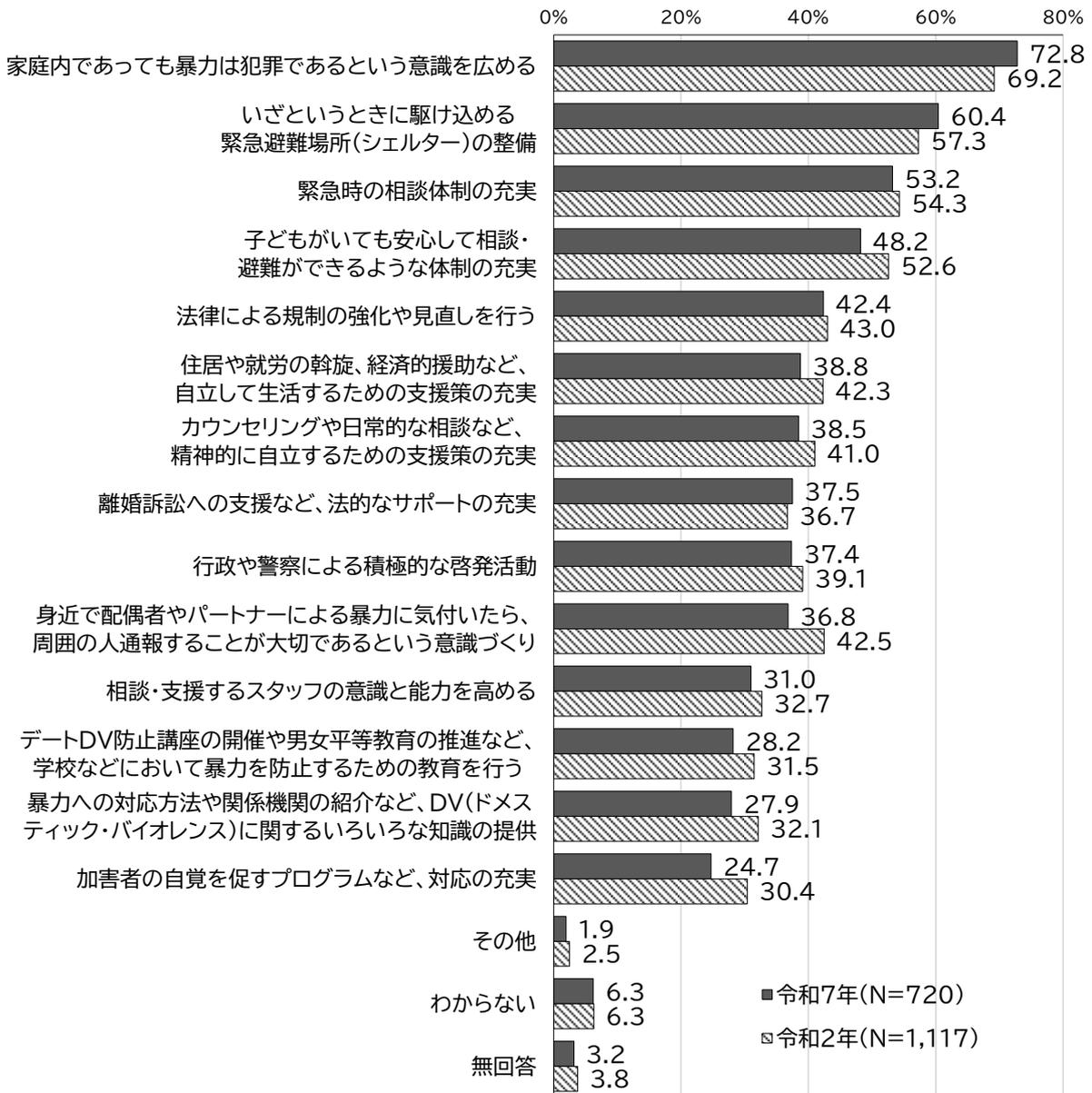
図表 8-5-2-② ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める(令和7年調査:72.8%、令和2年調査:69.2%)」、「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備(令和7年調査:60.4%、令和2年調査:57.3%)」、「離婚訴訟への支援など、法的なサポートの充実((令和7年調査:37.5%、令和2年調査:36.7%)」が前回の割合よりも上回っています。(図表8-5-3)

図表 8-5-3 ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策  
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



## 9 性の表現

### (1) 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識

問 19 テレビ、ビデオ、インターネット、映画、新聞、雑誌、広告などのメディアでの固定的な性別役割分担の表現や、女性に対する暴力、身体、性の表現について、あなたは日頃どのように感じていますか。(○はあてはまるものすべて)

#### 【全体】

全体では、「子どもの目にふれないような配慮が足りない(31.9%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(31.4%)」、「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(25.4%)」、「女性の性を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ(24.9%)」が続いています。(図表9-1-1)

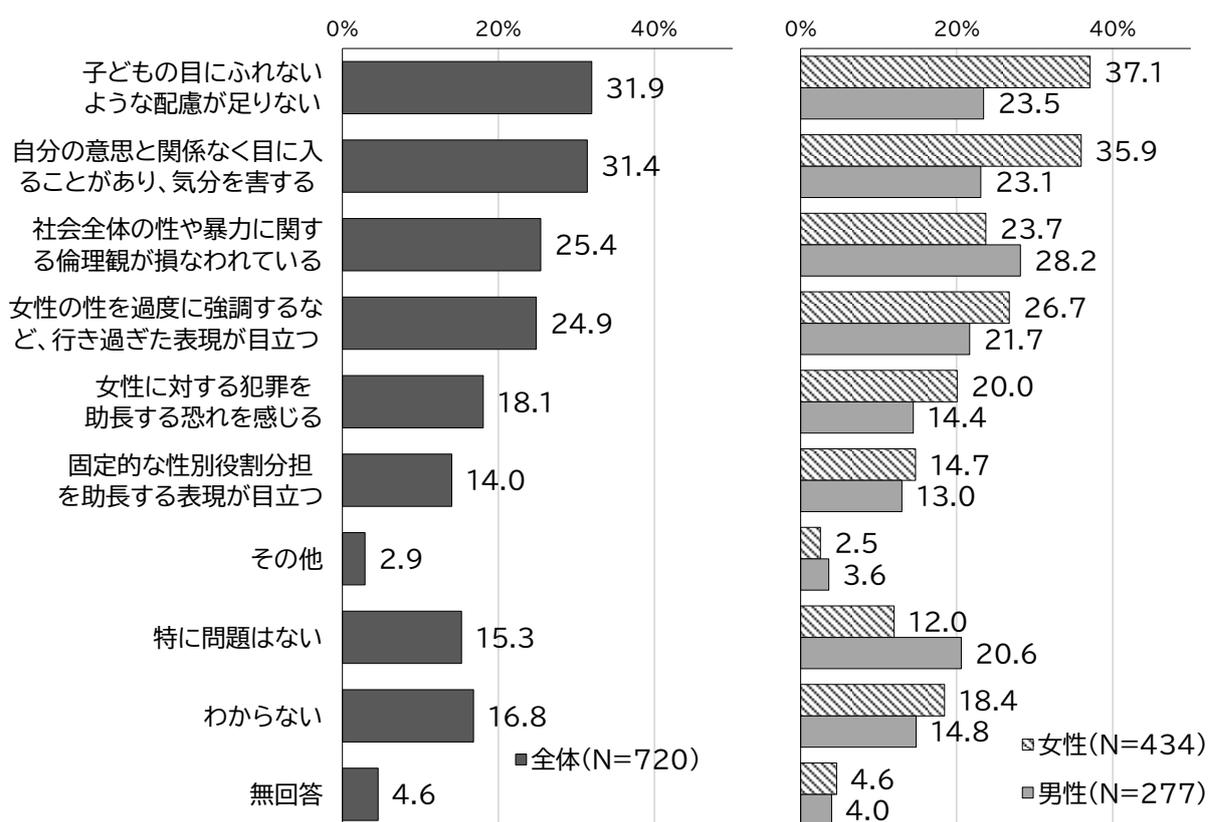
#### 【性別】

性別でみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない(37.1%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(35.9%)」「女性の性を過度に強調するなど行き過ぎた表現が目立つ(26.7%)」が続いています。

男性は「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(28.2%)」が最も多く、「子どもの目にふれないような配慮が足りない(23.5%)」が続いています。

男女の違いをみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない(女性：37.1%、男性：23.5%)」で13.6%、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(女性：35.9%、男性：23.1%)」で12.8%男性を上回っています。また、男性は「特に問題はない(女性：12.0%、男性：20.6%)」で女性を8.6%上回っています。(図表9-1-1)

図表 9-1-1 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識（全体、性別：複数回答）

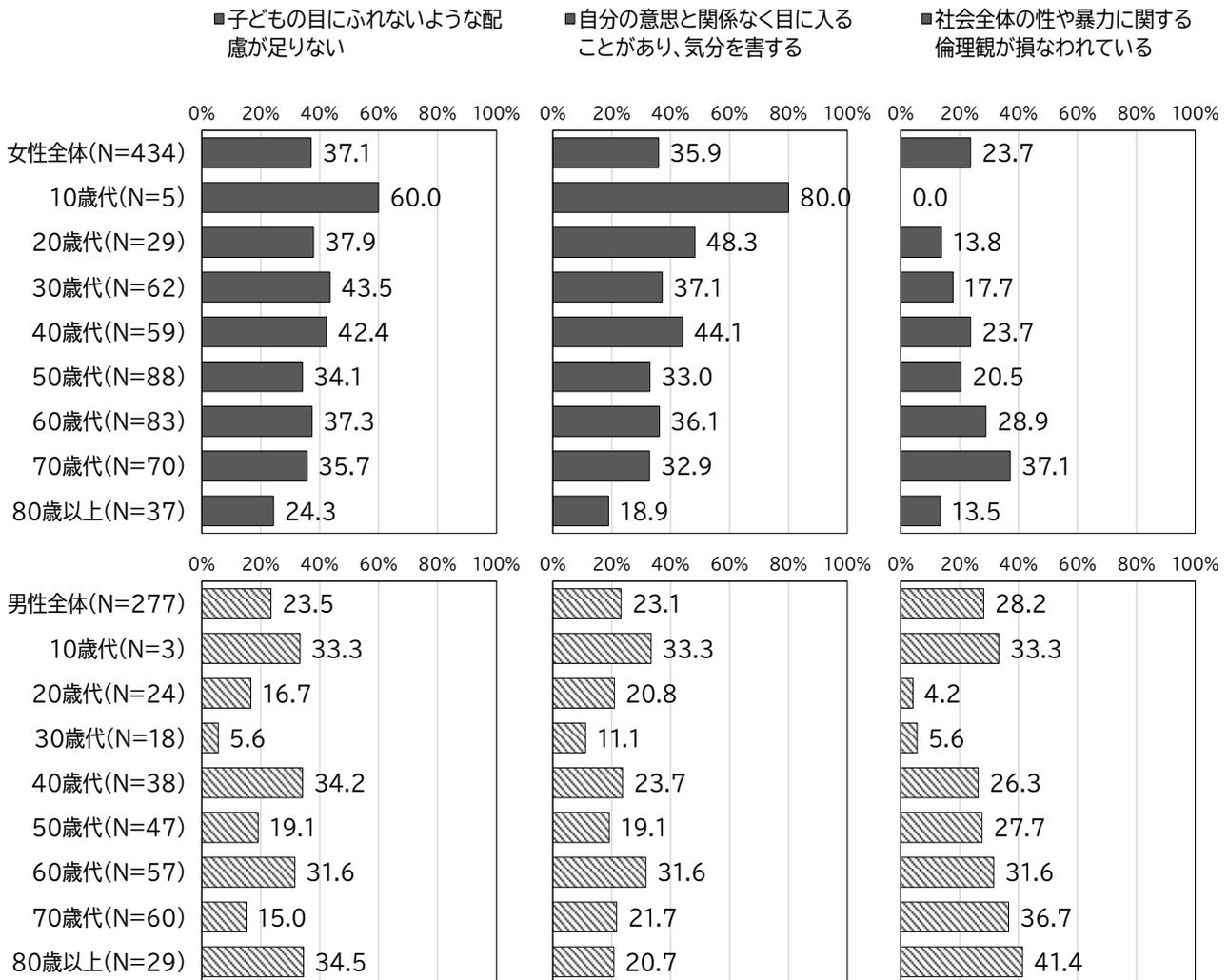


## 【性・年代別】

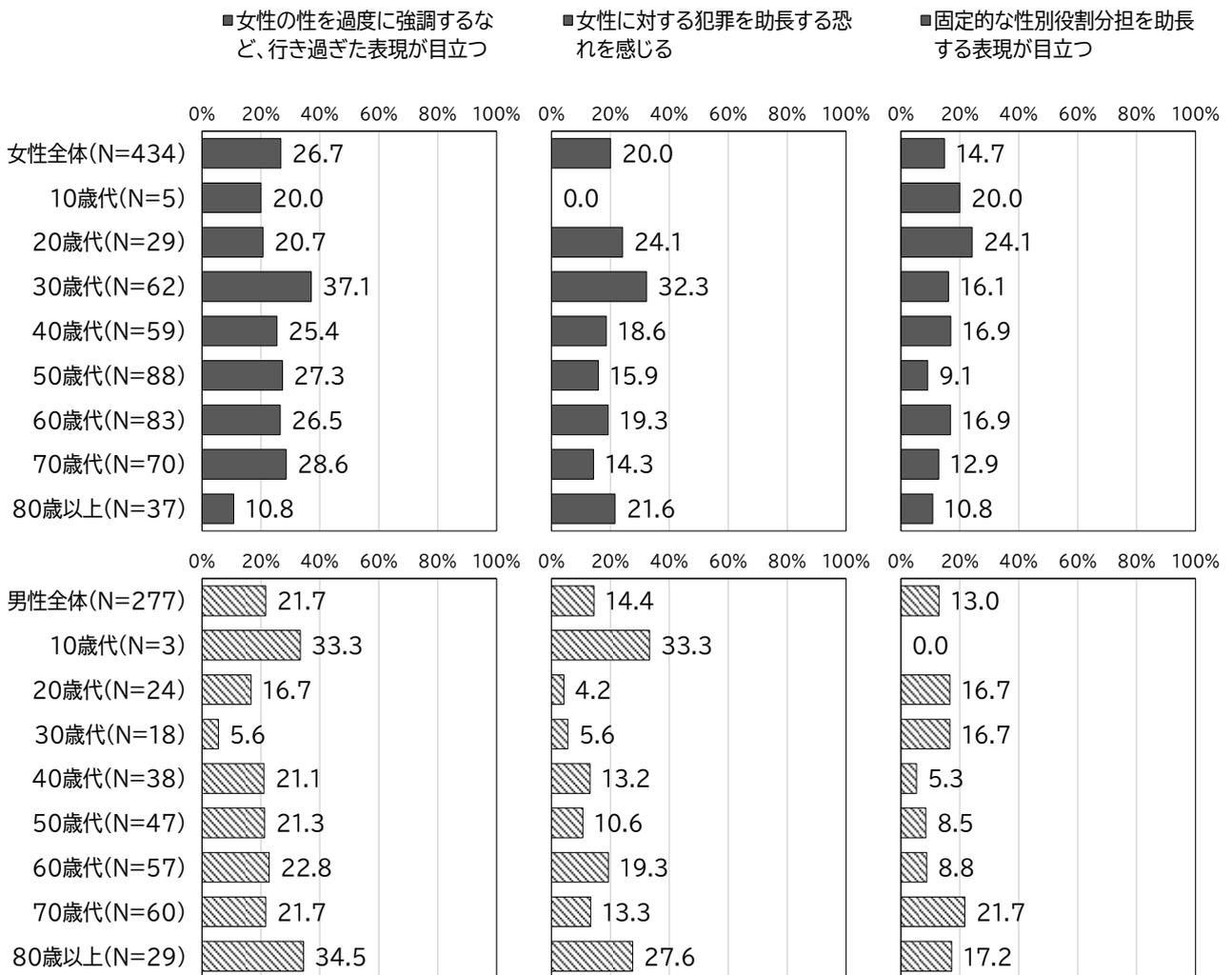
性・年代別にみると、女性は20歳代で「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(48.3%)」が、30歳代で「子どもの目にふれないような配慮が足りない(43.5%)」が、40歳代で「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(44.1%)」が、50歳代から70歳代で「子どもの目にふれないような配慮が足りない(50歳代:34.1%、60歳代:34.3%、70歳代:35.7%)」が、70歳代で「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(37.1%)」が多くなっています。

男性は20歳代で「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(20.8%)」が、30歳代で「固定的な性別役割分担意識を助長する表現が目立つ(16.7%)」が、40歳代で「子どもの目にふれないような配慮が足りない(34.2%)」が、50歳代で「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(27.7%)」が、60歳代で「子どもの目にふれないような配慮が足りない(31.6%)」「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(31.6%)」「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(31.6%)」が、70歳代と80歳以上で「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(70歳代:36.7%、80歳以上:41.4%)」が多くなっています。(図表9-1-2-①、図表9-1-2-②)

図表 9-1-2-① 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識（性・年代別、上位6項目：複数回答）



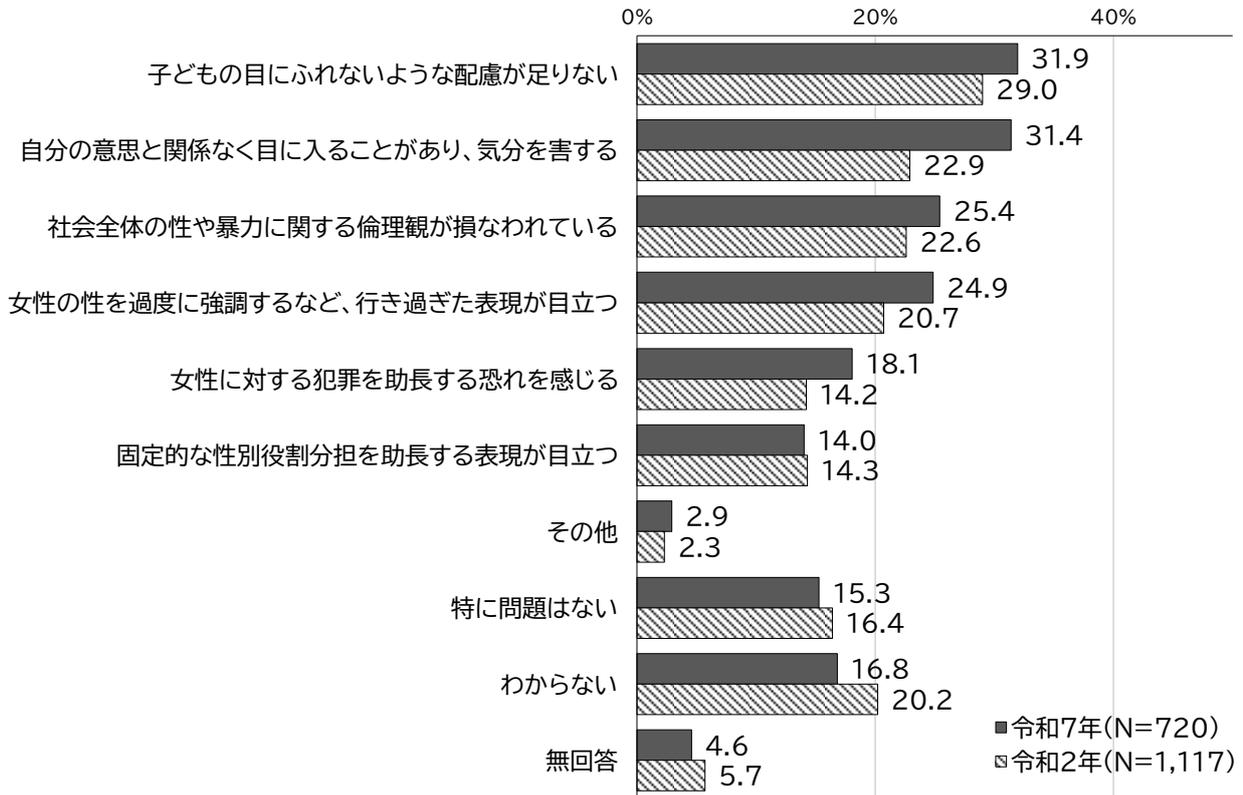
図表 9-1-2-② 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識（性・年代別、上位6項目：複数回答）



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、上位5つの項目において割合が増えています。特に、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(令和7年調査:31.4%、令和2年調査:22.9%)」は8.5%と、他の項目と比べて増えています。(図表9-1-3)

図表 9-1-3 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識  
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



# 10 性の多様性

## (1) 性自認について悩んだことの有無

問 20 あなたは今まで自分の性別について悩んだことはありますか。(○は1つだけ)

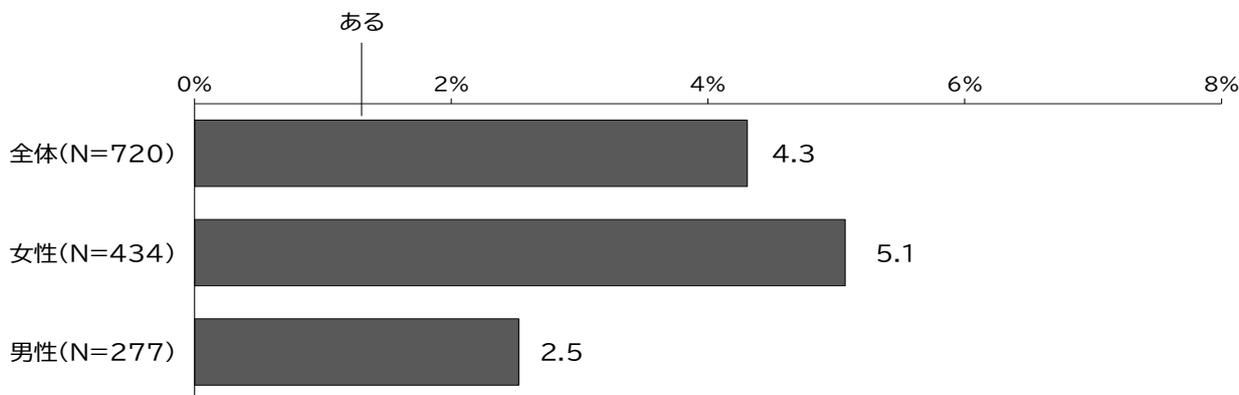
### 【全体】

全体では、「ある」が4.3%となっています。(図表10-1-1)

### 【性別】

性別で見ると、女性は「ある」が5.1%、男性は「ある」が2.5%となっています。(図表10-1-1)

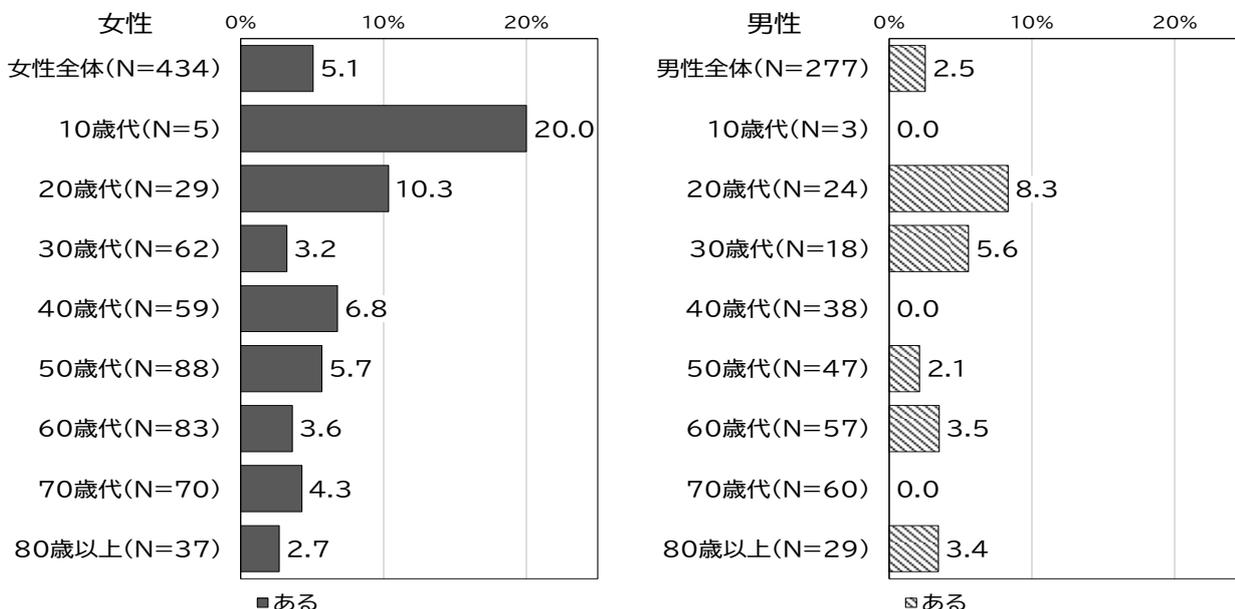
図表 10-1-1 性自認について悩んだことの有無 (全体、性別)



### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「ある」は女性の20歳代(10.3%)、男性の20歳代(8.3%)で多くなっています。(図表10-1-2)

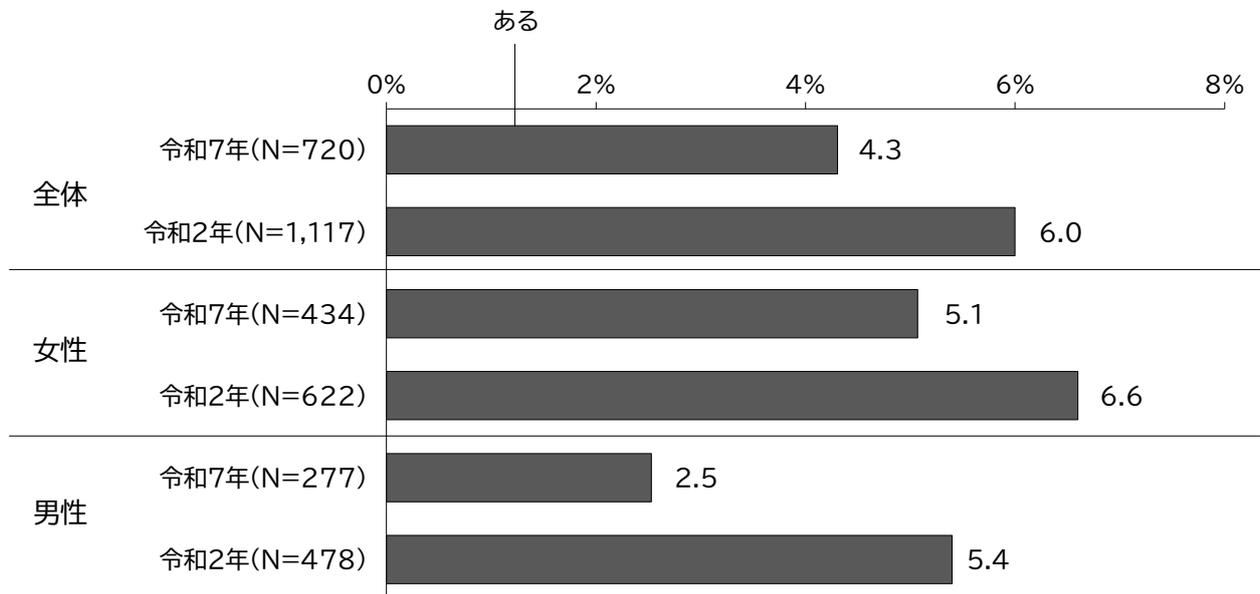
図表 10-1-2 性自認について悩んだことの有無 (性・年代別)



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比べると、全体、男女ともに「ある」の割合が減っています。(図表10-1-3)

図表 10-1-3 性自認について悩んだことの有無（全体、令和7年・令和2年調査）



問 20 で「1. ある」とお答えの方に

問 20-1 どのようなことで悩みましたか。(○はあてはまるものすべて)

**【全体】**

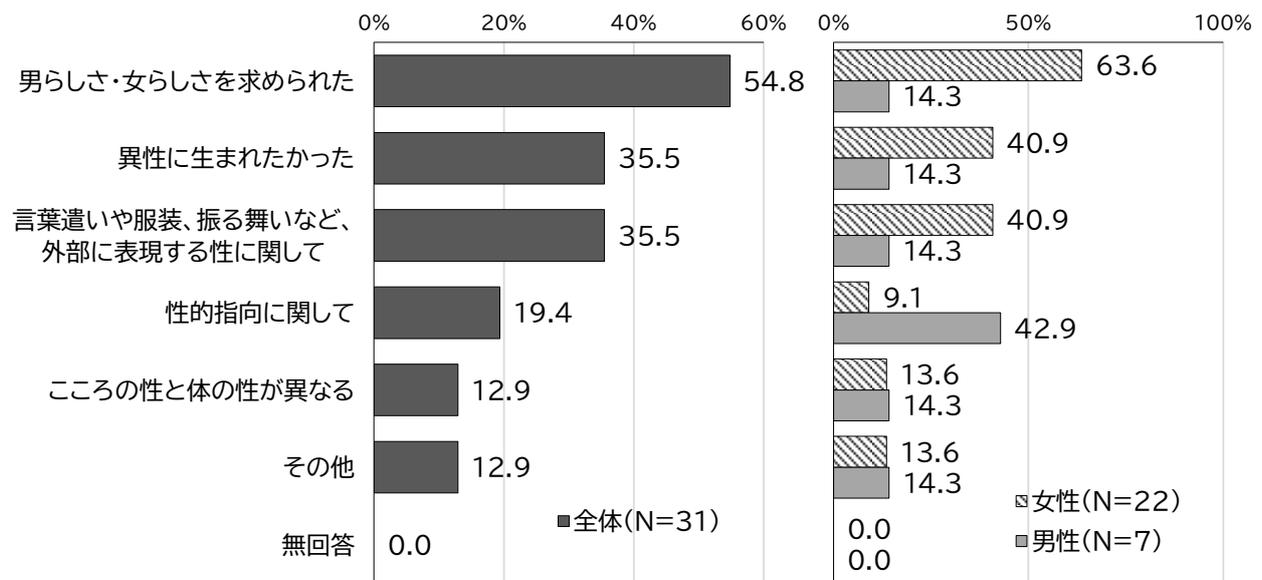
全体では、「男らしさ・女らしさを求められた(54.8%)」が最も多く、「異性に生まれたかった(35.5%)」、「言葉遣いや服装、振る舞いなど、外部に表現する性に関して(35.5%)」が続いています。(図表10-1-4)

**【性別】**

性別で見ると、女性は「男らしさ・女らしさを求められた(女性:63.6%、男性:14.3%)」、「異性に生まれたかった(女性:40.9%、男性:14.3%)」、「言葉遣いや服装、振る舞いなど、外部に表現する性に関して(女性:40.9%、男性:14.3%)」が男性よりも上回っています。

男性は「性的指向に関して(女性:9.1%、男性:42.9%)」が女性よりも上回っています。(図表10-1-4)

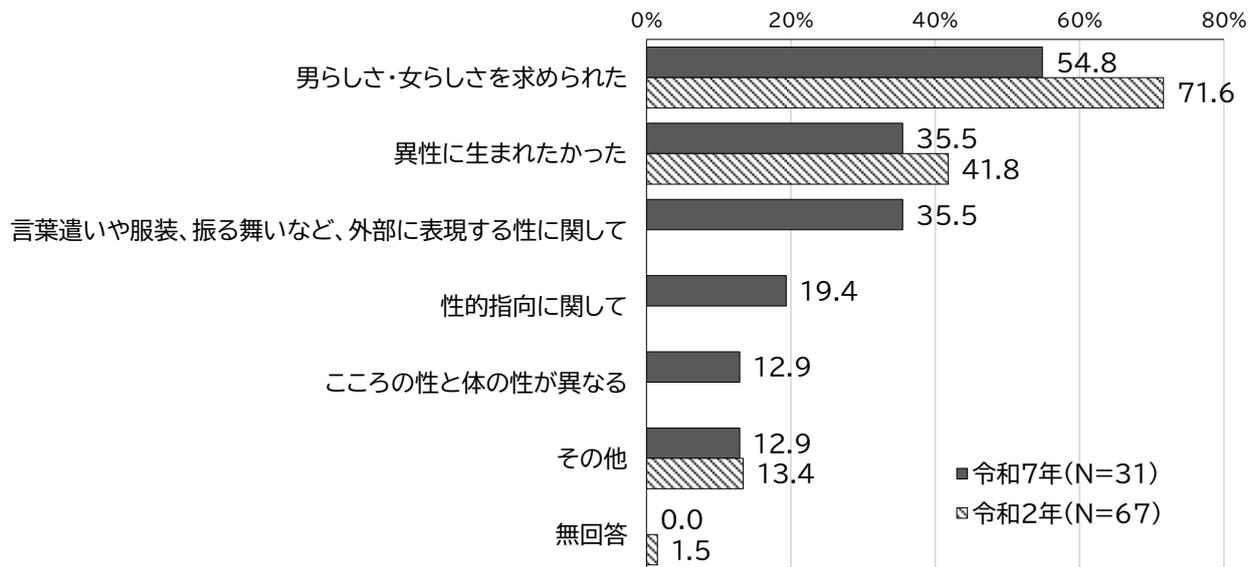
図表 10-1-4 性自認について悩んだ内容 (全体、性別)



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査から選択肢を増やしたため、考慮が必要ですが、「男らしさ・女らしさを求められた(令和7年調査:54.8%、令和2年調査:71.6%)」は16.8%、「異性に生まれたかった(令和7年調査:35.5%、令和2年調査:41.8%)」は6.3%と令和2年調査よりも減っています。(図表10-1-5)

図表 10-1-5 性自認について悩んだ内容（全体、令和7年・令和2年調査）



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

## (2) LGBT・LGBTQ+の認知状況

問 21 あなたはLGBTまたは、LGBTQ+という言葉をご存じですか。(○は1つだけ)

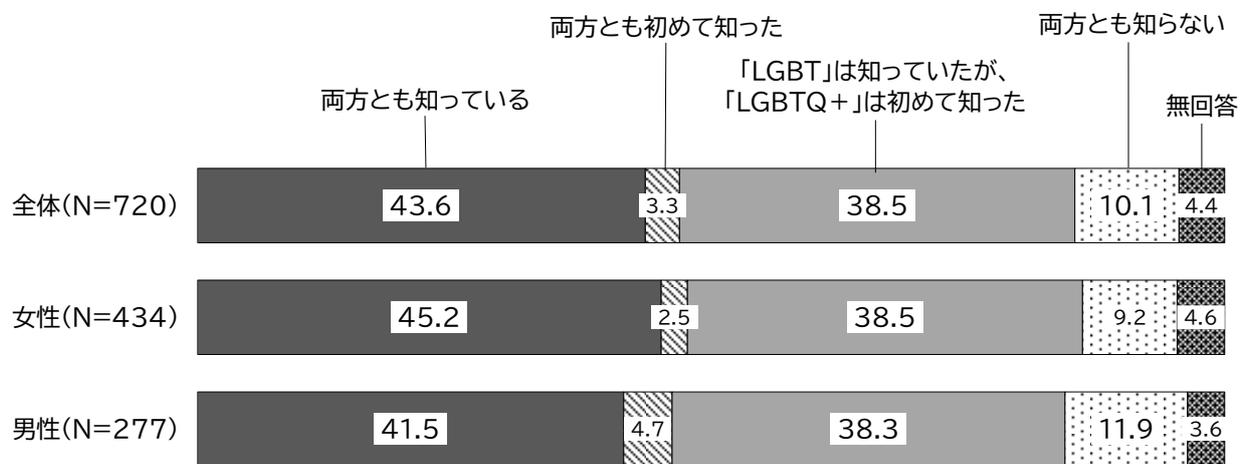
### 【全体】

全体では、「両方とも知っている」が43.6%、「LGBT」は知っていたが、「LGBTQ+」は初めて知った」が38.5%となっています。(図表10-2-1)

### 【性別】

性別で見ると、「両方とも知っている(女性:45.2%、男性:41.5%)」では、女性は3.7%上回っています。(図表10-2-1)

図表 10-2-1 LGBTの認知状況(全体、性別)

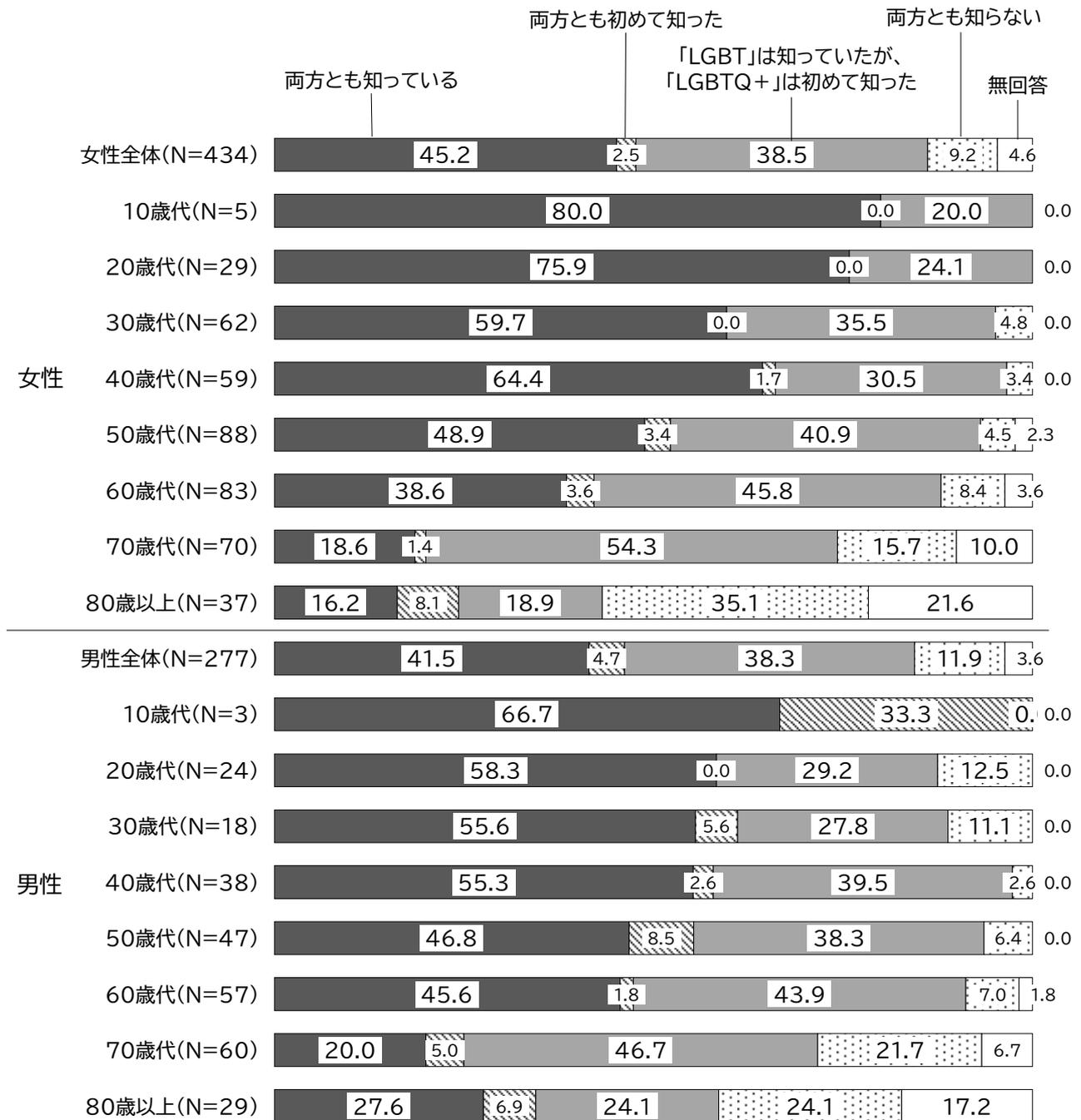


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は「両方とも知っている」が10歳代(80.0%)、20歳代(75.9%)で7割以上となっていますが、年代が上がるほど減少傾向となっています。

男性は「両方とも知っている」が10歳代から40歳代(10歳代:66.7%、20歳代:58.3%、30歳代:55.6%、40歳代:55.3%)で5割以上となっていますが、年代が上がるほど減少傾向となっています。(図表10-2-2)

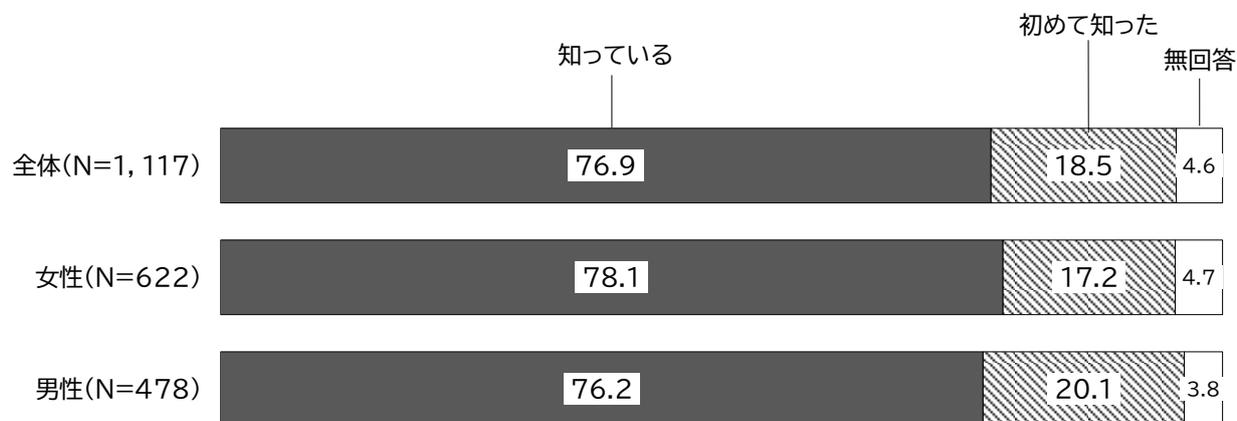
図表 10-2-2 LGBTの認知状況(性・年代別)



## 【令和2年調査との比較（参考）】

令和2年調査ではLGBTのみ認知のため、考慮が必要ですが、「知っている（全体：76.9%、女性：78.1%、男性：76.2%）」は全体、男女ともに7割を超えています。（図表10-2-3）

図表 10-2-3 L G B T の認知状況（全体、令和2年調査）参考



# 11 健康

## (1) 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと

問 22 あなたは、性や妊娠・出産に関して自分で決め、女性が自分の健康を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

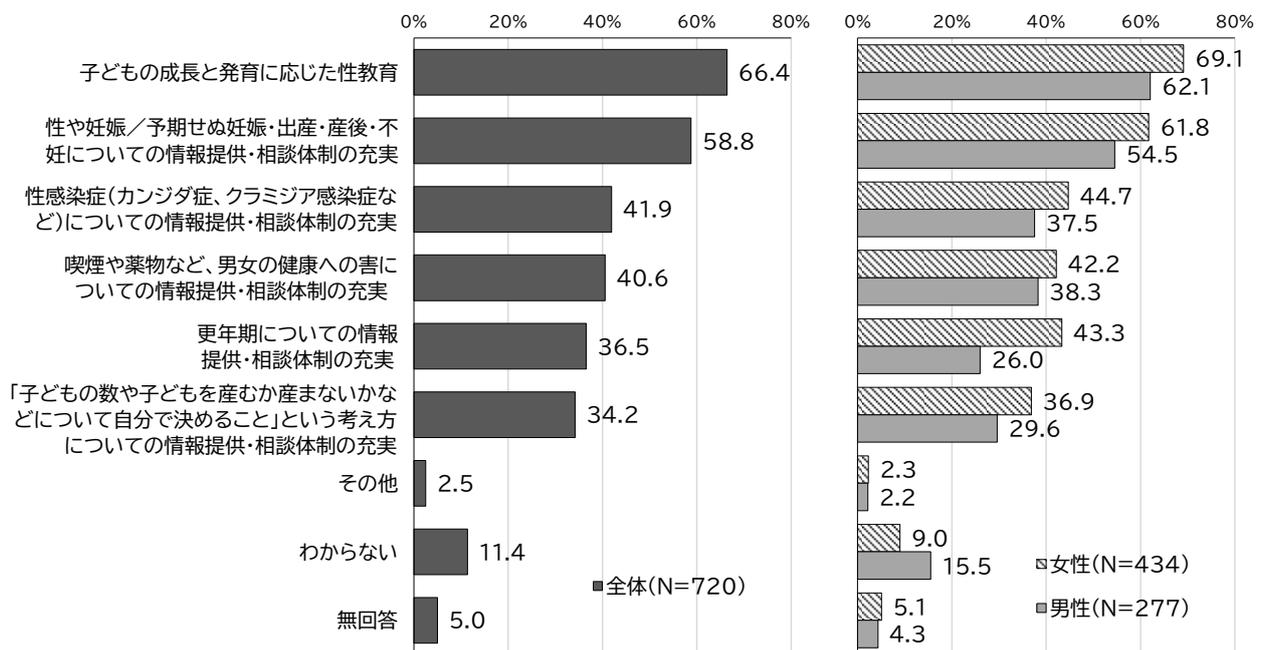
### 【全体】

全体では、「子どもの成長と発育に応じた性教育(66.4%)」が最も多く、「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実(58.8%)」、「性感染症(カンジダ症、クラミジア感染症など)についての情報提供・相談体制の充実(41.9%)」、「喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実(40.6%)」が続いています。(図表11-1-1)

### 【性別】

性別で見ると、「わからない(女性:9.0%、男性:15.5%)」を除くすべての項目で女性の割合が、男性よりも上回っています。特に「更年期についての情報提供・相談体制の充実(女性:43.3%、男性:26.0%)」は、女性が男性よりも17.3%上回っています。(図表11-1-1)

図表 11-1-1 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと (全体、性別：複数回答)

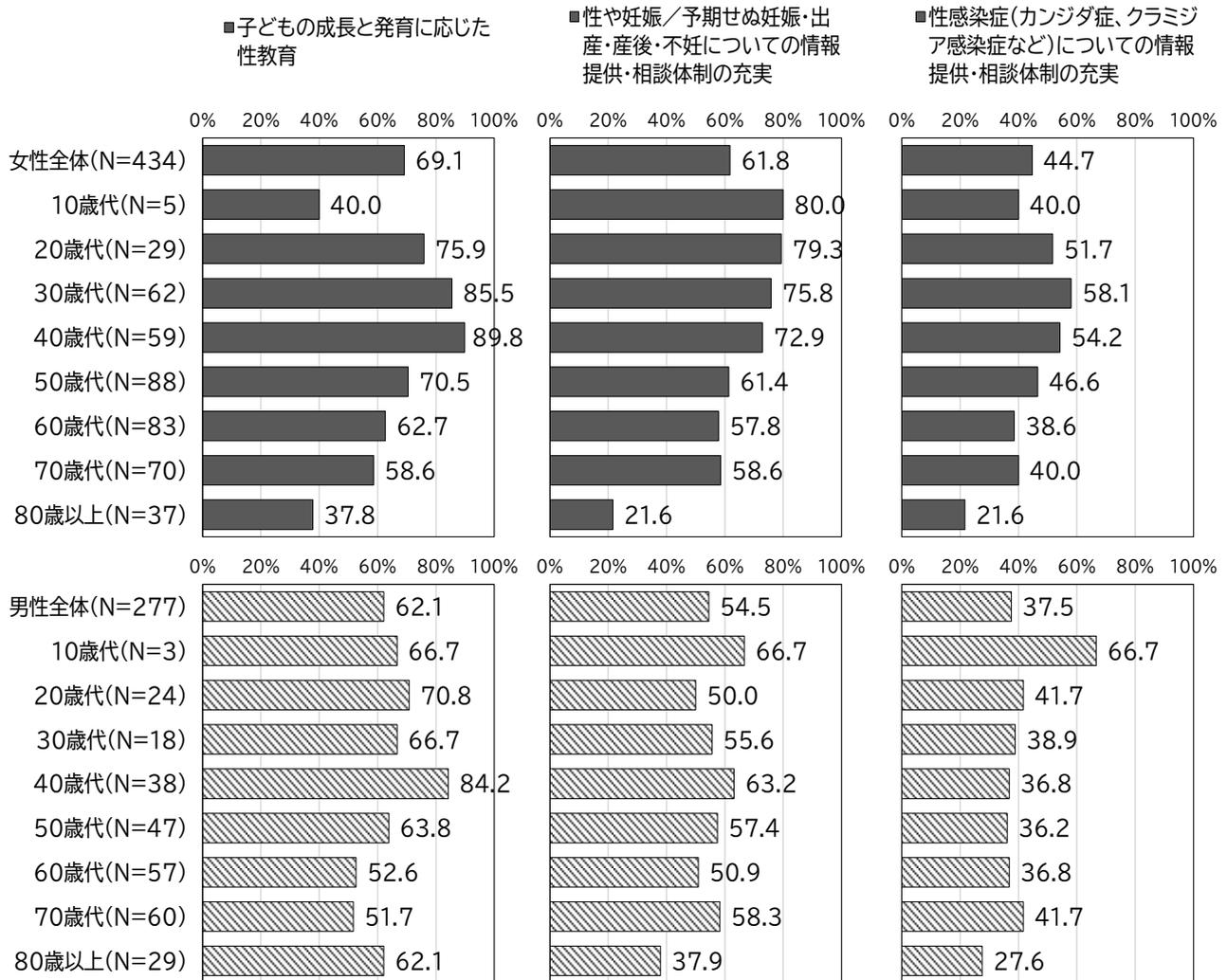


**【性・年代別】**

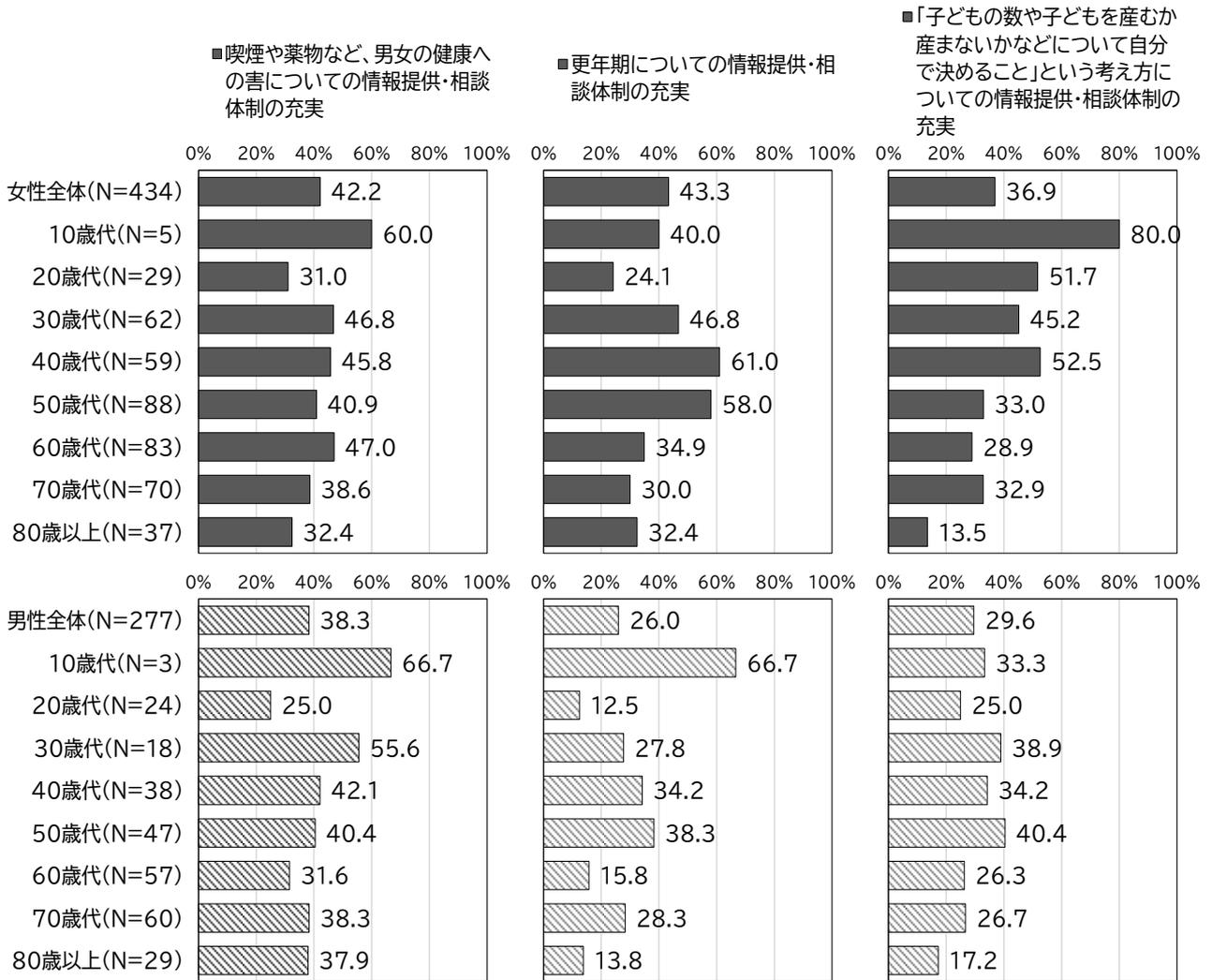
性・年代別にみると、女性は「子どもの成長と発育に応じた性教育」が30歳代(85.5%)と40歳代(89.8%)で8割を超えています。

男性は「子どもの成長と発育に応じた性教育」が40歳代(84.2%)で8割台と他の年代に比べて多くなっています。(図表11-1-2-①、図表11-1-2-②)

図表 11-1-2-① 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



図表 11-1-2-② 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)

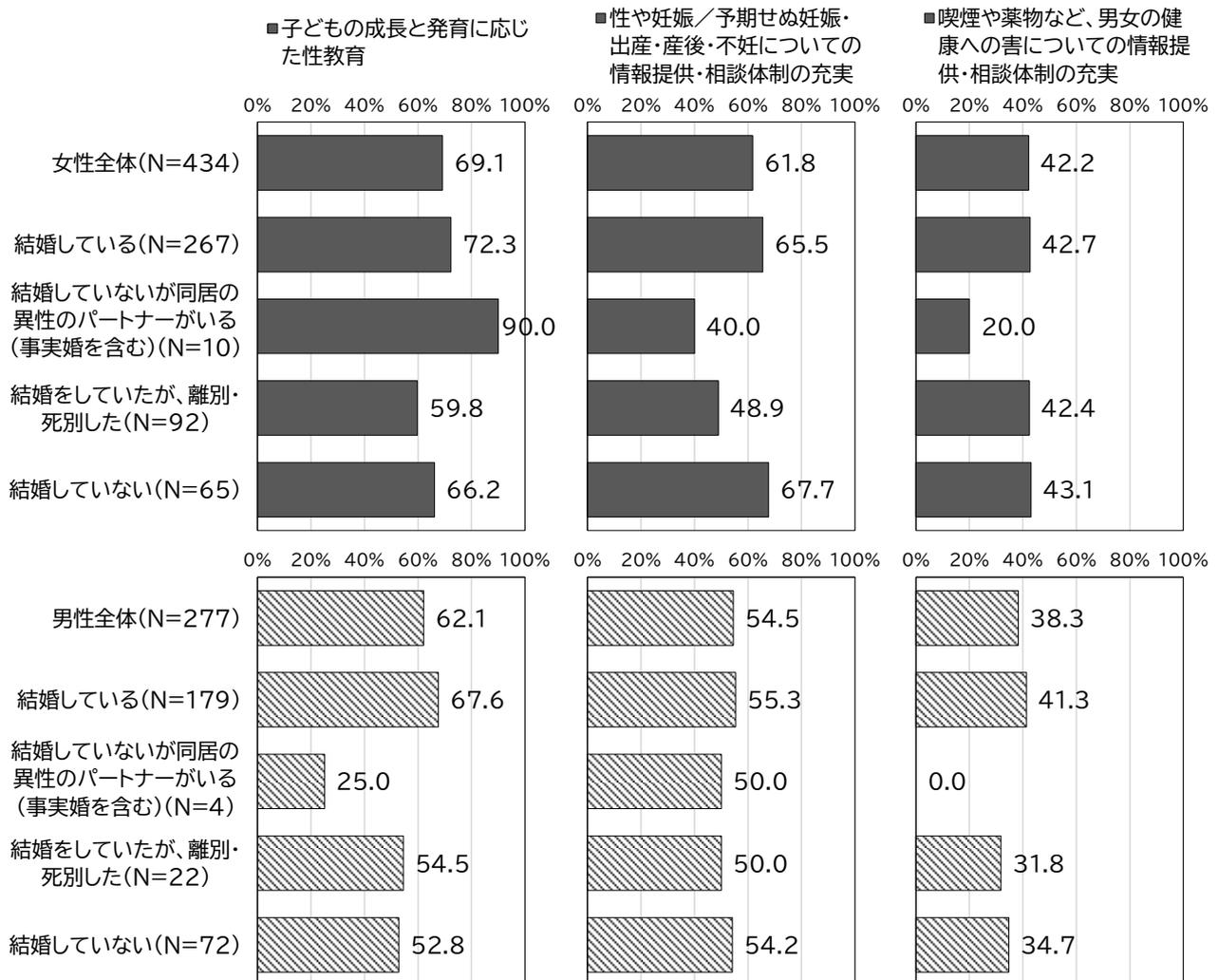


**【性・未既婚別】**

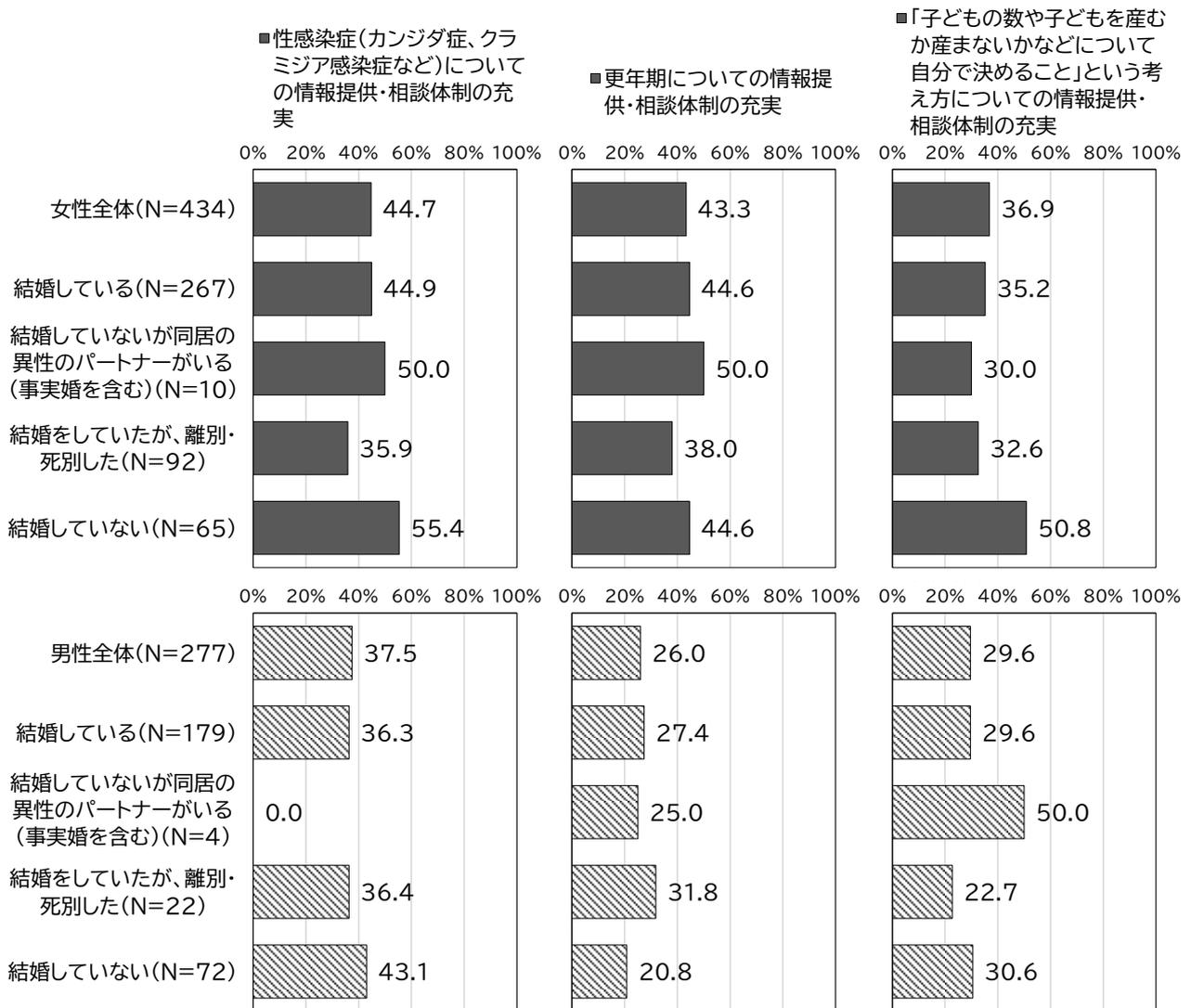
性・未既婚別にみると、女性の既婚は「子どもの成長と発育に応じた性教育(72.3%)」が、未婚では「性や妊娠/予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実(67.7%)」が多くなっています。

男性は、女性と同様に既婚は「子どもの成長と発育に応じた性教育(67.6%)」が、未婚では「性や妊娠/予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実(54.2%)」が多くなっています。  
(図表11-1-3-①、図表11-1-3-②)

図表 11-1-3-① 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと  
(性・未既婚別、上位6項目：複数回答)



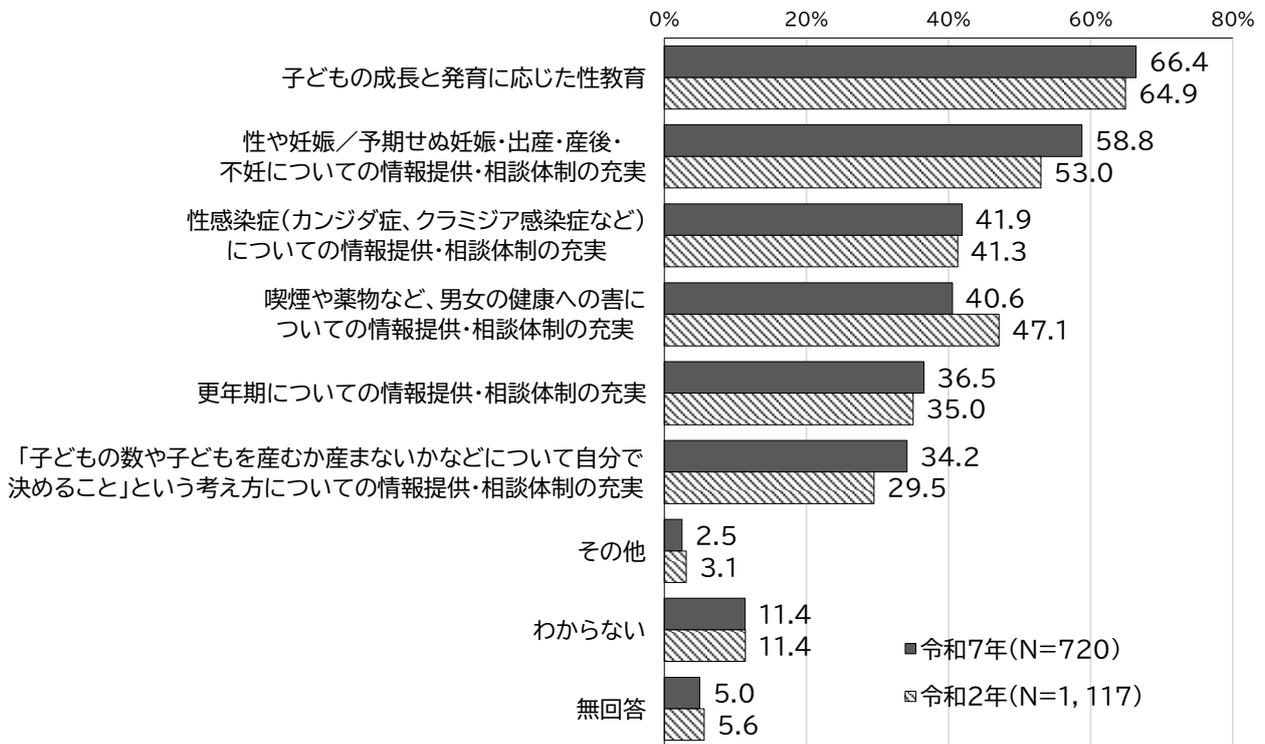
図表 11-1-3-② 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと  
(性・未既婚別、上位6項目：複数回答)



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、「喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実(令和7年調査:40.6%、令和2年調査:47.1%)」が減っている以外、全ての項目で令和2年調査よりも増えています。(図表11-1-4)

図表 11-1-4 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと  
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



## 12 学校教育

### (1) 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと

問 23 あなたは、男女平等の社会を実現するためには、学校教育の場では特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

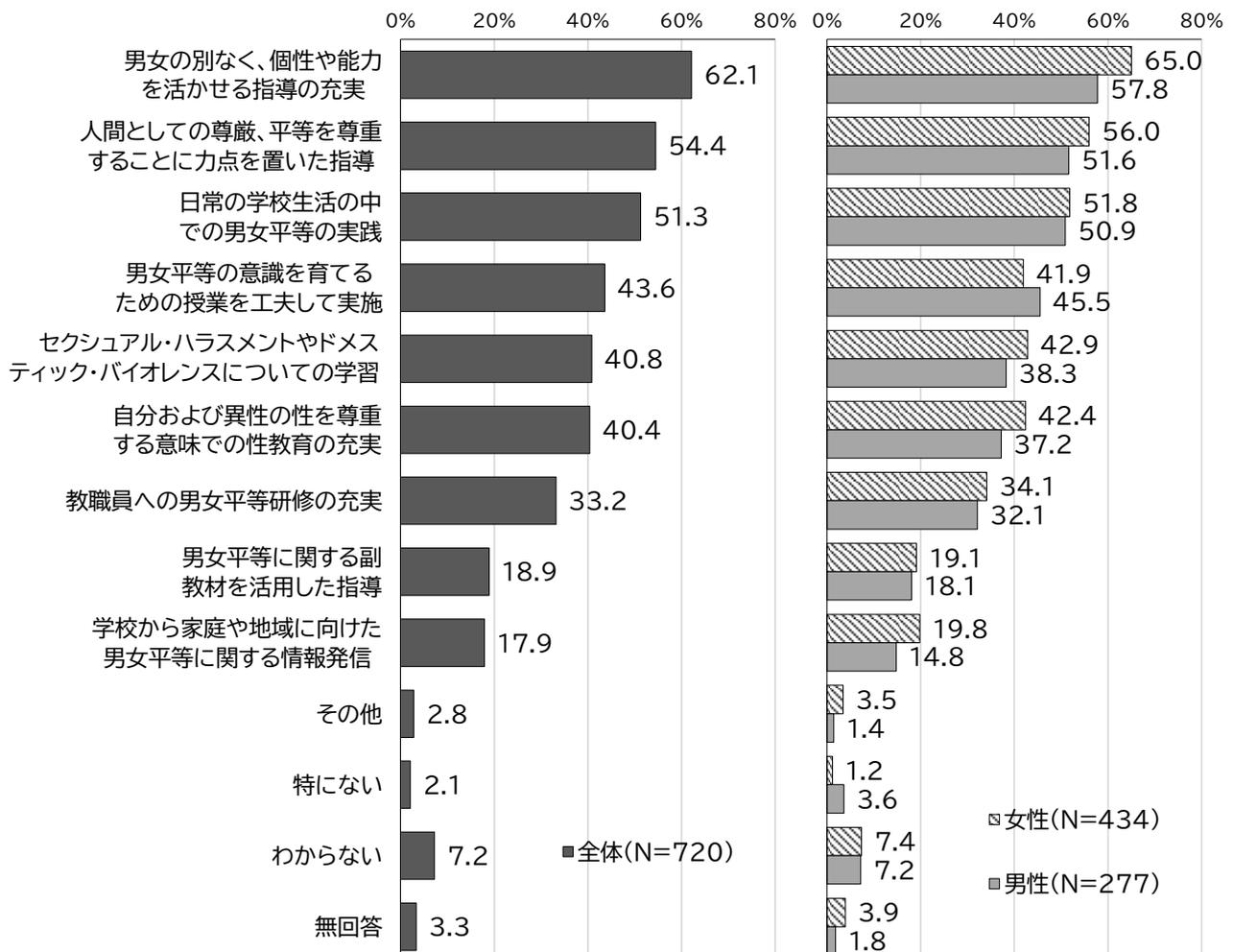
#### 【全体】

全体では、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(62.1%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(54.4%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(51.3%)」、「男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施(43.6%)」、「セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習(40.8%)」が続いています。(図表12-1-1)

#### 【性別】

性別で見ると、男女ともに「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(女性:65.0%、男性:57.8%)」、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(女性:56.0%、男性:51.6%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(女性:51.8%、男性:50.9%)」が5割以上となっています。(図表12-1-1)

図表 12-1-1 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと  
(全体、性別：複数回答)

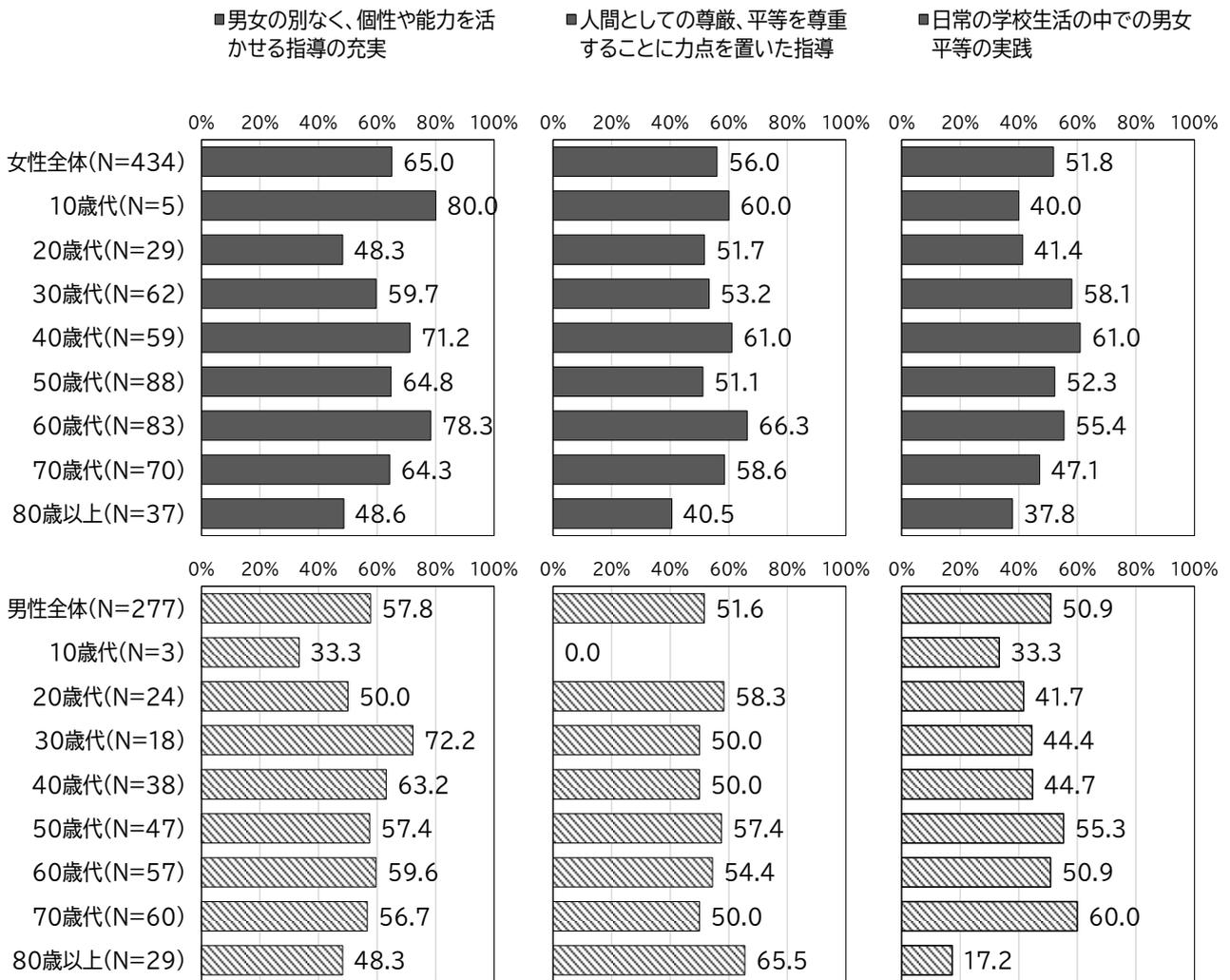


**【性・年代別】**

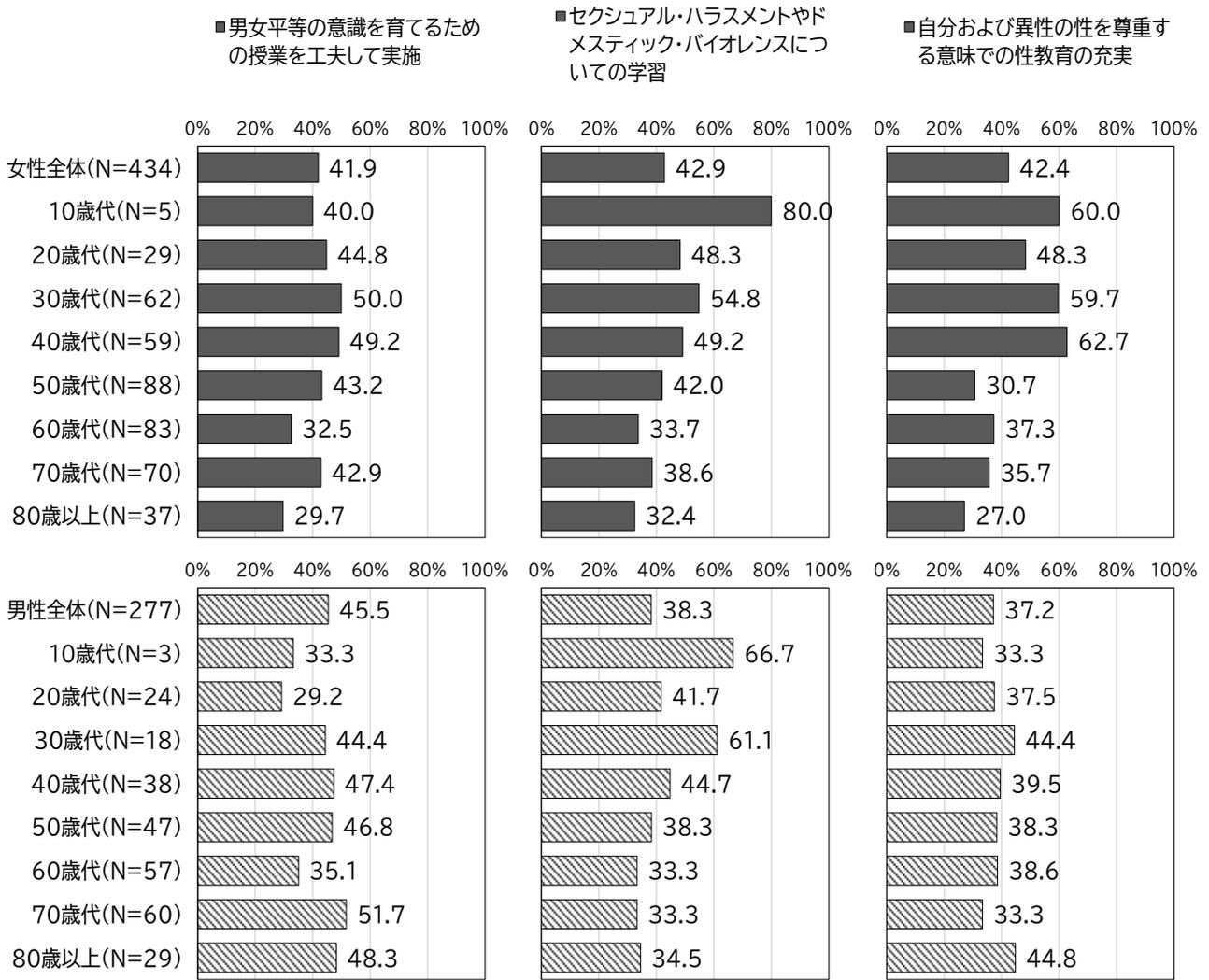
性・年代別にみると、女性は「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実」が40歳代(71.2%)、60歳代(78.3%)で他の年代と比べて多くなっています。

男性は「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実」が30歳代(72.2%)で他の年代に比べて多くなっています。(図表12-1-2-①、図表12-1-2-②)

図表 12-1-2-① 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



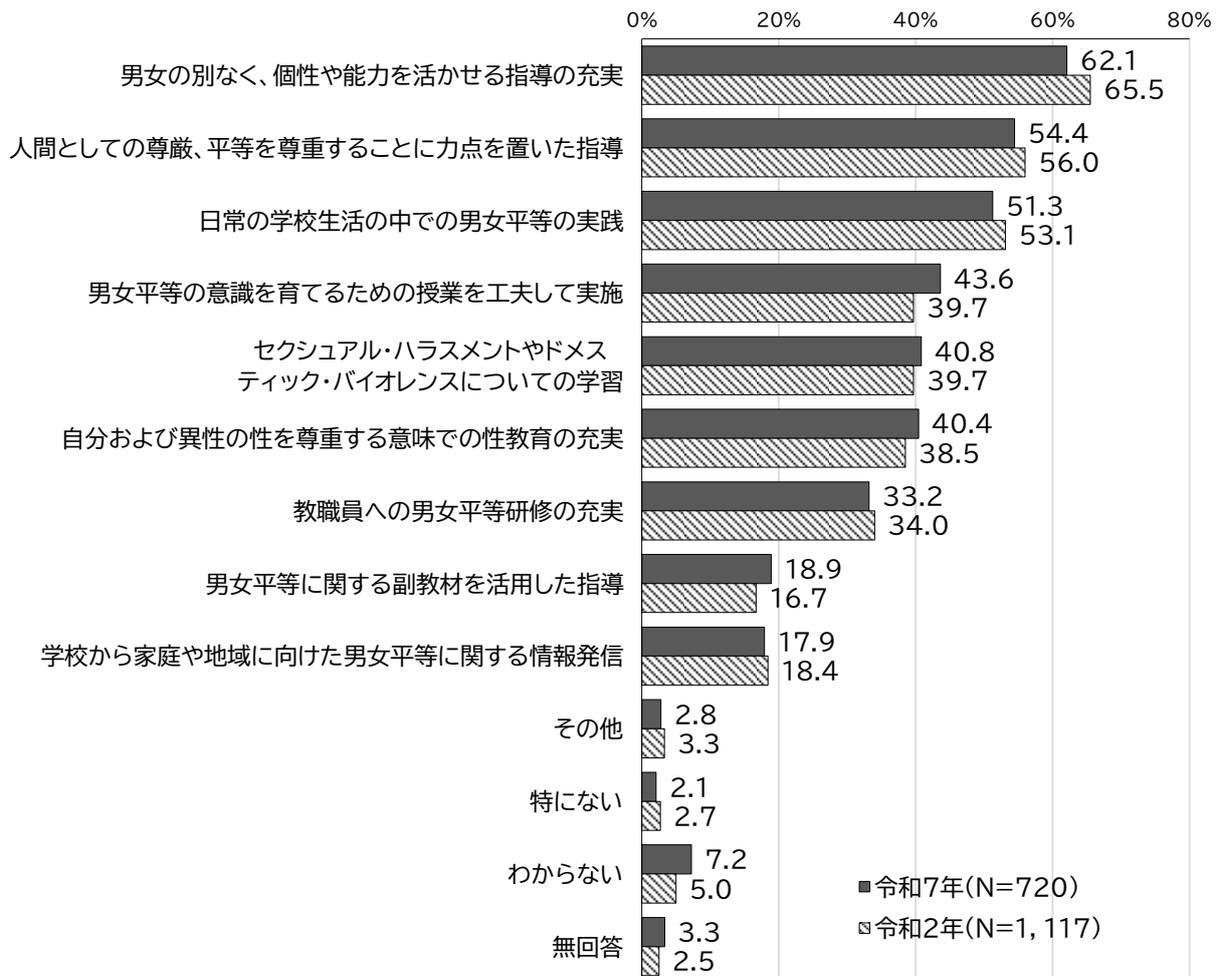
図表 12-1-2-② 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、傾向に大きな変化はありませんが、上位3項目である「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(令和7年調査:62.1%、令和2年調査:65.5%)」、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(令和7年調査:54.4%、令和2年調査:56.0%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(令和7年調査:51.3%、令和2年調査:53.1%)」の割合が減っています。(図表12-1-3)

図表 12-1-3 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと  
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



# 13 女性の社会参画

## (1) 区議会議員等に占める女性議員数の評価

問 24 葛飾区では、区の施策に女性の意見が十分に反映されるよう、審議会などの施策・方針決定過程への女性の参画を推進しております。そのため、「葛飾区男女平等推進計画(第6次)」(令和4年度～令和8年度)の計画期間中に審議会などへの女性の参画率を、令和8年度末に40.0%以上とすることを目標としています。令和7年7月時点では、区議会議員の中に占める女性議員の数は39人中13人(33.0%)、審議会などの女性委員は1,063人中324人(30.5%)となっています。あなたは、この状況をどのように思いますか。(○は1つだけ)

### 【全体】

全体では、「男女半々くらいまで増えたほうがよい(33.8%)」が最も多く、「もう少し女性が増えたほうがよい(31.3%)」が続いています。

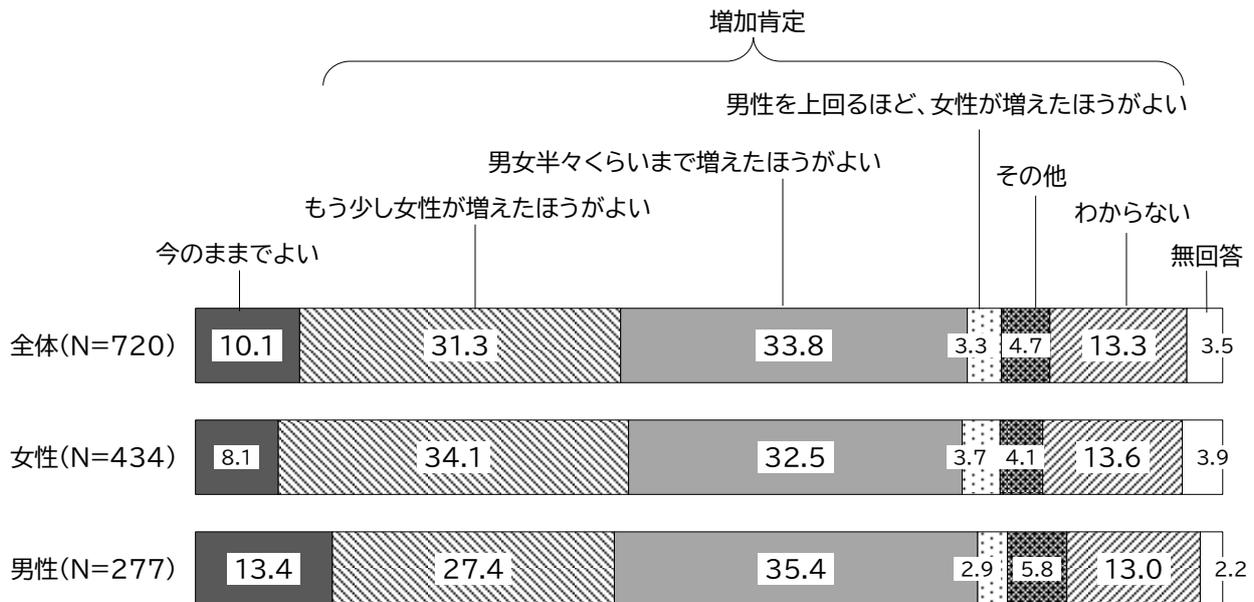
「もう少し女性が増えたほうがよい(31.3%)」と「男女半々くらいまで増えたほうがよい(33.8%)」と「男性を上回るほど女性が増えたほうがよい(3.3%)」をあわせた《増加肯定》は、68.4%となっています。(図表13-1-1)

### 【性別】

性別で見ると、女性は「もう少し女性が増えたほうがよい(女性:34.1%、男性:27.4%)」で男性を6.7%上回っています。一方で、男性は「今のままでよい(女性:8.1%、男性:13.4%)」で女性を5.3%上回っています。

《増加肯定(女性:70.3%、男性:65.7%)》は女性が男性を4.6%上回っています。(図表13-1-1)

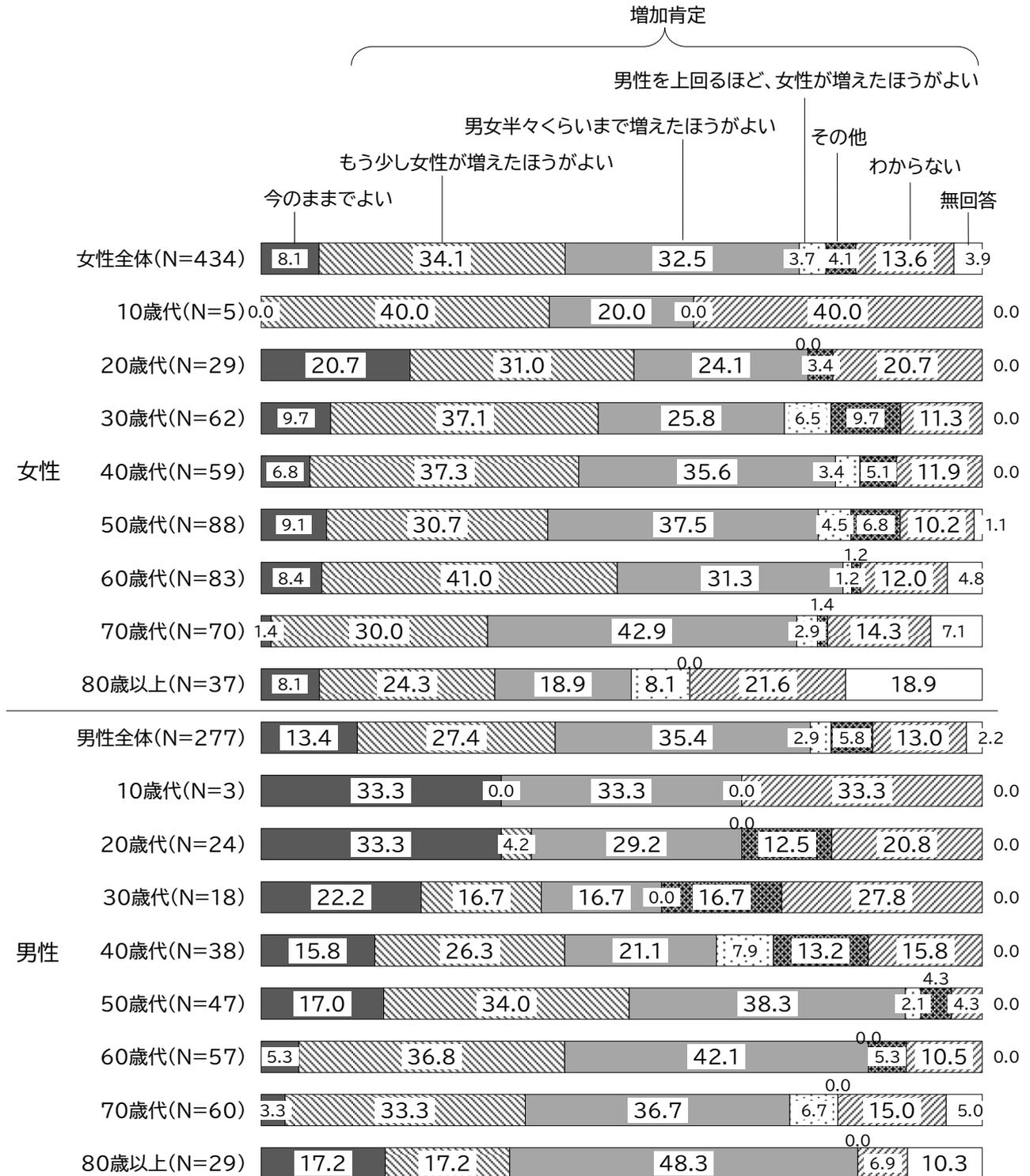
図表 13-1-1 区議会議員等に占める女性議員数の評価 (全体、性別)



**【性・年代別】**

性・年代別にみると、《増加肯定》は、女性の40歳代(76.3%)、50歳代(72.7%)、60歳代(73.5%)、70歳代(75.8%)、男性の50歳代(74.4%)、60歳代(78.9%)、70歳代(76.7%)で7割を超えています。(図表13-1-2)

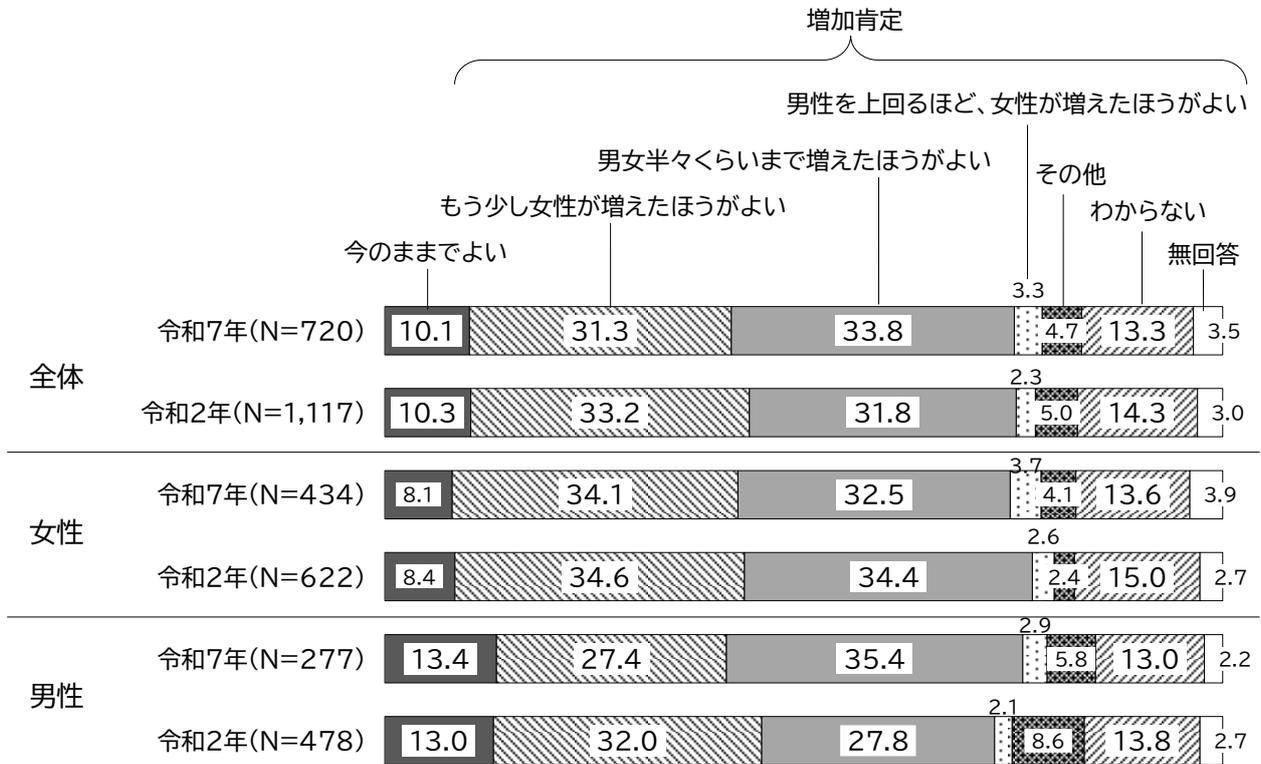
図表 13-1-2 区議会議員等に占める女性議員数の評価 (性・年代別)



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、《増加肯定》では、女性（令和7年調査：70.3%、令和2年調査：71.6%）は1.3%減り、男性（令和7年調査65.7%、令和2年調査：61.9%から65.7%）は3.8%増えています。（図表13-1-3）

図表 13-1-3 区議会議員等に占める女性議員数の評価（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



## (2) 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因

問 25 あなたは議員や審議会委員など政策や方針を決定する過程への女性の参画を妨げているのは、どのようなことだと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

### 【全体】

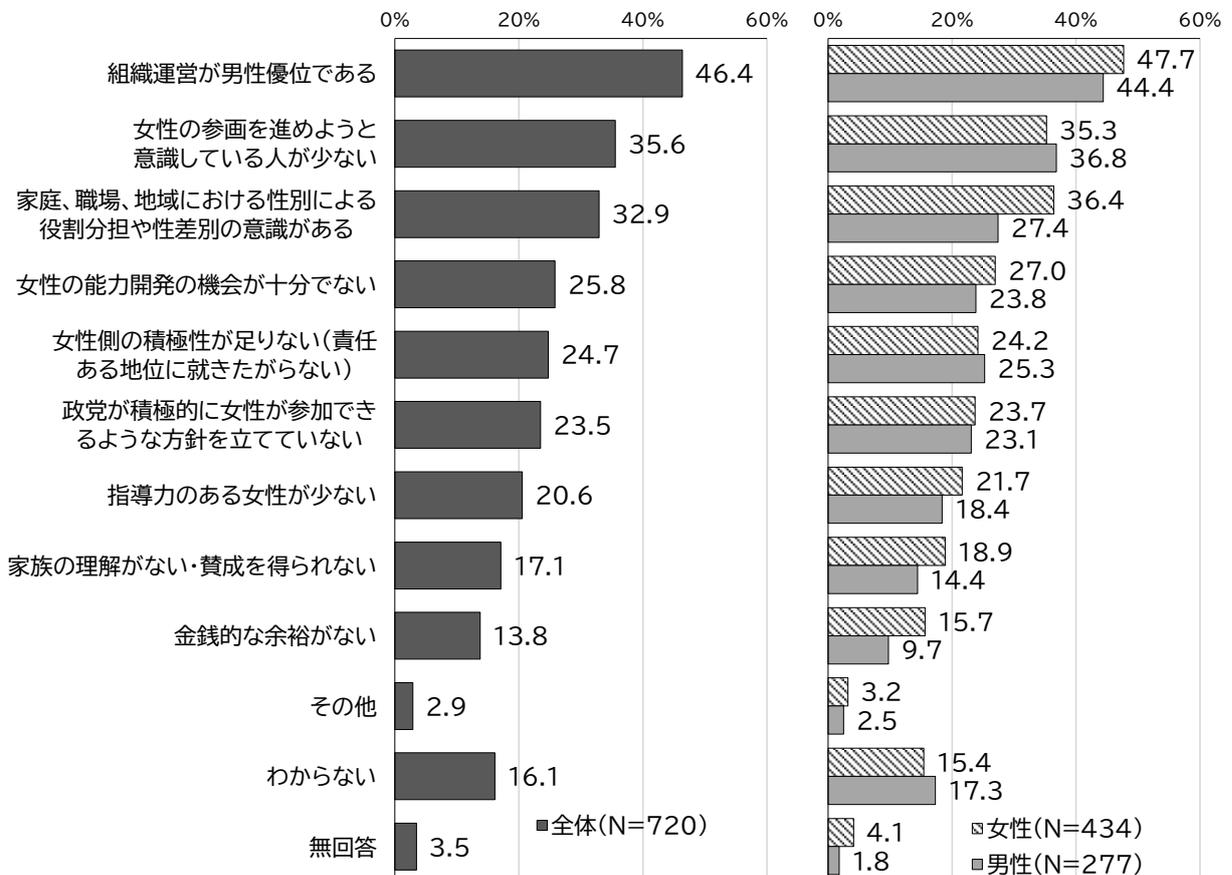
全体では、「組織運営が男性優位である(46.4%)」が最も多く、「女性の参画を進めようと意識している人が少ない(35.6%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある(32.9%)」、「女性の能力開発の機会が十分でない(25.8%)」、「女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない)(24.7%)」が続いています。(図表13-2-1)

### 【性別】

性別でみると、女性は「組織運営が男性優位である(女性:47.7%、男性:44.4%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある(女性:36.4%、男性:27.4%)」がそれぞれ男性よりも3.3%、9.0%上回っています。

男性は「女性の参画を進めようと意識している人が少ない(女性:35.3%、男性:36.8%)」、「女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない)(女性:24.2%、男性:25.3%)」が女性よりも上回っています。(図表13-2-1)

図表 13-2-1 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因 (全体、性別：複数回答)

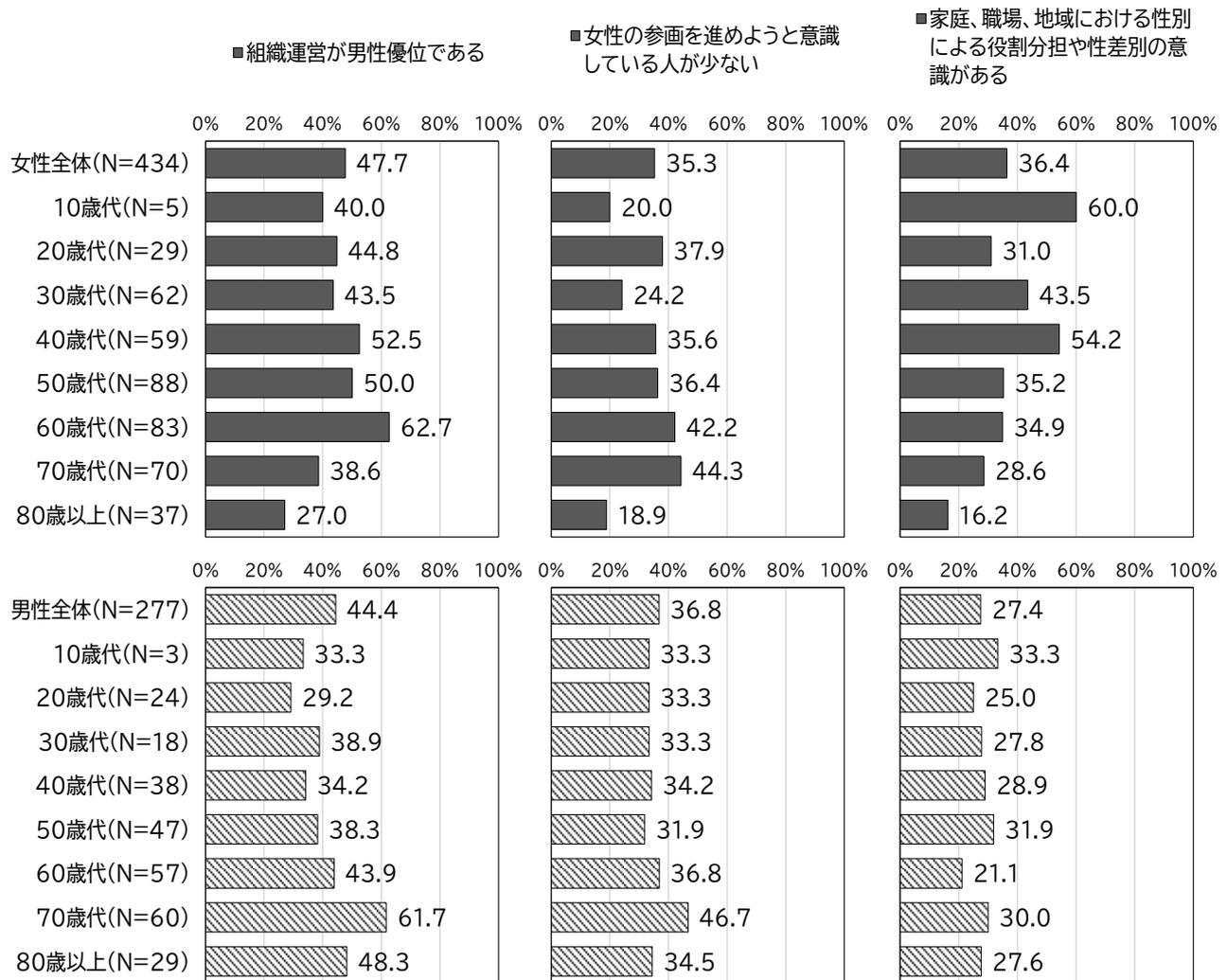


**【性・年代別】**

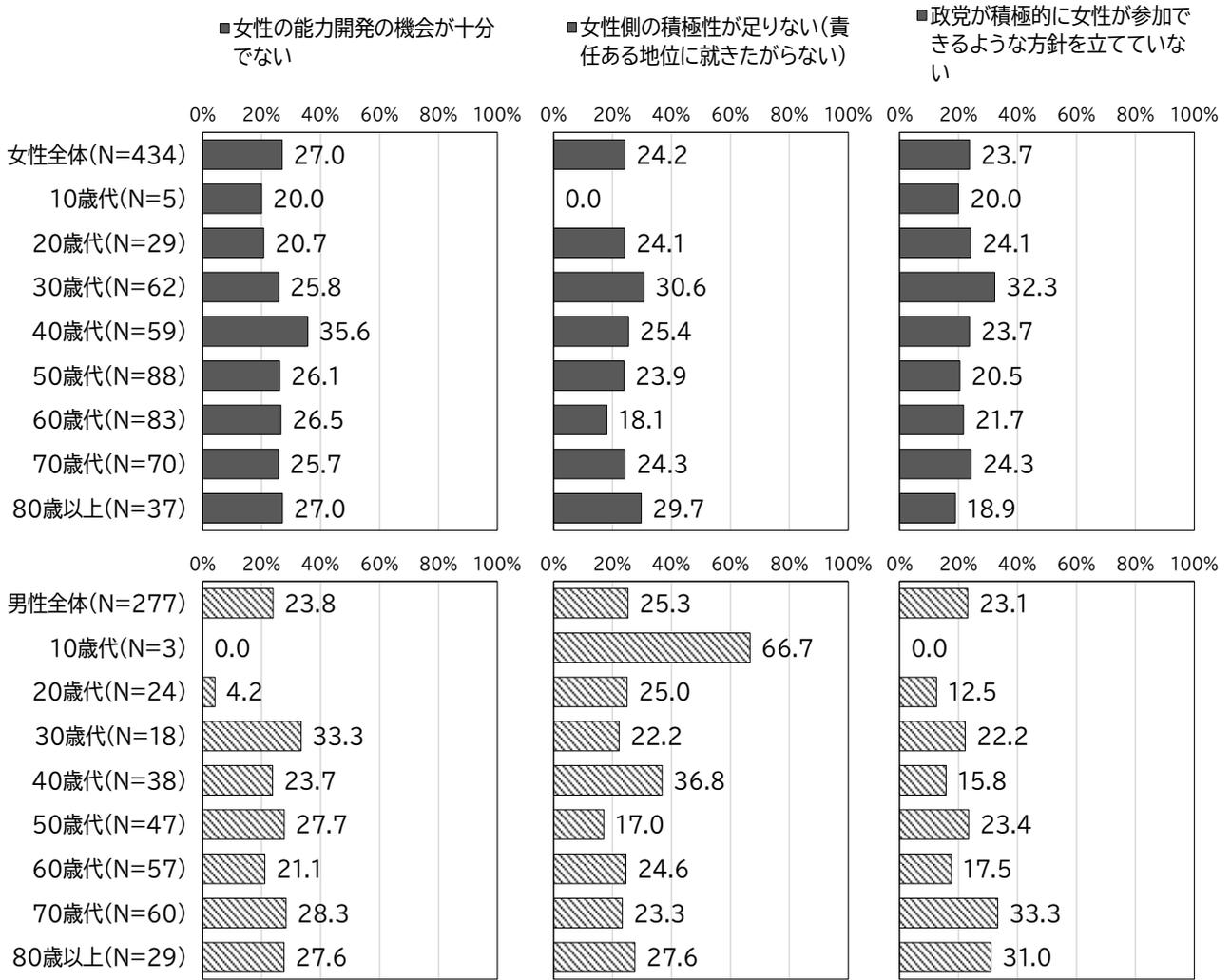
性・年代別にみると、女性は「組織運営が男性優位である」が60歳代(62.7%)で他の年代と比べて多くなっており、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある」が40歳代(54.2%)で多くなっています。

男性は70歳代「組織運営が男性優位である(61.7%)」で他の年代と比べて多くなっており、次いで「女性の参画を集めようと意識している人が少ない(46.7%)」が多くなっています。(図表13-2-2-①、図表13-2-2-②)

図表 13-2-2-① 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



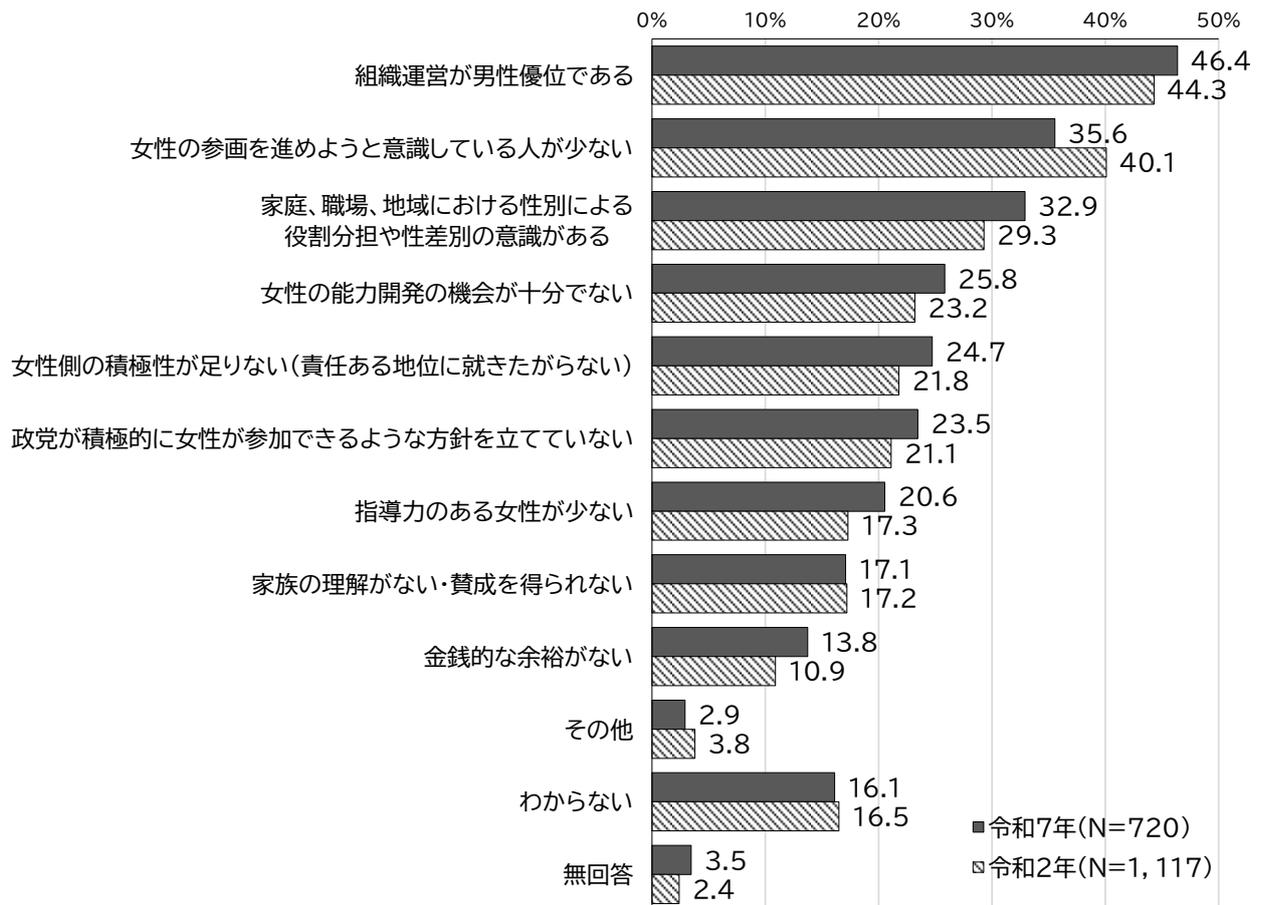
図表 13-2-2-② 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、ほとんどの項目で割合が上回っていますが、「女性の参画を進めようとして意識している人が少ない(令和7年調査:35.6%、令和2年調査:40.1%)」が4.5%減っています。(図表13-2-3)

図表 13-2-3 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因  
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



### (3) 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと

問 26 あなたは政治や行政において企画や方針決定の過程で女性の参画を進めていくためには、どうしたらよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

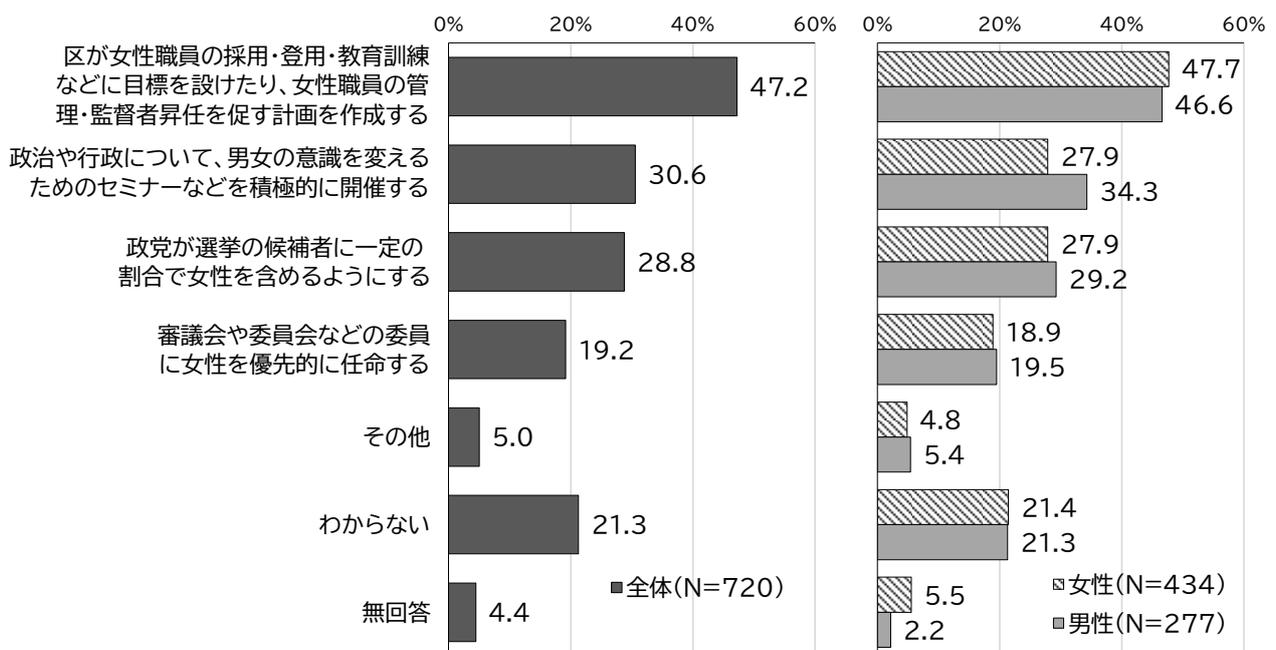
#### 【全体】

全体では、「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する(47.2%)」が最も多く、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する(30.6%)」、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする(28.8%)」が続いています。(図表13-3-1)

#### 【性別】

性別にみても、全体と同様の結果となっています。(図表13-3-1)

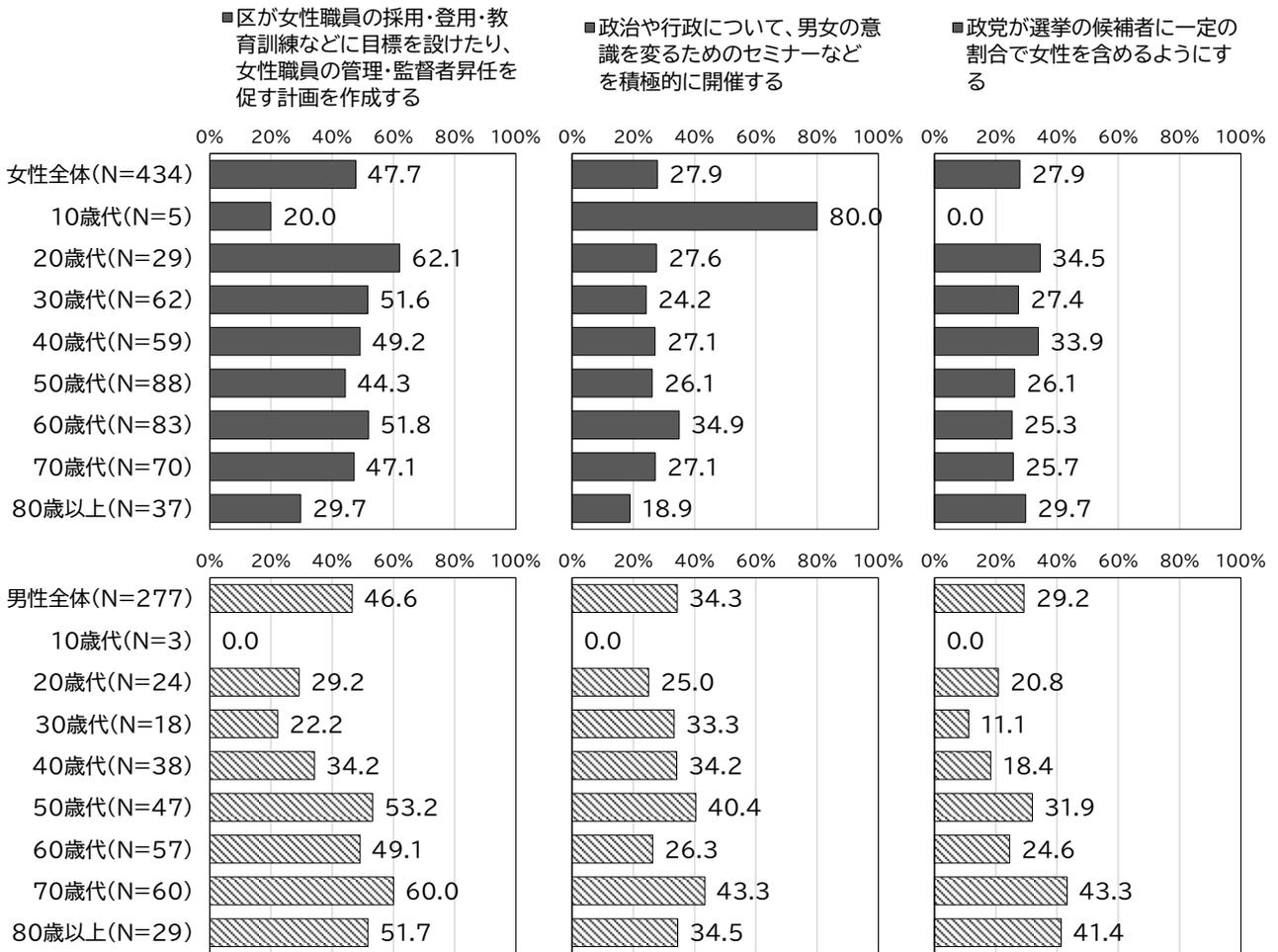
図表 13-3-1 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと (全体、性別)



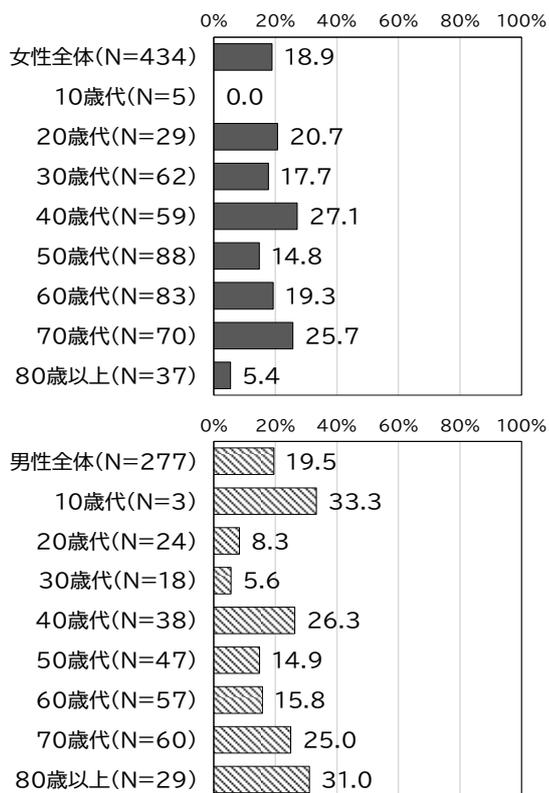
**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する」が20歳代(62.1%)、30歳代(51.6%)、60歳代(51.8%)、男性は50歳代(53.2%)、70歳代(60.0%)、80歳以上(51.7%)で5割以上と多くなっています。(図表13-3-2)

図表 13-3-2 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと（性・年代別、上位5項目：複数回答）



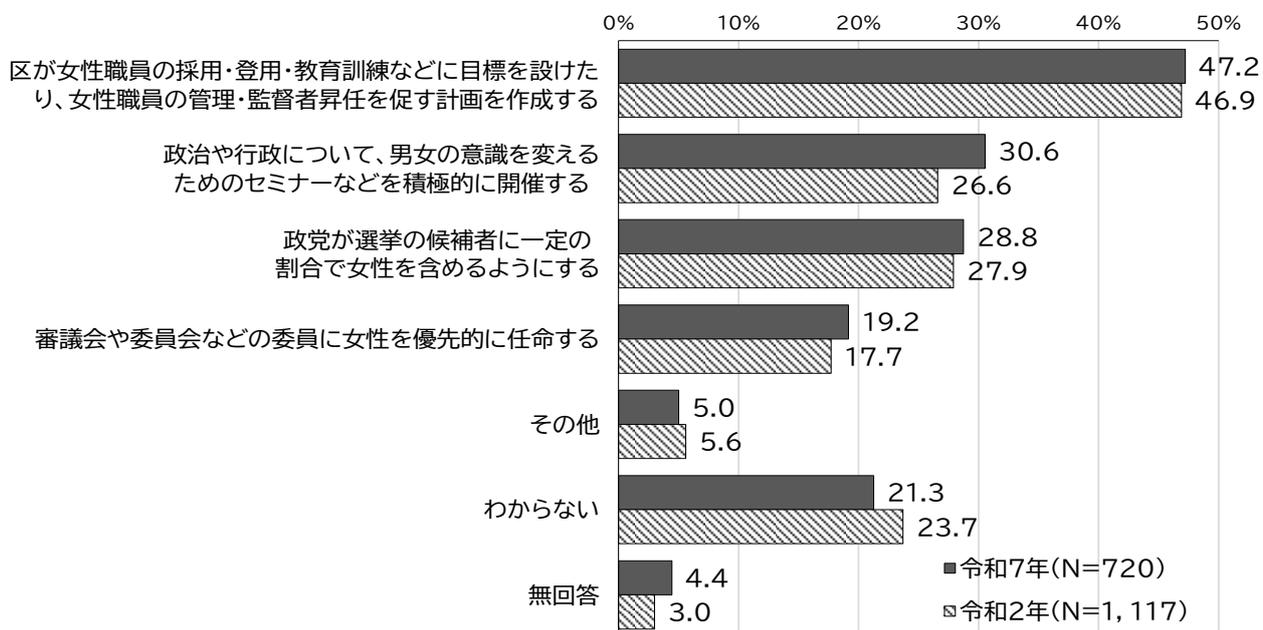
■ 審議会や委員会などの委員に  
女性を優先的に任命する



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する（令和7年調査：30.6%、令和2年調査：26.6%）」が4.0%増えているなど、4つの項目の割合が増えています。（図表13-3-3）

図表 13-3-3 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと  
（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）



# 14 防災

## (1) 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと

問 27 東日本大震災の発生以降、能登半島地震においても日頃の防災活動や災害発生時の避難所生活において、多様な人々の視点に基づく運営が必要だと言われております。あなたは、地域の防災活動や災害時における人々の生活環境の確保に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

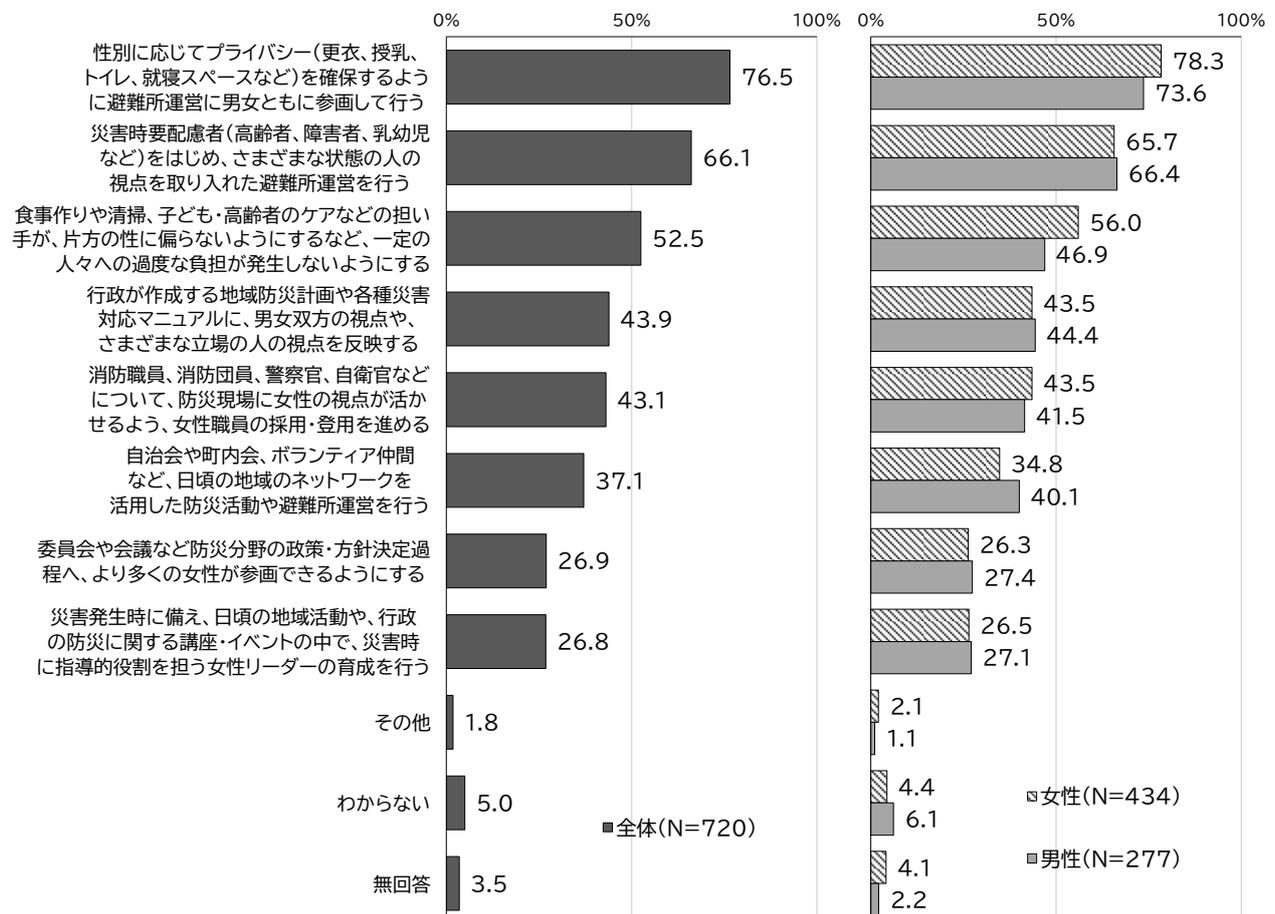
### 【全体】

全体では、「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う(76.5%)」が最も多く、「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う(66.1%)」、「食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする(52.5%)」が続いています。(図表14-1-1)

### 【性別】

性別で見ると、女性は「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う(女性:78.3%、男性:73.6%)」、「食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする(女性:56.0%、男性:46.9%)」で男性を上回っています。(図表14-1-1)

図表 14-1-1 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと  
(全体、性別：複数回答)

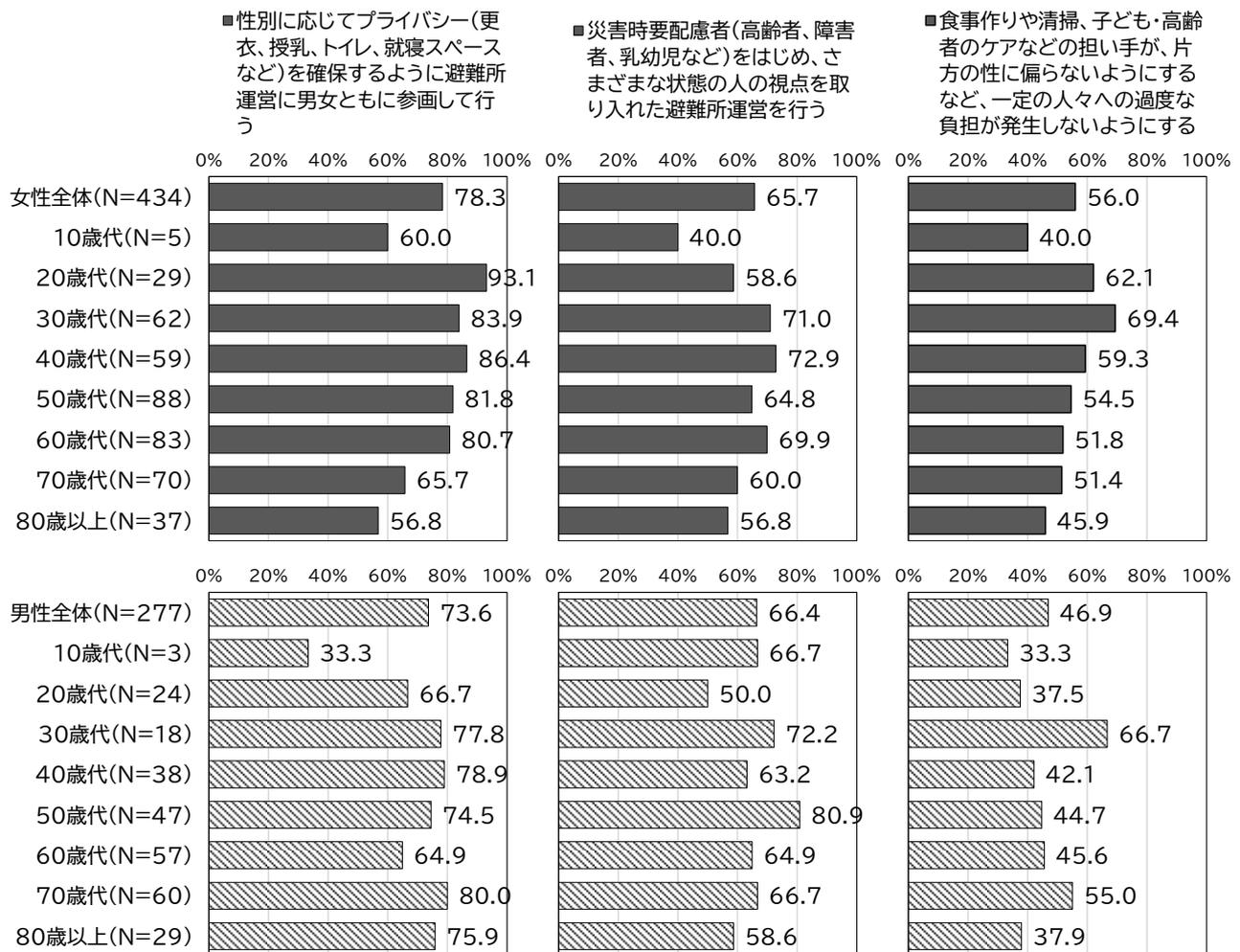


**【性・年代別】**

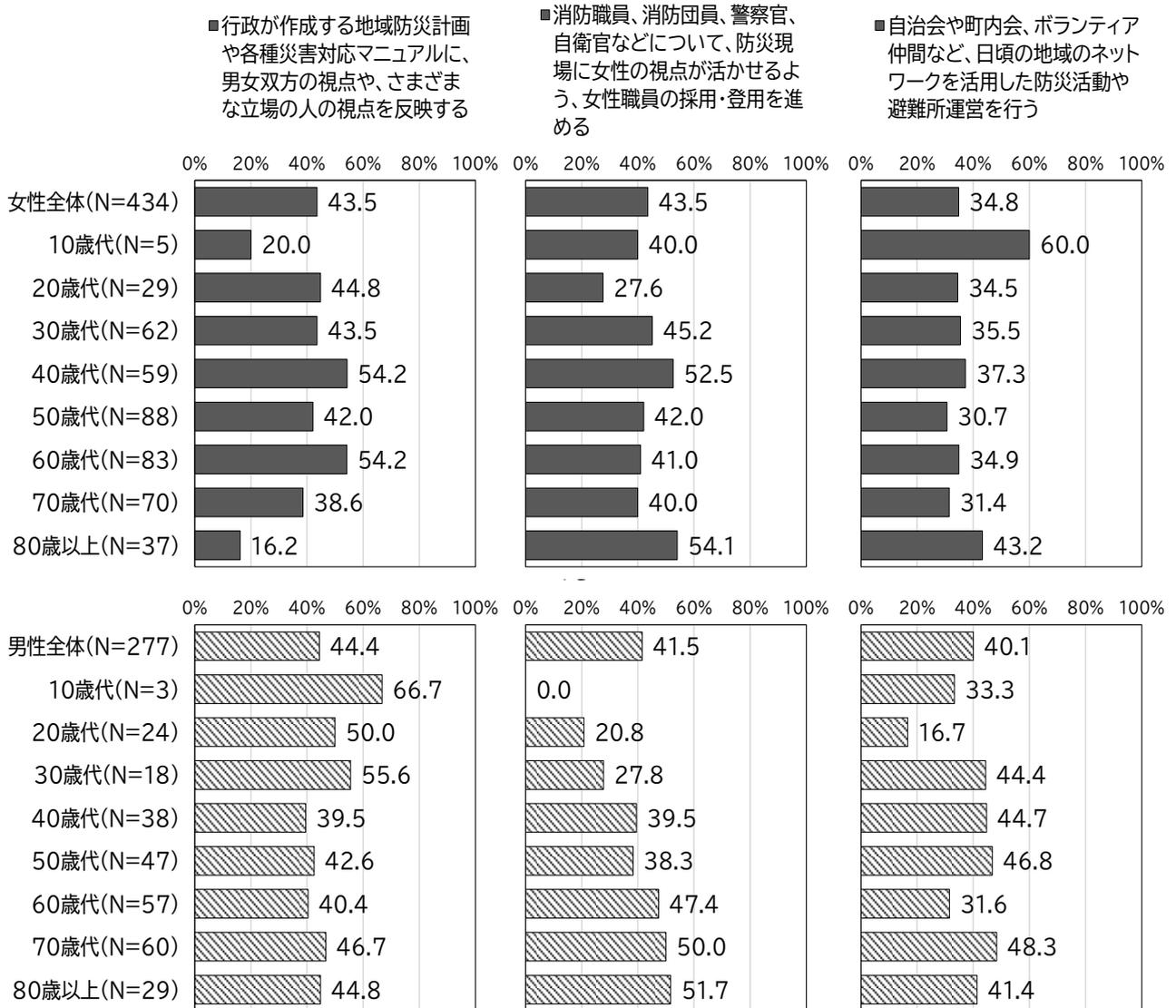
性・年代別にみると、女性は「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う」が20歳代から60歳代(20歳代:93.1%、30歳代:83.9%、40歳代:86.4%、50歳代:81.8%、60歳代:80.7%)で8割以上となっており、特に20歳代は多くなっています。また、「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う」は、30歳代(71.0%)、40歳代(72.9%)で7割以上となっています。

男性は「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う」が30歳代から50歳代、70歳代と80歳以上(30歳代:77.8%、40歳代:78.9%、50歳代:74.5%、70歳代:80.0%、80歳以上:75.9%)で7割を超えています。また、「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う」が30歳代(72.2%)、50歳代(80.9%)で7割以上となっています。(図表14-1-2-①、図表14-1-2-②)

図表 14-1-2-① 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



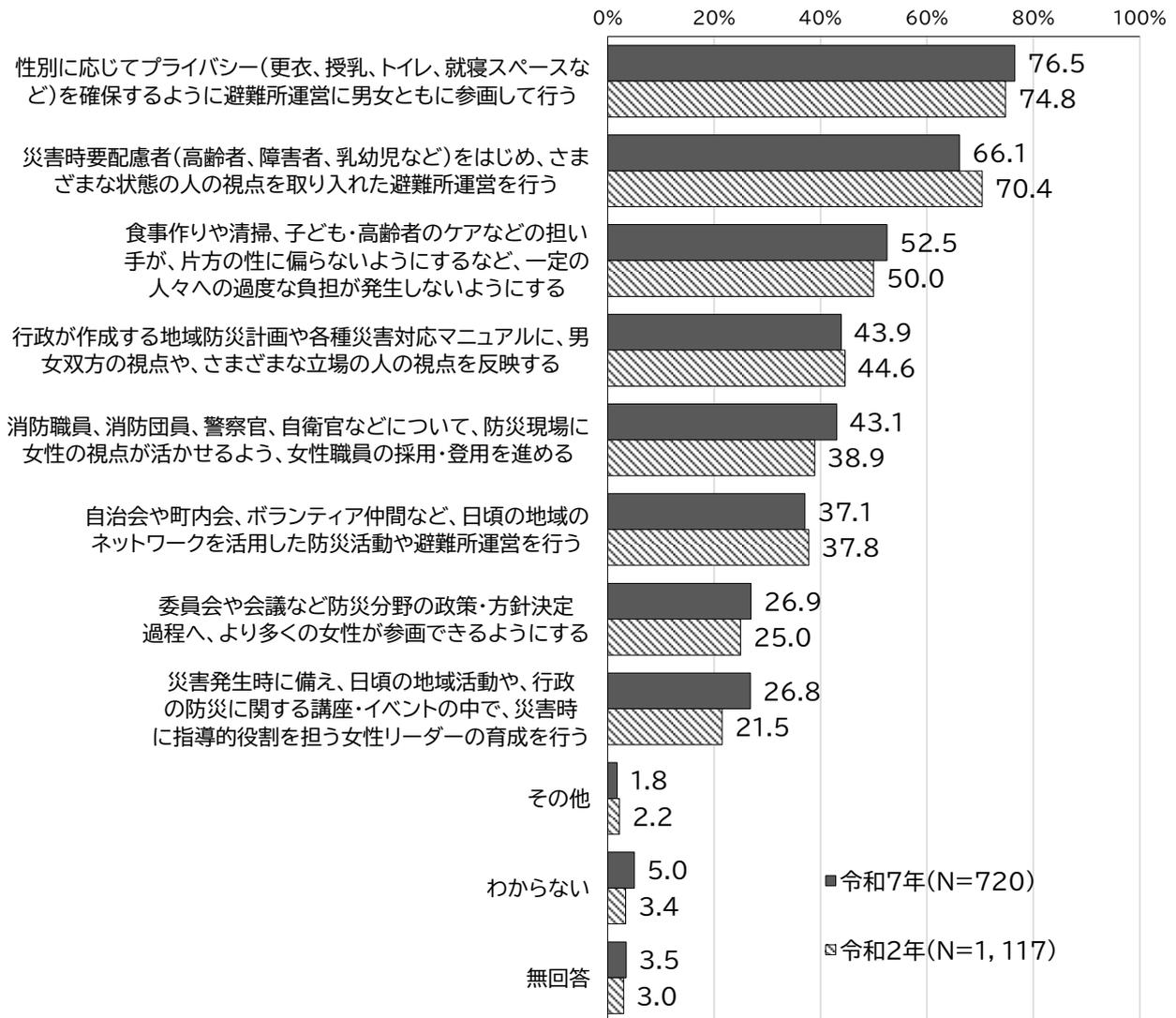
図表 14-1-2-② 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと  
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、傾向に大きな変化はありませんが、「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う(令和7年調査:66.1%、令和2年調査:70.4%)」が4.3%減っています。(図表14-1-3)

図表 14-1-3 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと  
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



## 15 施策や制度など

### (1) 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況

問 28 「葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)」は、誰もが自分らしく生きていける男女平等社会の実現を目指す、学びと交流の場です。あなたは、葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)を知っていますか。(○は1つだけ)

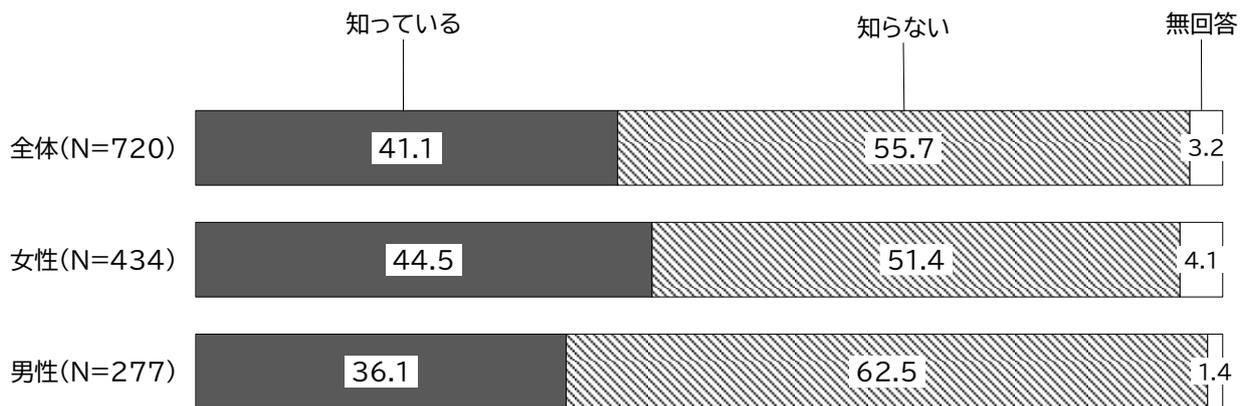
#### 【全体】

全体では、「知っている」が41.1%、「知らない」が55.7%となっています。(図表15-1-1)

#### 【性別】

性別で見ると、女性は「知らない(51.4%)」が「知っている(44.5%)」よりも多くなっています。男性は「知らない(62.5%)」が6割を超えています。(図表15-1-1)

図表 15-1-1 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（全体、性別）

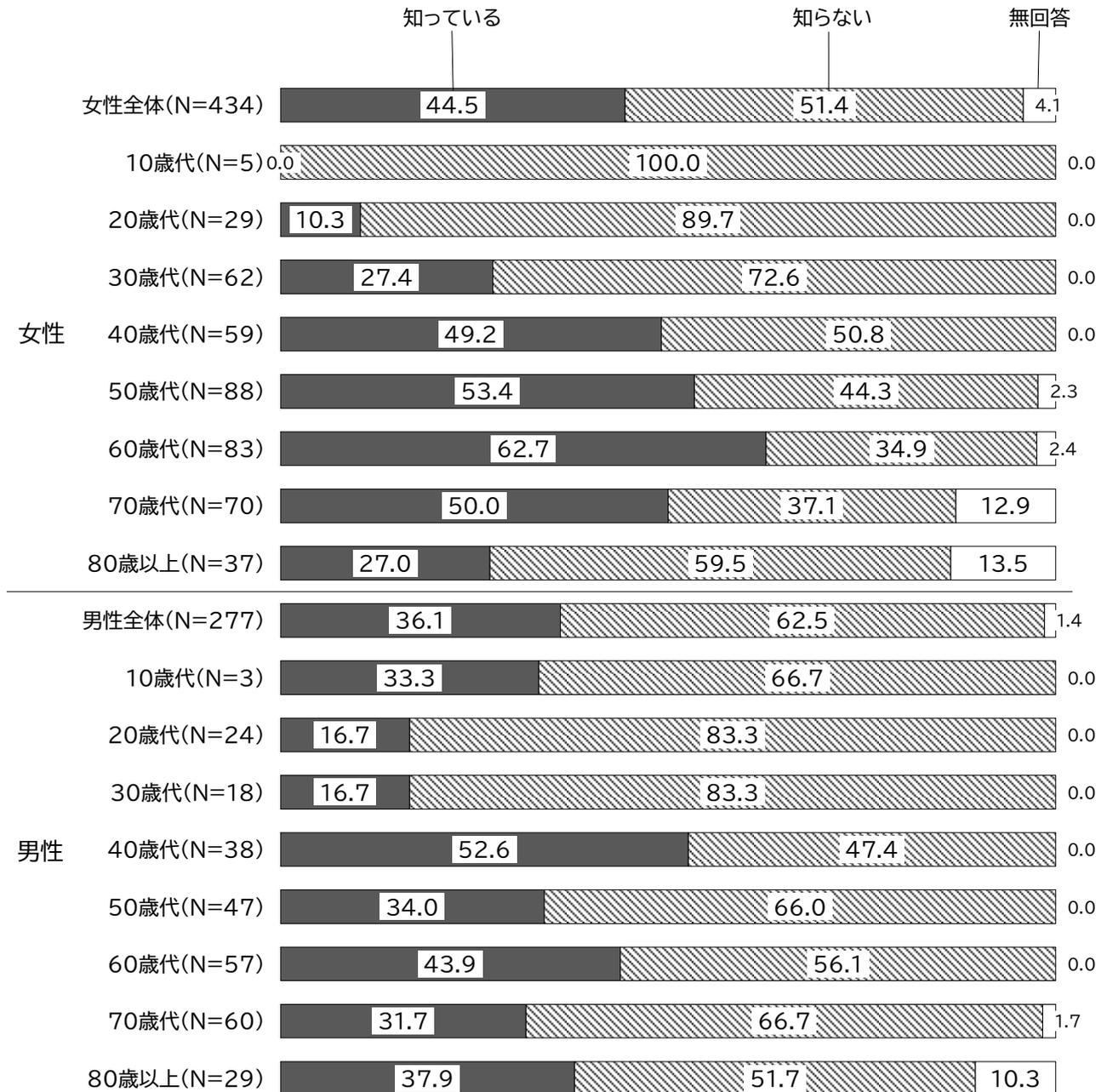


**【性・年代別】**

性・年代別にみると、女性は「知っている」が50歳代から70歳代(50歳代:53.4%、60歳代:62.7%、70歳代:50.0%)で5割を超え、特に60歳代は多くなっています。

男性は「知っている」が40歳代(52.6%)が多くなっています。(図表15-1-2)

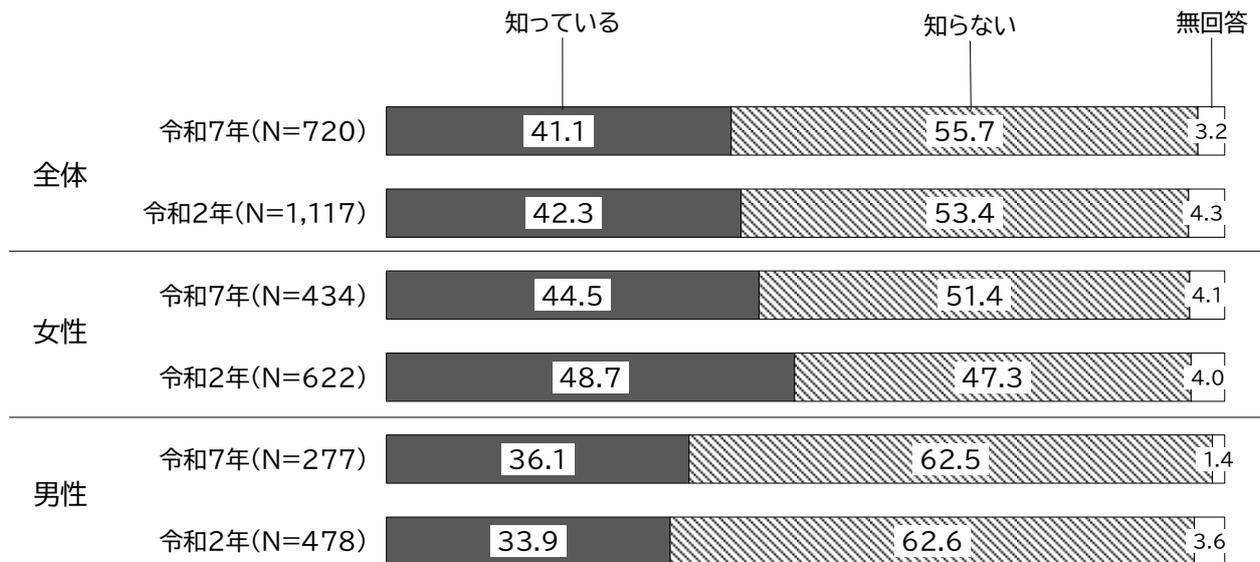
図表 15-1-2 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（性・年代別）



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「知っている(令和7年調査:41.1%、令和2年調査:42.3%)」は令和2年調査よりも1.2%減っています。性別で見ると、「知っている」が女性(令和7年調査:44.5%、令和2年調査:48.7%)では4.2%減り、男性(令和7年調査:36.1%、令和2年調査:33.9%)では2.2%増えています。(図表15-1-3)

図表 15-1-3 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況  
(全体、性別、令和7年・令和2年調査)



## (2) 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向

問 29 葛飾区男女平等推進センターにおいて、あなたが参加または利用してみたいものはどれですか。(○はあてはまるものすべて)

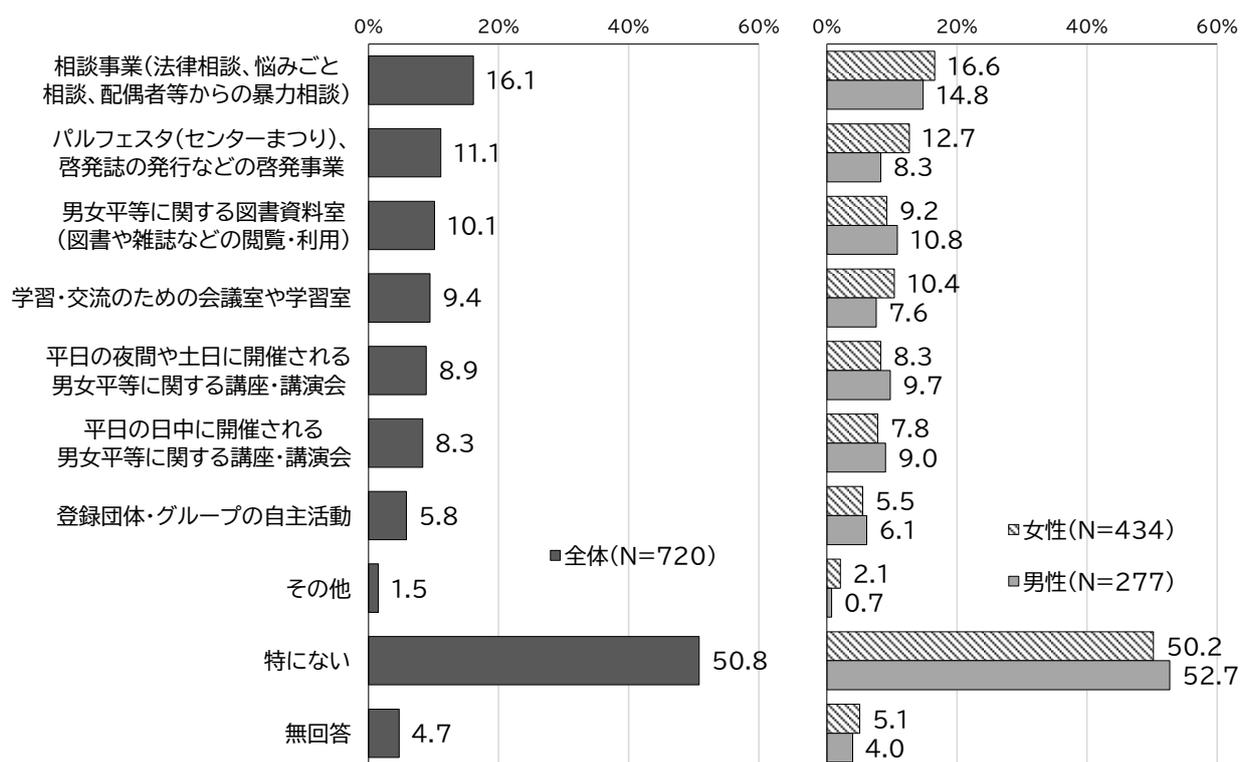
### 【全体】

全体では、「特にない(50.8%)」が最も多く、「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)(16.1%)」、「パルフェスタ(センターまつり)、啓発誌の発行などの啓発事業(11.1%)」、「男女平等に関する図書資料室(図書や雑誌などの閲覧・利用など)(10.1%)」が続いています。(図表15-2-1)

### 【性別】

性別で見ると、男女ともに「特にない(女性:50.2%、男性:52.7%)」が最も多く、次いで「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)(女性:16.6%、男性:14.8%)」となっています。(図表15-2-1)

図表 15-2-1 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向 (全体、性別：複数回答)

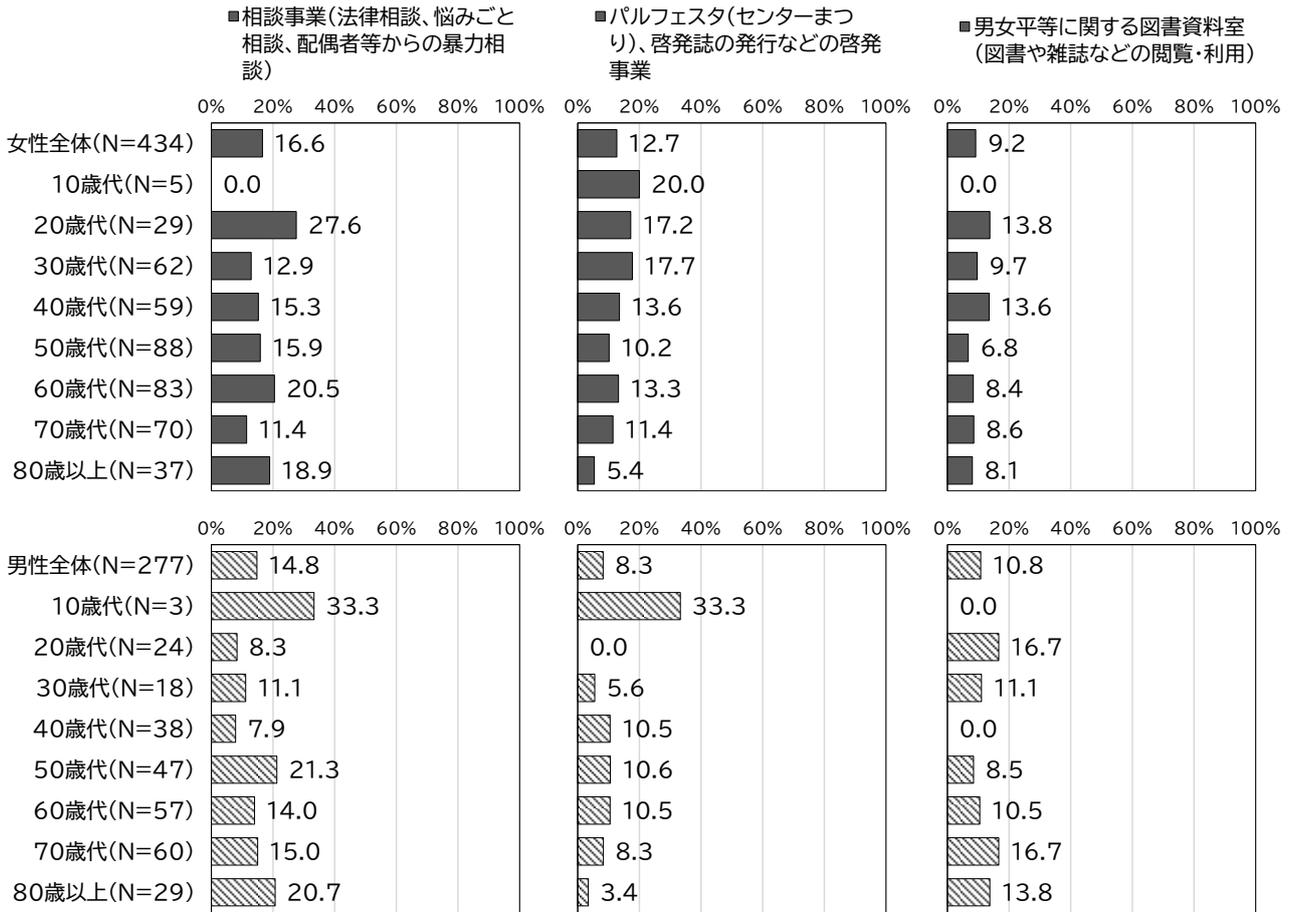


**【性別】**

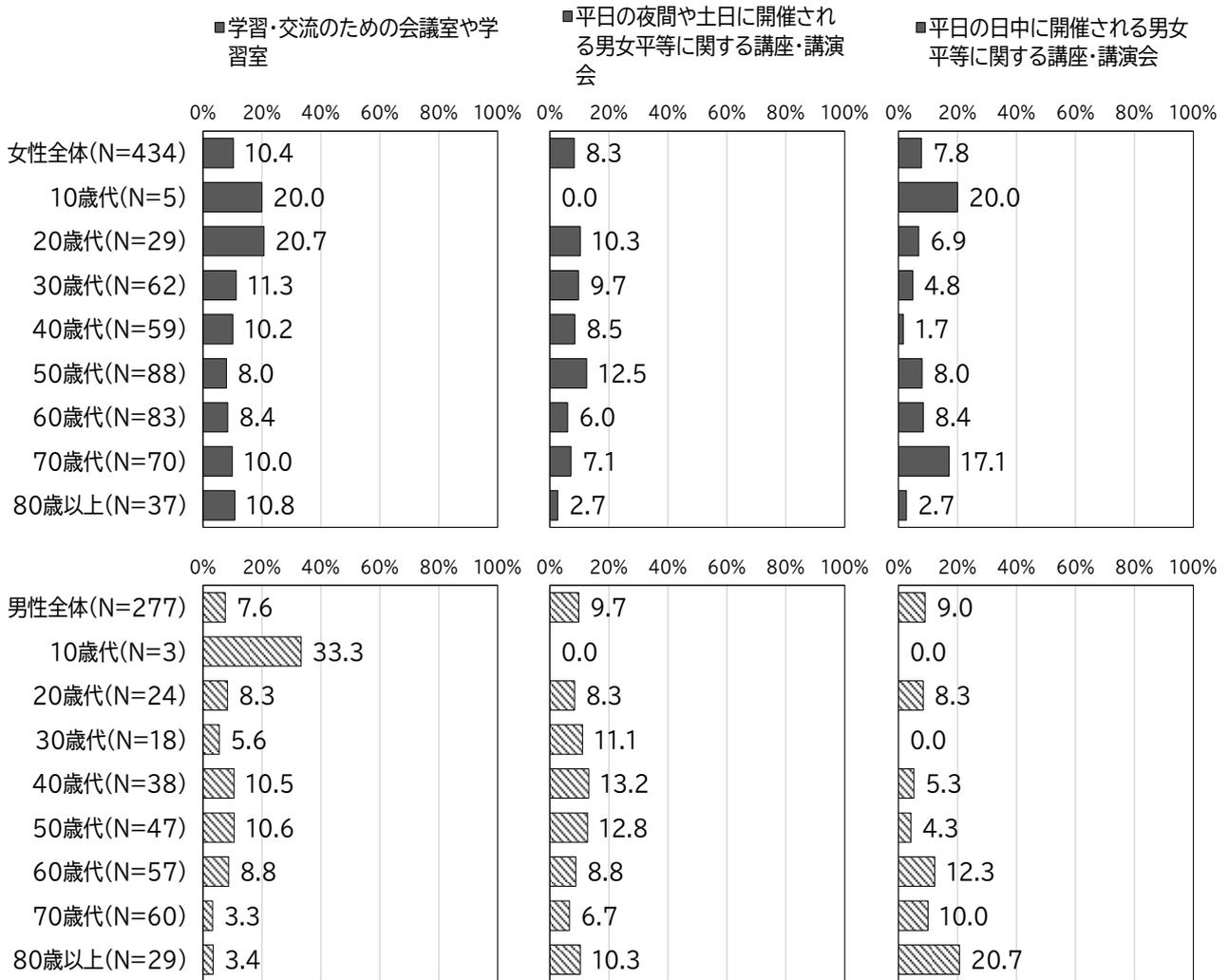
「特にない」を除いた性・年代別にみると、女性は「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)」が20歳(27.6%)、60歳代(20.5%)で他の年代に比べて多くなっています。

男性は「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)」が50歳代(21.3%)、80歳以上(20.7%)で他の年代に比べて多くなっています。(図表15-2-2-①、図表15-2-2-②)

図表 15-2-2-① 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向  
(性・年代別、「特にない」を除く上位6項目：複数回答)



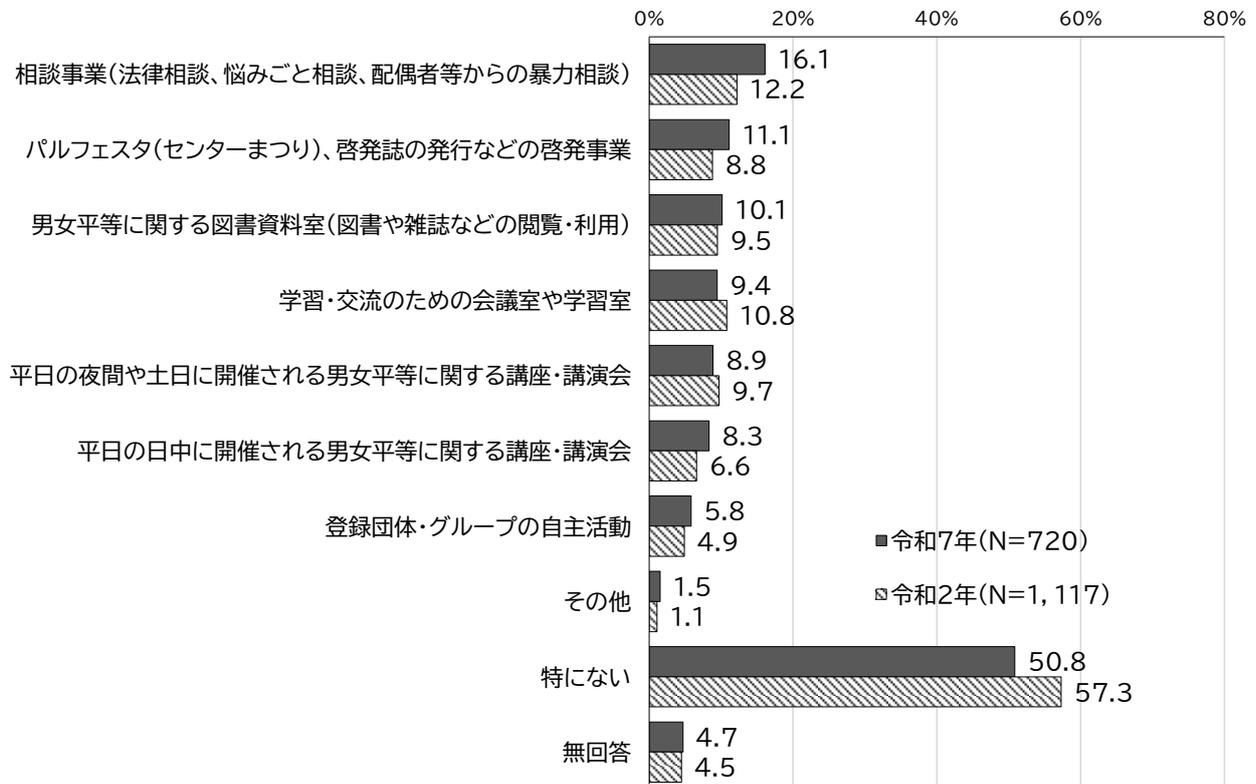
図表 15-2-2-② 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向  
 (性・年代別、「特にない」を除く上位6項目：複数回答)



**【令和2年調査との比較】**

令和2年調査と比較すると、「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)(令和7年調査:16.1%、令和2年調査:12.2%)」が3.9%増えています。(図表15-2-3)

図表 15-2-3 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向  
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



### (3) 男女平等社会実現のために充実すべき施策

問 30 あなたは男女平等社会を実現するために、今後、区ではどのような施策を充実したらよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

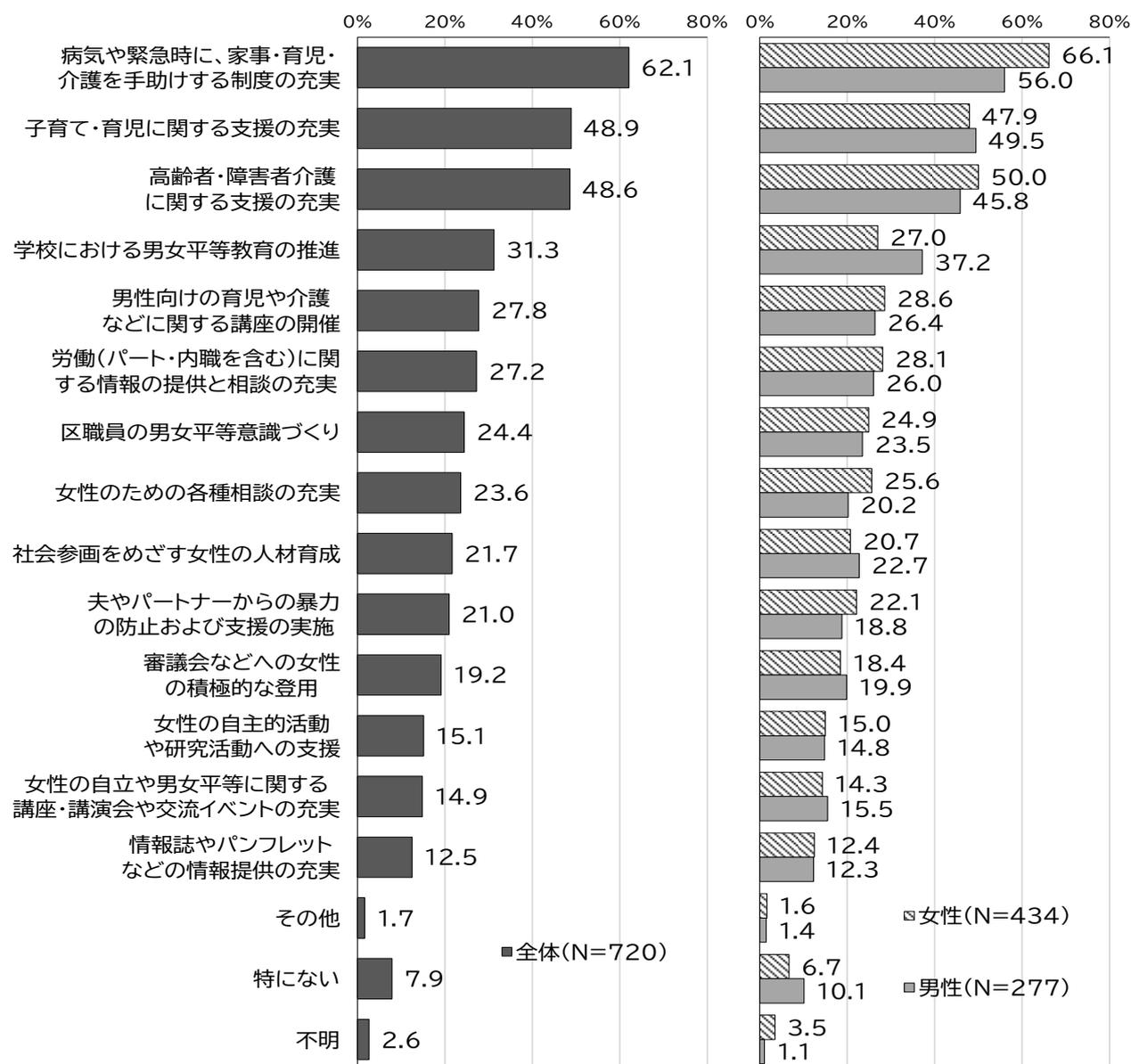
#### 【全体】

全体では、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(62.1%)」が最も多く、「子育て・育児に関する支援の充実(48.9%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(48.6%)」が続いています。(図表15-3-1)

#### 【性別】

性別でみると、男女ともに「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(女性:66.1%、男性:56.0%)」が最も多く、次いで、女性は「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(50.0%)」、「子育て・育児に関する支援の充実(47.9%)」が続いています。男性は「子育て・育児に関する支援の充実(49.5%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(45.8%)」が続いています。(図表15-3-1)

図表 15-3-1 男女平等社会実現のために充実すべき施策（全体、性別：複数回答）

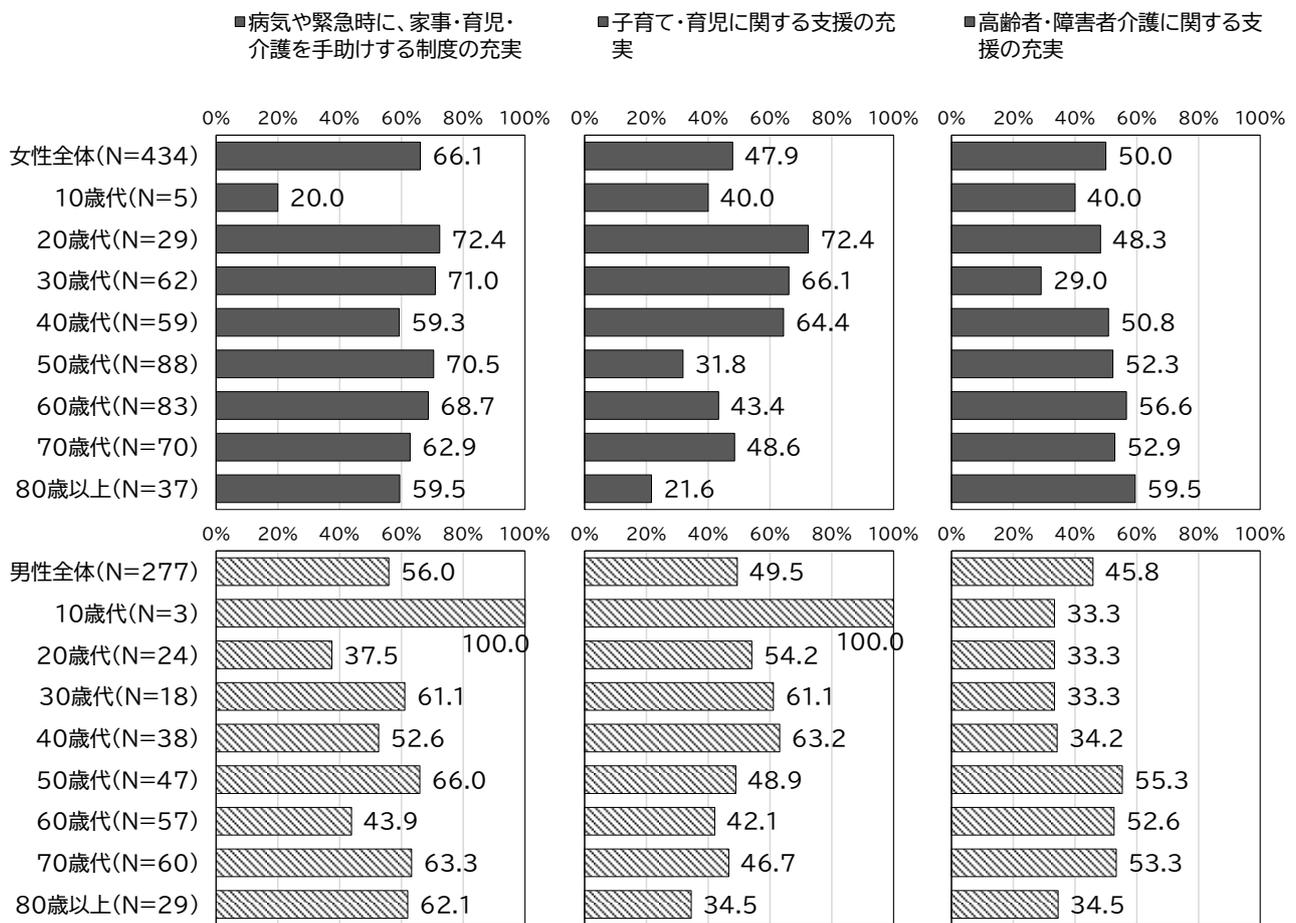


**【性・年代別】**

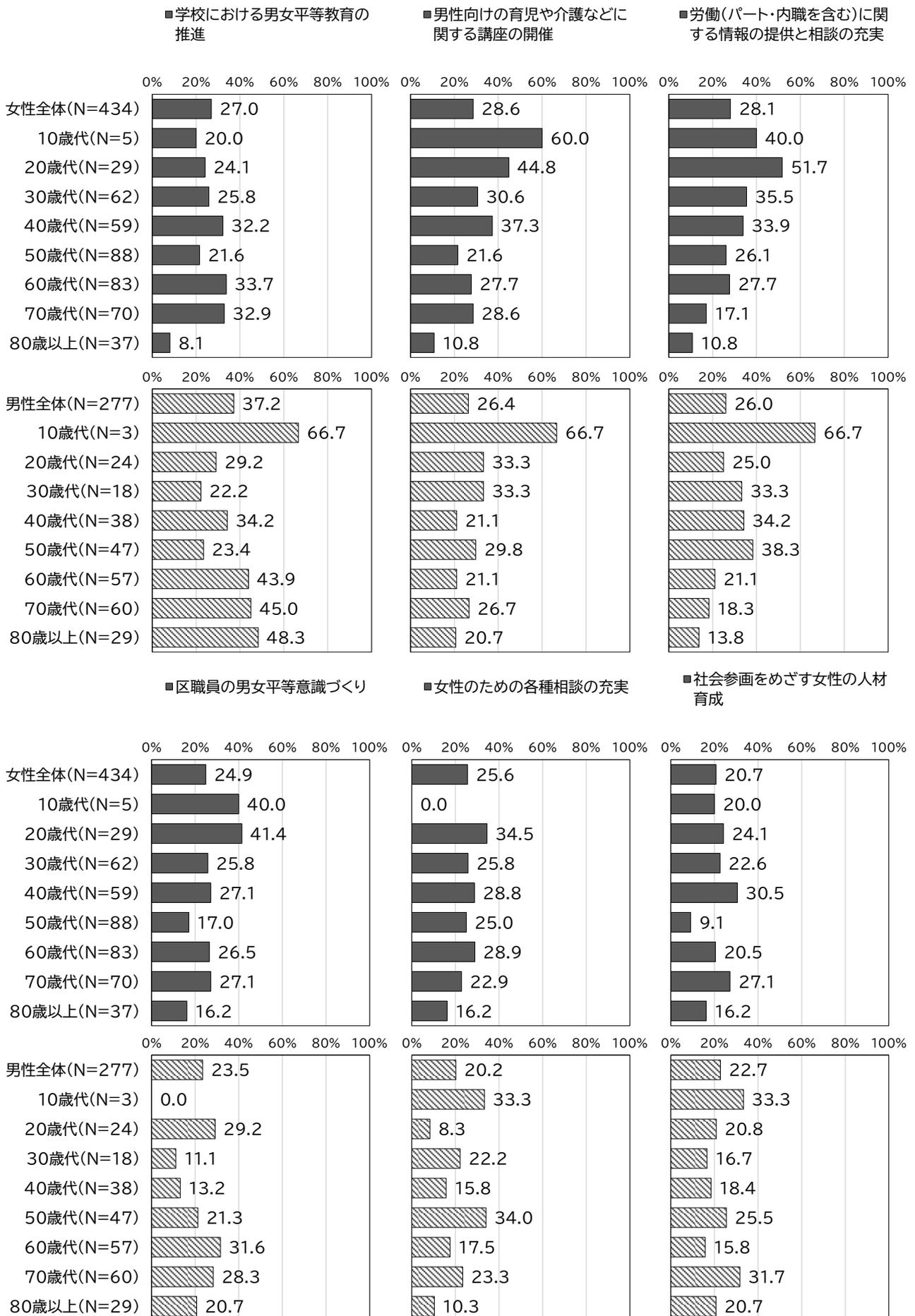
性・年代別にみると、女性は「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実」が20歳代(72.4%)、30歳代(71.0%)、50歳代(70.5%)で7割を超えており、特に20歳代が多くなっています。また、「子育て・育児に関する支援の充実」が20歳代から40歳代(20歳代:72.4%、30歳代:66.1%、40歳代:64.4%)で6割以上となっています。

男性は「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実」では30歳代(61.1%)、50歳代(66.0%)、70歳代(63.3%)、80歳以上(62.1%)が6割以上となっており、「子育て・育児に関する支援の充実」では30歳代(61.1%)、40歳代(63.2%)で6割以上と他の年代に比べて多くなっています。(図表15-3-2-①、図表15-3-2-②)

図表 15-3-2-① 男女平等社会実現のために充実すべき施策（性・年代別、上位9項目：複数回答）



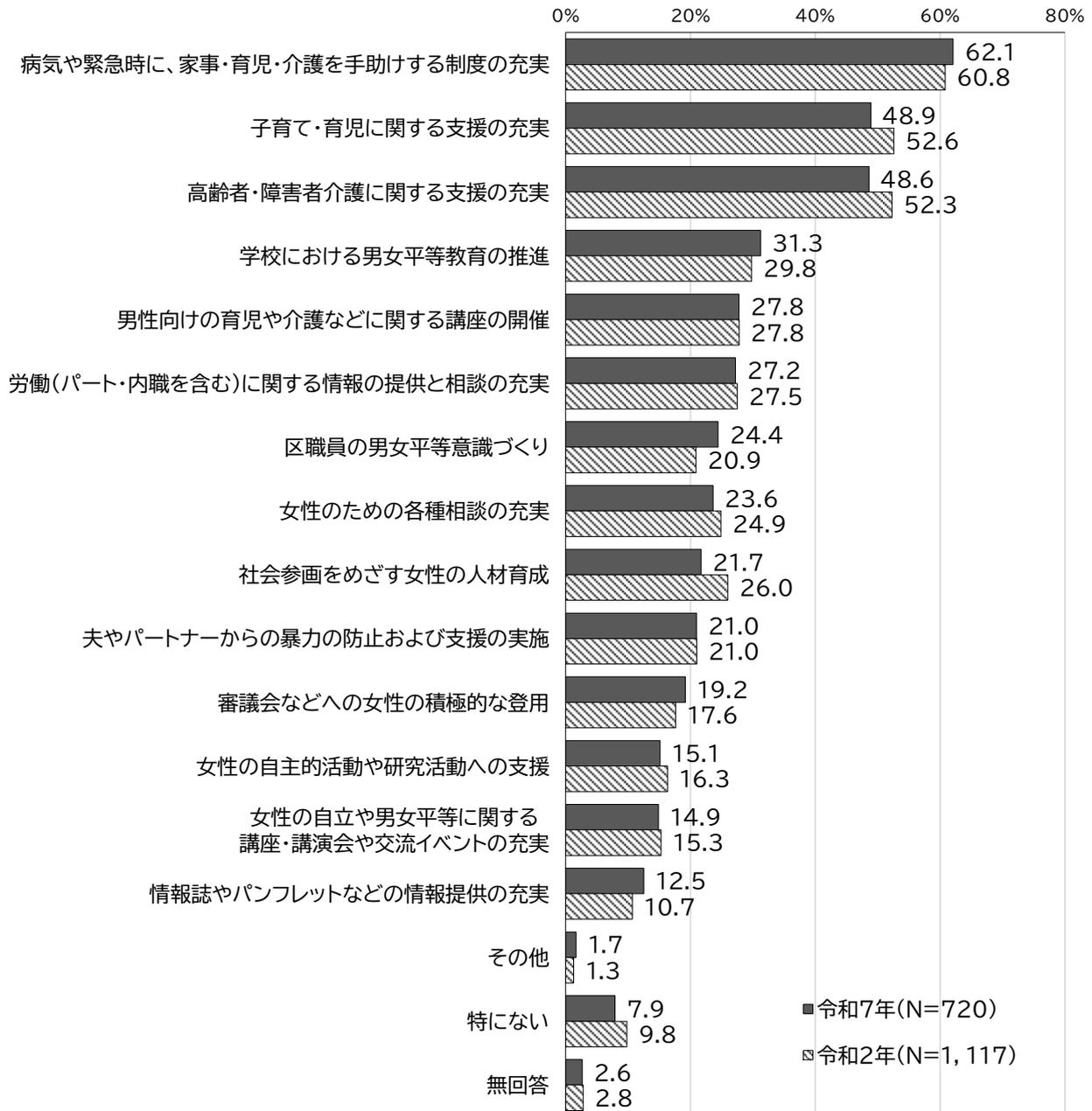
図表 15-3-2-② 男女平等社会実現のために充実すべき施策（性・年代別、上位9項目：複数回答）



## 【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、令和7年調査、令和2年調査ともに、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(令和7年調査:62.1%、令和2年調査:60.8%)」、「子育て・育児に関する支援の充実(令和7年調査:48.9%、令和2年調査:52.6%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(令和7年調査:48.6%、令和2年調査:52.3%)」の3項目が他の項目と比べて多くなっています。(図表15-3-3)

図表 15-3-3 男女平等社会実現のために充実すべき施策（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）



## 16 自由回答

### (1) 葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望

問 31 葛飾区の男女平等・共同参画施策全般についてのご意見・ご要望を自由にご記入ください。〈自由回答〉

区の男女平等・共同参画施策全般に対する意見については、149人(女性91人、男性56人、性別未回答2人)からご回答をいただきました。意見・要望内容について、以下のとおりまとめました。

#### 【意見まとめ】

##### 男女平等の意識・価値観の変化と課題認識

---

- 「男女平等は当然のこと」「個人の能力が大事」「男女という区分自体が時代遅れ」
- 「男女平等という言葉に違和感」「過剰な平等は逆差別になる」
- 「男女平等は数合わせではなく、機会の平等が重要」
- 「男女平等を言う時点で平等ではない」「女性自身の意識改革も必要」

##### 制度・政策への提案・要望

---

- 災害時の女性視点を取り入れた避難所運営(衛生管理・情報伝達)
- 国民年金の第3号被保険者制度の見直し、女性の経済的自立支援
- シニア女性の参画に報酬を出す制度の提案
- 区報やセミナーでの制度周知の強化
- 区の広報物の世帯単位表記の見直し

##### 家庭・子育て・介護に関する意見

---

- 家事・育児における男性の参加増加とその定着への期待
- 学童保育の不足、始業時間との不一致による退職
- 子育てと仕事の両立困難、保育、学童の充実要望
- 介護と就労の両立支援(制度と職場理解の必要性)

##### 職場・就労に関する課題

---

- セクハラ・パワハラを経験と意識変革の必要性
- 女性の就労継続の困難さ(体調、育児、制度の不備)
- パート・アルバイトの定義の曖昧さ、就労選択の難しさ
- ワーク・ライフ・バランス設問の分かりづらさ

##### 教育・啓発・情報発信

---

- 幼少期からの多様性・個人尊重の教育の必要性
- 興味のない人にも届く情報発信の工夫(パンフレット以外の手法)
- 男女平等に関するセミナーや研修の充実
- 「区の取り組みが住民に伝わっていない」という指摘

## 高齢者、障害者、弱者への配慮

---

- 高齢者、障害者への支援強化の要望
- 高齢者の視点からの男女平等への期待と応援
- 福祉窓口での対応に対する不満と改善要望(思いやりの欠如)
- 生活保護受給者への偏見や差別的対応への懸念

## 多様性・人権・社会全体への視点

---

- 外国籍住民やLGBTQ+への配慮と共生の必要性
- 社会的弱者への支援と尊重の重要性
- 差別的な風潮や政治的発言への懸念
- 「男社会」や「無意識の偏見」への問題提起

## その他、アンケートや行政への意見等

---

- 設問の表現や選択肢への疑問・改善提案
- アンケート結果の公表希望
- 実態調査の意義や効果に対する懐疑的な意見
- 区の取り組みへの評価と今後への期待
- 区の取り組みへの励ましや感謝の言葉
- 回答を通じて考えるきっかけになったという声
- 「がんばってください」などの激励

第4章 葛飾区男女平等に関する意識と  
実態調査票(令和7年度)

# 葛飾区男女平等に関する意識と実態調査

調査ご協力をお願い

区民の皆さまには、日頃から区政に対し、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

本区では、平成16年3月に「葛飾区男女平等推進条例」を制定し、女性も男性も性別にとらわれることなく、自らの人生は自らが決めるといふ、自分らしく生きる権利が保障される男女平等社会の実現を目指してさまざまな施策に取り組んでいるところです。

このたび「葛飾区男女平等推進計画（第7次）」の策定にあたり、区民の皆さまのご意見・ご要望を反映させていくために、「葛飾区男女平等に関する意識と実態調査」を行うことになりました。

調査の対象には、住民基本台帳から無作為に満15歳以上の男女3,000人の皆さまを選ばせていただきました。調査結果はすべて統計的処理をいたしますので、個人が特定されることはありません。この調査目的にのみ使用し、他の目的で使われることは一切ございません。

回答に必要な時間は20分程度です。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年7月

葛飾区 総務部人権推進課

ご記入にあたってのお願い

ご回答は、郵送またはインターネットによるいずれかの方法で7月25日（金）までに  
投函または送信をお願いいたします。

## 郵送での回答方法

- 1 ご回答は、あなた様（封筒の宛名ご本人）ご自身で6月1日現在を基準にお答えください。
- 2 ご記入は、黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いします。
- 3 ご回答は、質問ごとにあてはまる番号に○をつけてください。
- 4 回答数は（ ）内の指示に沿ってください。
- 5 質問によっては、回答していただく方が限られる場合があります。矢印や「ことわり書き（問～で～とお答えの方に）」をよくお読みください。
- 6 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。



## インターネットでの回答方法

〔回答専用サイト〕 <https://katsushika.qkr.jp/Q/auto/ja/k/g/>

- 1 本調査は、スマートフォンやパソコンからでも回答できます。 ID : kg10001
- 2 別紙「インターネットで回答される方へ」をご確認ください。 パスワード : 9oipf6

■調査についてのお問い合わせ先 葛飾区 総務部人権推進課 男女平等推進係

電話 5698-2211 FAX 5698-2315

◎はじめに、ご回答を統計的に分析するために、失礼ですが、現在のあなた自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別をお答えください。(〇は1つだけ)

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. 未回答 |
|-------|-------|--------|

F 2 あなたの年齢はおいくつですか。(令和7年6月1日現在) (〇は1つだけ)

- |         |         |         |           |
|---------|---------|---------|-----------|
| 1. 10歳代 | 3. 30歳代 | 5. 50歳代 | 7. 70歳代   |
| 2. 20歳代 | 4. 40歳代 | 6. 60歳代 | 8. 80歳代以上 |

F 3 あなたは結婚していますか。(〇は1つだけ)

- |                                   |                    |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1. 結婚している                         | 4. 結婚していたが、離別・死別した |
| 2. 結婚していないが同居の異性のパートナーがいる(事実婚を含む) | 5. 結婚していない         |
| 3. 結婚していないが同居の同性のパートナーがいる         |                    |

(F 3で1～3のいずれかをお選びの方に)

F 3-1 あなたの世帯は、共働きですか。(〇は1つだけ)

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| 1. 共働き       | 3. 配偶者・パートナーだけ働いている |
| 2. 自分だけ働いている | 4. とともに働いていない       |

ここからは再び、すべての方におたずねします。

F 4 お子さんはいらっしゃいますか。(〇は1つだけ)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

(F 4で「1.いる」をお選びの方に)

F 4-1 一番下のお子さんはおいくつですか。(〇は1つだけ)

- |                  |             |        |
|------------------|-------------|--------|
| 1. 3歳以下          | 4. 中学生      | 7. その他 |
| 2. 4歳以上(小学校入学まで) | 5. 高校生以上の学生 | ( )    |
| 3. 小学生           | 6. 社会人      |        |

F 5 あなたの世帯は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。ご自分の立場(自分が親、自分が子ども)にかかわらず、世帯構成をお答えください。(〇は1つだけ)

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| 1. ひとり暮らし      | 4. 親と子ども夫婦(二世帯家族)   |
| 2. 夫婦のみ(一世帯家族) | 5. 親と子ども夫婦と孫(三世帯家族) |
| 3. 親と未婚の子ども    | 6. その他( )           |

◎男女平等についておたずねします。

問1 あなたは、日々の暮らしの中で、男女平等社会はどの程度進んでいると思いますか。  
(○は1つだけ)

- |                  |          |
|------------------|----------|
| 1. 十分平等になってきている  | 5. わからない |
| 2. かなり平等になってきている |          |
| 3. 少しは平等になってきている |          |
| 4. ほとんど平等になっていない |          |

(問1で3～4のいずれかをお選びの方に)

問1-1 具体的に、どのような点で男女の不平等を感じますか。(○はあてはまるものすべて)

- |  |
|--|
| 1. 家事や育児のほとんどを女性が担っている                 |
| 2. 男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくい   |
| 3. 就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差がある        |
| 4. 介護の負担が女性に偏っている                      |
| 5. 「男らしさ、女らしさ」という考えが、人々の間にある           |
| 6. 風俗産業やマスメディアなどで、女性の性が商品化されている        |
| 7. 議員や企業の管理職、地域社会の役員など、女性の社会参画が進んでいない  |
| 8. 職場や学校などで、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)がおこる |
| 9. 家庭内・外にかかわらず、女性に対する暴力がなくなる           |
| 10. 学校や日常生活の中で、男女による役割分担がある            |
| 11. その他 ( )                            |

問2 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(ア)～(ク)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	優遇されている 男性が	優遇されている やや男性が	平等である	優遇されている やや女性が	優遇されている 女性が	わからない
回答の例 -->	1	2	③	4	5	6
(ア) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
(エ) 政治の場	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
(キ) 自治会やNPOなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6
(ク) 全体として、現在の日本では	1	2	3	4	5	6

けっこんかん  
◎結婚観についておたずねします。

問3 次<sup>つぎ</sup>にあげる(ア)～(カ)の考え<sup>かんが</sup>について、あなたはどう思<sup>おも</sup>いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思 <sup>おも</sup> う	そう思 <sup>おも</sup> う	どうもかといえ <sup>お</sup> ば	どうもかといえ <sup>お</sup> ば	そう思 <sup>おも</sup> わない
回答 <sup>かいとう</sup> の例 →	1	②	3	4	
(ア) 結婚 <sup>けっこん</sup> は個人 <sup>こじん</sup> の自由 <sup>じゆう</sup> 、してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	
(イ) 夫 <sup>おとこ</sup> は外 <sup>そと</sup> で働 <sup>はたら</sup> き、妻 <sup>つま</sup> は家庭 <sup>かてい</sup> を守 <sup>まも</sup> るべきである	1	2	3	4	
(ウ) 夫 <sup>おとこ</sup> も妻 <sup>つま</sup> も外 <sup>そと</sup> で働 <sup>はたら</sup> き、家事 <sup>かじ</sup> も分 <sup>ぶん</sup> 担 <sup>たん</sup> するべきである	1	2	3	4	
(エ) 結婚 <sup>けっこん</sup> しても必 <sup>かな</sup> ずしも子 <sup>こ</sup> どもをもつ必要 <sup>ひつよう</sup> はない	1	2	3	4	
(オ) 結婚 <sup>けっこん</sup> しても相 <sup>あ</sup> い <sup>い</sup> て満 <sup>まん</sup> 足 <sup>ぞく</sup> できないときは離 <sup>り</sup> 婚 <sup>こん</sup> すればよい	1	2	3	4	
(カ) 未婚 <sup>みこん</sup> の女 <sup>にょ</sup> 性 <sup>せい</sup> が子 <sup>こ</sup> どもを産 <sup>う</sup> み育 <sup>そだ</sup> てるのもひとつの生 <sup>い</sup> き方 <sup>かた</sup> だ	1	2	3	4	

かていせいかつ  
◎家庭生活についておたずねします。

問4 家庭<sup>かてい</sup>の中<sup>なか</sup>で、あなた(ア)～(シ)にあげ<sup>あ</sup>げるこ<sup>こ</sup>とを、どの程<sup>ていど</sup>度<sup>ど</sup>行<sup>おこな</sup>っていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

F5で、「ひとり暮らし」とお答<sup>こた</sup>えの方は、問5へ

	いつもしてゐる	よく知っている	ほとんどしない	まったくしない	する必要 <sup>ひつよう</sup> がない	子 <sup>こ</sup> どもや介 <sup>かい</sup> 護 <sup>ご</sup> を要 <sup>よう</sup> する人 <sup>ひと</sup> がいないので
回答 <sup>かいとう</sup> の例 →	1	2	③	4	5	
(ア) 食 <sup>しょく</sup> 事 <sup>じ</sup> のしたく	1	2	3	4		
(イ) 食 <sup>しょく</sup> 事 <sup>じ</sup> の後 <sup>あと</sup> 片 <sup>かた</sup> 付 <sup>け</sup>	1	2	3	4		
(ウ) 食 <sup>しょく</sup> 料 <sup>りょう</sup> 品 <sup>ひん</sup> ・日 <sup>にち</sup> 用 <sup>よう</sup> 品 <sup>ひん</sup> の買 <sup>か</sup> い物 <sup>もの</sup>	1	2	3	4		
(エ) 洗 <sup>せん</sup> 濯 <sup>たく</sup>	1	2	3	4		
(オ) 部 <sup>へ</sup> 屋 <sup>や</sup> の掃 <sup>そう</sup> 除 <sup>じ</sup> ・片 <sup>かた</sup> 付 <sup>け</sup>	1	2	3	4		
(カ) 風 <sup>ふう</sup> 呂 <sup>ろ</sup> やトイ <sup>と</sup> レ <sup>れ</sup> の掃 <sup>そう</sup> 除 <sup>じ</sup>	1	2	3	4		
(キ) ゴミ出 <sup>で</sup> し	1	2	3	4		
(ク) 町 <sup>ちやう</sup> 内 <sup>ない</sup> 会 <sup>かい</sup> や自 <sup>じ</sup> 治 <sup>ち</sup> 会 <sup>かい</sup> へ <sup>の</sup> 出 <sup>しゅつ</sup> 席 <sup>せき</sup>	1	2	3	4		
(ケ) 育 <sup>いく</sup> 児 <sup>じ</sup> ・子 <sup>こ</sup> ども <sup>の</sup> 教 <sup>きやう</sup> 育 <sup>いく</sup> や保 <sup>ほ</sup> 育 <sup>いく</sup> 園 <sup>えん</sup> ・幼 <sup>よう</sup> 稚 <sup>ち</sup> 園 <sup>えん</sup> へ <sup>の</sup> 送 <sup>そう</sup> 迎 <sup>げい</sup>	1	2	3	4	5	
(コ) 家 <sup>か</sup> 族 <sup>ぞく</sup> の病 <sup>びやう</sup> 気 <sup>き</sup> の看 <sup>かん</sup> 護 <sup>ご</sup> ・介 <sup>かい</sup> 護 <sup>ご</sup>	1	2	3	4	5	
(サ) 授 <sup>じゅ</sup> 業 <sup>ぎやう</sup> 参 <sup>さん</sup> 観 <sup>かん</sup> や保 <sup>ほ</sup> 護 <sup>ご</sup> 者 <sup>しゃ</sup> 会 <sup>かい</sup> 、P <sup>ぴ</sup> T <sup>た</sup> A <sup>あ</sup> へ <sup>の</sup> 出 <sup>しゅつ</sup> 席 <sup>せき</sup>	1	2	3	4	5	
(シ) その他( )	1	2	3	4	5	

問5 あなたは、家庭生活において男性は家事・育児・介護などについて、どれくらい取り組みればよいと思いますか。(〇は1つだけ)

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 積極的に取り組む       | 3. 配偶者・パートナーを手伝う程度 |
| 2. 配偶者・パートナーと分担する | 4. 配偶者・パートナーに任せておく |

問5-1 問5で回答した理由をご記入ください。(〇はあてはまるものすべて)

1. 男女平等に反すると思う
2. 自分の両親も役割分担をしていた
3. 男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働くことで、多くの収入を得られると思う
4. 男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思う
5. 家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思う
6. 固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない
7. 日本の伝統的な家族の在り方だと思う
8. 配偶者・パートナーが家事・育児・介護をする方がよいと思う
9. 家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーが働き続けることは大変だと思う
10. 男性の仕事が忙しく、家事・育児・介護を手伝うことができない
11. その他 ( )
12. わからない

問6 男性が家事・育児・介護にさらに参加するためには、何が必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち
2. 男性が家事・育児・介護に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
3. 男性が家事・育児・介護に参加することに対する女性の抵抗感をなくす
4. 男性自身の家事・育児・介護の知識の習得やスキルの向上
5. 配偶者・パートナーとのコミュニケーションの向上により、家庭参画の機会が得られる
6. 男性が家事・育児・介護を行うための仲間(ネットワーク)作りをする
7. 労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む
8. 男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解
9. 仕事より家庭を優先することがあっても、会社での人事評価が変わらない
10. 特に必要なことはない
11. わからない

◎就労についておたずねします。

問7 あなたの職業は、次のどれですか。(○は1つだけ)

- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 自営業・経営者                  | 11. 学生(高校・専門学校・大学・大学院) |
| 2. フリーランス(開業医、弁護士・習い事の先生など) | 12. 休職中                |
| 3. 家事従業者                    | 13. 失業中                |
| 4. 正社員・正職員                  | 14. 無職                 |
| 5. 派遣・契約嘱託社員                |                        |
| 6. パートタイム                   |                        |
| 7. アルバイト                    |                        |
| 8. 内職                       |                        |
| 9. 在宅就業                     |                        |
| 10. その他( )                  |                        |

(問7で1～10のいずれかをお選びの方に)

問7-1 あなたの職場では、次のような男女の差別がありますか。(○はあてはまるものすべて)

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1. 男女の賃金格差                       |
| 2. 昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)        |
| 3. 女性の能力を正当に評価しない                |
| 4. 女性の配置場所の限定                    |
| 5. 女性には補助的な仕事をさせる                |
| 6. 女性は結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある |
| 7. 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある     |
| 8. 女性は教育・研修を受ける機会が少ない            |
| 9. 妊娠中の女性への配慮がされていない             |
| 10. その他( )                       |
| 11. 特にない                         |
| 12. わからない                        |



問10 育児休業と介護休業、それぞれについてお答えください。

	育児休業	介護休業
<p>問10</p> <p>あなたは育児休業・介護休業を利用したことがありますか。 (〇はそれぞれ1つずつ)</p>	<p>1. 利用したことがある</p> <p>2. 利用したことはない</p> <p>3. 小さい子どもがいないので利用する必要がない → 問11へ</p>	<p>1. 利用したことがある</p> <p>2. 利用したことはない</p> <p>3. 介護を要する人がいないので利用する必要がない → 問11へ</p>
<p>(問10で「1. 利用したことがある」とお選びの方に)</p> <p>問10-1</p> <p>どのくらいの期間、休暇を取りましたか。 (回答の場合、〇はどちらも1つ)</p>	<p>1. 3カ月未満</p> <p>2. 3カ月～6カ月未満</p> <p>3. 6カ月～1年未満</p> <p>4. 1年以上 ( 年 カ月)</p>	<p>1. 1カ月未満</p> <p>2. 1カ月～2カ月未満</p> <p>3. 2カ月～3カ月未満</p> <p>4. 3カ月以上</p>
<p>複数回利用したことがある方は、最近のケースで回答ください。</p>		
<p>(問10で「2. 利用したことはない」とお選びの方に)</p> <p>問10-2</p> <p>利用しなかった理由はなんですか。 (回答の場合、〇はどちらもあてはまるものすべて)</p>	<p>1. 職場に代替要員がない</p> <p>2. 前例がない</p> <p>3. 経済的な理由</p> <p>4. 仕事にブランクを作りたくなかった</p> <p>5. 配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいた</p> <p>6. 育児休業制度を知らなかった</p> <p>7. 利用したくとも、取りにくい雰囲気だった</p> <p>8. 対象ではない</p> <p>9. 出産前に退職した</p> <p>10. 自営業のため、制度が使えない</p> <p>11. その他 ( )</p>	<p>1. 職場に代替要員がない</p> <p>2. 前例がない</p> <p>3. 経済的な理由</p> <p>4. 仕事にブランクを作りたくなかった</p> <p>5. 介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいた</p> <p>6. 介護休業制度を知らなかった</p> <p>7. 利用したくとも、取りにくい雰囲気だった</p> <p>8. 対象ではない</p> <p>9. 介護をするために退職した</p> <p>10. 自営業のため、制度が使えない</p> <p>11. その他 ( )</p>

ここからは再び、すべての方におたずねします。

◎ワーク・ライフ・バランス※についておたずねします。

※「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」と訳され、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態をいいます。

問11 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| 1. 内容まで知っている           | 3. 知らない |
| 2. 内容は知らないが言葉は聞いたことがある |         |

問12 生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合いなど)の優先度について、(ア) 希望と(イ) 現実(現状)、それぞれお答えください。

(ア) あなたの希望に最も近いもの	(イ) あなたの現実(現状)に最も近いもの
1. 「仕事」	1. 「仕事」
2. 「家庭生活」	2. 「家庭生活」
3. 「地域・個人の生活」	3. 「地域・個人の生活」
4. 「仕事」と「家庭生活」	4. 「仕事」と「家庭生活」
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」	5. 「仕事」と「地域・個人の生活」
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」	6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」	7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
8. わからない	8. わからない

問13 ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、あなたはどのようなことが必要だと思えますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 残業を減らしたり、年休をしっかりとる
2. 在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する
3. 地域活動、NPO活動に積極的に参加する
4. 男女ともにさまざまなライフスタイルを選択できるという意識の普及を図る
5. 男性の家事・育児・介護をすすめる
6. 残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する
7. 職場の人員を増やすなどにより、一人ひとりの業務量を減らす
8. フレックスタイム制※、短時間勤務制度の利用促進をする
9. 管理職をはじめ、職場の人々に理解を深めてもらう
10. 再就職を希望する女性のための講座や再雇用制度を充実させる
11. 育児・介護休業制度の普及を図る
12. 保育所・学童保育などの育児環境を充実させる
13. ホームヘルパーや介護施設を充実させる
14. その他( )
15. わからない

※「フレックスタイム制」とは、一定の期間について、あらかじめ定めた労働時間の範囲内において労働者が自ら始業・終業時刻を決める労働時間制度をいいます。

◎セクシュアル・ハラスメント※についておたずねします。

※「セクシュアル・ハラスメント」とは、性的な言動により相手の生活環境を害すること、または性的な言動を受けた側に不利益を与えることをいいます。

問14 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）は一定の人間関係の中で発生し、職場だけでなく、あらゆる場所で男女ともに受ける可能性があります。あなたはこれまでに、職場・学校・地域・SNSで、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。

（○は職場、学校、地域・SNSごとに、あてはまるものすべて）

※高校生や大学生等の方は、「職場」はバイト先での経験について教えてください

	回答の例	職場	学校	地域	SNS
		1	2	3	4
(ア) いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた	1	1	1	1	1
(イ) 「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた	②	2	2	2	2
(ウ) 不必要に身体を触られた	3	3	3	3	3
(エ) 宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された	4	4	4	4	4
(オ) 交際を強要された	5	5	5	5	5
(カ) 性的行為を強要されたり、されそうになったりした	6	6	6	6	6
(キ) 性的な噂をたてられたり、インターネットやSNSに書き込まれたりした	⑦	7	7	7	7
(ク) 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	8	8	8	8	8
(ケ) 容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた	⑨	9	9	9	9
(コ) 外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	10	10	10	10	10
(サ) プライバシーに関することや性的な内容のメールや手紙・電話を受けた	11	11	11	11	11
(シ) ヌード写真やポルノ雑誌を自につくところに置かれたり、はられたりした	12	12	12	12	12
(ス) その他（ ）	13	13	13	13	13
(セ) 特にない	14	14	14	14	14

問15へ

問15は、問14の（ア）～（ス）に、1つでも○をつけた方におたずねします。

問15 あなたはこれまでに、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。

（○は1つだけ）

1. 相談した

2. 相談しなかった（できなかった）

（問15で「1. 相談した」とお選びの方に）

問15-1 そのとき、だれ（どこ）に相談しましたか。（○はあてはまるものすべて）

1. 警察に通報・相談した
2. 警察以外の公的機関に相談した
3. 民間の機関に相談した
4. 弁護士に相談した
5. 家族に相談した
6. 友人・知人に相談した
7. 会社の人事課、上司などに相談した
8. 学校の事務局などに相談した
9. その他（ ）

（問15で「2. 相談しなかった（できなかった）」とお選びの方に）

問15-2 だれ（どこ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。

（○はあてはまるものすべて）

1. どこに相談してよいかわからなかった
2. 恥ずかしかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると仕返しをされると思った
5. 相談することによって、自分が不快な思いをすと思った
6. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った
7. 世間体が悪い
8. 他人を巻き込みたくなかった
9. 被害を受けたことを忘れたかった
10. 自分にも悪いところがあると思った
11. 相談するほどのことではないと思った
12. 自分で加害者に対応しようと思った
13. その他（ ）

ここからは再び、すべての方におたずねします。

◎DV（ドメスティック・バイオレンス）についておたずねします。

問16 DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、配偶者などに対し著しい身体的または精神的苦痛を与える暴力的行為をいいます。あなたはこれまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次のようなDVを受けたことがありますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

自分がDVの場面を見たり聞いたりしたことがある方は、ここにチェックをつけてください。

答えたくない方は → 問18へ

	何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	見 た り 聞 い た り し た こ と が あ る
回答の例 -->	1	2	③	✓
(ア) 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける	1	2	3	
(イ) 医師の治療が必要となる暴力を受ける	1	2	3	
(ウ) 医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける	1	2	3	
(エ) 嫌がっているのに性的行為を強要される	1	2	3	
(オ) 見たくないのにポルノビデオ・雑誌・アダルトサイトを見せられる	1	2	3	
(カ) 避妊に協力してもらえない	1	2	3	
(キ) 何を言っても無視される	1	2	3	
(ク) 常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される	1	2	3	
(ケ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる	1	2	3	
(コ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる	1	2	3	
(サ) 容姿について傷つくようなことを言われる	1	2	3	
(シ) 大声で怒鳴られる	1	2	3	
(ス) 大切なものを壊される	1	2	3	
(セ) 生活費を渡してもらえない	1	2	3	
(ソ) 目の前で子どもに暴力をふるわれる	1	2	3	
(タ) 性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある	1	2	3	
(チ) その他 ( )	1	2	3	

1つでも〇をつけた方は問17へ

すべて3に〇をつけた方は問18へ

問17は、問16の(ア)～(チ)の「何度もあった」「1、2度あった」に、1つでも○をつけた方におたずねします。

問17 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つだけ)

1. 相談した

2. 相談しなかった(できなかった)

(問17で「1. 相談した」とお答えの方に)

問17-1 そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| 1. 警察に通報・相談         | 6. 医師に相談      |
| 2. 区の相談窓口相談         | 7. 弁護士に相談     |
| 3. 都の相談窓口相談         | 8. 家族や親族に相談   |
| 4. 民生委員や人権擁護委員などに相談 | 9. 友人・知人に相談した |
| 5. 民間の機関や学校に相談      | 10. その他       |
- ( )

(問17で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えの方に)

問17-2 だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

1. どこに相談してよいかわからなかった
2. 恥ずかしかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思った
5. 相談することによって、自分が不快な思いをすと思った
6. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていると
7. 世間体が悪い
8. 他人を巻き込みたくなかった
9. 被害を受けたことを忘れたかった
10. 自分にも悪いところがあると思った
11. 相手の行為は愛情の表現だと思った
12. 相談するほどのことではないと思った
13. 自分で加害者に対応しようと思った
14. その他 ( )





ここからは再び、すべての方におたずねします。

問21 あなたはLGBT\*または、LGBTQ+\*という言葉をご存じですか。(〇は1つだけ)

※「LGBT」とは、Lesbian (レズビアン、女性同性愛者)、Gay (ゲイ、男性同性愛者)、Bisexual (バイセクシュアル、両性愛者)、Transgender (トランスジェンダー、性別越境者)の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の総称のひとつです。電通ダイバーシティ・ラボの2023年の調査では、日本における「LGBTQ+」の割合は人口の9.7%だと言われています。

※LGBTQ+の「Q」は、Questioning (クエスチョニング、自らの性のあり方について特定の枠に属さない人、わからない人、決めたくない人、典型的な男性・女性ではないと感じる人)の頭文字をとった言葉。ここに「+」をつけることで、「L・G・B・T・Q」に当てはまらない多様な性を表現しています。

- |               |                                  |
|---------------|----------------------------------|
| 1. 両方とも知っている  | 3. 「LGBT」は知っていたが、「LGBTQ+」は初めて知った |
| 2. 両方とも初めて知った | 4. 両方とも知らない                      |

◎健康(性と生殖に関する健康と権利\*)についておたずねします。

問22 あなたは性や妊娠・出産に関して自分で決め、女性が自分の健康を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

※性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)とは、性や子どもを産むことに関するすべてにおいて、自分の意思が尊重され、自分の身体に関することを自分自身で決められる権利のことです。

- |  |
|--|
| 1. 子どもの成長と発育に応じた性教育  |
| 2. 性や妊娠/予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実                     |
| 3. 喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実                         |
| 4. 性感染症(カンジダ症、クラミジア感染症など)についての情報提供・相談体制の充実                   |
| 5. 更年期についての情報提供・相談体制の充実                                      |
| 6. 「子どもの数や子どもを産むか産まないかなどについて自分で決めること」という考え方についての情報提供・相談体制の充実 |
| 7. その他( )  |
| 8. わからない   |

がっこうきょういく  
◎学校教育についておたずねします。

問23 あなたは男女平等の社会を実現するためには、学校教育の場では特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施
2. 日常の学校生活の中での男女平等の実践
3. 男女平等に関する副教材を活用した指導
4. 男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実
5. セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習
6. 自分および異性の性を尊重する意味での性教育の充実
7. 人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導
8. 教職員への男女平等研修の充実
9. 学校から家庭や地域に向けた男女平等に関する情報発信
10. その他 ( )
11. 特にない
12. わからない

じょせい しゃかいさんかく  
◎女性の社会参画についておたずねします。

問24 葛飾区では、区の施策に女性の意見が十分に反映されるよう、審議会などの政策・方針決定過程への女性の参画を促進しております。そのため、「葛飾区男女平等推進計画(第6次)」(令和4年度～令和8年度)の計画期間中に審議会などへの女性の参画率を、令和8年度末に40%以上とすることを目標としています。現在、区議会議員の中に占める女性議員の数は39人中13人(33.0%)、令和7年4月1日現在の行政委員会や附属機関等の女性委員の数は1,063人中324人(約30.5%)となっています。あなたは、この状況をどのように思いますか。(〇は1つだけ)

1. 今のままでよい
2. もう少し女性が増えたほうがよい
3. 男女半々くらいまで増えたほうがよい
4. 男性を上回るほど、女性が増えたほうがよい
5. その他 ( )
6. わからない

問25 あなたは議員や審議会委員など政策や方針を決定する過程への女性の参画を妨げているのは、どのようなことだと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある
2. 女性の参画を進めようと意識している人が少ない
3. 女性の能力開発の機会が十分でない
4. 家族の理解がない・賛成を得られない
5. 組織運営が男性優位である
6. 女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない)
7. 指導力のある女性が少ない
8. 金銭的な余裕がない
9. 政党が積極的に女性が参加できるような方針を立てていない
10. その他 ( )
11. わからない

問26 あなたは政治や行政において企画や方針決定の過程で女性の参画を進めていくためには、どうしたらよいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する
2. 区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する
3. 審議会や委員会などの委員に女性を優先的に任命する
4. 政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする
5. その他 ( )
6. わからない

◎防災についておたずねします。

問27 東日本大震災の発生以降、能登半島地震においても日頃の防災活動や災害発生時の避難所生活において、多様な人々の視点に基づく運営が必要だと言われております。あなたは、地域の防災活動や災害時における人々の生活環境の確保に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う
2. 災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う
3. 自治会や町内会、ボランティア仲間など、日頃の地域のネットワークを活用した防災活動や避難所運営を行う
4. 災害発生時に備え、日頃の地域活動や、行政の防災に関する講座・イベントの中で、災害時に指導的役割を担う女性リーダーの育成を行う
5. 食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする
6. 委員会や会議など防災分野の政策・方針決定過程へ、より多くの女性が参画できるようにする
7. 行政が作成する地域防災計画や各種災害対応マニュアルに、男女双方の視点や、さまざまな立場の人の視点を反映する
8. 消防職員、消防団員、警察官、自衛官などについて、防災現場に女性の視点が活かせるよう、女性職員の採用・登用を進める
9. その他 ( )
10. わからない







葛飾区男女平等に関する意識と実態調査 報告書  
令和8年1月発行

発行:葛飾区総務部人権推進課

〒124-0012 葛飾区立石5-27-1ウィメンズパル内

TEL:03(5698)2211(直通)

FAX:03(5698)2315

調査:株式会社グリーンエコ東京事務所

〒114-0012 北区田端新町三丁目14番地4NOZAKIビル

TEL:03(6807)7710

